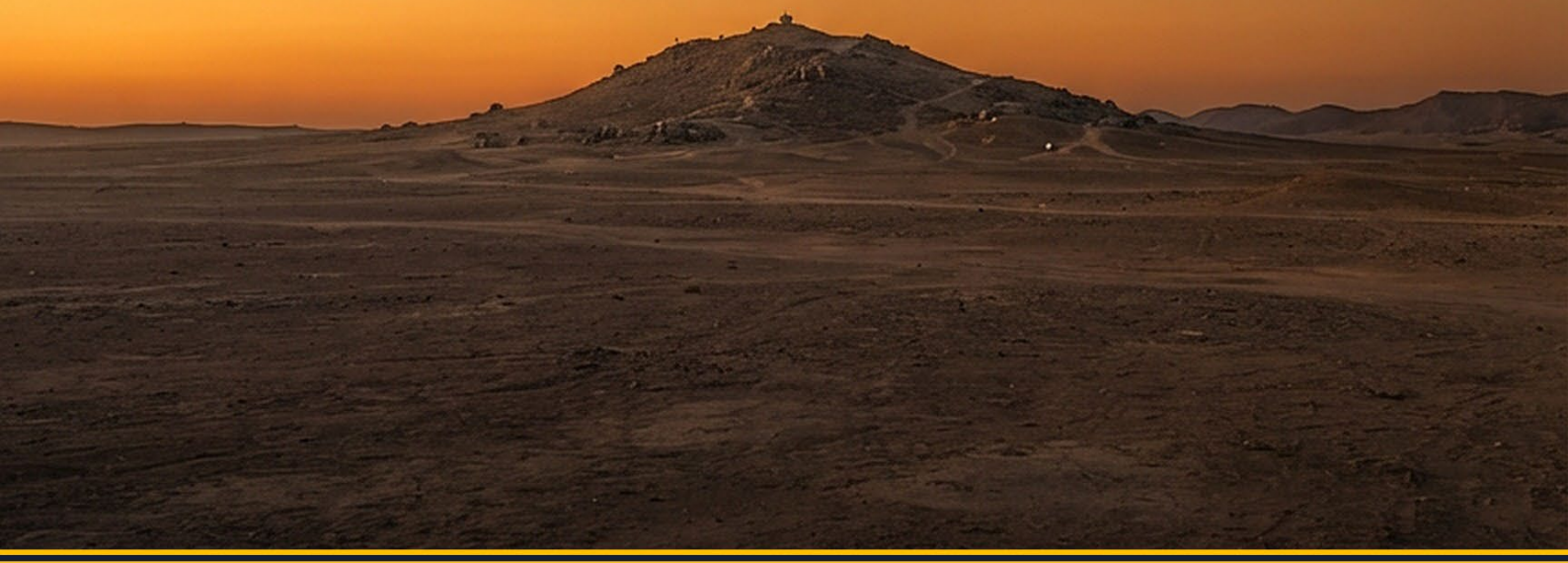
預言者伝（スィーラ）全集

第4集

フナインからご逝去まで

第22〜30巻



Hj Che Alim Hj Che Haron

AK (Kelantan)

quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です ― 販売はできません。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）全集

第 4 集

フナインからご逝去まで

第 22〜30 巻：クルアーンと真正なハディースに基づく、フナインの戦いからアッラーの使徒 ﷺ のご逝去まで

ثُمَّ أَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ وَعَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ وَأَنزَلَ جُنُودًا لَّمْ تَرَوْهَا
وَعَذَّبَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ۚ وَذَٰلِكَ جَزَآءُ ٱلْكَٰفِرِينَ

「その後アッラーは、使徒と信者たちの上にかれの安らぎを下し、またあなたがたには見えなかったが、軍勢を遣わして不信心な者たちを懲罰された。このようにかれは、不信者に報いられる。」

悔悟章 9:26

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売はできません。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族と教友たちに祝福と平安あれ。教友たちはかれの生涯を目撃し、それを守り、完全な誠実さをもって私たちに伝えてくれた。

この電子書籍を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者伝（スィーラ）』第 22 巻から第 30 巻までを一冊にまとめたものである。フナインの戦いとターイフ包囲、フナインの戦利品とアンサール、タブークの遠征、カアブ・ブン・マーリクと害意のモスク、使節団の年、アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言、別れの巡礼とその説教、そしてアッラーの使徒 ﷺ のご逝去までを収める。各巻の参考文献はそのまま残している。本書が私たちをアッラーの使徒 ﷺ により近づけ、制作に協力し、読み、広めるすべての人にとって、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本書の表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、日が沈んだばかりの広い砂漠の平原である。平原の中ほどにぽつんと立つ岩の丘、金色がかった橙色から夜の青へとゆっくり移り変わる空、そして現れ始めた最初の星々。

平原の中の丘は、アラファを思い起こさせる。そこでアッラーの使徒 ﷺ は別れの巡礼の説教をされ、宗教の完成を告げる節が下された。消えゆく夕暮れの光は、ウンマとともに過ごされた最後の日々を表している。そのご生涯の太陽は沈んだが、残された使信の光は今日もなお照らし続けている。

下部の紺色の帯は細い金の線に縁取られ、そこに著者名が記されている。この全集の五冊の表紙の題字は、同じ書体・大きさ・金色でそろえてあり、並べると一つのセットに見えるようになっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：第 22 巻 — フナインの戦いとターイフ包囲

フナインの戦いとターイフ包囲 — 序

1. マッカ征服の後 — 図；スィーラ書

2. マーリク・ブン・アウフとドゥライドの忠告 — スィーラ書

3. 借りたサフワーンの鎧 — 『スナン・アビー・ダーウード』3562；スィーラ書

4. ザート・アンワートの木 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2180；高壁章 7:138

5. 数の試練 — 悔悟章 9:25；雌牛章 2:249

6. 谷での待ち伏せ — 『サヒーフ・ブハーリー』2864；図

7. 軍はなぜ退いたのか — 表；イムラーン家章 3:155

8. 「わたしは預言者、偽りではない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』2864

9. サムラの木の仲間たちへの呼びかけ — 『サヒーフ・ムスリム』1775

10. ひと握りの土 — 『サヒーフ・ムスリム』1777；戦利品章 8:17

11. 静穏と目に見えない軍勢 — 悔悟章 9:26；図

12. フナインについての三つの節 — 悔悟章 9:25〜27、9:40

13. サラマ・ブン・アル＝アクワウの正直さ — 『サヒーフ・ムスリム』1777

14. アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス：忠実ないとこ — 『サヒーフ・ムスリム』1775

15. ウンム・スライムと短剣 — 『サヒーフ・ムスリム』1809

16. アブー・カターダと討ち取った敵の持ち物 — 『サヒーフ・ブハーリー』3142

17. 女性と雇われ人は殺されない — 『スナン・アビー・ダーウード』2669

18. アウタースとアブー・アーミルのための祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』4323

19. ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマ：老いた勇士 — 『サヒーフ・ブハーリー』4323；スィーラ書

20. 十年前のターイフ — 『サヒーフ・ブハーリー』3231

21. ターイフ包囲 — 『サヒーフ・ブハーリー』4325

22. 指導者の微笑み — 『サヒーフ・ブハーリー』4325

23. 砦から降りてきた者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』4326；スィーラ書

24. 「アッラーよ、サキーフを導きたまえ」 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』3942；スィーラ書

25. 捕虜と戦利品 — 『サヒーフ・ムスリム』1059；スィーラ書

26. わが子を探す母 — 『サヒーフ・ブハーリー』5999

27. 戦利品における誠実さ — 『サヒーフ・ブハーリー』3073；『スナン・アビー・ダーウード』2694

28. アッ＝シャイマー：乳姉妹 — スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

29. バドルとフナイン — 表

30. 物語の典拠 — 表

31. フナインとターイフの戦場にいた部族 — 表；スィーラ書

32. フナインとターイフの戦いの人物 — 表

33. 出来事の場所：昔と今 — 表

34. フナインとターイフからの法規定 — 表；『スナン・アビー・ダーウード』2157

35. フナインとターイフの戦いの年表 — 表

36. フナインとターイフの戦いについてのよくある質問 — 12 の質問

37. 教訓と結び

第 22 巻の参考文献

第二部：第 23 巻 — フナインの戦利品とアンサール

フナインの戦利品とアンサール — 序

1. ジウラーナへの帰還 — 図

2. ハワーズィン族を待つ — 『サヒーフ・ブハーリー』2307

3. 外套を引っ張ったベドウィン — 『サヒーフ・ブハーリー』3149、2821

4. 戦利品の規定 — 戦利品章 8:1、8:41

5. 心を和らげられる者たち（アル＝ムアッラファ・クルーブフム） — 悔悟章 9:60

6. サフワーン：憎しみから愛へ — 『サヒーフ・ムスリム』2313

7. 「決して『いいえ』と言われなかった」 — 『サヒーフ・ブハーリー』6034、6

8. アブー・スフヤーン、ハキーム、そして有力者たち — 『サヒーフ・ムスリム』1060；スィーラ書

9. ハキーム・ブン・ヒザーム：上の手 — 『サヒーフ・ブハーリー』1472

10. アル＝アッバース・ブン・ミルダースの詩 — 『サヒーフ・ムスリム』1060

11. 「誰が公正であろうか」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3150

12. 「わたしが公正でなければ、あなたは災いだ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3138；『サヒーフ・ムスリム』1063

13. ハワーリジュ派の芽 — 『サヒーフ・ブハーリー』3610

14. 預言者ムーサーの忍耐 — 部族連合章 33:69

15. アンサールのささやき — 『サヒーフ・ブハーリー』4331

16. サアド・ブン・ウバーダ：「わたしも一族の一人にすぎません」 — スィーラ書

17. 革の天幕での説教 — 『サヒーフ・ブハーリー』4330

18. 導き、団結、そして豊かさ — イムラーン家章 3:103；戦利品章 8:63

19. 肌着と上着 — 『サヒーフ・ブハーリー』17；図

20. アスラ：予言と忍耐 — 『サヒーフ・ブハーリー』4330〜4331

21. アンサールの涙 — スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

22. クルアーンの中のアンサール — 集合章 59:9；悔悟章 9:100
23. 悔悟したハワーズィン族の使節 — 『サヒーフ・ブハーリー』2307
24. ハワーズィン族との乳縁 — 『スナン・アビー・ダーウード』5144；スィーラ書
25. 捕虜返還における公正 — 『サヒーフ・ブハーリー』2307
26. マーリク・ブン・アウフの入信 — スィーラ書
27. ジウラーナからのウムラ — 『サヒーフ・ブハーリー』1778
28. マディーナへの帰還 — スィーラ書
29. 財と心 — 表
30. 物語の典拠 — 表
31. 財、贈与、公正についてのクルアーンの節 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』6933
32. 大きな贈与を受けた人々とその後 — 表；『サヒーフ・ムスリム』1060、2312
33. アッラーの使徒 ﷺ 以後のアル＝ムアッラファ・クルーブフム — 法学派の表
34. ジウラーナ：昔と今 — 表
35. 年表：フナインからマディーナまで — 表
36. フナインの戦利品についてのよくある質問 — 12 の質問
37. 教訓と結び
第 23 巻の参考文献

第三部：第 24 巻 — タブークの遠征

タブークの遠征 — 序論
1. 勝利の年の後 — 図；スィーラ書
2. シャームからの知らせ — スィーラ書
3. はっきりとした呼びかけ — 『サヒーフ・ブハーリー』4418
4. 夏と熟したナツメヤシ — 悔悟章 9:38、9:41
5. ジャイシュ・アル＝ウスラ：困難の軍 — 悔悟章 9:117；図
6. ウスマーン・ブン・アッファーンの施し — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3701
7. アブー・バクルとウマルの競い合い — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3675；スィーラ書
8. ーサーのナツメヤシの施し — 悔悟章 9:79；『サヒーフ・ブハーリー』4668
9. 泣いた人びと — 悔悟章 9:91–92
10. アシュアリー族のための乗り物 — 『サヒーフ・ブハーリー』4415
11. 偽信者たちの言い訳 — 悔悟章 9:42、9:49
12. 「暑い中を出征するな」 — 悔悟章 9:81
13. 偽信の病を見分ける — 『サヒーフ・ブハーリー』33、34、657；『サヒーフ・ムスリム』2784
14. アリー：ムーサーにとってのハールーンのように — 『サヒーフ・ブハーリー』4416

15. アブー・ハイサマとアブー・ザッル — 『サヒーフ・ムスリム』2769；スィーラ書

16. アル＝ヒジュル：サムード族の地 — 『サヒーフ・ブハーリー』3378；アル・ヒジュル章 15:80–84

17. 「泣きながらでなければ入ってはならない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4419–4420

18. タブークの泉 — 『サヒーフ・ムスリム』706；図

19. 旅の途中での礼拝の合併 — 『サヒーフ・ムスリム』706

20. 強い風とある女性の果樹園 — 『サヒーフ・ブハーリー』1481

21. アイラとの協定 — 『サヒーフ・ブハーリー』1481；悔悟章 9:29

22. ハーリド、ドゥーマト・アル＝ジャンダルへ — 『サヒーフ・ブハーリー』2616；スィーラ書

23. タブークでの二十日間 — 『スナン・アビー・ダーウード』1235

24. アカバの谷での陰謀 — 『サヒーフ・ムスリム』2779；スィーラ書

25. 「わたしたちはただ雑談し、戯れていただけです」 — 悔悟章 9:65–66

26. やむを得ない事情で妨げられた人びと — 『サヒーフ・ブハーリー』4423

27. 「これがターバだ」：マディーナへの帰還 — 『サヒーフ・ブハーリー』1481

28. 悔悟章：道中の啓示 — 表；『イブン・カスィールのタフスィール』

29. ムウタとタブーク — 表

30. 物語の典拠 — 表

31. タブークの遠征の人物たち — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4416；『サヒーフ・ムスリム』274

32. タブークの旅から得られる法規定 — 『サヒーフ・ムスリム』274；表

33. 道中の小さな物語 — 『サヒーフ・ムスリム』27；スィーラ書

34. タブークとアル＝ヒジュル：昔と今 — 表；ユネスコ

35. タブークの遠征の年表 — 表

36. タブークの遠征に関するよくある質問 — 12 の質問

37. 教訓と結び

第 24 巻の参考文献

第四部：第 25 巻 — カアブ・ブン・マーリクと害意のモスク

カアブ・ブン・マーリクと害意のモスク — はじめに

1. 残された三人 — 悔悟章 9:118；図

2. カアブ・ブン・マーリクとは誰か — 『サヒーフ・ブハーリー』4418；スィーラ書

3. 「明日、支度しよう」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

4. 静まり返ったマディーナ — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

5. 「カアブを引き留めたものは何か」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

6. モスクへの帰還 — 『サヒーフ・ブハーリー』3088

7. 八十を超える言い訳 — 悔悟章 9:94〜96

8. 誠実さの瞬間 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

9. 導きの後の最大の恩恵 — 『サヒーフ・ブハーリー』4673

10. ムラーラとヒラール — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

11. 絶縁の始まり — 『サヒーフ・ブハーリー』6255；図

12. 広い大地が狭く感じられる — 悔悟章 9:118

13. ガッサーン王からの手紙 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

14. 「妻から離れよ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

15. 五十日目の夜 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

16. サルウ山からの声 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418；図

17. 「母があなたを産んで以来、最良の日」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4418

18. 悔悟の節の啓示 — 『サヒーフ・ブハーリー』4678；悔悟章 9:117〜118

19. しもべの悔悟を喜ばれるアッラー — 『サヒーフ・ブハーリー』6309；『サヒーフ・ムスリム』2759

20. 「財産の一部は手元に残しなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』2757

21. 誠実さは楽園へと導く — 『サヒーフ・ブハーリー』6094；悔悟章 9:119

22. 絶縁の背後にある英知 — 『ザード・アル＝マアード』；『ファトフ・アル＝バーリー』

23. カアブのハディースから学ぶフィクフ — 『ファトフ・アル＝バーリー』；『シャルフ・ムスリム』

24. なぜカアブは自らの弱さを語ったのか — 『サヒーフ・ブハーリー』6069；注釈書

25. 罪を認めた人びと — 悔悟章 9:102、9:106；スィーラ書

26. 害意のモスクの建設 — 悔悟章 9:107；スィーラ書

27. 「そこで礼拝してはならない」 — 悔悟章 9:108；スィーラ書

28. 敬虔の上に建てられたモスク — 『サヒーフ・ムスリム』1398

29. クバーのモスクと身を清める人びと — 『サヒーフ・ブハーリー』1193

30. 崖っぷちの建物 — 悔悟章 9:109〜110

31. 二つのモスク、二つの意図 — 表

32. 物語の典拠 — 表

33. この物語の背後にあるクルアーンの節 — 表；悔悟章 9:118

34. カアブと害意のモスクの物語の人物 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4418

35. ヒラール・ブン・ウマイヤと呪詛の節 — 『サヒーフ・ブハーリー』4747；御光章 24:6〜9

36. ハジュル：絶縁はいつ許されるのか — 『サヒーフ・ムスリム』2565；『スナン・アビー・ダーウード』4914

37. 三人の教友と害意のモスクの物語の年表 — 表

38. カアブ・ブン・マーリクと害意のモスクに関するよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び

第 25 巻の参考文献

第五部：第 26 巻 — 使節団の年

使節団の年 — はじめに

1. 使節団の年 — 援助章 110:1〜3；図

2. なぜタブークの後なのか？ — 『サヒーフ・ブハーリー』4302

3. ターイフから来たサキーフ族 — スィーラ書；『スナン・アビー・ダーウード』3025

4. アル＝ラート像の破壊 — スィーラ書

5. 部屋の外のタミーム族 — 部屋章 49:4〜5

6. 「吉報を受け取れ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4365

7. 声を高めたアブー・バクルとウマル — 『サヒーフ・ブハーリー』4367；部屋章 49:1〜2

8. サービト・ブン・カイス：アッラーの使徒 ﷺ の演説者 — 『サヒーフ・ブハーリー』4846；スィーラ書

9. アブドゥルカイス族の使節団 — 『サヒーフ・ブハーリー』53

10. アッラーが愛される二つの性質 — 『サヒーフ・ムスリム』17

11. ディマーム・ブン・サアラバ — 『サヒーフ・ブハーリー』63

12. 一族のもとに帰ったディマーム — スィーラ書

13. ナジュラーンのキリスト教徒 — イムラーン家章 3:61

14. 行われなかったムバーハラ（呪いの祈り合い） — 『サヒーフ・ブハーリー』4380

15. アブー・ウバイダ：この共同体の信頼できる者 — 『サヒーフ・ブハーリー』3744

16. 心優しいイエメンの人びと — 『サヒーフ・ブハーリー』4388

17. アシュアル族：「かれらはわたしの一部」 — 『サヒーフ・ブハーリー』2486

18. アッ＝トゥファイルとダウス族 — 『サヒーフ・ブハーリー』2937

19. ウワイス・アル＝カラニー：天に知られたイエメンの男 — 『サヒーフ・ムスリム』2542

20. イエメンに遣わされたムアーズ — 『サヒーフ・ブハーリー』4347

21. 「易しくせよ、難しくするな」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3038

22. ジャリールとズー・アル＝ハラサ — 『サヒーフ・ブハーリー』4355〜4357

23. イエメンへ向かったアリー — 『サヒーフ・ブハーリー』4349、4350

24. 嘘つきムサイリマ — 『サヒーフ・ブハーリー』4373

25. 二つの金の腕輪 — 『サヒーフ・ブハーリー』4373、4379

26. スマーマ・ブン・ウサール — 『サヒーフ・ブハーリー』4372

27. アディー・ブン・ハーティムと三つの約束 — 『サヒーフ・ブハーリー』3595

28. 使節団の迎え方 — 『サヒーフ・ブハーリー』886、3053

29. 部族を超えた兄弟愛 — 部屋章 49:13

30. 使節団の年の後：背教の試練 — 『サヒーフ・ブハーリー』1399〜1400

31. それぞれの使節団への教え — 表

32. 物語の典拠 — 表

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

33. ヒジュラ暦 9〜10 年の使節団一覧 — 表；部族、地域、代表者、結末、典拠

34. 使節団の年をめぐるクルアーンの節 — 表；援助章 110；部屋章 49；イムラーン家章 3:61

35. マーリク・ブン・アル＝フワイリス：マディーナでの二十夜 — 『サヒーフ・ブハーリー』631

36. スィーラ書に伝わるその他の使節団 — タイイ族、キンダ族、アーミル族、ムザイナ族；スィーラ書の伝承

37. 使節団の年の年表 — 表

38. 使節団の年に関するよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び

第 26 巻の参考文献

第六部：第 27 巻 — アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言 — はじめに

1. ヒジュラ暦 9 年の巡礼の季節 — 図；スィーラ書

2. なぜアッラーの使徒 ﷺ は行かれなかったのか — スィーラ書

3. 巡礼団の長アブー・バクル — 『サヒーフ・ブハーリー』1622

4. 絶縁の章が下る — 『サヒーフ・ブハーリー』4654；悔悟章 9:1〜2

5. アリーが後を追う — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091；スィーラ書

6. ミナーでの宣言 — 『サヒーフ・ブハーリー』4655；悔悟章 9:3

7. 大巡礼の日 — 『サヒーフ・ブハーリー』3177

8. アブー・フライラ — ミナーの呼び手 — 『サヒーフ・ブハーリー』118、119

9. 裸のタワーフの終わり — 『サヒーフ・ムスリム』3028；高壁章 7:31

10. タウヒードのタルビヤと多神のタルビヤ — 『サヒーフ・ムスリム』1185；『サヒーフ・ブハーリー』1549

11. フムスとアラファでの立礼 — 『サヒーフ・ブハーリー』1664、1665；雌牛章 2:199

12. 四か月と守られた盟約 — 悔悟章 9:2、9:4、9:7

13. 文脈の中の 9:5 節 — 悔悟章 9:5；注釈書

14. 「かれが聞けるように保護しなさい」 — 悔悟章 9:6

15. 信者たちのためのモスク — 悔悟章 9:17〜18

16. 「アッラーは富ませてくださる」 — 悔悟章 9:28

17. 聖月とナスィー — 悔悟章 9:36〜37；図

18. イブラーヒームの道への回帰 — イブラーヒーム章 14:35〜37；巡礼章 22:26〜27

19. なぜバスマラがないのか？ — 注釈書

20. 悔悟章の呼び名 — 『サヒーフ・ブハーリー』4882

21. アブー・バクルの巡礼 — 別離の巡礼への備え — 『サヒーフ・ブハーリー』3177

22. アブー・バクルの地位 — 『サヒーフ・ブハーリー』664、3654

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

23. ザカートの徴収人と贈り物 — 『サヒーフ・ブハーリー』7174

24. アブドゥッラー・ブン・ウバイイの死 — 『サヒーフ・ブハーリー』1366

25. 肌着を与えられたアッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』1350、3008

26. 偽信者のための礼拝の禁止 — 悔悟章 9:80、9:84

27. 偽信者の時代の終わり — スィーラ書

28. アン＝ナジャーシーの死 — 『サヒーフ・ブハーリー』1245、3877

29. ウンム・クルスームの死 — 『サヒーフ・ブハーリー』1285

30. 涙を流されたアッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』1303

31. 絶縁の宣言の内容 — 表

32. 物語の典拠 — 表

33. 悔悟章の内容の地図 — 表；悔悟章 9:1〜129；『サヒーフ・ブハーリー』4675、4679

34. ヒジュラ暦 9 年の巡礼の人物 — 表；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3719

35. アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言から得られる規定 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』3166；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』960

36. この物語の場所 — 表；ズル・フライファ、アル＝アルジュ、ミナー、アラファ

37. ヒジュラ暦 9 年の年表 — 表

38. アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言に関するよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び

第 27 巻の参考文献

第七部：第 28 巻 — 別れの巡礼

別れの巡礼 — 序

1. 告知：アッラーの使徒 ﷺ が巡礼を行われる — 『サヒーフ・ムスリム』1218

2. この巡礼の呼び名 — スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』4402

3. マディーナからの出発 — 『サヒーフ・ブハーリー』1545；図

4. ズル＝フライファにて — 『サヒーフ・ムスリム』1218

5. タウヒードのタルビヤ — 『サヒーフ・ブハーリー』1549

6. 受け入れられた巡礼（ハッジ・マブルール） — 『サヒーフ・ブハーリー』1521；雌牛章 2:197

7. 人の海 — 『サヒーフ・ムスリム』1218；スィーラ書

8. サリフでのアーイシャの涙 — 『サヒーフ・ブハーリー』305

9. マッカ到着 — 『サヒーフ・ブハーリー』1545；『サヒーフ・ムスリム』1218

10. 黒石とウマルの言葉 — 『サヒーフ・ブハーリー』1597

11. イブラーヒームの立処にて — 雌牛章 2:125；イムラーン家章 3:97

12. サアイ：「アッラーが始められたもので、わたしも始める」 — 雌牛章 2:158；『サヒーフ・ムスリム』1218

13. ハッジの中に入ったウムラ — 『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』1651

14. イエメンから来たアリー — 『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』1557

15. タルウィヤの日 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

16. ムズダリファを越えてアラファへ — 『サヒーフ・ムスリム』1218；雌牛章 2:199

17. ウラナの谷での説教 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

18. 宗教が完成された日 — 『サヒーフ・ブハーリー』45；食卓章 5:3

19. 「ハッジとはアラファである」 — 『サヒーフ・ムスリム』1348；『ジャーミウ・ティルミズィー』889

20. 「人びとよ、落ち着きなさい！」 — 『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』1671

21. ムズダリファの夜 — 雌牛章 2:198；『サヒーフ・ブハーリー』1681

22. 聖なる標識（マシュアル・ハラーム）とムハッスィルの谷 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

23. ジャムラト・アル＝アカバへの投石 — 『サヒーフ・ムスリム』1297

24. 百頭の犠牲のラクダ — 『サヒーフ・ムスリム』1218；巡礼章 22:37

25. 頭を剃った者のための祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』1727

26. 「行いなさい、差し支えはない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』1736

27. イファーダのタワーフとザムザムの水 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

28. ミナーでのタシュリークの日々 — 雌牛章 2:203；『サヒーフ・ブハーリー』1634、1751

29. 犠牲の日の説教 — 『サヒーフ・ブハーリー』1739

30. アーイシャのウムラとサフィーヤの月経 — 『サヒーフ・ブハーリー』1785、1757

31. 別れのタワーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』1755

32. マディーナへの帰還とガディール・フンム — 『サヒーフ・ムスリム』2408

33. イフラード、キラーン、タマットゥ：アッラーの使徒 ﷺ はどのように巡礼されたか — 表；『サヒーフ・ムスリム』1251、1211；『サヒーフ・ブハーリー』1534；雌牛章 2:196

34. 別れの巡礼の人物たち — 表；『サヒーフ・ブハーリー』1544；『サヒーフ・ムスリム』1298、1305

35. 巡礼者の質問とハッジにおける容易さ — 『サヒーフ・ブハーリー』1513、1265；『サヒーフ・ムスリム』1336、1337

36. 別れの巡礼の場所：昔と今 — 表；ズル＝フライファ、ナミラ、ムズダリファ、ジャマラート

37. 日ごとの年表 — 表；ヒジュラ暦 10 年ズル＝カアダ月 25 日〜ズル＝ヒッジャ月末

38. 別れの巡礼についてよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び — 表

第 28 巻の参考文献

第八部：第 29 巻 — 別れの説教

別れの説教 — 序

1. 別れの巡礼における説教 — 図；『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』1739

2. この説教をどこから知るのか — 典拠の表

3. 「人びとを静かにさせなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』121

4. 「今日は何の日か」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4406

5. 命の神聖さ — 夜の旅章 17:33；食卓章 5:32

6. 財産の神聖さ — 婦人章 4:29

7. 名誉の神聖さ — 『サヒーフ・ムスリム』2564

8. 「わたしの両足の下に」 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

9. ジャーヒリーヤの血の復讐の廃止 — 『サヒーフ・ムスリム』1218

10. アル＝アッバースの利息の廃止 — 『サヒーフ・ムスリム』1218；雌牛章 2:278–279

11. 「時は巡り戻った」 — 悔悟章 9:36；『サヒーフ・ブハーリー』4406

12. 「女性のことについてアッラーを畏れなさい」 — 『サヒーフ・ムスリム』1218；『ジャーミウ・ティルミズィー』1163

13. 夫の権利と妻の権利 — 雌牛章 2:228；婦人章 4:19

14. 家庭における戒めを理解する — 『サヒーフ・ムスリム』2328；タフスィール

15. 血統、遺言、相続の権利 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2120

16. 預かり物、借金、保証 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2120

17. アッラーの啓典：迷うことのない拠り所 — 『サヒーフ・ムスリム』1218；イムラーン家章 3:103

18. 「アッラーの啓典とわたしのスンナ」 — 婦人章 4:59；ハディース集

19. 楽園への五つの鍵 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』616

20. アッラーの啓典を守る指導者に従う — 『サヒーフ・ムスリム』1838

21. アラブ人は非アラブ人に優らない — 部屋章 49:13；『ムスナド・アフマド』

22. ムスリムはムスリムの兄弟 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2159；『サヒーフ・ムスリム』2564

23. 「わたしの後で不信仰に戻ってはならない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』1739

24. シャイターンと軽んじられる罪 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2159；『サヒーフ・ムスリム』2812

25. 各人は自分の罪を負う — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2159

26. 「ここにいる者は伝えなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』67；『ジャーミウ・ティルミズィー』2658

27. 「アッラーよ、証人となってください」 — 食卓章 5:67；『サヒーフ・ムスリム』1218

28. 別れの兆し — 『サヒーフ・ムスリム』1297；スィーラ書

29. 確かめるべき有名な言葉 — 等級の表

30. 別れの説教と人権 — 比較の表

31. 説教の内容のまとめ — 図；表

32. 今日のわたしたちのための別れの説教 — 食卓章 5:3

33. 別れの説教の全体図：言葉、典拠、等級 — 16 の言葉の表；関連する節；章の参照

34. 別れの説教の伝承者たち — 表；『スナン・アビー・ダーウード』1956；『サヒーフ・ムスリム』2408

35. 別れの説教における伝える技 — 8 つの技法の表；『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』67、1739

36. ガディール・フンム：真正な言葉とその理解 — 『サヒーフ・ムスリム』2408；『ジャーミウ・ティルミズィー』3713；『サヒーフ・ブハーリー』4350

37. 別れの巡礼における説教の年表 — 表；ヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月 9 日〜11 年ラビーウ・アル＝アウワル月

38. 別れの説教についてよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び

第 29 巻の参考文献

第九部：第 30 巻 — 至高の友

至高の友 — はじめに

1. 別れの巡礼後のマディーナ — 図；スィーラ書

2. 別れの兆し — 『サヒーフ・ブハーリー』3624、4970

3. ウフドの殉教者たちへの別れ — 『サヒーフ・ブハーリー』4042

4. バキーウ墓地での祈り — 『サヒーフ・ムスリム』974；スィーラ書

5. 「ああ、頭が痛い！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』5666

6. ハイバルの毒の影響 — 『サヒーフ・ブハーリー』4428

7. 「明日、わたしはどこにいるのか」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4442、4450

8. 七つの革袋の水と最後の説教 — 『サヒーフ・ブハーリー』4442

9. 選択を与えられたしもべ — 『サヒーフ・ブハーリー』3654

10. アブー・バクルの地位 — 『サヒーフ・ブハーリー』3654、3904

11. 「アブー・バクルに礼拝を導かせなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』664

12. 墓についての戒め — 『サヒーフ・ブハーリー』4441

13. 木曜日 — 『サヒーフ・ブハーリー』4431

14. 「礼拝を、礼拝を！」 — 『スナン・アビー・ダーウード』5156

15. ウサーマの軍 — 『サヒーフ・ブハーリー』4468、4469

16. ファーティマの涙と微笑み — 『サヒーフ・ブハーリー』3623、3624

17. 月曜日の朝の微笑み — 『サヒーフ・ブハーリー』680

18. 最後のミスワーク — 『サヒーフ・ブハーリー』4438、4449

19. 「アッラーよ、至高の友を」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4463；婦人章 4:69

20. ファーティマの悲しみ — 『サヒーフ・ブハーリー』4462

21. 最も暗い日 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』3618

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

22. ウマルの動揺 — 『サヒーフ・ブハーリー』3667

23.「ムハンマドを崇拝していた者は……」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4454；イムラーン家章 3:144

24.「本当にあなたも死ぬ」 — 集団章 39:30；預言者章 21:34

25. アブー・バクルへの忠誠の誓い — 『サヒーフ・ブハーリー』3668

26. 使徒の御遺体の洗浄 — 『スナン・アビー・ダーウード』3141

27. 屍衣と葬儀の礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』1264；スィーラ書

28. 逝去された場所への埋葬 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』1018

29. アッラーの使徒 ﷺ の遺したもの — 『サヒーフ・ブハーリー』2739、2916

30.「わたしたちは相続されない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』6727

31. 享年と逝去の日付 — 『サヒーフ・ブハーリー』1387、4466；表

32. 使徒のために祝福を祈り、使徒を愛すること — 部族連合章 33:56；悔悟章 9:128

33. 病の時系列：一日ごとに — 19 の出来事の表；『サヒーフ・ムスリム』418；『サヒーフ・ブハーリー』4429

34. 立ち上がろうとする努力と最後の礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』687、4429、4439

35. アッラーの使徒 ﷺ の最後の遺言集 — 表；『サヒーフ・ムスリム』532、2877

36. 病と死に臨むときのスンナ — 表；『サヒーフ・ムスリム』916、920；『サヒーフ・ブハーリー』2738、5814

37. 確かめるべき有名な伝承 — 等級の表；『サヒーフ・ムスリム』202

38. アッラーの使徒 ﷺ の逝去についてのよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び — 表

第 30 巻の参考文献

支援と寄付

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。青い下線付きの伝承者名をクリックすると、sunnah.com のその伝承者のページが開きます。

第一部

フナインの戦いとターイフ包囲

預言者伝（スィーラ）— 第 22 巻

数の試練、アッラーの使徒 ﷺ の揺るぎなさ、そして天からの静穏 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

フナインの戦いとターイフ包囲

第 20 巻と第 21 巻は**マッカ征服**を語りました。スィーラにおける最大の勝利で、ほとんど流血なしに成し遂げられたものです。しかしその勝利はすぐに試されました。わずか数週間後、それまでに集められた中で最大のイスラーム軍が、**ほとんど敗れかけた**のです。場所は**フナイン**という狭い谷でした。

第 22 巻は**フナインの戦い**と**ターイフ包囲**を語ります。自らの数への驚嘆がいかに初めの敗走を招いたか、多くの者が退く中でアッラーの使徒 ﷺ がいかに揺るぎなく立ち続けたか、アル＝アッバースの呼びかけがいかに教友たちを呼び戻したか、そしてアッラーがいかに**静穏と目に見えない軍勢**を下されたか。それはまたターイフの物語でもあります。十年前、アッラーの使徒 ﷺ に石を投げつけた町です。

年表：マッカからフナイン、ターイフへ

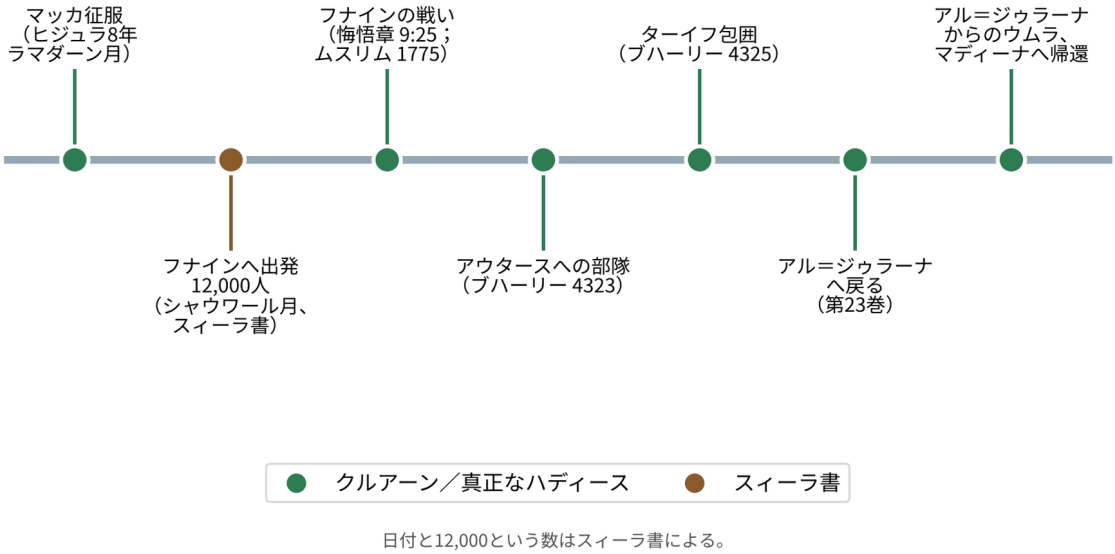


図 1：マッカからフナイン、ターイフまでの年表。

注：本書のクルアーンの節の訳は、三田了一訳を用いています。各ハディースの等級はハディースの枠に記しています。スィーラ書からの情報 — ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマの忠告、軍勢の人数、アッ＝シャイマーの話など — は茶色の枠「スィーラの注」に収めています。その多くは、連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているからです。

マッカ征服の後

マッカ征服はアラビア半島全体を揺るがしました。多くの部族は、風がどちらに吹くかを見極めようと待っていました。しかしマッカの南にある二つの大部族は、別の決断を下しました。**ハワーズィン**と**サキーフ**です。

ハワーズィンは、弓の腕で知られる大きなベドウィン部族の連合でした。その支族の一つサアド家のもとで、アッラーの使徒 ﷺ は幼い頃、ハリーマ・アッ＝サアディーヤの乳で育てられました。一方**サキーフ**は**ターイフ**の住民でした。ターイフは肥沃な高地にある城壁の町で、交易と威信においてマッカと競い合い、偶像**アッ＝ラート**を守る町でした。

この二つの部族にとって、マッカの陥落は降伏の合図ではなく、直ちに立ち向かうべき**脅威**でした。かれらは言いました。「ムハンマドは自分の民との決着をつけた。次はわれわれのところに来るだろう。先に攻めたほうがよい。」こうしてかれらは大軍を集めました。

教訓：**勝利は試練の終わりではない**。一つの成功の後には、別の試練がやって来ます — ときにはもっと重い試練が。信仰者は勝利の中で休まず、備え続け、アッラーに委ね続けます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マーリク・ブン・アウフとドゥライドの忠告

ハワーズィンの軍を率いたのは、三十歳ほどの若者**マーリク・ブン・アウフ・アン＝ナスリー**でした。かれは異例の決断を下しました。

スィーラの注：戦場に連れて来られた女性、子ども、家畜

スィーラの学者たちは、マーリク・ブン・アウフが**女性、子ども、ラクダ、羊**を戦場に連れて来させ、軍の後ろに置くよう命じたと伝えています。その理由は、男たちが皆、自分の家族と財産を守るために戦い、逃げないようにするためでした。

その軍の中に、戦の経験で知られる盲目の老勇士**ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマ**がいました。かれはラクダや羊の声、子どもの泣き声を聞いてそのわけを尋ね、こう言いました。「**羊飼いよ！ 負けた者を何かが引き留められるというのか。勝てば役に立つのは剣と槍を持った男だけだ。負ければ、お前は家族と財産のことで恥をかくのだ。**」マーリクはその忠告を退けました。

この話は**スィーラ書の伝承**です。真正なハディース（『サヒーフ・ムスリム』1059 と『サヒーフ・ブハーリー』4337）は、ハワーズィンが女性、子ども、家畜を連れてやって来たことを確証しています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

ドゥライドの忠告は正しかったことが明らかになりました。**傲慢と性急さ**から生まれたマーリクの決断は、結局ハワーズィンの家族と財産のすべてをムスリムの手に渡すことになったのです。しかしマーリク・ブン・アウフの物語はそこで終わりません。かれは後にイスラームに入り、再び自分の部族の長に任じられました（第 23 巻）。

教訓：良い指導者は**経験ある者の忠告に耳を傾ける**。たとえ弱い老人からの忠告であってもです。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も常に教友たちと相談され、アッラーは「かれらと物事について相談しなさい」（イムラーン家章 3:159）と命じられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

借りたサフワーンの鎧

アッラーの使徒 ﷺ は直ちにハワーズィンに向かう備えをされました。マディーナから共に来た一万の軍に、およそ二千人のマッカの住民を加えて出陣されました。その多くはイスラームに入ったばかりで、まだ入っていない者さえいました。スィーラ書によれば、総数は**一万二千人**でした。

軍備を整えるため、アッラーの使徒 ﷺ は**鎧**を**サフワーン・ブン・ウマイヤ**から借りられました。かれは当時まだイスラームに入っていませんでした。サフワーンは尋ねました。「ムハンマドよ、これは奪い取るのか。」使徒は答えられました。「**いや、（返すことを）保証した借用だ。**」（『スナン・アビー・ダーウード』3562、アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）

勝者の指導者でありながら、**アッラーの使徒** ﷺ の公正さをご覧ください。使徒は力ずくで武器を取ることもできましたが、まだムスリムでない人から、返却を保証して正当な形で借りられたのです。このハディースは法学における**貸借（アーリヤ）の規定の基礎**となりました。借りた物は大切に扱い、返さなければなりません。

アッラーの使徒 ﷺ はまた、ご自身の留守中のマッカ総督に**アッターブ・ブン・ウサイド**を任命されました（スィーラ書による）。イスラームに入ったばかりのクライシュの若者に大きな責任が託されたのです。新たにイスラームを受け入れたマッカの住民への信頼の証でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ザート・アンワートの木

行軍の途中、**タウヒード（唯一神信仰）**についての大きな教訓を含む小さな出来事が起こりました。軍の多くは不信仰を捨てたばかりで、心にはまだジャーヒリーヤの考えの名残がありました。アブー・ワーキド・アル＝ライシー رضي الله عنه は語っています。

ハディース — 『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2180 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْمَخْزُومِيُّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ سِنَانِ بْنِ أَبِي سِنَانٍ، عَنْ أَبِي وَاقِدٍ اللَّيْثِيِّ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَمَّا خَرَجَ إِلَى خَيْبَرَ مَرَّ بِشَجَرَةٍ لِلْمُشْرِكِينَ يُقَالُ لَهَا ذَاتُ أَنْوَاطٍ يُعَلِّقُونَ عَلَيْهَا أَسْلِحَتَهُمْ فَقَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ اجْعَلْ لَنَا ذَاتَ أَنْوَاطٍ كَمَا لَهُمْ ذَاتُ أَنْوَاطٍ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «سُبْحَانَ اللَّهِ هَذَا كَمَا قَالَ قَوْمُ مُوسَى : (اجْعَلْ لَنَا إِلَهًا كَمَا لَهُمْ آلِهَةٌ) وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ لَتَرْكَبُنَّ سُنَّةَ مَنْ كَانَ قَبْلَكُمْ».

訳：

アブー・ワーキド・アル＝ライシー رضي الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は（この写本では「ハイバルへ」、他の伝承では「フナインへ」）出陣された際、多神教徒の一本の木のそばを通られた。それは**ザート・アンワート**と呼ばれ、かれらはそこに武器を掛けていた。（一部の教友たちは）言った。「アッラーの使徒よ、かれらにザート・アンワートがあるように、わたしたちにもザート・アンワートを作ってください。」預言者 ﷺ は言われた。**「スブハーナッラー（アッラーに讃えあれ）！ これはムーサーの民が言ったことと同じだ。『かれらに神々があるように、わたしたちにも神を作ってください。』わが魂をその御手に握る御方にかけて、あなたがたはきっと、あなたがた以前の者たちの道をたどるであろう。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：サイード・ブン・アブドゥッラフマーン・アル＝マフズーミー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← スィナーン・ブン・アビー・スィナーン ← アブー・ワーキド・アル＝ライシー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・ティルミズィー』試練の書、「あなたがたはきっと以前の者たちの慣行をたどる」の章、ハディース第 2180 番；アフマド第 21897 番にも（「フナインへ」という文言で）。

等級： サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価。アフマドも伝え、シャイフ・アル＝アルバーニーがサヒーフと評価。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:2180

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はその願いを、イスラエルの民が預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ に求めたことになぞらえられました。**「ムーサーよ、かれらに神々があるように、わたしたちにも神（偶像）を作ってください」**（高壁章 7:138） — 『イブン・カスィールのタフスィール』7:138。

かれらはその木を崇拝しようと求めたのではありません。武器を掛けて**祝福を得る**ための木が欲しかっただけです。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、**かれらの言葉はイスラエルの民の言葉と同じだ**と強調されました。これは、たとえ小さく見えても、多神崇拝（シルク）につながりうる扉を、イスラームがいかに固く閉ざしているかを示しています。

このハディースにはまた警告が含まれています。**「あなたがたはきっと、あなたがた以前の者たちの道をたどるであろう。」**学者たちはこれを、迷信に似た行い — 定められていない仕方で木や石や墓から祝福を求めることなど — に注意するようにという戒めとしています。

数の試練

ムスリムは初めて、敵よりも**はるかに多い**軍勢で出陣しました。バドルではわずか 313 人、ウフドでは約 700 人、ハンダクでは 3,000 人でした。それが今や一万二千人です。一部の者たちの心に、誇りがひそかに入り込み始めました。

スィーラの注：「今日、われわれは少なさゆえに負けることはない」

一部のスィーラ書は、軍の中のある男がこう言ったと伝えています。**「今日、われわれは少なさゆえに負けることはない。」**この言葉はアッラーの使徒 ﷺ を悲しませました。

この伝承は**スィーラ学者と注釈学者が挙げているもの**ですが、その伝承経路には議論があります。確かなのは、クルアーン自体が、かれらが**「数の多さに得意になった」**と述べていることです。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーは仰せられます。**「本当にアッラーは、多くの戦場で、またフナインの日に、あなたがたを助けられた。そのとき、あなたがたは自分たちの数の多さに得意になったが、それは何の役にも立たなかった」**（悔悟章 9:25） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:25。

この節は、アッラーが昔から定められた原則を思い起こさせます。**「どれほど多くの小勢が、アッラーのお許しによって大軍に打ち勝ったことか」**（雌牛章 2:249） — 『イブン・カスィールのタフスィール』2:249。

フナインは、**勝利はアッラーから来るのであって、数から来るのではない**ことを教えています。多くの数、整った武器、周到な計画は手段にすぎません。心がアッラーではなくそれらに頼るなら、すべては**「何の役にも立たない」**のです。この教訓

はわたしたちの人生にも当てはまります。財産も知識も地位も、アッラーの助けなしには成功を保証しません。

谷での待ち伏せ

イスラームの軍勢は夜明け前の暗がりの中、**フナインの谷**に入りました。谷は狭く、斜面と丘の裂け目に囲まれていました。マーリク・ブン・アウフは、ハワーズィンの射手たちを岩陰や斜面に配置して待ち構えていました。アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما は、何が起こったかを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2864 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا سَهْلُ بْنُ يُوسُفَ، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ رَجُلٌ لِلْبَرَاءِ بْنِ عَازِبٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَفَرَرْتُمْ عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ حُنَيْنٍ قَالَ لَكِنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَمْ يَفِرَّ، إِنَّ هَوَازِنَ كَانُوا قَوْمًا رُمَاةً، وَإِنَّا لَمَّا لَقِينَاهُمْ حَمَلْنَا عَلَيْهِمْ فَانْهَزَمُوا، فَأَقْبَلَ الْمُسْلِمُونَ عَلَى الْغَنَائِمِ وَاسْتَقْبَلُونَا بِالسِّهَامِ، فَأَمَّا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَلَمْ يَفِرَّ، فَلَقَدْ رَأَيْتُهُ وَإِنَّهُ لَعَلَى بَغْلَتِهِ الْبَيْضَاءِ وَإِنَّ أَبَا سُفْيَانَ آخِذٌ بِلِجَامِهَا، وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ «أَنَا النَّبِيُّ لاَ كَذِبْ أَنَا ابْنُ عَبْدِ الْمُطَّلِبْ».

訳：

アブー・イスハークは言った。ある男がアル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما に尋ねた。「あなたがたはフナインの日、アッラーの使徒 ﷺ を置いて逃げたのですか。」アル＝バラーウは答えた。「しかし**アッラーの使徒 ﷺ は逃げなかった**。ハワーズィンは弓の民であった。われわれがかれらとぶつかったとき、われわれが攻めかかると、かれらは敗れた。するとムスリムたちは戦利品に向かい、かれらは矢でわれわれを迎えた。だがアッラーの使徒 ﷺ は逃げなかった。わたしは確かに、白いラバに乗った使徒を見た。アブー・スフヤーン（・ブン・アル＝ハーリス）がその手綱を握り、預言者 ﷺ は言われていた。**「わたしは預言者、偽りではない。わたしはアブドゥルムッタリブの子である。」」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← サフル・ブン・ユースフ ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、「戦いで他人の乗り物を引いた者」の章、ハディース第 2864 番；第 2930 番、第 4315〜4317 番、ムスリム第 1776 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2864

このハディースの教訓

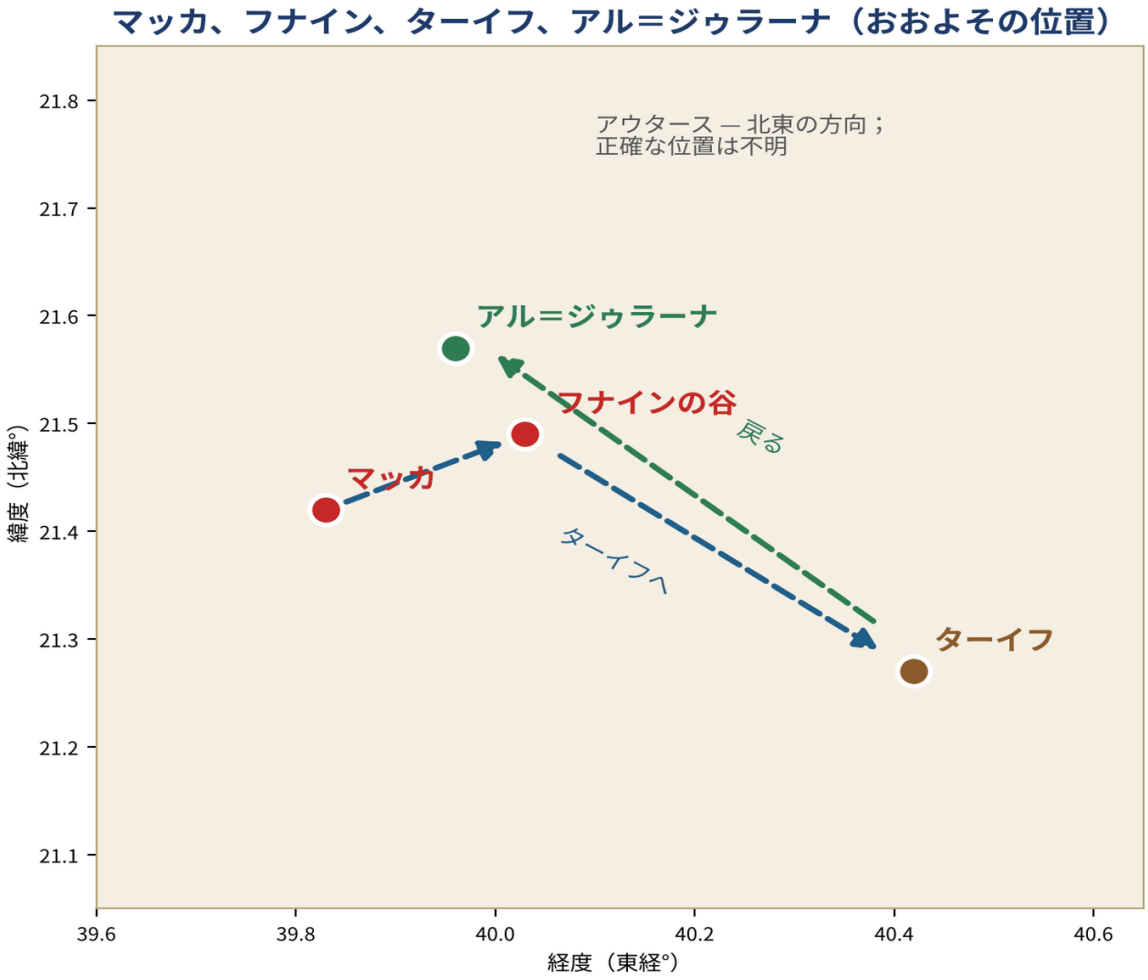


図 2：マッカ、フナイン、ターイフ、アル＝ジゥラーナ（おおよその位置）。

アル＝バラーウは初めの敗走の原因を正直に説明しています。ムスリムたちは初めは優勢でしたが、敵が本当に敗れる前に**戦利品に向かってしまった**のです。そして

矢の雨に迎えられました。それは、ウフドで射手たちが戦利品のために丘を離れた過ち（第 10 巻）を思い起こさせます。

ラクダは驚いて向きを変え、前衛の兵 — その多くはイスラームに入ったばかりのマッカの住民でした — は恐慌して退き、混乱は全軍に広がりました。一瞬のうちに、一万二千の軍は散り散りになりました。これがクルアーンの描く瞬間です。「**大地は広いのに、あなたがたには狭くなり、あなたがたは背を向けて逃げた**」（悔悟章 9:25）。

軍はなぜ退いたのか

抵抗なくマッカを開いた同じ軍が、なぜフナインでは一瞬で散り散りになったのでしょうか。スィーラと注釈の学者たちはいくつかの原因を挙げています。その多くはクルアーンと真正なハディースで述べられているか、示唆されています。

理由	説明
数への驚嘆	悔悟章 9:25 に明記
戦利品を急いで取ろうとしたこと	アル＝バラーウの言葉（ブハーリー 2864）
狭い谷での待ち伏せ	丘の斜面にいたハワーズィンの射手
夜明けの暗さ	明るくなる前に軍が入った（スィーラ書）
混成の軍	イスラームに入ったばかりの者が多かった（ムスリム 1809）
敵の弓の腕	「ハワーズィンは弓の民であった」（ブハーリー 2864）

注目してください。クルアーンが挙げる**主な原因**は、敵の強さでも、暗さでも、地形でもなく、**心の状態** — 自分たちの数への驚嘆 — でした。その他の原因は、試練が起こるための道にすぎなかったのです。

同じことはウフドでも起こりました。そのとき退いた者たちについて、アッラーは仰せられました。**「かれらが犯した何らかの（過ちの）ために、悪魔がかれらをつまずかせたのである」**（イムラーン家章 3:155） — 『イブン・カスィールのタフスィール』3:155。

その節はさらに続きます。**「だがアッラーは確かにかれらを赦された」**。初めの敗北は終わりではなく、**教育**でした。アッラーはかれらに心の過ちの結果を味わわせ、そしてかれらがアッラーに立ち返ったとき、助けられたのです。わたしたちの人生でも同じです。失敗はしばしば最も効果的な教師となります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしは預言者、偽りではない」

その混乱のただ中に、教友たちが決して忘れなかった光景がありました。アッラーの使徒 ﷺ が**その場にとどまり**、白いラバに乗ったまま、さらにラバを**敵の方へ**進めながら、こう叫ばれていたのです。

「わたしは預言者、偽りではない。わたしはアブドゥルムッタリブの子である。」

なぜ使徒は速い馬ではなく**ラバ**に乗っておられたのでしょうか。学者たちは説明します。ラバは逃げるためや素早く攻めるための乗り物ではありません。ラバを選ぶことで、使徒は**逃げるつもりがない**ことを示されたのです。そして戦場のただ中で大声でご自身の名と血筋を名乗ることで、使徒はご自身を**はっきりとした標的**とされました。退いていく兵たちに指導者の居場所を知らせ、そのもとへ戻らせるためです。

「わたしは預言者、偽りではない」という言葉はまた、**わたしに対するアッラーの約束は真実である**という意味でもあります。アッラーはその使徒を見捨てられません。アル＝バラーウは別の伝承で言っています。「アッラーにかけて、戦いが激しくなると、わたしたちは使徒の陰に身を隠した。わたしたちの中で最も勇敢な者は、使徒と並んで立つ者であった」（『サヒーフ・ムスリム』1776）。

これこそが**真の勇気**です。恐れがないことではなく、恐れに打ち勝つアッラーへの確信です。指導者が試されるのは、皆が従っているときではなく、皆が去っていくときなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サムラの木の仲間たちへの呼びかけ

アッラーの使徒 ﷺ は完全に一人ではありませんでした。何人かの教友と親族がそばに残っていました。父方のおじ**アル＝アッバース** رضى الله عنه がラバの手綱を握っていました。アル＝アッバース自身が、その後に起こったことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1775 番

وَحَدَّثَنِي أَبُو الطَّاهِرِ، أَحْمَدُ بْنُ عَمْرِو بْنِ سَرْحٍ أَخْبَرَنَا ابْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي يُونُسُ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ حَدَّثَنِي كَثِيرُ بْنُ عَبَّاسِ بْنِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ، قَالَ قَالَ عَبَّاسٌ شَهِدْتُ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ حُنَيْنٍ فَلَزِمْتُ أَنَا وَأَبُو سُفْيَانَ بْنُ الْحَارِثِ بْنِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَلَمْ نُفَارِقْهُ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى بَغْلَةٍ لَهُ بَيْضَاءَ أَهْدَاهَا لَهُ فَرْوَةُ بْنُ نُفَاثَةَ الْجُذَامِيُّ فَلَمَّا الْتَقَى الْمُسْلِمُونَ وَالْكُفَّارُ وَلَّى الْمُسْلِمُونَ مُدْبِرِينَ فَطَفِقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَرْكُضُ بَغْلَتَهُ قِبَلَ الْكُفَّارِ قَالَ عَبَّاسٌ وَ أَنَا آخِذٌ بِلِجَامِ بَغْلَةِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَكُفُّهَا إِرَادَةَ أَنْ لاَ تُسْرِعَ وَأَبُو سُفْيَانَ آخِذٌ بِرِكَابِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «أَىْ عَبَّاسُ نَادِ أَصْحَابَ السَّمُرَةِ». فَقَالَ عَبَّاسٌ وَكَانَ رَجُلاً صَيِّتًا فَقُلْتُ بِأَعْلَى صَوْتِي أَيْنَ أَصْحَابُ السَّمُرَةِ قَالَ فَوَاللَّهِ لَكَأَنَّ عَطْفَتَهُمْ حِينَ سَمِعُوا صَوْتِي عَطْفَةُ الْبَقَرِ عَلَى أَوْلاَدِهَا. فَقَالُوا يَا لَبَّيْكَ يَا لَبَّيْكَ - قَالَ - فَاقْتَتَلُوا وَالْكُفَّارَ وَالدَّعْوَةُ فِي الأَنْصَارِ يَقُولُونَ يَا مَعْشَرَ الأَنْصَارِ يَا مَعْشَرَ الأَنْصَارِ قَالَ ثُمَّ قُصِرَتِ الدَّعْوَةُ عَلَى بَنِي الْحَارِثِ بْنِ الْخَزْرَجِ فَقَالُوا يَا بَنِي الْحَارِثِ بْنِ الْخَزْرَجِ يَا بَنِي الْحَارِثِ بْنِ الْخَزْرَجِ. فَنَظَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ عَلَى بَغْلَتِهِ كَالْمُتَطَاوِلِ عَلَيْهَا إِلَى قِتَالِهِمْ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «هَذَا حِينَ حَمِيَ الْوَطِيسُ». قَالَ ثُمَّ أَخَذَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَصَيَاتٍ فَرَمَى بِهِنَّ وُجُوهَ الْكُفَّارِ ثُمَّ قَالَ «انْهَزَمُوا وَرَبِّ مُحَمَّدٍ». قَالَ فَذَهَبْتُ أَنْظُرُ فَإِذَا الْقِتَالُ عَلَى هَيْئَتِهِ فِيمَا أَرَى - قَالَ - فَوَاللَّهِ مَا هُوَ إِلاَّ أَنْ رَمَاهُمْ بِحَصَيَاتِهِ فَمَا زِلْتُ أَرَى حَدَّهُمْ كَلِيلاً وَأَمْرَهُمْ مُدْبِرًا.

訳：

カスィール・ブン・アッバースは言った。アル＝アッバース رضي الله عنه は言った。わたしはフナインの日、アッラーの使徒 ﷺ と共にいた。わたしとアブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス・ブン・アブドゥルムッタリブは、**アッラーの使徒 ﷺ のそばにぴったりと付き、離れなかった。**アッラーの使徒 ﷺ は、ファルワ・ブン・ヌファーサ・アル＝ジュザーミーが贈った白いラバに乗っておられた。ムスリムと不信仰者がぶつかると、ムスリムは後ろへ退いた。するとアッラーの使徒 ﷺ はラバを**不信仰者たちの方へ**駆り始められた。アル＝アッバースは言った。わたしはアッラーの使徒 ﷺ のラバの手綱を握り、速く進みすぎないように抑えた。アブー・スフヤーンはアッラーの使徒 ﷺ の鐙を握っていた。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アッバースよ、サムラの木の仲間たち（サムラの木の下で忠誠を誓った教友たち）を呼べ。**」アル＝アッバース — 声の大きな人であった — は言った。わたしは声の限りに叫んだ。「サムラの木の仲間たちはどこにいるか。」アッラーにかけて、**わたしの声を聞いたかれらの戻り方は、牛が子のもとに戻るようであった。**かれらは言った。「ラッバイク、ラッバイク（はい、ここに）！」そしてかれらは不信仰者たちと戦った。アンサールへの呼びかけはこうであった。「アンサールの人々よ！ アンサールの人々よ！」それからその呼びかけはハーリス・ブン・アル＝ハズラジュ家に絞られた。「ハーリス・ブン・アル＝ハズラジュ家の人々よ！」アッラーの使徒 ﷺ はラバの上から、首を伸ばして見るようにかれらの戦いをご覧になり、言われた。「**今こそ、かまどが燃え盛った（戦いが最も激しくなった）。**」それからアッラーの使徒 ﷺ は小石をいくつか取り、不信仰者たちの顔に投げつけて言われた。「**かれらは敗れた。ムハンマドの主にかけて！**」アル＝アッバースは言った。わたしが見に行くと、戦いはわたしの目にはまだ同じ様子であった。アッラーにかけて、使徒が小石を投げつけられた後、わたしはかれらの勢いが鈍り、形勢が退いていくのを見続けたのである。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・アッ＝ターヒル・アフマド・ブン・アムル・ブン・サルフ ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← ユーヌス・ブン・ヤズィード・アル＝アイリー ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← カスィール・ブン・アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブ ← アル＝アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、フナインの戦いの章、ハディース第 1775 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1775a

このハディースの教訓

では、**サムラの木の仲間たち**とは誰でしょうか。かれらは、フダイビーヤでサムラの木の下でアッラーの使徒 ﷺ に忠誠を誓った教友たちです — **リドワーンの誓い**（第 15 巻）— そして逃げないと約束した人々です。アッラーの使徒 ﷺ がその呼びかけを選ばれたのは、それがかれらに**アッラーへの約束**を思い出させるからでした。そしてかれらは、母牛が子のもとへ戻るように — 愛情深く、すぐに — 戻ってきたのです。

その呼びかけは次に**アンサール**に向けられ、最後には**ハーリス・ブン・アル＝ハズラジュ家**に向けられました。ますます具体的になる呼びかけは、それぞれの集団の責任感に触れました。混乱の中では、全体への呼びかけは聞き流されがちです。自分の一族の名による呼びかけは心に届きます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ひと握りの土

教友たちが戻り、戦いが激しくなると、アッラーの使徒 ﷺ はバドルの戦いを思い起こさせることをなさいました。サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه は語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1777 番

وَحَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ يُونُسَ الْحَنَفِيُّ، حَدَّثَنَا عِكْرِمَةُ بْنُ عَمَّارٍ، حَدَّثَنِي إِيَاسُ بْنُ سَلَمَةَ، حَدَّثَنِي أَبِي قَالَ، غَزَوْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حُنَيْنًا فَلَمَّا وَاجَهْنَا الْعَدُوَّ تَقَدَّمْتُ فَأَعْلُو ثَنِيَّةً فَاسْتَقْبَلَنِي رَجُلٌ مِنَ الْعَدُوِّ فَأَرْمِيهِ بِسَهْمٍ فَتَوَارَى عَنِّي فَمَا دَرَيْتُ مَا صَنَعَ وَنَظَرْتُ إِلَى الْقَوْمِ فَإِذَا هُمْ قَدْ طَلَعُوا مِنْ ثَنِيَّةٍ أُخْرَى فَالْتَقَوْا هُمْ وَصَحَابَةُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَوَلَّى صَحَابَةُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَرْجِعُ مُنْهَزِمًا وَعَلَىَّ بُرْدَتَانِ مُتَّزِرًا بِإِحْدَاهُمَا مُرْتَدِيًا بِالأُخْرَى فَاسْتَطْلَقَ إِزَارِي فَجَمَعْتُهُمَا جَمِيعًا وَمَرَرْتُ عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مُنْهَزِمًا وَهُوَ عَلَى بَغْلَتِهِ الشَّهْبَاءِ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «لَقَدْ رَأَى ابْنُ الأَكْوَعِ فَزَعًا». فَلَمَّا غَشُوا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَزَلَ عَنِ الْبَغْلَةِ ثُمَّ قَبَضَ قَبْضَةً مِنْ تُرَابٍ مِنَ الأَرْضِ ثُمَّ اسْتَقْبَلَ بِهِ وُجُوهَهُمْ فَقَالَ «شَاهَتِ الْوُجُوهُ». فَمَا خَلَقَ اللَّهُ مِنْهُمْ إِنْسَانًا إِلاَّ مَلأَ عَيْنَيْهِ تُرَابًا بِتِلْكَ الْقَبْضَةِ فَوَلَّوْا مُدْبِرِينَ فَهَزَمَهُمُ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ وَقَسَمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم غَنَائِمَهُمْ بَيْنَ الْمُسْلِمِينَ.

訳：

イヤース・ブン・サラマがその父（サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه ）から伝えている。かれは言った。わたしたちはアッラーの使徒 ﷺ と共にフナインで戦った。敵と向き合うと、わたしは進み出て小高い丘に登った。敵の一人の男がわたしに向かってきたので、矢を放ったが、かれはわたしの視界から消え、どうなったかわからなかった。敵の軍勢を見ると、かれらは別の丘から突然現れ、預言者 ﷺ の教友たちとぶつかった。そして預言者 ﷺ の教友たちは退いた。わたしも退いて戻った。わたしは二枚の布をまとっていた。一枚は腰布、もう一枚は肩掛けであった。腰布がずり落ちたので、

わたしは二枚をまとめて抱えた。わたしは退きながらアッラーの使徒 ﷺ のそばを通り過ぎた。使徒は灰色のラバに乗っておられた。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アクワウの息子は恐ろしいものを見たのだ。**」敵がアッラーの使徒 ﷺ を取り囲むと、使徒はラバから降り、**地面からひと握りの土をつかみ**、それをかれらの顔に向けて言われた。「**その顔よ、醜くあれ！**」すると、アッラーが創られたかれらのうち誰一人として、そのひと握りの土で両目がふさがれなかった者はいなかった。かれらは背を向けて逃げ、アッラー — 偉大にして尊厳ある御方 — はかれらを打ち負かされた。そしてアッラーの使徒 ﷺ はかれらの戦利品をムスリムの間で分配された。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ ← ウマル・ブン・ユーヌス・アル＝ハナフィー ← イクリマ・ブン・アンマール ← イヤース・ブン・サラマ ← その父サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、フナインの戦いの章、ハディース第 1777 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1777

このハディースの教訓

同じことはバドルでも起こりました。アッラーはそれについて仰せられています。**「あなた（ムハンマド）が投げたとき、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられたのである」**（戦利品章 8:17） — 『イブン・カスィールのタフスィール』8:17。

ひと握りの土が、普通の人間の力で何千人もの目に入ることはありえません。それは**奇跡**でした。アッラーの使徒 ﷺ は小さな手段を行い、アッラーがその結果を完成されたのです。これはわたしたちへの教訓です。たとえ小さく見えても**できることをしなさい**。そして結果はアッラーに委ねるのです。

静穏と目に見えない軍勢

クルアーンは、フナインの勝利の背後で実際に何が起こったかを説明しています。数への驚嘆と初めの敗走について述べた節の後、アッラーは仰せられます。

「それからアッラーは、その使徒と信仰者たちの上に静穏を下し、またあなたがたには見えない軍勢を下された」（悔悟章 9:26） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:26。

この節の順序に注目してください。**静穏（サキーナ）はまずアッラーの使徒** ﷺ に下り、それから信仰者たちに下りました。皆が恐慌に陥っていたとき使徒は落ち着いておられ、その落ち着きが戻ってきた教友たちに広がったのです。そしてその後に**目に見えない軍勢** — 天使たち — が来ました。勝利は心の内側から始まったのです。



図 3：フナインの戦いの五つの段階。

続く節は希望の扉を開いています。**「その後、アッラーは御心にかなう者の悔悟を受け入れられる」**（悔悟章 9:27）。フナインでムスリムと戦った者の多くが、後にイスラームに入りました — マーリク・ブン・アウフ自身もそうです。アッラーは、昨日の敵に対してさえその扉を閉ざされないのです。

今日のわたしたちにとって、**サキーナ（静穏）**は試練のときに最も必要な賜物です。失ったとき、病のとき、失敗したとき。その静けさは外の状況から来るのではなく、

アッラーとのつながり — 礼拝、ズィクル（アッラーを念じること）、タワックル（アッラーへの委託）— から来るのです。

フナインについての三つの節

悔悟章は最後に下された章の一つで、フナインの名を挙げて述べています。続く三つの節（9:25〜27）は、物語全体を短く、しかし深く要約しています。その一つひとつを味わってみましょう。

「**本当にアッラーは、多くの戦場であなたがたを助けられた。**」この節は恵みを思い起こさせることから始まります。バドル、ハンダク、ハイバル、マッカ — すべてアッラーからの勝利でした。イブン・カスィールは、この節がムスリムに**それらの勝利はアッラーから来たのであって**、かれらの数や装備から来たのではないことを思い出させている、と説明しています。

「**…大地は広いのに、あなたがたには狭くなり…**」この描写はまことに的確です。フナインの谷は広い谷でしたが、恐れの中では、逃げ場がないかのように狭く感じられたのです。人の心がアッラー以外のものに頼るとき、人はこう感じます — 広い世界が狭く感じられるのです。

「**それからアッラーは、その使徒の上に静穏を下された。**」同じ言葉 — サキーナ — が、ヒジュラのときのサウルの洞窟での出来事にも使われています。「**そこでアッラーはかれ（預言者ムハンマド）の上に静穏を下し、あなたがたには見えない軍勢でかれを強められた**」（悔悟章 9:40） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:40。

洞窟では、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・バクルと二人きりでした。フナインでは、退いていく軍の中で、わずかな教友たちに囲まれていました。どちらの場合も、**静穏と目に見えない軍勢**がアッラーから下りました。それは、アッラーの助けが数に左右されないことを示しています — 洞窟の中の二人であれ、谷の中の一万二千人であれ。

そして三つ目の節は、慈悲をもってその物語を閉じています。「**その後、アッラーは御心にかなう者の悔悟を受け入れられる（イスラームに入る導きを与えられる）。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

（不信仰者たちが懲罰を受けた）その後に」（悔悟章 9:27） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:27。

サラマ・ブン・アル＝アクワウの正直さ

サラマ・ブン・アル＝アクワウのハディースには驚くべきことが含まれています。一人の教友による、自分自身の弱さについての**正直な告白**です。サラマは教友たちの中でも最も勇敢な戦士の一人でした — ズー・カラドでは、徒歩でただ一人、略奪者たちを追いかけて矢を射かけました。しかしフナインでは、率直にこう言っています。「**わたしも退いて戻った**」。さらに腰布がずり落ちたことまで語っているのです。

アッラーの使徒 ﷺ はかれを見て言われました。「**アクワウの息子は恐ろしいものを見たのだ。**」使徒はかれを叱ることも辱めることもなく、その恐れには理由があることを**理解された**のです。これは、危機の瞬間に過ちを犯した従う者に対する、指導者の慈しみです。

このような正直さこそが、**教友たちの伝承に対する信頼の基盤**です。かれらは立派に見せるために自分の弱さを隠しませんでした。自分の恥についてさえ正直であったのなら、アッラーの使徒 ﷺ の言葉を伝える際のかれらの正直さを、わたしたちはなおさら確信できます。ハディース学者たちは、これを教友たちの**アダーラ**（公正さと誠実さ）の証の一つとしています。

わたしたちへの教訓：**過ちを認めることは弱さではない。**自分の過ちを認める勇気のある人こそ、最も自分を改めやすい人なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス：忠実ないとこ

アル＝バラーウとアル＝アッバースの二つのハディースの両方に、アッラーの使徒 ﷺ のそばにいた同じ名前が出てきます。**アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス・ブン・アブドゥルムッタリブ** رضي الله عنه です。多くの者が退く中で、使徒のラバの手綱と鐙を握っていた人です。

かれは誰だったのでしょうか。かれは**アッラーの使徒** ﷺ のいとこであり、乳兄弟でもありました。二十年もの間、使徒に敵対し、詩で使徒を嘲っていた人です。そのわずか数週間前、ニーク・アル＝ウカーブで、かれはユースフの兄弟たちの言葉を借りて赦しを請いに来たのでした（第 20 巻）。そして今、最も危うい瞬間に、かれは使徒のそばから**一歩も動かなかった**のです。

スィーラの注：アッラーの使徒 ﷺ

スィーラ学者たちは、アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスは過去をひどく恥じ、遠慮のあまり**一度も目を上げなかった**と伝えています — アッラーの使徒 ﷺ の顔に向かって。アッラーの使徒 ﷺ はかれをとても愛され、かれが楽園の民の一人であると言われたことがあると伝えられています。死が近づいたとき、かれは家族に言いました。「わたしのために泣くな。アッラーにかけて、わたしはイスラームに入って以来、罪を犯していない。」

これらの詳細は**スィーラ書と教友の伝記の伝承**です。一方、フナインでのかれの揺るぎなさは『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』で真正に伝えられています。

参照：
イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』— アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスの伝記。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：**過去が未来を決めるのではない。**最も長く敵対した人が、最も忠実な人の一人になりました。真の悔悟は人を内側から変えます。そして忠誠は、最も困難な瞬間に証明されるのです。

ウンム・スライムと短剣

フナインはまた、一人の女性の勇気を見届けました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、自分の母**ウンム・スライム** رضى الله عنها について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1809 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا يَزِيدُ بْنُ هَارُونَ، أَخْبَرَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ أُمَّ سُلَيْمٍ، اتَّخَذَتْ يَوْمَ حُنَيْنٍ خِنْجَرًا فَكَانَ مَعَهَا فَرَآهَا أَبُو طَلْحَةَ فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ هَذِهِ أُمُّ سُلَيْمٍ مَعَهَا خِنْجَرٌ فَقَالَ لَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «مَا هَذَا الْخِنْجَرُ». قَالَتِ اتَّخَذْتُهُ إِنْ دَنَا مِنِّي أَحَدٌ مِنَ الْمُشْرِكِينَ بَقَرْتُ بِهِ بَطْنَهُ. فَجَعَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَضْحَكُ قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ اقْتُلْ مَنْ بَعْدَنَا مِنَ الطُّلَقَاءِ انْهَزَمُوا بِكَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «يَا أُمَّ سُلَيْمٍ إِنَّ اللَّهَ قَدْ كَفَى وَأَحْسَنَ». وَحَدَّثَنِيهِ مُحَمَّدُ بْنُ حَاتِمٍ، حَدَّثَنَا بَهْزٌ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، أَخْبَرَنَا إِسْحَاقُ بْنُ، عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي طَلْحَةَ عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، فِي قِصَّةِ أُمِّ سُلَيْمٍ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مِثْلَ حَدِيثِ ثَابِتٍ.

訳：

アナス رضى الله عنه によると、**ウンム・スライムはフナインの日に短剣を手に取り**、いつも身に着けていた。アブー・タルハがそれを見て言った。「アッラーの使徒よ、ウンム・スライムが短剣を持っています。」アッラーの使徒 ﷺ はかの女に尋ねられた。「**この短剣は何のためか。**」かの女は答えた。「もし多神教徒の誰かがわたしに近づいたら、これでその腹を裂くために持っているのです。」**するとアッラーの使徒 ﷺ は笑われた。**かの女は言った。「アッラーの使徒よ、あなたを見捨てて逃げた、わたしたちの後の者たち — アッ＝トゥラカー（新たに解放されたマッカの人々） — を殺してください。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**ウンム・スライムよ、アッラーはすでに十分にしてくださり、良くしてくださった。**」（イマーム・ムスリムは、アナスからの別の伝承経路でも同じ意味で伝えている。）

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ヤズィード・ブン・ハールーン ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、「女性が男性と共に戦いに出ること」の章、ハディース第 1809 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1809a

このハディースの教訓

女性の教友たちも、**水を配り、負傷者を手当てし、軍を支える**ために戦いに加わりました。ウンム・スライムはさらに一歩進み、襲われたら**自分の身を守る**覚悟をしていました。フナインの混乱の中、多くの男たちが退いたとき、このような女性の勇気は手本となりました。

ウンム・スライムはイスラームの歴史における非凡な女性です。幼い息子**アナス**をアッラーの使徒 ﷺ に仕えさせたのはかの女であり、アブー・タルハと結婚したときの**マフル（婚資）**は、アブー・タルハ自身がイスラームに入ることでした。かの女の答えを聞いてアッラーの使徒 ﷺ が笑われたことは、かの女の気概に対する使徒の**評価と親しみ**を示しています。

また、逃げた者たちを罰してほしいとウンム・スライムが願ったときのアッラーの使徒 ﷺ の答えにも注目してください。「**アッラーはすでに十分にしてくださり、良くしてくださった。**」使徒は、恐慌のあまり退いた者たちを罰されませんでした。アッラーが勝利を与えられたからです。イスラームに入ったばかりの人々に対しては、罰よりも赦しと忍耐が優先されるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アブー・カターダと討ち取った敵の持ち物

フナインの日にはまた、アッラーの使徒 ﷺ が戦いにおける新しい規定を定められました。**アブー・カターダ・アル＝アンサーリー** رضى الله عنه — アッラーの使徒 ﷺ の名高い騎士 — が、自らの体験を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3142 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مَسْلَمَةَ، عَنْ مَالِكٍ، عَنْ يَحْيَى بْنِ سَعِيدٍ، عَنِ ابْنِ أَفْلَحَ، عَنْ أَبِي مُحَمَّدٍ، مَوْلَى أَبِي قَتَادَةَ عَنْ أَبِي قَتَادَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ خَرَجْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَامَ حُنَيْنٍ، فَلَمَّا الْتَقَيْنَا كَانَتْ لِلْمُسْلِمِينَ جَوْلَةٌ، فَرَأَيْتُ رَجُلاً مِنَ الْمُشْرِكِينَ عَلاَ رَجُلاً مِنَ الْمُسْلِمِينَ، فَاسْتَدَرْتُ حَتَّى أَتَيْتُهُ مِنْ وَرَائِهِ حَتَّى ضَرَبْتُهُ بِالسَّيْفِ عَلَى حَبْلِ عَاتِقِهِ، فَأَقْبَلَ عَلَىَّ فَضَمَّنِي ضَمَّةً وَجَدْتُ مِنْهَا رِيحَ الْمَوْتِ، ثُمَّ أَدْرَكَهُ الْمَوْتُ فَأَرْسَلَنِي، فَلَحِقْتُ عُمَرَ بْنَ الْخَطَّابِ فَقُلْتُ مَا بَالُ النَّاسِ قَالَ أَمْرُ اللَّهِ، ثُمَّ إِنَّ النَّاسَ رَجَعُوا، وَجَلَسَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ «مَنْ قَتَلَ قَتِيلاً لَهُ عَلَيْهِ بَيِّنَةٌ فَلَهُ سَلَبُهُ». فَقُمْتُ فَقُلْتُ مَنْ يَشْهَدُ لِي ثُمَّ جَلَسْتُ ثُمَّ قَالَ «مَنْ قَتَلَ قَتِيلاً لَهُ عَلَيْهِ بَيِّنَةٌ فَلَهُ سَلَبُهُ» فَقُمْتُ فَقُلْتُ مَنْ يَشْهَدُ لِي ثُمَّ جَلَسْتُ، ثُمَّ قَالَ الثَّالِثَةَ مِثْلَهُ فَقَالَ رَجُلٌ صَدَقَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، وَسَلَبُهُ عِنْدِي فَأَرْضِهِ عَنِّي. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ الصِّدِّيقُ ـ رضى الله عنه لاَهَا اللَّهِ إِذًا يَعْمِدُ إِلَى أَسَدٍ مِنْ أُسْدِ اللَّهِ يُقَاتِلُ عَنِ اللَّهِ وَرَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم يُعْطِيكَ سَلَبَهُ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «صَدَقَ». فَأَعْطَاهُ فَبِعْتُ الدِّرْعَ، فَابْتَعْتُ بِهِ مَخْرَفًا فِي بَنِي سَلِمَةَ، فَإِنَّهُ لأَوَّلُ مَالٍ تَأَثَّلْتُهُ فِي الإِسْلاَمِ.

訳：

アブー・カターダ رضى الله عنه は言った。わたしたちはフナインの年にアッラーの使徒 ﷺ と共に出陣した。（敵と）ぶつかると、ムスリムたちは**ぐるぐると乱れた（退いた）**。わたしは、一人の多神教徒の男がムスリムの男の上にのしかかっているのを見た。わたしは回り込んで後ろからかれに近づき、剣でその肩の筋を打った。かれはわたしに向き直り、死の匂いを感じるほどにわたしを締めつけたが、やがて死がかれを捕らえ、わた

しを放した。わたしはウマル・ブン・アル＝ハッターブに追いついて尋ねた。「人々はどうしたのか。」かれは答えた。**「アッラーの御業だ。」**やがて人々は戻ってきた。預言者 ﷺ は座って言われた。**「敵を討ち、その証拠がある者には、その敵の持ち物（サラブ）が与えられる。」**わたしは立ち上がって言った。「誰がわたしのために証言してくれるだろうか。」そして座った。使徒は再び同じことを言われ、わたしは立ち上がって言った。「誰がわたしのために証言してくれるだろうか。」そして座った。使徒は三度目に同じことを言われた。すると一人の男が言った。「アッラーの使徒よ、かれの言うことは本当です。その敵の持ち物はわたしのところにあります。わたしの代わりに（別のもので）かれを満足させてください。」アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه は言った。**「いや、アッラーにかけて！ アッラーとその使徒 ﷺ のために戦うアッラーの獅子の一頭から、使徒がわざわざその取り分を取り上げ、お前に与えられることなどない。」**預言者 ﷺ は言われた。**「かれの言うことは正しい。」**そして使徒はそれをわたしに与えられた。わたしはその鎧を売り、その代金でサリマ家の地に果樹園を買った。**それがイスラームにおいてわたしが初めて手にした財産であった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・マスラマ・アル＝カアナビー ← マーリク・ブン・アナス ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝アンサーリー ← ウマル・ブン・カスィール・ブン・アフラフ ← アブー・カターダの解放奴隷アブー・ムハンマド・ナーフィウ ← アブー・カターダ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、「討ち取った敵の持ち物から五分の一を取らなかった者」の章、ハディース第 3142 番；第 4321 番、ムスリム第 1751 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3142

このハディースの教訓

この話は**権利の分配における公正さ**を教えています。一人ひとりが証拠に基づいて権利を与えられるのです。それはまた、**他人の権利を守る**アブー・バクルの勇気と、教友の意見を受け入れるアッラーの使徒 ﷺ の開かれた心を示しています。アブー・

カターダはその後その財産を売って果樹園を買いました — イスラームにおいてかれが初めて持った**財産**でした。

女性と雇われ人は殺されない

戦いの怒りの中にあっても、アッラーの使徒 ﷺ は軍が限度を越えることを許されませんでした。**ラバーフ・ブン・アッ＝ラビーウ** رضي الله عنه は、ある戦いで人々が何かを見に集まっていたと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ が人を遣わして見させると、その者は戻って言いました。「女が一人殺されています。」使徒は言われました。「**この女は戦う者ではなかった。**」そして使徒は、前衛を率いていた**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**のもとに人を遣わされました。「**ハーリドに言え。女を殺すな、雇われ人（アスィーフ）を殺すな、と。**」（『スナン・アビー・ダーウード』2669、アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）

スィーラ学者たちは、この出来事がフナインの戦いで起こったと述べています。実際、その戦いでハーリド・ブン・アル＝ワリードは前衛を率いていました。このハディースは、第 20 巻で述べた原則を改めて確認しています。**戦わない一般の人々を殺してはならない** — 女性、子ども、家畜や荷物の番をするだけの雇われ人も含めてです。

アッラーの使徒 ﷺ の理由づけに注目してください。「**この女は戦う者ではなかった。**」イスラームにおける基準は、その人の宗教や民族ではなく、**その人がわたしたちと戦っているかどうか**なのです。この原則は、現代の国際人道法より千年以上も先んじていました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：48 / 634

アウタースとアブー・アーミルのための祈り

フナインで敗れた後、ハワーズィンの軍は三つに分かれました。一部は**ターイフ**へ、一部は**ナフラ**へ、一部は**アウタース**へ逃げました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらを追うために部隊を送られました。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は、アウタースへ送られた部隊に何が起こったかを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4323 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ بُرَيْدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، عَنْ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا فَرَغَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنْ حُنَيْنٍ بَعَثَ أَبَا عَامِرٍ عَلَى جَيْشٍ إِلَى أَوْطَاسٍ فَلَقِيَ دُرَيْدَ بْنَ الصِّمَّةِ، فَقُتِلَ دُرَيْدٌ وَهَزَمَ اللَّهُ أَصْحَابَهُ. قَالَ أَبُو مُوسَى وَبَعَثَنِي مَعَ أَبِي عَامِرٍ فَرُمِيَ أَبُو عَامِرٍ فِي رُكْبَتِهِ، رَمَاهُ جُشَمِيٌّ بِسَهْمٍ فَأَثْبَتَهُ فِي رُكْبَتِهِ، فَانْتَهَيْتُ إِلَيْهِ فَقُلْتُ يَا عَمِّ مَنْ رَمَاكَ فَأَشَارَ إِلَى أَبِي مُوسَى فَقَالَ ذَاكَ قَاتِلِي الَّذِي رَمَانِي. فَقَصَدْتُ لَهُ فَلَحِقْتُهُ فَلَمَّا رَآنِي وَلَّى فَاتَّبَعْتُهُ وَجَعَلْتُ أَقُولُ لَهُ أَلاَ تَسْتَحِي، أَلاَ تَثْبُتُ. فَكَفَّ فَاخْتَلَفْنَا ضَرْبَتَيْنِ بِالسَّيْفِ فَقَتَلْتُهُ ثُمَّ قُلْتُ لأَبِي عَامِرٍ قَتَلَ اللَّهُ صَاحِبَكَ. قَالَ فَانْزِعْ هَذَا السَّهْمَ فَنَزَعْتُهُ فَنَزَا مِنْهُ الْمَاءُ. قَالَ يَا ابْنَ أَخِي أَقْرِئِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم السَّلاَمَ، وَقُلْ لَهُ اسْتَغْفِرْ لِي. وَاسْتَخْلَفَنِي أَبُو عَامِرٍ عَلَى النَّاسِ، فَمَكَثَ يَسِيرًا ثُمَّ مَاتَ، فَرَجَعْتُ فَدَخَلْتُ عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِي بَيْتِهِ عَلَى سَرِيرٍ مُرْمَلٍ وَعَلَيْهِ فِرَاشٌ قَدْ أَثَّرَ رِمَالُ السَّرِيرِ بِظَهْرِهِ وَجَنْبَيْهِ، فَأَخْبَرْتُهُ بِخَبَرِنَا وَخَبَرِ أَبِي عَامِرٍ، وَقَالَ قُلْ لَهُ اسْتَغْفِرْ لِي، فَدَعَا بِمَاءٍ فَتَوَضَّأَ ثُمَّ رَفَعَ يَدَيْهِ فَقَالَ «اللَّهُمَّ اغْفِرْ لِعُبَيْدٍ أَبِي عَامِرٍ». وَرَأَيْتُ بَيَاضَ إِبْطَيْهِ ثُمَّ قَالَ «اللَّهُمَّ اجْعَلْهُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فَوْقَ كَثِيرٍ مِنْ خَلْقِكَ مِنَ النَّاسِ». فَقُلْتُ وَلِي فَاسْتَغْفِرْ. فَقَالَ «اللَّهُمَّ اغْفِرْ لِعَبْدِ اللَّهِ بْنِ قَيْسٍ ذَنْبَهُ وَأَدْخِلْهُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ مُدْخَلاً كَرِيمًا». قَالَ أَبُو بُرْدَةَ إِحْدَاهُمَا لأَبِي عَامِرٍ وَالأُخْرَى لأَبِي مُوسَى.

訳：

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ はフナインから戻られると、**アブー・アーミル**を部隊の長として**アウタース**へ遣わされた。かれはドゥライド・ブン・アッ＝スィンマとぶつかり、ドゥライドは殺され、アッラーはその仲間たちを打ち負かされた。アブー・ムーサーは言った。使徒はわたしをアブー・アーミルと共に遣わされた。アブー・アーミルは膝に矢を受けた。ジュシャム家の一人の男がかれを射て、矢がその膝に突き刺さったのである。わたしはかれのもとに駆けつけて尋ねた。「おじ上、誰があなたを射たのですか。」かれは（ある男を）指さして言った。「あれがわたしを射た、わたしを殺す者だ。」わたしはその男を追った。かれはわたしを見ると背を向けて逃げた。わたしは追いながら言った。「恥ずかしくないのか。踏みとどまらないのか。」するとかれは立ち止まり、わたしたちは剣で二度打ち合い、わたしはかれを討ち取った。わたしはアブー・アーミルに言った。「アッラーはあなたを射た者を討たれました。」かれは言った。「この矢を抜いてくれ。」わたしが抜くと、そこから水（血）が流れ出た。かれは言った。**「甥よ、預言者 ﷺ にわたしの挨拶を伝え、わたしのために赦しを請うてくださいと申し上げてくれ。」**アブー・アーミルはわたしを自分の代わりに部隊の長とした。かれはしばらく持ちこたえたが、やがて亡くなった。わたしは戻って、家におられる預言者 ﷺ のもとに入った。使徒は縄で編んだ寝台に横になっておられ、その上には敷物があったが、**寝台の編み目が使徒の背中と脇腹に跡を残していた。**わたしはわたしたちの知らせとアブー・アーミルの知らせ、そしてかれの言伝て「わたしのために赦しを請うてくださいと申し上げてくれ」を伝えた。使徒は水を求めて小浄（ウドゥー）をされ、それから両手を上げて祈られた。**「アッラーよ、ウバイド・アブー・アーミルを赦したまえ。」**わたしは使徒の脇の下の白さを見た。それから使徒は祈られた。**「アッラーよ、審判の日に、かれを人間の中のあなたの多くの創造物よりも上に置きたまえ。」**わたしは言った。「わたしのためにも赦しを請うてください。」使徒は祈られた。**「アッラーよ、アブドゥッラー・ブン・カイスの罪を赦し、審判の日に、かれを尊い場所に入らせたまえ。」**アブー・ブルダは言った。その祈りの一つはアブー・アーミルのため、もう一つはアブー・ムーサーのためであった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ・ハンマード・ブン・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー ← アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アウタースの遠征の章、ハディース第 4323 番；ムスリム第 2498 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4323

このハディースの教訓

このハディースには心を打つ光景がいくつもあります。第一に、**アブー・アーミルの最後の言伝て**です。かれは財産も賞賛も求めず、ただ**赦しの祈り**を、アッラーの使徒 ﷺ から求めたのです。第二に、**アッラーの使徒** ﷺ の暮らしの質素さです。アラブ全体の指導者が、背中に跡が残る縄編みの寝台で眠っておられたのです。

第三に、**アッラーの使徒** ﷺ **の祈り方**です。使徒はまず小浄をされ、それから脇の下の白さが見えるほど**両手を高く上げられ**ました — 祈りにおける真剣さの印です。そして第四に、**アブー・ムーサーの機転**です。かれは自分のためにも祈りを求める機会を逃しませんでした。わたしたちも、正しい人々に祈りを熱心に求め、亡くなった兄弟のために祈るべきです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマ：老いた勇士

アブー・ムーサーのハディースは、アウタースで「**ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマが殺された**」と短く述べています。かれは誰で、なぜその名が記憶されているのでしょうか。

スィーラの注：ジュシャム家の老いた勇士

ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマは、ジャーヒリーヤ時代の**名高いアラブの詩人であり勇士**で、ジュシャム家（ハワーズィン）の出身でした。フナインの戦いのとき、かれはすでにたいへんな高齢で — 一部の伝承では百歳を超えていたとされます — 目も見えませんでした。かれが輿に乗せられて戦場に連れて来られたのは、ひとえにその**経験と見識**のためでした。

ハワーズィンが敗れた後、**ラビーア・ブン・ルファイウ**というムスリムの若者がかれを見つけて討ち取りました。ドゥライドはかれにこう言ったと伝えられています。「母のもとへ帰り、ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマを討ったと告げよ。」ラビーアがそれを母に話すと、母は言いました。「アッラーにかけて、あの人はあなたの祖母たち三人を捕虜の身から解き放ってくれた人なのですよ。」

この話は**スィーラ書の伝承**です。アウタースでドゥライドが殺されたことは『サヒーフ・ブハーリー』4323 で真正に伝えられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマの話。

ドゥライドの話には二つの相反する教訓があります。第一に、**信仰のない知恵は人を救わない**。ドゥライドはマーリクの過ちをはっきりと見抜いていましたが、百年以上生きた後、自らは不信仰のまま死にました。長い寿命も広い経験も、アッラーへと導かなければ役に立たないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第二に、**善い行いは、敵のものであっても記憶される**。ラビーアの母は、自分の部族の女性たちを解き放ってくれたドゥライドの恩を認めました。イスラームは、人を評価するときに公正であること、敵の善い行いを認めることをも教えています。アッラーは仰せられます。「ある民への憎しみのために、あなたがたが公正を欠くことがあってはならない」（食卓章 5:8）。

十年前のターイフ

ハワーズィンの残兵はマーリク・ブン・アウフと共に、城壁の町**ターイフ**に立てこもりました。アッラーの使徒 ﷺ はそこへ進軍されました。使徒にとってターイフは見知らぬ町ではありません。そこには、生涯で最もつらい思い出の一つがあったのです。

アーイシャ رضى الله عنها はかつて、アッラーの使徒 ﷺ に、生涯で最もつらかった日について尋ねたことがあります。その答えは、わたしたちをターイフへと連れ戻します。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3231 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا ابْنُ وَهْبٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي يُونُسُ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ حَدَّثَنِي عُرْوَةُ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَتْهُ أَنَّهَا قَالَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم هَلْ أَتَى عَلَيْكَ يَوْمٌ كَانَ أَشَدَّ مِنْ يَوْمِ أُحُدٍ قَالَ «لَقَدْ لَقِيتُ مِنْ قَوْمِكِ مَا لَقِيتُ، وَكَانَ أَشَدُّ مَا لَقِيتُ مِنْهُمْ يَوْمَ الْعَقَبَةِ، إِذْ عَرَضْتُ نَفْسِي عَلَى ابْنِ عَبْدِ يَالِيلَ بْنِ عَبْدِ كُلاَلٍ، فَلَمْ يُجِبْنِي إِلَى مَا أَرَدْتُ، فَانْطَلَقْتُ وَأَنَا مَهْمُومٌ عَلَى وَجْهِي، فَلَمْ أَسْتَفِقْ إِلاَّ وَأَنَا بِقَرْنِ الثَّعَالِبِ، فَرَفَعْتُ رَأْسِي، فَإِذَا أَنَا بِسَحَابَةٍ قَدْ أَظَلَّتْنِي، فَنَظَرْتُ فَإِذَا فِيهَا جِبْرِيلُ فَنَادَانِي فَقَالَ إِنَّ اللَّهَ قَدْ سَمِعَ قَوْلَ قَوْمِكَ لَكَ وَمَا رَدُّوا عَلَيْكَ، وَقَدْ بَعَثَ إِلَيْكَ مَلَكَ الْجِبَالِ لِتَأْمُرَهُ بِمَا شِئْتَ فِيهِمْ، فَنَادَانِي مَلَكُ الْجِبَالِ، فَسَلَّمَ عَلَىَّ ثُمَّ قَالَ يَا مُحَمَّدُ، فَقَالَ ذَلِكَ فِيمَا شِئْتَ، إِنْ شِئْتَ أَنْ أُطْبِقَ عَلَيْهِمُ الأَخْشَبَيْنِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَلْ أَرْجُو أَنْ يُخْرِجَ اللَّهُ مِنْ أَصْلاَبِهِمْ مَنْ يَعْبُدُ اللَّهَ وَحْدَهُ لاَ يُشْرِكُ بِهِ شَيْئًا».

訳：

アーイシャ رضى الله عنها — 預言者 ﷺ の妻 — によると、かの女は預言者 ﷺ に尋ねた。「ウフドの日よりもつらい日を経験されたことがありますか。」使徒は言われた。「**わたしはあなたの民から、受けるべきものを受けてきた。かれらから受けた中で最もつらかっ**

たのは、アカバの日である。わたしはイブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラールに自分を差し出したが、かれはわたしの望むことに応えなかった。わたしはひどく悲しみ、あてもなく歩き、気がつくとカルン・アッ＝サアーリブにいた。頭を上げると、一片の雲がわたしを覆っていた。見ると、その中にジブリールがいた。かれはわたしに呼びかけて言った。『アッラーは、あなたの民があなたに言ったこと、あなたに返したことを聞かれました。そしてあなたのもとに山の天使を遣わされました。かれらについて、望むことを何でもかれに命じなさい。』すると山の天使がわたしに呼びかけ、挨拶をして言った。『ムハンマドよ、それはあなた次第です。お望みなら、二つの山（アル＝アフシャバーン）をかれらの上に覆いかぶせましょう。』」預言者 ﷺ は言われた。「いや、わたしは、アッラーがかれらの子孫から、唯一のアッラーを崇め、何ものもアッラーに並べない者を生み出してくださることを望む。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← ユーヌス・ブン・ヤズィード・アル＝アイリー ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』創造の始まりの書、「あなたがたの一人が『アーミーン』と言うとき」の章、ハディース第 3231 番；第 7389 番、ムスリム第 1795 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3231

このハディースの教訓

その出来事は**およそ十年前**、悲しみの年（第 5 巻）のことでした。そして今、使徒は追い払われた伝道者としてではなく、大軍の指導者としてターイフに戻ってこられたのです。使徒は復讐されるのでしょうか。続く章がその答えを示します — そしてその答えは十年前と同じです。**復讐ではなく、希望**です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ターイフ包囲

ターイフは**堅固な城壁と砦**に囲まれた町で、長期間に備えた食糧の蓄えがありました。その住民サキーフは、腕の立つ射手として知られていました。ムスリムは町を包囲し、スィーラ書によれば、イスラームの歴史で初めて**マンジャニーク（大型の投石機）**と**ダッバーバ（木製の装甲車）**を用いました。しかしターイフの砦は破れず、多くの教友が城壁の上から矢を受けて負傷しました。

包囲の期間については異なる伝えがあります。スィーラ書はおよそ二十日としていますが、『サヒーフ・ムスリム』の一伝承では、アナス رضى الله عنه が四十夜と述べています（『サヒーフ・ムスリム』1059）。ついにアッラーの使徒 ﷺ は一つの決断を下されました。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما が語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4325 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرٍو، عَنْ أَبِي الْعَبَّاسِ الشَّاعِرِ الأَعْمَى، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ، قَالَ لَمَّا حَاصَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الطَّائِفَ فَلَمْ يَنَلْ مِنْهُمْ شَيْئًا قَالَ «إِنَّا قَافِلُونَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ». فَثَقُلَ عَلَيْهِمْ وَقَالُوا نَذْهَبُ وَلاَ نَفْتَحُهُ ـ وَقَالَ مَرَّةً نَقْفُلُ ـ فَقَالَ «اغْدُوا عَلَى الْقِتَالِ». فَغَدَوْا فَأَصَابَهُمْ جِرَاحٌ فَقَالَ «إِنَّا قَافِلُونَ غَدًا إِنْ شَاءَ اللَّهُ». فَأَعْجَبَهُمْ فَضَحِكَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، وَقَالَ سُفْيَانُ مَرَّةً فَتَبَسَّمَ. قَالَ قَالَ الْحُمَيْدِيُّ حَدَّثَنَا سُفْيَانُ الْخَبَرَ كُلَّهُ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ はターイフを包囲されたが、かれらを屈服させることができなかったので、言われた。「**われわれは帰ろう、インシャーアッラー（アッラーが望まれるなら）。**」それは教友たちには重く感じられ、かれらは言った。「開かずに去るのですか。」使徒は言われた。「**では、明朝戦いに出よ。**」かれらは朝に戦い、多くの者が負傷した。使徒は言われた。「**われわ**

れは明日帰ろう、インシャーアッラー。」今度はかれらは喜んだ。**すると預言者 ﷺ は笑われた**（スフヤーンの別の伝承では「微笑まれた」）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← 盲目の詩人アブー・アル＝アッバース ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ターイフの遠征の章、ハディース第 4325 番；第 6086 番、第 7480 番、ムスリム第 1778 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4325

このハディースの教訓

ターイフから**引き揚げる**という決断は敗北ではなく、**知恵**でした。アッラーの使徒 ﷺ は、包囲を続けても成果なく犠牲が増えるだけであり、ターイフはその時が来れば自らイスラームにやって来ると見ておられたのです。そして実際にそうなりました。一年後、サキーフはマディーナに使節団を送り、イスラームに入ったのです（第 26 巻）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

指導者の微笑み

ターイフ包囲についてのイブン・ウマルのハディースには、指導者としての繊細な教訓が秘められています。アッラーの使徒 ﷺ が初めて帰ることを提案されたとき、教友たちは**気が重かった**のです — 戦い続けてターイフを開きたかったからです。アッラーの使徒 ﷺ はかれらに無理強いされませんでした。使徒は言われました。「では、明朝戦いに出よ。」

かれらは戦い、**多くの者が負傷しました。**その困難を自ら味わった後、使徒が再び「われわれは明日帰ろう、インシャーアッラー」と言われると、かれらは喜んでそれを受け入れました。**するとアッラーの使徒 ﷺ は笑われた。**使徒はかれらの心の変化 — 同じ決断に対する、気の進まなさから喜びへの変化 — をご覧になって笑われたのです。

すべての指導者、親、教師への教訓：ときには**人は自ら味わう必要がある**のです。そうして初めて、ある決断を受け入れることができます。アッラーの使徒 ﷺ は、叱ったり見下したりすることなく、教友たちに試す余地を与えられました。そして使徒はその状況に、失望ではなく**微笑み**で向き合われたのです。

使徒の言葉「**インシャーアッラー**」にも注目してください。決断を下す指導者でありながら、使徒は常に計画をアッラーの御心に委ねておられました。これは、アッラーが洞窟章 18:23〜24 で教えておられる作法です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砦から降りてきた者たち

包囲の間、アッラーの使徒 ﷺ は布告されました。ターイフの町の中の**奴隷たち**のうち、ムスリムのもとに降りてきた者は**自由の身**になる、と。何人かの奴隷がその呼びかけに応え、砦から降りてきました。

その一人が**ヌファイウ・ブン・アル＝ハーリス**でした。かれは**滑車（バクラ）**を使ってターイフの砦から降りてきたので、**アブー・バクラ**というあだ名で知られるようになりました。『サヒーフ・ブハーリー』は、かれを「ターイフの砦を（降りて）越えてきた者」として、預言者 ﷺ のもとに来たと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4326）。かれはその後、多くのハディースを伝える教友となりました。

スィーラの注：奴隷たちの解放

スィーラ学者たちは、およそ**二十三人の奴隷**がターイフから降りてきたと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はかれら全員を解放し、一人ひとりを教友の一人に託して、生活を支え、宗教を教えさせました。後にサキーフがイスラームに入ると、かれらはその奴隷たちを返すよう求めましたが、アッラーの使徒 ﷺ は拒まれました。「**かれらはアッラーが解放された者たちである。**」

この人数と詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』— アブー・バクラ・ヌファイウ・ブン・アル＝ハーリスの伝記。

この出来事は、イスラームが戦いのただ中にあっても**自由への扉を開く**ことを示しています。滑車で砦から降りてきた一人の奴隷が、アッラーの使徒 ﷺ の教友となり、ハディースの伝承者となり、その名を歴史に残しました。イスラームは人を社会的身分ではなく、信仰によって評価するのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーよ、サキーフを導きたまえ」

多くの教友が、ターイフの城壁の上からサキーフに矢を射られて負傷しました。一部の者はアッラーの使徒 ﷺ に、サキーフに災いが下るよう祈ってほしいと求めました。使徒の答えはどうだったでしょうか。

スィーラの注：「アッラーよ、サキーフを導きたまえ」

ジャービル رضي الله عنه は、教友たちがこう言ったと伝えています。「アッラーの使徒よ、サキーフの矢がわたしたちを焼きました（傷つけました）。かれらに災いが下るよう祈ってください。」使徒は祈られました。「**アッラーよ、サキーフを導きたまえ。**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3942）

イマーム・ティルミズィーはこれを**ハサン・サヒーフ・ガリーブ**と評価していますが、シャイフ・アル＝アルバーニーを含む一部の学者は、アブー・アッ＝ズバイルが「〜から（アンアナ）」の形で伝えているため、その伝承経路を**弱い**と評価しています。そのため、この注に収めています。しかしその意味は、ターイフについての真正なハディース（『サヒーフ・ブハーリー』3231）や、ダウス族のための使徒の祈り「アッラーよ、ダウスを導きたまえ」（『サヒーフ・ブハーリー』2937）と一致しています。

参照：

アル＝アルバーニー『ダイーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー』。

この文言であるかどうかにかかわらず、ターイフに対する**姿勢**、すなわちアッラーの使徒 ﷺ の姿勢は、真正なハディースの中ではっきりしています。使徒はかれらの滅びを祈られたことは一度もなく、かえってかれらとその子孫のために**導きを願われた**のです。そしてその祈りは聞き届けられました。サキーフはまもなくイスラームに入り、アッラーの使徒 ﷺ の逝去後に多くのアラブ部族が背教したときも、**サキーフはイスラームにしっかりと踏みとどまった**のです。

教訓：傷つけられたときは、**滅びではなく導きを祈りなさい**。今日わたしたちを傷つける人が、明日には信仰の兄弟になるかもしれないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

捕虜と戦利品

家族と財産を戦場に連れて来たマーリク・ブン・アウフの決断は、ハワーズィンにとって災いに終わりました。かれらの**女性、子ども、家畜**はすべてムスリムの手に落ちたのです。アナス رضي الله عنه は、ハワーズィンが子ども、女性、ラクダ、羊を連れてやって来て、数の多さを見せるために列に並べたと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』1059）。

スィーラの注：捕虜と財産の数

スィーラ書は、捕虜はおよそ**六千人**、ラクダは**二万四千頭**、羊は**四万頭**以上、銀は**四千ウーキーヤ**であったと述べています。それらはすべて、マッカとターイフの間にある**アル＝ジゥラーナ**に集められ、守られました。

これらの数は**スィーラ書の伝承**（アル＝ワーキディーやイブン・サアドなど）で、おおよその見積もりかもしれません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・サアド『大分類（タバカート）』。

これほど多くの財産を、アッラーの使徒 ﷺ はどうされたのでしょうか。使徒は数日間**その分配を延ばされました**。ハワーズィンが悔いて来れば、かれらの家族を返すことができるよう望まれたのです。アル＝ジゥラーナでの財産の分配の話 — クライシュの有力者たちへの贈与、一部のアンサールの落胆、そしてかれらを泣かせたアッラーの使徒 ﷺ の説教 — は、**第 23 巻**で語られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

わが子を探す母

何千人ものハワーズィンの捕虜のただ中で、アッラーの使徒 ﷺ が**アッラーの慈悲**についての大きな教訓とされた、小さな光景がありました。ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه は、捕虜たちが預言者 ﷺ のもとに連れて来られたと語っています。すると捕虜の中の一人の女が、乳の張った胸で**あちこちを探し回って**いました。捕虜の中に赤ん坊を見つけるたびに、かの女はその子を抱き上げ、自分の腹に抱き寄せて乳を飲ませたのです。

預言者 ﷺ は教友たちに尋ねられました。「**この女が、自分の子を火の中に投げ込むと思うか。**」かれらは答えました。「いいえ、アッラーにかけて、投げ込まずにいられる限りは。」使徒は言われました。「**まことにアッラーは、この女が自分の子を慈しむ以上に、そのしもべたちを慈しまれる。**」（『サヒーフ・ブハーリー』5999）

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、このハディースの捕虜はフナインの後の**ハワーズィンの捕虜**であったと述べています。その情景を想像してみてください。激しい戦いの後、悲しみと喪失のただ中で、アッラーの使徒 ﷺ は**わが子を探す一人の母に目を留められ**、それを、限りないアッラーの慈しみを教友たちに知らせる道とされたのです。

教訓：**アッラーの慈悲は母の愛よりも広い**。わが子を失った母は、見つけたどの赤ん坊にも乳を飲ませようとします。ならば、ご自身のもとに立ち返るしもべに対して、アッラーはどれほど慈しみ深いでしょうか。どれほど道を外れても、アッラーの慈悲に絶望してはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

戦利品における誠実さ

フナインの戦利品は非常に多く、当時ムスリムが得た中で最も多かったかもしれません。多くの財産は大きな試練をもたらします。**分配の前に何かを取りたくなる誘惑**です。イスラームではこれを**グルール**（戦利品の横領）と呼びます。

アッラーの使徒 ﷺ はグルールについてきわめて厳しく警告されました。アブー・フライラ رضي الله عنه によると、使徒は立って説教をされ、グルールについて述べてそれを重大なこととされました。そして、審判の日に、横領したラクダや馬や羊を**首に担いで**やって来て、「アッラーの使徒よ、助けてください」と言う者を見たくない、と言われました。使徒はこう答えることになるのです。**「わたしはあなたのために何もできない。わたしはすでにあなたに伝えたのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3073）

スィーラの注：ラクダの一本の毛

アムル・ブン・シュアイブはその父から、その祖父から、フナインの後、アッラーの使徒 ﷺ がラクダのこぶから**一本の毛**を取り、こう言われたと伝えています。**「人々よ、あなたがたのこの戦利品から、わたしには — この毛ほどのものでさえ — 五分の一以外の取り分はない。そしてその五分の一もあなたがたに返されるのだ。だから糸も針も返しなさい。」**（『スナン・アビー・ダーウード』2694）

このハディースはアル＝アルバーニーによって**ハサン（良好）**と評価されています。そのため、この注に収めています。

参照：

アル＝アルバーニー『サヒーフ・スナン・アビー・ダーウード』。

アッラーの使徒 ﷺ の誠実さをご覧ください。何千頭ものラクダと羊を治める指導者が、アッラーの定めた取り分以外は、一本の毛にさえ自分には権利がないと宣言されたのです — しかもその取り分さえ共同体のために使われました。人々の財産を預

かる者は誰でも — 会社でも、モスクでも、団体でも、政府でも — フナインのラクダの一本の毛を思い起こすべきです。

アッ＝シャイマー：乳姉妹

ハワーズィンの捕虜の中に、驚くべきことを申し出た一人の年老いた女性がいました。自分は**乳姉妹**である — アッラーの使徒 ﷺ の — というのです。

スィーラの注：広げられた肩掛け

スィーラ学者たちは、ハリーマ・アッ＝サアディーヤの娘**アッ＝シャイマー・ビント・アル＝ハーリス**が捕虜として連れて来られ、手荒く扱われたと伝えています。かの女は言いました。「わたしはあなたがたの主人の乳姉妹です。」アッラーの使徒 ﷺ のもとに連れて来られると、かの女は背中の**噛み跡**を見せました — 幼い使徒を抱いていたときに噛まれた跡でした。

アッラーの使徒 ﷺ はかの女に気づかれ、**ご自分の肩掛け（リダー）を広げ**、その上にかの女を座らせられました。そして選ばせられました。敬意をもって使徒のもとにとどまるか、贈り物を持って自分の民のもとに帰るか。かの女は帰ることを選び、使徒はかの女にたくさんの贈り物を与えられました。

この話は**スィーラ書の伝承**（イブン・イスハークやアル＝バイハキーなど）で、その伝承経路には**議論があります**。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインとターイフの遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

この話の伝承経路には議論がありますが、それはアッラーの使徒 ﷺ の真正な人柄と一致しています。使徒は**乳による家族をたいへん大切にされた**のです。真正なハディースは、乳による関係は血縁による関係が禁じるものを禁じると述べています（『サヒーフ・ブハーリー』2645） — つまりそれは、イスラームにおいてきわめて近い絆なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：**かつて自分に良くしてくれた人の恩を忘れない。**たとえ幼い頃のことであっても、たとえ遠い昔のことであっても。アッラーの使徒 ﷺ は、アラブの最高指導者となられてからも、貧しいベドウィンの村から来た乳姉妹のためにご自分の布を広げられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：66 / 634

バドルとフナイン

クルアーンは、バドルと同じように、フナインの名を挙げて述べています。この二つの戦いを比べると、**勝利の源**についてきわめてはっきりとした教訓が得られます。

バドル（ヒジュラ暦 2 年）	フナイン（ヒジュラ暦 8 年）
313 人、何もかも不足	12,000 人、武装を整えていた
自らの弱さを感じ、アッラーに頼った	自分たちの数に驚嘆した
初めから勝利	初めは敗走、後に勝利
使徒は懸命に祈られた	使徒はラバの上に揺るぎなく立たれた
ひと握りの砂を投げられた（戦利品章 8:17）	ひと握りの土を投げられた（ムスリム 1777）
天使が助けに下った（戦利品章 8:9）	目に見えない軍勢（悔悟章 9:26）
ラマダーン月 17 日	シャウワール月、マッカ征服の後

二つの戦いは、同じ一つの真理を二つの方向から教えています。**アッラーに頼るなら、少ない数は勝利の妨げにならない**。そして、**自分自身に頼るなら、多い数も勝利を保証しない**。バドルでムスリムは弱さの中でのタワックル（委託）を学び、フナインでは強さの中での謙虚さを学んだのです。

わたしたちの人生にも「バドル」のとき — 弱く、ただアッラーにだけ頼るとき — と、「フナイン」のとき — 強く、アッラーを忘れやすいとき — があります。二つ目の試練のほうが、多くの場合より危険なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語の典拠

フナインとターイフの物語は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書を通じて伝えられています。次の表は、確かなことと伝えられていることを区別しています。

出来事	典拠と等級
数への驚嘆；サキーナ（静穏）	悔悟章 9:25〜26
ザート・アンワート	『ジャーミウ・ティルミズィー』2180（サヒーフ）
「わたしは預言者、偽りではない」	『サヒーフ・ブハーリー』2864
アル＝アッバースの呼びかけ；小石を投げる	『サヒーフ・ムスリム』1775、1777
アウタースとアブー・アーミルのための祈り	『サヒーフ・ブハーリー』4323
ターイフ包囲	『サヒーフ・ブハーリー』4325；ムスリム 1059
ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマの忠告	スィーラ書
「アッラーよ、サキーフを導きたまえ」	ティルミズィー 3942；伝承経路に議論あり
捕虜と財産の数	スィーラ書
アッ＝シャイマーの話	スィーラ書；伝承経路は議論あり

物語の主な骨格 — 数への驚嘆、待ち伏せ、アッラーの使徒 ﷺ の揺るぎなさ、アル＝アッバースの呼びかけ、アッラーの助けによる勝利、そしてターイフ包囲 — は、**クルアーンと真正なハディースによって確立しています。**その他の詳細は、スィーラの伝承として正直にお伝えしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：68 / 634

フナインとターイフの戦場にいた部族

第 1 章と第 2 章では、ハワーズィンとサキーフを簡単に紹介しました。では、マーリク・ブン・アウフの旗のもとに集まった部族とは、実際にはどのような人々だったのでしょうか。この章では、その支族を一つの表にまとめます。これらの詳細のほとんどはスィーラ書（イブン・ヒシャームを通じたイブン・イスハーク、およびアル＝ワーキディー）から来ています。真正なハディースで確立していることには、その典拠を記しています。

部族／支族	立場	指導者または人物	典拠
ハワーズィン（全体）	カイス・アイラーン系の大きなベドウィン部族の連合。マッカの東からナジュドにかけての地域	マーリク・ブン・アウフ・アン＝ナスリー、連合全体の総大将	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』4323 がハワーズィンに言及
ナスル・ブン・ムアーウィヤ家（ハワーズィン）	参戦	マーリク・ブン・アウフ自身の部族	スィーラ書
ジュシャム・ブン・ムアーウィヤ家（ハワーズィン）	参戦	ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマ、老いた軍師（第 19 章）	スィーラ書；ドゥライドの死：『サヒーフ・ブハーリー』4323
サアド・ブン・バクル家（ハワーズィン）	参戦	ハリーマ・アッ＝サアディーヤとアッ＝シャイマーの部族（第 28 章）	スィーラ書
ヒラール・ブン・アーミル家（ハワーズィン）	ごく一部のみ参戦	信者たちの母マイムーナ・ビント・アル＝ハーリスの部族	スィーラ書（イブン・イスハーク）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族／支族	立場	指導者または人物	典拠
カアブ家とキラーブ家（ハワーズィン）	不参加	—	スィーラ書；ドゥライドはかれらの不在を悪い兆しと見た
サキーフ — アル＝アハラーフ	参戦、その後ターイフに立てこもる	カーリブ・ブン・アル＝アスワド・ブン・マスウード	スィーラ書（イブン・イスハーク）
サキーフ — マーリク家	参戦、その後ターイフに立てこもる	ズー・アル＝ヒマール・スバイウ・ブン・アル＝ハーリスとその兄弟アル＝アフマル	スィーラ書（イブン・イスハーク）

スィーラの注：つながりのある部族 — アッラーの使徒 ﷺ

二つの家族の絆が、アッラーの使徒 ﷺ をハワーズィンと結びつけていました。第一は乳の絆です。使徒はサアド・ブン・バクル家のハリーマ・ビント・アビー・ズアイブの乳で育てられ、アッ＝シャイマーは使徒の乳姉妹でした。第二は婚姻の絆です。信者たちの母マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها は、やはりハワーズィンの支族であるヒラール・ブン・アーミル家の出身でした（第 18 巻）。

後にハワーズィンの使節団が悔いて来て、捕虜を返してほしいと願ったとき、かれらが根拠としたのはこの乳の絆でした（第 23 巻）。

この表は、フナインが一つの部族との戦いではなく、大きな連合との戦いであったことを示しています。また、ハワーズィンのすべての支族がマーリク・ブン・アウフの決断に賛成したわけではないことも示しています — カアブ家とキラーブ家は参戦しないことを選びました。一方サキーフはフナインで戦い、その後ターイフの城壁の町へ退きました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：70 / 634

教訓

今日の敵は明日の兄弟かもしれません。フナインで使徒と戦ったサアド家は使徒の乳の家族であり、まもなくハワーズィンとサキーフの全体がイスラームに入りました。アッラーの使徒 ﷺ は人々を永遠の憎しみの目で見られませんでした。使徒はかれらを、やがて信仰の兄弟となる人々として見ておられたのです。

フナインとターイフの戦いの人物

次の表は、この巻で述べた主な人物を、アッラーの使徒 ﷺ や他の人物との家族関係、その役割、情報の典拠とともにまとめたものです。

名前	部族／関係	役割	典拠
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	クライシュ（ハーシム家）；父方のおじ — アッラーの使徒 ﷺ	大きな声でサムラの木の仲間たちを呼んだ	『サヒーフ・ムスリム』1775
アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス	クライシュ（ハーシム家）；いとこであり乳兄弟 — アッラーの使徒 ﷺ	使徒のラバの手綱を握った	『サヒーフ・ムスリム』1775
アイマン・ブン・ウバイド	ウンム・アイマンの息子；ウサーマ・ブン・ザイドの異父兄弟	殉教 — 守った方：アッラーの使徒 ﷺ	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アブー・アーミル・アル＝アシュアリー	アシュアル族（イエメン）；アブー・ムーサーのおじ	アウタースへの部隊を率いた；殉教	『サヒーフ・ブハーリー』4323
アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー	アシュアル族；アブー・アーミルの甥	アウタースで旗を引き継いだ；アブー・アーミルの言伝てを届けた	『サヒーフ・ブハーリー』4323
アブー・カターダ・アル＝アンサーリー	アンサール — ハズラジュ（サリマ家）	多神教徒を討ち取り、その持ち物（サラブ）を与えられた	『サヒーフ・ブハーリー』3142
ウンム・スライム・ビント・ミルハーン	アンサール — ハズラジュ（ナッジャール家）；アブー・タルハの妻、アナスの母	戦場で短剣を携えた	『サヒーフ・ムスリム』1809

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

名前	部族／関係	役割	典拠
サラマ・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	自分も退いたことを認めた	『サヒーフ・ムスリム』1777
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	クライシュ（マフズーム家）	前衛を率いた；女性が殺されたことで戒められた	『スナン・アビー・ダーウード』2669
アブー・バクラ（ヌファイウ・ブン・アル＝ハーリス）	サキーフ；解放された奴隷	滑車でターイフの砦から降り、イスラームに入った	『サヒーフ・ブハーリー』4326
マーリク・ブン・アウフ・アン＝ナスリー	ハワーズィン（ナスル家）	ハワーズィンの総大将；ターイフに立てこもる；後にイスラームに入る（第 23 巻）	スィーラ書
ドゥライド・ブン・アッ＝スィンマ	ハワーズィン（ジュシャム家）	老いた軍師；アウタースで殺された	『サヒーフ・ブハーリー』4323；スィーラ書
アッ＝シャイマー・ビント・アル＝ハーリス	ハワーズィン（サアド家）；乳姉妹 — アッラーの使徒 ﷺ	使徒が敬意をもって遇された捕虜	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：フナインとターイフの殉教者たち

イブン・イスハークは、フナインとアウタースでの殉教者として四人を挙げています。アイマン・ブン・ウバイド、ヤズィード・ブン・ザムア・ブン・アル＝アスワド、アンサールのスラーカ・ブン・アル＝ハーリス、そしてアブー・アーミル・アル＝アシュアリーです。ターイフでは十二人の殉教者を挙げており、その多くはクライシュとアンサールでした。

これらの数はスィーラ書の伝承です。『サヒーフ・ブハーリー』で確立しているのは、アウタースでのアブー・アーミルの殉教（4323）と、ターイフで多くの教友が負傷したこと（4325）です。

この表の並びに注目してください。おじ、いとこ、使徒の乳母の息子、イエメンから来た教友、アンサール、マッカのかつての敵、そしてターイフの一人の奴隷。部族も肌の色も出自も異なりますが、かれらは一つの旗のもとに立っていたのです。

教訓

危機の瞬間に、アッラーの使徒 ﷺ のそばに揺るぎなく立っていたのは、最も近い家族と、最も長く使徒と共にいた教友たちでした。何年もかけて築かれた信仰は、来たばかりの熱意よりも堅いのです。それでも扉は常に開かれています。敵の砦から降りてきたアブー・バクラは、ハディースを伝える教友となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

出来事の場所：昔と今

この巻の出来事は、マッカの東と南東、ターイフの山地へ向かう道の上で起こりました。次の表は、述べられた場所を挙げています。いくつかの古い場所の位置は確かではなく、そのことを正直に記しています。

場所	出来事	現在の様子	備考
フナインの谷	ハワーズィンの待ち伏せとムスリムの勝利（第 6〜11 章）	マッカの東、マッカとターイフの間の道にある谷	戦場の正確な地点は確かではない
アウタース	アブー・アーミルの部隊；ドゥライドが殺された（第 18〜19 章）	ハワーズィンの地域にある谷	正確な位置には異説がある
ナフラ	ハワーズィンの軍の一部がここへ逃げた	マッカとターイフの間の谷	ジンの一団がクルアーンを聞いた場所でもある（第 5 巻）
ターイフ	包囲（第 20〜24 章）	ヒジャーズの山地にある町。標高約 1,879 メートル。マッカ〜ターイフ間 87 キロの山道は 1965 年に建設された	Wikipedia「Taif」
アブドゥッラー・ブン・アッバース・モスク（ターイフ）	イブン・アッバース رضي الله عنهما はターイフで亡くなり、埋葬された（ヒジュラ暦 68 年／西暦 687 年）	ターイフ中心部の大モスク；現在の建物は 1958 年のもの	Wikipedia；包囲中に預言者 ﷺ が礼拝された場所との関連は歴史的伝承
アル＝ジゥラーナ	捕虜と戦利品が集められた；ウムラ — 預言者 ﷺ	今日、マッカの住民にとってのウムラのミーカート（イフラームを着ける場所）	第 23 巻で語られる

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

今日のターイフは、涼しい空気、バラ園、果物で知られています。かつてアッラーの使徒 ﷺ を拒んで石を投げ、後には使徒の包囲に耐えた町が、今ではこのウンマの最も偉大な学者の一人 — 使徒のいとこ、アブドゥッラー・ブン・アッバース — の墓を守るイスラームの町となっているのです。

教訓

場所は思い出を留めますが、残るのは信仰です。悲しみの年には冷たく、包囲の年には堅固だったターイフは、ついには知識を生み、守る地となりました。サキーフの導きを願ったアッラーの使徒 ﷺ の祈りは、むだではなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フナインとターイフからの法規定

フナインとターイフの出来事は、戦いに関する多くの法学上の規定の源となりました。その一部はすでに前の章で説明しました。次の表はそれをまとめ、その後にまだ述べていない一つの規定を取り上げます。

規定	根拠	章
返却を保証すれば、非ムスリムから武器を借りてよい	『スナン・アビー・ダーウード』3562	3
善意からであっても、多神崇拝の行いをまねることは禁じられる	『ジャーミウ・ティルミズィー』2180	4
討ち取った敵の持ち物（サラブ）は、討ち取った者に与えられる	『サヒーフ・ブハーリー』3142	16
女性、子ども、雇われ人を殺してはならない	『スナン・アビー・ダーウード』2669	17
降伏して出てきた敵側の奴隷は自由の身となる	『サヒーフ・ブハーリー』4326	23
利益（マスラハ）が求めるなら、指導者は包囲を解いてよい	『サヒーフ・ブハーリー』4325	21〜22
分配の前に戦利品を取ること（グルール）は禁じられる	『サヒーフ・ブハーリー』3073；『スナン・アビー・ダーウード』2694	27
女性の捕虜には、イスティブラー（妊娠していないことの確認）の前に近づいてはならない	『スナン・アビー・ダーウード』2157；『サヒーフ・ムスリム』1456	34

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：アウタースの捕虜

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه は、フナインの戦いの際、アッラーの使徒 ﷺ が一隊をアウタースに遣わされたと伝えています。かれらは、多神教徒の中にまだ夫のいる女性たちを捕虜にしたため、一部の教友たちはためらいました。そこでアッラーは、かの女たちについての規定として女性章 4:24 の節を下されました。

アブー・サイードの別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ はアウタースの捕虜について言われました。「妊娠している女性には出産するまで近づいてはならない。妊娠していない女性には、一度月経が来るまで近づいてはならない。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』1456；『スナン・アビー・ダーウード』2157（アル＝アルバーニーによればサヒーフ）。

法学の注

これらの規定は、当時の世界中に存在していた戦争捕虜の制度に関わるものです。イスラームはその制度を整え、不正への多くの扉を閉ざし、償い（カッファーラ）や善行として奴隷の解放を奨励しました。その奴隷制度はとうに終わっており、これらの規定は今日、法学の歴史の一部として学ばれています。

イスティブラーのハディースはまた、血統の保護を示しています。イスラームは、戦時であっても血統があいまいになることを許さないのです。サラブ（討ち取った敵の持ち物）については学者の意見が分かれています。シャーフィイー派とハンバル派は、討ち取った者がそのまま権利を持つとし、ハナフィー派とマーリク派は、指導者の布告によるとしています。

教訓

イスラームにおける戦いは、規定から自由なものではありません。借りた武器は返さなければならず、女性と子どもは守られ、戦利品は分配の前に手をつけてはならず、名誉と血統は守られます。シャリーアは戦場のただ中にもあるのです。

フナインとターイフの戦いの年表

次の日付の多くはスィーラ書に基づいており、一部はおおよそのものです。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ 8 年ラマダーン月	マッカ征服；ハワーズィンとサキーフが軍を集める	第 20〜21 巻；スィーラ書
ヒジュラ暦 8 年シャウワール月初め	サフワーンが鎧を貸す；イスラームの軍がマッカを出発	『スナン・アビー・ダーウード』3562；スィーラ書（イブン・イスハーク：シャウワール月 6 日）
旅の途中	ザート・アンワートの木の出来事	『ジャーミウ・ティルミズィー』2180
ヒジュラ暦 8 年シャウワール月 10 日ごろ、夜明け	フナインの谷での待ち伏せ；軍が退く	『サヒーフ・ブハーリー』2864
同じ朝	アル＝アッバースの呼びかけ；ひと握りの土；勝利	『サヒーフ・ムスリム』1775、1777
戦いの後	ハワーズィンがターイフ、ナフラ、アウタースに分かれて逃げる	スィーラ書
数日後	アブー・アーミルの部隊がアウタースへ；ドゥライドが殺される；アブー・アーミルが殉教	『サヒーフ・ブハーリー』4323
ヒジュラ暦 8 年シャウワール月	捕虜と財産がアル＝ジゥラーナへ送られる	スィーラ書
ヒジュラ暦 8 年シャウワール月	ターイフ包囲が始まる	『サヒーフ・ブハーリー』4325
包囲中	アブー・バクラと何人かの奴隷が砦から降りる	『サヒーフ・ブハーリー』4326

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
約 20 日後（別の伝承では 40 夜）	包囲が解かれる；サキーフの導きを願う祈り	スィーラ書；『サヒーフ・ムスリム』1059
ヒジュラ暦 8 年シャウワール月末〜ズー・アル＝カアダ月	アル＝ジゥラーナでの財産の分配；ウムラ；マディーナへ帰還	第 23 巻
ヒジュラ暦 9 年	サキーフの使節団が来てイスラームに入る	第 26 巻

教訓

およそ二か月のうちに、ムスリムはマッカでの大勝利、フナインでの初めの敗走と勝利、ターイフを開けなかったこと、そして心を試す財産の分配を経験しました。信仰者の人生も同じです — 恵みと試練が交互にやって来ます。そしてその両方が試練なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：80 / 634

フナインとターイフの戦いについてのよくある質問

1. 両軍の兵力はどれほどでしたか。

イスラームの軍は約一万二千人でした。マディーナから来た一万人と、約二千人のマッカの住民です（第 3 章；『サヒーフ・ブハーリー』4337）。ハワーズィンとその同盟者の数は真正なハディースでは確立していません。スィーラ書や歴史の資料はさまざまな見積もりを挙げており、約二万人とするものもあります。

2. なぜフナインはクルアーンで名を挙げて述べられているのですか。

それがきわめて重要な教訓をもたらすからです。多い数は勝利を保証しません。アッラーは仰せられます（意味）。「またフナインの日に。そのとき、あなたがたは自分たちの数の多さに得意になった」（悔悟章 9:25；第 5 章と第 12 章）。

3. 悔悟章 9:26 の「目に見えない軍勢」とは誰ですか。

イブン・カスィールなどの注釈学者は、バドルのときと同じように、ムスリムを強めるためにアッラーが下された天使たちであると解釈しています。クルアーンは、ムスリムにはかれらが見えなかったと明言しています（第 11 章）。

4. 何人の教友が殉教しましたか。

イブン・イスハークは、フナインとアウタースで四人、ターイフで十二人を挙げています（第 32 章）。この数はスィーラ書の伝承です。

5. ターイフでマンジャニーク（投石機）は使われたのですか。

スィーラ書は、ムスリムがターイフでマンジャニークとダッバーバを用いたと述べており、一部の伝承は、アッ＝トゥファイル・ブン・アムル・アッ＝ダウスィーがそのマンジャニークを持って来たとしています（第 21 章）。この詳細はスィーラ書の伝承であり、真正なハディースではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

6. なぜアッラーの使徒 ﷺ は、ターイフが開かれるまで包囲を続けなかったのですか。

砦があまりに堅固で、多くの教友が負傷し、とどまり続ける利益がなかったからです。使徒は帰ることを選ばれ（『サヒーフ・ブハーリー』4325）、サキーフの導きを祈られました。一年後、サキーフは自らイスラームに入りに来ました — 流血なしの、より大きな勝利です。

7. アブー・バクラとは誰ですか。

名はヌファイウ・ブン・アル＝ハーリスで、ターイフの奴隷でした。かれは滑車（バクラ）を使って砦から降り、イスラームに入ったので、アブー・バクラと呼ばれました。かれと、降りてきた他の奴隷たちは解放され（『サヒーフ・ブハーリー』4326）、かれは後に多くのハディースを伝えました。

8. アッラーの使徒 ﷺ とハワーズィン族の関係は何ですか。

使徒は、ハワーズィンの支族サアド家のハリーマの乳で育てられ、アッ＝シャイマーは使徒の乳姉妹でした。また信者たちの母マイムーナは、やはりハワーズィンの支族であるヒラール家の出身でした（第 31 章）。

9. 敵を討ち取った者は、その敵の持ち物に対してそのまま権利を持つのですか。

アッラーの使徒 ﷺ はアブー・カターダにサラブを与えられました（『サヒーフ・ブハーリー』3142）。その権利が自動的に定まるのか、指導者の布告によるのかについては、学者の意見が分かれています（第 34 章）。

10. なぜ女性章 4:24 の節はアウタースと結びつけられているのですか。

アブー・サイード・アル＝フドリーが、その節はまだ夫のいるアウタースの女性捕虜について下されたと伝えているからです（『サヒーフ・ムスリム』1456）。その

規定にはイスティブラーの条件が伴います（『スナン・アビー・ダーウード』2157；第 34 章）。

11. なぜアッラーの使徒 ﷺ は、サキーフの滅びではなく導きを祈られたのですか。

使徒の目的は人々を導くことであって、復讐することではなかったからです。使徒は十年前のターイフでも同じ態度を示され、かれらを滅ぼそうという山の天使の申し出を退けられました（『サヒーフ・ブハーリー』3231；第 20 章と第 24 章）。

12. フナインの捕虜と戦利品はどうなったのですか。

それらはアル＝ジゥラーナに集められ、ターイフ包囲の後に分配されました。その分配、アンサールへの説教、そして悔いて来たハワーズィンの使節団の到来は、第 23 巻で語られます。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、学者の意見を区別することを思い出させてくれます。フナインとターイフの物語の骨格はクルアーンと真正なハディースで確立しています。数や名前の詳細は、その等級に従ってお伝えしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

フナインとターイフは、**勝利の後の試練**の物語です。マッカ征服の後、ムスリムは弱さではなく強さによって試されました — そしてその教訓は、審判の日まで全ウンマのためにクルアーンに刻まれたのです。

教訓	フナインとターイフから
アッラーからの勝利	多い数は「何の役にも立たない」
タウヒードの純粋さを守る	ザート・アンワート：多神崇拝への扉を閉ざす
指導者の勇気	「わたしは預言者、偽りではない」
アッラーへの約束を果たす	サムラの木の仲間たちが戻る
天からの静穏	使徒と信仰者たちにサキーナが下る
弱さを認める正直さ	サラマ・ブン・アル＝アクワウ
戦いの倫理	女性と雇われ人は殺されない
引き揚げる知恵	微笑みとともにターイフから帰る
導きを祈る	ターイフへの希望、復讐ではなく

わたしたちの人生の中のフナイン

わたしたち一人ひとりが、自分自身の「フナイン」を経験します — 自分は強いと感じていても、すべてが崩れていくように見える瞬間です。そのときは、アッラーの御言葉を思い出してください。「**本当に困難と共に安楽はある**」（胸を広げる章 94:5）— 『イブン・カスィールのタフスィール』94:5。

呼ばれたときにサムラの木の仲間たちが戻ったように、アッラーとの約束に立ち返りましょう。ラバの上のアッラーの使徒 ﷺ のように揺るぎなく立ちましょう。そしてアッラーに**サキーナ（静穏）**を求めましょう — 勝利は心の静けさから始まるのですから。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 23 巻 — フナインの戦利品とアンサール**へと続きます。アル＝ジゥラーナでの財産の分配、心を和らげるための贈り物、悔いて来たハワーズィンとかれらの家族の返還、そしてアンサールがあごひげを濡らすほど泣いたアッラーの使徒 ﷺ の説教です。アッラーが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 22 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（雌牛章 2:249；高壁章 7:138；戦利品章 8:17；悔悟章 9:25〜27；胸を広げる章 94:5）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/25

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2645、2864、2937、3073、3142、3231、4323、4325、4326、4337、5999。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1059、1775、1776、1777、1809。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』2180、3942；『スナン・アビー・ダーウード』2669、2694、3562。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— フナインとターイフの遠征の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書』；イブン・サアド『大列伝』；アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— フナインの遠征；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書；『アル＝イサーバ』。アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』— ジハードの書。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— フナインの遠征の章。

一般の歴史

Wikipedia「Battle of Hunayn」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Hunayn

Wikipedia「Siege of Ta'if」。https://en.wikipedia.org/wiki/Siege_of_Ta%27if

Wikipedia「Hawazin」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hawazin

Wikipedia「Banu Thaqif」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Thaqif

Wikipedia「Malik ibn Awf」。https://en.wikipedia.org/wiki/Malik_ibn_Awf

Wikipedia「Abu Sufyan ibn al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Sufyan_ibn_al-Harith

Wikipedia「Umm Sulaym bint Milhan」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Sulaym_bint_Milhan

Wikipedia「Abu Bakra」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakra

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ムスリム』1456（アウタースの捕虜と女性章 4:24）。https://sunnah.com/muslim:1456a

『スナン・アビー・ダーウード』2157（アウタースの捕虜のイスティブラー）。https://sunnah.com/abudawud:2157

『サヒーフ・ブハーリー』4323（アウタースでのアブー・アーミル）。https://sunnah.com/bukhari:4323

『サヒーフ・ブハーリー』4325（ターイフ包囲）。https://sunnah.com/bukhari:4325

『サヒーフ・ブハーリー』4326（砦から降りたアブー・バクラ）。https://sunnah.com/bukhari:4326

『サヒーフ・ブハーリー』4337（フナインでの兵力）。https://sunnah.com/bukhari:4337

ウィキペディア「Taif」。https://en.wikipedia.org/wiki/Taif

Wikipedia「Abd Allah ibn al-Abbas Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_al-Abbas_Mosque

Wikipedia「Hawazin」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hawazin

Wikipedia「Battle of Hunayn」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Hunayn

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第二部

フナインの戦利品とアンサール

預言者伝（スィーラ）— 第 23 巻

心を和らげる財、革の天幕での説教、そしてアンサールの涙 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

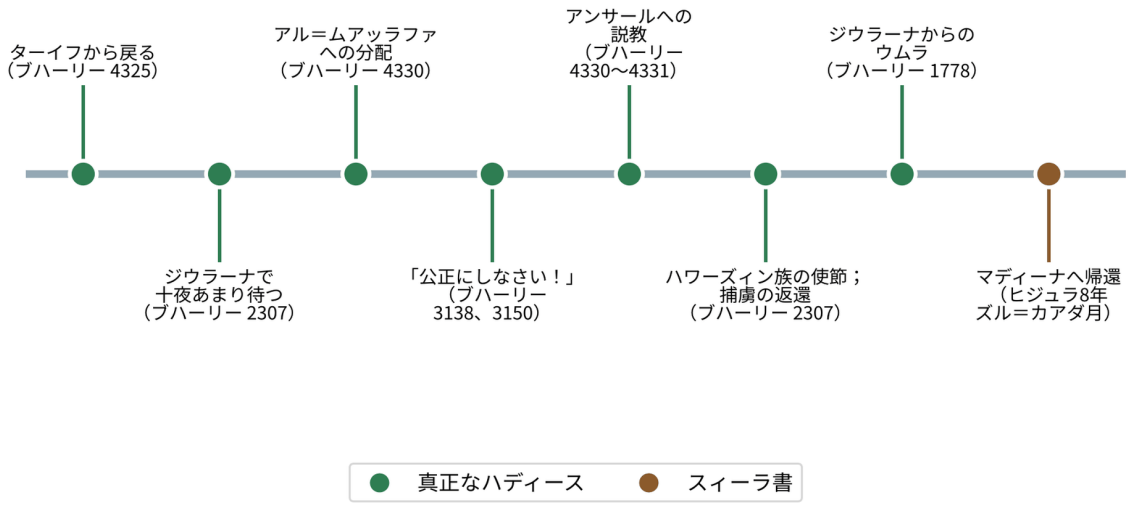
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フナインの戦利品とアンサール

第 22 巻は、ターイフ包囲から**ジウラーナ**へ戻るイスラーム軍で終わりました。そこには何千人ものハワーズィン族の捕虜と、何万頭もの家畜が集められていました。今や、心を別の形で試す時が来たのです。剣や矢によってではなく、**財**によって。

この第 23 巻は、アッラーの使徒 ﷺ がフナインの戦利品をどのように分配されたかを語ります。入信したばかりの有力者たちの**心を和らげる**ための大きな贈与、その分配は公正でないという一人の男の非難、心を痛めたアンサールの一部のささやき、そして彼らを泣かせた**革の天幕の中での説教**。また、悔悟してやって来たハワーズィン族と、その家族を返した寛大さの物語でもあります。

ジウラーナでの年表



一部の出来事の順序はおおよそのもの。ハワーズィン族が分配の前に来たか後に来たかについては伝承が分かれる。

図 1：ジウラーナでの年表。

注：本書のクルアーンの節の訳は、三田了一訳を用いています。各ハディースの等級はハディースの枠に記しています。スィーラ書からの情報 — サアド・ブン・ウバーダの言葉、マーリク・ブン・アウフの話、一部の有力者への贈与の詳細など — は茶色の枠「スィーラの注」に収めています。その多くは、連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジウラーナへの帰還

ジウラーナはマッカとターイフの間にある水場で、マッカの北東およそ 25 キロメートルにあります。イスラーム軍がターイフを包囲している間、フナインの戦利品はここに集められ、守られていました。アッラーの使徒 ﷺ はターイフから戻るとジウラーナに立ち寄られ、そこでの出来事は、スィーラの中でも最も心を打つものの一つとなりました。

その光景を想像してください。何千人ものハワーズィン族の女性と子どもの捕虜、何万頭ものラクダと羊、そして山積みの銀。多くが貧しかった兵士たちにとって、それは心を惹きつける光景でした。入信したばかりのマッカの有力者たちにとっては、その信仰がアッラーのためか、この世のためかを試すものでした。そして八年間犠牲を払ってきたアンサールにとっては、**誠実さ**の試練でした。

アッラーの使徒 ﷺ は、ただ一つの目的をもってこれらの試練に臨まれました。単に財を分けることではなく、**心を勝ち取ること**です。誰に与え、誰に与えないか、そしてそれをどう説明するか — ジウラーナでのあらゆる決定は、**指導力、公正、英知**の教訓です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハワーズィン族を待つ

アッラーの使徒 ﷺ はすぐには戦利品を分配されませんでした。『サヒーフ・ブハーリー』2307 によれば、ターイフから戻った後、**十夜あまりハワーズィン族を待たれた**のです。なぜでしょうか。

悔悟してイスラームに入るためにハワーズィン族が**やって来ること**を望まれたからです。そうすれば、彼らの家族と財産を返すことができます。これこそアッラーの使徒 ﷺ の慈悲です。ハワーズィン族はつい先ほど彼と戦い、その軍をあやうく打ち負かすところでしたが、それでも彼らの女性と子どもの運命を気にかけ、戻って来る扉を開いておかれたのです。

しかし、軍はいつまでも待つことはできません。多くの者が分配を急かし、一部のベドウィンは取り分を求めてアッラーの使徒 ﷺ に群がり、彼は一本の木のところまで後退しなければならず、外套が引っかかってしまいました。彼は仰せられました。**「わたしの外套を返しなさい。もしこれらの木の数ほどの家畜を持っていたなら、わたしはそれをあなたがたに分け与えるでしょう。そうすれば、わたしがけちでも、嘘つきでも、臆病者でもないことが分かるでしょう。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2821）

教訓：指導者は、悔悟するかもしれない敵への慈悲と、従う者たちの権利との間で**釣り合い**をとらなければなりません。アッラーの使徒 ﷺ は妥当な期間だけ待ち、それから行動されました — 悔悟の扉を閉ざすことなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

外套を引っ張ったベドウィン

戦利品を求める人々の催促は、アッラーの使徒 ﷺ の非常に美しい人格の一面を示しています。**粗野な人への忍耐**です。兵士の多くは都市の礼儀に慣れていないアラブのベドウィンで、乱暴な仕方で求めました。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、その人格をよく表す出来事を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3149 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا مَالِكٌ، عَنْ إِسْحَاقَ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه قَالَ كُنْتُ أَمْشِي مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَعَلَيْهِ بُرْدٌ نَجْرَانِيٌّ غَلِيظُ الْحَاشِيَةِ، فَأَدْرَكَهُ أَعْرَابِيٌّ فَجَذَبَهُ جَذْبَةً شَدِيدَةً، حَتَّى نَظَرْتُ إِلَى صَفْحَةِ عَاتِقِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَدْ أَثَّرَتْ بِهِ حَاشِيَةُ الرِّدَاءِ مِنْ شِدَّةِ جَذْبَتِهِ، ثُمَّ قَالَ مُرْ لِي مِنْ مَالِ اللَّهِ الَّذِي عِنْدَكَ. فَالْتَفَتَ إِلَيْهِ، فَضَحِكَ ثُمَّ أَمَرَ لَهُ بِعَطَاءٍ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は言った。わたしは預言者 ﷺ と一緒に歩いていた。彼は縁の粗いナジュラーン産の外套を身にまとっていた。一人のアラブのベドウィンが彼に追いつき、**その外套を非常に強く引っ張った**ので、引っ張られた強さのために、預言者 ﷺ の肩の表面に外套の縁の跡がついているのが見えた。そして男は言った。「あなたのところにあるアッラーの財から、わたしに与えるよう命じてください。」彼は男のほうを振り向き、**笑われ**、そして男に与えるよう命じられた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← マーリク・ブン・アナス ← イスハーク・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・タルハ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、第 3149 番；第 5809、6088 番およびムスリム第 1057 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3149

このハディースの教訓

想像してください。アラブ全体の指導者が、肩に跡が残るほど外套を引っ張られ、無作法な言葉で求められたのです。しかし彼は**振り向いて笑い**、そして与えられました。怒りも、罰も、厳しい叱責もありません。あのベドウィンは侮辱するつもりではなく、ただ礼儀を知らなかっただけだと理解しておられたのです。

わたしたちへの教訓：粗野な人がみな悪意を持っているわけではありません。異なる環境から来た人もいます。怒りよりも**忍耐と笑顔**のほうが、彼らの心を開くのにずっと効果的なことがよくあります。アッラーはその使徒について仰せられます。「もしあなたが乱暴で心が冷酷であったなら、かれらはあなたの周りから離れ去ったであろう」（イムラーン家章 3:159）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦利品の規定

ジウラーナでの分配を理解する前に、イスラームにおける**戦利品（ガニーマ）の規定**を理解しておく必要があります。バドルの戦いで教友たちは戦利品をめぐって意見が分かれ、アッラーは次の節を下されました。

「**戦利品はアッラーと使徒のものである**」（戦利品章 8:1） — 『イブン・カスィールのタフスィール』8:1。

その後アッラーは分配を定められました。「**あなたがたが得た戦利品の五分の一は、アッラーと使徒、近親、孤児、貧者、旅人のものである**」（戦利品章 8:41） — 『イブン・カスィールのタフスィール』8:41。

こうして戦利品の**五分の四**は戦った兵士たちに分配され、**五分の一（フムス）**はアッラーの使徒 ﷺ に委ねられ、公共の必要 — 彼の近親、孤児、貧者、旅人 — のために使われました。フナインでのアル＝ムアッラファへの大きな贈与が、フムスから出されたのか、戦利品全体から出されたのかについては、学者の間で意見が分かれています。イマーム・ブハーリーはそれらのハディースを「**預言者 ﷺ がフムスからアル＝ムアッラファに与えたもの**」という章に収めています。

アッラーの使徒 ﷺ ご自身は、自分のために富を取られませんでした。第 22 巻で述べたように、彼はラクダの毛一本をつまみ上げ、フムス以外はこれほどの権利もないと仰せられました — しかもそのフムスさえ、共同体に還されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

心を和らげられる者たち（アル＝ムアッラファ・クルーブフム）

分配が始まると、アッラーの使徒 ﷺ はクライシュ族の有力者とアラブ諸部族の長たちに**非常に大きな贈与**をされました。その多くは入信したばかりで、まだ入信していない者さえいました。彼らは**アル＝ムアッラファ・クルーブフム**、すなわちイスラームに向けて心を和らげ、結び合わせるべき人々として知られています。

クルアーンは彼らを、ザカートを受け取る八つの範疇の一つとして挙げています。**「施し（ザカート）は、貧者、困窮者、それを管理する者、心を和らげられるべき者……のためである」**（悔悟章 9:60） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:60。

なぜイスラームは、信仰の弱い人に財を与えるのでしょうか。アッラーの使徒 ﷺ が**人間の本性**を理解しておられたからです。ある人は論証によって、ある人は人格によってイスラームに来ます。そして別の人々 — とりわけ地位を失ったばかりの有力者 — は、心が開く前にまず**敬意を示される**必要があるのです。彼は別のハディースで仰せられました。**「わたしはある人に与える。別の人のほうがわたしにとってもっと愛しいのに。それは、アッラーがその人を顔から地獄に投げ込まれることを恐れるからである」**（『サヒーフ・ブハーリー』27）。

その結果が、この英知を証明しました。フナインのアル＝ムアッラファの多くは、のちに立派なムスリムとなり、イスラームのために戦いました — ローマやペルシャとの戦いも含めて。あの財は賄賂ではなく、導きへの**架け橋**だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：95 / 634

サフワーン：憎しみから愛へ

この**サフワーン・ブン・ウマイヤ**の物語は、贈与が心を和らげることを最もはっきり示す例です。第 21 巻で、マッカ開城のときにサフワーンが逃げ、その後安全の保証を得て戻り、考える猶予を求めたことを見ました。彼は入信する前にフナインに加わり、自分の鎧を貸しました（第 22 巻）。そして今、ジウラーナで—

ハディース —『サヒーフ・ムスリム』第 2313 番

وَحَدَّثَنِي أَبُو الطَّاهِرِ، أَحْمَدُ بْنُ عَمْرِو بْنِ سَرْحٍ أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي يُونُسُ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ غَزَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم غَزْوَةَ الْفَتْحِ فَتْحِ مَكَّةَ ثُمَّ خَرَجَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِمَنْ مَعَهُ مِنَ الْمُسْلِمِينَ فَاقْتَتَلُوا بِحُنَيْنٍ فَنَصَرَ اللَّهُ دِينَهُ وَالْمُسْلِمِينَ وَأَعْطَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ صَفْوَانَ بْنَ أُمَيَّةَ مِائَةً مِنَ النَّعَمِ ثُمَّ مِائَةً ثُمَّ مِائَةً. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ حَدَّثَنِي سَعِيدُ بْنُ الْمُسَيَّبِ أَنَّ صَفْوَانَ قَالَ وَاللَّهِ لَقَدْ أَعْطَانِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا أَعْطَانِي وَإِنَّهُ لأَبْغَضُ النَّاسِ إِلَىَّ فَمَا بَرِحَ يُعْطِينِي حَتَّى إِنَّهُ لأَحَبُّ النَّاسِ إِلَىَّ.

訳：

イブン・シハーブは言った。アッラーの使徒 ﷺ はアル＝ファトフ、すなわちマッカ征服の遠征を行われた。その後アッラーの使徒 ﷺ は共にいたムスリムたちと出発し、フナインで戦った。アッラーはその宗教とムスリムたちを助けられた。その日、アッラーの使徒 ﷺ は**サフワーン・ブン・ウマイヤにラクダ百頭を、さらに百頭を、さらに百頭を**与えられた。イブン・シハーブは言った。サイード・ブン・アル＝ムサイヤブがわたしに語ったところでは、サフワーンはこう言った。「**アッラーにかけて、アッラーの使徒 ﷺ はわたしに与えられるものを与えてくださった。彼はわたしにとって最も憎い人だったのに。彼はわたしに与え続け、ついにわたしにとって最も愛しい人となったのである。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・アッ＝ターヒル・アフマド・ブン・アムル・ブン・サルフ ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← ユーヌス・ブン・ヤズィー

ド・アル＝アイリー ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← サフワーン・ブン・ウマイヤ رضي الله عنه。

参照： イマーム・ムスリムの伝承、『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、「アッラーの使徒 ﷺ は何かを求められて『いいえ』と言われたことは一度もない」の章、第 2313 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2313

このハディースの教訓

ラクダ三百頭！ 父をバドルで失ったクライシュ族の有力者サフワーンにとって、この贈与は単なる財ではありませんでした — それは長く敵対してきた人からの**敬意**でした。それ以上に、サフワーンはアッラーの使徒 ﷺ が**貧しさを恐れない人のように**与えるのを自分の目で見たのです。そのような性質はこの世の王には持ちえないもので、預言者の性質です。

アナス رضي الله عنه は伝えています。ある男がアッラーの使徒 ﷺ に求めると、彼は二つの山の間の谷を埋めるほどの羊を与えられた。男は自分の一族のもとに帰って言った。「**わが一族よ、イスラームに入りなさい。ムハンマドは貧しさを恐れない者のように与えるのだから。**」アナスは言った。この世のためだけにイスラームに入る男もいたが、まもなく**イスラームがこの世とその中のすべてよりも愛しいもの**となった（『サヒーフ・ムスリム』2312）。

「決して『いいえ』と言われなかった」

サフワーンや有力者たちへの贈与は、アッラーの使徒 ﷺ にとって特別なことではありませんでした。それは**生涯を通じた彼の人格**の一部でした。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما はそれを短い一文にまとめています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6034 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنِ ابْنِ الْمُنْكَدِرِ، قَالَ سَمِعْتُ جَابِرًا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ مَا سُئِلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم عَنْ شَيْءٍ قَطُّ فَقَالَ لاَ.

訳：

ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディルは言った。わたしはジャービル رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。「**預言者 ﷺ は、何かを求められて『いいえ』と言われたことは一度もない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』礼儀の書、「良い人格と気前の良さ」の章、第 6034 番；ムスリム第 2311 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6034

このハディースの教訓

イブン・アッバース رضى الله عنهما も言っています。「**アッラーの使徒 ﷺ は人々の中で最も気前が良く、ラマダーン月には最も気前が良かった……吹き送られる風よりも気前が良かった**」（『サヒーフ・ブハーリー』6）。彼の気前の良さは裕福だったからではありません — しばしば空腹のまま眠り、何か月も台所から煙が上がらないこともありました — そうではなく、**アッラーの糧を確信していた**からです。

学者たちは、「決して『いいえ』と言われなかった」の意味を、求めを荒々しく断ることが一度もなかったことだと説明します。何も持っていないときは、後で与えると約束するか、祈るか、あるいは穏やかに黙っておられました。これが求める人に接するときの礼儀です。**傷つける言葉で彼らを失望させてはならないのです。**

アブー・スフヤーン、ハキーム、そして有力者たち

ジウラーナで大きな贈与を受けたのは、ほかに誰でしょうか。ラーフィウ・ブン・ハディージュ رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ、サフワーン・ブン・ウマイヤ、ウヤイナ・ブン・ヒスン、アル＝アクラウ・ブン・ハービス**にそれぞれラクダ百頭を与えられたと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』1060）。

スィーラの注：アブー・スフヤーンとその息子たち

スィーラの学者たちは伝えています。アブー・スフヤーンが息子の**ヤズィード**のために求めると、彼はラクダ百頭を与えられ、次に息子の**ムアーウィヤ**のために求めると、さらに百頭を与えられた。アブー・スフヤーンは言った。「わが父母にかけて、あなたは戦いにおいても和平においても高貴な方です。」**ハキーム・ブン・ヒザーム**も繰り返し求めて与えられ、アッラーの使徒 ﷺ は彼に、上の手は下の手よりも良いと諭されました（第 20 巻）。

ヤズィードとムアーウィヤについての詳細は**スィーラ書の伝承**です。アブー・スフヤーンへのラクダ百頭の贈与は『サヒーフ・ムスリム』1060 で真正です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインの遠征とジウラーナでの戦利品分配の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

少し考えてみてください。**アブー・スフヤーン**はウフドとハンダクでクライシュ族を率いてイスラームと戦いました。**ウヤイナ・ブン・ヒスン**はハンダクの包囲でガタファーン族を率いました。その彼らが今、かつて戦った人から一人ラクダ百頭を受け取っているのです。これが**赦しの戦略**、すなわちアッラーの使徒 ﷺ のやり方です。剣によってではなく、気前の良さによって敵を友に変えるのです。

そしてアッラーは、真の心の結合はかれから来ることを思い起こさせておられます。**「またかれは、かれら（信者）の心を一つに結ばれる。あなたが仮令地上の一切の**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ものを費やしても、あなたはかれらの心を一つに結ぶことは出来ない。だがアッラーはかれらを結合させる。本当にアッラーは偉力ならびなき英明な御方であられる。」（戦利品章 8:63）。財は手段にすぎず、心を変えられるのはアッラーです。

ハキーム・ブン・ヒザーム：上の手

フナインで贈与を受けたクライシュ族の有力者の中に**ハキーム・ブン・ヒザーム**がいました。ハディージャ رضى الله عنها の甥で、その入信の話は第 20 巻で語りました。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』の中で、彼の繰り返しの求めは**フナインの戦利品の分配のとき**のことだったと述べています。ハキーム自身が語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 1472 番

وَحَدَّثَنَا عَبْدَانُ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا يُونُسُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الزُّبَيْرِ، وَسَعِيدِ بْنِ الْمُسَيَّبِ، أَنَّ حَكِيمَ بْنَ حِزَامٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ سَأَلْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَعْطَانِي، ثُمَّ سَأَلْتُهُ فَأَعْطَانِي، ثُمَّ سَأَلْتُهُ فَأَعْطَانِي ثُمَّ قَالَ «يَا حَكِيمُ إِنَّ هَذَا الْمَالَ خَضِرَةٌ حُلْوَةٌ، فَمَنْ أَخَذَهُ بِسَخَاوَةِ نَفْسٍ بُورِكَ لَهُ فِيهِ، وَمَنْ أَخَذَهُ بِإِشْرَافِ نَفْسٍ لَمْ يُبَارَكْ لَهُ فِيهِ كَالَّذِي يَأْكُلُ وَلاَ يَشْبَعُ، الْيَدُ الْعُلْيَا خَيْرٌ مِنَ الْيَدِ السُّفْلَى». قَالَ حَكِيمٌ فَقُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ وَالَّذِي بَعَثَكَ بِالْحَقِّ لاَ أَرْزَأُ أَحَدًا بَعْدَكَ شَيْئًا حَتَّى أُفَارِقَ الدُّنْيَا، فَكَانَ أَبُو بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ يَدْعُو حَكِيمًا إِلَى الْعَطَاءِ فَيَأْبَى أَنْ يَقْبَلَهُ مِنْهُ، ثُمَّ إِنَّ عُمَرَ ـ رضى الله عنه ـ دَعَاهُ لِيُعْطِيَهُ فَأَبَى أَنْ يَقْبَلَ مِنْهُ شَيْئًا. فَقَالَ عُمَرُ إِنِّي أُشْهِدُكُمْ يَا مَعْشَرَ الْمُسْلِمِينَ عَلَى حَكِيمٍ، أَنِّي أَعْرِضُ عَلَيْهِ حَقَّهُ مِنْ هَذَا الْفَىْءِ فَيَأْبَى أَنْ يَأْخُذَهُ. فَلَمْ يَرْزَأْ حَكِيمٌ أَحَدًا مِنَ النَّاسِ بَعْدَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَتَّى تُوُفِّيَ.

訳：

ハキーム・ブン・ヒザーム رضى الله عنه は言った。わたしがアッラーの使徒 ﷺ に求めると彼は与えてくださり、また求めると与えてくださり、さらに求めると与えてくださった。そして仰せられた。「**ハキームよ、この財は緑で甘い。気前の良い心（貪らない心）でそれを受け取る者には、そこに祝福が与えられる。貪る心でそれを受け取る者には、そこに祝福は与えられず、食べても満たされない者のようになる。上の手は下の手よりも良い。**」ハキームは言った。わたしは言った。「アッラーの使徒よ、あなたを真

理と共に遣わされた方にかけて、**わたしはあなたの後、この世を去るまで誰からも何も受け取りません。**」アブー・バクル رضى الله عنه はハキームに分け前を与えようと呼んだが、彼は受け取りを拒んだ。その後ウマル رضى الله عنه も与えようと呼んだが、彼はウマルからも何も受け取ろうとしなかった。ウマルは言った。「ムスリムたちよ、ハキームについてあなたがたを証人とする。わたしはこのファイの財から彼の権利を差し出したが、彼は受け取りを拒んだ。」こうしてハキームは、アッラーの使徒 ﷺ の後、亡くなるまで誰からも何も受け取らなかった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブダーン（アブドゥッラー・ブン・ウスマーン）← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ユーヌス・ブン・ヤズィード・アル＝アイリー ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル および サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← ハキーム・ブン・ヒザーム رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』ザカートの書、「物乞いを慎むこと」の章、第 1472 番；第 2750、3143、6441 番およびムスリム第 1035 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1472

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はハキームの求めを断らず、三度与えられました。しかし与えた後、彼の人生を変える助言で**彼を教育された**のです。財の贈与は彼の心を和らげ、助言は**彼の魂を高めました。**繰り返し求めていた有力者が、誰からも — カリフからさえ — 何も受け取らない人に変わったのです。

これが**アッラーの使徒** ﷺ の教育の方法です。まず必要を満たし、それから魂を築く。ハキームが求めたときに叱ることから始めず、ハキームが彼の気前の良さを味わった後に、助言が心に入ったのです。親と教育者への同じ教訓です。**勝ち取られた心は教育しやすい。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：103 / 634

アル＝アッバース・ブン・ミルダースの詩

すべての有力者が同じ額を受け取ったわけではありません。ラーフィウ・ブン・ハディージュは、スライム族の長である**アル＝アッバース・ブン・ミルダース**がラクダ百頭より少なく与えられたと伝えています。彼は満足せず、アッラーの使徒 ﷺ の前で詩を詠みました。その意味は次の通りです。

「わたしの取り分と、わが馬アル＝ウバイドの取り分を、ウヤイナとアル＝アクラウの間に置かれるのか。ヒスンもハービス（彼らの父たち）も、集いにおいてミルダース（わが父）に勝ってはいなかった。わたしは彼ら二人のどちらにも劣ってはいない。今日あなたが低くした者は、引き上げられることはないだろう。」するとアッラーの使徒 ﷺ は**彼の贈与をラクダ百頭に満たされました**（『サヒーフ・ムスリム』1060）。

アッラーの使徒 ﷺ は、その詩のためにアル＝アッバース・ブン・ミルダースを叱られませんでした。アラブの部族の長にとって**一族の前での名誉**は非常に大切で、少ない贈与は侮辱と受け取られかねないことを理解しておられたのです。そこで彼の贈与を満たされました — 彼の心と、イスラーム軍に多く加わっていたその一族スライム族の心を守るために。

教訓：賢い指導者は、一人ひとりの**背景と気持ちを理解します**。ある人には小さく見えることが、別の人には非常に大きいことがあります。英知は与えることだけでなく、**どのように、どれだけ**与えるかを知ることにもあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「誰が公正であろうか」

有力者たちへの大きな贈与は、一部の人々の間に不満を生みました。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、ある男が非常に重いことを言うのを聞きました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3150 番

حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ حُنَيْنٍ آثَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أُنَاسًا فِي الْقِسْمَةِ، فَأَعْطَى الأَقْرَعَ بْنَ حَابِسٍ مِائَةً مِنَ الإِبِلِ، وَأَعْطَى عُيَيْنَةَ مِثْلَ ذَلِكَ، وَأَعْطَى أُنَاسًا مِنْ أَشْرَافِ الْعَرَبِ، فَآثَرَهُمْ يَوْمَئِذٍ فِي الْقِسْمَةِ. قَالَ رَجُلٌ وَاللَّهِ إِنَّ هَذِهِ الْقِسْمَةَ مَا عُدِلَ فِيهَا، وَمَا أُرِيدَ بِهَا وَجْهُ اللَّهِ. فَقُلْتُ وَاللَّهِ لأُخْبِرَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم. فَأَتَيْتُهُ فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ «فَمَنْ يَعْدِلُ إِذَا لَمْ يَعْدِلِ اللَّهُ وَرَسُولُهُ رَحِمَ اللَّهُ مُوسَى قَدْ أُوذِيَ بِأَكْثَرَ مِنْ هَذَا فَصَبَرَ».

訳：

アブドゥッラー（ブン・マスウード） رضى الله عنه は言った。フナインの日、預言者 ﷺ は**分配においてある人々を優遇された。**アル＝アクラウ・ブン・ハービスにラクダ百頭を与え、ウヤイナにも同じだけ与え、アラブの何人かの有力者に与え、その日の分配で彼らを優遇された。ある男が言った。「アッラーにかけて、この分配は公正ではなく、アッラーの御顔を求めたものではない。」わたしは言った。「アッラーにかけて、預言者 ﷺ にお知らせしよう。」わたしは行ってお知らせした。彼は仰せられた。「**アッラーとその使徒が公正でないなら、いったい誰が公正であろうか。アッラーがムーサーに慈悲をかけられますように。彼はこれ以上に傷つけられたが、忍耐したのだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウスマーン・ブン・アビー・シャイバ ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミード ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← アブー・ワーイル・シャキーク・ブン・サラマ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、「預言者 ﷺ が心を和らげられるべき者に与えていたもの」の章、第 3150 番；第 3405、6059 番およびムスリム第 1062 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3150

このハディースの教訓

その男の非難は非常に重大でした。「**アッラーの御顔を求めたものではない**」 — つまり、アッラーの使徒 ﷺ に誠実さがないと非難したのです。しかしアッラーの使徒 ﷺ の答えは忍耐に満ちていました。彼はその男を罰せず、**さらにひどく傷つけられながら忍耐した預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ** を思い起こされたのです。

別の伝承では、イブン・マスウードは、その言葉を聞いたアッラーの使徒 ﷺ が**顔に怒りが見えるほど怒られた**と述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3405）。彼も感情を持つ人間でした。その非難に傷つかれたのです。しかし怒りを抑え、**忍耐**を選ばれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしが公正でなければ、あなたは災いだ」

同じような出来事がジウラーナで再び起こりました。今度は面と向かってです。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3138 番

حَدَّثَنَا مُسْلِمُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا قُرَّةُ، حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ دِينَارٍ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ - رضى الله عنهما - قَالَ بَيْنَمَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقْسِمُ غَنِيمَةً بِالْجِعْرَانَةِ إِذْ قَالَ لَهُ رَجُلٌ اعْدِلْ. فَقَالَ لَهُ «شَقِيتَ إِنْ لَمْ أَعْدِلْ».

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ が**ジウラーナ**で戦利品を分配しておられたとき、突然ある男が彼に言った。「**公正にしなさい！**」彼はその男に仰せられた。「**わたしが公正でなければ、あなたは災いだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムスリム・ブン・イブラーヒーム ← クッラ・ブン・ハーリド ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、第 3138 番；ムスリム第 1063 番にも（より長い話として）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3138

このハディースの教訓

『サヒーフ・ムスリム』の伝承では、ジャービルは、銀がビラールの衣の中にあり、アッラーの使徒 ﷺ がそこから取って人々に与えておられたと付け加えています。男は言った。「ムハンマドよ、公正にしなさい！」彼は仰せられた。「**あなたは災いだ！ わたしが公正でなければ、誰が公正であろうか。**」ウマル رضى الله عنه は言った。「この偽善者を殺させてください。」彼は仰せられた。「**人々が、わたしが自分の**

教友たちを殺していると言うことから、アッラーにご加護を求める」（『サヒーフ・ムスリム』1063）。

次の**政治的な英知**に注目してください。アッラーの使徒 ﷺ は、その男が罰に値するにもかかわらず罰されませんでした。その行為が人々に誤解され、人々をイスラームから遠ざけることを恐れたからです。ときには、値する罰を**控えること**のほうが、宣教にとって益が大きいのです。

ハワーリジュ派の芽

ハディースの学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が財を分配しておられたときの、もう一つの似た出来事を記録しています。タミーム族の**ズル＝フワイスィラ**という男が「アッラーの使徒よ、公正にしなさい！」と言った。彼は答えられた。「あなたは災いだ。わたしが公正でなければ、誰が公正であろうか。」ウマルが彼を殺す許可を求めると、彼は仰せられた。**「放っておきなさい。彼には仲間がいる。あなたがたの一人は、自分の礼拝を彼らの礼拝と比べて、自分の断食を彼らの断食と比べて、取るに足りないと思うだろう。彼らはクルアーンを読むが、それは喉を越えない。彼らは、矢が獲物を突き抜けるように宗教から抜け出るのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3610）

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』の中で、ジウラーナの男とズル＝フワイスィラが同じ人物か、それとも別々の出来事かを論じています。アブー・サイード・アル＝フドリーの伝承は、ズル＝フワイスィラの話を、アリーがイエメンから送った金の分配に結びつけているからです。いずれにせよ、**その態度は同じ**です。アッラーの使徒 ﷺ が公正でないと非難し、自分は使徒よりも公正を理解していると思い込んでいるのです。

学者たちはこの態度を**ハワーリジュ派の芽**と見ています。この派はのちにアリー رضى الله عنه の時代に現れ、教友たちを不信仰者と断じ、ムスリムの血を流しました。彼らは非常に熱心に崇拝していたにもかかわらずです。アブー・サイード自身、アリーと共に彼らと戦ったとき、アッラーの使徒 ﷺ が述べた印を見たと証言しています。

現代のわたしたちへの教訓：傲慢さ、すぐに非難すること、他人を見下すことを伴うなら、**多くの崇拝が必ずしも正しさの印とは限りません。**真の知識は謙虚さを生み、喉までしか届かない知識は暴力を生むのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者ムーサーの忍耐

公正でないと非難されたとき、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**アッラーがムーサーに慈悲をかけられますように。彼はこれ以上に傷つけられたが、忍耐したのだ。**」なぜ特に預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ を思い起こされたのでしょうか。

クルアーンは、預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の民がどのように彼を傷つけたかを語っています。「**信仰する者よ、ムーサーを悩ました者のようであってはならない。だがアッラーはかれらの言った中傷から、かれを清められた。アッラーの御許で、かれは栄誉を与えられていた。**」（部族連合章 33:69） — 『イブン・カスィールのタフスィール』33:69。

預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は、常に逆らう民を率いました。彼らは偶像の神を求め、子牛を崇拝し、聖地に入ることを拒み、さまざまな非難を彼に浴びせました。それでも彼は忍耐しました。アッラーの使徒 ﷺ は兄弟である預言者ムーサーを模範とし、**預言者たちでさえ傷つけられた**ことを教えておられます — だから、善いことをしていて誤解されても驚いてはならないのです。

教訓：不当に批判されたときは、**預言者たちを思い出しなさい**。わたしたち以前の義人たちの忍耐を思い出すことは、痛みを和らげ、善行を続ける魂を強めてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アンサールのささやき

ジウラーナでの最も微妙な試練は、最も忠実な人々、すなわち**アンサール**からやって来ました。彼らは、昨日までイスラームと戦っていたクライシュ族の有力者たちに多くの財が与えられるのを見ました。一方、八年間犠牲を払ってきた自分たちには何も与えられなかったのです。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه が語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4331 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ نَاسٌ مِنَ الأَنْصَارِ حِينَ أَفَاءَ اللَّهُ عَلَى رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم مَا أَفَاءَ مِنْ أَمْوَالِ هَوَازِنَ، فَطَفِقَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُعْطِي رِجَالاً الْمِائَةَ مِنَ الإِبِلِ فَقَالُوا يَغْفِرُ اللَّهُ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُعْطِي قُرَيْشًا وَيَتْرُكُنَا، وَسُيُوفُنَا تَقْطُرُ مِنْ دِمَائِهِمْ. قَالَ أَنَسٌ فَحُدِّثَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِمَقَالَتِهِمْ، فَأَرْسَلَ إِلَى الأَنْصَارِ فَجَمَعَهُمْ فِي قُبَّةٍ مِنْ أَدَمٍ وَلَمْ يَدْعُ مَعَهُمْ غَيْرَهُمْ، فَلَمَّا اجْتَمَعُوا قَامَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ «مَا حَدِيثٌ بَلَغَنِي عَنْكُمْ». فَقَالَ فُقَهَاءُ الأَنْصَارِ أَمَّا رُؤَسَاؤُنَا يَا رَسُولَ اللَّهِ فَلَمْ يَقُولُوا شَيْئًا، وَأَمَّا نَاسٌ مِنَّا حَدِيثَةٌ أَسْنَانُهُمْ فَقَالُوا يَغْفِرُ اللَّهُ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُعْطِي قُرَيْشًا وَيَتْرُكُنَا، وَسُيُوفُنَا تَقْطُرُ مِنْ دِمَائِهِمْ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «فَإِنِّي أُعْطِي رِجَالاً حَدِيثِي عَهْدٍ بِكُفْرٍ، أَتَأَلَّفُهُمْ، أَمَا تَرْضَوْنَ أَنْ يَذْهَبَ النَّاسُ بِالأَمْوَالِ وَتَذْهَبُونَ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم إِلَى رِحَالِكُمْ، فَوَاللَّهِ لَمَا تَنْقَلِبُونَ بِهِ خَيْرٌ مِمَّا يَنْقَلِبُونَ بِهِ». قَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ قَدْ رَضِينَا. فَقَالَ لَهُمُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «سَتَجِدُونَ أُثْرَةً شَدِيدَةً، فَاصْبِرُوا حَتَّى تَلْقَوُا اللَّهَ وَرَسُولَهُ صلى الله عليه وسلم فَإِنِّي عَلَى الْحَوْضِ». قَالَ أَنَسٌ فَلَمْ يَصْبِرُوا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。アッラーがその使徒 ﷺ にハワーズィン族の財を授けられ、預言者 ﷺ が何人かの男たちにラクダ百頭ずつ与え始められたとき、

アンサールの何人かが言った。「**アッラーがアッラーの使徒 ﷺ をお赦しになりますように。彼はクライシュ族に与え、わたしたちを置き去りにされる。わたしたちの剣はまだ彼らの血を滴らせているのに。**」アナスは言った。彼らの言葉がアッラーの使徒 ﷺ に伝えられた。彼はアンサールに使いを送り、彼らを**革の天幕**の中に集め、彼ら以外は誰も呼ばれなかった。彼らが集まると、預言者 ﷺ は立ち上がって仰せられた。「**あなたがたについてわたしに届いた話は何か。**」アンサールの中の理解ある人々が言った。「わたしたちの指導者たちは、アッラーの使徒よ、何も言っていません。しかし、わたしたちの中の若者の何人かが言いました。アッラーがアッラーの使徒 ﷺ をお赦しになりますように。彼はクライシュ族に与え、わたしたちを置き去りにされる。わたしたちの剣はまだ彼らの血を滴らせているのに、と。」預言者 ﷺ は仰せられた。「**わたしは、不信仰を離れて間もない者たちに、その心を和らげるために与えているのだ。人々が財を持って帰り、あなたがたが預言者 ﷺ を自分たちの家に連れて帰ることに、あなたがたは満足しないのか。アッラーにかけて、あなたがたが持ち帰るものは、彼らが持ち帰るものよりも良い。**」彼らは言った。「アッラーの使徒よ、わたしたちは満足しました。」預言者 ﷺ は彼らに仰せられた。「**（わたしの後）あなたがたは激しい自己優先（アスラ）に出会うだろう。だから、アッラーとその使徒 ﷺ に会うまで忍耐しなさい。わたしは池（アル＝ハウド）のほとりにいるのだから。**」アナスは言った。しかし彼らは忍耐しなかった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・アル＝ムスナディー ← ヒシャーム・ブン・ユースフ ← マアマル・ブン・ラーシド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ターイフの遠征の章、第 4331 番；第 3147 番およびムスリム第 1059 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4331

このハディースの教訓

アンサールの中の**理解ある人々の誠実さ**に注目してください。彼らは言われたことを隠さず、指導者たちは何も言っておらず、言ったのは数人の若者だけだと公正に説明しました。これは、付け加えも削りもせずに**正確に情報を伝える**ことの手本です。

アッラーの使徒 ﷺ がその問題にどう対処されたかにも注目してください。彼は**彼らだけを特別に集められました。**天幕の中で、他の人はいませんでした。叱責と説明は公衆の前ではなく個人的に行われました — 彼らの尊厳が守られ、心が開くように。

サアド・ブン・ウバーダ：「わたしも一族の一人にすぎません」

スィーラの注：「わたしも一族の一人にすぎません」

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه は伝えています。アンサールが心を痛めていたとき、**サアド・ブン・ウバーダ**がアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て言った。「アッラーの使徒よ、このアンサールの人々は、この戦利品のことであなたに心を痛めています。」彼は尋ねられた。「サアドよ、このことであなたはどこに立っているのか。」サアドは答えた。「**アッラーの使徒よ、わたしも一族の一人にすぎません。**」彼は仰せられた。「あなたの一族をこの天幕にわたしのために集めなさい。」

この伝承は『**ムスナド・アフマド**』とスィーラ書（イブン・イスハーク）にあり、一部の学者はその伝承経路をハサン（良好）と評価しています。アンサールが天幕に集められたことは『サヒーフ・ブハーリー』で真正です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインの遠征とジウラーナでの戦利品分配の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アフマド『ムスナド』— アブー・サイード・アル＝フドリーのムスナド。

サアドの答えは**めったに見られない誠実さ**を示しています。指導者として、アッラーの使徒 ﷺ の前で良く見られるために、自分の一族に同意していないふりをすることもできたはずです。しかし彼は率直でした。自分も一族と同じ気持ちだったのです。そしてアッラーの使徒 ﷺ は**彼を叱らず**、むしろその誠実さを評価し、アンサールを集めるよう頼まれました。

すべての指導者への教訓：**良い指導者は、民の気持ちを**上に正直に伝え、隠しません。そして良い最高指導者は**耳を傾け**、行動し、不快な知らせを持って来た人を罰しないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

革の天幕での説教

その革の天幕の中で、アッラーの使徒 ﷺ はイスラームの歴史の中でも最も心を打つ説教の一つをされました。その場にいたアンサールの教友アブドゥッラー・ブン・ザイド・ブン・アースィム رضى الله عنه が伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4330 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا وُهَيْبٌ، حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ يَحْيَى، عَنْ عَبَّادِ بْنِ تَمِيمٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ زَيْدِ بْنِ عَاصِمٍ، قَالَ لَمَّا أَفَاءَ اللَّهُ عَلَى رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ حُنَيْنٍ قَسَمَ فِي النَّاسِ فِي الْمُؤَلَّفَةِ قُلُوبُهُمْ، وَلَمْ يُعْطِ الأَنْصَارَ شَيْئًا، فَكَأَنَّهُمْ وَجَدُوا إِذْ لَمْ يُصِبْهُمْ مَا أَصَابَ النَّاسَ فَخَطَبَهُمْ فَقَالَ «يَا مَعْشَرَ الأَنْصَارِ أَلَمْ أَجِدْكُمْ ضُلاَّلاً فَهَدَاكُمُ اللَّهُ بِي، وَكُنْتُمْ مُتَفَرِّقِينَ فَأَلَّفَكُمُ اللَّهُ بِي وَعَالَةً، فَأَغْنَاكُمُ اللَّهُ بِي». كُلَّمَا قَالَ شَيْئًا قَالُوا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَمَنُّ. قَالَ «مَا يَمْنَعُكُمْ أَنْ تُجِيبُوا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم». قَالَ كُلَّمَا قَالَ شَيْئًا قَالُوا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَمَنُّ. قَالَ «لَوْ شِئْتُمْ قُلْتُمْ جِئْتَنَا كَذَا وَكَذَا. أَتَرْضَوْنَ أَنْ يَذْهَبَ النَّاسُ بِالشَّاةِ وَالْبَعِيرِ، وَتَذْهَبُونَ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم إِلَى رِحَالِكُمْ، لَوْلاَ الْهِجْرَةُ لَكُنْتُ امْرَأً مِنَ الأَنْصَارِ، وَلَوْ سَلَكَ النَّاسُ وَادِيًا وَشِعْبًا لَسَلَكْتُ وَادِيَ الأَنْصَارِ وَشِعْبَهَا، الأَنْصَارُ شِعَارٌ وَالنَّاسُ دِثَارٌ، إِنَّكُمْ سَتَلْقَوْنَ بَعْدِي أَثَرَةً فَاصْبِرُوا حَتَّى تَلْقَوْنِي عَلَى الْحَوْضِ».

訳：

アブドゥッラー・ブン・ザイド・ブン・アースィム رضى الله عنه は言った。フナインの日、アッラーがその使徒 ﷺ に財を授けられたとき、彼はそれを**アル＝ムアッラファ・クルーブフム**（心を和らげられるべき者たち）の人々に分配し、アンサールには何も与えられなかった。彼らは、他の人々が得たものを得られなかったことで心を痛めているようだった。そこで彼は彼らに説教して仰せられた。「**アンサールの人々よ、わたしはあなたがたが迷いの中にいるのを見いだし、アッラーがわたしを通してあなたがたを導かれたのではないか。あなたがたは分裂していたが、アッラーがわたしを通してあなた**

がたを一つにされたのではないか。あなたがたは貧しかったが、アッラーがわたしを通してあなたがたを豊かにされたのではないか。」彼が何か言われるたびに、彼らは「アッラーとその使徒のほうが恩恵は大きいのです」と言った。彼は仰せられた。「**何があなたがたにアッラーの使徒 ﷺ に答えることを妨げているのか。**」彼が何か言われるたびに、彼らは「アッラーとその使徒のほうが恩恵は大きいのです」と言った。彼は仰せられた。「**もし望むなら、あなたがたはこう言うこともできる。『あなたはこれこれの状態でわたしたちのもとに来られた』と。人々が羊やラクダを連れて行き、あなたがたが預言者 ﷺ を自分たちの家に連れて行くことに、あなたがたは満足しないのか。移住（ヒジュラ）がなかったなら、わたしはアンサールの一人であっただろう。もし人々が一つの谷と一つの山道を行くなら、わたしはアンサールの谷と山道を行くだろう。アンサールは肌着（体に最も近い衣）であり、ほかの人々は上着である。あなたがたはわたしの後、自己優先（アスラ）に出会うだろう。だから池（アル＝ハウド）のほとりでわたしに会うまで忍耐しなさい。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール・アッ＝タブーザキー ← ウハイブ・ブン・ハーリド ← アムル・ブン・ヤフヤー・アル＝マーズィニー ← アッバード・ブン・タミーム ← アブドゥッラー・ブン・ザイド・ブン・アースィム رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ターイフの遠征の章、第 4330 番；ムスリム第 1061 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4330

このハディースの教訓



図 2：ジウラーナからの二つの「持ち帰り」。

この説教がどのように組み立てられているかに注目してください。彼は**責めることから始めず**、恩恵を思い起こさせることから始められました。導き、団結、そして豊かさです。それから、彼ら自身が口にするのを恥じるような言葉で**彼らの功績を認められました。**「もし望むなら、あなたがたはこう言うこともできる。『あなたはこれこれの状態でわたしたちのもとに来られた』と。」別の伝承はその意味を説明しています。あなたは嘘つき呼ばわりされてわたしたちのもとに来られ、わたしたちはあなたを信じた。追われて来られ、わたしたちはあなたをかくまった、と。

そして、すべてを変える問いが来ます。「**人々が羊やラクダを連れて行き、あなたがたが預言者 ﷺ を自分たちの家に連れて行くことに、あなたがたは満足しないのか。**」一瞬のうちに、価値の物差しが変わりました。失ったと感じていた財は、彼らが得たもの — アッラーの使徒 ﷺ ご自身 — に比べれば小さなものとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

導き、団結、そして豊かさ

アッラーの使徒 ﷺ がアンサールに挙げられた三つの恩恵 — **導き、団結、豊かさ** — は、単なる言葉ではありません。その一つひとつに長い歴史があります。

導き：イスラーム以前、アウス族とハズラジュ族は偶像を崇拝していました。マッカ征服の後に壊されたマナートもその一つです（第 21 巻）。**団結**：この二つの部族は百年以上も互いに戦い、ヒジュラの数年前のブアースの戦いでその頂点に達しました。**豊かさ**：かつての彼らの暮らしは質素なもので、アッラーはイスラームを通して彼らの糧を広げられました。

アッラーはクルアーンの中で、この団結の恩恵を思い起こさせておられます。「**あなたがたはアッラーの絆に皆でしっかりと縋り、分裂してはならない。そしてあなたがたに対するアッラーの恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである。あなたがたが火獄の穴の辺りにいたのを、かれがそこから救い出されたのである。このようにアッ ラーは、あなたがたのために印を明示される。きっとあなたがたは正しく導かれるであろう。**」（イムラーン家章 3:103）— 『イブン・カスィールのタフスィール』3:103。

アッラーの使徒 ﷺ が一つの恩恵を挙げるたびに、アンサールは答えました。「**アッラーとその使徒のほうが恩恵は大きいのです。**」彼らは自分たちの犠牲を持ち出さず、受けた恩恵のほうがはるかに大きいと認めたのです。これが**信仰者の礼儀**です。自分の行いではなく、アッラーの恵みを見るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

肌着と上着

アッラーの使徒 ﷺ は、アンサールの地位を非常に美しいたとえで表されました。**「アンサールはシアール（肌着）であり、ほかの人々はディサール（上着）である。」**シアールは肌に触れる、体に最も近い衣で、ディサールはその上に着る外側の衣です。その意味は、アンサールは彼に**最も近い人々**だということです。

彼はまた仰せられました。**「移住（ヒジュラ）がなかったなら、わたしはアンサールの一人であっただろう」**。そして、もし人々が一つの谷を行くなら、アンサールの谷を選ぶだろうと。これは最高の承認です。より高いヒジュラの栄誉がなかったなら、彼らの一人として知られることを望まれたのです。

だからこそアッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「信仰の印はアンサールを愛することであり、偽善の印はアンサールを憎むことである」**（『サヒーフ・ブハーリー』17）。アッラーの使徒 ﷺ を愛し助けた人々を愛することは、信仰の一部なのです。

アスラ：予言と忍耐

説教の終わりに、アッラーの使徒 ﷺ は一つの**予言**と一つの**遺言**を伝えられました。

「あなたがたはわたしの後、自己優先（アスラ）に出会うだろう。だから池（アル＝ハウド）のほとりでわたしに会うまで忍耐しなさい。」

アスラとは、財や地位において他の人々が優先され、あなたがたが置き去りにされることを意味します。この予言は本当に実現しました。正統カリフの時代の後、多くの役職や地位は他の人々に与えられ、アンサールはしばしば取り残されたのです。アナス رضي الله عنه も伝承の終わりに「**しかし彼らは忍耐しなかった**」と言っています — つまり、その状況を受け入れるのが難しかった人もいたということです。

アッラーの使徒 ﷺ の遺言は深い原則を教えています。**本当の報いはこの世ではなく、池（アル＝ハウド）のほとりにある**のです。審判の日に彼に会うときです。この世で不当に扱われたり、評価されなかったりした人は、忍耐してそこでの報いを待つべきです — 反乱を起こしたり、共同体を分裂させたりすることなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アンサールの涙

アンサールはその説教をどう受け止めたのでしょうか。『サヒーフ・ブハーリー』は、彼らが「アッラーの使徒よ、わたしたちは満足しました」と言ったと伝えています。別の伝承は、その場の様子をもっと詳しく描いています。

スィーラの注：「わたしたちはアッラーの使徒を自分たちの取り分として満足します」

『ムスナド・アフマド』とスィーラ書にあるアブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه の伝承によれば、アッラーの使徒 ﷺ が説教を終え、**「アッラーよ、アンサールと、アンサールの子どもたちと、アンサールの孫たちに慈悲をおかけください」**と祈られると、アンサールは**ひげが濡れるほど泣き**、こう言いました。**「わたしたちはアッラーの使徒を自分たちの取り分、分け前として満足します。」**そしてアッラーの使徒 ﷺ は去り、彼らも散っていきました。

この伝承は一部の学者によって**ハサン（良好）と評価されています**。アンサールとその子孫のための祈りは、『サヒーフ・ムスリム』（第 2506 番）にも根拠があります。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインの遠征とジウラーナでの戦利品分配の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アフマド『ムスナド』— アブー・サイード・アル＝フドリーのムスナド。

その涙は、財を失った悲しみの涙ではなく、**喜びと気づきの涙**でした。わずか数分のうちに、心を痛めていた心が、完全に満足した心へと変わったのです。誠実な心から出た真実の言葉の力です。

わたしたちにとって、アッラーの使徒 ﷺ の問いは今も響いています。他の人々が財や地位を追い求めるとき、**わたしたちは信仰と彼のスンナを持ち帰ることに満足しているでしょうか。**それこそが永遠に残る取り分であり、羊やラクダはやがて尽きてしまうのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クルアーンの中のアンサール

ジウラーナでのアンサールの満足は、新しいことではありませんでした。アッラーはクルアーンの中で、すでに彼らの性質を称えておられます。

「自分たちのところに移住して来た者を愛し、彼らに与えられたものに対して心の中に何のこだわりも持たず、自分自身が窮乏していても、彼らを自分より優先する」（集合章 59:9） — 『イブン・カスィールのタフスィール』59:9。

この節は**イーサール** — 自分が必要としていても他人を優先すること — の性質を描いています。ジウラーナで、その性質は再び試されました。他の人々が与えられ、自分たちは与えられないのを見たのです。アッラーの使徒 ﷺ の説明を聞いた後、彼らは本来の性質に戻りました。**満足し、他人を優先する**ことです。

そしてアッラーは彼らへのご満悦を宣言されました。「**（イスラームの）先達は、第 1 は（マッカからの）遷移者と、（遷移者を迎え助けたマディーナの）援助者と、善い行いをなし、かれらに従った者たちである。アッラーはかれらを愛でられ、かれらもまたかれに満悦する。かれは川が下を永遠に流れる楽園を、かれらのために備え、 そこに永遠に住まわせられる。それは至上の幸福の成就である。**」（悔悟章 9:100） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:100。

悔悟したハワーズィン族の使節

アッラーの使徒 ﷺ の待機は、ついに実を結びました。財が分配された後、**ハワーズィン族の使節**がジウラーナに到着したのです — 今度は敵としてではなく、**悔悟したムスリム**として。彼らは家族と財産を返してくれるよう願いました。マルワーン・ブン・アル＝ハカムとアル＝ミスワル・ブン・マフラマが伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2307 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عُفَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي عُقَيْلٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ وَزَعَمَ عُرْوَةُ أَنَّ مَرْوَانَ بْنَ الْحَكَمِ، وَالْمِسْوَرَ بْنَ مَخْرَمَةَ، أَخْبَرَاهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَامَ حِينَ جَاءَهُ وَفْدُ هَوَازِنَ مُسْلِمِينَ، فَسَأَلُوهُ أَنْ يَرُدَّ إِلَيْهِمْ أَمْوَالَهُمْ وَسَبْيَهُمْ فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «أَحَبُّ الْحَدِيثِ إِلَىَّ أَصْدَقُهُ. فَاخْتَارُوا إِحْدَى الطَّائِفَتَيْنِ إِمَّا السَّبْىَ، وَإِمَّا الْمَالَ، وَقَدْ كُنْتُ اسْتَأْنَيْتُ بِهِمْ». وَقَدْ كَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم انْتَظَرَهُمْ بِضْعَ عَشْرَةَ لَيْلَةً، حِينَ قَفَلَ مِنَ الطَّائِفِ، فَلَمَّا تَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم غَيْرُ رَادٍّ إِلَيْهِمْ إِلاَّ إِحْدَى الطَّائِفَتَيْنِ قَالُوا فَإِنَّا نَخْتَارُ سَبْيَنَا. فَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي الْمُسْلِمِينَ، فَأَثْنَى عَلَى اللَّهِ بِمَا هُوَ أَهْلُهُ ثُمَّ قَالَ «أَمَّا بَعْدُ فَإِنَّ إِخْوَانَكُمْ هَؤُلاَءِ قَدْ جَاءُونَا تَائِبِينَ، وَإِنِّي قَدْ رَأَيْتُ أَنْ أَرُدَّ إِلَيْهِمْ سَبْيَهُمْ، فَمَنْ أَحَبَّ مِنْكُمْ أَنْ يُطَيِّبَ بِذَلِكَ فَلْيَفْعَلْ، وَمَنْ أَحَبَّ مِنْكُمْ أَنْ يَكُونَ عَلَى حَظِّهِ حَتَّى نُعْطِيَهُ إِيَّاهُ مِنْ أَوَّلِ مَا يُفِيءُ اللَّهُ عَلَيْنَا فَلْيَفْعَلْ». فَقَالَ النَّاسُ قَدْ طَيَّبْنَا ذَلِكَ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «إِنَّا لاَ نَدْرِي مَنْ أَذِنَ مِنْكُمْ فِي ذَلِكَ مِمَّنْ لَمْ يَأْذَنْ، فَارْجِعُوا حَتَّى يَرْفَعُوا إِلَيْنَا عُرَفَاؤُكُمْ أَمْرَكُمْ». فَرَجَعَ النَّاسُ فَكَلَّمَهُمْ عُرَفَاؤُهُمْ، ثُمَّ رَجَعُوا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرُوهُ أَنَّهُمْ قَدْ طَيَّبُوا وَأَذِنُوا.

訳：

ウルワによれば、マルワーン・ブン・アル＝ハカムとアル＝ミスワル・ブン・マフラマは彼にこう伝えた。アッラーの使徒 ﷺ は、**ハワーズィン族の使節がすでにイスラームに入って彼のもとに来た**とき立ち上がられた。彼らは自分たちの財産と捕虜を返してく

れるよう求めた。アッラーの使徒 ﷺ は彼らに仰せられた。**「わたしが最も好む言葉は、最も真実な言葉である。だから二つのうち一つを選びなさい。捕虜か、財産かである。わたしはあなたがたを待って（分配を）遅らせていたのだ。」**アッラーの使徒 ﷺ は、ターイフから戻ったとき、**十夜あまり彼らを待っておられた。**アッラーの使徒 ﷺ が二つのうち一つしか返されないことがはっきりすると、彼らは言った。**「わたしたちは捕虜を選びます。」**そこでアッラーの使徒 ﷺ はムスリムたちの前に立ち、アッラーにふさわしい賛美でアッラーを讃えてから仰せられた。**「さて、あなたがたのこの兄弟たちは悔悟してわたしたちのもとに来た。わたしは彼らの捕虜を返すのがよいと考える。あなたがたのうち、快くそうしたい者はそうしなさい。また、アッラーがわたしたちに授けられる最初の財から代わりを与えられるまで、自分の取り分を持ち続けたい者は、そうしなさい。」**人々は言った。「わたしたちはアッラーの使徒 ﷺ のために快く手放します。」アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「あなたがたのうち誰が許可し、誰が許可しなかったのか、わたしたちには分からない。戻りなさい。あなたがたの長たち（ウラファー）があなたがたの意向をわたしたちに伝えるまで。」**人々は戻り、長たちが彼らと話し合い、それからアッラーの使徒 ﷺ のもとに戻って、皆が快く許可したと伝えた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サイード・ブン・ウファイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← マルワーン・ブン・アル＝ハカム および アル＝ミスワル・ブン・マフラマ رضي الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』代理の書、「代理人に何かを贈与した場合」の章、第 2307 番；第 2539、2583、3131、4318 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2307

このハディースの教訓

スィーラの注：ハリーマと乳縁の一族

スィーラの学者たちは伝えています。ハワーズィン族の代弁者**ズハイル・ブン・スラド**がアッラーの使徒 ﷺ に言った。「アッラーの使徒よ、この捕虜の中には、あなたの乳縁のおばたちや、あなたを世話した養育者たちがいます。」アッラーの使徒の乳母ハリーマ・アッ＝サアディーヤは、ハワーズィン族の支族の一つであるサアド・ブン・バクル族の出身だったからです。そこでアッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「わたしとアブドゥルムッタリブ家のものは、あなたがたのものである。」**ムハージルーンとアンサールもそれに続いて言った。「わたしたちのものは、アッラーの使徒 ﷺ のものです。」

この詳細は**スィーラ書の伝承**（イブン・イスハーク）です。ハワーズィン族の捕虜の返還は『サヒーフ・ブハーリー』2307 で真正です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインの遠征とジウラーナでの戦利品分配の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーの使徒 ﷺ の言葉に注目してください。**「わたしが最も好む言葉は、最も真実な言葉である。」**兵士たちの権利を守らなければならないため、捕虜と財産の両方を返すことはできないと、率直に伝えられたのです。彼らを喜ばせるための偽りの約束はされませんでした。ハワーズィン族は**家族**を選びました — その選択は、人の心の中の本当の価値を示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハワーズィン族との乳縁

アッラーの使徒 ﷺ とハワーズィン族の関係は、勝者と敗者の関係にとどまりません。サアド・ブン・バクル族出身の乳母**ハリーマ・アッ＝サアディーヤ**を通して、彼はこの部族と**乳縁**で結ばれていました。幼い頃の数年間を、空気の澄んだ砂漠のサアド族の集落で過ごされたのです。

スィーラの注：老いた女性のために広げられた外套

アブー・アッ＝トゥファイル رضي الله عنه は伝えています。彼は、アッラーの使徒 ﷺ がジウラーナで肉を分けておられるのを見た。すると一人の女性がやって来て、彼は**自分の外套を広げ**、女性はその上に座った。アブー・アッ＝トゥファイルが「あの方は誰ですか」と尋ねると、人々は答えた。「**あの方は彼に乳を飲ませた母です。**」（『スナン・アビー・ダーウード』5144）

このハディースはシャイフ・アル＝アルバーニーによって**弱い（ダイーフ）**と評価されています。そのため、この注に収めています。その女性がハリーマ本人だったのか、それとも乳姉妹アッ＝シャイマー（第 22 巻）だったのかについては、学者の意見が分かれています。

参照：

アル＝アルバーニー『スナン・アビー・ダーウードの弱いハディース集』。

伝承経路は弱いものの、これはアッラーの使徒 ﷺ の人格について確かなことと一致しています。彼は、何十年たっても**恩を受けた人を敬われた**のです。この乳縁こそ、彼がハワーズィン族の悔悟を強く望み、彼らが来たときに大いに寛大であった理由の一つでした。

教訓：**わたしたちを育ててくれた人々の恩を忘れてはなりません** — 親、養育者、教師、そして幼い頃に親切にしてくれたすべての人です。高い地位にあっても、自分の原点を忘れてはならないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

捕虜返還における公正

アッラーの使徒 ﷺ がハワーズィン族の捕虜を返された方法は、**行政と公正**における驚くべき教訓です。捕虜はすでに兵士たちの権利となっていました。アッラーの使徒 ﷺ は、その力がありながら、それを強制的に取り上げることはされませんでした。

段階	説明
1. 正直な選択肢を示す	捕虜か財産か、両方ではない
2. 提案を伝える	説教して説明された
3. 自発的な同意	快く応じる者はそうしてよい
4. 補償	応じない者には将来の財から代わりを与える
5. 代表による確認	長たち（ウラファー）が決定を伝えた

五つ目の段階は特に重要です。人々が「わたしたちは快く手放します」と叫んでも、アッラーの使徒 ﷺ は大勢の声だけでは満足されませんでした。彼は仰せられました。**「あなたがたのうち誰が許可し、誰が許可しなかったのか、わたしたちには分からない。」**そして各集団に自分たちの長（ウラファー）と話し合うよう求め、長たちが決定を伝えました。これにより、**一人ひとりの権利**が尊重されたのです。

学者たちはこのハディースを、**代表制度**と、人々の権利に関わる事柄における**本当の同意**の重要性の根拠としています。イマーム・ブハーリーはこれを代理の書と、ウラファーの章に収めています。千四百年近く前に、アッラーの使徒 ﷺ は、個人の権利は多数派の歓声だけで奪ってはならないことを教えておられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：127 / 634

マーリク・ブン・アウフの入信

では、フナインでハワーズィン族を率い、その後ターイフに逃げ込んだ若き指揮官**マーリク・ブン・アウフ**はどうなったのでしょうか。

スィーラの注：教友となった指揮官

スィーラの学者たちは伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はハワーズィン族の使節にマーリク・ブン・アウフのことを尋ね、彼らは、彼がサキーフ族と共にターイフにいると答えた。彼は言付けをされた。**「彼に伝えなさい。もし彼がムスリムとしてわたしのもとに来るなら、彼の家族と財産を返し、ラクダ百頭を与えよう。」**

マーリクはひそかにターイフを抜け出し、ジウラーナかマッカでアッラーの使徒 ﷺ に会い、イスラームに入った。彼は家族と財産を返し、ラクダ百頭を与え、**イスラームに入った彼の一族の長に再び任命された。**マーリクはその後、一族を率いてサキーフ族を包囲し、彼らを追い詰め、アッラーの使徒 ﷺ を称える詩を詠んだ。「人々の中に、ムハンマドのような人をわたしは見たことも聞いたこともない。」

この話は**スィーラ書の伝承**（イブン・イスハーク）です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— フナインの遠征とジウラーナでの戦利品分配の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』— マーリク・ブン・アウフ・アン＝ナスリーの伝記。

アッラーの使徒 ﷺ の慈悲の広さを見てください。マーリク・ブン・アウフは、イスラーム軍をあやうく打ち負かしかけた**敵の指揮官**でした。それでも彼は赦しただけでなく、その地位を回復させたのです。アッラーの使徒 ﷺ は、人の過ちだけでなく、その**可能性**を見ておられました。部族を動かしてイスラームに敵対させることのできる指導者は、イスラームのために部族を動かすこともできるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジウラーナからのウムラ

戦利品のことが片づいた後、アッラーの使徒 ﷺ はすぐにはマディーナへ戻られませんでした。ウムラを行うために**ジウラーナからイフラームに入られた**のです。アナス رضى الله عنه はこれをアッラーの使徒 ﷺ のウムラの一つとして挙げています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1778 番

حَدَّثَنَا حَسَّانُ بْنُ حَسَّانٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامٌ، عَنْ قَتَادَةَ، سَأَلْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ كَمِ اعْتَمَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَالَ أَرْبَعٌ عُمْرَةُ الْحُدَيْبِيَةِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَدَّهُ الْمُشْرِكُونَ، وَعُمْرَةٌ مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَالَحَهُمْ، وَعُمْرَةُ الْجِعْرَانَةِ إِذْ قَسَمَ غَنِيمَةَ أُرَاهُ حُنَيْنٍ. قُلْتُ كَمْ حَجَّ قَالَ وَاحِدَةً.

訳：

カターダは言った。わたしはアナス رضى الله عنه に尋ねた。「預言者 ﷺ は何回ウムラをされましたか。」彼は答えた。「**四回**です。多神教徒が彼を妨げたズル＝カアダ月のフダイビーヤのウムラ、彼らと和約を結んだ翌年のズル＝カアダ月のウムラ、そして**戦利品を分配されたときのジウラーナのウムラ** — それはフナインの（戦利品）だったと思います。」わたしは尋ねた。「何回ハッジをされましたか。」彼は答えた。「一回です。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッサーン・ブン・ハッサーン ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ・ブン・ディアーマ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』ウムラの書、「預言者 ﷺ は何回ウムラをされたか」の章、第 1778 番；第 1779、1780 番およびムスリム第 1253 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1778

このハディースの教訓

アナスは「四回」と言いながら、この伝承では三つしか挙げていません。四つ目は**別離の巡礼（ハッジ・アル＝ワダーウ）**と共に行われたウムラで、『サヒーフ・ブハーリー』の他の伝承（第 1779〜1780 番）に述べられています。アッラーの使徒 ﷺ のウムラはすべて**ズル＝カアダ月**に行われました。

スィーラの注：夜のウムラ

ムハッリシュ・アル＝カアビー رضي الله عنه は伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は**夜に**イフラームの状態でジウラーナを出発し、マッカに入ってウムラを行い、その夜のうちにジウラーナへ戻られた。そのため朝には**まるでそこで夜を過ごされたかのように**そこにおられた（『ジャーミウ・ティルミズィー』935、アル＝アルバーニーがサヒーフと評価）。

このハディースはティルミズィーによってハサン・ガリーブと評価されています。そのため、この注に収めています。

参照：

アル＝アルバーニー『スナン・ティルミズィーの真正なハディース集』。

戦い、戦利品の分配、非難、ささやき、そして説教の後 — アッラーの使徒 ﷺ はそのすべてを**崇拝**で締めくくられました。勝利も財も、アッラーのもとへ戻ることから彼をそらしはしなかったのです。今日、**ジウラーナ・モスク**は今も建っており、アッラーの使徒 ﷺ のスンナに従ってウムラを行いたいマッカの住民にとってのイフラームの場所の一つとなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナへの帰還

ウムラの後、アッラーの使徒 ﷺ はムハージルーンとアンサールと共にマディーナへ戻られました — 革の天幕の中での約束どおり、アンサールは**アッラーの使徒 ﷺ を自分たちの家に連れて帰った**のです。スィーラ書によれば、彼はラマダーン月にマディーナを出てから三か月近くを経て、ヒジュラ暦 8 年ズル＝カアダ月の終わりにマディーナに着かれました。

マッカには、**アッターブ・ブン・ウサイド**を総督として、**ムアーズ・ブン・ジャバル**を住民にクルアーンと諸規定を教える者として残されました（スィーラ書による）。かつて反対の中心だった町が、今や若いムスリムによって治められ、ハラール（許されたもの）とハラーム（禁じられたもの）に最も通じた教友の一人によって教えられることになったのです。

ヒジュラ暦 8 年は驚くべき年でした。ムウタ、マッカ征服、フナイン、ターイフ、そしてジウラーナ。アラビア半島は急速に変わりました。翌年のヒジュラ暦 9 年は、新たな試練 — 灼熱の夏にローマ帝国に向かった**タブークの遠征** — をもたらし、また、アラブ中の部族がイスラームに入るためにやって来た**使節団の年**ともなるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

財と心

ジウラーナの物語は、**財と心の関係**についての物語です。次の表は、それぞれの集団がどのように試され、その試練にどう応えたかをまとめたものです。

集団	試練とその結果
入信したばかりの有力者たち	財を与えられた → 心が和らいだ（サフワーン）
非難した男	与えられなかった → 不公正だと非難した
アンサール	与えられなかった → 心を痛めた → 満足し、涙を流した
ハワーズィン族	すべてを失った → 悔悟した → 家族が戻った
マーリク・ブン・アウフ	敵の指揮官 → イスラームに入った → 再び長となった
アッラーの使徒 ﷺ	貧しさを恐れずに与えた；自分のためには取らなかった

この表から、**財は双方向の試練である**ことが分かります。受け取る者にとっては、感謝へ導くか貪欲へ導くか。受け取らない者にとっては、満足へ導くか妬みへ導くか。そして与える者にとっては、アッラーのための誠実さか、自分の利益のためか。

アッラーは最善の道を示しておられます。「**もしかれらが、アッラーとその使徒から与えられたものに満足して、『アッラーはわたしたちに十分であられる』と言ったならば（それはかれらにとって最善であったろうに）**」（悔悟章 9:59） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:59。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：132 / 634

物語の典拠

ジウラーナの物語は多くの真正なハディースによって伝えられ、スィーラの伝承によって補われています。次の表は、その二つを区別するものです。

出来事	典拠と等級
十夜あまりハワーズィン族を待った	『サヒーフ・ブハーリー』2307
アル＝ムアッラファへの贈与	『サヒーフ・ブハーリー』3150、4330；ムスリム 1060
サフワーン：憎しみから愛へ	『サヒーフ・ムスリム』2313
「公正にしなさい！」	『サヒーフ・ブハーリー』3138；ムスリム 1063
アンサールへの説教	『サヒーフ・ブハーリー』4330、4331
ハワーズィン族の捕虜の返還	『サヒーフ・ブハーリー』2307
ジウラーナからのウムラ	『サヒーフ・ブハーリー』1778
サアドの言葉；アンサールの涙	『ムスナド・アフマド』；ハサンと評価
ヤズィードとムアーウィヤへの贈与	スィーラ書
マーリク・ブン・アウフの入信	スィーラ書

物語の主な枠組み — アル＝ムアッラファへの贈与、不公正という非難、アンサールへの説教、ハワーズィン族の捕虜の返還、ジウラーナからのウムラ — は**真正なハディースによって確かめられています**。その他の詳細は、スィーラの伝承として正直に伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

財、贈与、公正についてのクルアーンの節

本書は、いくつかのクルアーンの節をさまざまな箇所で取り上げています。この章では、それらを一つの表にまとめ、まだ論じていない一節、悔悟章 9:58 を加えます。最後の列は、各節とジウラーナの出来事との関係を説明しています — その関係が真正なハディースに述べられているのか、それとも主題上の関係にすぎないのか。

節	要旨	ジウラーナとの関係
戦利品章 8:1	戦利品はアッラーと使徒のもの	分配の規定の基礎（第 4 章）
戦利品章 8:41	五分の一（フムス）はアッラー、使徒、定められた人々のもの	分配の規定の基礎（第 4 章）
悔悟章 9:58	施しの分配をそしる者がいる。与えられれば喜び、与えられなければ怒る	『サヒーフ・ブハーリー』6933 で、「公正にしなさい」と言った男の話の後に述べられている（第 12〜13 章）
悔悟章 9:59	もしかれらが満足して「アッラーはわたしたちに十分であられる」と言ったなら	主題上の関係（第 29 章）
悔悟章 9:60	ザカートを受け取る八つの範疇、アル＝ムアッラファ・クルーブフムを含む	主題上の関係；新しく入信した人々の範疇の基礎（第 5 章と第 33 章）
部族連合章 33:69	ムーサーを傷つけた人々のようになってはならない	アッラーの使徒 ﷺ は預言者ムーサーの忍耐を思い起こされた（『サヒーフ・ブハーリー』3150；第 14 章）
イムラーン家章 3:103 および 戦利品章 8:63	心を結び合わせるのはアッラーである	アンサールへの説教（第 18 章）
集合章 59:9 および 悔悟章 9:100	アンサールへのアッラーの賞賛	主題上の関係（第 22 章）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	要旨	ジウラーナとの関係
サバア章 34:39	あなたがたが費やすものは何であれ、アッラーがそれを補ってくださる	主題上の関係：アッラーの使徒 ﷺ の気前の良さ（第 7 章）

悔悟章 9:58：分配をそしる人々

アッラーは仰せられます。「かれらの中には、施しの（分配の）ことであなたをそしる者がいる。もしそれから与えられれば喜ぶが、与えられなければたちまち怒る」（悔悟章 9:58）。

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه の伝承の中で、アッラーの使徒 ﷺ に「公正にしなさい！」と言った男について、その終わりに、この節が彼らについて下されたと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』6933）。第 13 章で説明したように、イブン・ハジャルは、その男がジウラーナの男と同じ人物か、別の出来事かを論じています。いずれにせよ、この節はまさに同じ態度を描いています。

続く節（9:59）は出口を示しています。アッラーとその使徒の与えるものに満足し、「アッラーはわたしたちに十分であられる」と言うことです。この二つの節を合わせて読むと、何かを受け取る人にも受け取らない人にも、鏡となります。

教訓

人の誠実さの尺度は、与えられなかったときに現れます。満足が取り分しだいなら、その心はまだこの世に縛られています。「アッラーはわたしに十分であられる」と言う人こそ、たとえ手が空でも、最も豊かな人なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：135 / 634

大きな贈与を受けた人々とその後

ジウラーナで大きな贈与を受けたのは誰で、その後彼らに何が起こったのでしょうか。この表はその問いに答えます。最初の四人の名は真正なハディースに出てきます。残りはイブン・イスハークなどスィーラの学者が挙げているものです。彼らのその後は、イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』などの伝記書（教友伝）から取っています。

名前	部族／関係	贈与	その後（伝記書）
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	クライシュ族（ウマイヤ家）；ムアーウィヤとヤズィードの父	ラクダ百頭（『サヒーフ・ムスリム』1060）	イスラームにとどまる；戦いで片目を失った
サフワーン・ブン・ウマイヤ	クライシュ族（ジュマフ家）；ウマイヤ・ブン・ハラフの息子	ラクダ百頭（『サヒーフ・ムスリム』1060、2313）	立派なムスリムとなる；マッカで没した
ウヤイナ・ブン・ヒスン	ガタファーン族（ファザーラ家）	ラクダ百頭（『サヒーフ・ムスリム』1060）	アッラーの使徒ﷺの逝去後、一時背教者たちに従ったが、その後イスラームに戻った
アル＝アクラウ・ブン・ハービス	タミーム族（ダーリム家）	ラクダ百頭（『サヒーフ・ムスリム』1060）	イスラームにとどまる；諸地方の征服に加わった
アル＝アッバース・ブン・ミルダース	スライム族；詩人	百頭より少なかったが、詩の後に満たされた（『サヒーフ・ムスリム』1060；第 10 章）	イスラームにとどまる

名前	部族／関係	贈与	その後（伝記書）
ハキーム・ブン・ヒザーム	クライシュ族（アサド家）；父方のおばはハディージャ رضی اللہ عنہا	繰り返し求めて与えられた（『サヒーフ・ブハーリー』1472；第 9 章）	亡くなるまで誰からも何も求めないと誓った
ムアーウィヤとヤズィード・ブン・アビー・スフヤーン	クライシュ族（ウマイヤ家）；アブー・スフヤーンの息子たち	それぞれラクダ百頭（スィーラ書；第 8 章）	ヤズィードはシャームで軍を率いてそこで没した；ムアーウィヤはのちにカリフとなった
スハイル・ブン・アムル	クライシュ族（アーミル・ブン・ルアイ家）；アブー・ジャンダルの父	スィーラの学者の一覧に名がある	シャームで戦い、そこで没した
アル＝ハーリス・ブン・ヒシャーム	クライシュ族（マフズーム家）；アブー・ジャフルの兄弟	スィーラの学者の一覧に名がある	シャームで戦い、そこで没した
マーリク・ブン・アウフ・アン＝ナスリー	ハワーズィン（ナスル家）	家族と財産が返され、ラクダ百頭（スィーラ書；第 26 章）	ムスリムとなった一族を率いた；イラクの征服に加わった

スィーラの注：さまざまな名簿

大きな贈与を受けた人の完全な一覧について、スィーラの学者の意見は一致していません。イブン・イスハークは十五人ほどの名を挙げ、他の伝承の中にはそれより多いものも少ないものもあります。真正なハディースで確かなのは、『サヒーフ・ムスリム』1060 の名と、サフワーンとハキームの話です。

上の各人物のその後は、イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ・フィー・タムイーズ・アッ＝サハーバ』やイブン・アブドゥルバッルの『アル＝イスティーアーブ』などの伝記書から要約したものです。彼らの没年や没地の詳細には異説があるため、ここでは述べません。

一族をイスラームに導いた気前の良さ

このような贈与の影響は、受け取った人だけにとどまりませんでした。アナス رضي الله عنه は伝えています。ある男がアッラーの使徒 ﷺ に求めると、彼は二つの山の間の谷を埋めるほどの羊を与えられた。男は自分の一族のもとに帰って言った。「わが一族よ、イスラームに入りなさい。ムハンマドは貧しさを恐れない者のように与えるのだから」（『サヒーフ・ムスリム』2312）。

アナスは、この世のためだけにイスラームに入る人もいたが、まもなくイスラームがこの世とその中のすべてよりも愛しいものになったと付け加えています（同じ伝承）。ジウラーナで受け取った人々の多くにも、同じことが起こったのです。

教訓

人の心は変わりうるものです。ラクダのために来た男が信仰を持って帰ることもあり、かつての敵の指揮官がムスリムの指導者になることもあります。賢い宣教者は、人をその出発点だけで判断せず、導きが育つ余地を与えるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ 以後のアル＝ムアッラファ・クルーブフム

第 5 章では、アル＝ムアッラファ・クルーブフムが悔悟章 9:60 にあるザカートの八つの範疇の一つであることを説明しました。アッラーの使徒 ﷺ の逝去後に生じた問いは、この取り分は永遠に残るのか、ということです。学者たちはこれを慎重に論じており、その議論はしばしばウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه のある行動と結びつけられます。

スィーラの注：ウマルと二人の部族の長

ウヤイナ・ブン・ヒスンとアル＝アクラウ・ブン・ハービスは、アブー・バクル رضي الله عنه の治世に彼のもとに来て一区画の土地を求め、アブー・バクルは彼らのために贈与の文書を書いた、と伝えられています。ウマルはそれを見て同意せず、彼らに言いました。アッラーの使徒 ﷺ はイスラームの信者がまだ少なかったときにあなたがたの心を和らげておられたが、今やアッラーはイスラームを強くされた、と。

この話はイブン・アビー・シャイバとアル＝バイハキーが伝えています。その伝承経路はハディースの学者によって議論されており、断絶していると評価する人もいます。そのため、確かな典拠としてではなく、歴史的な伝承として伝えています。

ウマルは節を廃止したのか？

答えは「いいえ」です。アッラーの使徒 ﷺ の後、誰もクルアーンの節を廃止することはできません。学者たちは、ウマルはその贈与の理由（イッラ） — イスラームの強さのために心を和らげる必要 — が、その時点のその二人にはもはや存在しないと見たのだと説明します。その理由が再び生じれば、規定も戻ります。これが昔も今も多くの学者が支持する見解です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

法学派	新しく入信した人々の取り分についての要約
ハナフィー派	イスラームが強くなったので、この取り分はもはや与えられない；ウマルと教友たちの行動を根拠とする
マーリク派	二つの見解がある；広く支持される見解：必要があれば与えられる
シャーフィイー派	不信仰者にはザカートから与えない；すでにムスリムとなった者には、信仰を固めるため、あるいはその一族を引き寄せるために与える
ハンバル派	この取り分は残っており、必要があれば与えることができる。心を引き寄せるためや、害を避けるためも含む

この要約はイブン・クダーマの『アル＝ムグニー』とイブン・ルシュドの『ビダーヤト・アル＝ムジュタヒド』から取ったものです。各法学派の詳細は、一つの表に収まるよりもずっと幅広いものです。

今日のマレーシアの新しいムスリム

マレーシアでは、新しく入信した人々（ムアッラフ）は、州のザカート機関を通じてザカートを受け取る範疇（アスナーフ）の一つです。その援助は、宗教教育、生活の必要、新しい兄弟姉妹への指導に使われています。セランゴール州での新ムスリム向けザカート管理の事例研究は、Emerald Insight で読むことができます。これは、ジウラーナの精神が今も生きていることを示しています。イスラームに入ったばかりの人々を敬い、支えることです。

教訓

イスラームの規定には目的があり、教友たちはその目的を深く理解していました。規定の理由（イッラ）を理解することは宗教を変えることではなく、英知をもってそれを実践することです。今日の新しい兄弟姉妹は、敬われ、導かれ、助けられるべき「アル＝ムアッラファ」なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジウラーナ：昔と今

ジウラーナはマッカの北東にある谷で、マスジド・アル＝ハラームから約 25 キロメートルのところにあります（Discover Makkah）。ハラム（聖域）の外、マッカとターイフを結ぶ古い道の上にあります。ここでフナインの捕虜と戦利品が集められ、ここでアンサールへの説教がなされ、ここからアッラーの使徒 ﷺ はウムラのためにイフラームに入られたのです（『サヒーフ・ブハーリー』1778）。

場所	スィーラの中の出来事	今日
アル＝ジゥラーナ	フナインの戦利品の分配；アンサールへの説教；ウムラを行われたアッラーの使徒 ﷺ	ジウラーナ・モスク；ウムラを行いたいマッカの住民のイフラームの場所
タンイーム	アーイシャ رضى الله عنها は別離の巡礼のとき、ここからウムラのイフラームに入った（第 28 巻）	アーイシャ・モスク；マスジド・アル＝ハラームに最も近いイフラームの場所
アル＝フダイビーヤ	フダイビーヤの和約（第 15 巻）	アッ＝シュマイスィー地区；ここもマッカの住民のイフラームの場所
フナインの谷	フナインの戦い（第 22 巻）	マッカの東の谷；正確な場所は確定できない
ターイフ	ターイフ包囲（第 22 巻）	サラワート山地の町

ジウラーナからイフラームに入る

マッカにいてウムラを行いたい人は、イフラームに入るためにハラムの外（ハッル）に出なければなりません。ジウラーナは、アッラーの使徒 ﷺ ご自身がそこからイフラームに入られたことから、選ばれる場所の一つです。シャーフィイー派の学者は、マッカの住民がウムラのイフラームに入る最良の場所はジウラーナ、次にタンイーム、次にフダイビーヤであると述べています。この点についての議論は IslamWeb のファトワーで読むことができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ滞在中に二度目、三度目のウムラを行うマレーシアからの巡礼者の多くは、ジウラーナかタンイームに連れて行かれます。ジウラーナ・モスクに立つときは、思い出してください。この谷で、アンサールはひげが濡れるほど泣き、ここでアッラーの使徒 ﷺ は勝利を崇拝で締めくくられたのだと。

教訓

スィーラの場所は単なる観光地ではありません。それは生きた歴史の教室です。ある場所の物語を知っている巡礼者は、ただ団体についていくだけの巡礼者よりも、その崇拝をいっそう意味深く感じるでしょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：フナインからマディーナまで

次の表は、フナインの戦いからアッラーの使徒 ﷺ がマディーナに戻られるまでの出来事を並べたものです。正確な日付の多くはスィーラ書、特にイブン・サアドとアル＝ワーキディーによるもので、おおよその目安として読む必要があります。

時期（ヒジュラ暦 8 年）	出来事	典拠
シャウワール月の初め	イスラーム軍がマッカからフナインへ出発	スィーラ書（イブン・イスハーク）
シャウワール月	フナインの戦いとアウタースへの派遣隊（第 22 巻）	『サヒーフ・ブハーリー』4323；『サヒーフ・ムスリム』1775
シャウワール月〜ズル＝カアダ月初め	ターイフ包囲（第 22 巻）	『サヒーフ・ブハーリー』4325；期間には異説あり
ズル＝カアダ月初め	ジウラーナに到着；フナインの財と捕虜はすでに集められていた	スィーラ書（イブン・サアド）
十夜あまり	アッラーの使徒 ﷺ がハワーズィン族の悔悟を待たれる	『サヒーフ・ブハーリー』2307
ズル・カアダ	財の分配；アル＝ムアッラファへの大きな贈与	『サヒーフ・ムスリム』1060；『サヒーフ・ブハーリー』3150
ズル・カアダ	ある男が分配は不公正だと非難	『サヒーフ・ブハーリー』3138
ズル・カアダ	革の天幕でのアンサールへの説教	『サヒーフ・ブハーリー』4330、4331
ズル・カアダ	ハワーズィン族の使節が悔悟；捕虜が返される	『サヒーフ・ブハーリー』2307

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期（ヒジュラ暦 8 年）	出来事	典拠
ズル・カアダ	マーリク・ブン・アウフが来てイスラームに入る	スィーラ書
ズル＝カアダ月中旬の夜	夜のうちにジウラーナからウムラ	『サヒーフ・ブハーリー』1778；『ジャーミウ・ティルミズィー』935
ズル・カアダ	アッターブ・ブン・ウサイドがマッカの総督に任命される；ムアーズ・ブン・ジャバルが教える	スィーラ書
ズル＝カアダ月末	アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに到着	スィーラ書
ズル・ヒッジャ	アッターブ・ブン・ウサイドがマッカで巡礼の季節を率いる	スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ラジャブ月	タブークの遠征（第 24 巻）	『サヒーフ・ブハーリー』；スィーラ書

教訓

三か月足らずの間に、アッラーの使徒 ﷺ は戦い、包囲、財の分配、非難、説教、交渉、崇拝、そして指導者の任命を経験されました。どの事柄も、忍耐強く、整然と片づけられました。良い指導者は急がず、しかし事柄を宙に浮かせたままにもしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

フナインの戦利品についてのよくある質問

以下は、ジウラーナの出来事についてよく尋ねられる十二の質問と、短い答え、そして関連する章への参照です。

1. アル＝ムアッラファへの贈与は一種の賄賂だったのか？

いいえ。賄賂とは、真理を覆したり、権利のないものを得たりするための贈与です。アッラーの使徒 ﷺ の贈与は、信仰を固め、人々を地獄から救うためのものでした。『サヒーフ・ブハーリー』27 の彼の言葉のとおりです（第 5 章）。

2. なぜアンサールには大きな取り分が与えられなかったのか？

彼らの信仰がすでに堅固だったからです。アッラーの使徒 ﷺ は、不信仰を離れて間もない者たちの心を和らげるために与えたのであり、アンサールはアッラーの使徒 ﷺ を自分たちの家に連れて帰るのだと説明されました（『サヒーフ・ブハーリー』4330、4331；第 17 章）。

3. 悔悟章 9:58 は不公正だと非難した男について下されたのか？

アブー・サイード・アル＝フドリーの伝承では、この節がその男とその仲間について下されたと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』6933；第 31 章）。

4. ラクダ百頭を受け取ったのは誰か？

『サヒーフ・ムスリム』1060 は、アブー・スフヤーン、サフワーン・ブン・ウマイヤ、ウヤイナ・ブン・ヒスン、アル＝アクラウ・ブン・ハービスを挙げています。アル＝アッバース・ブン・ミルダースは少なく与えられ、その後満たされました。ほかの名はスィーラの学者が挙げているものです（第 32 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. 新しく入信した人々へのザカートの取り分は今もあるのか？

多数派の学者は、必要があれば今もあるとし、ハナフィー派はもはや与えられないとしています。マレーシアでは、新しく入信した人々（ムアッラフ）はザカートの範疇の一つです（第 33 章）。

6. ウマルが新しく入信した人々の取り分を止めたというのは本当か？

ウマルとウヤイナ、アル＝アクラウの話はイブン・アビー・シャイバとアル＝バイハキーが伝えていますが、その伝承経路は議論されています。学者たちは、ウマルは節を廃止したのではなく、彼らにはもはやその贈与の理由が存在しないと見たのだと説明しています（第 33 章）。

7. なぜアッラーの使徒 ﷺ は十夜あまりハワーズィン族を待たれたのか？

彼らが悔悟してやって来て、家族と財産を返すことができるよう望まれたからです。その待機は彼の慈悲を示しています（『サヒーフ・ブハーリー』2307；第 2 章）。

8. ハワーズィン族の捕虜はどのように公正に返されたのか？

アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに、自分の取り分の捕虜を快く返すよう求められ、代わりを望む者には、その後アッラーが授けられる最初の財から代わりが与えられることになりました（『サヒーフ・ブハーリー』2307；第 25 章）。

9. なぜジウラーナからのウムラは夜に行われたのか？

ムハッリシュ・アル＝カアビーは、彼が夜に出発し、夜明け前に戻られたと伝えています。多くの人がそれを知らなかったため、このウムラを数えない人もいたのです（『ジャーミウ・ティルミズィー』935；第 27 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

10. 今日、ジウラーナはどこにあるのか？

マッカの北東、マスジド・アル＝ハラームから約 25 キロメートルのところにあります。ジウラーナ・モスクは、ウムラを行いたいマッカの住民のイフラームの場所となっています（第 34 章）。

11. アッラーの使徒 ﷺ とハワーズィン族の関係は何か？

彼の乳母ハリーマは、ハワーズィン族の支族の一つであるサアド・ブン・バクル族の出身です。この乳縁を、ハワーズィン族の使節は根拠として持ち出しました（『スナン・アビー・ダーウード』5144；第 24 章）。

12. 今日の指導者にとって、この物語の主な教訓は何か？

指導者は公正でなければなりませんが、公正とは必ずしも均等ということではありません。贈与は必要と目的に応じて組み立てられるべきであり、指導者は、アッラーの使徒 ﷺ がアンサールに説明されたように、心を痛めた人々に自分の決定を説明する覚悟がなければなりません。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、学者の見解を区別することを思い出させてくれます。ジウラーナの物語の枠組みは真正なハディースによって確かめられており、名前、日付、数の詳細は、その等級に応じて伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ジウラーナは、**指導力、公正、誠実さ**についての「学校」です。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、財を使って心を結び合わせる方法、非難に忍耐をもって向き合う方法、忠実でありながら心を痛めた人々の心を落ち着かせる方法を教えられました。

教訓	ジウラーナから
架け橋としての財	アル＝ムアッラファ：心を結び合わせるために与える
貧しさを恐れずに与える	サフワーンへのラクダ三百頭
非難への忍耐	「アッラーがムーサーに慈悲をかけられますように」
過激主義への警戒	ハワーリジュ派の芽
個人的に諭す	革の天幕の中での説教
本当の価値の物差し	羊とラクダか、それともアッラーの使徒 ﷺ か？
池（アル＝ハウド）まで忍耐する	アスラについての遺言
誠実さと同意	ハワーズィン族の捕虜の返還
崇拝で締めくくる	ジウラーナからのウムラ

わたしたちの生活の中のジウラーナ

わたしたちがラクダ百頭を受け取ることはないかもしれません。しかし毎日、わたしたちは**比較**によって試されています。ほかの人がもっと多くを得たり、昇進したり、褒められたりして、自分はそうではないとき。そのときは、アッラーの使徒 ﷺ がアンサールに投げかけた問いを思い出してください。「**あなたがたは満足しないのか……**」もしわたしたちが信仰とスンナと、アッラーの使徒 ﷺ への愛を持ち帰るなら、はるかに価値あるものを持ち帰ったことになるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーが望まれるなら、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 24 巻 — タブークの遠征**へと続きます。灼熱の夏のローマ帝国への遠征、「苦難の軍」、アブー・バクル、ウマル、ウスマーンの寄進、言い訳をした偽善者たち、そして北への長い旅の物語です。アッラーこそ最もよくご存じです。

第 23 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンのタフスィール』（イムラーン家章 3:103；戦利品章 8:1、8:41、8:63；悔悟章 9:59〜60、9:100；部族連合章 33:69；集合章 59:9）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/60

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』6、17、27、1472、1778、2307、2821、3138、3149、3150、3405、3610、4330、4331、6034。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1060、1063、2312、2313、2506。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』935；『スナン・アビー・ダーウード』5144；アフマド『ムスナド』（アブー・サイード・アル＝フドリーのムスナド）。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— フナインの戦利品分配の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』— フナインの戦利品分配の英知の節。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— 五分の一税の書と遠征の書；『アル＝イサーバ・フィー・タムイーズ・アッ＝サハーバ』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ジウラーナでの財の分配の章。

一般の歴史

Wikipedia「Battle of Hunayn」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Hunayn

ウィキペディア「Ji'rana」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ji%27rana

ウィキペディア「Ansar (Islam)」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ansar_(Islam))

ウィキペディア「Safwan ibn Umayya」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safwan_ibn_Umayya

Wikipedia「Malik ibn Awf」。https://en.wikipedia.org/wiki/Malik_ibn_Awf

Wikipedia「Hawazin」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hawazin

ウィキペディア「Khawarij」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khawarij

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』6933（悔悟章 9:58）。https://sunnah.com/bukhari:6933

『サヒーフ・ムスリム』2312（貧しさを恐れない者のように与える）。https://sunnah.com/muslim:2312a

『サヒーフ・ムスリム』1060（ラクダ百頭を受け取った人々）。https://sunnah.com/muslim:1060a

『サヒーフ・ブハーリー』2307（ハワーズィン族の使節）。https://sunnah.com/bukhari:2307

『ジャーミウ・ティルミズィー』935（夜のジウラーナからのウムラ）。https://sunnah.com/tirmidhi:935

クルアーン、悔悟章 9:58。https://quran.com/9/58

クルアーン、悔悟章 9:60。https://quran.com/9/60

Discover Makkah「Al Jaranah Mosque」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/landmarks/al-jaranah-mosque

IslamWeb、ジウラーナからのイフラームについてのファトワー。https://islamweb.net/en/printfatwa.php?id=418057

Managing the Institution of Zakat: Case Study of Muallaf in Selangor, Malaysia。https://emerald.com/insight/content/doi/10.1108/978-1-78635-899-820161016

第三部

タブークの遠征

預言者伝（スィーラ）— 第 24 巻

困難の軍、教友たちの施し、北への長い旅 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

タブークの遠征

ヒジュラ暦 8 年は、勝利に次ぐ勝利で終わりました。マッカは開かれ、フナインで勝利し、アラブの諸部族がイスラームを受け入れにやって来始めました。しかしヒジュラ暦 9 年は、違う試練をもたらしました — 誰が本当に信仰しており、誰がただ流れに乗っているだけなのかを選り分ける試練です。その試練こそ**タブークの遠征**でした。

この第 24 巻は、**七百キロメートル**以上北へ進み、**灼熱の夏**に、マディーナのナツメヤシが熟しかけていた時期に、ローマ帝国に立ち向かった旅を語ります。それは並外れた**施し**、行けなかった人びとの**涙**、偽信者たちの**言い訳**、そして道中の**奇跡**の物語です。取り残された三人の教友 — カアブ・ブン・マーリクを含む — の物語は、第 25 巻で語られます。

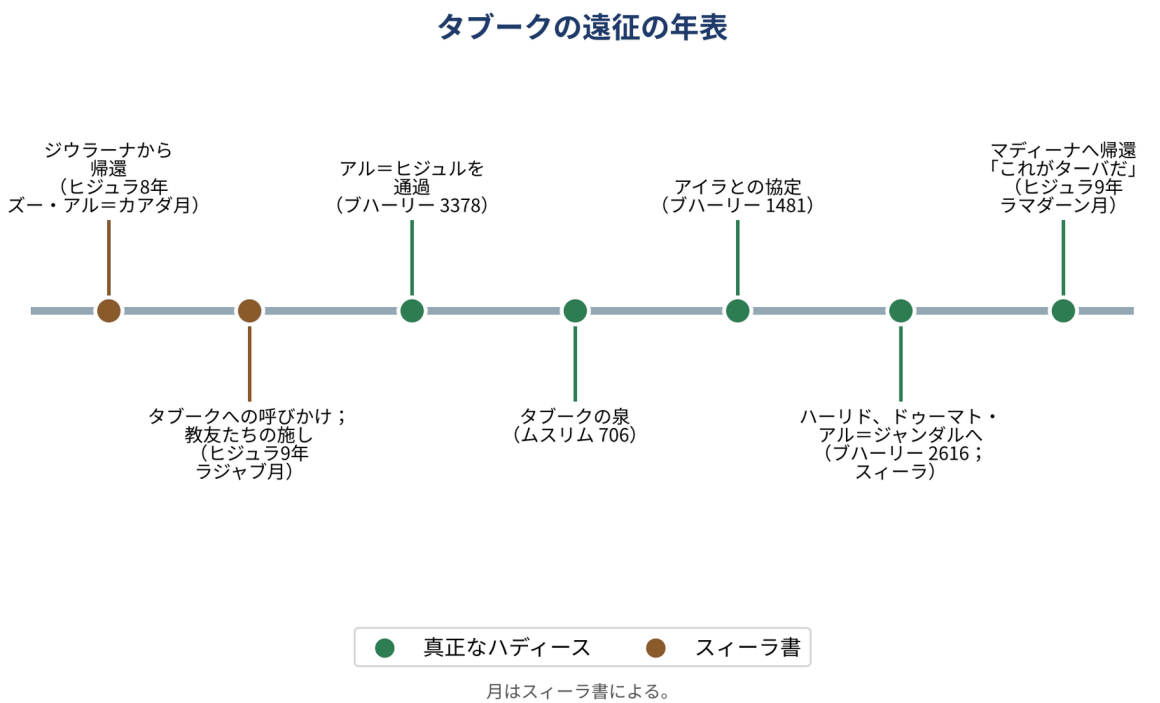


図 1：タブークの遠征の年表。

注：本書のクルアーンの節の訳は、三田了一訳を用いています。各ハディースの等級はハディースの枠に記しています。スィーラ書からの情報 — ローマ軍の集結の知らせ、アル＝ジャッド・ブン・カイスの言い訳、アブー・ザッルが一人で歩いた話など — は茶色の枠「スィーラの注」に収めています。その多くは、連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

勝利の年の後

ヒジュラ暦 8 年の終わりにジウラーナから戻られた後、アッラーの使徒 ﷺ は数か月間マディーナに留まられました。イスラームはアラビア半島全体に急速に広まりました。南から中央部まで、かつて様子を見ていた諸部族が、今やイスラームへとやって来ました。

しかし北、シャームとの境には、世界の大国がそびえていました。**ビザンツ・ローマ帝国**です。その二年前、三千人のムスリムが**ムウタ**（第 19 巻）でローマ軍とそのアラブの同盟者に立ち向かい、三人の指揮官が殉教しました。ローマは、自らの国境の南に新しい勢力が現れるのを黙って見てはいないでしょう。

タブークの遠征は、スィーラ書によれば**ヒジュラ暦 9 年ラジャブ月**に起こりました。それは**最後の戦い**で、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が参加され、ご自身が率いられた中で最大の軍でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

シャームからの知らせ

スィーラの注：ローマ軍の集結

スィーラ学者たちは、シャームから油を運んでくるナバテア人（アンバート）の商人たちを通じて、**ローマが大軍を集めている**という知らせがマディーナに届いたと伝えています。ラフム、ジュザーム、アーミラ、ガッサーンといったキリスト教徒のアラブ諸部族も加わり、その前衛はすでにアル＝バルカーに達していたというのです。

一部の学者は、この知らせは完全に正確ではなかったと述べています。ムスリムたちがタブークに着いたとき、ローマ軍は見当たらなかったからです。この詳細は**スィーラ書の伝承**です（アル＝ワーキディーとイブン・サアド）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『マガーズィー（遠征記）』；イブン・サアド『大列伝』— タブーク遠征。

アッラーの使徒 ﷺ は、敵がマディーナに来るのを待たれませんでした。国境で**迎え撃つために出陣する**ことを選ばれたのです。この決断は軍事戦略であるだけでなく、アラブ全体とローマへの**メッセージ**でもありました。ムスリムたちは、当時世界最大の勢力に向き合っても恐れない、と。

教訓：**知らせは確かめなければならない**が、それでも警戒は必要です。アッラーの使徒 ﷺ は手元の情報に基づいて用心の措置をとられ、アッラーは戦闘が起こらなかったにもかかわらず、その旅を英知に満ちたものとされました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

はっきりとした呼びかけ

アッラーの使徒 ﷺ は、戦いに出られるときには**行き先を秘密にする**のが常でした — マッカ征服（第 20 巻）で見たとおりです。しかしタブークの遠征は違いました。カアブ・ブン・マーリク رضي الله عنه は語っています。アッラーの使徒 ﷺ は、戦いに出られるとき、ほとんどいつも別の場所を口にしてそれを隠されたが、**この戦いまではそうであった。この戦いは激しい暑さの中で、遠い旅路と砂漠、そして大勢の敵に向かうものだったので、**ムスリムたちに事柄をはっきりと示され**、備えができるようにされた、と（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

なぜ違ったのでしょうか。**必要な準備がきわめて大きかった**からです。夏の長旅には、水、食料、ラクダ、そして大量の物資が必要でした。一人ひとりが何に直面するのかを知ってこそ、それにふさわしい備えができます。困難について率直であることは、**選り分け**にもなります — 本当に信仰する者だけが応えるのです。

すべての指導者への教訓：ときには**秘密**が必要であり、ときには**透明性**のほうが優先されます。英知とは、どちらをいつ用いるべきかを知ることです。ある務めが大きな犠牲を求めるとき、人びとは自分に何が求められているのかを知る権利があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

夏と熟したナツメヤシ

タブークへの呼びかけは、最も困難な時期に来ました。夏は盛りで、**マディーナのナツメヤシの実は熟しかけていました** — マディーナの人びとが一年中待ち望んでいた時です。ナツメヤシは彼らの主な糧だったからです。カアブ・ブン・マーリクは、使徒が「**果実が実り、木陰が心地よいときに**」出発されたと述べています。

一部の人びとは出陣を重く感じ、アッラーは彼らを戒められました。「**信仰する者よ、あなたがたはどうしたのか。アッラーの道に進んで出征せよと言われると、あなたがたは地上に重く腰を下ろしてしまう。あなたがたは来世よりも現世の生活に満足するのか**」（悔悟章 9:38）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:38。

そしてアッラーは命じられました。「**軽装でも重装でも出征せよ**」（悔悟章 9:41）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:41。

タブークの試練は、**現世と来世**の間の試練が最もはっきりした形で現れたものでした。一方には木陰とナツメヤシの実、もう一方には焼けつく砂漠と大きな敵。わたしたち一人ひとりも、自分自身の「タブーク」に直面します — アッラーへの服従が、目の前にある安楽を捨てることを求める瞬間です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャイシュ・アル＝ウスラ：困難の軍

タブークの軍は、クルアーンが永遠に記した名で知られています。**ジャイシュ・アル＝ウスラ** — 困難の軍です。アッラーは仰せられます。

「アッラーは、預言者と、困難の時にかれに従ったムハージルーンとアンサールの悔悟を受け入れられた」（悔悟章 9:117）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:117。

困難はあらゆる面に及びました。**乗り物の不足**のため数人が一頭のラクダに交代で乗り、**食料の不足**のため一粒のナツメヤシを二人で分け、焼けつく暑さの中で**水が不足**しました。イブン・カスィールは、ウマル رضى الله عنه が、ひどい渇きのためにラクダを屠り、その胃の中身を絞って飲む者さえいたと語ったという伝承を挙げています。

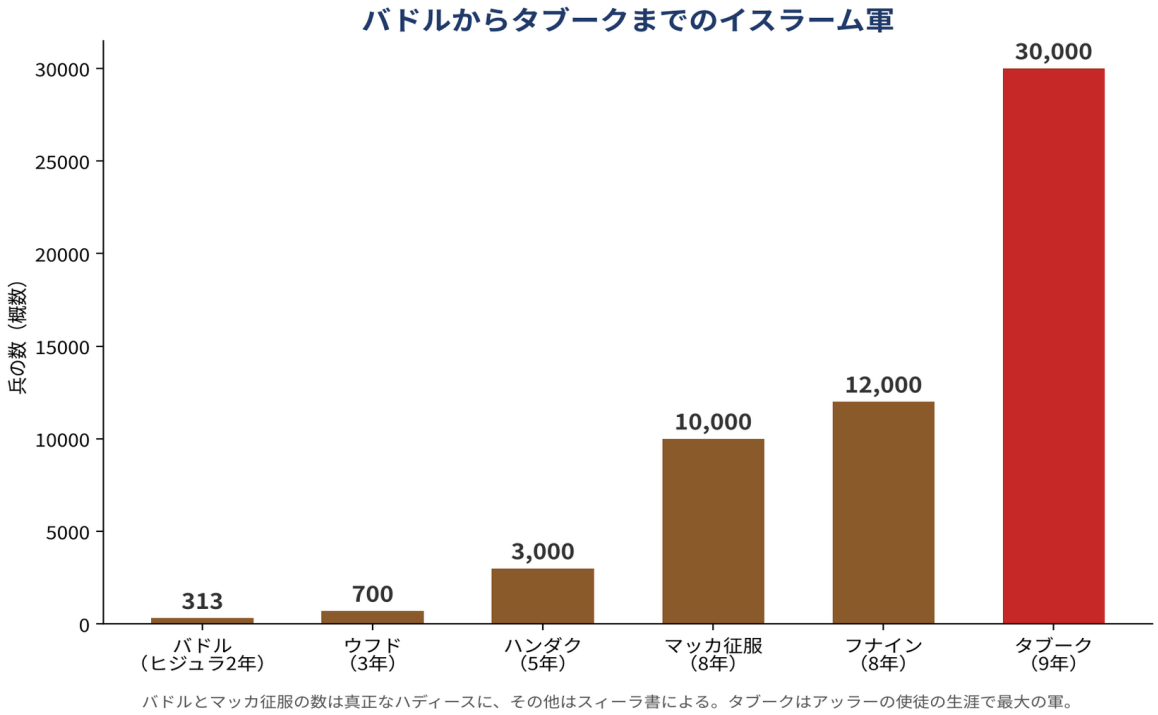


図 2：バドルからタブークまでのイスラーム軍。

しかしこれほど大きな困難の中でも、スィーラ書はその軍がおよそ**三万人**であったと述べています — アッラーの使徒 ﷺ の生涯で最大の軍です。バドルとの違いを見て

ください。七年のうちに、かつて 313 人だった共同体が、世界帝国に立ち向かえる勢力となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウスマーン・ブン・アッファーンの施し

これほどの軍には大きな費用が必要でした。アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに施しを呼びかけ、こう仰せられました。「**困難の軍を整える者には、楽園がある。**」そこで**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه がそれを整えました（『サヒーフ・ブハーリー』遺言の書、第 2778 番の前、注記〔タアリーク〕として）。アブドゥッラフマーン・ブン・サムラ رضى الله عنه は、忘れられない瞬間を目撃しました。

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 3701 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، قَالَ حَدَّثَنَا الْحَسَنُ بْنُ وَاقِعٍ الرَّمْلِيُّ، قَالَ حَدَّثَنَا ضَمْرَةُ بْنُ رَبِيعَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ شَوْذَبٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ الْقَاسِمِ، عَنْ كَثِيرٍ، مَوْلَى عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ سَمُرَةَ عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ ابْنِ سَمُرَةَ، قَالَ جَاءَ عُثْمَانُ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بِأَلْفِ دِينَارٍ - قَالَ الْحَسَنُ بْنُ وَاقِعٍ وَكَانَ فِي مَوْضِعٍ آخَرَ مِنْ كِتَابِي فِي كُمِّهِ حِينَ جَهَّزَ جَيْشَ الْعُسْرَةِ فَنَثَرَهَا فِي حِجْرِهِ. قَالَ عَبْدُ الرَّحْمَنِ فَرَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يُقَلِّبُهَا فِي حِجْرِهِ وَيَقُولُ «مَا ضَرَّ عُثْمَانَ مَا عَمِلَ بَعْدَ الْيَوْمِ». مَرَّتَيْنِ.

訳：

アブドゥッラフマーン・ブン・サムラ رضى الله عنه より。彼は言った。ウスマーンは預言者 ﷺ のもとに**千ディーナール**を持って来た — アル＝ハサン・ブン・ワキーウは言った。わたしの別の記録では、（そのディーナールは）彼の袖の中にあった — **彼が困難の軍を整えたとき**のことである。彼はそれを使徒の膝の上に注いだ。アブドゥッラフマーンは言った。わたしは、預言者 ﷺ が膝の上でそれをひっくり返しながら、こう仰せられるのを見た。「**今日以後、ウスマーンが何をしても、それが彼を害することはない。**」使徒はそれを二度繰り返された。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・ブン・イスマーイール（アル＝ブハーリー） ← アル＝ハサン・ブン・ワキーウ・アッ＝ラムリー ← ダムラ・ブン・ラビーア ← アブドゥッラー・ブン・シャウザブ ← アブドゥッラー・ブン・アル＝

カースィム ← アブドゥッラフマーン・ブン・サムラの解放奴隷カスィール ← アブドゥッラフマーン・ブン・サムラ رضي الله عنه。

参照： イマーム・ティルミズィーの伝承、『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』美徳の諸章、ウスマーン・ブン・アッファーンの美徳の章、第 3701 番；アフマド第 20630 番にも。

等級： ハサン（良好）— イマーム・ティルミズィーは「ハサン・ガリーブ」と評価し、シャイフ・アルバーニーとダールッサラームもハサンと評価している。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:3701

このハディースの教訓

「**今日以後、ウスマーンが何をしても、それが彼を害することはない。**」学者たちは、これは**吉報**であると説明しています。その日のウスマーンの行いがあまりに大きかったため、彼の赦しと地位を保証するものとなった、という意味であり、罪を犯す許可ではありません。バドルの民についての同様の言葉（第 20 巻）と同じです。

スィーラ書は、ウスマーンがその千ディーナールに加えて、**鞍と装具を備えた数百頭のラクダ**を寄進したと述べています。ウスマーンの富は自分のためではなく、**アッラーの宗教**のためにありました。ルーマの井戸を買ってムスリムのためにワクフ（寄進）したのも彼です。これこそ信仰ある商人の模範です。**富は手にあり、心にはない。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルとウマルの競い合い

スィーラの注：「わたしは家族のためにアッラーとその使徒を残してきました」

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه は語っています。アッラーの使徒 ﷺ が施しをするよう命じられたとき、ウマルには財産がありました。彼は心の中で言いました。「今日こそアブー・バクルに先んじよう、もし先んじることができるなら。」彼は**財産の半分**を持ってきました。アッラーの使徒 ﷺ は尋ねられました。「家族には何を残してきたのか。」彼は答えました。「同じだけです。」それからアブー・バクルが**財産のすべて**を持ってきました。使徒は尋ねられました。「家族には何を残してきたのか。」アブー・バクルは答えました。**「わたしは彼らのためにアッラーとその使徒を残してきました。」**ウマルは言いました。「わたしは何事においても、決して彼に先んじることはできない。」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3675、アルバーニーはハサンと評価）

このハディースはタブークをはっきりとは述べていません。**スィーラ学者たち**がこれを困難の軍の準備と結びつけています。そのためこの注に収めました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

この話は、健全な**善行の競い合い**を描いています。ウマルがアブー・バクルを羨んだのは妬みからではなく、服従において先んじたかったからです。そして負けたとき、彼は友の優れた点を広い心で認めました。アッラーは仰せられます。**「これを求めて、熱望する者に熱望させなさい」**（量を減らす者章 83:26）。

また、アッラーの使徒 ﷺ がアブー・バクルの全財産を**受け取られた**のは、彼の信仰と神への信頼の強さを知っておられたからである一方、別の状況では教友に全財産を施さないよう助言されたことにも注目してください（サアド・ブン・アビー・ワ

ッカースのように、『サヒーフ・ブハーリー』2742）。法規定は、その人の**状況と信仰の強さ**によって異なるのです。

ーサーのナツメヤシの施し

すべての教友がウスマーンやアブー・バクルのように裕福だったわけではありません。多くは貧しかったのですが、彼らもまた寄付したいと願いました。アブー・マスウード・アル＝アンサーリー رضي الله عنه は語っています。施しについての節が下ったとき、彼らは背中で荷物を運んで賃金を得て、それを施しました。ある男が多くの施しを持ってくると、偽信者たちは言いました。「**見せびらかしている。**」別の男が**ーサー（升）のナツメヤシ**を持ってくると、彼らは言いました。「**アッラーはこの男のーサーなど必要とされない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4668）

そこでアッラーは彼らを擁護する節を下されました。「**信者の中で自ら進んで施す者や、自分の努力の外には（施す物を）見いだせない者を誹謗し、嘲る者たち、アッラーはかれらを嘲られる**」（悔悟章 9:79）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:79。

偽信者たちは決して満足しませんでした。多く与える者は見せびらかしと非難され、少なく与える者は嘲られました。しかしアッラーが評価されるのは、額ではなく**誠実さと努力**です。懸命に働いて得たーサーのナツメヤシは、誠実でない者の千ディーナールよりも、アッラーの御許では重いかもしれません。

教訓：**小さな施しを軽んじてはならない。**そして他人の意図を裁くことに心を奪われてはなりません。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**たとえナツメヤシの実の半分ででも、地獄の火から身を守りなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』1417）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：164 / 634

泣いた人びと

タブークの準備の中で最も心を打つ光景の一つは、乗り物を買うことができず、アッラーの使徒 ﷺ のもとに乗り物を求めて来た貧しい教友たちの一団です。使徒に与えるものが何もなかったとき、彼らは**泣きながら**帰って行きました。アッラーは彼らの涙をクルアーンに永遠に記されました。

「またあなたに（戦のための）乗り物を求めて来たとき、あなたが『わたしにはあなたがたに提供する乗り物がない。』と告げると、両目に涙をたたえて（馬などを購入する）資金のないことを悲しんで帰っていく人びと（も非難される筋はない）。」（悔悟章 9:92）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:92。

スィーラ書は彼らを**アル＝バッカーウーン** — 泣いた人びと — と呼び、アンサールその他から七人の名を挙げています。彼らが泣いたのは財を拒まれたからではなく、**アッラーの道で奮闘する機会を逃した**からでした。言い訳を探して行かなかった偽信者たちと比べてみてください。

その前の節は、イスラームにおける正当な理由の原則を定めています。**「弱い者や病人、また（戦費として）費やす物を持たない者は、アッラーとその使徒に誠実である限り、（出征しなくても）罪はない」**（悔悟章 9:91）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:91。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アシュアリー族のための乗り物

乗り物を求めて来た一団の一つは、イエメンの**アシュアリー族**で、アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه が代表として来ました。アブー・ムーサーは、自分の悲しみも含めて、その出来事を率直に語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4415 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ بُرَيْدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَرْسَلَنِي أَصْحَابِي إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَسْأَلُهُ الْحُمْلاَنَ لَهُمْ، إِذْ هُمْ مَعَهُ فِي جَيْشِ الْعُسْرَةِ وَهْىَ غَزْوَةُ تَبُوكَ فَقُلْتُ يَا نَبِيَّ اللَّهِ، إِنَّ أَصْحَابِي أَرْسَلُونِي إِلَيْكَ لِتَحْمِلَهُمْ. فَقَالَ «وَاللَّهِ لاَ أَحْمِلُكُمْ عَلَى شَىْءٍ». وَوَافَقْتُهُ، وَهْوَ غَضْبَانُ وَلاَ أَشْعُرُ، وَرَجَعْتُ حَزِينًا مِنْ مَنْعِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، وَمِنْ مَخَافَةِ أَنْ يَكُونَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَجَدَ فِي نَفْسِهِ عَلَىَّ، فَرَجَعْتُ إِلَى أَصْحَابِي فَأَخْبَرْتُهُمُ الَّذِي قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، فَلَمْ أَلْبَثْ إِلاَّ سُوَيْعَةً إِذْ سَمِعْتُ بِلاَلاً يُنَادِي أَىْ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ قَيْسٍ. فَأَجَبْتُهُ، فَقَالَ أَجِبْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَدْعُوكَ، فَلَمَّا أَتَيْتُهُ، قَالَ «خُذْ هَذَيْنِ الْقَرِينَيْنِ ـ وَهَذَيْنِ الْقَرِينَيْنِ لِسِتَّةِ أَبْعِرَةٍ ابْتَاعَهُنَّ حِينَئِذٍ مِنْ سَعْدٍ ـ فَانْطَلِقْ بِهِنَّ إِلَى أَصْحَابِكَ فَقُلْ إِنَّ اللَّهَ ـ أَوْ قَالَ إِنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ـ يَحْمِلُكُمْ عَلَى هَؤُلاَءِ فَارْكَبُوهُنَّ». فَانْطَلَقْتُ إِلَيْهِمْ بِهِنَّ، فَقُلْتُ إِنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَحْمِلُكُمْ عَلَى هَؤُلاَءِ وَلَكِنِّي وَاللَّهِ لاَ أَدَعُكُمْ حَتَّى يَنْطَلِقَ مَعِي بَعْضُكُمْ إِلَى مَنْ سَمِعَ مَقَالَةَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لاَ تَظُنُّوا أَنِّي حَدَّثْتُكُمْ شَيْئًا لَمْ يَقُلْهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالُوا لِي إِنَّكَ عِنْدَنَا لَمُصَدَّقٌ، وَلَنَفْعَلَنَّ مَا أَحْبَبْتَ. فَانْطَلَقَ أَبُو مُوسَى بِنَفَرٍ مِنْهُمْ حَتَّى أَتَوُا الَّذِينَ سَمِعُوا قَوْلَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَنْعَهُ إِيَّاهُمْ، ثُمَّ إِعْطَاءَهُمْ بَعْدُ، فَحَدَّثُوهُمْ بِمِثْلِ مَا حَدَّثَهُمْ بِهِ أَبُو مُوسَى.

訳：

アブー・ムーサー رضى الله عنه より。彼は言った。仲間たちがわたしをアッラーの使徒 ﷺ のもとに遣わし、彼らのために**乗り物（ラクダ）**を求めさせた。彼らは**困難の軍、すなわちタブークの遠征**に使徒と共に出征したかったのである。わたしは言った。「アッラーの預言者よ、仲間たちがあなたに乗り物を与えていただくよう、わたしを遣わしました。」使徒は仰せられた。**「アッラーにかけて、わたしはあなたがたにいかなる乗り物も与えない。」**わたしは、気づかないうちに、使徒が怒っておられるときにお会いしてしまったのだった。わたしは預言者 ﷺ に断られたことを悲しみ、使徒がわたしを快く思われないのではないかと案じて帰った。わたしは仲間たちのもとに戻り、預言者 ﷺ の言われたことを伝えた。ほどなくして、わたしはビラールが「アブドゥッラー・ブン・カイスよ！」と呼ぶのを聞いた。わたしが応えると、彼は言った。「あなたを呼んでおられるアッラーの使徒 ﷺ のもとへ参りなさい。」わたしが行くと、使徒は仰せられた。**「この二組のラクダと、この二組を取りなさい」** — 使徒がサアドから買ったばかりの六頭のラクダである — **「それを仲間たちのところへ連れて行き、こう言いなさい。アッラーが — あるいはアッラーの使徒 ﷺ が — あなたがたにこの乗り物を与えられた、だから乗りなさい、と。」**わたしはそれを彼らのもとへ連れて行き、言った。「預言者 ﷺ があなたがたにこの乗り物を与えられた。しかしアッラーにかけて、あなたがたの何人かがわたしと共に、アッラーの使徒 ﷺ の言葉を聞いた人のもとへ行くまで、わたしはあなたがたを放っておかない。わたしがアッラーの使徒 ﷺ の言われなかったことを語ったと、あなたがたに思われないように。」彼らは言った。「あなたはわたしたちにとって信頼できる人です。しかし、あなたの望むとおりにしましょう。」そこでアブー・ムーサーは彼らの何人かと共に、アッラーの使徒 ﷺ が断られたことと、その後に与えられたことを聞いた人びとのもとへ行き、彼らはアブー・ムーサーが語ったのと同じことを語った。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ・ハンマード・ブン・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー ← アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、タブーク遠征の章、第 4415 番；第 3133、6623 番およびムスリム第 1649 番にも。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4415

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、そのとき実際に何もなく、また別の事柄で怒っておられたため、初めは乗り物を与えないと誓われました。しかしラクダが届くと、お与えになりました。別の伝承で、使徒はこう説明されています。「**わたしは何かについて誓い、その後で別のことがより良いと分かったなら、必ずより良いほうを行い、誓いの償いをする**」（『サヒーフ・ブハーリー』6623）。

また、知らせを伝える際の**アブー・ムーサーの慎重さ**にも注目してください。彼は、自分がアッラーの使徒 ﷺ の言葉をでっち上げたと仲間に思われたくなかったので、彼らを他の証人のもとへ連れて行きました。これこそ**伝承の真実を守る**教友たちの精神であり、ハディース学の土台となった精神です。

偽信者たちの言い訳

タブークが教友たちの誠実さを際立たせたとすれば、それはまた**偽信者たちの本当の顔をあらわにした**のでもあります。悔悟章の大部分はこの出来事について下されました。そのため、この章は**アル＝ファーディハ** — 「暴き出すもの」 — とも呼ばれます。彼らの心の秘密を一つひとつ明るみに出したからです。アッラーは仰せられます。

「もし間近かに利得があり、また征途も短いならば、かれらは必ずあなたに従ったであろう。だがかれらには、道のりが（余りに）遠いと思われた。」（悔悟章 9:42）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:42。

この節は偽信者の心を的確に描いています。彼らは**たやすい利益と近い旅**なら従う用意がありました。フナインには戦利品がありましたが、タブークには暑さと距離と危険しかありません。そこで彼らは言い訳を作り始めたのです。

「かれらの中、『わたしを許して（家に留め）、試みに会わせないで下さい。』と言う者もある。聞け、かれらは既に試みの中にいるではないか。」（悔悟章 9:49）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:49。

スィーラの注：アル＝ジャッド・ブン・カイス

タフスィール学者とスィーラ学者たちは、この節がサリマ族の**アル＝ジャッド・ブン・カイス**について下ったと伝えています。タブークへ誘われたとき、彼は言いました。「わたしを残らせてください。わたしを試みに遭わせないでください。わたしほど女性に惹かれる男はいないと、わたしの一族は知っています。ローマの女たちを見たら、わたしは我慢できないのではないかと心配なのです。」アッラーの使徒 ﷺ は彼から顔を背け、「あなたに許可しよう」と言われました。

この伝承はイブン・イスハーク、またタバリーとイブン・カスィールのタフスィールにいくつかの伝承経路で挙げられています。その一部は**強さが議論されています**が、意味はタフスィール学者の間でよく知られています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンのタフスィール』悔悟章 9:49。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/49

その皮肉を見てください。彼はローマの女性によって「試みに遭わされない」よう求めましたが、出征しなかったことでこそ、**より大きな試みに陥った**のです — アッラーの使徒 ﷺ を見捨てるという試みに。敬虔そうに見える言い訳が、怠惰と恐れを覆う毛布になることがあります。

スィーラ書は、出征しない許可を求めた偽信者たちが**八十数人**いたと述べています。アッラーの使徒 ﷺ は彼らの表向きの言い訳を受け入れ、心の秘密はアッラーに委ねられました。これが人と接するときのイスラームの原則です。**わたしたちは外に現れたものに基づいて判断し**、隠れたものはアッラーが扱われるのです。

「暑い中を出征するな」

偽信者たちは自分が出征しないだけでは満足せず、**他の人びとにも出征しないよう唆しました。**アッラーは彼らの言葉を記録され、揺さぶるような一言でそれに答えられました。

「（タブーク遠征にさいし）後方に留まった者は、アッラーの使徒の（出征した）後、残留していることを喜び、生命と財産を捧げて、アッラーの道のために奮闘努力することを嫌って、言った。『この炎暑の中に出征するな。』言ってやるがいい。『地獄の火は、もっとも厳しい熱さなのだ。』かれらがもし悟るならば。」（悔悟章 9:81）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:81。

「地獄の火は、もっと激しく熱い。」これこそ、すべてを正しい尺度に置く比較です。タブークの砂漠の暑さは数週間で過ぎ去ります。しかし服従を捨てて避けた暑さは、終わりのない暑さにつながるかもしれません。

アッラーの使徒 ﷺ はまた、現世の火は地獄の火の**七十分の一**にすぎないと仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』3265）。この真実を理解していた教友たちは、砂漠の太陽を恐れませんでした。彼らははるかに恐ろしいものを恐れていたのです。

わたしたちへの教訓：**難しい、疲れる、心地よくない**という理由で義務を怠る言い訳を探すたびに、クルアーンのこの問いを自分に投げかけてください。寒い中でファジュルの礼拝に起きること、暑い中で斎戒すること、苦しいときに施すこと — それらはすべて、避けようとしているものに比べれば小さなことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信の病を見分ける

タブークの出来事は、ムスリムたちに**偽信の特徴を見分ける**ことを教えました。それは他人を非難するためではなく、**自分自身を点検する**ためです。アッラーの使徒 ﷺ は、いくつかの真正なハディースでその徴を明らかにされました。使徒は仰せられました。**「偽信者の徴は三つある。話せば嘘をつき、約束すれば破り、信託されれば裏切る」**（『サヒーフ・ブハーリー』33）。

別の伝承では、もう一つの性質を加えられました。**「争えば度を越す」**。そして、これらの性質の一つでも持つ者には、それを捨てるまで**偽信の一部分**があると仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』34）。学者たちは、**信条上の偽信（ニファーク・イウティカーディー）** — 不信仰を隠すこと、タブークの偽信者たちのように — と、**行為上の偽信（ニファーク・アマリー）** — ムスリムにも見られうる悪い性質 — とを区別しています。

アッラーの使徒 ﷺ はまた仰せられました。**「偽信者たちにとって、ファジュルとイシャーの礼拝ほど重い礼拝はない。もしその二つに何があるかを知っていたなら、這ってでも来るであろう」**（『サヒーフ・ブハーリー』657）。タブークの暑さが彼らをあらわにしたように、**ファジュルとイシャーの暗さ**もまた、誰が本当に信仰しているかをあらわにするのです。

使徒は偽信者を**「二つの羊の群れの間をさまよう雌羊のように、あるときはこちらの群れへ、あるときはあちらの群れへ行く」**と描かれました（『サヒーフ・ムスリム』2784）。それがマディーナでの彼らの姿でした。あるときはムスリムと共に、あるときは敵と共に、確かな立場を持たずに。

教友たち自身も偽信をひどく恐れていました。イブン・アビー・ムライカは言いました。**「わたしは預言者 ﷺ の教友三十人に会ったが、みな自分自身に偽信があることを恐れていた」**（『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、注記〔タアリーク〕とし

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

て）。タブークに参加した人びとでさえ恐れていたのなら、わたしたちはなおさらです。

アリー：ムーサーにとってのハールーンのように

出発の前に、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナとご家族を守る者を任命する必要がありました。スィーラ書は、ムハンマド・ブン・マスラマがマディーナの統治を任され、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضي الله عنه が使徒のご家族を守るために残されたと述べています。アリーのような勇士にとって、後に残ることは非常につらいことでした。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4416 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ شُعْبَةَ، عَنِ الْحَكَمِ، عَنْ مُصْعَبِ بْنِ سَعْدٍ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ إِلَى تَبُوكَ، وَاسْتَخْلَفَ عَلِيًّا فَقَالَ أَتُخَلِّفُنِي فِي الصِّبْيَانِ وَالنِّسَاءِ قَالَ «أَلاَ تَرْضَى أَنْ تَكُونَ مِنِّي بِمَنْزِلَةِ هَارُونَ مِنْ مُوسَى إِلاَّ أَنَّهُ لَيْسَ نَبِيٌّ بَعْدِي».
وَقَالَ أَبُو دَاوُدَ حَدَّثَنَا شُعْبَةُ عَنِ الْحَكَمِ سَمِعْتُ مُصْعَبًا.

訳：

ムスアブ・ブン・サアドが、その父（サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه）から伝える。アッラーの使徒 ﷺ はタブークへ出陣され、**アリーを（マディーナでの）代理に任命された。**アリーは言った。「わたしを子どもと女たちと共に残して行かれるのですか。」使徒は仰せられた。「**あなたのわたしに対する立場が、ムーサーに対するハールーンの立場のようであることに、あなたは満足しないのか。ただし、わたしの後に預言者はいない。**」（アブー・ダーウード・アッ＝タヤーリスィーは「アル＝ハカムは言った。わたしはムスアブから聞いた」という言葉で伝えている。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド・ブン・ムサルハド ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← アル＝ハカム・ブン・ウタイバ ← ムスアブ・ブン・サアド ← その父サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、タブーク遠征の章、第 4416 番；第 3706 番およびムスリム第 2404 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4416

このハディースの教訓

スィーラ書は、偽信者たちが「**使徒は彼を嫌って置いて行ったのだ**」という噂を広めたと述べています。そこでアリーは武器を取り、アル＝ジュルフまでアッラーの使徒 ﷺ を追いかけました。そこで使徒は、アリーの最大の美徳の一つとなった言葉を語られたのです。

預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は、四十夜の主との語らいに出かけるとき、兄弟ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ に民を託されました（高壁章 7:142）。アッラーの使徒 ﷺ にとってのアリーもそうでした。**信頼できる代理**です。しかし使徒ははっきりと付け加えられました。「**ただし、わたしの後に預言者はいない**」 — 預言者性についてのあらゆる誤解を閉ざすためです。

教訓：**宗教におけるあらゆる務めには価値がある**。戦場で戦う者も、後方を守る者も、等しく奉仕しているのです。ときには、目立たない務めこそが最も大きな信託なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ハイサマとアブー・ザッル

軍が動き始め、誠実な教友の何人かは準備が遅れて取り残されました。その一人が**アブー・ハイサマ・アル＝アンサーリー** رضي الله عنه です。カアブ・ブン・マーリクの長いハディースの中で、アッラーの使徒 ﷺ がタブークに座っておられたとき、白い衣の男が蜃気楼の中を遠くからやって来るのが見えたと語られています。使徒は仰せられました。「**アブー・ハイサマであれ！**」そして本当にそれはアブー・ハイサマ・アル＝アンサーリーでした — **かつて一サーのナツメヤシを施して偽信者たちに嘲られた男**です（『サヒーフ・ムスリム』2769）。

アッラーがどのように物語をつなげられるかを見てください。一サーのナツメヤシのために嘲られた貧しい男（第 8 章）が、アッラーの使徒 ﷺ に加わるために一人で砂漠を越えた男と同じ人物だったのです。偽信者たちは嘲りましたが、**アッラーは高められた**のです。

スィーラの注：アブー・ハイサマ、木陰と妻たち；一人で歩いたアブー・ザッル

イブン・イスハークは、アブー・ハイサマが暑い日に自分の果樹園に戻ると、二人の妻が日陰の小屋に水を撒き、冷たい水と食事を用意していたと伝えています。彼は言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ は灼熱の太陽と熱風の下におられるのに、アブー・ハイサマは涼しい木陰で、食事が用意され、美しい妻たちと共にいるのか。これは公正ではない！**」そして彼はラクダを用意し、使徒の後を追いました。

イブン・イスハークはまた、**アブー・ザッル** رضي الله عنه がラクダが弱っていたために遅れ、荷物を担いで**一人で歩いて行った**とも伝えています。遠くに彼の姿が見えたとき、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「アブー・ザッルであれ！」そしてこう仰せられました。「**アッラーがアブー・ザッルに慈悲をかけられますように。彼は一人で歩き、一人で死に、一人で復活させられるであろう。**」この二つの話は**スィーラの伝承**であり、特にアブー・ザッルの話は弱い伝承経路で伝えられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ヒジュル：サムード族の地

北への道中、イスラーム軍は並外れた場所を通りました。**アル＝ヒジュル**、すなわち預言者サーリフ عَلَيْهِ السَّلَامُ の民、サムード族の地です。そこには岩山を彫って造られた家々が立っていました — かつて強大だったが、自分たちの使徒を拒んだために滅ぼされた文明の遺跡です。アッラーは仰せられます。

「**ヒジュルの仲間も使徒たちを嘘つきとして拒否した。**」（アル・ヒジュル章 15:80）— 『イブン・カスィールのタフスィール』15:80。

「**かれらは（岩）山に家を彫り込み、安全であると考えていた。**」（アル・ヒジュル章 15:82）— 『イブン・カスィールのタフスィール』15:82。

「**それである朝、一声（懲罰）が、かれらを襲って、**」（アル・ヒジュル章 15:83）— 『イブン・カスィールのタフスィール』15:83。

疲れ果て渇いていた教友たちは、そこで井戸を見つけ、水を汲んでパン生地をこねました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は驚くべき指示を与えられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3378 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مِسْكِينٍ أَبُو الْحَسَنِ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ حَسَّانَ بْنِ حَيَّانَ أَبُو زَكَرِيَّاءَ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ دِينَارٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَمَّا نَزَلَ الْحِجْرَ فِي غَزْوَةِ تَبُوكَ أَمَرَهُمْ أَنْ لاَ يَشْرَبُوا مِنْ بِئْرِهَا، وَلاَ يَسْتَقُوا مِنْهَا فَقَالُوا قَدْ عَجَنَّا مِنْهَا، وَاسْتَقَيْنَا. فَأَمَرَهُمْ أَنْ يَطْرَحُوا ذَلِكَ الْعَجِينَ وَيُهَرِيقُوا ذَلِكَ الْمَاءَ. وَيُرْوَى عَنْ سَبْرَةَ بْنِ مَعْبَدٍ وَأَبِي الشُّمُوسِ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم أَمَرَ بِإِلْقَاءِ الطَّعَامِ. وَقَالَ أَبُو ذَرٍّ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم «مَنِ اعْتَجَنَ بِمَائِهِ».

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما より。アッラーの使徒 ﷺ はタブークの遠征で**アル＝ヒジュル**に立ち寄られたとき、**その井戸の水を飲まず、そこから水を汲まないよう**命じられ

た。彼らは言った。「わたしたちはその水でパン生地をこね、水も汲んでしまいました。」そこで使徒は、**その生地を捨て、その水を流す**よう命じられた。（イマーム・ブハーリーは言った。）サブラ・ブン・マアバドとアブー・アッ＝シュムースからも、預言者 ﷺ がその食べ物を捨てるよう命じられたと伝えられている。またアブー・ザッルは預言者 ﷺ から「その水で生地をこねた者は」と伝えている。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ミスキーン ← ヤフヤー・ブン・ハッサーン ← スライマーン・ブン・ビラール ← アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』預言者たちの伝承の書、至高なるアッラーの御言葉「またサムードには同胞のサーリフを」の章、第 3378 番；第 3379–3381、4419–4420 番およびムスリム第 2981 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3378

このハディースの教訓

渇きと飢えの中で、**水とパンを捨てる**ことは大きな犠牲でした。しかし教友たちは問い返すことなく従いました。『サヒーフ・ブハーリー』の別の伝承（3379）は、使徒が**預言者サーリフの雌ラクダが飲んだ井戸**から水を汲むよう命じられたと述べています — 禁止は水そのものではなく、**アッラーのお怒りを受けた場所**にあったことを示しています。

今日、サウジアラビア北部のアル＝ヒジュル（マダーイン・サーリフ）の遺跡は**観光名所**となっています。学者たちは、この場所でのアッラーの使徒 ﷺ の作法は、楽しみはしゃぐことではなく、**教訓を汲み取りながら**通り過ぎることだと注意を促しています。懲罰が下った場所なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「泣きながらでなければ入ってはならない」

サムード族の住居を通り過ぎるとき、アッラーの使徒 ﷺ は心に響く戒めを与えられました。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما は、使徒がこう仰せられたと伝えています。「**自らを不当に扱った者たちの住まいには、泣きながらでなければ入ってはならない。彼らに下ったものがあなたがたに下らないように。**」そして使徒は**頭を覆い、歩みを速められ**、その谷を通り過ぎられました（『サヒーフ・ブハーリー』4419；4420）。

ここでの泣くことは、ただの涙ではなく、**恐れと反省の心**です。同じ懲罰が下ることへの恐れと、山を彫って家にしたサムード族の力も、まったく彼らを救えなかったという反省です。「**かれらが稼いだものは、何の役にも立たなかった**」（アル・ヒジュル章 15:84）。

これは**歴史の授業**であり、アッラーの使徒 ﷺ が現地で直接教えられたものです。歴史は暗記するための物語ではなく、自分を見つめる**鏡**なのです。壮大であってもアッラーを忘れた文明はみな、アル＝ヒジュルのように終わります — 人びとが訪れる廃墟として。

学者たちはこのハディースから、懲罰が下った場所に必要もなく**立ち寄ったり泊まったりすることは忌避される（マクルーフ）**という規定と、教訓を汲み取りながら**足早に通り過ぎる**ことの勧めを導き出しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タブークの泉

長い旅の後、イスラーム軍は目的地に近づきました。ムアーズ・ブン・ジャバル رضى الله عنه は、**タブークの泉**で起こったことを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 706 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الدَّارِمِيُّ، حَدَّثَنَا أَبُو عَلِيٍّ الْحَنَفِيُّ، حَدَّثَنَا مَالِكٌ، - وَهُوَ ابْنُ أَنَسٍ - عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ الْمَكِّيِّ، أَنَّ أَبَا الطُّفَيْلِ، عَامِرَ بْنَ وَاثِلَةَ أَخْبَرَهُ أَنَّ مُعَاذَ بْنَ جَبَلٍ أَخْبَرَهُ قَالَ خَرَجْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَامَ غَزْوَةِ تَبُوكَ فَكَانَ يَجْمَعُ الصَّلاَةَ فَصَلَّى الظُّهْرَ وَالْعَصْرَ جَمِيعًا وَالْمَغْرِبَ وَالْعِشَاءَ جَمِيعًا حَتَّى إِذَا كَانَ يَوْمًا أَخَّرَ الصَّلاَةَ ثُمَّ خَرَجَ فَصَلَّى الظُّهْرَ وَالْعَصْرَ جَمِيعًا ثُمَّ دَخَلَ ثُمَّ خَرَجَ بَعْدَ ذَلِكَ فَصَلَّى الْمَغْرِبَ وَالْعِشَاءَ جَمِيعًا ثُمَّ قَالَ «إِنَّكُمْ سَتَأْتُونَ غَدًا إِنْ شَاءَ اللَّهُ عَيْنَ تَبُوكَ وَإِنَّكُمْ لَنْ تَأْتُوهَا حَتَّى يُضْحِيَ النَّهَارُ فَمَنْ جَاءَهَا مِنْكُمْ فَلاَ يَمَسَّ مِنْ مَائِهَا شَيْئًا حَتَّى آتِيَ». فَجِئْنَاهَا وَقَدْ سَبَقَنَا إِلَيْهَا رَجُلاَنِ وَالْعَيْنُ مِثْلُ الشِّرَاكِ تَبِضُّ بِشَىْءٍ مِنْ مَاءٍ - قَالَ - فَسَأَلَهُمَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «هَلْ مَسَسْتُمَا مِنْ مَائِهَا شَيْئًا». قَالاَ نَعَمْ. فَسَبَّهُمَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَقَالَ لَهُمَا مَا شَاءَ اللَّهُ أَنْ يَقُولَ - قَالَ - ثُمَّ غَرَفُوا بِأَيْدِيهِمْ مِنَ الْعَيْنِ قَلِيلاً قَلِيلاً حَتَّى اجْتَمَعَ فِي شَىْءٍ - قَالَ - وَغَسَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِيهِ يَدَيْهِ وَوَجْهَهُ ثُمَّ أَعَادَهُ فِيهَا فَجَرَتِ الْعَيْنُ بِمَاءٍ مُنْهَمِرٍ أَوْ قَالَ غَزِيرٍ - شَكَّ أَبُو عَلِيٍّ أَيَّتُهُمَا قَالَ - حَتَّى اسْتَقَى النَّاسُ ثُمَّ قَالَ «يُوشِكُ يَا مُعَاذُ إِنْ طَالَتْ بِكَ حَيَاةٌ أَنْ تَرَى مَا هَا هُنَا قَدْ مُلِئَ جِنَانًا».

訳：

ムアーズ・ブン・ジャバル رضى الله عنه より。彼は言った。わたしたちはタブークの遠征の年に、アッラーの使徒 ﷺ と共に出かけた。使徒は**礼拝を合わせて行われた**。ズフルとアスルを共に、マグリブとイシャーを共に礼拝された。ある日、使徒は礼拝を遅らせ、それから出て来てズフルとアスルを共に礼拝し、それから中に入り、その後また出て来てマグリブとイシャーを共に礼拝された。それから仰せられた。「**明日、アッラーがお望みなら、あなたがたはタブークの泉に着くであろう。だがドゥハーの時刻になる**

までは着かない。そこに着いた者は、わたしが来るまで、その水に少しも触れてはならない。」わたしたちが着くと、二人の男が先に着いていた。**泉は靴紐ほどの細さで、わずかな水が滴っているだけだった。**アッラーの使徒 ﷺ は二人に尋ねられた。「**その水に触れたか。**」彼らは「はい」と答えた。預言者 ﷺ は二人を咎め、アッラーがお望みになったことを彼らに言われた。それから人びとは泉から手で少しずつすくい、一つの器に集めた。アッラーの使徒 ﷺ はその中で手と顔を洗い、それを泉に戻された。**すると泉は勢いよく水を噴き出し**、人びとは水を汲むことができた。それから使徒は仰せられた。「**ムアーズよ、もしあなたの命が長ければ、ここが果樹園で満たされているのを見るであろう。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブドゥッラー・ブン・アブドゥッラフマーン・アッ＝ダーリミー ← アブー・アリー・アル＝ハナフィー ← マーリク・ブン・アナス ← アブー・アッ＝ズバイル・アル＝マッキー ← アブー・アッ＝トゥファイル・アーミル・ブン・ワースィラ ← ムアーズ・ブン・ジャバル رضي الله عنه。

参照： イマーム・ムスリムの伝承、『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、預言者 ﷺ の奇跡の章、第 706 番；マーリク『ムワッタア』にも。

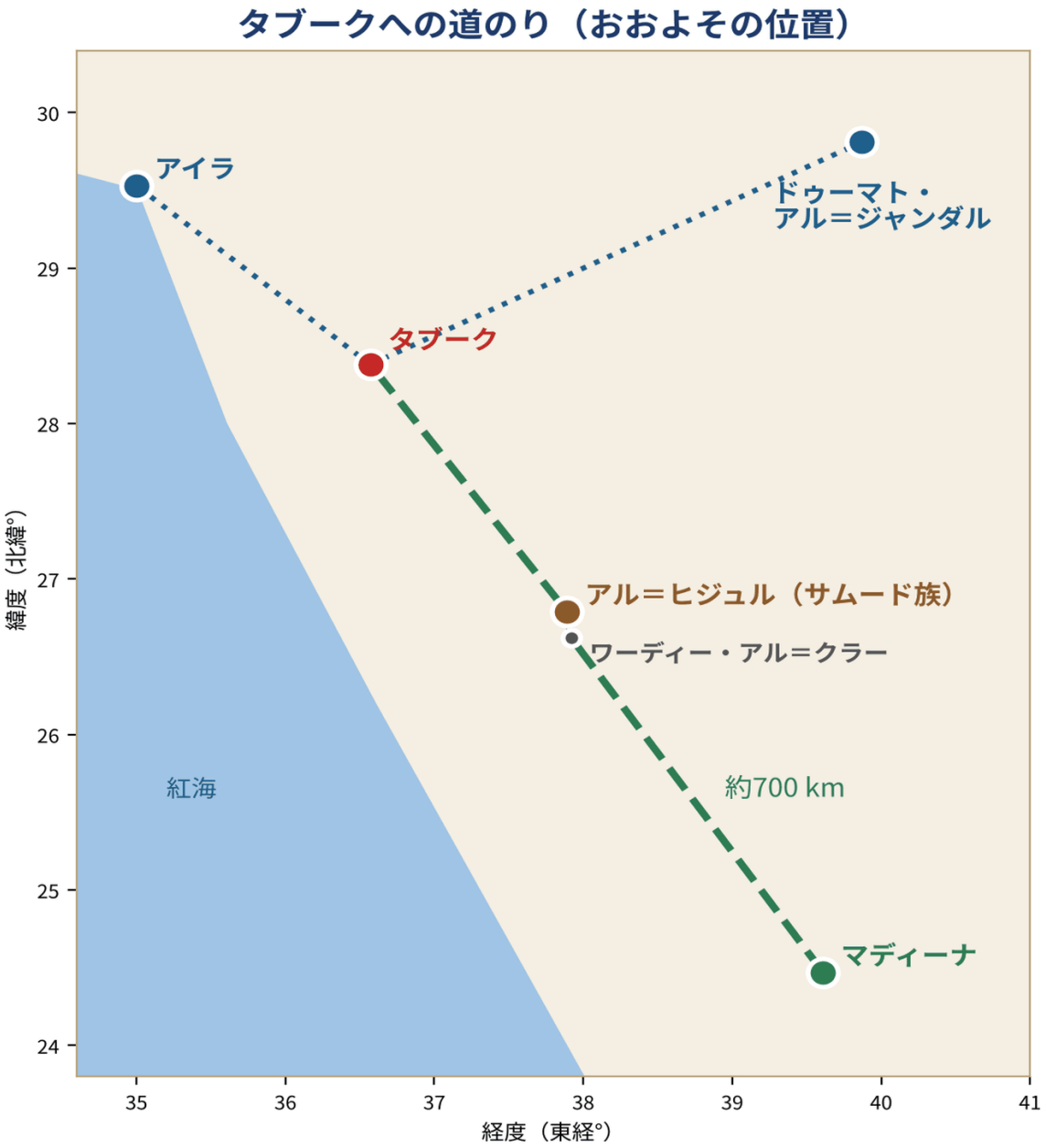
等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:706c

このハディースの教訓

泉は細い糸のように**ぽたりぽたりと**流れるだけでした。人びとは少しずつすくって集め、アッラーの使徒 ﷺ はそれで顔と手を洗い、泉に戻されました。すると**泉は豊かな水を噴き出し**、皆が飲みました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |



点線：アイラとの協定、ハーリドのドゥーマト・アル＝ジャンダル派遣。位置はおおよそのもの。

図 3：マディーナからタブークへの道のり。

それから使徒はムアーズに仰せられました。「**ムアーズよ、もしあなたの命が長ければ、このあたりが果樹園で満たされているのを見るであろう。**」今日、サウジアラビア北部のタブーク地方は、**広大な農地** — 小麦、果物、花 — で知られ、同国の重要な農業地域の一つとなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使徒の指示にも注目してください。「**わたしが来るまで、その水に少しも触れてはならない。**」二人の男が先に着いてそれに触れ、使徒は彼らを咎められました。三万人のための**限られた水源**を管理する規律は、生死に関わる問題だったのです。

この水の奇跡は、スィーラの別の出来事を思い起こさせます。フダイビーヤで使徒の指の間から湧き出た水（第 15 巻）、そして使徒が口をすすいだ後にあふれた井戸です。アッラーはその使徒を、単なる見せ物ではなく、渇いた者に水を与えるという、共同体の**本当の必要に応える**奇跡によって尊ばれたのです。

旅の途中での礼拝の合併

同じムアーズのハディースには、**重要な法学上の規定**が含まれています。タブークへの道中ずっと、アッラーの使徒 ﷺ は**礼拝を合わせて行われました** — ズフルとアスル、マグリブとイシャーです。これは旅人の合併礼拝（ジャムウ）が許されることの主な典拠の一つです。

ムアーズからの『サヒーフ・ムスリム』の別の伝承では、なぜ使徒がそうされたのかと尋ねられ、答えはこうでした。「**使徒は、ご自分の共同体が困難に陥らないことを望まれたのです。**」これこそイスラーム法の精神です。**困難のときの容易さ。**アッラーは仰せられます。「**アッラーはあなたがたに容易さを望み、困難を望まれない**」（雌牛章 2:185）。

状況	合併できる礼拝
旅人（旅の途中）	ズフル＋アスル；マグリブ＋イシャー
前倒しの合併（ジャムウ・タクディーム）	最初の礼拝の時間に行う
後ろ倒しの合併（ジャムウ・タアヒール）	二番目の礼拝の時間に行う
合併できないもの	ファジュル；アスルとマグリブ

今日の旅人 — トラック運転手、パイロット、休暇で帰省する学生 — も、この容易さを利用することができます。それは信仰が弱い徴ではなく、**スンナに従う**ことです。アッラーの使徒 ﷺ が生涯で最も困難な旅の中でご自身で実践されたスンナに。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

強い風とある女性の果樹園

アブー・フマイド・アッ＝サーイディー رضى الله عنه は、タブークへの往路と復路での**いくつかの奇跡**を含むハディースを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1481 番

حَدَّثَنَا سَهْلُ بْنُ بَكَّارٍ، حَدَّثَنَا وُهَيْبٌ، عَنْ عَمْرِو بْنِ يَحْيَى، عَنْ عَبَّاسٍ السَّاعِدِيِّ، عَنْ أَبِي حُمَيْدٍ السَّاعِدِيِّ، قَالَ غَزَوْنَا مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم غَزْوَةَ تَبُوكَ فَلَمَّا جَاءَ وَادِي الْقُرَى إِذَا امْرَأَةٌ فِي حَدِيقَةٍ لَهَا فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لأَصْحَابِهِ «اخْرُصُوا». وَخَرَصَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَشَرَةَ أَوْسُقٍ فَقَالَ لَهَا «أَحْصِي مَا يَخْرُجُ مِنْهَا». فَلَمَّا أَتَيْنَا تَبُوكَ قَالَ «أَمَا إِنَّهَا سَتَهُبُّ اللَّيْلَةَ رِيحٌ شَدِيدَةٌ فَلاَ يَقُومَنَّ أَحَدٌ، وَمَنْ كَانَ مَعَهُ بَعِيرٌ فَلْيَعْقِلْهُ». فَعَقَلْنَاهَا وَهَبَّتْ رِيحٌ شَدِيدَةٌ فَقَامَ رَجُلٌ فَأَلْقَتْهُ بِجَبَلِ طَيِّئٍ ـ وَأَهْدَى مَلِكُ أَيْلَةَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بَغْلَةً بَيْضَاءَ، وَكَسَاهُ بُرْدًا وَكَتَبَ لَهُ بِبَحْرِهِمْ ـ فَلَمَّا أَتَى وَادِي الْقُرَى قَالَ لِلْمَرْأَةِ «كَمْ جَاءَ حَدِيقَتُكِ». قَالَتْ عَشَرَةَ أَوْسُقٍ خَرْصَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «إِنِّي مُتَعَجِّلٌ إِلَى الْمَدِينَةِ، فَمَنْ أَرَادَ مِنْكُمْ أَنْ يَتَعَجَّلَ مَعِي فَلْيَتَعَجَّلْ». فَلَمَّا ـ قَالَ ابْنُ بَكَّارٍ كَلِمَةً مَعْنَاهَا ـ أَشْرَفَ عَلَى الْمَدِينَةِ قَالَ «هَذِهِ طَابَةُ». فَلَمَّا رَأَى أُحُدًا قَالَ «هَذَا جَبَلٌ يُحِبُّنَا وَنُحِبُّهُ، أَلاَ أُخْبِرُكُمْ بِخَيْرِ دُورِ الأَنْصَارِ». قَالُوا بَلَى. قَالَ «دُورُ بَنِي النَّجَّارِ، ثُمَّ دُورُ بَنِي عَبْدِ الأَشْهَلِ، ثُمَّ دُورُ بَنِي سَاعِدَةَ، أَوْ دُورُ بَنِي الْحَارِثِ بْنِ الْخَزْرَجِ، وَفِي كُلِّ دُورِ الأَنْصَارِ ـ يَعْنِي ـ خَيْرًا». وَقَالَ سُلَيْمَانُ بْنُ بِلاَلٍ حَدَّثَنِي عَمْرٌو، «ثُمَّ دَارُ بَنِي الْحَارِثِ، ثُمَّ بَنِي سَاعِدَةَ». وَقَالَ سُلَيْمَانُ عَنْ سَعْدِ بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ عُمَارَةَ بْنِ غَزِيَّةَ، عَنْ عَبَّاسٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ «أُحُدٌ جَبَلٌ يُحِبُّنَا وَنُحِبُّهُ». قَالَ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ كُلُّ بُسْتَانٍ عَلَيْهِ حَائِطٌ فَهُوَ حَدِيقَةٌ، وَمَا لَمْ يَكُنْ عَلَيْهِ حَائِطٌ لَمْ يَقُلْ حَدِيقَةٌ.

訳：

アブー・フマイド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه より。彼は言った。わたしたちは預言者 ﷺ と共にタブークの遠征に出た。使徒が**ワーディー・アル＝クラー**に着かれたとき、一人の女性が自分の果樹園にいた。預言者 ﷺ は教友たちに仰せられた。「**（収穫を）見積もりなさい。**」アッラーの使徒 ﷺ はそれを**十ワサク**と見積もり、その女性に仰せられた。「**そこから採れる量を数えておきなさい。**」わたしたちがタブークに着くと、使徒は仰せられた。「**今夜、強い風が吹く。誰も立ってはならない。ラクダを持つ者はつないでおきなさい。**」わたしたちはラクダをつないだ。強い風が吹き、一人の男が立ち上がると、**風は彼をタイイ山まで吹き飛ばした。アイラ**の王は預言者 ﷺ に白いラバを贈り、使徒は彼に外套を着せ、彼の国について（協定の）文書を書かれた。使徒がワーディー・アル＝クラーに戻られたとき、その女性に尋ねられた。「**あなたの果樹園の収穫はどれほどだったか。**」彼女は答えた。「アッラーの使徒 ﷺ の見積もりどおり、十ワサクでした。」預言者 ﷺ は仰せられた。「**わたしはマディーナへ急ぎたい。あなたがたの中でわたしと共に急ぎたい者は、急ぎなさい。**」使徒は遠くにマディーナを見たとき仰せられた。「**これがターバ（良き地）だ。**」ウフドを見たとき仰せられた。「**これはわたしたちを愛し、わたしたちが愛する山である。**」それから仰せられた。「**アンサールの最良の地区を教えようか。**」彼らは「はい」と答えた。使徒は仰せられた。「**ナッジャール族の地区、次にアブドゥルアシュハル族の地区、次にサーイダ族の地区、あるいはアル＝ハーリス・ブン・アル＝ハズラジ族の地区である。アンサールのすべての地区に善がある。**」（イマーム・ブハーリーは同じ意味の他の伝承も挙げ、「ハディーカ」とは囲いのある果樹園であると説明している。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サフル・ブン・バッカール ← ウハイブ・ブン・ハーリド ← アムル・ブン・ヤフヤー・アル＝マーズィニー ← アッバース・ブン・サフル・アッ＝サーイディー ← アブー・フマイド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』ザカートの書、ナツメヤシの見積もりの章、第 1481 番；第 3161、4422 番およびムスリム第 1392 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1481

このハディースの教訓

第一の奇跡：アッラーの使徒 ﷺ は、ワーディー・アル＝クラーの女性の果樹園の収穫を十ワサクと見積もられました。帰路、その女性は収穫がちょうど**十ワサク**だったと告げました。これはまた、果実のザカート計算の基礎となる**ハルス（ナツメヤシの収穫の見積もり）**の慣行を示しています。

第二の奇跡：使徒はその夜**強い風が吹く**ことを告げ、誰も立たず、ラクダをつなぐよう皆に命じられました。風は本当に吹き、**立っていた一人の男が吹き飛ばされ**、タイイの山まで運ばれました。服従は救い、背くことは危険をもたらすのです。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**早めに警告し**、明確な安全の指示を与えられました。現代の言葉で言えば、これは**危機管理**です。嵐、洪水、疫病の警報など、安全の指示に従うことは、スンナに従うことの一部なのです。

このハディースはまた、ワーディー・アル＝クラーの女性に対するアッラーの使徒 ﷺ の気遣いを示しています。使徒は彼女に果樹園の収穫を数えるよう言われ、帰路にも再びそれについて尋ねられました。三万人を率いていながら、使徒は**一人の女性とその小さな果樹園を忘れなかった**のです。偉大な指導とは、大きな戦略だけでなく、道中の小さな人びとを覚えていることでもあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アイラとの協定

アブー・フマイドのハディースは、重要な政治的出来事にも触れています。**アイラの王**（現在のヨルダンのアカバ、アカバ湾の奥）がやって来て、アッラーの使徒 ﷺ に**白いラバ**を贈り、使徒は彼に外套を着せ、**彼らの国についての協定を書かれた**のです（『サヒーフ・ブハーリー』1481）。

スィーラ書は、その王の名を**ユーハンナ・ブン・ルウバ**とし、ジャルバーとアズルフの住民も協定を結びに来たと述べています。彼らは**ジズヤ**を払うことに同意し、その見返りとして、彼らの生命、財産、船、隊商の**安全が保証されました**。

この協定は、同じ時期に下った節と一致しています。「**かれらが進んで税（ジズヤ）を納め、屈服するまで**」（悔悟章 9:29）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:29。

ジズヤは略奪ではなく、**保護のための支払い**でした。それによって啓典の民は、イスラーム国家の庇護の下で自分たちの宗教を保ち、兵役を免除され、安全を保証されたのです。これは、イスラームの歴史におけるムスリムと非ムスリムの**共存**の基盤の一つでした。

戦うことなく、アッラーの使徒 ﷺ は**イスラームの影響をシャームの境まで広げられました**。北の諸部族は、公正で強い新たな勢力があることを知ったのです。ときに**最大の勝利は、剣を抜かずに得られる**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリド、ドゥーマト・アル＝ジャンダルへ

タブークから、アッラーの使徒 ﷺ は**ハーリド・ブン・アル＝ワリード** رضي الله عنه を約四百二十騎と共に**ドゥーマト・アル＝ジャンダル**へ遣わされました。それは北の重要な砦（現在のサウジアラビアのアル＝ジャウフ）で、キリスト教徒のアラブの王**ウカイディル・ブン・アブドゥルマリク**が治めていました。

スィーラの注：満月の夜の野牛

スィーラ学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がハーリドに「**あなたは彼が野牛を狩っているところを見つけるであろう**」と言われたと伝えています。月明かりの夜、ウカイディルが妻と共に城の屋上にいたとき、野牛の群れがやって来て角で城の門をこすりました。ウカイディルは降りて狩りに出たところをハーリドの部隊に捕らえられました。彼の兄弟ハッサーンは、その小さな衝突で殺されました。

ウカイディルはアッラーの使徒 ﷺ のもとへ連れて来られ、使徒は**彼の命を赦し**、ジズヤの支払いと引き換えに和平協定を結ばれました。この詳細は**スィーラ書の伝承**です（イブン・イスハークとアル＝ワーキディー）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『マガーズィー（遠征記）』— ハーリドのドゥーマト・アル＝ジャンダル遠征。

この出来事は真正なハディースによって裏付けられています。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、**ドゥーマのウカイディルが預言者 ﷺ に絹の上着を贈った**と伝えています。人びとがその美しさに驚くと、使徒は仰せられました。「**ムハンマドの魂をその御手に握られる御方にかけて、楽園にあるサアド・ブン・ムアーズのハンカチは、これよりも良い**」（『サヒーフ・ブハーリー』2616）。

アッラーの使徒 ﷺ が教友たちの**視線をどのように移されたか**を見てください。彼らが王の絹に見とれているとき、使徒はサアド・ブン・ムアーズを思い起こさせられ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ました — ハンダクの戦いの傷がもとで殉教したアンサールの指導者です（第 12–13 巻）。楽園にある彼の**ハンカチ**だけでも、現世で最も高価な衣服より尊いのです。

タブークでの二十日間

ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما は伝えています。「**アッラーの使徒 ﷺ はタブークに二十日間とどまり、礼拝を短縮された**」（『スナン・アビー・ダーウード』1235、ナワウィーとアルバーニーが真正と評価）。

その二十日間、**ローマ軍は現れませんでした**。彼らの集結の知らせが不正確だったのか、それとも、これほど大きく意気盛んな軍と向き合わないことを選んだのか、結果は同じでした。ムスリムたちは**戦わずして戦場を制した**のです。国境のアラブ諸部族は、ローマ帝国があえて出て来なかったことを目撃しました。

スィーラの注：協議 — 進むか、帰るか

スィーラ学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がシャームの奥深くへさらに進むかどうか教友たちと協議されたと伝えています。ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه は言いました。「アッラーの使徒よ、もし進めと命じられたのなら、お進みください。」使徒は仰せられました。「もし命じられていたなら、あなたがたの意見を求めはしない。」そこでウマルは、ローマには大軍があり、そこには一人のムスリムもいないこと、そして彼らがタブークまで来たことで**敵を十分に震え上がらせた**ことを理由に、帰還を勧めました。この伝承はアル＝ワーキディーが挙げています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

教訓：**勝利とは必ずしも戦うことではない**。血を流さずに戦略的な目的を達成することは英知です。そして大きな決定は、たとえ預言者であっても、**協議（シューラー）**によってなされるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アカバの谷での陰謀

タブークからの帰り道、一部の偽信者たちの憎しみがどれほど深かったかを明らかにする出来事が起こりました。『サヒーフ・ムスリム』で、アブー・アッ＝トゥファイルは、「**アカバの者たち**」の一人とフザイファ・ブン・アル＝ヤマーン رضي الله عنه との言い争いを語っています。フザイファは、彼らが**十四人か十五人**であったと述べ、そのうち十二人は**現世でも来世でもアッラーとその使徒の敵である**と証言しました。同じ伝承では、アッラーの使徒 ﷺ がある旅の中で「水は少ない。誰もわたしより先にそこへ行ってはならない」と言われたが、何人かが先に行っていたのを見て、彼らを呪われたとも述べられています（『サヒーフ・ムスリム』2779）。

スィーラの注：山の斜面の覆面の男たち

スィーラ学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が夜にアカバの斜面を通られたとき、軍には谷の道を行くよう命じ、ご自身は狭い山道を通られたと伝えています。**アンマール・ブン・ヤースィル**が前で使徒のラクダの手綱を引き、**フザイファ**が後ろから追い立てていました。**覆面をした**男たちの一団が近づき、使徒を谷底へ突き落とそうとしました。フザイファが彼らのラクダの顔を打つと、彼らは逃げ去りました。

アッラーの使徒 ﷺ は彼らの名をひそかにフザイファに告げられました。そのためフザイファは「**アッラーの使徒 ﷺ の秘密の保持者**」と呼ばれました。この話の詳細は**スィーラの伝承**と、議論のある伝承経路によるアフマドの『ムスナド』のものです。その根幹は『サヒーフ・ムスリム』2779 によって裏付けられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— タブーク遠征の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

彼らの名を知りながらも、アッラーの使徒 ﷺ は**彼らを殺されませんでした**。別の出来事で、使徒はこう説明されています。「**ムハンマドが自分の教友たちを殺してい**

ると人びとが言わないように」（『サヒーフ・ブハーリー』4905）。使徒は、内なる敵に対しても**宣教の名誉**を守られたのです。

「わたしたちはただ雑談し、戯れていただけです」

道中ずっと、一部の偽信者たちは**アッラーの使徒 ﷺ と教友たちを嘲っていました。**咎められると、彼らはよく知られた言い訳をしました。アッラーは仰せられます。

「もしあなたがかれらに問えば、かれらは必ずわたしたちは、無駄話をしてたわむれているだけです』と言う。言ってやるがいい。『あなたがたは、アッラーとかれの印と使徒を、明笑していたではないか。』」（悔悟章 9:65）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:65。

「弁解してはならない。あなたがたは信仰した後に不信心となったのである」（悔悟章 9:66）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:66。

スィーラの注：「わたしたちのクルアーン読みたちのような者は見たことがない」

イブン・ジャリール・アッ＝タバリーとイブン・アビー・ハーティムは、イブン・ウマル رضى الله عنهما から次のように伝えています。タブークの遠征で、ある男が集まりの中で言いました。**「わたしたちのクルアーン読みたちのような者は見たことがない。最も腹が大きく、最も舌が嘘つきで、敵と出会うと最も臆病だ」** — アッラーの使徒 ﷺ と教友たちを指してのことでした。それが使徒の耳に届くと、その男はやって来て、足を石につまずかせながら使徒のラクダの鞍の綱にすがりつき、「わたしたちはただ雑談し、戯れていただけです」と言いました。使徒はただこの節を読み上げ、彼の方を振り向かれませんでした。

この伝承は一部の学者によってハサン（良好）と評価されています。真正集には収録されていないため、この注に収めました。

参照：

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンのタフスィール』悔悟章 9:65–66。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/65

この節は、**アッラー、その印、その使徒を嘲ること**は、たとえ冗談であっても小さなことではないという、学者たちの典拠となっています。宗教は笑いの種ではあり

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ません。宗教についての冗談が簡単に広まるソーシャルメディアの時代において、この節は**きわめて身近な戒め**です。

しかし次の節は扉も開いています。「**たとえわれがあなたがたの一部を赦しても……**」タフスィール学者たちは、マフシー・ブン・フマイイルという男が悔悟して赦されたと述べています。誠実に立ち返る者には、悔悟の扉は常に開かれているのです。

やむを得ない事情で妨げられた人びと

帰路マディーナに近づいたとき、アッラーの使徒 ﷺ は、**本当にやむを得ない事情**で出征できなかった人びとを讃える言葉を語られました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4423 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مُحَمَّدٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا حُمَيْدٌ الطَّوِيلُ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم رَجَعَ مِنْ غَزْوَةِ تَبُوكَ فَدَنَا مِنَ الْمَدِينَةِ فَقَالَ «إِنَّ بِالْمَدِينَةِ أَقْوَامًا مَا سِرْتُمْ مَسِيرًا وَلاَ قَطَعْتُمْ وَادِيًا إِلاَّ كَانُوا مَعَكُمْ». قَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ وَهُمْ بِالْمَدِينَةِ قَالَ «وَهُمْ بِالْمَدِينَةِ، حَبَسَهُمُ الْعُذْرُ».

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه より。アッラーの使徒 ﷺ はタブークの遠征から戻られ、マディーナに近づいたとき仰せられた。「**マディーナには、ある人びとがいる。あなたがたがどんな道を進み、どんな谷を越えても、彼らはあなたがたと共にいた。**」人びとは尋ねた。「アッラーの使徒よ、彼らはマディーナにいるのにですか。」使徒は仰せられた。「**彼らはマディーナにいながらである。やむを得ない事情が彼らを妨げたのだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ムハンマド・アル＝マルワズィー ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← フマイド・アッ＝タウィール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、タブーク遠征の章（カアブ・ブン・マーリクのハディースの後）、第 4423 番；第 2839 番およびムスリム第 1911 番（ジャービルから）にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4423

このハディースの教訓

これこそ**意図の尊さ**です。行けないことを泣いた教友たち（第 9 章）は、タブークへ一歩も踏み出しませんでしたが、**一歩一歩の報奨を分かち合った**のです。アッラーは手足だけでなく、心を評価されます。

このハディースはまた、病気、老齢、家族への責任、あるいは財の不足のために**善行を妨げられている**すべてのムスリムを慰めます。アッラーの使徒 ﷺ は別のハディースで仰せられました。「**しもべが病気になったり旅に出たりすると、在宅で健康なときに行っていたのと同じだけのものが、その人のために書き記される**」（『サヒーフ・ブハーリー』2996）。

しかし違いは明らかです。事情のある人びとは行けないことを**悲しんだ**のに対し、偽信者たちは残れたことを**喜んだ**のです（悔悟章 9:81）。わたしたちの誠実さの尺度はこれです。崇拝の機会を逃したとき、わたしたちはどう感じるでしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「これがターバだ」：マディーナへの帰還

遠くにマディーナが見えたとき、アッラーの使徒 ﷺ は愛情を込めて仰せられました。「**これがターバ（良きマディーナ）だ。**」そしてウフド山を見たとき仰せられました。「**これはわたしたちを愛し、わたしたちが愛する山である**」（『サヒーフ・ブハーリー』1481）。

同じハディースで、アッラーの使徒 ﷺ は到着が近づいたとき仰せられました。「**わたしはマディーナへ急ごう。わたしと共に急ぎたい者は、急ぎなさい。**」故郷と礼拝の場を恋しく思うことは、信仰と矛盾しない自然な性質です。

> **スィーラの注：サニーヤト・アル＝ワダーウでの子どもたちの歌**
>
> アッ＝サーイブ・ブン・ヤズィード رضي الله عنه は伝えています。「**わたしは、アッラーの使徒 ﷺ がタブークの遠征から戻られたとき、子どもたちと共にサニーヤト・アル＝ワダーウまで出迎えに行ったことを覚えている**」（『サヒーフ・ブハーリー』4427）。
>
> 有名な詩「タラア・ル＝バドル・アライナー（満月がわたしたちの上に昇った）」はしばしばヒジュラの出来事と結びつけられますが、イブン・アル＝カイイムなど一部の学者は、サニーヤト・アル＝ワダーウがシャームの方角にあることから、**タブークからの帰還**の際に歌われたとするほうがより正確だと考えています。その詩の伝承自体には**真正な伝承経路がありません。**
>
> **参照：**
> イブン・アル＝カイイム『来世への糧』— タブーク遠征の節。

マディーナに着くと、アッラーの使徒 ﷺ はまっすぐ**モスク**に行って二ラクアの礼拝をされ、それから座って人びとを迎えられました。そこで、残留した八十人以上が言い訳を述べに来ました — そしてそこから、第 25 巻で語られる**三人の正直な教友**の物語が始まるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

悔悟章：道中の啓示

タブークの遠征は、**一つの章の大部分**がそれについて下された唯一の戦いです。イブン・カスィールら他のタフスィール学者は、悔悟章の中ほどの節々が、タブークへの旅の前、最中、後に下り、その各段階に寄り添ったと述べています — あたかも啓示が**軍と共に歩んだ**かのように。

節	テーマ
9:29	啓典の民に立ち向かう命令；ジズヤ
9:38–41	出征を重く感じる者への戒め
9:42–57	偽信者たちの言い訳と性質
9:64–66	道中での偽信者たちの嘲り
9:79–83	施しへの嘲り；「暑い中を出征するな」
9:91–92	事情のある者たちと泣いた者たち
9:94–96	帰還後の偽信者たちの言い訳
9:107–110	害をなすモスク（マスジド・ディラール）
9:117–118	預言者、ムハージルーン、アンサール、そして三人の教友の悔悟

この表は、クルアーンが**出来事を直接追っていった**様子を示しています。出発前に呼びかけ、道中で秘密を暴き、帰還後にそれぞれの集団を評価したのです。またそれは、悔悟章が単なる戦いについての章ではなく、**心の誠実さ**についての章であることも示しています。

この一連の節が**悔悟の節**（9:117–118）で終わることにも注目してください。この章は偽信者たちに厳しいものの、悔悟の扉は開かれたままです — そして取り残された三人の教友の悔悟の物語が、第 25 巻の主題となります。害をなすモスクについての 9:107–110 も、同じ巻で解説されます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

学者たちはまた、悔悟章は**最後に下った章**の一つであり、バスマラで始まらない唯一の章であると述べています。そのことの英知については、ヒジュラ暦 9 年の巡礼の季節における免責（バラーア）の宣言を語る第 27 巻で論じます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムウタとタブーク

タブークは、ムスリムたちがローマに立ち向かうために出陣した二度目の機会でした。ムウタとの比較は、この共同体が**二年足らず**の間にどれほど成長したかを示しています。

項目	ムウタ（ヒジュラ暦 8 年）→ タブーク（ヒジュラ暦 9 年）
指導者	ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハ → アッラーの使徒 ﷺ ご自身
軍の人数	約 3,000 → 約 30,000
戦闘	激しい戦闘 → 戦闘なし
犠牲	三人の指揮官が殉教 → なし
結果	ハーリドが軍を救う → 国境の諸部族が服従
啓示	特別な節なし → 悔悟章の大部分

ムウタが**勇気の試練**であったとすれば、タブークは**誠実さの試練**でした。ムウタでは敵は前方にいました。タブークでは最大の敵は**欲望**でした — 暑さ、距離、ナツメヤシ園、そして偽信者たちのささやきです。

タブークはまた、アブー・バクルとウマルの時代の**シャーム解放**への道を開きました。アッラーの使徒 ﷺ がタブークへ進まれた道は、のちにバイト・アル＝マクディス（エルサレム）を解放したイスラーム軍が通る道となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語の典拠

タブークの遠征の物語は、等級の異なるさまざまな典拠によって伝えられています。下の表はそれをまとめたものです。

出来事	典拠と等級
はっきりとした呼びかけと暑さ	『サヒーフ・ブハーリー』4418 — 真正
ウスマーンの施し	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3701 — 良好
アブー・バクルとウマル	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3675 — 良好；タブークとの関連：スィーラ
アシュアリー族	『サヒーフ・ブハーリー』4415 — 真正
ハールーンのようなアリー	『サヒーフ・ブハーリー』4416 — 真正
アブー・ハイサマ	『サヒーフ・ムスリム』2769 — 真正
一人で歩いたアブー・ザッル	イブン・イスハーク — 弱い伝承経路
アル＝ヒジュル	『サヒーフ・ブハーリー』3378、4419 — 真正
タブークの泉と合併礼拝	『サヒーフ・ムスリム』706 — 真正
強い風とアイラ	『サヒーフ・ブハーリー』1481 — 真正
ウカイディルと絹の上着	『サヒーフ・ブハーリー』2616 — 真正；詳細：スィーラ
タブークでの二十日間	『スナン・アビー・ダーウード』1235 — 真正
アカバの者たち	『サヒーフ・ムスリム』2779 — 真正；詳細：スィーラ
事情のある人びと	『サヒーフ・ブハーリー』4423 — 真正
ローマ軍の知らせ	アル＝ワーキディー、イブン・サアド — スィーラ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タブークの主要な出来事のほとんどは**真正なハディース**に支えられており、付け加えられた細部はスィーラ書から来ています。わたしたちは真正なものを確信をもって受け入れ、スィーラの伝承はその等級を示したうえで伝えます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タブークの遠征の人物たち

タブークの遠征は、アッラーの使徒 ﷺ の生涯で最大の軍が関わったものですが、その物語は何人かの特定の人物を通じて記憶されています。この表は彼らを一か所にまとめたものです。部族、この出来事での役割、そして典拠です。スィーラ書にしかない情報はそのように記しています。

名前	部族／関係	タブークでの役割	典拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ رضی الله عنه	クライシュ族（ハーシム家）；アッラーの使徒のいとこであり娘婿 ﷺ	使徒のご家族を守るために残された：「ムーサーにとってのハールーンのように」	『サヒーフ・ブハーリー』4416（第 14 章）
ムハンマド・ブン・マスラマ رضی الله عنه	アウス族（アンサール）	使徒の不在中にマディーナを統治した	スィーラ書；別の伝承ではスィバーウ・ブン・ウルフタ・アル＝ギファーリーとする
ウスマーン・ブン・アッファーン رضی الله عنه	クライシュ（ウマイヤ家）	困難の軍への最大の施し	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3701（第 6 章）
アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضی الله عنه	クライシュ族（ズフラ家）	ファジュルの礼拝を先導した；アッラーの使徒 ﷺ がその後ろで礼拝された	『サヒーフ・ムスリム』274（第 32 章）
アル＝ムギーラ・ブン・シュウバ رضی الله عنه	サキーフ族	使徒に付き添い、清めの水を注いだ	『サヒーフ・ムスリム』274（第 32 章）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

名前	部族／関係	タブークでの役割	典拠
アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضی اللہ عنہ	アシュアル族（イエメン）	一族のために乗り物を求めた	『サヒーフ・ブハーリー』4415（第 10 章）
アブー・ハイサマ رضی اللہ عنہ	アンサール（スィーラ書によればハズラジ族）	はじめは取り残されたが、のちにタブークへ追いついた	『サヒーフ・ムスリム』2769；スィーラ書（第 15 章）
アブー・ザッル・アル＝ギファーリー رضی اللہ عنہ	ギファール族	ラクダが弱ったため一人で歩いた	スィーラ書（第 15 章）
ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضی اللہ عنہ	クライシュ（マフズーム家）	ドゥーマト・アル＝ジャンダルへ派遣された	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』2616（第 22 章）
フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン رضی اللہ عنہ	アブス族；父はアブドゥルアシュハル族（アウス族）の同盟者	アカバの陰謀者たちの名を知っていた	『サヒーフ・ムスリム』2779（第 24 章）
アンマール・ブン・ヤースィル رضی اللہ عنہ	アンス族（マズヒジュ族）；一家はマフズーム家の同盟者	アカバの斜面で使徒のラクダの手綱を引いた	スィーラ書（第 24 章）
アブドゥッラー・ズー・アル＝ビジャーダイン رضی اللہ عنہ	ムザイナ族	タブークで亡くなり、使徒ご自身によって埋葬された	スィーラ書；弱い伝承経路（第 33 章）
アル＝ジャッド・ブン・カイス	サリマ族（ハズラジ族）	出征しない許可を求めた（悔悟章 9:49）	タフスィール書とスィーラ書（第 11 章）

名前	部族／関係	タブークでの役割	典拠
ウカイディル・ブン・アブドゥルマリク	キンダ族（アッ＝サクーン）；ドゥーマト・アル＝ジャンダルの王	捕らえられ、その後和平を結んでジズヤを納めた	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』2616（第 22 章）
ユーハンナ・ブン・ルウバ	アイラの支配者	和平協定を結びに来た	『サヒーフ・ブハーリー』1481（「アイラの王」）；名はスィーラ書による（第 21 章）
カアブ・ブン・マーリク、ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ、ヒラール・ブン・ウマイヤ رضي الله عنه	カアブ：ハズラジ族（サリマ族）；ムラーラとヒラール：アウス族	正当な理由なく取り残された三人	『サヒーフ・ブハーリー』4418（第 25 巻）

この表の多様さに注目してください。クライシュ族とアンサール、アラブと非アラブ、富める者と歩いて行った者、忠実な教友と偽信者。皆が一つの旅の中にいましたが、アッラーは一人ひとりをその心によって評価されたのです。

教訓

タブークは選り分ける試練でした。一つの旅の中で、誰が財を費やし、誰が出征できないことを泣き、誰が言い訳を探したのかが明らかになりました。わたしたち一人ひとりも、人生という「表」に自分の役割を書き込んでいるのであり、アッラーは心の中をすべてご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タブークの旅から得られる法規定

夏に七百キロメートル以上を進んだ旅は、今日まで実践されている多くの法規定を生み出しました。この章では、まだ取り上げていない重要なハディースを一つ加え、それから前の諸章の法規定を一つの表にまとめます。

アッラーの使徒 ﷺ がアブドゥッラフマーン・ブン・アウフの後ろで礼拝された

アル＝ムギーラ・ブン・シュウバ رضي الله عنه は、タブークの遠征でアッラーの使徒 ﷺ に同行したと語っています。ファジュルの前、使徒は用を足しに出られ、アル＝ムギーラは水の器を持って行きました。使徒が戻られると、アル＝ムギーラが水を注ぎ、使徒は清めをして、革の靴下（フッフ）の上を撫でられました。

彼らが戻ると、人びとはすでにアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضي الله عنه をイマームとして礼拝を始めていました。アッラーの使徒 ﷺ は二ラクアのうち一ラクアに間に合い、最後のラクアを彼らと共に礼拝されました。アブドゥッラフマーンが終わりの挨拶をした後、使徒は立ち上がって逃したラクアを補われました。人びとは驚いて、しきりに「スブハーナッラー」と唱えました。礼拝を終えると、使徒は仰せられました。「あなたがたは良いことをした」 — あるいは「あなたがたは正しかった」と仰せられた — 彼らが時間どおりに礼拝したからです（『サヒーフ・ムスリム』274）。

このハディースにはいくつかの教訓があります。旅の中ではフッフの上を撫でることが許されること。偉大な指導者でも、地位の低い者の後ろで礼拝者となりうること。そして遅れが長い場合には、遅れているイマームを待つよりも、礼拝を時間の初めに行うほうが優れていることです。

規定	根拠	章
旅の中でフッフの上を撫でる	『サヒーフ・ムスリム』274	32

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

規定	根拠	章
地位の低いイマームの後ろで礼拝する；逃したラクアを補う（マスブーク）	『サヒーフ・ムスリム』274	32
旅の途中でズフル–アスル、マグリブ–イシャーを合わせて礼拝する	『サヒーフ・ムスリム』706	19
タブークで二十日間、礼拝を短縮する	『スナン・アビー・ダーウード』1235	23
懲罰を受けたサムード族の井戸の水を使わない。ただし預言者サーリフの雌ラクダの井戸は除く عَلَيْهِ السَّلَامُ	『サヒーフ・ブハーリー』3378、3379	16–17
懲罰の地を泣きながら、足を速めて通り過ぎる	『サヒーフ・ブハーリー』4419–4420	17
和平協定として啓典の民からジズヤを受け取る	悔悟章 9:29；『サヒーフ・ブハーリー』1481	21
やむを得ない事情で妨げられた者は、出征した者の報奨を得る	『サヒーフ・ブハーリー』4423	26
苦境のときに指導者が意見を求め、食料を集める	『サヒーフ・ムスリム』27	33

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：209 / 634

法学の注：二十日間の礼拝の短縮

旅人がある場所にとどまる場合、どれほどの期間礼拝を短縮できるかについて、学者たちの意見は分かれています。シャーフィイー派によれば、四日以上とどまる意図があれば、もはや旅人とはみなされません。しかし、用事がいつ終わるか分からずにとどまっているなら、十八日まで短縮できます。ハナフィー派は、とどまる意図の上限を十五日としています。

多くの学者は、アッラーの使徒 ﷺ がタブークで二十日間礼拝を短縮されたのは、とどまる意図がなかったからだと理解しています。使徒は一定期間とどまるのではなく、事態の推移を待っておられたのです。この詳細は、ナワウィーの『アル＝マジュムーウ』などの法学書で論じられています。個別の事例については、地元の宗教当局に相談してください。

教訓

イスラーム法は困難の中にある人に容易さを与えます。フッフの上を撫でること、礼拝の合併と短縮です。しかしその容易さは規律を失わせるものではありません。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がまだ着いておられなくても、礼拝は時間どおりに行われたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

道中の小さな物語

タブークの大きな出来事の合間には、心を打つ小さな物語があります。そのいくつかは『サヒーフ・ムスリム』にある真正なもので、いくつかはスィーラ書の伝承です。この章では、それぞれの等級を示したうえで、そのうちの三つをまとめます。

祝福された食料

タブークへの旅の途中、教友たちの食料は底をつきかけ、彼らは飢えに苦しみました。彼らは乗用のラクダを屠る許可を求めました。ウマル رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ に申し上げました。ラクダを屠れば乗り物が減ってしまう。それよりも、皆の残りの食料を集めて、それに祝福があるよう祈っていただくほうがよい、と。

使徒はそれに同意されました。一枚の革の敷物が広げられ、一人ひとりが残っていたものを持ってきました — 一握りのトウモロコシ、一握りのナツメヤシ、一切れのパン。使徒は祝福を祈り、それから仰せられました。「自分の器に取りなさい。」彼らが取ると、軍の中で満たされなかった器は一つもありませんでした。そこで使徒は仰せられました。「わたしは、アッラーのほかに神はなく、わたしはアッラーの使徒であることを証言する。この二つの言葉を疑いなく携えてアッラーに会うしもべは、楽園から妨げられることはない」（『サヒーフ・ムスリム』27）。

アッラーの使徒 ﷺ がウマルの提案を受け入れられたことに注目してください。奇跡の場面にあっても協議が行われたのです。そしてその奇跡の後には、神の唯一性（タウヒード）についての戒めが続きました — 心が不思議な出来事にではなく、アッラーに結びつくように。

いなくなったラクダ

スィーラ書（イブン・イスハーク）は、旅の途中でアッラーの使徒 ﷺ のラクダがいなくなったと伝えています。偽信者のザイド・ブン・アル＝ルサイトが嘲りました。「ムハンマドは自分が預言者で天の知らせをもたらすと言いながら、自分のラクダ

がどこにいるかも知らない。」使徒は仰せられました。「わたしはアッラーが教えてくださったことしか知らない。そしてアッラーはわたしに示してくださった。そのラクダはしかじかの谷にいて、手綱が一本の木に引っかかっている。」教友たちが行くと、言われたとおりの場所で見つかりました。この話はスィーラ書の伝承です。

使徒の答えには信条上の教えが含まれています。預言者は、アッラーが啓示されたことを除いて、自ら見えない世界のことを知るのではありません。

ズー・アル＝ビジャーダイン：羨まれた墓

アブドゥッラー・ズー・アル＝ビジャーダイン رضي الله عنه は、ムザイナ族の若者でした。その呼び名は「二枚の粗布の持ち主」という意味です。彼がイスラームを受け入れたとき、一族が彼の衣服を奪い、彼は一枚の布を二つに裂いて身にまとって出て来たからです。彼はタブークで夜に亡くなりました。

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が彼の墓の中に降り、アブー・バクルとウマルが遺体を手渡したと伝えられています。彼を横たえた後、使徒は祈られました。「アッラーよ、わたしは彼に満足しています。どうかあなたも彼に満足してください。」イブン・マスウード رضي الله عنه は言いました。「あの墓の主がわたしであったなら、どんなによかったことか。」この話はイブン・イスハークとタバラーニーが伝えていますが、ハイサミーはタバラーニーの伝承の経路を弱いと評価しています（『マジュマウ・アッ＝ザワーイド』4237）。ここではスィーラの伝承として伝えます。

教訓

これらの小さな物語は、アッラーが誰をも忘れられないことを教えています。一握りのナツメヤシ、いなくなった一頭のラクダ、そして故郷から遠く離れて亡くなった一人の貧しい若者。アッラーの御許での尊さは、財や衣服ではなく、信仰と犠牲によって量られるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

タブークとアル＝ヒジュル：昔と今

タブークの物語に出てくる場所は今も存在し、その一部は世界中から訪問者を集めています。この表は、スィーラ書の地名と今日の場所を結びつけたものです。不確かな場所はそのように記しています。

スィーラ書での名	今日	備考
サニーヤト・アル＝ワダーウ	マディーナの北	軍が集まり出発した場所；歴史家によって場所の記述が異なる
ワーディー・アル＝クラー	アル＝ウラー地方、マディーナの北西	収穫を数えるよう言われた女性の果樹園（第 20 章）
アル＝ヒジュル	考古遺跡ヘグラ（マダーイン・サーリフ）、アル＝ウラーの北	サムード族の地；泣きながら通り過ぎた（第 16–17 章）
タブーク	サウジアラビア北西部のタブーク市	現代の道路でマディーナから七百キロメートル以上（概算）
アイラ	アカバ湾の地域（ヨルダンのアカバとエイラト）	アイラの王が和平に来た（第 21 章）
ドゥーマト・アル＝ジャンダル	サウジアラビア北部のアル＝ジャウフ州	ウカイディルの砦（第 22 章）

ヘグラ：サウジアラビア初の世界遺産

2008 年、アル＝ヒジュル（ヘグラ）の遺跡はユネスコの世界遺産に登録されました — サウジアラビアで初めてのことです。この遺跡には砂岩の山に彫られた 111 の大きな墓があり、そのうち 94 には装飾が施されていて、紀元前 1 世紀から紀元 1 世紀ごろのものです（サウディペディア）。

今日見られる墓は、サムード族の時代よりはるか後のナバテア人によって造られたものであることに注意が必要です。イスラームの伝統はその地域をクルアーンに述べられたサムード族の地と見なしています（アル・ヒジュル章 15:80–84）が、今日残

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

るすべての建造物が必ずしもサムード族のものとは限りません。真正なハディースから確かなのは、懲罰の地を泣きながら、教訓を汲み取りながら通り過ぎるようにというアッラーの使徒 ﷺ の指示です（『サヒーフ・ブハーリー』4419–4420）。

今日のタブーク

タブークは現在、サウジアラビア北西部タブーク州の州都です。市内にはマスジド・アッ＝タウバ（悔悟のモスク）があり、地元の人びとには「預言者のモスク」として知られています（ビジット・サウジ）。地元の人びとはそこを、アッラーの使徒 ﷺ がタブークで礼拝された場所と結びつけていますが、この結びつきは地元の伝承であり、ハディースによって確認されたものではありません。

教訓

史跡は力強い戒めとなりえますが、それを訪れるときのイスラームの作法ははっきりしています。楽しむだけでなく、教訓を汲み取ることです。アッラーの使徒 ﷺ は頭を垂れ、泣きながらアル＝ヒジュルを通り過ぎられました。それこそ、すべての訪問者にとって最良の手本です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：214 / 634

タブークの遠征の年表

この表は、タブークの遠征の出来事を順に並べたものです。日付の多くは、イブン・イスハーク、イブン・サアド、アル＝ワーキディーなどのスィーラ書による概算です。

時期	出来事	典拠／章
フナインとターイフの後（ヒジュラ暦 8 年）	シャームでのローマ軍集結の知らせがマディーナに届く	スィーラ書（第 2 章）
ヒジュラ暦 9 年ラジャブ月初め	出征へのはっきりとした呼びかけ；困難の軍の準備	『サヒーフ・ブハーリー』4418（第 3、5 章）
出発前	ウスマーン、アブー・バクル、ウマル、教友たちの施し；泣いた人びと	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3701、3675；悔悟章 9:92（第 6–9 章）
出発前	偽信者たちが言い訳をする；アル＝ジャッド・ブン・カイスが許可を求める	悔悟章 9:42、9:49（第 11–12 章）
ヒジュラ 9 年ラジャブ月	約三万人の軍が出発；アリーがご家族を守るために残される	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』4416（第 5、14 章）
旅の途中	アブー・ハイサマとアブー・ザッルが追いつく	『サヒーフ・ムスリム』2769；スィーラ書（第 15 章）
旅の途中	泣きながらアル＝ヒジュルを通り過ぎる	『サヒーフ・ブハーリー』3378、4419（第 16–17 章）
旅の途中	祝福された食料；アブドゥッラフマーン・ブン・アウフが礼拝を先導	『サヒーフ・ムスリム』27、274（第 32–33 章）
タブークに到着	タブークの泉が噴き出す	『サヒーフ・ムスリム』706（第 18 章）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠／章
タブークにて（約 20 日間）	礼拝を短縮する；ローマ軍は現れない	『スナン・アビー・ダーウード』1235（第 23 章）
タブークにて	アイラ、ジャルバー、アズルフとの協定	『サヒーフ・ブハーリー』1481；スィーラ書（第 21 章）
タブークにて	ハーリドがドゥーマト・アル＝ジャンダルへ派遣される；ウカイディルが和平	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』2616（第 22 章）
帰途	アカバの斜面での陰謀	『サヒーフ・ムスリム』2779；スィーラ書（第 24 章）
ヒジュラ暦 9 年ラマダーン月	マディーナに到着：「これがターバだ」	『サヒーフ・ブハーリー』1481（第 27 章）
帰還後	取り残された三人の物語と害をなすモスク	『サヒーフ・ブハーリー』4418；悔悟章 9:107（第 25 巻）

教訓

タブークの遠征は戦闘なしに約二か月続きましたが、アラビア半島の地図を変えました。北の諸部族は和平協定に従い、ローマは南に新しい力があることを悟ったのです。ときに勝利は、一本の剣も抜かずに得られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タブークの遠征に関するよくある質問

以下は、タブークの遠征についてよく尋ねられる十二の質問です。簡潔な答えと、本書の各章への参照を付けています。

1. なぜこの軍はジャイシュ・アル＝ウスラと呼ばれたのですか。

きわめて困難な時期に出陣したからです。灼熱の夏、長い旅路、乗り物と食料の不足、そしてナツメヤシが熟す時期でした。この名は悔悟章 9:117 から取られています（第 4–5 章）。

2. タブークで戦闘はありましたか。

いいえ。ローマ軍は現れず、アッラーの使徒 ﷺ はタブークに約二十日間とどまり、北のいくつかの部族と和平協定を結んだ後に帰還されました（第 21–23 章）。

3. イスラーム軍の人数はどれほどでしたか。

スィーラ書は約三万人としており、アッラーの使徒 ﷺ の生涯で最大の軍でした。カアブ・ブン・マーリクのハディースも、彼らはあまりに多くて一冊の名簿には記しきれなかったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4418；第 5 章）。

4. 誰がマディーナを守りましたか。

スィーラ書は、ムハンマド・ブン・マスラマがマディーナを統治したと述べており、別の伝承ではスィバーウ・ブン・ウルフタとしています。そしてアリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は使徒のご家族を守るために残されました（『サヒーフ・ブハーリー』4416；第 14 章）。

5. タブークはアッラーの使徒 ﷺ が参加された最後の戦いですか。

はい。タブークは使徒ご自身が率いられた最後の遠征（ガズワ）です。その後、使徒は部隊を派遣されました。たとえば、ご逝去の直前に準備されたウサーマ・ブン・ザイドの部隊です（第 1 章）。

6. ザカートを拒んだサアラバ・ブン・ハーティブの話は本当ですか。

この話は悔悟章 9:75–77 の解説でよく知られていますが、ハディース学者たちは真正ではないと評価しています。アル＝イラーキーはその伝承経路を弱いとし、イブン・ハジャルはその話が本当だとは思わないと述べ、イブン・ハズムはそれを退けています。そしてサアラバ・ブン・ハーティブはバドルに参加した教友です（マレーシア連邦直轄領ムフティー事務所）。したがって、この話を説明なしに広めるべきではありません。

7. 今日、ヘグラ（アル＝ヒジュル）を訪れてもよいのですか。

真正なハディースは、懲罰の地を泣きながら、教訓を汲み取りながら通り過ぎるよう命じています（『サヒーフ・ブハーリー』4419–4420）。このような遺跡への観光目的の訪問について学者たちの見解は分かれていますが、不注意に浮かれて訪れることが禁じられる点では一致しています。訪れる者は、アッラーの使徒 ﷺ が教えられた作法を守るべきです（第 17 章と第 34 章）。

8. なぜアッラーの使徒 ﷺ は二十日間も礼拝を短縮されたのですか。

とどまる意図はなく、事態の推移を待っておられたからです。ある場所にとどまる者の短縮期間については、学者たちの意見が分かれています（第 23 章と第 32 章の法学の注）。

9. ジズヤとは何ですか。

ジズヤとは、イスラーム国家と協定を結んでいる啓典の民からの年ごとの支払いです。その見返りとして、彼らの生命、財産、信教の自由が保証されます。悔悟章 9:29

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

に述べられ、アイラおよびドゥーマト・アル＝ジャンダルとの協定で実践されました（第 21–22 章）。

10. アカバの陰謀者たちは誰でしたか。

『サヒーフ・ムスリム』は彼らの人数を述べていますが、その名はアッラーの使徒 ﷺ によって秘密にされ、フザイファ رضى الله عنه にだけ告げられました。話の詳細はスィーラ書の伝承です（『サヒーフ・ムスリム』2779；第 24 章）。

11. 取り残された人びとはどうなりましたか。

偽信者たちは言い訳を述べに来て、表向きは受け入れられました。三人の正直な教友 — カアブ・ブン・マーリク、ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ、ヒラール・ブン・ウマイヤ — は、悔悟が受け入れられるまで五十日間、交わりを断たれました。彼らの物語は第 25 巻で詳しく語られます。

12. 今日のわたしたちにとって、タブークの遠征の主な教訓は何ですか。

信仰は、状況が最も心地よくないときに試されます。タブークは、苦しいときに財と力を費やす人と、言い訳を探す人とを選り分けました。どの時代にもそれぞれの「タブーク」があります — 安楽と服従のどちらかを選ばなければならない瞬間です。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして弱い話とを区別することを思い起こさせてくれます。タブークの物語の骨組みはクルアーンと真正なハディースによって確立しています。名前、日付、人数の詳細は、その等級に応じて伝えます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

タブークの遠征は戦闘のない戦いでしたが、スィーラの中でも**最大の試練**の一つでした。それはムスリムの隊列をいくつかのはっきりした集団に分けました。持てるすべてを施した者、行けないことを泣いた者、怠慢から取り残された者、そして偽信から言い訳を作った者です。

教訓	タブークから
指導者の透明性	困難についてのはっきりとした呼びかけ
限りない施し	ウスマーン、アブー・バクル、ウマル
大きな価値を持つ小さな施し	アブー・ハイサマの一サーのナツメヤシ
誠実な意図	アル＝バッカーウーンの涙
言い訳への警戒	「暑い中を出征するな」
歴史の教訓	アル＝ヒジュルで泣くこと
イスラーム法の容易さ	礼拝の合併と短縮
血を流さない勝利	アイラおよびドゥーマとの協定
宗教は冗談ではない	悔悟章 9:65–66

わたしたちの生活の中のタブーク

わたしたち一人ひとりが自分自身の「タブーク」に直面します。服従が安楽を手放すことを求める瞬間です — 木陰、収穫間近の果樹園、あるいは待ち望んだ休息。その瞬間、わたしたちは施すウスマーンにも、立ち上がって追いつくアブー・ハイサマにも、力が及ばないことを泣くアル＝バッカーウーンにもなりえます。あるいは — アッラーよ、お守りください — **「暑い中を出征するな」**と言う者にもなりえます。その選択は、常にわたしたちの手の中にあるのです。

アッラーがお望みなら、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 25 巻 — カアブ・ブン・マーリクと害をなすモスク**へと続きます。取り残されながら真実を語ることを選んだ三

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：220 / 634

人の教友、五十夜の孤立、天から受け入れられた悔悟、そしてムスリムを分裂させるために建てられたモスクの物語です。アッラーが最もよくご存じです。

第 24 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンのタフスィール』（悔悟章 9:29、9:38–42、9:49、9:65–66、9:79、9:81、9:91–92、9:117；アル・ヒジュル章 15:80–84）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/38

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1417、1481、2616、2742、2778、2996、3265、3378、3379、4415、4416、4418、4419、4420、4423、4427、4668、4905、6623。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』706、2769、2779。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3675、3701；『スナン・アビー・ダーウード』1235。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— タブーク遠征の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世への糧』— タブーク遠征の節。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注解』— 遠征の書、タブーク遠征の章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜』— タブーク遠征の章。

一般の歴史

Wikipedia「Expedition of Tabuk」。https://en.wikipedia.org/wiki/Expedition_of_Tabuk

Wikipedia「Tabuk, Saudi Arabia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Tabuk,_Saudi_Arabia

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

Wikipedia「Hegra (Mada’in Salih)」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hegra_(Mada%27in_Salih)）

Wikipedia「Dumat al-Jandal」。https://en.wikipedia.org/wiki/Dumat_al-Jandal

Wikipedia「Aqaba」。https://en.wikipedia.org/wiki/Aqaba

Wikipedia「Uthman」。https://en.wikipedia.org/wiki/Uthman

Wikipedia「Byzantine Empire」。https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine_Empire

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ムスリム』274（タブークでアブドゥッラフマーン・ブン・アウフが礼拝を先導）。https://sunnah.com/muslim:274

『サヒーフ・ムスリム』27（タブークの遠征での祝福された食料）。https://sunnah.com/muslim:27b

『サヒーフ・ブハーリー』4416（ムーサーにとってのハールーンのようなアリー）。https://sunnah.com/bukhari:4416

『サヒーフ・ブハーリー』4419（アル＝ヒジュルの通過）。https://sunnah.com/bukhari:4419

『マジュマウ・アッ＝ザワーイド』4237（ズー・アル＝ビジャーダイン）。https://en.tohed.com/hadith/majma-al-zawaid/4237/

マレーシア連邦直轄領ムフティー事務所『イルシャード・アル＝ハディース』第 27 回：サアラバの話。https://muftiwp.gov.my/en/artikel/irsyad-al-hadith/1512-irsyad-al-hadith-series-27-the-story-of-tha-labah-who-refused-to-pay-zakat

サウディペディア「Why Was the Site of Hijr Inscribed in the World Heritage List?」。https://saudipedia.com/en/why-was-the-site-of-hijr-inscribed-in-the-world-heritage-list

Wikipedia「Hegra」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hegra

Wikipedia「Tabuk, Saudi Arabia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Tabuk,_Saudi_Arabia

ビジット・サウジ「Al-Tawbah Mosque」。https://visitsaudi.com/en/tabuk/attractions/masjid-altawbah-in-tabuk

第四部

カアブ・ブン・マーリクと害意のモスク

預言者伝（スィーラ）— 第 25 巻

三人の教友の誠実さ、五十夜の絶縁、そして分裂のために建てられたモスク — クルアーンと真正なハディースに基づいて

カアブ・ブン・マーリクと害意のモスク

第 24 巻は、アッラーの使徒 ﷺ がタブークからマディーナへ戻られるところで終わりました。遠征に出なかった八十人余りの者が言い訳をしに来て、使徒はかれらの言い訳を表面どおりに受け入れられました。しかし三人の教友は別の道を選びました。かれらは**真実を語った**のです。その誠実さが、かれらの人生で最もつらい**五十夜**をもたらしたにもかかわらず。

この第 25 巻はかれらの物語を語ります — とりわけ**カアブ・ブン・マーリク** رضي الله عنه の物語です。彼自身がそれを語り、『サヒーフ・ブハーリー』（第 4418 番）と『サヒーフ・ムスリム』（第 2769 番）の中で最も長く、最も心を打つハディースの一つとなっています。続いて、タブークの後のもう一つの出来事を見ます。**害意のモスク（マスジド・ディラール）**、すなわちアッラーのためではなく、ムスリムを分裂させるために建てられたモスクです。

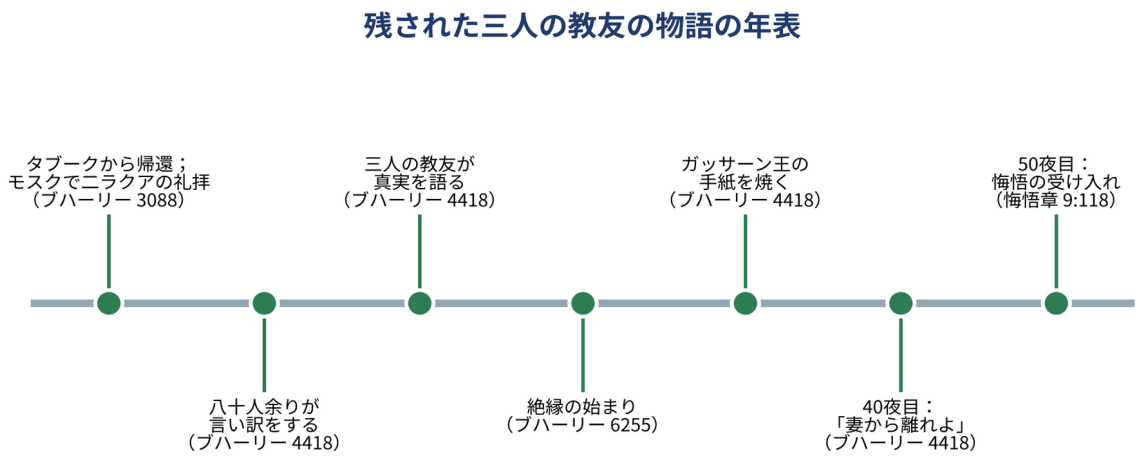


図 1：残された三人の教友の物語の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳注解聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。カアブ・ブン・マーリクの物語は、『サヒーフ・ブハーリー』4418 と『サヒーフ・ムスリム』2769 の長いハディースに基づいて語ります。アブー・ルバーバ、修道士アブー・アーミル、害意のモスクの取り壊しなど、スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に収めています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

残された三人

悔悟章のタブークの物語の終わりに、アッラーは特別な小さな一団について述べておられます。かれらは偽信者ではなく、また言い訳が受け入れられた人びとでもありません。かれらは**猶予された三人**です。

「後に残った 3 人に対しても（またかれは哀れみをかけられた）。大地はこのように広いのだがかれらには狭く感じられ、またその魂も自分を（内面から）狭めるようになった。そしてかれらは、アッラーに縋る外にはかれ（の懲罰）から免れるすべがないことを悟った。すると（主は）哀れみをかけられ、かれらは悔悟して（かれに）返った。本当にアッラーは度々赦される方、慈悲深い方であられる。」（悔悟章 9:118）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:118。

かれらは**カアブ・ブン・マーリク**、**ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ**、**ヒラール・ブン・ウマイヤ** رضي الله عنهم — 三人ともアンサールでした。カアブ自身が、この節の「残された」（フッリフー）という言葉の意味を説明しています。**それはかれらが戦いから遅れたという意味ではなく**、アッラーの使徒 ﷺ が、誓って言い訳が受け入れられた人びとの件から**かれらの件を保留された**という意味であり、アッラーが決定を下されるまでそうされたのです（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

かれらの物語は、**高い代価を払った誠実さ**、**心からの悔悟**、そして長い試練の後に訪れた**アッラーの慈愛**の物語です。それはまた、マディーナの共同体がどのようにその成員を教育したかを示しています。憎しみによってではなく、回復へと導く規律によってです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブ・ブン・マーリクとは誰か

カアブ・ブン・マーリク・アル＝アンサーリー・アル＝ハズラジー رضى الله عنه はサリマ家の人で、マディーナで早くにイスラームを受け入れた教友の一人です。彼は**アカバの誓いの夜**、すなわちヒジュラの前にアンサールがアッラーの使徒 ﷺ に忠誠を誓った夜に居合わせました。彼はその夜についてこう言っています。「たとえバドルの方が人びとの間で名高いとしても、わたしはあの夜をバドル（への参加）と取り替えたいとは思わない」（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

カアブはまた、ハッサーン・ブン・サービト、アブドゥッラー・ブン・ラワーハとともに**アッラーの使徒** ﷺ の三人の詩人の一人として知られています。クライシュ族が言葉で攻撃してきたとき、かれらは詩によってイスラームを守りました。彼はアッラーの使徒 ﷺ とともにすべての戦いに参加しました。**バドルとタブークを除いて**。バドルについては、それに参加しなかったことで責められた者は一人もいないと言いました。アッラーの使徒 ﷺ はクライシュのキャラバンのためだけに出発され、アッラーが約束なしに敵と出会わせられたからです。

ですからカアブは普通の人ではありません。彼は**信仰深く、勇敢で、功績のある教友**でした。だからこそ彼の物語はこれほど貴重なのです。それは**善い人でさえつまずくことがある**こと、そしてその人を際立たせるのはつまずいた後に何をするかであることを教えてくれます。

> **スィーラの注：失明してから物語を語ったカアブ**
>
> このハディースは、カアブが老年に失明した後、その手を引いた息子**アブドゥッラー・ブン・カアブ**によってカアブから伝えられました（『サヒーフ・ブハーリー』4678）。つまりカアブはこの物語を**出来事から何年も経ってから**、これほど細かく語ったのです — その出来事が彼の魂にどれほど深い跡を残したかのしるしです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史家たちは、カアブがムアーウィヤ رضی الله عنه の治世、ヒジュラ暦 50 年ごろに亡くなったと述べています。

参照：

イブン・ハジャル『アル＝イサーバ・フィー・タムイーズ・アッ＝サハーバ』— カアブ・ブン・マーリクの伝記。

「明日、支度しよう」

タブークへの呼びかけが響き渡ったとき、カアブは人生で最もよい状態にありました。彼は言いました。**「あの戦いに遅れたときほど、わたしが強く豊かだったことはない。アッラーにかけて、それ以前には乗用のラクダを二頭持ったことはなかったが、あの戦いのときには持っていた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

彼には何の支障もありませんでした。問題はごくありふれた病でした。**先延ばし**です。彼は語っています。**「わたしは朝、皆と一緒に支度をしようと出かけたが、何もせずに帰ってきた。そして心の中で言った。『その気になればいつでもできる。』」**こうして日々が過ぎ、人びとが真剣に準備を進め、アッラーの使徒 ﷺ がムスリムたちとともに出発されたときにも、カアブはまだ何の支度もしていなかったのです。

軍が出発した後でさえ、彼はまだ考えていました。「あと一日二日で支度をして、それから追いつこう。」カアブは深い後悔とともに認めています。**「そうしていればよかったのに！だが、それはわたしには定められていなかった。」**

その教訓はわたしたちの生活にとても身近なものです。「明日」と言って、どれほど多くの善行を先延ばしにしていることでしょう — 任意の礼拝、クルアーンの読誦、施し、謝罪 — そしてその機会は失われてしまうのです。学者たちは言いました。**「タスウィーフ（『そのうちに』と言うこと）は悪魔の軍勢の一つである。」**カアブは遅れるつもりはありませんでした。ただ、できるときに**行動しなかった**のです。

静まり返ったマディーナ

軍が出発した後、カアブはマディーナで奇妙な寂しさを感じ始めました。彼は言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ が出発された後、人びとの中に出て行くと、わたしは悲しくなった。わたしと同じような者として目にするのは、偽信者だと疑われている男か、アッラーが免除を与えられた弱い男ばかりだったからだ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

アカバの夜に居合わせ、戦いに次ぐ戦いに参加した教友が、いまは**偽信者と免除された人びと**とともにマディーナの路地を歩いている、その気持ちを想像してみてください。彼は自分が**間違った場所**に、自分の仲間ではない一団の中にいることに気づいたのです。

カアブはまた、当時ムスリムの数は多く、かれらの名を記録する**名簿（ディーワーン）はなかった**と述べています。参加を怠ろうとする者は、**啓示が下らない限り**気づかれないだろうと考えました。しかしそれが真実でした。人は気づかないかもしれませんが、**アッラーはすべてを見ておられ**、啓示はすべてを明らかにするのです。

教訓：**わたしたちの周囲はわたしたちの状態を映し出す**。もし自分がうっかりした人びととばかり一緒にいることに気づいたら、それは戻るべきしるしです。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**人はその親友の宗教（生き方）に従う。だから各人は、誰を親友とするかをよく見よ。**」（『スナン・アビー・ダーウード』4833、ハサンと評価）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：231 / 634

「カアブを引き留めたものは何か」

道中、アッラーの使徒 ﷺ はタブークに着くまでカアブのことに触れられませんでした。教友たちと座っておられたとき、こう尋ねられました。「**カアブはどうしたのか。**」サリマ家の一人の男が答えました。「アッラーの使徒よ、彼は二枚の外衣に引き留められ、自分の両脇を眺めることに忙しいのです」 — つまり安楽と自己満足に心を奪われているという意味です（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

すると**ムアーズ・ブン・ジャバル** رضى الله عنه がすぐに兄弟をかばいました。「**あなたの言ったことは何とひどいことか！アッラーにかけて、アッラーの使徒よ、わたしたちは彼について善いことしか知りません。**」アッラーの使徒 ﷺ は黙っておられました。

二つのことに注目してください。第一に、**アッラーの使徒 ﷺ は三万人の中でカアブのことを覚えておられた。**一人ひとりが使徒にとって大切だったのです。第二に、**ムアーズはその場にいない兄弟の名誉を守った。**アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**兄弟の名誉を守る者がいれば、アッラーは審判の日にその者の顔から火獄の火を退けられる。**」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1931、ハサンと評価）。

わたしたちの集まりへの教訓：その場にいない人が陰口を言われたり悪く思われたりしたら、ムアーズのようになりましょう — **善く思い、かばう**のであって、付け加えるのではありません。わたしたちは人の本当の状態を知らず、心の内を知っておられるのはアッラーだけです。

モスクへの帰還

アッラーの使徒 ﷺ が帰路にあるという知らせが届くと、カアブは悲しみに襲われました。彼は**偽りの言い訳**を考え始めました。「明日、どうすれば使徒のお怒りを免れられるだろうか。」彼は家族の中の賢い者一人ひとりに意見を求めました。しかしアッラーの使徒 ﷺ がもうすぐ到着されると言われると、**すべての虚偽が頭から消え去り**、偽りでは決して救われないと悟りました。そこで彼は**真実を語ろうと決意した**のです（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

アッラーの使徒 ﷺ は朝に到着されました。いつものように、最初に向かわれたのはモスクでした。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3088 番

حَدَّثَنَا أَبُو عَاصِمٍ، عَنِ ابْنِ جُرَيْجٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ كَعْبٍ، عَنْ أَبِيهِ، وَعَمِّهِ، عُبَيْدِ اللَّهِ بْنِ كَعْبٍ عَنْ كَعْبٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَانَ إِذَا قَدِمَ مِنْ سَفَرٍ ضُحًى دَخَلَ الْمَسْجِدَ، فَصَلَّى رَكْعَتَيْنِ قَبْلَ أَنْ يَجْلِسَ.

訳：

カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه より。預言者 ﷺ は、**旅から朝（ドゥハーの時刻）に戻られると、モスクに入り、座る前に二ラクアの礼拝をされた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アースィム・アン＝ナビール ← イブン・ジュライジュ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・カアブ ← その父アブドゥッラー・ブン・カアブ およびその父方のおじウバイドゥッラー・ブン・カアブ ← カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、旅から戻ったときの礼拝の章、第 3088 番；ムスリム第 716 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3088

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：233 / 634

このハディースの教訓

このスンナはとても美しいものです。長く疲れる旅の後、**最初に向かう場所はアッラーの家**であって、自分の家ではありません。その二ラクアは無事に帰れたことへの**感謝のしるし**であり、またモスクを、使徒が人びとと最初に会う場所とするものでもありました。礼拝の後、使徒は座って人びとを迎えられました。

学者たちは、帰ってきたすべての旅人にこのスンナを勧めています。できれば家に帰る前に**モスクに立ち寄って二ラクアの礼拝をする**ことです。それは、すべての旅がアッラーに始まりアッラーに終わることを思い出させてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：234 / 634

八十を超える言い訳

それから、残っていた者たちがやって来ました。カアブは語っています。**「かれらは言い訳を始め、使徒に誓いを立てた。その数は八十人余りであった。アッラーの使徒 ﷺ はかれらの（言い訳の）表面を受け入れ、かれらから忠誠の誓いを受け、かれらのために赦しを請い、かれらの心の秘密はアッラーに委ねられた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

アッラーは、使徒がマディーナに着かれる前に、このことを告げておられました。

「あなたがたが（居所）に帰るとかれらは許しを請うであろう。言ってやるがいい。『許しを請うてはならない。わたしたちは決してあなたがたを信じない。アッラーは、既にあなたがたの出来事を告げ知らせられた。またアッラーと使徒は、あなたがたの行いを見守るであろう。それからあなたがたは、幽玄界と現象界を知っておられる御方に帰される。その時かれは、あなたがたが行った（凡ての）ことを告げ知らせられる。』」（悔悟章 9:94）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:94。

「あなたがた（信者）が（戦いから）帰ってきた時、あなたがたが（責めないで）放置するようアッラーにかけてかれらは誓うであろう。それでは放っておけ。かれらは本当に不浄であり、 地獄がかれらの住まいである。かれらの（悪い）行いに対する報いである。」（悔悟章 9:95）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:95。

「かれらはあなたがたに気に入られるようにあなたがたに誓うかもしれない。だがもしあなたがたがかれらを気に入っても、本当にアッラーは、アッラーの掟に背く者を御喜びになられない。」（悔悟章 9:96）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:96。

これらの偽信者は、この世では**「成功」**しました。言い訳は受け入れられ、無事に家へ帰ったのです。しかしアッラーはかれらに満足されませんでした。反対に、誠実な三人は最初は**「敗れた」**ように見えましたが、最後にはかれらの悔悟がクルアーンに永遠に刻まれました。これが**一時的な成功**と**真の成功**の違いです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

誠実さの瞬間

それからカアブの番が来ました。彼は進み出て挨拶をしました。アッラーの使徒 ﷺ は**怒っている人の微笑みのような微笑みを浮かべ**、「来なさい」と仰せられました。カアブは歩み寄り、使徒の前に座りました。使徒は尋ねられました。「**何があなたを遅らせたのか。乗り物を買っていたのではなかったか。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4418）

カアブの答えは、しもべが口にした中で最も誠実な言葉の一つです。「**アッラーの使徒よ、アッラーにかけて、もしわたしがこの世の誰か他の人の前に座っていたなら、何かの言い訳でその人の怒りを免れられると思ったでしょう。わたしには弁舌の才が与えられているのですから。しかしアッラーにかけて、わたしは知っています。もし今日あなたに、あなたを満足させる偽りの話をしたなら、アッラーはやがてあなたをわたしに怒らせるでしょう。そしてもし、あなたがわたしに怒るような本当の話をしたなら、わたしはそこにアッラーの赦しを望みます。アッラーにかけて、わたしには何の言い訳もありませんでした。アッラーにかけて、あなたから遅れたときほど、わたしが強く豊かだったことはありません。**」

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**この者は、真実を語った。立ち去りなさい。アッラーがあなたについて決められるまで。**」

カアブはとても深いことを理解していました。**人を欺くことはできても、アッラーを欺くことは不可能である**ということです。彼は、最後には啓示によって暴かれる偽りで人の満足を得るよりも、アッラーの赦しを望みつつ、今日アッラーの使徒 ﷺ のお怒りに向き合うことを選んだのです。

その後、サリマ家の何人かの男たちが彼について来て言いました。「アッラーにかけて、あなたがこれまで罪を犯したことなど知らない。なぜ他の者たちのように言い訳をしなかったのか。アッラーの使徒 ﷺ があなたの罪のために赦しを請うてくだされば十分だったのに。」かれらが責め続けたので、**カアブは戻って自分の言葉を**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽ろうとしかけたほどでした。嘘をつくようにとの周囲の圧力はとても強かったのです — しかし彼は踏みとどまりました。

導きの後の最大の恩恵

何年も後、カアブはその出来事を振り返り、それを災難とは見ず、イスラームの後の人生で**最大の恩恵**と見なしました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4673 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ سَمِعْتُ كَعْبَ بْنَ مَالِكٍ، حِينَ تَخَلَّفَ عَنْ تَبُوكَ، وَاللَّهِ، مَا أَنْعَمَ اللَّهُ عَلَيَّ مِنْ نِعْمَةٍ بَعْدَ إِذْ هَدَانِي أَعْظَمَ مِنْ صِدْقِي رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ لاَ أَكُونَ كَذَبْتُهُ فَأَهْلِكَ كَمَا هَلَكَ الَّذِينَ كَذَبُوا حِينَ أُنْزِلَ الْوَحْىُ {سَيَحْلِفُونَ بِاللَّهِ لَكُمْ إِذَا انْقَلَبْتُمْ إِلَيْهِمْ} إِلَى {الْفَاسِقِينَ}.

訳：

アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリクより。彼は言った。わたしは、カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه がタブークの戦いに遅れた出来事を語りながらこう言うのを聞いた。「**アッラーにかけて、アッラーがわたしを導かれた後、わたしに与えられた恩恵で、アッラーの使徒 ﷺ に対するわたしの誠実さ — すなわち使徒に嘘をつかず、嘘をついた者たちが滅びたようには滅びなかったこと — より大きなものは一つもない。**」そのとき啓示が下った。{あなたがたがかれらのもとに帰ると、かれらはアッラーにかけてあなたがたに誓うであろう} から {主の命に背く者たち} まで（悔悟章 9:95〜96）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・カアブ ← アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、「かれらはアッラーにかけてあなたがたに誓うであろう…」というアッラーの御言葉の章、第 4673 番；物語の全体は第 4418 番とムスリム第 2769 番にある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4673

このハディースの教訓

カアブは自分を、嘘をついた者たちと比べています。かれらはひとときは助かりましたが、アッラーはかれらについて、誰についても語られた中で**最も悪い言葉** — 「本当にかれらは汚れである」 — で述べられ、御満悦の扉をかれらに閉ざされました。一方カアブは五十夜苦しみましたが、**その名は悔悟が受け入れられた者としてクルアーンに語られた**のです。

これが本当の恩恵の尺度です。ときにアッラーは**苦しみを与えること**によってわたしたちを救われ、ときには人を**滅びへと導く安楽**のままに放っておかれます。カアブは、痛みを伴う誠実さこそが**救いの扉**であり、心地よい嘘は滅びの扉であることを理解していました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムラーラとヒラール

その苦しい状況の中で、カアブは尋ねました。「わたしと同じ目に遭った者は他にいるか。」人びとは答えました。「いる。二人の男があなたと同じことを言い、あなたと同じことを言われた。」彼は尋ねました。「それは誰か。」かれらは答えました。「**ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ・アル＝アムリーとヒラール・ブン・ウマイヤ・アル＝ワーキフィーだ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4418）

カアブは言いました。「**かれらはわたしに、バドルの戦いに参加した二人の正しい男の名を挙げた。あの二人にこそ手本がある。**」そこで彼は自分の道を進み、嘘をつきに戻ることはしませんでした。二人の正しい人もまた誠実さを選んだと知ったことが、**彼の心を強くした**のです。

よい手本がどれほど大切かを見てください。試練の中にあるとき、他の正しい人も同じ道を歩んでいると知ることは力を与えてくれます。だからこそアッラーは、この物語とともに下された節の中で命じておられるのです。「**誠実な者たちとともにいなさい**」（悔悟章 9:119）。

ヒラール・ブン・ウマイヤはワーキフ家の老人であり、ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウはアムル・ブン・アウフ家の人でした。二人とも**バドルの戦士**であり、アッラーの使徒 ﷺ がその功徳を述べられた人びとでした。これはあらためて、**高貴な人でさえ過ちを犯すことがある**こと、そして過去の栄誉があっても教育を免れるわけではないことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

絶縁の始まり

それから重い決定が下りました。カアブは語っています。「**アッラーの使徒 ﷺ は、遅れた者たちのうちわたしたち三人と話すことを、ムスリムたちに禁じられた。**」人びとはかれらを避け、態度を変えたので、**大地がまるで変わってしまったかのよう**で、もはや彼の知っている大地ではありませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6255 番

حَدَّثَنَا ابْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ كَعْبٍ، قَالَ سَمِعْتُ كَعْبَ بْنَ مَالِكٍ، يُحَدِّثُ حِينَ تَخَلَّفَ عَنْ تَبُوكَ، وَنَهَى، رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَنْ كَلاَمِنَا، وَآتِي رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأُسَلِّمُ عَلَيْهِ، فَأَقُولُ فِي نَفْسِي هَلْ حَرَّكَ شَفَتَيْهِ بِرَدِّ السَّلاَمِ أَمْ لاَ حَتَّى كَمَلَتْ خَمْسُونَ لَيْلَةً، وَآذَنَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِتَوْبَةِ اللَّهِ عَلَيْنَا حِينَ صَلَّى الْفَجْرَ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・カアブより。彼は言った。わたしは、カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه がタブークの戦いに遅れたときのことを語るのを聞いた。**アッラーの使徒 ﷺ は（人びとが）わたしたちと話すことを禁じられた。**わたしはアッラーの使徒 ﷺ のもとへ行って挨拶をし、心の中で言った。**「使徒は挨拶に応えて唇を動かされるだろうか、それとも動かされないだろうか。」** — それが**五十夜**に満ちるまで続いた。そして預言者 ﷺ は、夜明けの礼拝を終えられたときに、**わたしたちに対するアッラーの悔悟の受け入れ**を告げられた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・カアブ ← アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』許可を求めることの書、罪を犯した者に挨拶をしない者の章、第 6255 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6255

このハディースの教訓

ムラーラとヒラールは**家に座って泣いていました。**一方カアブは、最も若く最も忍耐強い者として、集団礼拝に出かけ市場を歩き続けましたが、**誰一人彼と話す者はいませんでした。**礼拝の後、彼はアッラーの使徒 ﷺ に挨拶をし、使徒の唇が挨拶に応えて動いたかどうかと思いめぐらせました。彼は使徒の近くで礼拝し、そっと様子をうかがいました。**彼が礼拝に向かうと使徒は彼を見つめられ、彼が使徒の方を向くと使徒は顔をそむけられた**のです。

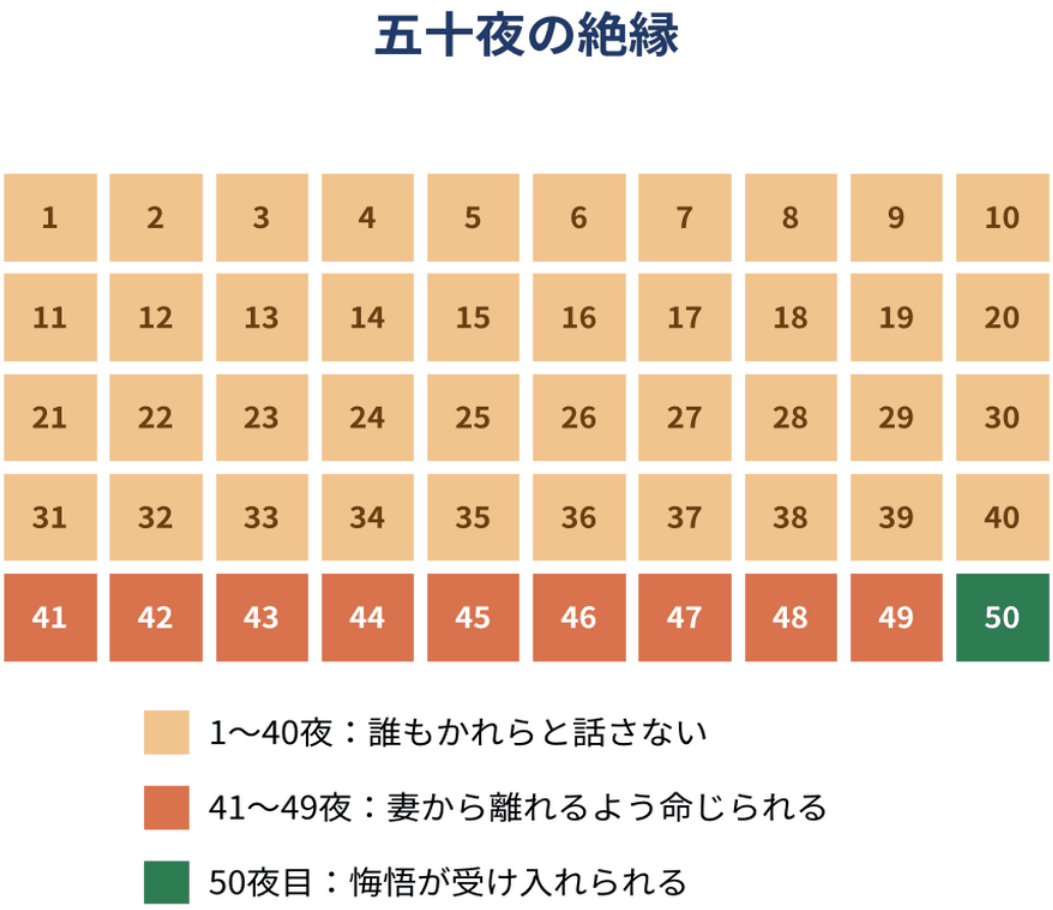


図 2：五十夜の絶縁。

この小さな描写はとても心を打ちます。アッラーの使徒 ﷺ は**なおもカアブを見つめておられた** — 彼を憎んではおられなかったのです。しかし使徒は、アッラーの決定を待ちつつ、**命じられた教育**を実行されました。そのそっと向けられたまなざしは、厳しさの陰に**なお残る慈愛**があったことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

広い大地が狭く感じられる

絶縁の日々はゆっくりと過ぎていきました。カアブは自分の状態を、クルアーンとほとんど同じ言葉で描いています。「**わたし自身が狭く感じられ、大地は広いのにわたしには狭く感じられた。**」彼の悲しみが頂点に達したのは、**アブー・カターダ**の果樹園の塀をよじ登ったときでした — 彼のいとこであり、彼が最も愛した人です（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

彼は挨拶をしましたが、**アッラーにかけて、アブー・カターダは挨拶を返しませんでした。**カアブは言いました。「アブー・カターダよ、アッラーにかけて尋ねる。わたしがアッラーとその使徒を愛していることを、あなたは知っているか。」アブー・カターダは黙っていました。カアブは繰り返しましたが、彼はなおも黙っていました。三度目に、アブー・カターダは答えました。「**アッラーとその使徒が最もよく知っておられる。**」カアブの目から涙があふれ、彼は背を向けて再び塀を乗り越えました。

アブー・カターダの従順を見てください。彼はカアブを愛していましたが、**アッラーの使徒 ﷺ への従順がその感情に勝っていた**のです。その答えさえ禁止に背いていません。カアブに話しかけたのではなく、真実の言葉を口にしただけでした。これはマディーナの共同体の規律を示しています — 最も近しい身内に対してさえ、指示を「こっそり」破る者は一人もいなかったのです。

そしてクルアーンがこの気持ちをどれほど正確に描いているかを見てください。「**広い大地がかれらにとって狭くなり、かれらの心もまた狭くなった**」（悔悟章 9:118）。その狭さは場所にあるのではなく、**つながりを断たれた魂**にあるのです。人間は社会的な存在です。愛する人びとから絶縁されることは、最も重い試練の一つです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ガッサーン王からの手紙

その孤独のただ中に、より巧妙な試練が訪れました。カアブがマディーナの市場を歩いていると、食料を売りに来た**シャームのナバテア人の農夫**が尋ねました。「誰かカアブ・ブン・マーリクのところへ案内してくれないか。」人びとが彼の方を指さすと、その男は**ガッサーン王**からの一通の手紙を手渡しました（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

その内容はこうでした。「**さて、あなたの仲間があなたに冷たくしていると聞いた。アッラーはあなたを、卑しめられ見捨てられる土地に置かれたのではない。わたしたちのもとに来なさい。あなたを厚く遇しよう。**」

カアブは言いました。「**これもまた一つの試練だ。**」そして彼はその手紙を**かまどに持って行って燃やした**のです。

ガッサーン王国は、タブークで対峙したばかりの敵、ローマの同盟国でした。敵は常にムスリムの隊列のひび割れを見張り、**傷ついている者を誘い出そう**とします。カアブは「わたしは絶縁された、冷たく扱われた」と言うこともできたでしょう。しかし彼は、自分の悲しみが**裏切りの扉**となることを許しませんでした。

その教訓はとても今日的です。信仰の兄弟や団体や指導者に失望したとき、「より名誉ある場所」を差し出す者が現れるでしょう。**その手紙を燃やすこと**は成熟した信仰のしるしです — アッラーとその使徒への忠誠は、人からどう扱われるかによって左右されないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「妻から離れよ」

五十夜のうち**四十夜**が過ぎても、なお啓示は下りませんでした。そのときアッラーの使徒 ﷺ の使者がカアブのもとに来ました。「**アッラーの使徒 ﷺ は、あなたに妻から離れるよう命じておられる。**」カアブは尋ねました。「離縁しなければならないのか、それともどうすればよいのか。」使者は答えました。「いや、ただ彼女から離れ、近づいてはならない。」同じ指示が二人の仲間にも送られました（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

カアブは妻に言いました。「**あなたの家族のもとに帰り、アッラーがこの件を決められるまで、かれらのところにいなさい。**」彼は異を唱えることなく、すぐに従いました。

ヒラール・ブン・ウマイヤの妻はアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て言いました。「アッラーの使徒よ、ヒラールは弱った老人で、仕える者もいません。わたしが彼の世話をすることをお嫌いになりますか。」使徒は答えられました。「**いや、ただ彼をあなたに近づけてはならない。**」彼女は言いました。「アッラーにかけて、彼は何に対しても欲がありません。アッラーにかけて、この出来事が起きてから今日まで、**彼は泣きやむことがない**のです。」

カアブの家族の何人かは、彼もヒラールの妻のように許可を求めてはどうかと勧めました。しかしカアブは断りました。「わたしは許可を求めはしない。アッラーの使徒 ﷺ が何と言われるかわからないし、**わたしは若い男だ**から。」彼は、他の人には許されていることであっても、誘惑の種となりうるものはすべて避けることを選んだのです。

アッラーの使徒 ﷺ の英知に注目してください。年老いて弱ったヒラールには妻が世話をすることが許され、若いカアブには事情が異なりました。**規定は個々人の状況を考慮する**ものであり、厳しさの中にも常に慈悲があるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

五十日目の夜

さらに十夜が過ぎました。カアブは言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ が（人びとに）わたしたちと話すことを禁じられてから、五十夜が満ちた。**」五十日目の夜が明けた朝、彼は自分の家の一つの屋根の上で夜明けの礼拝をしました（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

彼はそのときの状態をこう描いています。「**アッラーがわたしたちについて述べられたその状態で座っていると — わたし自身が狭く感じられ、大地は広いのにわたしには狭く感じられた…**」これが彼の試練の最も低い地点でした。五十日間、挨拶も微笑みもなく、妻もそばにおらず、悔悟が受け入れられるかどうかの確かさもなかったのです。

しかしその狭さの中にも、クルアーンが述べる一つの確信がありました。「**アッラーから逃れる場所は、かれの御許以外にないと悟った**」（悔悟章 9:118）。人間のあらゆる扉が閉ざされたとき、**アッラーの扉はなお開かれている**のです。かれらはガッサーン王のもとへも、嘘へも逃げませんでした — かれらはアッラーのもとへ逃れたのです。

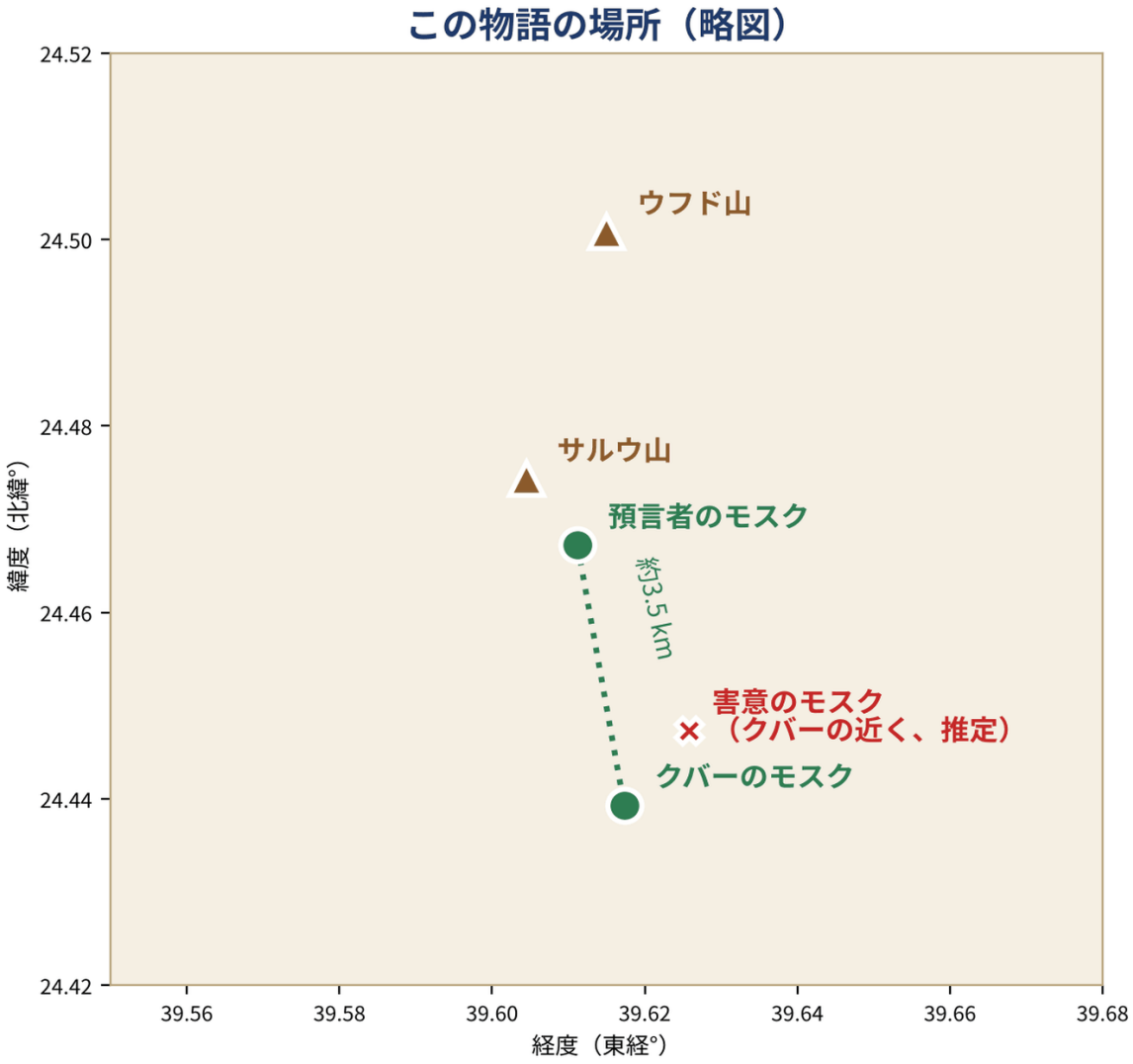
学者たちは、最も暗い夜は**夜明けの前**だと言います。そのように、ゆとりはしばしば苦しみが頂点に達したときに訪れます。アッラーは仰せられます。「**本当に困難と共に、安楽はあるのである**」（胸を広げる章 94:6）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サルウ山からの声

突然、カアブは**サルウ山の頂**から一つの声を聞きました。誰かが最も大きな声で叫んでいたのです。**「カアブ・ブン・マーリクよ、喜べ！」**カアブはすぐに**ひれ伏しました。**ゆとりが訪れたことを知ったからです（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

アッラーの使徒 ﷺ は夜明けの礼拝を終えられたとき、かれらに対するアッラーの悔悟の受け入れを告げられていました。人びとは急いで吉報を伝えに出かけました。一人の男は**馬を駆って**カアブのもとへ向かい、**アスラム族の一人の男は走って山に登りました。**カアブは言いました。**「声は馬よりも速かった。」**



害意のモスクの位置は確定できない。クバーの近くにあったと言われる。他の位置もおおよそのもの。

図 3：この物語の場所（略図）。

声を聞かせたその男がやって来ると、カアブは吉報へのお礼として**自分の二枚の衣を脱いで彼に着せました。**カアブは言いました。「**アッラーにかけて、その日わたしはその二枚のほかに衣を持っていなかった。**」そこで彼は二枚の衣を借りて身に着けました。

カアブのサジダに注目してください。恩恵を受けた信仰者の最初の反応は、アッラーへの**感謝のサジダ**です。学者たちはこの物語を、大きな恩恵を得たときや災難を免れたときに**感謝のサジダが推奨される**ことの根拠の一つとしています。

共同体全体の喜びにも注目してください。五十日間カアブと話さなかった人びとが、いまや**先を争って吉報を伝えた**のです。絶縁は憎しみではありませんでした。それは**慈愛から生まれた規律**であり、それが終わると、慈愛は完全に戻ってきたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「母があなたを産んで以来、最良の日」

カアブはモスクへ急ぎました。人びとは群れをなして彼を迎え、祝福の言葉をかけました。「**アッラーがあなたの悔悟を受け入れられたことを喜びなさい。**」彼がモスクに入ると、アッラーの使徒 ﷺ は人びとに囲まれて座っておられました。**タルハ・ブン・ウバイドゥッラー** رضى الله عنه が立ち上がって彼のもとへ急ぎ、握手をして祝いました。カアブは言いました。「**アッラーにかけて、ムハージルーンの中で立ち上がったのは彼だけだった。**」カアブはタルハのこの行いを決して忘れませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』4418）。

カアブがアッラーの使徒 ﷺ に挨拶をすると、使徒の顔は**喜びで輝いていました。**使徒は仰せられました。「**あなたの母があなたを産んで以来、あなたが過ごした中で最良の日を喜びなさい。**」カアブは尋ねました。「それはあなたからですか、アッラーの使徒よ、それともアッラーからですか。」使徒は答えられました。「**いや、アッラーからである。**」カアブは言いました。アッラーの使徒 ﷺ が喜ばれると、**その顔はまるで月のひとかけらのように輝き**、わたしたちにはそれがわかったのです。

「**生まれて以来、最良の日**」 — イスラームに入った日ではないのでしょうか。学者たちは、悔悟が受け入れられた日は入信の日の**完成**であると説明しています。それはイスラームと受け入れられた悔悟とを併せ持つ日であり、だからこそより完全なのです。それは、**受け入れられた悔悟は信仰者の人生で最大の恩恵の一つである**ことを教えてくれます。

タルハの行いはまた、**戻ってきた兄弟を迎えること**を教えてくれます。悔悟した人の昔の過ちをいつまでも思い出させる人になってはなりません。最初に立ち上がり、握手をし、ともに喜ぶ人になりましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

悔悟の節の啓示

悔悟の受け入れは、単なるアッラーの使徒 ﷺ の決定ではありませんでした — それは**天からの啓示**であり、審判の日まで読まれ続ける節々なのです。

「アッラーは、預言者と、困難の時にかれに従ったムハージルーンとアンサールの悔悟を受け入れられた」（悔悟章 9:117）— 『イブン・カスィールのタフスィール』9:117。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4678 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ ـ وَكَانَ قَائِدَ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ ـ قَالَ سَمِعْتُ كَعْبَ بْنَ مَالِكٍ، يُحَدِّثُ حِينَ تَخَلَّفَ عَنْ قِصَّةِ، تَبُوكَ. فَوَاللَّهِ مَا أَعْلَمُ أَحَدًا أَبْلاَهُ اللَّهُ فِي صِدْقِ الْحَدِيثِ أَحْسَنَ مِمَّا أَبْلاَنِي، مَا تَعَمَّدْتُ مُنْذُ ذَكَرْتُ ذَلِكَ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى يَوْمِي هَذَا كَذِبًا، وَأَنْزَلَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ عَلَى رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم {لَقَدْ تَابَ اللَّهُ عَلَى النَّبِيِّ وَالْمُهَاجِرِينَ} إِلَى قَوْلِهِ {وَكُونُوا مَعَ الصَّادِقِينَ}

訳：

アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリクより — 彼は（父が失明した後）カアブの手を引いた人である — 彼は言った。わたしは、カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه がタブークの戦いに遅れた物語を語るのを聞いた。「**アッラーにかけて、言葉の誠実さにおいて、アッラーがわたしに与えられた試練よりもよい試練を受けた者を、わたしは一人も知らない。そのことをアッラーの使徒 ﷺ に申し上げてから今日まで、わたしは故意に嘘をついたことは一度もない。**」そして偉大なるアッラーは、その使徒 ﷺ に下された。｛アッラーは、預言者とムハージルーンに悔悟を許された…｝から｛誠実な者たちとともにいなさい｝まで（悔悟章 9:117〜119）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー

← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・カアブ ← アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← カアブ・ブン・マーリク رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、「信仰する者よ、アッラーを畏れ、誠実な者たちとともにいなさい」の章、第 4678 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4678

このハディースの教訓

これらの節の順序に注目してください。アッラーはまず**預言者** ﷺ の悔悟から始められ、次に**ムハージルーンとアンサール**、そしてようやく**猶予された三人**を挙げておられます。学者たちは、これはその三人への**敬意**であると述べています。かれらの悔悟が最も高貴な人びとの悔悟とともに語られ、かれらが疎外感を覚えないようにされたのです。

第 118 節の結びもまた非常に美しいものです。「**それからかれは、かれらが悔い改めるように、かれらに（悔悟を）許された。**」悔悟はアッラーから始まり — 悔悟へと導かれるのはかれである — アッラーに終わります — それを受け入れられるのもかれです。**アッラーがまず慈悲をもってわたしたちに向かわれるからこそ、わたしたちは悔い改めるのです。**

しもべの悔悟を喜ばれるアッラー

カアブが悔悟の受け入れをこれほど喜び、アッラーの使徒 ﷺ もまた顔が輝くほど喜ばれたのなら、**アッラーはさらにお喜びになる**ことを知ってください。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。**「アッラーは、しもべの悔悟を、あなたがたの誰かが広い砂漠で失ったラクダを再び見つけたときの喜びよりも、さらに喜ばれる。」**（『サヒーフ・ブハーリー』6309）。

ムスリムの伝承では、そのたとえがさらに詳しく語られています。ある男が砂漠で、食べ物と飲み物を積んだラクダを失い、絶望して木の下に横たわり死を待っていました。すると突然、ラクダが彼のそばに立っていたのです。彼はラクダの手綱をつかみ、あまりの喜びに言い間違えて言いました。**「アッラーよ、あなたはわたしのしもべで、わたしはあなたの主です！」**（『サヒーフ・ムスリム』2747）。しもべの悔悟に対するアッラーの喜びは、**それよりもさらに大きい**のです。

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه もまた、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。**「アッラーは夜に御手を差し伸べて昼に罪を犯した者の悔悟を受け入れ、昼に御手を差し伸べて夜に罪を犯した者の悔悟を受け入れられる。太陽が西から昇るまで。」**（『サヒーフ・ムスリム』2759）。

悔悟の条件	カアブの物語では
罪をやめる	もはや服従を先延ばしにしない
悔いる	泣き、大地が狭く感じられる
二度と繰り返さないと決意する	生涯、真実だけを語ると約束する
権利を返す（人に関わる場合）	過ちを率直に認める

これらの条件は、イマーム・ナワウィーが『**リヤード・アッ＝サーリヒーン**』の悔悟の章にまとめたもので、その章自体を彼はカアブ・ブン・マーリクの長いハディ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ースで締めくくっています。カアブの物語は**完全な悔悟の模範**です。正直に認め、結果を忍耐して受け止め、その後に変わったのです。

「財産の一部は手元に残しなさい」

カアブの喜びは、彼を大きなかたちで感謝を表すことへと駆り立てました。彼は**全財産を施そう**としたのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2757 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ كَعْبٍ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ كَعْبٍ، قَالَ سَمِعْتُ كَعْبَ بْنَ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه. قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، إِنَّ مِنْ تَوْبَتِي أَنْ أَنْخَلِعَ مِنْ مَالِي صَدَقَةً إِلَى اللَّهِ وَإِلَى رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم. قَالَ أَمْسِكْ عَلَيْكَ بَعْضَ مَالِكَ فَهُوَ خَيْرٌ لَكَ. قُلْتُ فَإِنِّي أُمْسِكُ سَهْمِي الَّذِي بِخَيْبَرَ.

訳：

カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه より。彼は言った。わたしは言った。「アッラーの使徒よ、わたしの悔悟（への感謝のしるし）の一つとして、**わたしの全財産をアッラーとその使徒 ﷺ への施しとして手放します。**」使徒は仰せられた。「**財産の一部は手元に残しなさい。そのほうがあなたにとってよい。**」わたしは言った。「それでは、ハイバルにあるわたしの取り分を残しておきます。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・カアブ ← アブドゥッラー・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遺言の書、財産の一部を施しやワクフにした場合の章、第 2757 番；第 4676 番、第 6690 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2757

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、カアブが喜びのあまり度を越すことを許されませんでした。使徒は**財産の一部を手元に残す**よう助言されました。これは**中庸**というイスラームの原則に合っています。自分と家族を損なわずに施すということです。アッラーの使徒 ﷺ は別のハディースで仰せられました。**「最もよい施しは、ゆとりがあるうちに与えるものである。」**（『サヒーフ・ブハーリー』1426）。

カアブはまた言いました。**「アッラーの使徒よ、アッラーは誠実さのゆえにわたしを救われました。わたしの悔悟（のしるし）の一つとして、生きている限り真実以外は語りません。」**そして彼はその約束を果たしました。**「アッラーにかけて、そのことをアッラーの使徒 ﷺ に申し上げてから今日まで、わたしは故意に嘘をついたことは一度もない。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4418；『サヒーフ・ブハーリー』4678）。

これこそ**本当の悔悟**です。ただ悔いるだけでなく、**生き方を変える**ことです。カアブは誠実さを生涯の約束としました。自分を救ったのは誠実さだったと知っていたからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

誠実さは楽園へと導く

悔悟の節の後、アッラーはこの物語をすべての信仰者への一般的な命令で締めくくられます。「**信仰する者よ、アッラーを畏れ、誠実な者たちとともにいなさい**」（悔悟章 9:119）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:119。

イマーム・ブハーリーはこの節を「礼儀作法の書」の章題とし、その下に誠実さという徳の基礎となるハディースを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6094 番

حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ إِنَّ الصِّدْقَ يَهْدِي إِلَى الْبِرِّ، وَإِنَّ الْبِرَّ يَهْدِي إِلَى الْجَنَّةِ، وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَصْدُقُ حَتَّى يَكُونَ صِدِّيقًا، وَإِنَّ الْكَذِبَ يَهْدِي إِلَى الْفُجُورِ، وَإِنَّ الْفُجُورَ يَهْدِي إِلَى النَّارِ، وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَكْذِبُ، حَتَّى يُكْتَبَ عِنْدَ اللَّهِ كَذَّابًا.

訳：

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه より、預言者 ﷺ が仰せられた。「**本当に誠実さは善行へと導き、善行は楽園へと導く。人は誠実であり続け、ついにはスィッディーク（誠実な者）となる。そして本当に虚偽は悪行へと導き、悪行は火獄へと導く。人は嘘をつき続け、ついにはアッラーのもとで嘘つきとして書き記される。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウスマーン・ブン・アビー・シャイバ ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミード ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← アブー・ワーイル・シャキーク・ブン・サラマ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه ← 預言者 ﷺ。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』礼儀作法の書、「信仰する者よ、アッラーを畏れ、誠実な者たちとともにいなさい」というアッラーの御言葉の章、第 6094 番；ムスリム第 2607 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6094

このハディースの教訓

このハディースは誠実さを**前へ進む道**として描いています。誠実さの一歩は善行へと導き、善行は楽園へと導きます。反対に一つの嘘は別の嘘を呼び、ついには人はアッラーのもとで**嘘つきとして書き記される**のです。カアブの物語はこのハディースの生きた実例です。**誠実さは彼を悔悟へと導き、悔悟は彼をアッラーの御満悦へと導いた**のです。

今日の世界では、嘘はしばしば小さなことと見なされます — 「罪のない嘘」、遅刻の言い訳、報告書の少しだけ変えた数字。カアブの物語は、**誠実さはときにこの世で高くつくが、来世では常に得になる**ことを思い出させてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

絶縁の背後にある英知

なぜアッラーの使徒 ﷺ は誠実な三人の教友を絶縁され、嘘をついた八十人余りを放っておかれたのでしょうか。これは逆さまに見えないでしょうか。イブン・アル＝カイイムは『**ザード・アル＝マアード**』でその英知を詳しく説明しています。その一部を挙げます。

英知	説明
愛する者への教育	善が期待される者だけが教育され、正される
偽信者は放っておかれた	偽信者には期待がなかったので、その件はアッラーに委ねられた
罪を清める	五十夜の苦しみがかれらの過ちを消し去った
位階を高める	かれらの悔悟は審判の日までクルアーンに刻まれた
共同体への教訓	過去の功績を理由に責任を免れる者は一人もいない
忠誠を試す	ガッサーン王の手紙がカアブの信仰の堅固さを明らかにした

患者を愛する医師は苦い薬を与えます。治療していない人には与えません。絶縁もそのようなものでした。それは**心がまだ生きている人のための薬**だったのです。偽信者の心はすでに死んでいました — どんな薬も助けにはなりません。

学者たちはまた、この物語から教育の手段としての**ハジュル**（絶縁）の規定を導き出しています。宗教上の理由で、指導者の許可のもと、一定の期間、改善を目的として人と絶縁することは許される — 個人的な恨みのためではない、というものです。この世の事柄については、アッラーの使徒 ﷺ は兄弟と**三日を超えて**絶縁することを禁じられました（『サヒーフ・ブハーリー』6077）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブのハディースから学ぶフィクフ

カアブ・ブン・マーリクのハディースは心を打つ物語であるだけでなく、**フィクフの規定の宝庫**でもあります。イブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』で、ナワウィーは『**シャルフ・サヒーフ・ムスリム**』で、そこから数十の教訓を挙げています。その一部を挙げます。

規定	物語の中の根拠
旅の後に二ラクアの礼拝をするのはスンナ	アッラーの使徒 ﷺ はまっすぐモスクへ向かわれた
宗教上の理由での絶縁は許される	三人と話すことの禁止
感謝のサジダはスンナ	カアブは知らせを聞いてひれ伏した
吉報を届けた者に贈り物をするのはスンナ	カアブは自分の二枚の衣を与えた
宗教上の恩恵を祝うのはスンナ	人びとやタルハが祝福した
妻から離れることは離婚ではない	「いや、ただ彼女から離れなさい」
施しは限度を超えない	「財産の一部は手元に残しなさい」
外面に基づいて判断する	偽信者たちの言い訳が受け入れられた

誠実に伝えられた一つのハディースが、どれほど豊かであるかを見てください。カアブが語ったすべての細部 — ひれ伏したことから贈った衣に至るまで — が、今日に至るまで**共同体の指針**となっています。自分の弱さまで語った彼の語りの誠実さが、この物語を尽きることのない**知識の源**にしているのです。

イブン・アル＝カイイムはまた、一つの繊細な教訓を挙げています。カアブは**定めを責めなかった**のです。彼は「それはわたしには定められていなかった」と言いましたが、それを言い訳にはしませんでした。彼は自分の怠りをはっきりと認めました。「**わたしには何の言い訳もありませんでした。**」これが信仰者の礼儀です。定めを信じつつ、**自分の選択には責任を持つ**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜカアブは自らの弱さを語ったのか

興味深い問いがあります。アッラーの使徒 ﷺ が「**わたしの共同体はみな赦される。ただし（罪を）あらわにする者は別である**」 — すなわち夜に罪を犯し、アッラーがそれを覆い隠されたのに、朝になって自らそれを語る者 — と仰せられたのに（『サヒーフ・ブハーリー』6069）、なぜカアブは自分の弱さの物語をこれほど詳しく語ったのでしょうか。

その答えは**意図と状況**にあります。そのハディースで非難されているのは、罪を**誇らしげに、あるいは恥じることなく**、まるで小さなことのように語る者です。一方カアブは、**悔悟が受け入れられ、啓示によって告げられた後に**、深い悔いとともに、先延ばしの危険と誠実さの価値について**共同体を教える**ために物語を語ったのです。彼の物語はすでにクルアーンに述べられており、彼はその細部を説明したにすぎません。

学者たちはまた、**伝承者としてのカアブの誠実さ**を称えています。彼は自分を恥じ入らせることを何一つ隠しませんでした — 怠り、嘘をつこうとした気持ち、一族からの非難、アブー・カターダの果樹園での涙。また自分を高めることを誇張することもありませんでした。これが**誠実な伝承者**の特徴であり、だからこそ彼の物語はブハーリーとムスリムに完全に受け入れられたのです。

わたしたちへの教訓：他の人に助言するとき、**自分自身の経験** — 悔い改めた過ちも含めて — が最も効果的な教訓となることがあります。しかしそれは誇りではなく**アッラーに対する恥じらい**をもって伝えなければならず、アッラーが覆い隠された罪を益もなくさらしてはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

罪を認めた人びと

悔悟章は、タブークに遅れたいくつかの人びとについて述べています。偽信者と猶予された三人のほかに、もう一つの集団がいました。

「外のある者は、自分の誤ちを認めるが、善行と、外の不行跡が混っている。アッラーは、かれらの悔悟を許される。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」（悔悟章 9:102）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:102。

スィーラの注：柱に自分を縛りつけたアブー・ルバーバ

クルアーン解釈者たちはイブン・アッバース رضي الله عنهما から、この節は**アブー・ルバーバ**とタブークに遅れた何人かの仲間について下ったと伝えています。遅れた人びとについて下った節を聞くと、かれらは**モスクの柱に自分たちを縛りつけ**、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が解いてくださるまで解かないと誓いました。この節が下ると、使徒はかれらを解かれました。

この伝承はタバリーとイブン・カスィールがいくつかの伝承経路で述べていますが、**その細部の確かさについては学者の間で議論がある**。また、アブー・ルバーバが自分を縛った話をクライザ族の出来事（第 13 巻）に結びつける別の伝承もあります。

参照：
イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』悔悟章 9:102。
https://tafsir.app/ibn-katheer/9/102

次にアッラーは、決定が保留された一団について述べておられます — イブン・カスィールと多くのクルアーン解釈者によれば、かれらはカアブの物語の三人です。**「その外に、アッラーが懲罰なされるのか、または悔悟を赦されるのか、かれの裁決を待たされる者がいる。本当にアッラーは全知にして英明であられる。」**（悔悟章 9:106）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:106。

第 102 節にある**アッラーの慈悲**を見てください。**「恐らくアッラーは、かれらの悔悟を許されるであろう。」**学者たちは、アッラーからの「恐らく」（アサー）という

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

言葉は**確実**を意味すると言っています。自分の罪を誠実に認め、善い行いと悪い行いを混ぜ合わせながらも絶望しない者には、悔悟の扉は大きく開かれているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

害意のモスクの建設

ここで、タブークに関わるもう一つの出来事に移ります。アッラーの使徒 ﷺ が出発される前、偽信者の一団がクバーのモスクの近くに一つのモスクを建てていました。アッラーはかれらの本当の意図を明らかにされました。

「また（イスラームの）妨害と不信心（の助長）のために、一座のマスジドを建立した者があり、それで信者の間を分裂させ、また先にアッラーとその使徒に対して戦った者のための、隠れ家とする者がある。しかも（口先では）、『わたしたちは、只善いことを行うだけです。』と誓う。だがアッラーは、かれらが確かに偽っていることを立証される。」（悔悟章 9:107）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:107。

この節は、そのモスクの建設の背後にある**四つの悪しき目的**を挙げています。(1)**ディラール** — ムスリムに害を与えること、(2)**クフル** — 不信仰を強めること、(3)**タフリーク** — クバーの会衆を分裂させること、(4)**イルサード** — アッラーとその使徒に戦いを挑んだ敵の拠点となること。「マスジド・ディラール（害意のモスク）」という名は、この節の最初の言葉から取られています。

> **スィーラの注：修道士アブー・アーミルと偽信者たちの願い**
>
> クルアーン解釈者とスィーラ学者たちは、「以前にアッラーとその使徒に戦いを挑んだ者」とは、アウス族の**修道士アブー・アーミル**のことであると伝えています。彼はイスラーム以前にキリスト教に入った人物でした。彼はアッラーの使徒 ﷺ に敵対し、ウフドではクライシュ族に加わり、その後ムスリムに対抗する援助を求めて**ローマ皇帝のもとへ行きました。**アッラーの使徒 ﷺ は彼を「**放蕩者アブー・アーミル**」と呼ばれました。一方その息子**ハンザラ・ブン・アビー・アーミル**は、ウフドで殉教し、天使たちに洗われた教友です（第 10 巻）。
>
> 偽信者たちは、そのモスクをアブー・アーミルを待つ場所として建てたのです。かれらは、アッラーの使徒 ﷺ がタブークへの準備をしておられたときにやって来て言いまし

た。「わたしたちは、寒く雨の降る夜に病人や困っている人のためにモスクを建てました。あなたにそこで礼拝していただきたいのです。」使徒は答えられました。「わたしはいま旅の準備をしている。戻ったら、アッラーが望まれるなら。」これらの細部は**スィーラとクルアーン解釈の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 残された三人と害意のモスクの物語；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』。

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』悔悟章 9:107。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/107

偽信者たちの策略がどれほど巧妙だったかを見てください。かれらは**最も神聖な宗教の象徴** — モスク — を分裂のために利用したのです。かれらはまた、そのモスクが「お墨付き」を得られるよう、**アッラーの使徒 ﷺ にそこで礼拝していただくこと**を望みました。しかしアッラーは、その計画が成功する前にかれらを暴かれたのです。

「そこで礼拝してはならない」

アッラーの使徒 ﷺ がタブークから帰る途中、アッラーは厳しい禁止を下されました。**「あなたは決してその中に立って（礼拝して）はならない」**（悔悟章 9:108）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:108。

偽信者たちはまた、誓いを用意していました。**「わたしたちは善いことしか望んでいなかった。」**しかしアッラーは答えられました。**「だがアッラーは、かれらが本当に嘘つきであることを証言なされる」**（悔悟章 9:107）。誓いや主張された善意は、真実を変えはしません。

スィーラの注：害意のモスクの取り壊し

スィーラ学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに近い**ズー・アワーン**という場所に着かれたとき、**マーリク・ブン・アッ＝ドゥフシュム**と**マアン・ブン・アディー**（あるいはその兄弟アースィム・ブン・アディー）を呼び、こう命じられたと伝えています。「住む者が不正を行うこのモスクへ行き、取り壊して焼き払いなさい。」二人は出かけて行き、**それを焼いて取り壊しました。**

その跡地は後にごみ捨て場にされたとも言われています。これらの細部は**イブン・イスハークの伝承**とスィーラ書によるものです。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 残された三人と害意のモスクの物語；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』。

教訓：**建物はその形によって神聖になるのではなく**、その**意図と目的**によって神聖になるのです。共同体を分裂させるために建てられたモスクは、本当の意味でのアッラーの家ではありません。学者たちはこの出来事から、**ムスリムに害を与え分裂させるために建てられたものは何であれ**、たとえ宗教の名に隠れていても、阻止されなければならないと導き出しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：266 / 634

敬虔の上に建てられたモスク

同じ節は、本当のモスクへの称賛へと続きます。**「最初の日から篤信の上に建てられたマスジドこそ、あなたが（礼拝に）立つのに相応しい」**（悔悟章 9:108）。それはどのモスクを指すのでしょうか。教友たち自身もそれを尋ねたことがありました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1398 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ حَاتِمٍ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ حُمَيْدٍ الْخَرَّاطِ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا سَلَمَةَ بْنَ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ مَرَّ بِي عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ قَالَ قُلْتُ لَهُ كَيْفَ سَمِعْتَ أَبَاكَ يَذْكُرُ فِي الْمَسْجِدِ الَّذِي أُسِّسَ عَلَى التَّقْوَى قَالَ قَالَ أَبِي دَخَلْتُ عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَيْتِ بَعْضِ نِسَائِهِ فَقُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَىُّ الْمَسْجِدَيْنِ الَّذِي أُسِّسَ عَلَى التَّقْوَى قَالَ فَأَخَذَ كَفًّا مِنْ حَصْبَاءَ فَضَرَبَ بِهِ الأَرْضَ ثُمَّ قَالَ هُوَ مَسْجِدُكُمْ هَذَا. - لِمَسْجِدِ الْمَدِينَةِ - قَالَ فَقُلْتُ أَشْهَدُ أَنِّي سَمِعْتُ أَبَاكَ هَكَذَا يَذْكُرُهُ

訳：

アブー・サラマ・ブン・アブドゥッラフマーンより。彼は言った。アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・サイード・アル＝フドリーがわたしの前を通りかかったので、わたしは彼に尋ねた。「あなたの父上が**敬虔の上に建てられたモスク**について語るのを、どのように聞いたか。」彼は答えた。わたしの父（アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه）は言った。わたしは、アッラーの使徒 ﷺ の妻の一人の家で使徒を訪ね、「アッラーの使徒よ、二つのモスクのうちどちらが敬虔の上に建てられたのですか」と尋ねた。すると使徒は一握りの小石を取って地面に打ちつけ、仰せられた。**「それはあなたがたのこのモスクである」** — すなわちマディーナのモスクである。アブー・サラマは言った。「あなたの父上がそのように語るのを聞いたことを、わたしは証言する。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・ハーティム ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← フマイド・アル＝ハッラート ← アブー・サラマ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・サイード・アル＝フドリー ← その父アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه。

参照： イマーム・ムスリムの伝承、『サヒーフ・ムスリム』巡礼の書、敬虔の上に建てられたモスクはマディーナの預言者 ﷺ のモスクであることの説明の章、第 1398 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1398a

このハディースの教訓

節の文脈は**クバーのモスク**を示しています。害意のモスクはそれと張り合うためにその近くに建てられ、クバーはアッラーの使徒 ﷺ がヒジュラの際に最初に建てられたモスクだからです（第 7 巻）。しかしこのハディースは**預言者のモスク**を挙げています。イブン・カスィール、イブン・ハジャルらの学者は両者を調和させています。**二つのモスクはどちらも敬虔の上に建てられた**のです。節はクバーについて下りましたが、アッラーの使徒 ﷺ は、預言者のモスクがその性質にさらにふさわしいことを明らかにされたのです。

より大きな教訓：**建物の土台がその運命を決める**。敬虔の上に建てられたモスクは今日まで生き続け、人で満ちています — 毎年数百万人が預言者のモスクとクバーのモスクで礼拝しています。一方、害意のモスクは**石ひとつ残らなかった**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クバーのモスクと身を清める人びと

アッラーの使徒 ﷺ は生涯を通じてクバーのモスクをとても大切にされました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1193 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ مُسْلِمٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ دِينَارٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَأْتِي مَسْجِدَ قُبَاءٍ كُلَّ سَبْتٍ مَاشِيًا وَرَاكِبًا. وَكَانَ عَبْدُ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ يَفْعَلُهُ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما より。彼は言った。**預言者 ﷺ は毎週土曜日、徒歩で、また乗り物に乗って、クバーのモスクに来られていた。**そしてアブドゥッラー（・ブン・ウマル）رضى الله عنهما もまたそうしていた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← アブドゥルアズィーズ・ブン・ムスリム ← アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』マッカとマディーナのモスクでの礼拝の功徳の書、毎週土曜日にクバーのモスクに来る者の章、第 1193 番；ムスリム第 1399 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1193

このハディースの教訓

使徒はまた仰せられました。「**クバーのモスクでの礼拝は、（その報奨が）ウムラのようである。**」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』324、アルバーニーはサヒーフと評価）。このスンナは今日まで巡礼者とウムラの参拝者によって実践されています。家で小浄をしてからクバーへ行き、そこで礼拝するのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：269 / 634

第 108 節はまたクバーの住民を称えています。**「そこには、身を清めることを好む男たちがいる。アッラーは身を清める者を愛でられる」**（悔悟章 9:108）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:108。

アブー・フライラ رضى الله عنه の伝承では、この節はクバーの住民について下ったもので、それはかれらが**水で用便の後始末をしていた**からだと述べられています（『スナン・アビー・ダーウード』44、アルバーニーはサヒーフと評価）。かれらの外面の清さは内面の清さを映していました。害意のモスクと比べてみてください。建物は美しかったかもしれませんが、**建てた者たちの心は汚れていた**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

崖っぷちの建物

それからアッラーは、とても力強いたとえを示されます。

「アッラーを畏れ、かれの御喜びを求めてその家の礎えを定め建てる者と、砕け崩れそうな崖のふちにその家の礎えを定めて建て、地獄の火の中に共に砕け落ちる者と、どちらが優れているか。アッラーは不義を行う民を導かれない。」（悔悟章 9:109）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:109。

下が浸食された川岸に建てられた建物を想像してみてください。外から見れば頑丈ですが、その下の地面は空洞です。いつ崩れてもおかしくありません — そしてこのたとえでは、それは建てた者もろとも**まっすぐ火獄へと崩れ落ちる**のです。

「かれらの建てた建物は、かれらの心が細かく砕かれない限り、かれらの心中の疑惑不安の種となろう。アッラーは全知にして英明であられる。」（悔悟章 9:110）— 『タフスィール・イブン・カスィール』9:110。

このたとえはモスクだけでなく、**あらゆる行い**に当てはまります。商売、団体、作品、さらには崇拝行為まで、すべての行いには「土台」があります。もしその土台が**敬虔とアッラーの御満悦**であれば、それは残ります。もしその土台が見せびらかしや策略や私利であれば、それは崖っぷちの建物のようなものです。立派に見えても、崩れるのを待っているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二つのモスク、二つの意図

クバーのモスクと害意のモスクを比べると、ものの価値はその外見ではなく、**意図と土台**にあることがわかります。

項目	クバーのモスク → 害意のモスク
建てた者	アッラーの使徒 ﷺ と教友たち → 偽信者たち
土台	敬虔とアッラーの御満悦 → 崩れかけた崖っぷち
目的	ムスリムを一つにする → 分裂させる
人口	身を清めることを好む人びと → 偽りの誓いを立てる者たち
命令	あなたがそこで礼拝するのにふさわしい → そこで礼拝してはならない
その後	今日まで人で満ちている → 焼かれ取り壊された

二つのモスクの物語は、三人の教友の物語を補うものでもあります。どちらも**誠実さ**について教えています。三人の教友は言葉において誠実であり、害意のモスクを建てた者たちは建物と誓いによって欺きました。アッラーは両者を明らかにされました — 誠実な者を高め、欺く者を倒されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語の典拠

この物語は、等級の異なるさまざまな出典で伝えられています。下の表にまとめます。

出来事	典拠と等級
カアブ・ブン・マーリクの物語の全体	『サヒーフ・ブハーリー』4418；『サヒーフ・ムスリム』2769 — サヒーフ
誠実さの恩恵	『サヒーフ・ブハーリー』4673 — サヒーフ
五十夜	『サヒーフ・ブハーリー』6255 — サヒーフ
悔悟の節	『サヒーフ・ブハーリー』4678 — サヒーフ
旅の後の二ラクアの礼拝	『サヒーフ・ブハーリー』3088 — サヒーフ
「財産の一部は手元に残しなさい」	『サヒーフ・ブハーリー』2757 — サヒーフ
誠実さは楽園へと導く	『サヒーフ・ブハーリー』6094 — サヒーフ
敬虔の上に建てられたモスク	『サヒーフ・ムスリム』1398 — サヒーフ
毎週土曜日にクバーへ	『サヒーフ・ブハーリー』1193 — サヒーフ
自分を縛りつけたアブー・ルバーバ	タバリーとイブン・カスィールのタフスィール — 議論あり
修道士アブー・アーミル	スィーラ書とクルアーン解釈書
害意のモスクの取り壊し	イブン・イスハーク — スィーラ

カアブ・ブン・マーリクの物語は、カアブ自身によって二つのサヒーフの両方に伝えられているため、**最も伝承経路の確かな**スィーラの物語の一つです。一方、害意のモスクの物語はクルアーンによって確証され、その細部はスィーラ書とクルアーン解釈書から来ています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この物語の背後にあるクルアーンの節

三人の教友と害意のモスクの物語は、単なる歴史の伝承ではありません。それは審判の日まで読まれ続ける悔悟章の一連の節に刻まれています。この表はそれらの節をまとめ、本書のどの章がそれを解説しているかを示しています。

節	要旨	章
悔悟章 9:81〜83	残ったことを喜び、「暑い中を出征するな」と言った者たち	7
悔悟章 9:94〜96	あなたがたが戻ると言い訳をするであろう。信じるな、アッラーがすでに告げておられる	7
悔悟章 9:102	罪を認め、善い行いと悪い行いを混ぜ合わせた者たち	25
悔悟章 9:106	アッラーの決定まで件が保留された者たち	25
悔悟章 9:107〜110	害意のモスクと敬虔の上に建てられたモスク	26〜30
悔悟章 9:117	困難の時における、預言者、ムハージルーン、アンサールへのアッラーの悔悟の許し	18
悔悟章 9:118	残された三人への悔悟の許し	1、12、18
悔悟章 9:119	「誠実な者たちとともにいなさい」	21

第 9 章 118 節を一語ずつ読む

第 118 節は、三人の教友の状態をとても繊細な言葉で描いています。イブン・カスィールやクルトゥビーなどのクルアーン解釈者は、その表現を次のように説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

表現	意味	簡単な説明
ٱلَّذِينَ خُلِّفُواْ	残された／保留された	カアブ自身が説明している。戦いから遅れたという意味ではなく、誓って言い訳をした者たちに比べて、かれらの件が保留されたという意味である（『サヒーフ・ブハーリー』4418）
ضَاقَتْ عَلَيْهِمُ ٱلْأَرْضُ بِمَا رَحُبَتْ	大地は広いのに狭く感じられた	カアブは、大地がまるで変わってしまい、もはや知っている大地ではなかったと言った
وَضَاقَتْ عَلَيْهِمْ أَنفُسُهُمْ	かれら自身の魂も狭くなった	狭さは外だけでなく、胸の内にもあった
وَظَنُّوٓاْ أَن لَّا مَلْجَأَ مِنَ ٱللَّهِ إِلَّآ إِلَيْهِ	アッラーから逃れる場所は、かれの御許以外にないと悟った	悔悟の頂点：アッラーから逃れてアッラーへ向かう
ثُمَّ تَابَ عَلَيْهِمْ لِيَتُوبُواْ	それからアッラーは、かれらが悔い改めるように、かれらに悔悟を許された	悔い改めへの導き（タウフィーク）そのものがアッラーから来る

この節の順序に注目してください。外の狭さ、次に内なる狭さ、そしてアッラーのほかに避け所はないという確信 — それからようやく悔悟の受け入れが訪れます。それはまるで、悔い改める人の魂の旅路の地図のようです。

参照：悔悟章 9:118（Quran.com）；『サヒーフ・ブハーリー』4418；イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』。

教訓

アッラーは三人の教友の悔悟を受け入れられただけではありません。かれらの気持ちを御言葉の中に永遠に刻まれたのです。罪のために「大地が狭い」と感じたことのある人は誰でも、この節を読み、出口はアッラーへ戻ることだと知ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブと害意のモスクの物語の人物

カアブ・ブン・マーリクのハディースには、三人の教友のほかにも多くの人が登場します。この表は、害意のモスクの物語の人物とともに、かれらをまとめたものです。スィーラ書にしかない情報にはその旨を記しています。

名前	部族／関係	物語での役割	典拠
カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه	ハズラジュ族（サリマ家）	残された三人の一人；物語の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』4418
ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ رضى الله عنه	アウス族（アムル・ブン・アウフ家）；バドルの戦士	残された三人の一人	『サヒーフ・ブハーリー』4418
ヒラール・ブン・ウマイヤ رضى الله عنه	アウス族（ワーキフ家）；バドルの戦士	残された三人の一人；高齢のため妻が世話をすることが許された	『サヒーフ・ブハーリー』4418
アブー・カターダ رضى الله عنه	ハズラジュ族（サリマ家）；カアブは彼を「わたしのいとこで、最も愛する人」と呼んだ	果樹園でカアブの挨拶に応えなかった	『サヒーフ・ブハーリー』4418
ムアーズ・ブン・ジャバル رضى الله عنه	ハズラジュ	タブークで、ある男がカアブを非難したときにカアブをかばった	『サヒーフ・ブハーリー』4418
サリマ家の一人の男	ハズラジュ族（サリマ家）	タブークでカアブを非難した。「彼は二枚の外衣に引き留められている」	『サヒーフ・ブハーリー』4418
シャームのナバテア人の農夫	—	ガッサーン王の手紙をカアブに届けた	『サヒーフ・ブハーリー』4418

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

名前	部族／関係	物語での役割	典拠
タルハ・ブン・ウバイドゥッラー رضى الله عنه	クライシュ（タイム家）	立ち上がって走り寄り、カアブを迎えて祝福した	『サヒーフ・ブハーリー』4418
サルウ山から叫んだ男	ハディースでは名前が挙げられていない	最も大きな声で悔悟の知らせを伝えた	『サヒーフ・ブハーリー』4418；名前はイブン・ハジャルが引用したワーキディーの伝承による
修道士アブー・アーミル	アウス族；「天使に洗われた者」ハンザラの父	害意のモスクを建てた者たちが待っていた人物	スィーラ書とクルアーン解釈書
マーリク・ブン・アッ＝ドゥフシュムとマアン・ブン・アディー رضى الله عنهما	マーリク：ハズラジュ族；マアン：バリー族、アンサールの同盟者	害意のモスクを取り壊して焼くために遣わされた	イブン・イスハーク — スィーラの伝承
アブー・ルバーバ رضى الله عنه	アウス族（アムル・ブン・アウフ家）	モスクの柱に自分を縛りつけた（一部の解釈者によれば 9:102 に関連）	タバリーとイブン・カスィールのタフスィール — 議論あり

スィーラの注：叫んだのは誰、馬で駆けたのは誰？

真正なハディースは、サルウ山から叫んだ男も、カアブのもとへ馬で急いだ者も名指ししていません。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、サルウ山に登ったのはアブー・バクル رضى الله عنه だとし、馬で駆けた者や知らせを伝えた者についても別の名を挙げるワーキディーの伝承を引用しています。

ワーキディーの伝承はハディース学者から弱いと評価されているため、これらの名はスィーラの伝承としてのみ挙げます。真正なハディースから確かなのは、教友たちが先を争ってその知らせを伝えた喜びです。

教訓

一つのハディースの中に、かばう教友（ムアーズ）、非難する教友（サリマ家の男）、悲しみながらも従う教友（アブー・カターダ）、そして妬みなく喜ぶ教友（タルハ）が見られます。健全な共同体とは過ちのない共同体ではなく、どのように教育し、待ち、そして再び迎え入れるかを知っている共同体なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒラール・ブン・ウマイヤと呪詛の節

ヒラール・ブン・ウマイヤ رضى الله عنه は、残された三人の一人であるだけではありません。その名は、クルアーンの規定を生んだもう一つの出来事、すなわち御光章の呪詛（リアーン）の節にも記されています。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、ヒラール・ブン・ウマイヤがアッラーの使徒 ﷺ の前で、妻をシャリーク・ブン・サフマーという男との関係で告発したと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は彼に仰せられました。「証拠を持って来なさい。さもなければ、あなたの背に（ハッドの）刑が科される。」ヒラールは答えました。「アッラーの使徒よ、わたしたちの誰かが妻と一緒にいる男を見たとき、証人を探しに行かなければならないのですか。」すると呪詛の節（御光章 24:6〜9）が下りました（『サヒーフ・ブハーリー』4747）。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』4747；御光章 24:6〜9（Quran.com）。

呪詛（リアーン）とは、妻を告発しながら四人の証人を持たない夫の状況を、クルアーンが解決する方法です。夫は自分が真実を語っているとアッラーにかけて四度証言し、五度目には、もし嘘をついているならアッラーの呪いが自分に下るよう求めます。妻は、夫が嘘をついているとアッラーにかけて四度証言し、五度目には、もし夫が真実を語っているならアッラーの怒りが自分に下るよう求めることで、刑を免れることができます。その後、二人は離される。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：呪詛の節の啓示の契機に関する二つの伝承

『サヒーフ・ブハーリー』には、呪詛の節がウワイミル・アル＝アジュラーニーについて下ったという伝承もあります（『サヒーフ・ブハーリー』4745）。イブン・ハジャルなどの学者は両方の伝承を調和させています。ヒラールの出来事が先に起こって節が下り、その後まもなくウワイミルが来たため、節が両方に結びつけられたのであろう、というものです。

本章では規定を簡単に述べるにとどめます。呪詛のフィクフの詳細は、フィクフの書物と宗教当局に確認してください。

ヒラールの二つの物語は一つの点で出会います。誠実さです。タブークの物語では、彼は言い訳がないことを正直に認めました。呪詛の物語では、彼はアッラーの使徒 ﷺ にこう言いました。「あなたを真理とともに遣わされた方にかけて、わたしは本当に真実を語っています。アッラーはきっと、わたしの背を刑から解放する何かを下されるでしょう。」アッラーは彼の望みを二度かなえられたのです。

教訓

クルアーンの規定は、しばしば本当の試練に直面した普通の人びとの物語を通して下されます。誠実な老人ヒラールは、二つの一連の節が下る契機となりました。今日のわたしたちの小さな誠実さが、思いもよらない大きな善となるかもしれないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハジュル：絶縁はいつ許されるのか

第 22 章と第 23 章では、学者たちがカアブの物語からハジュル（絶縁）の規定を導き出したことを述べました。しかしこの物語は、誰とでも絶縁してよいという許可証だと誤解されがちです。本章では、全体像を見るための根拠をまとめます。

兄弟と三日を超えて絶縁することの禁止

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「ムスリムの男が兄弟と三夜を超えて絶縁し、出会っても互いに顔をそむけることは許されない。二人のうちで最もよい者は、先に挨拶をする者である。」（『サヒーフ・ブハーリー』6077）

使徒 ﷺ はまた仰せられました。「楽園の扉は月曜日と木曜日に開かれ、アッラーに何ものをも並べないすべてのしもべが赦される。ただし兄弟との間に敵意のある者は別である。『この二人は和解するまで待たせよ』と言われる。」（『サヒーフ・ムスリム』2565）

別の伝承では、「ムスリムが兄弟と三日を超えて絶縁することは許されない。三日を超えて絶縁したまま死ぬ者は火獄に入る。」（『スナン・アビー・ダーウード』4914、アルバーニーはサヒーフと評価）

参照：『サヒーフ・ブハーリー』6077；『サヒーフ・ムスリム』2565；『スナン・アビー・ダーウード』4914。

二種類の絶縁の違い

項目	禁じられた絶縁	教育のための絶縁（カアブの物語のような）
理由	この世の事柄、個人的な怒り、恨み	明白な宗教上の過ち
決める者	感情に任せた個人	英知をもって判断する指導者や権限ある者

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

項目	禁じられた絶縁	教育のための絶縁（カアブの物語のような）
目的	怒りを晴らす、あるいは罰する	改善し教育する
期間	三日を超えることは禁止	必要な範囲だけで、目的が達せられれば終わる
その後	関係が断たれる	喜んで再び迎え入れられる（タルハ、ムアーズ、アブー・カターダ）

イブン・ハジャルとナワウィーは、宗教上の理由による絶縁は、それが益をもたらす場合、すなわち絶縁される人が変わることが期待される場合にのみ許されると強調しています。もし絶縁がその人をますます善から遠ざけるだけなら、近づいて忠告するほうがよいのです。

今日の生活の中で

今日、「絶縁」は新しい形をとっています。電話番号のブロック、チャットグループからの退出、親族の集まりで口をきかないこと。カアブの物語は、正当な絶縁はごく限られたもので、目的があり、抱擁で終わるものだと教えています。それ以外については、本来の命令は親族の絆をつなぎ、先に挨拶をすることです。

教訓

カアブの物語を、関係を断つ言い訳にしてはなりません。アッラーの使徒 ﷺ は三人の教友をかれらを正すために絶縁され、その後、月のように輝く顔でかれらを迎えられたのです。いがみ合う二人のうちで最もよい者は、先に挨拶をする者です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三人の教友と害意のモスクの物語の年表

この表は、本書の出来事を順に並べたものです。日付はハディースとスィーラ書に基づくおおよそのものです。

時期	出来事	典拠
タブーク以前（ヒジュラ暦 9 年）	偽信者たちが害意のモスクを建て、アッラーの使徒 ﷺ にそこでの礼拝を求める。使徒は出発を控えていたため延期される	スィーラ書とクルアーン解釈書
ヒジュラ 9 年ラジャブ月	軍がタブークへ出発。カアブは「明日、支度しよう」と言う	『サヒーフ・ブハーリー』4418
タブーク滞在中	アッラーの使徒 ﷺ が「カアブはどうしたのか」と尋ねられ、ムアーズが彼をかばう	『サヒーフ・ブハーリー』4418
帰り道	カアブが身を守るための言い訳を考え始める	『サヒーフ・ブハーリー』4418
マディーナに近づいて	害意のモスクについての節が下り、取り壊しの使者が遣わされる	悔悟章 9:107〜110；イブン・イスハーク
ヒジュラ暦 9 年ラマダーン（推定）	アッラーの使徒 ﷺ が到着し、モスクで二ラクアの礼拝をされ、八十人余りの言い訳を受け入れられる	『サヒーフ・ブハーリー』4418、3088
同じ日	カアブ、ムラーラ、ヒラールが真実を語る	『サヒーフ・ブハーリー』4418
1〜40 夜	絶縁：誰もかれらと話さない。ガッサーン王の手紙が焼かれる	『サヒーフ・ブハーリー』4418
40 夜目	妻から離れるよう命じられる	『サヒーフ・ブハーリー』4418
50 夜目	夜の最後の三分の一に悔悟の節が下る	『サヒーフ・ブハーリー』4418、4678

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
51 日目の夜明け	サルウ山からの叫び。カアブは感謝のサジダをし、モスクへ向かう	『サヒーフ・ブハーリー』4418
その後	カアブが全財産を施そうとし、使徒は一部を残すよう命じられる	『サヒーフ・ブハーリー』2757
ヒジュラ暦 9 年末	アブー・バクルのもとでの最初の巡礼。使節団の年が始まる（第 26〜27 巻）	スィーラ書
ヒジュラ暦 50 年ごろ	老年に失明した後、カアブがムアーウィヤの時代に亡くなる	人物伝の書

教訓

五十夜は、それを耐え忍ぶ者には長く感じられましたが、歴史の年表の上ではほんの一行にすぎません。わたしたちの試練も同じです。その最中には終わりがないように感じられても、それは過ぎ去り、残るのはその結果 — わたしたちがアッラーのもとへ戻ったかどうか — なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブ・ブン・マーリクと害意のモスクに関するよくある質問

1. 残された三人とは誰か？

カアブ・ブン・マーリク（ハズラジュ族サリマ家）、ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーウ（アウス族アムル・ブン・アウフ家）、ヒラール・ブン・ウマイヤ（アウス族ワーキフ家）。ムラーラとヒラールはバドルの戦士である（『サヒーフ・ブハーリー』4418；第 10 章と第 34 章）。

2. 悔悟章 9:118 の「残された」とはどういう意味か？

カアブ自身によれば、それはかれらの件が保留されたという意味であり、単に戦いから遅れたという意味ではない（『サヒーフ・ブハーリー』4418；第 33 章）。

3. なぜ偽信者たちは絶縁されなかったのか？

かれらには善が期待されなかったため、その件はアッラーに委ねられた。一方三人の教友は、戻ってくることが期待されたからこそ教育されたのである（第 22 章）。

4. 絶縁はどれくらい続いたのか？

五十夜。四十夜目に、かれらは妻から離れるよう命じられた（『サヒーフ・ブハーリー』4418；第 14〜15 章）。

5. 妻から離れよという命令は離婚を意味するのか？

いいえ。カアブは妻を離縁しなければならないのかと尋ね、「いや、ただ彼女から離れなさい」と答えられた。カアブは妻を実家に帰らせた。ヒラールの妻は、夫が高齢であったため世話をすることが許された（第 14 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. ガッサーン王は何と書いてきたのか？

「あなたの仲間があなたと絶縁した」として、カアブを自分のもとへ誘った。カアブはそれをもう一つの試練と考え、手紙を焼いた（第 13 章）。

7. サルウ山から叫んだのは誰か？

真正なハディースは名前を挙げていない。ワーキディーの伝承は特定の名前を挙げているが、その伝承は弱い（第 34 章）。

8. カアブの物語のように、わたしたちも人と絶縁してよいのか？

個人的な事柄での絶縁は三日を超えることが禁じられている。宗教上の理由による教育のための絶縁はごく限られており、改善を目的とし、英知をもって行い、目的が達せられれば終わる（『サヒーフ・ブハーリー』6077；『サヒーフ・ムスリム』2565；第 36 章）。

9. ヒラール・ブン・ウマイヤと呪詛の節にはどんな関係があるのか？

ヒラールが四人の証人なしに妻を告発し、呪詛の節（御光章 24:6〜9）が下った。この節をウワイミル・アル＝アジュラーニーに結びつける伝承もある（『サヒーフ・ブハーリー』4747、4745；第 35 章）。

10. 害意のモスクを建てたのは誰か？

修道士アブー・アーミルの到来を待っていた偽信者の一団である。アッラーは悔悟章 9:107 でかれらの意図を明らかにされ、そのモスクは使徒がタブークから戻られた後に取り壊された（スィーラ書；第 26〜27 章）。

11.「敬虔の上に建てられた」モスクとはどれか？

二つの見解がある。クバーのモスクか、預言者のモスクか。アッラーの使徒 ﷺ は『サヒーフ・ムスリム』1398 でご自身のモスクを挙げられ、多くの学者はその節が両方を含むと言っている（第 28〜29 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

12. この物語からわたしたちが学ぶ主な教訓は何か？

たとえ高くついても誠実であることは、一時的に身を救う言い訳よりもよい。アッラーは誠実な者の悔悟を受け入れ、美しい建物を用いてでも欺く者を暴かれる。

教訓

これらの質問は、カアブの物語がいかに確かなものであるかを示しています。ほとんどすべての細部が、カアブ自身が伝えた真正なハディースから来ているのです。スィーラ書から来る名前や日付の細部は、その等級に応じて述べています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

残された三人の物語と害意のモスクの物語は、同じ一枚の硬貨の両面です。**誠実さと虚偽**です。一方は敗れたように見えて最後には勝ち、もう一方は成功したように見えて最後には崩れ落ちました。

教訓	この物語から
先延ばしの危険	「明日、支度しよう」
その場にいない兄弟をかばう	タブークでムアーズがカアブをかばった
高くついても誠実に	カアブは偽りの言い訳を拒んだ
正しい人の手本	バドルの戦士ムラーラとヒラール
傷ついたときにも忠実に	ガッサーン王の手紙を焼いた
アッラーのもとへ逃れる	「かれの御許以外に逃れる場所はない」
感謝のサジダ	カアブはサルウ山からの声を聞いてひれ伏した
戻ってきた者を迎える	タルハが立ち上がって握手した
意図が価値を決める	クバーのモスクと害意のモスク

わたしたちの人生の中のカアブ

わたしたちは誰でも、カアブのように過ちを犯したことがあります — 善行を先延ばしにし、服従に遅れたことが。問題は過ちを犯すかどうかではなく、**その後に何をするか**です。あの八十人のように言い訳を探すのか、それとも真実を語り、結果を忍耐して受け止め、アッラーのもとへ逃れるのか。カアブは後者の道を選び、アッラーは彼の悔悟の日を**生まれて以来最良の日**とされたのです。

アッラーが望まれるなら、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**第 26 巻「使節団の年（アーム・アル＝ウフード）」**へと続きます。タブークの後、ターイフのサキーフ族、タミーム族、ナジュラーンなど、アラビア半島の各地から使節団が次々とマ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ディーナを訪れ、イスラームを受け入れました。アッラーこそが最もよく知っておられます。

第 25 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（悔悟章 9:94〜96、9:102、9:106〜110、9:117〜119；胸を広げる章 94:6）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/118

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1193、1426、2757、3088、4418、4673、4676、4678、6069、6077、6094、6255、6309、6690。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』716、1398、1399、2607、2747、2759、2769。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』324、1931；『スナン・アビー・ダーウード』44、4833。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— 残された三人と害意のモスクの物語。

イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』— カアブ・ブン・マーリクの物語からの教訓の節；ナワウィー『リヤード・アッ＝サーリヒーン』— 悔悟の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注解』— 遠征の書、カアブ・ブン・マーリクのハディース；『アル＝イサーバ・フィー・タムイーズ・アッ＝サハーバ』。

ナワウィー『シャルフ・サヒーフ・ムスリム』— 悔悟の書、カアブ・ブン・マーリクのハディース。

イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』；サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』。

一般の歴史

Wikipedia「Ka’b ibn Malik」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ka%27b_ibn_Malik

Wikipedia「Expedition of Tabuk」。https://en.wikipedia.org/wiki/Expedition_of_Tabuk

Wikipedia「Masjid al-Dirar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Masjid_al-Dirar

ウィキペディア「Quba Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Quba_Mosque

ウィキペディア「Al-Masjid an-Nabawi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Masjid_an-Nabawi

Wikipedia「Abu Qatada al-Ansari」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Qatada_al-Ansari

Wikipedia「Talha ibn Ubayd Allah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Talha_ibn_Ubayd_Allah

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4747（ヒラール・ブン・ウマイヤと呪詛の節）。https://sunnah.com/bukhari:4747

『サヒーフ・ブハーリー』4745（ウワイミル・アル＝アジュラーニーと呪詛）。https://sunnah.com/bukhari:4745

『サヒーフ・ブハーリー』6077（三夜を超える絶縁の禁止）。https://sunnah.com/bukhari:6077

『サヒーフ・ムスリム』2565（月曜日と木曜日に楽園の扉が開かれる）。https://sunnah.com/muslim:2565a

『スナン・アビー・ダーウード』4914（三日を超える絶縁）。https://sunnah.com/abudawud:4914

『サヒーフ・ブハーリー』4418（カアブ・ブン・マーリクのハディース）。https://sunnah.com/bukhari:4418

『サヒーフ・ブハーリー』4678（悔悟の節；悔悟章 9:117〜118）。https://sunnah.com/bukhari:4678

悔悟章 9:117〜119（Quran.com）。https://quran.com/9/117-119

御光章 24:6〜9（Quran.com）。https://quran.com/24/6-9

Wikipedia「Ka‘b ibn Malik」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ka%27b_ibn_Malik

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第五部

使節団の年

預言者伝（スィーラ）— 第 26 巻

アラビア全土からの使節団、群れをなしてイスラームに入る人びと、そしてアッラーの使徒 ﷺ の客人の迎え方 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

使節団の年

第 25 巻は、三人の教友の誠実さと、取り壊された害意のモスクの物語で終わりました。いま、わたしたちはスィーラの中でまったく異なる時期に入ります — **収穫**の時期です。マッカとマディーナで二十年にわたって蒔かれた種が、いまや実を結びました。使節団が次々とアラビア半島全土からやって来て、**イスラームを受け入れた**のです。

歴史家たちはヒジュラ暦 9 年を**アーム・アル＝ウフード — 使節団の年**と名づけました。本巻では、最も有名な使節団のいくつかを語ります。かつてターイフからアッラーの使徒 ﷺ を追い払ったサキーフ族、作法の荒いタミーム族、遠方から来たアブドゥルカイス族、率直に問いかけたディマーム・ブン・サアラバ、ナジュラーンのキリスト教徒、心優しいイエメンの人びと — そして**ムサイリマ**も来ました。かれは信仰のためではなく、権力を求めてやって来たのです。

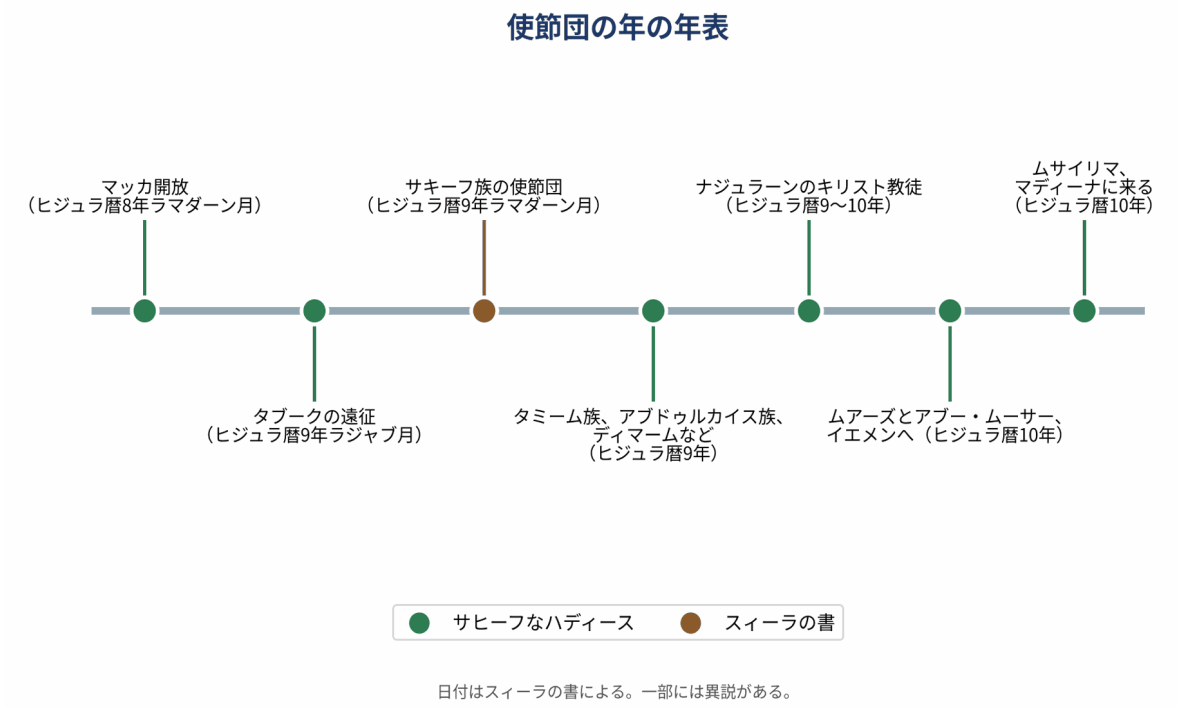


図 1：使節団の年の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。ウルワ・ブン・マスウードの物語、サキーフ族の条件、アル＝ラート像の破壊、タミーム族の演説比

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：293 / 634

べなど、スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に収めています。その多くは連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているためです。

使節団の年

この出来事が起こるずっと前に、アッラーはその様子を正確に描いた短い章を下されていました。

「**アッラーの援助と勝利が来て、**」（援助章 110:1） — 『イブン・カスィール注釈』110:1。

「**人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら、**」（援助章 110:2） — 『イブン・カスィール注釈』110:2。

「**あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である。**」（援助章 110:3） — 『イブン・カスィール注釈』110:3。

「**人びとが群れをなしてアッラーの教えに入る**」 — これまで、人びとは一人ずつ、時には密かに、迫害の危険を冒してイスラームに入っていました。いまや部族全体が、その指導者たちに率いられて一度にやって来るのです。第 20 巻で見たように、イブン・アッバースはこの章を**アッラーの使徒** ﷺ の死期が近いことのしるしと理解しました。その使命がほぼ完了したからです。

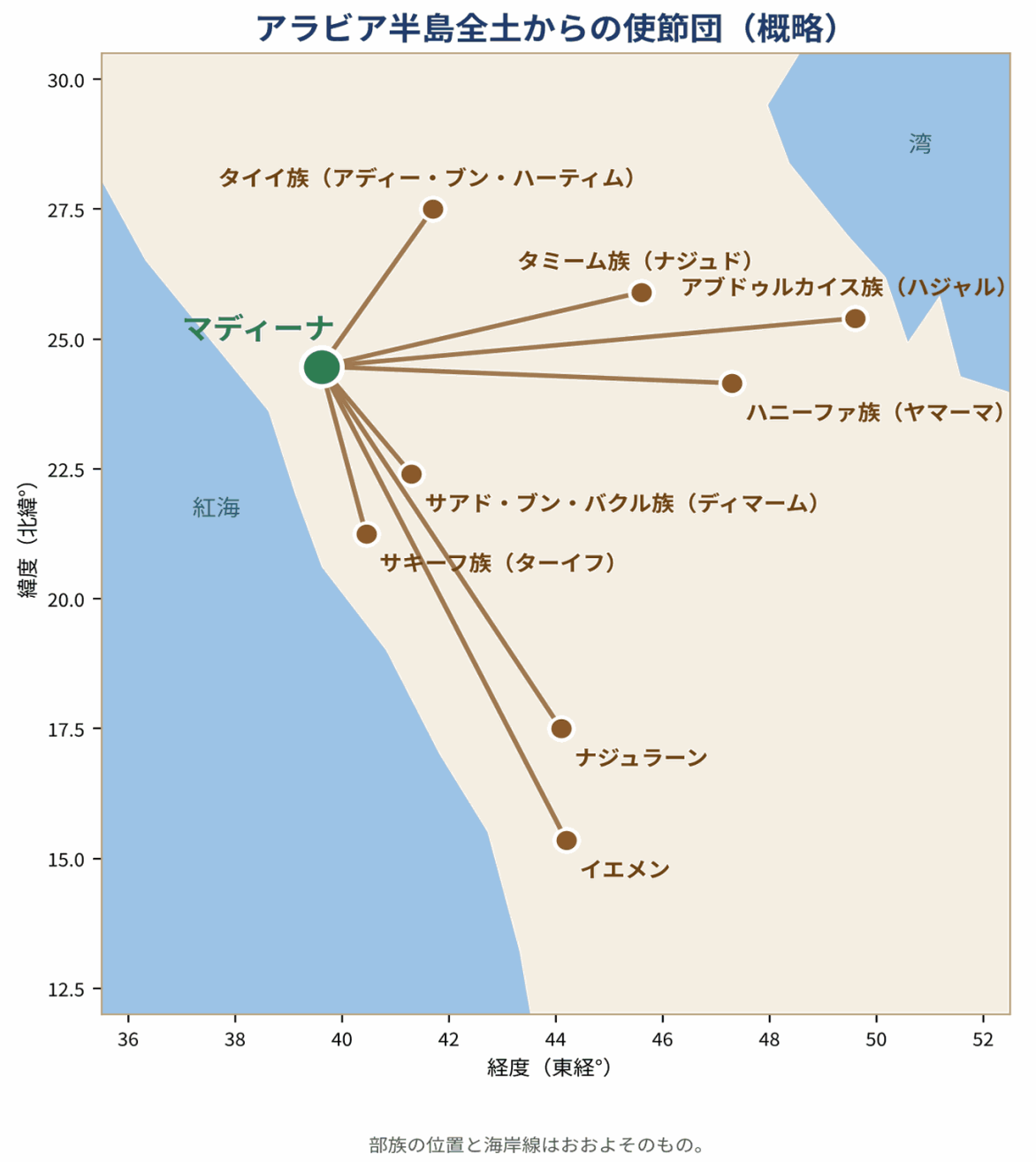


図 2：アラビア半島全土からの使節団（概略）。

スィーラの学者たちは、この時期にマディーナを訪れた**六十以上の使節団**を挙げています。その多くはヒジュラ暦 9 年と 10 年のことです。すべてを語ることはできませんが、真正なハディースに述べられているいくつかの使節団は、やって来た**人びとの多様さ**と、**アッラーの使徒** ﷺ が一人ひとりに接する際の英知を、はっきりと示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：296 / 634

なぜタブークの後なのか？

なぜアラブの諸部族はこれほど長く待ったのでしょうか。アムル・ブン・サラマ رضى الله عنه は説明しています。「**アラブは（マッカの）征服までイスラームに入るのを先延ばしにしていた。かれらは言っていた。『かれとその一族を放っておけ。もしかれがかれらに勝てば、かれは本当に預言者だ。』マッカの征服が起こると、どの部族も急いでイスラームに入った。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4302）。

クライシュ族は**カアバの守護者**であり、アラブの宗教的指導者でした。クライシュが敵対している限り、ほかの部族はためらっていました。マッカが開かれ、フナインで勝利し、ローマがタブークで対決を避けると、アラビア半島にはもはやイスラームを阻む力は残っていませんでした。こうして部族がやって来ました — 信仰のために来た者もいれば、**風向き**を見て来た者もいたのです。

アッラーの使徒 ﷺ はかれらすべてを温かく迎えられました。**イスラームの扉は誰にでも開かれている**からです。最初は弱いかもしれない信仰も、教育によって確かなものに育つことができます。しかし、深い信仰なしに入った者たちの一部こそが、のちに**背教**することになります。それはアッラーの使徒 ﷺ の逝去の後のことで、アブー・バクル رضى الله عنه が直面することになる試練でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ターイフから来たサキーフ族

最も意味深い使節団の一つが**ターイフのサキーフ族**でした — かつてアッラーの使徒 ﷺ を追い払い、石を投げつけた部族（第 5 巻）であり、フナインの後の包囲では砦に立てこもった部族（第 22 巻）です。そのかれらが、いまや自らマディーナにやって来たのです。

スィーラの注：ウルワ・ブン・マスウードとサキーフ族の条件

スィーラの学者たちは、ターイフの包囲の後、サキーフ族の指導者**ウルワ・ブン・マスウード**がアッラーの使徒 ﷺ の後を追い、イスラームに入ったと伝えています。彼は一族に呼びかけるために帰りましたが、自宅の屋上でアザーンを唱えていると、**かれらは彼に矢を射て殉教させました。**アッラーの使徒 ﷺ は、彼をヤー・スィーン章に登場する、使徒たちへの呼びかけのために一族に殺された男にたとえられたといいます。

数か月後、サキーフ族はすでにイスラームに入った部族に囲まれ、持ちこたえられないことを悟りました。かれらは使節団を送り、いくつかの条件を求めました — その中には、アル＝ラート像を数年間残すことと、礼拝を免除されることがありました。**それらの要求はすべて退けられました。**ジャービル رضى الله عنه は、サキーフ族がザカートとジハードを課されないことを条件としたとき、アッラーの使徒 ﷺ が「かれらはイスラームに入れば、施しをし、ジハードをするだろう」と仰せられたと伝えています（『スナン・アビー・ダーウード』3025；伝承経路には議論がある）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 使節団（アル＝ウフード）の章；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』。

アッラーの使徒 ﷺ は、その使節団の中で最も熱心にクルアーンを学んでいた若者**ウスマーン・ブン・アビー・アル＝アース** رضى الله عنه を、かれらのイマームに任命されました。そして彼に言い聞かせられました。「**あなたの一族の礼拝を導きなさい。人びとを導く者は（礼拝を）軽くしなさい。かれらの中には老人、病人、弱い者、用事のある者がいるのだから。**」（『サヒーフ・ムスリム』468）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：298 / 634

この英知を見てください。最年長の者や最も地位の高い者ではなく、**最も熱心に知識を求める者**を選ばれたのです。そして教えは権力についてではなく、**後ろで礼拝する人びとへの思いやり**についてでした。かつて石を投げた一族が、いまでは心優しい若者に導かれて礼拝しているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝ラート像の破壊

アル＝ラートは、サキーフ族のターイフにおける主要な偶像で、アル＝ウッザー、マナートとともにアラブの三大偶像の一つでした（星章 53:19〜20）。イブン・アッバース رضي الله عنهما はその起源を説明しています。「**アル＝ラートは、巡礼者のためにサウィーク（穀物の粉）を練っていた男であった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4859）。その男が死ぬと、人びとはその墓に籠もるようになり、ついには崇拝されるようになったのです。

スィーラの注：アル＝ラートを壊したアル＝ムギーラ

スィーラの学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**と**アル＝ムギーラ・ブン・シュウバ** رضي الله عنهما をサキーフ族の使節団とともに遣わし、アル＝ラート像を壊させたと伝えています。自身もサキーフ族の出であるアル＝ムギーラが、斧でそれを打ち壊しました。サキーフ族の女たちは頭を覆わずに出て来て、それを嘆き悲しみました。偶像の館にあった財宝と装飾品は取り出され、ウルワ・ブン・マスウードとその兄弟の借金の返済に充てられました。これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 使節団（アル＝ウフード）の章；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』。

アル＝ラートの起源から得られる教訓に注目してください。それは**善良な人間を度を越えて崇めること**から始まり、次にその墓が崇められ、ついには崇拝の対象となりました。だからこそイスラームは**タウヒード（唯一神信仰）の純粋さ**を守ることにきわめて厳格で、墓の上に建物を建てたり、そこを礼拝の場所にしたりすることを禁じているのです。

かつて剣と石でアル＝ラートを守った一族が、いまやその偶像が壊されるのを**自分の目で見た**のに、何も起こりませんでした。何世紀にもわたって恐れられてきた偶像は、自分自身を守ることさえできなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部屋の外のタミーム族

タミーム族はナジュドの最大の部族の一つで、勇敢さと詩と雄弁で知られていましたが、**作法の荒さ**でも知られていました。かれらの使節団はマディーナに着くと、アッラーの使徒 ﷺ が出て来られるのを待ちませんでした。かれらは**ご夫人方の部屋の外に立ち**、大声で呼びかけたのです。アッラーは（次の節を）下されました。

「本当に部屋の外から大声であなたを呼ぶ者の多くは、思慮分別のない者である。」（部屋章 49:4）— 『イブン・カスィール注釈』49:4。

「もしかれらが、あなたの出て来るのを待つならば、それはかれらのためにも良い。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」（部屋章 49:5）— 『イブン・カスィール注釈』49:5。

アッ＝ティルミズィーの伝承では、かれらの一人**アル＝アクラウ・ブン・ハービス**が「ムハンマドよ、わたしの称賛は飾りとなり、わたしの非難は恥となるのだぞ！」と叫んだと述べられています。アッラーの使徒 ﷺ は答えられました。**「それはアッラーである。」**（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3267、アッ＝ティルミズィーはハサン・ガリーブと評価。）その称賛が本当に人を尊くし、その非難が本当に人を卑しめるのは、アッラーだけなのです。

この節に表れた**アッラーの忍耐と慈悲**を見てください。アッラーはかれらを罰することなく、優しくたしなめ、節を**「アッラーは寛容にして慈悲深くあられる」**で結ばれました。かれらは来たばかりで、イスラームの作法をまだ知らなかったのです。わたしたちへの教訓：**新しく来た人は忍耐をもって教えられるべきであり**、厳しく罰せられるべきではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「吉報を受け取れ」

アッラーの使徒 ﷺ はタミーム族を最も価値ある申し出で迎えられました — **イスラームと楽園についての吉報**です。しかし、かれらがそれをどう受け止めたかを見てください。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4365 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ أَبِي صَخْرَةَ، عَنْ صَفْوَانَ بْنِ مُحْرِزٍ الْمَازِنِيِّ، عَنْ عِمْرَانَ بْنِ حُصَيْنٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أَتَى نَفَرٌ مِنْ بَنِي تَمِيمٍ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ اقْبَلُوا الْبُشْرَى يَا بَنِي تَمِيمٍ. قَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ قَدْ بَشَّرْتَنَا فَأَعْطِنَا. فَرِيءَ ذَلِكَ فِي وَجْهِهِ فَجَاءَ نَفَرٌ مِنَ الْيَمَنِ فَقَالَ اقْبَلُوا الْبُشْرَى إِذْ لَمْ يَقْبَلْهَا بَنُو تَمِيمٍ. قَالُوا قَدْ قَبِلْنَا يَا رَسُولَ اللَّهِ.

訳：

イムラーン・ブン・フサイン رضى الله عنهما は語った。**タミーム族**の一団が預言者 ﷺ のもとに来ると、預言者はこう仰せられた。「**タミーム族よ、吉報を受け取れ！**」かれらは言った。「アッラーの使徒よ、あなたはわたしたちに吉報をくださいました。ですから**（財を）ください。**」その（不快の）色が預言者のお顔に表れた。それから**イエメン**の一団がやって来ると、預言者は仰せられた。「**吉報を受け取れ。タミーム族はそれを受け取らなかったのだから。**」かれらは言った。「**確かに受け取りました、アッラーの使徒よ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アブー・サフラ・ジャーミウ・ブン・シャッダード ← サフワーン・ブン・ムフリズ・アル＝マーズィニー ← イムラーン・ブン・フサイン رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、タミーム族の使節団の章、第 4365 番；第 3190 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4365

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：302 / 634

このハディースの教訓

タミーム族は**現世的な考え**を持って来ました。かれらにとって吉報とは贈り物と財のことでした。一方、イエメンの人びとは**知識に渇いた心**を持って来ました。かれらは吉報をそのまま受け取ったのです。より長い伝承（『サヒーフ・ブハーリー』3190）では、イエメンの人びとは「わたしたちは宗教を深く学び、この事の始まりについて尋ねるために来ました」と言っています — すなわち創造の始まりについてです。

しかし、タミーム族はそのままではありませんでした。アブー・フライラ رضى الله عنه は言いました。「アッラーの使徒 ﷺ からかれらについて三つのことを聞いて以来、わたしはずっとタミーム族を愛している。」— その一つは、かれらがこの共同体の中で**ダッジャール（偽救世主）に最も厳しく立ち向かう人びと**だということです（『サヒーフ・ブハーリー』4366）。最初は荒々しかった部族が、やがて多くの戦士と学者を生み出したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

声を高めたアブー・バクルとウマル

タミーム族の来訪は、部屋章の冒頭にある作法の節が下る原因ともなりました — そして、たしなめられたのはベドウィンだけではなく、**最も尊い二人の教友**でもありました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4367 番

حَدَّثَنِي إِبْرَاهِيمُ بْنُ مُوسَى، حَدَّثَنَا هِشَامُ بْنُ يُوسُفَ، أَنَّ ابْنَ جُرَيْجٍ، أَخْبَرَهُمْ عَنِ ابْنِ أَبِي مُلَيْكَةَ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ الزُّبَيْرِ، أَخْبَرَهُمْ أَنَّهُ، قَدِمَ رَكْبٌ مِنْ بَنِي تَمِيمٍ عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ أَمِّرِ الْقَعْقَاعَ بْنَ مَعْبَدِ بْنِ زُرَارَةَ. قَالَ عُمَرُ بَلْ أَمِّرِ الأَقْرَعَ بْنَ حَابِسٍ. قَالَ أَبُو بَكْرٍ مَا أَرَدْتَ إِلاَّ خِلاَفِي. قَالَ عُمَرُ مَا أَرَدْتُ خِلاَفَكَ. فَتَمَارَيَا حَتَّى ارْتَفَعَتْ أَصْوَاتُهُمَا فَنَزَلَ فِي ذَلِكَ {يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لاَ تُقَدِّمُوا} حَتَّى انْقَضَتْ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイル رضى الله عنهما によれば、**タミーム族**の騎馬の一団が預言者 ﷺ のもとに来た。アブー・バクルは言った。「アル＝カアカーウ・ブン・マアバド・ブン・ズラーラを（かれらの長に）任命してください。」ウマルは言った。「いや、アル＝アクラウ・ブン・ハービスを任命してください。」アブー・バクルは言った。「あなたはただわたしに逆らいたいだけだ。」ウマルは言った。「あなたに逆らうつもりはない。」**二人は言い争い、ついに声が高くなった。**そこで、このことについて次の節が下った。｛信仰する者たちよ、先んじてはならない……｝節の終わりまで。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イブラーヒーム・ブン・ムーサー ← ヒシャーム・ブン・ユースフ ← イブン・ジュライジュ ← イブン・アビー・ムライカ ← アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイル رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、タミーム族の使節団の章、第 4367 番；第 4845、4847、7302 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4367

下った節はこれです。**「信仰する者たちよ、アッラーとその使徒の前に、先んじてはならない。」**（部屋章 49:1）— 『イブン・カスィール注釈』49:1。

「信仰する者たちよ、あなたがたの声を預言者の声より高くしてはならない。」（部屋章 49:2）— 『イブン・カスィール注釈』49:2。

このハディースの教訓

アブー・バクルとウマル رضى الله عنهما は敵対していたのではありません。誰がタミーム族を率いるべきかについて意見が分かれ、アッラーの使徒 ﷺ の御前で議論が熱を帯びただけでした。アッラーがかれらをたしなめられたのは、**アッラーの使徒** ﷺ の決定に先んじ、御前で**声を高めた**からです。

そして、かれらがその戒めをどう受け止めたかを見てください。イブン・アッ＝ズバイルは言いました。この節が下った後、**ウマルはアッラーの使徒** ﷺ **にとても小さな声で話したので、預言者は聞き返さなければならなかった**ほどでした（『サヒーフ・ブハーリー』4845、7302）。これが信仰者の性質です。たしなめられると、自分を弁護することなく、**すぐに変わる**のです。

サービト・ブン・カイス：アッラーの使徒 ﷺ の演説者

声を高めることについての節は、アンサールの一人の教友に深い影響を与えました。**サービト・ブン・カイス・ブン・シャンマース** رضي الله عنه — アンサールの演説者（代弁者）で、生まれつき声の大きな人でした。アナス رضي الله عنه は伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はサービトの姿が見えないことに気づかれ、ある男が彼を探しに行きました。男はサービトが家で頭を垂れて座っているのを見つけました。サービトは言いました。「**わたしはひどい有様だ！わたしは預言者 ﷺ の声より自分の声を高くしていた。わたしの行いは無駄になり、わたしは地獄の住人だ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3613；4846）

アッラーの使徒 ﷺ は、その男を驚くべき吉報とともに送り返されました。「**彼のところへ行って言いなさい。あなたは地獄の住人ではなく、楽園の住人である、と。**」

スィーラの注：タミーム族の演説者に応えたサービト

スィーラの学者たちは、タミーム族が演説者と詩人を連れて**誇り合う**ためにやって来たと伝えています。かれらの演説者ウターリド・ブン・ハージブが一族を称える演説をしました。アッラーの使徒 ﷺ はサービト・ブン・カイスにそれに応えるよう命じられ、サービトはアッラーとその使徒を称える演説をしました。次にかれらの詩人アッ＝ズィブリカーン・ブン・バドルが詩を詠むと、**ハッサーン・ブン・サービト**がそれに応えました。ついにアル＝アクラウ・ブン・ハービスは認めました。「かれらの演説者はわたしたちの演説者より雄弁で、かれらの詩人はわたしたちの詩人より優れている。」こうしてかれらはイスラームに入りました。これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 使節団（アル＝ウフード）の章；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』。

サービト・ブン・カイスはのちに、嘘つきムサイリマとの**ヤマーマの戦いで殉教しました** — アッラーの使徒 ﷺ が彼について告げられた吉報が成就したのです。その大

きな声はイスラームを守るために用いられ、アッラーへの畏れが彼を尊い者にしたのです。

アブドゥルカイス族の使節団

アラビア半島の東部 — **バフライン**地方（現在のアル＝アフサー州とその周辺）— から、**アブドゥルカイス族**の使節団がやって来ました。マディーナに着くには、まだ不信仰のムダル族の地を通らなければならなかったため、かれらが安全に来られるのは**聖なる月**だけでした。イブン・アッバース رضى الله عنهما はかれらとの出会いを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 53 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ الْجَعْدِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي جَمْرَةَ، قَالَ كُنْتُ أَقْعُدُ مَعَ ابْنِ عَبَّاسٍ، يُجْلِسُنِي عَلَى سَرِيرِهِ فَقَالَ أَقِمْ عِنْدِي حَتَّى أَجْعَلَ لَكَ سَهْمًا مِنْ مَالِي، فَأَقَمْتُ معه شَهْرَيْنِ، ثُمَّ قَالَ إِنَّ وَفْدَ عَبْدِ الْقَيْسِ لَمَّا أَتَوُا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ مَنِ الْقَوْمُ أَوْ مَنِ الْوَفْدُ. قَالُوا رَبِيعَةُ. قَالَ مَرْحَبًا بِالْقَوْمِ ـ أَوْ بِالْوَفْدِ ـ غَيْرَ خَزَايَا وَلاَ نَدَامَى. فَقَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ، إِنَّا لاَ نَسْتَطِيعُ أَنْ نَأْتِيَكَ إِلاَّ فِي شَهْرِ الْحَرَامِ، وَبَيْنَنَا وَبَيْنَكَ هَذَا الْحَىُّ مِنْ كُفَّارِ مُضَرَ، فَمُرْنَا بِأَمْرٍ فَصْلٍ، نُخْبِرْ بِهِ مَنْ وَرَاءَنَا، وَنَدْخُلْ بِهِ الْجَنَّةَ. وَسَأَلُوهُ عَنِ الأَشْرِبَةِ. فَأَمَرَهُمْ بِأَرْبَعٍ، وَنَهَاهُمْ عَنْ أَرْبَعٍ، أَمَرَهُمْ بِالإِيمَانِ بِاللَّهِ وَحْدَهُ. قَالَ أَتَدْرُونَ مَا الإِيمَانُ بِاللَّهِ وَحْدَهُ. قَالُوا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَعْلَمُ. قَالَ شَهَادَةُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَأَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ، وَإِقَامُ الصَّلاَةِ، وَإِيتَاءُ الزَّكَاةِ، وَصِيَامُ رَمَضَانَ، وَأَنْ تُعْطُوا مِنَ الْمَغْنَمِ الْخُمُسَ. وَنَهَاهُمْ عَنْ أَرْبَعٍ عَنِ الْحَنْتَمِ وَالدُّبَّاءِ وَالنَّقِيرِ وَالْمُزَفَّتِ. وَرُبَّمَا قَالَ الْمُقَيَّرِ. وَقَالَ احْفَظُوهُنَّ وَأَخْبِرُوا بِهِنَّ مَنْ وَرَاءَكُمْ.

訳：

アブー・ジャムラは語った。わたしはイブン・アッバース رضى الله عنهما と一緒に座るのが常で、彼はわたしを自分の寝台に座らせた。彼は言った。「わたしのもとにとどまりなさい。わたしの財産の一部をあなたにあげよう。」そこでわたしは二か月間、彼のもとにとどまった。それから彼は言った。**アブドゥルカイスの使節団**が預言者 ﷺ のもとに来たとき、預言者はお尋ねになった。「**この人びとは誰か？**」 — あるいは 「**この使節**

団は誰か？」かれらは答えた。「ラビーアです。」預言者は仰せられた。「**ようこそ、この人びと — あるいはこの使節団 — よ。恥辱もなく、後悔もなく。**」かれらは言った。「アッラーの使徒よ、わたしたちは聖なる月でなければあなたのもとに来ることができません。わたしたちとあなたの間には、この不信仰のムダル族がいるからです。ですから、明確な一つのことをお命じください。わたしたちはそれを後に残してきた人びとに伝え、それによって楽園に入りたいのです。」かれらはまた飲み物についても尋ねた。そこで預言者はかれらに**四つのこと**を命じ、四つのことを禁じられた。唯一のアッラーを信じるよう命じ、お尋ねになった。「**唯一のアッラーを信じるとは何か、知っているか？**」かれらは答えた。「アッラーとその使徒が最もよくご存じです。」預言者は仰せられた。「**アッラーのほかに神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒であると証言すること、礼拝を守ること、ザカートを納めること、ラマダーンに斎戒すること、そして戦利品の五分の一を納めることである。**」そして四種類の容器を禁じられた。アル＝ハンタム、アッ＝ドゥッバー、アン＝ナキール、アル＝ムザッファト — あるいはアル＝ムカイヤルと言われたかもしれない。預言者は仰せられた。「**これらをしっかり覚え、後に残してきた人びとに伝えなさい。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝ジャアド ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← アブー・ジャムラ・ナスル・ブン・イムラーン ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、「五分の一（フムス）を納めることは信仰の一部である」の章、第 53 番；第 4369 番とムスリム第 17 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:53

このハディースの教訓

「**ようこそ、恥辱もなく、後悔もなく**」 — 美しい言葉です。かれらは戦いに負けたからではなく、自ら進んでやって来たので、辱められることはありません。そして自分の意志でイスラームを選んだので、後悔することもないのです。アッラーの使

徒 ﷺ はかれらに、覚えやすく伝えやすい**イスラームの要約**を与えられました — 信仰告白、礼拝、ザカート、斎戒、そしてフムス（五分の一）です。

アブドゥルカイス族の熱心さは大きな実を結びました。イブン・アッバースは言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ のモスクでの金曜礼拝の後、最初に行われた金曜礼拝は、バフラインのジュワーサーにあるアブドゥルカイスのモスクでのことであった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』892）。小さな一つの使節団が**アラブ東部におけるイスラームの中心**となったのです。

アッラーが愛される二つの性質

アブドゥルカイス族の使節団には、**アル＝アシャッジ**（ムンズィル・ブン・アーイズ）という指導者がいました。ほかの者たちがアッラーの使徒 ﷺ にお会いしようと急いで乗り物から降りたとき、アル＝アシャッジは急ぎませんでした。彼は一行の荷物と乗り物を整え、良い服に着替えてから、落ち着いてやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ は彼に仰せられました。「**あなたには、アッラーが愛される二つの性質がある。寛大さ（アル＝ヒルム）と、急がない落ち着き（アル＝アナー）である。**」（『サヒーフ・ムスリム』17）。

アル＝ヒルムとは、怒ったときや挑発されたときに自分を抑える力のことです。**アル＝アナー**とは、急がず、行動する前に考え、物事を整然と行うことです。この二つの性質は指導者にとって欠かせないものです。アル＝アシャッジは、大切な事柄に**どのように臨むか**もまた、わたしたちの品性を映し出すことを示したのです。

部屋の外から呼びかけたタミーム族と比べてみてください。二つの使節団、二つのやり方 — 一つは性急で荒々しく、もう一つは落ち着いて礼儀正しい。クルアーンは前者をたしなめ、アッラーの使徒 ﷺ は後者を称えられました。何事も速く進む今日の生活の中で、**アル＝アナー** — 一息ついて自分を整え、落ち着いて行動すること — は、とても貴重な性質なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ディマーム・ブン・サアラバ

最も独特な使者の一人が、**ディマーム・ブン・サアラバ**でした。サアド・ブン・バクル族の出身です。彼はたった一人でラクダに乗ってやって来て、まっすぐモスクに入り、**率直で厳しい**質問をしました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 63 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ سَعِيدٍ ـ هُوَ الْمَقْبُرِيُّ ـ عَنْ شَرِيكِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي نَمِرٍ، أَنَّهُ سَمِعَ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ، يَقُولُ بَيْنَمَا نَحْنُ جُلُوسٌ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِي الْمَسْجِدِ، دَخَلَ رَجُلٌ عَلَى جَمَلٍ فَأَنَاخَهُ فِي الْمَسْجِدِ، ثُمَّ عَقَلَهُ، ثُمَّ قَالَ لَهُمْ أَيُّكُمْ مُحَمَّدٌ وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مُتَّكِئٌ بَيْنَ ظَهْرَانَيْهِمْ. فَقُلْنَا هَذَا الرَّجُلُ الأَبْيَضُ الْمُتَّكِئُ. فَقَالَ لَهُ الرَّجُلُ ابْنَ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَدْ أَجَبْتُكَ. فَقَالَ الرَّجُلُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم إِنِّي سَائِلُكَ فَمُشَدِّدٌ عَلَيْكَ فِي الْمَسْأَلَةِ فَلاَ تَجِدْ عَلَىَّ فِي نَفْسِكَ. فَقَالَ سَلْ عَمَّا بَدَا لَكَ. فَقَالَ أَسْأَلُكَ بِرَبِّكَ وَرَبِّ مَنْ قَبْلَكَ، آللَّهُ أَرْسَلَكَ إِلَى النَّاسِ كُلِّهِمْ فَقَالَ اللَّهُمَّ نَعَمْ. قَالَ أَنْشُدُكَ بِاللَّهِ، آللَّهُ أَمَرَكَ أَنْ نُصَلِّيَ الصَّلَوَاتِ الْخَمْسَ فِي الْيَوْمِ وَاللَّيْلَةِ قَالَ اللَّهُمَّ نَعَمْ. قَالَ أَنْشُدُكَ بِاللَّهِ، آللَّهُ أَمَرَكَ أَنْ نَصُومَ هَذَا الشَّهْرَ مِنَ السَّنَةِ قَالَ اللَّهُمَّ نَعَمْ. قَالَ أَنْشُدُكَ بِاللَّهِ، آللَّهُ أَمَرَكَ أَنْ تَأْخُذَ هَذِهِ الصَّدَقَةَ مِنْ أَغْنِيَائِنَا فَتَقْسِمَهَا عَلَى فُقَرَائِنَا فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اللَّهُمَّ نَعَمْ. فَقَالَ الرَّجُلُ آمَنْتُ بِمَا جِئْتَ بِهِ، وَأَنَا رَسُولُ مَنْ وَرَائِي مِنْ قَوْمِي، وَأَنَا ضِمَامُ بْنُ ثَعْلَبَةَ أَخُو بَنِي سَعْدِ بْنِ بَكْرٍ. رَوَاهُ مُوسَى وَعَلِيُّ بْنُ عَبْدِ الْحَمِيدِ عَنْ سُلَيْمَانَ عَنْ ثَابِتٍ عَنْ أَنَسٍ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بِهَذَا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は語った。わたしたちがモスクで預言者 ﷺ と一緒に座っていたとき、ラクダに乗った一人の男が入って来た。男はモスクの中でラクダをひざまずかせてつなぎ、それから人びとに尋ねた。「あなたがたのうち、誰がムハンマドか？」 — そのとき預言者 ﷺ は人びとの真ん中で寄りかかっておられた。わたしたちは

答えた。「この寄りかかっている色白の方だ。」男は預言者に言った。「アブドゥルムッタリブの子よ！」預言者 ﷺ は答えられた。「**答えているぞ。**」男は預言者 ﷺ に言った。「**わたしはあなたに質問するが、厳しく問いただす。どうか悪く思わないでほしい。**」預言者は仰せられた。「**何でも好きなことを尋ねなさい。**」男は言った。「あなたの主とあなた以前の人びとの主にかけて尋ねる。アッラーはあなたをすべての人間に遣わされたのか？」預言者は答えられた。「**アッラーよ、然り。**」男は言った。「アッラーにかけて尋ねる。アッラーはわたしたちが昼夜に五回の礼拝を行うよう、あなたに命じられたのか？」預言者は答えられた。「**アッラーよ、然り。**」男は言った。「アッラーにかけて尋ねる。アッラーはわたしたちが一年のうちこの月に斎戒するよう、あなたに命じられたのか？」預言者は答えられた。「**アッラーよ、然り。**」男は言った。「アッラーにかけて尋ねる。アッラーはこの施しをわたしたちの富める者から取り、わたしたちの貧しい者に分け与えるよう、あなたに命じられたのか？」預言者 ﷺ は答えられた。「**アッラーよ、然り。**」男は言った。「**あなたがもたらしたものを信じます。わたしは後に残してきた一族の使者です。わたしはサアド・ブン・バクル族のディマーム・ブン・サアラバです。**」（イマーム・ブハーリーは、スライマーンがサービトからアナスを経て伝えた同じ意味の伝承も挙げている。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← サイード・アル＝マクブリー ← シャリーク・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・ナミル ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』知識の書、知識について述べられたことの章、第 63 番；ムスリム第 12 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:63

このハディースの教訓

ディマームの独特な作法に注目してください。彼は厳しく尋ねる前に、**まず許しを求めた**のです — 「どうか悪く思わないでほしい」と。彼は穏やかなふりをせず、自分のやり方について正直でした。そしてアッラーの使徒 ﷺ は**気分を害されることは**

ありませんでした。一つひとつの質問に「アッラーよ、然り」と誓って答えられたのです。

イマーム・ブハーリーはこのハディースを**知識の書**に収め、**師に向かって知識を読み上げること**（アル＝キラーア・アラー・アル＝ムハッディス）が許される証拠としました — ディマームは自分に届いていたことを読み上げ、アッラーの使徒 ﷺ がそれを確認されたのです。このハディースはまた、**確信を得るために尋ねること**は信仰が足りないしるしではなく、確かな信仰への道であることを示しています。

一族のもとに帰ったディマーム

スィーラの注：一族に呼びかけたディマーム

イブン・イスハークとイマーム・アフマドは、イブン・アッバース رضى الله عنهما から、ディマームが一族のもとに帰ったとき、最初に口にした言葉はこうだったと伝えています。「**アル＝ラートとアル＝ウッザーのなんと忌まわしいことか！**」一族は言いました。「黙れ、ディマーム！白斑病を恐れよ、ハンセン病を恐れよ、狂気を恐れよ！」彼は答えました。「ああ、あなたがたは！アッラーにかけて、あの二つは害を与えることも益を与えることもできない。アッラーは一人の使徒を遣わし、あなたがたが今いる状態から救うために、彼に一つの啓典を下されたのだ。」

そして、**その日の夕方までに、一族の中でイスラームに入っていない男も女も一人もいなくなった**と述べられています。イブン・アッバースは言いました。「ディマーム・ブン・サアラバより優れた一族の使者について、わたしたちは聞いたことがない。」この伝承は**一部の学者によってハサンと評価されています**。

参照：
アフマド『アル＝ムスナド』（イブン・アッバースのムスナド）；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

見てください、**確信ある信仰**の力を。ディマームは質問を携えて来て、確信を携えて帰りました。その確信は、偶像への一族の恐れに立ち向かうほど強いものでした。本当に確信している一人の人が、**一族全体**を変えることができるのです。

呼びかける者への教訓：ディマームは長い議論や分厚い書物を持ち帰ったのではありません。彼が持ち帰ったのは**五つの質問と五つの答え** — 使命、礼拝、斎戒、ザカート、巡礼について — と、揺るぎない確信でした。時には**簡潔さと明快さ**のほうが、長い論争よりも効果があるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナジュラーンのキリスト教徒

南から、イエメンとの境にある地から、**ナジュラーンのキリスト教徒**の使節団がやって来ました — 司教、司祭、指導者たちを擁する、大きく影響力のあるキリスト教の共同体です。かれらは**対話する**ために来ました。相手はアッラーの使徒 ﷺ で、話題は預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ のことでした。注釈学者たちは、イムラーン家章の冒頭 — 八十を超える節 — がかれらとの議論について下ったと述べています。

クルアーンは預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の本当の位置づけを明らかにしています。**「本当にアッラーの御許におけるイーサーの例は、アーダムの場合と同じである。」**（イムラーン家章 3:59）— どちらも父なしに、「有れ」という御言葉によって創られたのです。それでもかれらが論争を続けると、アッラーはその使徒に、かれらを**ムバーハラ**に招くよう命じられました。

「（イーサーに関する）真実の知識があなたに下された後、もしかれに就いてあなたと議論する者があれば、言ってやるがいい。『さあ、わたしたちの子孫とあなたがたの子孫、わたしたちの妻たちとあなたがたの妻たち、わたしたちとあなたがたを一緒に呼んで、アッラーの御怒りが嘘付き者の上に下るように祈ろう。』」（イムラーン家章 3:61）— 『イブン・カスィール注釈』3:61。

ムバーハラとは、もはや論証が受け入れられないときの最後の手段です。双方が最も近い家族とともに、嘘をつく側をアッラーが呪われるよう熱心に祈るのです。それは**絶対的な確信** — アッラーの使徒 ﷺ がもたらされた真理に対する確信 — を示しています。預言者はご自身とご家族を懸ける覚悟がおありだったのです。

この物語は、イスラームにおける宗教間の対話の作法も示しています。アッラーの使徒 ﷺ は**かれらをマディーナに迎え入れ**、その論証に耳を傾け、啓示によって答えられました。イブン・イスハークの伝承では、かれらは預言者のモスクの中で東を向いて礼拝することも許されたと述べられていますが — **この伝承の伝承経路については**学者たちの間で議論があります。

行われなかったムバーハラ（呪いの祈り合い）

ムバーハラが申し出られたとき、何が起こったのでしょうか。フザイファ رضى الله عنه は伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4380 番

حَدَّثَنِي عَبَّاسُ بْنُ الْحُسَيْنِ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ آدَمَ، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ صِلَةَ بْنِ زُفَرَ، عَنْ حُذَيْفَةَ، قَالَ جَاءَ الْعَاقِبُ وَالسَّيِّدُ صَاحِبَا نَجْرَانَ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُرِيدَانِ أَنْ يُلاَعِنَاهُ، قَالَ فَقَالَ أَحَدُهُمَا لِصَاحِبِهِ لاَ تَفْعَلْ، فَوَاللَّهِ لَئِنْ كَانَ نَبِيًّا فَلاَعَنَّا، لاَ نُفْلِحُ نَحْنُ وَلاَ عَقِبُنَا مِنْ بَعْدِنَا. قَالاَ إِنَّا نُعْطِيكَ مَا سَأَلْتَنَا، وَابْعَثْ مَعَنَا رَجُلاً أَمِينًا، وَلاَ تَبْعَثْ مَعَنَا إِلاَّ أَمِينًا. فَقَالَ لأَبْعَثَنَّ مَعَكُمْ رَجُلاً أَمِينًا حَقَّ أَمِينٍ. فَاسْتَشْرَفَ لَهُ أَصْحَابُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ قُمْ يَا أَبَا عُبَيْدَةَ بْنَ الْجَرَّاحِ. فَلَمَّا قَامَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم هَذَا أَمِينُ هَذِهِ الأُمَّةِ.

訳：

フザイファ رضى الله عنه は語った。ナジュラーンの二人の指導者、**アル＝アーキブとアッ＝サイイド**がアッラーの使徒 ﷺ のもとに来た。預言者と**ムバーハラ（互いに呪いを祈り合うこと）**をするつもりだった。二人のうちの一人が仲間に言った。**「やめておけ！アッラーにかけて、もしかれが本当に預言者で、わたしたちがかれとムバーハラをすれば、わたしたちも、わたしたちの後の子孫も、決して栄えることはないだろう。」**そこで二人は言った。「あなたが求めるものをお渡ししましょう。わたしたちと一緒に信頼できる男を遣わしてください。信頼できる者以外は遣わさないでください。」預言者は仰せられた。**「あなたがたと一緒に信頼できる男を、まことに信頼できる男を遣わそう。」**アッラーの使徒 ﷺ の教友たちは、それぞれ自分が選ばれることを願った。預言者は仰せられた。**「立ちなさい、アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフよ。」**彼が立ち上がると、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「これがこの共同体の信頼できる者である。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アッバース・ブン・アル＝フサイン ← ヤフヤー・ブン・アーダム ← イスラーイール・ブン・ユーヌス ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← スィラ・ブン・ズファル ← フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ナジュラーンの人びとの物語の章、第 4380 番；第 4381 番とムスリム第 2420 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4380

このハディースの教訓

ナジュラーンの指導者たちはムバーハラを続ける**勇気がありませんでした**。一人がもう一人に言いました。「もしかれが本当に預言者なら、わたしたちもわたしたちの子孫も栄えることはないだろう。」これは**暗黙の告白**です。心の中で、かれらはかれが本当に預言者ではないかと恐れていたのです。

その代わりに、かれらは**和平協定**を結ぶことを選びました。自分たちの宗教を保ち、ジズヤを納め、その見返りとしてイスラーム国家の**保護**を受けるのです。アッラーの使徒 ﷺ はその選択を受け入れられました。宗教には強制がありません（雌牛章 2:256）。かれらには論証が示され、決定はかれら自身に委ねられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ウバイダ：この共同体の信頼できる者

ナジュラーンは、自分たちの事柄を扱う**信頼できる**人物を求めました。教友たちはそれぞれ選ばれることを願いました — 権力のためではなく、「信頼できる者」という**称号をいただきたい**と願ったからです。それを与えてくださるのはアッラーの使徒 ﷺ です。預言者が選ばれたのは**アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ** رضى الله عنه でした。

アナス رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**どの共同体にも信頼できる者がいる。この共同体の信頼できる者はアブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3744）。

アブー・ウバイダは**楽園を約束された十人の教友**の一人です。彼はのちにシャームの征服でイスラーム軍を率い、アムワースの疫病で亡くなりました。ウマルは、もしアブー・ウバイダが生きていれば彼を後継者に任命しただろうと言ったことがあります。「信頼できる者」という称号は、弁舌の巧みさや軍事力のためではなく、**その誠実さと心の清らかさ**のために与えられたのです。

わたしたちへの教訓：誰かをある任務に選ぶとき — 特に財産や他人の権利に関わる任務では — **信頼できることが第一の条件**です。また、イスラームの保護下にある非ムスリムへの対応は、**最も信頼できる者**が担わなければならないことも教えています。

心優しいイエメンの人びと

イエメンからはいくつもの使節団がやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ は、とても特別な言葉でかれらを迎えられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4388 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا ابْنُ أَبِي عَدِيٍّ، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ سُلَيْمَانَ، عَنْ ذَكْوَانَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ أَتَاكُمْ أَهْلُ الْيَمَنِ، هُمْ أَرَقُّ أَفْئِدَةً وَأَلْيَنُ قُلُوبًا، الإِيمَانُ يَمَانٍ وَالْحِكْمَةُ يَمَانِيَةٌ، وَالْفَخْرُ وَالْخُيَلاَءُ فِي أَصْحَابِ الإِبِلِ، وَالسَّكِينَةُ وَالْوَقَارُ فِي أَهْلِ الْغَنَمِ. وَقَالَ غُنْدَرٌ عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ سُلَيْمَانَ، سَمِعْتُ ذَكْوَانَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ は仰せられた。「**イエメンの人びとがあなたがたのもとに来た。かれらは最も感じやすく、最も心の優しい人びとである。信仰はイエメンのもの、英知はイエメンのものである。高慢と傲慢はラクダの持ち主の中にあり、落ち着きと慎み深さは羊の持ち主の中にある。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← イブン・アビー・アディー ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← ザクワーン・アブー・サーリフ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アシュアル族とイエメンの人びとの到来の章、第 4388 番；ムスリム第 52 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4388

このハディースの教訓

「**信仰はイエメンのもの、英知はイエメンのもの**」 — このうえなく高い称賛です。イエメンの人びとは、**柔らかく、真理を受け入れやすい**心で知られていました。かれらは誇るためでも財を求めるためでもなく、**宗教を学ぶ**ためにやって来たのです。

このハディースはまた、高慢に傾きがちな**ラクダの持ち主**と、落ち着きに傾きがちな**羊の持ち主**とを比べています。学者たちは、仕事と環境が人の品性に影響することを説明しています。預言者たちもまた**羊を飼っていました**（『サヒーフ・ブハーリー』2262）— 忍耐と優しさを育てる仕事です。

イエメンからは多くの偉大なイスラームの人物が生まれました。**アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー**、ダウス族の**アブー・フライラ**、そしてのちには多くのタービウーン（教友の次の世代）— たとえば**ウワイス・アル＝カラニー** — です。ウワイスはアッラーの使徒 ﷺ が称賛された人です（『サヒーフ・ムスリム』2542）。預言者のお言葉はまことでした。信仰と英知はイエメンのものなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アシュアル族：「かれらはわたしの一部」

イエメンの人びとの中で最も愛された人びとの一つが、**アシュアル族**、アブー・ムーサー رضى الله عنه の一族です。アッラーの使徒 ﷺ はかれらのとても美しい一つの品性を称えられました。「**アシュアル族は、遠征で食糧が尽きたり、マディーナで家族の食べ物が乏しくなったりすると、手元にあるものを一枚の布に集め、それを一つの器で等しく分け合う。かれらはわたしの一部であり、わたしはかれらの一部である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2486）。

「**かれらはわたしの一部であり、わたしはかれらの一部である**」 — この言葉は**とても特別な近さ**を示しています。それは血筋や財のためではなく、困難なときに**分かち合う品性**のためでした。かれらは、仲間の一人が飢えているのに、ほかの者が満腹でいることを許さなかったのです。

わたしたちは第 24 巻でアシュアル族に出会いました。アブー・ムーサーがタブークの遠征のための乗り物を求めに来て、伝えた知らせが本当であることを丁寧に確かめた場面です。また第 16 巻では、ハイバルが開かれたとき、かれらはジャアファル・ブン・アビー・ターリブとともにアビシニアから到着しました。この小さな一族は、いつも**誠実さと知識と気前のよさ**とともにいたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッ＝トゥファイルとダウス族

すべての部族がたやすくイスラームを受け入れたわけではありません。**アッ＝トゥファイル・ブン・アムル・アッ＝ダウスィー** رضي الله عنه — 南の**ダウス族**の指導者で詩人 — は早くにイスラームに入り、一族に呼びかけるために帰りました。しかし、かれらは拒みました。彼は落胆してアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ました。アブー・フライラ رضي الله عنه は伝えています。アッ＝トゥファイルとその仲間たちは言いました。**「アッラーの使徒よ、ダウス族は背き、拒みました。かれらに（災いを）祈ってください。」**ある者は「ダウスは滅びた！」と言いました。しかし預言者はこう祈られました。**「アッラーよ、ダウスを導き、かれらを連れて来てください。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2937）

その祈りは聞き届けられました。ダウス族は大勢でマディーナにやって来ました。その中に、のちにイスラームの歴史で**最も多くのハディースを伝えた伝承者**となる一人の男がいました。**アブー・フライラ** رضي الله عنه です。もしアッラーの使徒 ﷺ がダウス族に災いを祈っておられたらと想像してみてください — わたしたちはアブー・フライラが伝えた何千ものハディースを失っていたかもしれないのです。

これは、呼びかける者、教師、親にとって大きな教訓です。呼びかけた相手が拒んだときは、**滅びではなく導きを祈りましょう**。アッラーの使徒 ﷺ は**すべての世界への慈悲**です（預言者章 21:107）。人の心はアッラーの御手の中にあり、誠実な祈りは最もかたくなな心をも開くことができるのです。

実はダウス族が来たのは使節団の年より前、ハイバルが開かれた頃（ヒジュラ暦 7 年）でした。しかし、その物語はここにふさわしいものです。**ヒジュラ暦 9 年にやって来た使節団**が、何年にもわたる祈りと忍耐と呼びかけの実りであることを示しているからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウワイス・アル＝カラニー：天に知られたイエメンの男

アッラーの使徒 ﷺ の「**信仰はイエメンのもの**」というお言葉は、預言者に一度も会ったことがないのに、その名を預言者が口にされた一人の男において証明されました。**ウワイス・アル＝カラニー**です。ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**イエメンからの援軍とともに、ウワイス・ブン・アーミルがあなたがたのもとに来るだろう。ムラード族の、そしてカラン家の出である。彼は白斑の病にかかったが、一ディルハムほどの部分を除いて治った。彼には母がいて、彼は母にとても孝行である。もし彼がアッラーにかけて誓えば、アッラーはその誓いを果たされるだろう。もし彼に、あなたのために赦しを請うてもらうことができるなら、そうしなさい。**」（『サヒーフ・ムスリム』2542）

何年も後、イエメンからの援軍が到着するたびに、当時カリフであったウマルは尋ねました。「あなたがたの中にウワイス・ブン・アーミルはいるか？」ついに彼はウワイスに出会い、述べられていた特徴をすべて確かめると、**ウワイスに自分のための赦しを請うてくれるよう頼みました**。想像してみてください。**ムスリムのカリフ**であり、楽園を約束された十人の一人である人が、誰にも知られていないイエメンの男に祈りを頼んだのです。

なぜウワイスはアッラーの使徒 ﷺ に会うために移住しなかったのでしょうか。学者たちは、彼が**母に孝行するためにとどまった**と述べています。そしてアッラーはその孝行ゆえに彼を尊ばれました — その名は『サヒーフ・ムスリム』に記され、その祈りは聞き届けられるのです。地上では知られていなくても、彼は天において知られていたのです。

教訓：**アッラーの御許での尊さは、名声によるのではない**。誠実に母に孝行する子は、多くの有名な人びとよりもアッラーの御許で尊いかもしれません。「最も心の優しい」イエメンの人びとは、このことの最も美しい手本を生み出したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イエメンに遣わされたムアーズ

イエメンの人びとがイスラームに入ると、かれらには教師と指導者が必要になりました。アッラーの使徒 ﷺ は二人の教友を遣わされました。**ムアーズ・ブン・ジャバル**と**アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー** رضى الله عنهما で、それぞれ一つの地方に派遣されました。ムアーズが出発する前に、預言者は時代を超えた**呼びかけの指針**となる教えを与えられました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4347 番

حَدَّثَنِي حِبَّانُ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، عَنْ زَكَرِيَّاءَ بْنِ إِسْحَاقَ، عَنْ يَحْيَى بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ صَيْفِيٍّ، عَنْ أَبِي مَعْبَدٍ، مَوْلَى ابْنِ عَبَّاسٍ عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لِمُعَاذِ بْنِ جَبَلٍ حِينَ بَعَثَهُ إِلَى الْيَمَنِ إِنَّكَ سَتَأْتِي قَوْمًا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ، فَإِذَا جِئْتَهُمْ فَادْعُهُمْ إِلَى أَنْ يَشْهَدُوا أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ، وَأَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ، فَإِنْ هُمْ طَاعُوا لَكَ بِذَلِكَ فَأَخْبِرْهُمْ أَنَّ اللَّهَ قَدْ فَرَضَ عَلَيْهِمْ خَمْسَ صَلَوَاتٍ فِي كُلِّ يَوْمٍ وَلَيْلَةٍ، فَإِنْ هُمْ طَاعُوا لَكَ بِذَلِكَ، فَأَخْبِرْهُمْ أَنَّ اللَّهَ قَدْ فَرَضَ عَلَيْكُمْ صَدَقَةً، تُؤْخَذُ مِنْ أَغْنِيَائِهِمْ، فَتُرَدُّ عَلَى فُقَرَائِهِمْ، فَإِنْ هُمْ طَاعُوا لَكَ بِذَلِكَ، فَإِيَّاكَ وَكَرَائِمَ أَمْوَالِهِمْ، وَاتَّقِ دَعْوَةَ الْمَظْلُومِ فَإِنَّهُ لَيْسَ بَيْنَهُ وَبَيْنَ اللَّهِ حِجَابٌ. قَالَ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ {طَوَّعَتْ} طَاعَتْ وَأَطَاعَتْ لُغَةٌ، طِعْتُ وَطُعْتُ وَأَطَعْتُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は語った。アッラーの使徒 ﷺ は**ムアーズ・ブン・ジャバル**をイエメンに遣わすとき、彼に仰せられた。「**あなたは啓典の民のある人びとのもとに行く。かれらのところに着いたら、アッラーのほかに神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒であると証言するよう呼びかけなさい。もしかれらがそれに従ったら、アッラーがかれらに昼夜ごとに五回の礼拝を義務とされたことを知らせなさい。もしかれらがそれに従ったら、アッラーがかれらに施し（ザカート）を義務とされ、それはかれらの富める者から取られ、かれらの貧しい者に返されることを知らせなさい。もしかれらがそれに従ったら、かれらの財産の最も良いものには手をつけないようにしなさい。そ**

して、不当に扱われた者の祈りを恐れなさい。その祈りとアッラーとの間には、何の隔てもないのだから。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヒッバーン・ブン・ムーサー ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ザカリーヤー・ブン・イスハーク ← ヤフヤー・ブン・アブドゥッラー・ブン・サイフィー ← イブン・アッバースの解放奴隷アブー・マアバド ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アブー・ムーサーとムアーズのイエメン派遣の章、第 4347 番；第 1395、1496 番とムスリム第 19 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4347

このハディースの教訓

この教えには**段階的な呼びかけの方法**が含まれています。最も基本的なこと — タウヒード — から始め、次に礼拝、次にザカートへと進むのです。すべてのことを一度に人に負わせてはなりません。それぞれの段階は前の段階の上に築かれるのです。

最後の二つの教えは、権力を持つすべての者にとってきわめて重要です。**「かれらの財産の最も良いものには手をつけないようにしなさい」** — ザカートを徴収するとき最良のものを取ってはならない — そして **「不当に扱われた者の祈りを恐れなさい。その祈りとアッラーとの間には、何の隔てもないのだから」**。権力は不正を行う許可証ではありません。ムアーズは教師、裁判官、ザカートの徴収者として赴き、この教えが彼の公正さを守ったのです。

スィーラの学者たちは、ムアーズが乗り物に乗っているとき、アッラーの使徒 ﷺ は歩いて彼を見送り、こう言われたと伝えています。「ムアーズよ、おそらくあなたは今年の後、もうわたしに会うことはないだろう。」ムアーズは泣きました。そしてそのとおり — **アッラーの使徒 ﷺ はムアーズがイエメンから戻る前に亡くなられた**のです。（アフマドの伝承、一部の学者がサヒーフと評価。）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：326 / 634

「易しくせよ、難しくするな」

ムアーズとアブー・ムーサーの二人に、アッラーの使徒 ﷺ は短くも内容の豊かな教えを与えられました。「**易しくせよ、難しくするな。喜ばせよ、（人が逃げるほど）怖がらせるな。協力し合い、仲たがいするな。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3038）。

教え	呼びかけにおける意味
易しくせよ	罪にならない限り、最も易しいものを選ぶ
難しくするな	新しく入った人に重い負担を負わせない
喜ばせよ	アッラーの希望と慈悲から始める
怖がらせるな	人が宗教から逃げ出すようにしない
協力し合え	二人の呼びかける者が互いに助け合う
仲たがいするな	指導者どうしの対立は共同体を損なう

この教えは、今日のすべての教師、親、イマーム、呼びかける者にとってきわめて大切です。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、二つのことのどちらかを選ぶよう求められたときには、**罪にならない限り、いつもより易しいほうを選ばれました**（『サヒーフ・ブハーリー』3560）。易しい宗教とは、ゆるい宗教という意味ではありません。**理解され、愛され、着実に実践される**宗教という意味なのです。

ジャリールとズー・アル＝ハラサ

イエメンには**ズー・アル＝ハラサ**という有名な偶像の館があり、「**イエメンのカアバ**」と呼ばれていました — マッカのカアバをまねたものです。アッラーの使徒 ﷺ は**ジャリール・ブン・アブドゥッラー・アル＝バジャリー** رضي الله عنه に尋ねられました。「**ズー・アル＝ハラサからわたしを解放してくれないか。**」ジャリールはアフマス族の騎兵百五十人とともに出発しました（『サヒーフ・ブハーリー』4355–4357）。

しかしジャリールには一つの弱点がありました。**馬の上にしっかりと座っていられなかった**のです。彼がそのことをアッラーの使徒 ﷺ に打ち明けると、預言者は彼の胸を叩かれ、ジャリールは胸に預言者の指の跡を見たほどでした。預言者はこう祈られました。「**アッラーよ、彼をしっかりと据えてください。彼を、導かれた、導きを与える者としてください。**」ジャリールは言いました。「**それ以来、わたしは一度も馬から落ちたことがない。**」

ジャリールは出かけて行き、ズー・アル＝ハラサを**打ち壊して焼き払い**、それから使者を送って吉報を伝えました。アッラーの使徒 ﷺ はアフマス族の馬と男たちのために**五回**祝福を祈られました。こうしてイエメンの「偽のカアバ」は消え去り、**ただ一つのカアバ** — マッカにあるアッラーの館 — だけが残ったのです。

教訓：自分の弱さは、宗教に仕えることの妨げにはなりません。ジャリールは馬の上では弱かったのですが、**アッラーの使徒の祈り** ﷺ が彼を揺るぎない者にしたのです。重く感じる務めを与えられたときは、自分の弱さをアッラーに打ち明け、アッラーに力を求めましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イエメンへ向かったアリー

アッラーの使徒 ﷺ はまた**ハーリド・ブン・アル＝ワリード** رضي الله عنه をイエメンに遣わし、その後**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضي الله عنه を後任として送られました。その部隊に加わっていたアル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنه がこのことを伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4349）。アリーはイエメンで呼びかける者、裁判官、五分の一（フムス）の徴収者として務め、のちに別れの巡礼の際、マッカでアッラーの使徒 ﷺ と再会しました。

イエメンで、一つの誤解が起こりました。ブライダ رضي الله عنه はアリーがフムスの取り分を受け取ったやり方を快く思わず、アッラーの使徒 ﷺ に訴えました。預言者は尋ねられました。「**ブライダよ、あなたはアリーを憎んでいるのか。**」彼は「はい」と答えました。預言者は仰せられました。「**彼を憎んではならない。彼はフムスからそれ以上を受け取る権利があるのだから。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4350）

スィーラの注：イスラームに入ったハムダーン族

アル＝バイハキーはアル＝バラーから、アリーがアッラーの使徒 ﷺ の書簡をイエメンの**ハムダーン族**に読み聞かせたところ、**その部族全体がその日のうちにイスラームに入った**と伝えています。アリーがそのことをアッラーの使徒 ﷺ に書き送ると、預言者はひれ伏して仰せられました。「ハムダーンに平安あれ、ハムダーンに平安あれ。」一部の学者はこの伝承の伝承経路をサヒーフと評価し、他の学者はそれについて議論しています。

参照：

アル＝バイハキー『預言者性の証拠（ダラーイル・アン＝ヌブーワ）』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』遠征の書。

教訓：誤解のために**信仰の兄弟をすぐに憎んではなりません。**不公平に見えることにも、わたしたちの知らない説明があるかもしれないのです。アッラーの使徒 ﷺ は

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：329 / 634

ブライダの気持ちを優しく正され、ブライダはのちに、アリーを最も愛する者の一人となりました。

嘘つきムサイリマ

すべての使節団が良い意図を持って来たわけではありません。アラビア半島の中央にある**ヤマーマ**から**ハニーファ族**の使節団がやって来ました。その中に、のちに**大嘘つきムサイリマ**（ムサイリマ・アル＝カッザーブ）として知られることになる一人の男がいました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4373 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي حُسَيْنٍ، حَدَّثَنَا نَافِعُ بْنُ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَدِمَ مُسَيْلِمَةُ الْكَذَّابُ عَلَى عَهْدِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَجَعَلَ يَقُولُ إِنْ جَعَلَ لِي مُحَمَّدٌ مِنْ بَعْدِهِ تَبِعْتُهُ. وَقَدِمَهَا فِي بَشَرٍ كَثِيرٍ مِنْ قَوْمِهِ، فَأَقْبَلَ إِلَيْهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَعَهُ ثَابِتُ بْنُ قَيْسِ بْنِ شَمَّاسٍ، وَفِي يَدِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قِطْعَةُ جَرِيدٍ حَتَّى وَقَفَ عَلَى مُسَيْلِمَةَ فِي أَصْحَابِهِ، فَقَالَ لَوْ سَأَلْتَنِي هَذِهِ الْقِطْعَةَ مَا أَعْطَيْتُكَهَا وَلَنْ تَعْدُوَ أَمْرَ اللَّهِ فِيكَ، وَلَئِنْ أَدْبَرْتَ لَيَعْقِرَنَّكَ اللَّهُ، وَإِنِّي لأَرَاكَ الَّذِي أُرِيتُ فِيهِ مَا رَأَيْتُ، وَهَذَا ثَابِتٌ يُجِيبُكَ عَنِّي. ثُمَّ انْصَرَفَ عَنْهُ. قَالَ ابْنُ عَبَّاسٍ فَسَأَلْتُ عَنْ قَوْلِ، رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِنَّكَ أُرَى الَّذِي أُرِيتُ فِيهِ مَا أُرِيتُ. فَأَخْبَرَنِي أَبُو هُرَيْرَةَ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ بَيْنَا أَنَا نَائِمٌ رَأَيْتُ فِي يَدَىَّ سِوَارَيْنِ مِنْ ذَهَبٍ، فَأَهَمَّنِي شَأْنُهُمَا، فَأُوحِيَ إِلَىَّ فِي الْمَنَامِ أَنِ انْفُخْهُمَا، فَنَفَخْتُهُمَا فَطَارَا فَأَوَّلْتُهُمَا كَذَّابَيْنِ يَخْرُجَانِ بَعْدِي، أَحَدُهُمَا الْعَنْسِيُّ، وَالآخَرُ مُسَيْلِمَةُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は語った。**大嘘つきムサイリマ**が、アッラーの使徒 ﷺ の時代にやって来て言った。「**もしムハンマドが自分の後に（この事柄を）わたしに譲るなら、わたしはかれに従おう。**」彼は一族の大勢の者とともにマディーナに来た。アッラーの使徒 ﷺ はサービト・ブン・カイス・ブン・シャンマースとともに彼に会いに行かれた。アッラーの使徒 ﷺ の手には**一切れのナツメヤシの枝**があった。預言者はムサイリマの仲間たちのただ中で、彼の前に立ち、仰せられた。「**たとえあなたがこの一**

切れ（の枝）をわたしに求めても、わたしはそれをあなたに与えはしない。あなたはアッラーがあなたについて定められたことを越えることはできない。もしあなたが背を向けるなら、アッラーは必ずあなたを滅ぼされるだろう。まことにわたしは、あなたこそ、わたしが見たことを見せられたその人だと思う。そしてこのサービトが、わたしに代わってあなたに答えるだろう。」それから預言者は彼のもとを立ち去られた。イブン・アッバースは言った。わたしはアッラーの使徒 ﷺ の「あなたこそ、わたしが見たことを見せられたその人だ」というお言葉について尋ねた。アブー・フライラがわたしに伝えたところでは、アッラーの使徒 ﷺ はこう仰せられた。「**わたしが眠っていると、両手に二つの金の腕輪があるのを見て、それがわたしを悩ませた。すると夢の中で『それに息を吹きかけよ』と啓示された。わたしが息を吹きかけると、二つとも飛び去った。わたしはそれを、わたしの後に現れる『二人の嘘つき』と解釈した。一人はアル＝アンスィー、もう一人はムサイリマである。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← アブドゥッラー・ブン・アビー・フサイン ← ナーフィウ・ブン・ジュバイル ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリーの伝承、『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハニーファ族の使節団の章、第 4373 番；第 3620、4374 番とムスリム第 2273 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4373

このハディースの教訓

ムサイリマは**条件**を携えて来ました。アッラーの使徒 ﷺ の後に権力を与えられるなら従おう、というのです。これは**偽りの信仰**のしるしです — 自分の利益次第の信仰です。アッラーの使徒 ﷺ のお答えは、きわめて毅然とした象徴的なものでした。「**たとえこの一切れのナツメヤシの枝でさえ、あなたが求めても、わたしはそれを与えはしない。**」預言者の位も宗教上の指導権も、取引の品ではないのです。

アッラーの使徒 ﷺ が、サービト・ブン・カイスとともに**ご自身で出向いて**ムサイリマに会われたことにも注目してください。預言者は使節団を無視されませんでしたが、信仰の根本については決して妥協されませんでした。そして続きの返答をサービトに委ねられました — のちにムサイリマと戦って**ヤマーマで殉教する**ことになる、まさにその人です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二つの金の腕輪

同じハディースの中で、アッラーの使徒 ﷺ は、両手にはめた**二つの金の腕輪**の夢について語っておられます。腕輪は装飾品ですが、男性にとって金は好ましくないものです。そのため、それは**重荷となるもの**と解釈されました。預言者が息を吹きかけると二つとも飛び去りました — 二人の嘘つきの事柄は**軽く、やがて消え去る**というしるしです。

別の伝承では、二人の嘘つきとは「**イエメンでファイルーズに殺されたアル＝アンスィーと、ムサイリマ**」であると述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』4379）。**アル＝アスワド・アル＝アンスィー**はイエメンで預言者を名乗り、アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられる前にファイルーズ・アッ＝ダイラミーに殺されました。**ムサイリマ**は、アブー・バクル رضي الله عنه の時代にヤマーマの戦いで殺されました。ワフシー・ブン・ハルブ — ウフドでハムザを殺したその人 — は、自分もムサイリマを殺すことに加わったと言っています（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

見てください、**アッラーの使徒の予言が** ﷺ どのように現実となったかを。預言者は夢の中で現れることになる二人の嘘つきを見られ、二人とも現れ、息を吹きかけられた腕輪のように消え去りました。アッラーの使徒 ﷺ はまた、それぞれが自分は預言者だと主張する**三十人の嘘つき**が現れるが、ご自身こそ**預言者たちの封印**であると仰せられました（『スナン・アビー・ダーウード』4252、サヒーフと評価）。歴史は、そうした嘘つきがみな消え去り、イスラームが残ったことを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スマーマ・ブン・ウサール

同じ部族 — ハニーファ族 — からは、まったく異なる人物も現れました。ヤマーマの指導者**スマーマ・ブン・ウサール**です。アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の騎兵隊が彼を捕らえ、モスクの柱の一つに縛りつけたと伝えています。三日のあいだ、アッラーの使徒 ﷺ は彼に「スマーマよ、あなたには何があるか」と尋ねられました。彼は答えました。「**良いことです、ムハンマドよ。もしあなたが殺すなら、血の報復が求められる者を殺すことになります。もし恩を施すなら、恩を知る者に施すことになります。もし財産をお望みなら、お求めください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4372）

三日目に、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**スマーマを放してやりなさい。**」スマーマは近くのナツメヤシ園に行って沐浴し、それからモスクに戻って信仰の証言を唱えました。彼は言いました。「**ムハンマドよ、アッラーにかけて、地上にあなたの顔ほどわたしが憎んだ顔はありませんでした。しかし今では、あなたの顔はわたしにとって最も愛しい顔となりました。アッラーにかけて、あなたの宗教ほどわたしが憎んだ宗教はありませんでした。しかし今では、あなたの宗教はわたしにとって最も愛しい宗教となりました。**」

何が彼の心を変えたのでしょうか。**モスクでの生活を見た三日間** — 礼拝、教友たちの品性、自分への親切な扱い — そして**無条件の釈放**です。アッラーの使徒 ﷺ の赦しは剣よりも強かったのです。スマーマはその後ウムラのためにマッカへ行き、クライシュ族に嘲られると、こう言いました。「**アッラーにかけて、預言者 ﷺ が許されるまで、ヤマーマからあなたがたのもとに小麦の一粒も届くことはないだろう。**」ムサイリマが背教したときも、スマーマはイスラームとともに**揺るがずにいました。**

アディー・ブン・ハーティムと三つの約束

マディーナにやって来たもう一人の人物が**アディー・ブン・ハーティム・アッ＝ターイー**です。アラブの歴史でその気前のよさで知られるハーティム・アッ＝ターイーの息子です。アディーによれば、彼がアッラーの使徒 ﷺ とともにいたとき、一人の男が来て**貧しさ**を訴え、もう一人が**道中の追いはぎ**を訴えました。そこでアッラーの使徒 ﷺ は彼に三つの約束をされました（『サヒーフ・ブハーリー』3595）。

約束：アッラーの使徒 ﷺ	実際に目撃されたこと
一人の女性が、アッラー以外の何ものも恐れずに、アル＝ヒーラからカアバまで旅をするだろう	アディー自身がそれを目撃した
ホスローの財宝が開かれるだろう	アディーはその開放に加わった
人びとが施しのために金を持ち歩いても、受け取る者がいない時が来るだろう	アディーは言った。「あなたがたが長生きすれば、それを見るだろう」

当時、イスラームはまだアラビア半島に限られ、ペルシアは大帝国で、道は追いはぎであふれていました。これらの約束は不可能に見えました。しかしアディーは長く生き、**そのうちの二つが現実となる**のを見届けました。ウマル・ブン・アブドゥルアズィーズの時代には、ザカートを受け取る貧しい人を見つけるのが難しかったと歴史家たちは述べています。

教訓：今日のウンマ（共同体）の弱い状態を見るとき、これらの約束を思い出しましょう。**安全、繁栄、そして尊厳**は、信仰して善い行いをする人びとのもとに訪れます — たとえ初めは不可能に見えても。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団の迎え方

アッラーの使徒 ﷺ は**使節団の迎え方**に大きな心を配られました。一部の使節団は教友たちの家に泊められ、もてなしを受け、帰るときには贈り物を与えられました。ウマル رضي الله عنه はかつて、預言者が**祭日と使節団を迎えるために装う**ための上着を一着買われるよう提案したことがあります（『サヒーフ・ブハーリー』886）。これは、客を迎えるときに身なりを整えるのがよく知られた習わしであったことを示しています（ただし、その上着は絹製であったため退けられました）。

このことはとても大切で、**アッラーの使徒** ﷺ が亡くなられる前の病の中での最後の遺言の一つとなりました。イブン・アッバース رضي الله عنهما は、預言者が三つのことを遺言され、その一つが次のことであったと伝えています。**「わたしが与えていたように、使節団に贈り物を与えなさい。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3053）。

作法	スィーラの実例
温かい歓迎	「ようこそ。恥も後悔もなく」
粗暴な者への忍耐	タミーム族もディマームも叱られなかった
良い品性を称える	アル＝アシャッジの寛容（ヒルム）と落ち着き（アナー）
簡潔に教える	四つの命令と四つの禁止
贈り物を与える	「使節団に贈り物を与えなさい」
信仰の根本では毅然と	ムサイリマへのナツメヤシの枝

今日のわたしたちのモスク、学校、家庭への教訓：**客や新しく来た人をどう迎えるか** — 特にイスラームを知ったばかりの人びとを — によって、かれらが宗教に近づくか遠ざかるかが決まることがあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族を超えた兄弟愛

使節団はさまざまな部族から、異なる方言、習慣、そして敵対の歴史を携えてやって来ました。その中には、何世代にもわたって互いに戦ってきた者たちもいました。しかしイスラームは、かれらを一つの旗のもとに集めたのです。タミーム族をたしなめたのと同じ章で、アッラーはこう仰せられています。

「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通暁なされる。」（部屋章 49:13）— 『イブン・カスィール注釈』49:13。

血筋と部族を大いに誇りとしていたアラブ社会にとって — 誇り合うために演説者と詩人を連れてやって来たタミーム族のように — この節は**思考の革命**でした。尊さの基準は、もはや血筋でも財産でも雄弁でもなく、**敬虔さ（タクワー）**となったのです。

その成果は次の世代に見ることができます。アビシニア出身の元奴隷**ビラール**、ペルシア出身の**サルマーン**、ローマ出身の**スハイブ**が、クライシュ族の指導者たちと肩を並べて立ちました。そして元奴隷の息子である**ウサーマ・ブン・ザイド**は、教友の重鎮たちを含む軍の指揮官に任命されました。イスラームの兄弟愛は**部族、民族、肌の色を超える**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団の年の後：背教の試練

使節団の年は多くの部族をイスラームへと導きました。しかし、この巻の初めで述べたように、入った者すべてが深い信仰を持っていたわけではありません。それから間もなくアッラーの使徒 ﷺ が亡くなられると、いくつかの部族は**背教し**、また別の部族は**ザカートの支払いを拒みました**。これが、カリフとしてのアブー・バクル رضى الله عنه が直面した最初の試練でした。

アブー・フライラ رضى الله عنه は、ウマルがアブー・バクルに次のように尋ねたと伝えています。「どうしてあなたは人びとと戦うのですか。アッラーの使徒 ﷺ は、『アッラーのほかに神はない』と唱えた者は、その財産と生命が守られると仰せられたではありませんか。」アブー・バクルは答えました。「**アッラーにかけて、わたしは礼拝とザカートを切り離す者と戦う。ザカートは財産の権利だからだ。アッラーにかけて、もしかれらがかつてアッラーの使徒 ﷺ に納めていた子ヤギ一頭でさえわたしに納めることを拒むなら、わたしはその拒否のためにかれらと戦う。**」ウマルは言いました。「アッラーにかけて、アッラーがアブー・バクルの胸を戦いのために開かれたのがわかった。そこでわたしは、それこそが正しいのだと知った。」（『サヒーフ・ブハーリー』1399–1400）

先の使節団とのつながりを見てください。**アブドゥルカイス族**はザカートが信仰の一部であると教えられ、**ディマーム**は誓いを求めてザカートについて尋ね、**ムアーズ**は富める者からザカートを集めて貧しい者に与えるよう命じられました。アブー・バクルが守ったのは、**アッラーの使徒 ﷺ がすべての使節団に教えられたこと**だったのです。そして権力を求めた**ムサイリマ**は、ついにヤマーマの戦いで打ち破られました。

しかし、揺るがなかった部族も多くありました — バハレーンのアブドゥルカイス族はイスラームにとどまり、スマーマとハニーファ族の一部は忠実であり続け、最も

遅くイスラームに入ったサキーフ族も**背教しませんでした**。知識と教育によって植えられた信仰は、たとえ短い期間であっても、**持ちこたえることができる**のです。

それぞれの使節団への教え

どの使節団も、それぞれ独自の教訓を携えて帰りました。次の表は、それぞれが何を持ち帰ったかをまとめたものです。

使節団	主な教訓
サキーフ族（ターイフ）	タウヒードと礼拝に取引の余地はない
タミーム族	アッラーの使徒 ﷺ への礼儀；誇らないこと
アブドゥルカイス族	イスラームの要約：信仰、礼拝、ザカート、斎戒、フムス
ディマーム・ブン・サアラバ	明確な確信が一族全体を変える
ナジュラーンのキリスト教徒	対話と論証、そして宗教に強制なし
イエメンの人びと	柔らかな心と知識への渇望
ハニーファ族（ムサイリマ）	条件付きの信仰は偽りの信仰
スマーマ・ブン・ウサール	赦しは剣よりも強い

アッラーの使徒 ﷺ は**すべての人に同じやり方を用いられたわけではありません。**粗暴な者には忍耐を、尋ねる者には明快な答えを、対話する者には論証を、権力を求める者には毅然とした態度を、捕虜には赦しを示されました。これこそが**呼びかけにおける英知** — 一人ひとりを理解し、その人にふさわしいものを与えること — なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語の典拠

使節団の年の物語は、さまざまな典拠に、異なる信頼度で伝えられています。

出来事	典拠と等級
アラブはマッカ開放を待っていた	『サヒーフ・ブハーリー』4302 — サヒーフ
サキーフ族のイマーム、ウスマーン・ブン・アビー・アル＝アース	『サヒーフ・ムスリム』468 — サヒーフ
ウルワ・ブン・マスウード；サキーフ族の条件	スィーラの書；アブー・ダーウード 3025 — 議論あり
アル＝ラートの破壊	スィーラ書
タミーム族	『サヒーフ・ブハーリー』4365、4367 — サヒーフ
サービト・ブン・カイス	『サヒーフ・ブハーリー』3613 — サヒーフ
アブドゥルカイス族とアル＝アシャッジ	『サヒーフ・ブハーリー』53；『サヒーフ・ムスリム』17 — サヒーフ
ディマーム・ブン・サアラバ	『サヒーフ・ブハーリー』63 — サヒーフ；帰郷：アフマド
ナジュラーンとアブー・ウバイダ	『サヒーフ・ブハーリー』4380、3744 — サヒーフ
イエメンの人びととアシュアル族	『サヒーフ・ブハーリー』4388、2486 — サヒーフ
ウワイス・アル＝カラニー	『サヒーフ・ムスリム』2542 — サヒーフ
ムアーズ、イエメンへ	『サヒーフ・ブハーリー』4347、3038 — サヒーフ
アッ＝トゥファイルとダウス族	『サヒーフ・ブハーリー』2937 — サヒーフ
ジャリールとズー・アル＝ハラサ	『サヒーフ・ブハーリー』4355–4357 — サヒーフ
アリー、イエメンへ；ハムダーン族	『サヒーフ・ブハーリー』4349–4350 — サヒーフ；ハムダーン族：アル＝バイハキー

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

出来事	典拠と等級
ムサイリマとアル＝アンスィー	『サヒーフ・ブハーリー』4373、4379 — サヒーフ
スマーマ・ブン・ウサール	『サヒーフ・ブハーリー』4372 — サヒーフ
アディー・ブン・ハーティム	『サヒーフ・ブハーリー』3595 — サヒーフ

イマーム・ブハーリーは、多くの使節団の物語を**遠征の書**に集め、タミーム族、アブドゥルカイス族、ハニーファ族、ナジュラーン、アシュアル族などのために特別な章を設けています。これは、この時期がスィーラにおいていかに重要か — そしてそれに関する伝承がいかに確かなものか — を示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 9〜10 年の使節団一覧

スィーラの学者たちは、マッカ開放とタブークの後にマディーナにやって来た六十を超える使節団を挙げています。イブン・サアドは『タバカート』で、イブン・ヒシャームは『預言者伝』で、その多くを列挙しています。しかし、それらの物語の伝承経路がすべて同じように強いわけではありません。一部は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』に収められていますが、ほかはスィーラの書にのみ伝えられています。この表は、本書で取り上げた使節団を、その典拠と信頼度とともにまとめたものです。

使節団	地域	主な人物	その後	典拠
サキーフ族	ターイフ	アブド・ヤーリール・ブン・アムル；ウスマーン・ブン・アビー・アル＝アース	イスラームに入る；アル＝ラートを破壊	『スナン・アビー・ダーウード』3025；『サヒーフ・ムスリム』468；スィーラの書
タミーム族	ナジュド東部	アル＝アクラウ・ブン・ハービス；ウターリド；アッ＝ズィブリカーン	イスラームに入る；部屋章 49:2–5 の啓示	『サヒーフ・ブハーリー』4365、4367、4845
アブドゥル カイス族	バハレーン（アル＝アフサー）	アル＝アシャッジ（アル＝ムンズィル・ブン・アーイズ）	すでにムスリム；四つの命令と四つの禁止を教わる	『サヒーフ・ブハーリー』53；『サヒーフ・ムスリム』17–18
サアド・ブン・バクル族	ハワーズィン（ナジュド）	ディマーム・ブン・サアラバ	イスラームに入る；一族に呼びかける	『サヒーフ・ブハーリー』63；『サヒーフ・ムスリム』12
ナジュラーンのキリスト教徒	ナジュラーン（南部）	アル＝アーキブとアッ＝サイイド	自分たちの宗教を保つ；ジズヤの協定	『サヒーフ・ブハーリー』4380；イムラーン家章 3:61

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団	地域	主な人物	その後	典拠
アシュアル族	イエメン	アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー	イスラームに入る；称賛した方：アッラーの使徒 ﷺ	『サヒーフ・ブハーリー』2486、4388
ダウス族	ティハーマ／サラート	アッ＝トゥファイル・ブン・アムル	導きを祈られる；イスラームに入る	『サヒーフ・ブハーリー』2937
ハニーファ族	ヤマーマ	ムサイリマ	ムサイリマが権力を要求；のちに背教	『サヒーフ・ブハーリー』4373；『サヒーフ・ムスリム』2273
タイイ族	アジャー山とサルマー山	アディー・ブン・ハーティム；ザイド・アル＝ハイル	イスラームに入る	『サヒーフ・ブハーリー』3595（アディー）；スィーラの書（ザイド）
バジーラ族とアフマス族	イエメンのサラート山地	ジャリール・ブン・アブドゥッラー	ズー・アル＝ハラサを破壊	『サヒーフ・ブハーリー』4355–4357
ライス族	ヒジャーズ周辺	マーリク・ブン・アル＝フワイリス	二十夜にわたり礼拝を学ぶ	『サヒーフ・ブハーリー』631
キンダ族	ハドラマウト	アル＝アシュアス・ブン・カイス	イスラームに入る	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アーミル・ブン・サアサア族	ナジュド	アーミル・ブン・アッ＝トゥファイル；アルバド・ブン・カイス	二人とも拒む；帰路で死亡	スィーラ書（イブン・イスハーク）

この多様さに注目してください。タミーム族のような大部族から、ディマームのように一人でやって来た男まで。学ぶために来た者から、権力を求めて来た者まで。アッラーの使徒 ﷺ は、そのそれぞれに、その人の状況に応じて接せられました。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』（使節団の章）；イブン・サアド『大タバカート』（使節団〈ウフード〉の章）；ウィキペディア「Year of Delegations」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：使節団はいくつあったのか？

書物に挙げられている数はさまざまです。イブン・サアドは七十を超える使節団を挙げていますが、そのうちのいくつかはわずか数人でした。この数はスィーラと歴史の書に由来するもので、サヒーフなハディースによるものではありません。ですから、わたしたちはそれを歴史家たちの概数として述べます。

教訓

イスラームは一つの部族だけによって広まったのではありません。マディーナの門がすべての人に開かれていたからこそ広まったのです。どの使節団も礼儀をもって迎えられ、英知をもって教えられ、一族への呼びかけ手として送り返されました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団の年をめぐるクルアーンの節

クルアーンのいくつかの節は、使節団の年の出来事と深く結びついています。そのつながりの一部はハディースによって確かめられており、ほかは注釈学者たちの見解にもとづいています。次の表は、それぞれのつながりの確かさを示しています。

節	要旨	つながり	関わりの確かさ
援助章 110:1–3	アッラーの援助と勝利が来て、人びとが群れをなしてアッラーの宗教に入るとき	使節団の年の描写	『サヒーフ・ブハーリー』4970（イブン・アッバースの解釈）
部屋章 49:2–5	声を高くするな；部屋の外から呼ぶ者たち	タミーム族	『サヒーフ・ブハーリー』4845、4847
部屋章 49:13	われはあなたがたを、互いに知り合うように種族と部族とした	部族を超えた兄弟愛	一般的な教訓
部屋章 49:14	ベドウィンのアラブたちは「わたしたちは信じた」と言う	アサド族の使節団	注釈学者の見解（スィーラの伝承）
イムラーン家章 3:59–61	イーサーの例はアーダムのよう；ムバーハラの節	ナジュラーンのキリスト教徒	『サヒーフ・ムスリム』2404；『サヒーフ・ブハーリー』4380
イムラーン家章 3:64	共通の言葉に来なさい	啓典の民との対話	一般的な教訓
悔悟章 9:97–99	ベドウィン：不信の者もいれば、信仰する者もいる	ベドウィンの諸部族	一般的な教訓

援助章：終わりを告げる章

イブン・アッバース رضي الله عنهما は援助章を、アッラーの使徒 ﷺ の最期が近いことを示すしるしと理解し、ウマル رضي الله عنه はその解釈を認めました（『サヒーフ・ブハ

ーリー』4970）。使節団の年に人びとが群れをなしてイスラームに入ったことは、使命の務めがほぼ完成したことを示すしるしでした。だからこそこの章は、誇ることではなく、アッラーを讃え、称え、赦しを請うようにという命令で結ばれているのです。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』4970；援助章（Quran.com）；イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』。

教訓

最も大きな勝利は、赦しを請うことによって迎えられます。成功が訪れたとき、ムスリムは讃美と悔悟とともにアッラーのもとに立ち返ります。すべてはアッラーからのものだと知っているからです。

マーリク・ブン・アル＝フワイリス：マディーナでの二十夜

すべての使節団が部族の長や詩を携えて来たわけではありません。ただ学ぶためだけにやって来た若者たちの一団もありました。ライス族のマーリク・ブン・アル＝フワイリス رضي الله عنه はこう語っています。

「わたしたちは預言者 ﷺ のもとに来ました。わたしたちはほぼ同じ年ごろの若者でした。わたしたちは二十夜のあいだ預言者のもとにとどまりました。アッラーの使徒 ﷺ はとても思いやり深く優しい方でした。わたしたちが家族を恋しがっていると思われると、預言者は残してきた家族のことを尋ねられ、わたしたちはお話ししました。預言者は仰せられました。**『家族のもとに帰り、かれらとともに暮らし、かれらに教え、かれらに命じなさい。わたしが礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい。礼拝の時が来たら、あなたがたの一人がアザーンを唱え、あなたがたの最年長の者がイマームとなりなさい。』」**

参照：『サヒーフ・ブハーリー』631；第 628、6008 番と『サヒーフ・ムスリム』674 にも。信頼度：サヒーフ。

このハディースからの三つの学び

表現	教訓
「二十夜」	短くても中身の濃い教育は、一つの民を変えることができる。かれらは聞くだけでなく、見て学んだ。
「わたしたちが家族を恋しがっていると思われた」	アッラーの使徒 ﷺ は弟子たちの気持ちに気を配り、必要以上にかれらを引きとめられなかった。
「わたしが礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい」	崇拝の基本原則：礼拝は、自分で作り出すものではなく、アッラーの使徒 ﷺ の手本から受け取るもの。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このハディースはまた、使節団が部族の長たちの公式な会合だけではなかったことを示しています。それは小さな学校でもありました。若者たちが来て学び、そして一族の教師として帰って行ったのです。

教訓

学んだ知識はしまっておくためのものではありません。「家族のもとに帰り.....かれらに教えなさい」— 学ぶ者はみな未来の教師であり、家庭は知識を伝える最初の場所なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラ書に伝わるその他の使節団

『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』に確かな物語が収められている使節団のほかにも、スィーラの書は多くの使節団について語っています。これらの物語の多くはイブン・イスハークとイブン・サアドが伝えたもので、その伝承経路はサヒーフなハディースほど強くはありません。全体像を補うために、その信頼度を明らかにしたうえで紹介します。

「馬のザイド」から「善のザイド」へ

タイイ族のザイド・ブン・ムハルヒルは、乗馬と馬の飼育に長けていたことから、ザイド・アル＝ハイル（「馬のザイド」）というあだ名で知られていました。イブン・イスハークによれば、彼がやって来てイスラームに入ると、アッラーの使徒 ﷺ は彼のあだ名をザイド・アル＝ハイル（「善のザイド」）— アラビア語ではラー（r）の一字の違い — に改め、彼を称えられました。イブン・イスハークはまた、彼が一族のもとに帰って間もなく亡くなったと述べています。

> **スィーラの書より：伝承の信頼度**
>
> ザイド・アル＝ハイルの物語は、イブン・イスハークが、サヒーフな連続した伝承経路なしに伝えたものです。スィーラの書ではよく知られていますが、『サヒーフ・ブハーリー』にも『サヒーフ・ムスリム』にも収められていません。

キンダ族とアル＝アシュアス・ブン・カイス

イブン・イスハークによれば、アル＝アシュアス・ブン・カイスはキンダ族のおよそ八十人の騎乗者とともに、絹の刺繍をほどこした上着を着てやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ は「あなたがたはもうイスラームに入ったのではないか」と尋ねられました。かれらが「はい」と答えると、預言者はその絹についてさらに尋ねられ、かれらはそれを引き裂いて捨てました。この物語は、イスラームが単なる言葉では

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なく、生き方を変えるものであることを示しています。アル＝アシュアスはのちに背教の出来事に関わりましたが、アブー・バクル رضى الله عنه の時代にイスラームに戻りました。

アーミル族：拒んだ二人の男

すべての使節団が導きで終わったわけではありません。イブン・イスハークによれば、アーミル・ブン・サアサア族のアーミル・ブン・アッ＝トゥファイルとアルバド・ブン・カイスは、アッラーの使徒 ﷺ に対して悪意を抱いてやって来ましたが、アッラーは預言者を守られました。アーミルは権力を分け合うよう要求し、退けられました。二人とも帰り道で死にました。アーミルは首の腫れ物の病で、アルバドは落雷によってです。一部の注釈学者はアルバドの死を雷電章 13:13 と結びつけていますが、そのつながりは伝承経路に議論のある注釈の伝承に由来します。

ムザイナ族：早くに来た小さな部族

スィーラの学者たちは、ムザイナ族がマッカ開放の後に最も早くやって来た部族の一つであったと述べています。のちにペルシア征服の司令官となるアン＝ヌウマーン・ブン・ムカッリン・アル＝ムザニーも、その中にいました。伝承に挙げられている使節団の人数はまちまちです。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・サアド『大タバカート』；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』（使節団の章）。

教訓

マディーナの門はすべての人に開かれていましたが、導きはあくまでアッラーの御手の中にあります。来て完全に変わった者もいれば、高慢を抱いて来て損失とともに帰った者もいました。わたしたちは、サヒーフな伝承とスィーラの伝承との違いを意識しながら、これらの物語を読むのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団の年の年表

一部の使節団の日付は正確には確定できません。この表は、スィーラの書で一般的な順序に従っています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ 8 年ラマダーン月	マッカ開放；諸部族が急いでイスラームに入り始める	『サヒーフ・ブハーリー』4302
ヒジュラ暦 8 年末〜9 年初め	ムザイナ族とヒジャーズ周辺のいくつかの部族の使節団	スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ムハッラム月	ザカートの徴収者が諸部族に遣わされる	スィーラ書
ヒジュラ 9 年	タミーム族の使節団；部屋章 49:2–5 の啓示	『サヒーフ・ブハーリー』4845、4847
ヒジュラ 9 年ラジャブ月	タブークの遠征	第 24 巻
ヒジュラ暦 9 年ラマダーン月	サキーフ族の使節団；アル＝ラートの破壊	スィーラの書；『スナン・アビー・ダーウード』3025
ヒジュラ暦 9 年ズー・アル＝ヒッジャ月	アブー・バクルの巡礼；（不信仰者との）関係断絶の宣言	第 27 巻
ヒジュラ暦 9〜10 年	アブドゥルカイス族（二度目）、ディマーム、タイイ族、キンダ族、バジーラ族の使節団	サヒーフなハディースとスィーラの書
ヒジュラ暦 9〜10 年	ムサイリマを含むハニーファ族の使節団	『サヒーフ・ブハーリー』4373
ヒジュラ 10 年	ナジュラーンのキリスト教徒の使節団；ムバーハラの節	『サヒーフ・ブハーリー』4380

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 10 年初め	ムアーズとアブー・ムーサーがイエメンへ遣わされる	『サヒーフ・ブハーリー』4347
ヒジュラ 10 年	アリーがイエメンへ遣わされる；ハムダーン族がイスラームに入る	『サヒーフ・ブハーリー』4349；スィーラの書
ヒジュラ暦 10 年ズー・アル＝ヒッジャ月	別れの巡礼	第 28 巻
ヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月	アッラーの使徒 ﷺ の逝去；背教の試練の始まり	スィーラ書

教訓

わずか二年ほどのあいだに、アラビア半島のほぼ全域がマディーナにやって来ました。この大きな変化は突然起こったのではありません。それは、それまでの二十年にわたる忍耐の実りだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使節団の年に関するよくある質問

1. なぜヒジュラ暦 9 年は「使節団の年」と呼ばれるのですか？

その年と翌年に、アラビア半島全土から部族の使節団が、イスラームに入るため、あるいは交渉するためにマディーナにやって来たからです（第 1 章）。

2. なぜ諸部族はマッカ開放の後まで待ったのですか？

かれらはアッラーの使徒 ﷺ とクライシュ族との決着を待っていました。マッカが開かれると、かれらは預言者が本当に預言者であると確信したのです（『サヒーフ・ブハーリー』4302；第 2 章）。

3. アブドゥルカイス族への四つの命令と四つの禁止とは何ですか？

命令：アッラーを信じること、礼拝を守ること、ザカートを納めること、ラマダーンに斎戒すること、戦利品の五分の一を納めること。禁止：飲み物がたやすく酔わせるものに変わってしまう四種類の器（『サヒーフ・ブハーリー』53；第 9 章）。

4. ディマーム・ブン・サアラバの特別なところは何ですか？

彼はただ一人でやって来て、誓いを求めながらイスラームの基本を率直に尋ね、それから帰ると、一族がイスラームに入りました（『サヒーフ・ブハーリー』63；第 11–12 章）。

5. ムバーハラとは何ですか？

嘘をついている側にアッラーの呪いが下るよう、ともに祈ることです。ナジュラーンのキリスト教徒はそれを行うことを拒み、協定を選びました（イムラーン家章 3:61；『サヒーフ・ブハーリー』4380；第 14 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. ナジュラーンのキリスト教徒はイスラームに入ることを強制されたのですか？

いいえ。かれらは協定にもとづいて自分たちの宗教を保ち、アブー・ウバイダが信頼できる者としてかれらとともに遣わされました（『サヒーフ・ブハーリー』4380；第 15 章）。

7. なぜアシュアル族は称賛されたのですか？

食べ物が乏しくなると、まるで一つの家族のように分け合ったからです。アッラーの使徒 ﷺ は「かれらはわたしの一部であり、わたしはかれらの一部である」と仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』2486；第 17 章）。

8. ムアーズとアブー・ムーサーへのアッラーの使徒 ﷺ の教えは何でしたか？

「易しくせよ、難しくするな。喜ばせよ、遠ざけるな。協力し合い、仲たがいするな」（『サヒーフ・ブハーリー』3038、4347；第 21 章）。

9. ムサイリマとは誰ですか？

ハニーファ族の男で、一族の使節団とともにやって来て、アッラーの使徒 ﷺ の後の権力を要求しました。彼はのちに預言者を名乗り、ヤマーマの戦いで殺されました（『サヒーフ・ブハーリー』4373；第 24 章）。

10. マーリク・ブン・アル＝フワイリスのハディースの教訓は何ですか？

知識は教えるために学ぶものであり、礼拝はアッラーの使徒 ﷺ の手本から受け取るものだということです。「わたしが礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい」（『サヒーフ・ブハーリー』631；第 35 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. 使節団の物語はすべてサヒーフですか？

いいえ。一部はハディースとしてサヒーフですが、ザイド・アル＝ハイルやキンダ族の物語のように、スィーラの書にのみ伝えられているものもあります（第 33 章と第 36 章）。

12. 援助章はこの年とどのような関係がありますか？

この章は人びとが群れをなしてイスラームに入る様子を描いており、イブン・アッバースはそれを、アッラーの使徒 ﷺ の最期が近いことを示すしるしと理解しました（『サヒーフ・ブハーリー』4970；第 34 章）。

教訓

これらの質問は、使節団の年が単なる部族の一覧ではなく、真理を求めてやって来た人びとの物語であり — そしてアッラーの使徒 ﷺ がかれらをどのように迎えられたかの物語であることを、わたしたちに思い起こさせてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

使節団の年は、二十年の種まきの後の**刈り入れ**の年でした。それは、呼びかけにおける忍耐と真剣さが、たとえ遅れて、思いがけない形で訪れるとしても、ついには実を結ぶことを示しています。

教訓	使節団の年から
勝利が心を開く	アラブはマッカ開放を待っていた
知識は地位に先立つ	ウスマーン・ブン・アビー・アル＝アースがイマームに任命される
指導者への礼儀	部屋章 49:1–5
忍耐と落ち着き	寛容（ヒルム）と落ち着き（アナー）
明確な確信	ディマームが一族を変える
信頼は指導者の条件	この共同体の信頼できる者、アブー・ウバイダ
易しくせよ、難しくするな	ムアーズとアブー・ムーサーへの教え
信仰の根本では毅然と	ムサイリマは退けられた
敬虔さが尊さの基準	部屋章 49:13

わたしたちの生活の中の「使節団の年」

毎日、わたしたちのもとにも「使節団」がやって来ます — 新しい隣人、イスラームについて尋ねる同僚、迷っている若者、まだ学んでいる新しいムスリム。タミーム族のように粗暴な人もいれば、ディマームのように率直に尋ねる人も、イエメンの人びとのように心の柔らかい人もいます。問われているのは、**わたしたちがかれらをどう迎えるか**です。アッラーの使徒 ﷺ のような明るい顔と忍耐をもってでしょうか。それとも、かれらを遠ざけてしまうような厳しさをもってでしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 27 巻 — アブー・バクルの巡礼と関係断絶（バラーア）の宣言**へと続きます。ヒジュラ暦 9 年の巡礼の季節に、アブー・バクル رضى الله عنه が巡礼者たちを率い、アリー رضى الله عنه が悔悟章の冒頭を読み上げました — その年の後は、もはや多神教徒は巡礼を行うことができず、裸でカアバを巡ることもできない、という宣言です。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 26 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（イムラーン家章 3:59–61；部屋章 49:1–5、49:13；援助章 110:1–3；星章 53:19–20）。https://tafsir.app/ibn-katheer/49/4

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』53、63、886、892、1399、1400、2262、2486、2937、3038、3053、3190、3560、3595、3613、3744、4072、4302、4347、4349、4350、4355、4356、4357、4365、4366、4367、4372、4373、4379、4380、4388、4845、4846、4859。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』17、468、2542（ウワイス・アル＝カラニー）。
https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3267；『スナン・アビー・ダーウード』3025、4252；アフマド『アル＝ムスナド』；アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。
https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— 使節団（アル＝ウフード）の章。

イブン・サアド『大タバカート』— アラブの使節団の章；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』— 使節団の節。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注解）』— 遠征の書、使節団の諸章。

イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』；サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— 使節団の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Year of Delegations」。https://en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Delegations

ウィキペディア「Thaqif」。https://en.wikipedia.org/wiki/Thaqif

ウィキペディア「Banu Tamim」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Tamim

ウィキペディア「Abd al-Qays」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Qays

ウィキペディア「Najran」。https://en.wikipedia.org/wiki/Najran

ウィキペディア「Musaylimah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Musaylimah

ウィキペディア「Thumamah ibn Uthal」。https://en.wikipedia.org/wiki/Thumamah_ibn_Uthal

ウィキペディア「Adi ibn Hatim」。https://en.wikipedia.org/wiki/Adi_ibn_Hatim

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』631（マーリク・ブン・アル＝フワイリス：「わたしが礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい」）。https://sunnah.com/bukhari:631

『サヒーフ・ブハーリー』4970（援助章についてのイブン・アッバースの解釈）。https://sunnah.com/bukhari:4970

『サヒーフ・ブハーリー』4847（タミーム族と部屋章）。https://sunnah.com/bukhari:4847

『サヒーフ・ムスリム』2404（ムバーハラの節）。https://sunnah.com/muslim:2404d

『サヒーフ・ブハーリー』53（アブドゥルカイス族の使節団）。https://sunnah.com/bukhari:53

『サヒーフ・ブハーリー』4380（ナジュラーンのキリスト教徒）。https://sunnah.com/bukhari:4380

援助章（Quran.com）。https://quran.com/110

部屋章 49:1–18（Quran.com）。https://quran.com/49

ウィキペディア「Year of Delegations」。https://en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Delegations

ウィキペディア「Zayd al-Khayr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_al-Khayr

第六部

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言

預言者伝（スィーラ）— 第 27 巻

ミナーでの宣言、ジャーヒリーヤの巡礼の終わり、そして偽信者の頭目の死 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言

第 26 巻では、イスラームに入るためにマディーナへやって来た使節団を次々と見ました。しかしマッカでは、一つの問題がまだ解決していませんでした。**巡礼** — 預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がタウヒードの上に打ち立てた礼拝 — は、なお多神教徒と共有されており、かれらの一部はいまだに**裸でタワーフをしていた**のです。

この第 27 巻は、その問題がどのように解決されたかを語ります。**アブー・バクル・アッ＝スィッディーク** رضى الله عنه が率いたヒジュラ暦 9 年の巡礼、**絶縁の章（スーラ・バラーア）**の啓示、そして**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه によるミナーでの宣言です。同じ年の二つの死も見ていきます。偽信者の頭目**アブドッラー・ブン・ウバイイ**と、**ウンム・クルスーム** — アッラーの使徒 ﷺ の娘 — です。

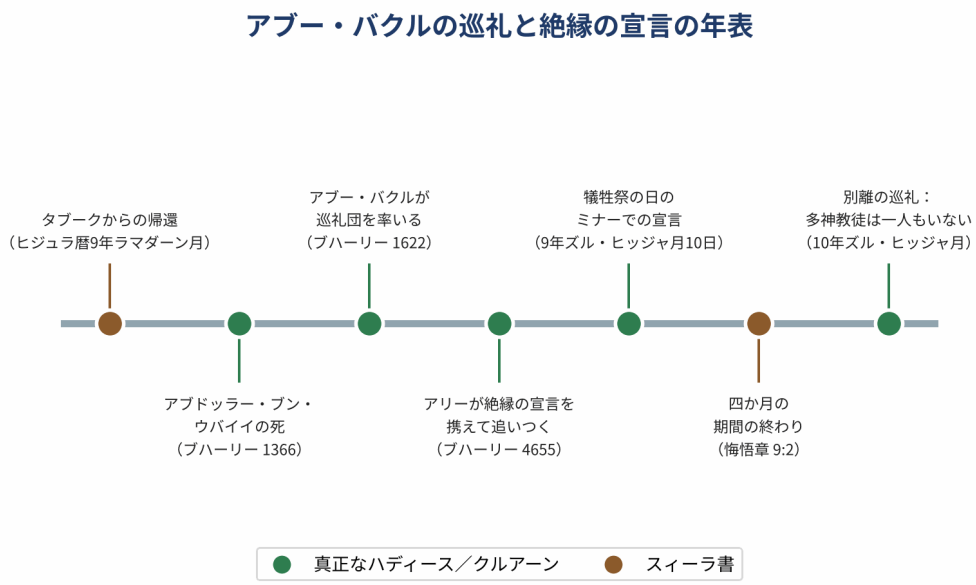


図 1：アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。アッラーの使徒 ﷺ がその年に巡礼されなかった理由、アブー・バクルとアリーの会話、悔悟章にバスマラがない理由など、スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に収めています。その多くは連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているためです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 9 年の巡礼の季節

アッラーの使徒 ﷺ は、ヒジュラ暦 9 年のラマダーン月にタブークから戻られました。シャウワール月とズル・カアダ月は、アラビア全土からの使節団の到来で満ちていました。そして巡礼の季節がやって来ました。マッカが開かれてからほぼ二年が経ち、カアバの周りの偶像はすでに壊されていました。しかし**多神教徒たちはなおも巡礼に来ていた**のです。ジャーヒリーヤの慣習に従って。古い盟約がまだ続いていたからです。

これは奇妙な状況でした。カアバは偶像から清められていたのに、**その周りの礼拝はまだ多神崇拝から清められていなかった**のです。ムスリムと多神教徒が同じ場所で、異なるやり方でタワーフをしていました。多神教徒の一部はなお裸でタワーフをし、多神のことばでタルビヤを唱えていました。「ただし、あなたが所有される、あなたの協力者を除いて。」

ヒジュラ暦 9 年は、この状況に終止符を打ち、翌年の**別離の巡礼**への道を開くことになります。それはアッラーの使徒 ﷺ がヒジュラの後に行われた唯一の巡礼であり、そのときアッラーの家は信者たちのために本当に清められていました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜアッラーの使徒 ﷺ は行かれなかったのか

スィーラの注：アッラーの使徒 ﷺ がヒジュラ暦 9 年に巡礼されなかった理由

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がその年にご自身で巡礼に行かれなかった理由をいくつか挙げています。その一つは、**多神教徒がまだムスリムと一緒に巡礼をしていた**ことで、かれらの一部は裸でタワーフをしていました。使徒はその状態が正されるまで、かれらと一緒に巡礼をすることを望まれなかったのです。

ほかに挙げられる理由は、アラビア半島全土からの使節団を迎えるのに忙しかったこと、そしてただ一度の使徒の巡礼が、共同体が従うべき**完全な模範**となるようにという英知です。これらの理由は**学者の推論とスィーラの伝承**であり、明確な典拠ではありません。

参照：
イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』悔悟章 9:1；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。

理由が何であれ、使徒の決断は一つの美しい原則を示しています。**まず清め、それから完成させる**。使徒はアブー・バクルを遣わして道を整えさせ、その道が清まってから、一年後にご自身が十万人を超える教友とともに来られたのです。

わたしたちへの教訓：大きなことには**準備**が必要です。結婚、事業、ダアワ（宣教）の計画など、大切なことを始める前に、まずその障害を取り除きましょう。そうすれば、実行するときに完全な形で行うことができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

巡礼団の長アブー・バクル

アッラーの使徒 ﷺ は**アブー・バクル・アッ＝スィッディーク** رضى الله عنه を、その年のムスリムの巡礼団の長（**アミール・アル＝ハッジ**）に任命されました。アブー・フライラ رضى الله عنه は、アブー・バクルが「別離の巡礼の前、アッラーの使徒 ﷺ がかれ（アブー・バクル）を長に任命された巡礼で」自分を遣わしたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』1622）。

スィーラの注：アブー・バクルの一行

スィーラの学者たちは、アブー・バクルがズル・カアダ月に**約三百人**の教友とともにマディーナを出発し、**二十頭の犠牲のラクダ**を連れていたと述べています。それはアッラーの使徒 ﷺ が送られたもので、アブー・バクル自身も五頭の犠牲のラクダを連れていました。これらの細部は**スィーラ書の伝承**（イブン・サアドとアル＝ワーキディー）です。

参照：
イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

この任命はとても意味深いものでした。巡礼はアラビア全土のムスリムを集める**最大の礼拝**です。アブー・バクルをその長に任命することで、アッラーの使徒 ﷺ は共同体全体に、宗教の事柄で導く者として最も信頼される人物という**アブー・バクルの地位**を示されました。これは後に、教友たちが最初のカリフを選ぶときに理解した示唆でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

絶縁の章が下る

アブー・バクルが出発した後、非常に厳しい章の冒頭が下りました。**絶縁の章（スーラ・バラーア）**で、悔悟章（スーラ・アッ＝タウバ）としても知られています。それは次の宣言で始まります。

「アッラーとその使徒から、あなたがたが盟約を結んだ多神教徒に対し解約が、（宣言）された。」（悔悟章 9:1）— 『イブン・カスィール注釈』9:1。

「それにしても（多神教徒は）、4 ヶ月の間は（任意に）国中を往来させなさい。あなたがたはアッラー（の計画）を、頓挫させられない、またアッラーは、不信者に屈辱を与えられることを知れ。」（悔悟章 9:2）— 『イブン・カスィール注釈』9:2。

「**バラーア**」とは、関係の断絶、責任の解除を意味します。多神教徒と結ばれていた古い盟約 — その多くはかれら自身がすでに破っていました — は、公正な猶予期間をもって**終了させられた**のです。この章は**最後に下った**章の一つでもあります。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4654 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْوَلِيدِ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ آخِرُ آيَةٍ نَزَلَتْ {يَسْتَفْتُونَكَ قُلِ اللَّهُ يُفْتِيكُمْ فِي الْكَلاَلَةِ} وَآخِرُ سُورَةٍ نَزَلَتْ بَرَاءَةٌ.

訳：

アブー・イスハークは言った。わたしはアル＝バラーウ رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。「**最後に下った節は｛かれらはあなたに裁定を求める。言え、『アッラーは傍系親族について、あなたがたに裁定を下される。』｝であり、最後に下った章はバラーアである。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ワリード・アッ＝タヤーリスィー ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』注釈の書、「（これは）アッラーとその使徒からの絶縁の宣言である……」の章、ハディース第 4654 番。第 4364 番、第 4605 番、ムスリム第 1618 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4654

このハディースの教訓

アリーが後を追う

絶縁の節が下ると、アッラーの使徒 ﷺ は**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه を遣わしてアブー・バクルの後を追わせ、巡礼の季節に人びとにそれを読み聞かせるようにされました。アナス رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**これを伝えるのは、わたしの家族の一人の男でなければならない。**」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091、アッ＝ティルミズィーはハサン・ガリーブと評価。）

学者たちはその理由を説明しています。**アラブの慣習**では、盟約はそれを結んだ指導者自身か、その最も近い親族の一人によってのみ解消されました。ほかの者による宣言は受け入れられないおそれがありました。そこで、アッラーの使徒 ﷺ のいとこであり娘婿であるアリーが遣わされ、**誰もその宣言に異を唱えられない**ようにされたのです。

スィーラの注：「あなたは長として来たのか、使者として来たのか？」

イブン・イスハークは、アリーが道中のアル＝アルジュ（またはダジュナーン）でアブー・バクルに追いついたと伝えています。アブー・バクルはかれを見ると尋ねました。**「あなたは長として来たのか、それとも使者として来たのか？」**アリーは答えました。**「使者としてです。」**こうして二人は一緒に旅を続け、アブー・バクルは引き続き巡礼団を率い、アリーは人びとに絶縁の宣言を読み聞かせました。この細部は**スィーラの伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言の章；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ』。

この二人の偉大な教友の**調和**をご覧ください。競争も、権力争いもありません。アブー・バクルは礼拝と巡礼の儀礼を導き、アリーは宣言を伝えました。**それぞれが、託された責務を果たしたのです。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ミナーでの宣言

アッラーはその宣言の日をクルアーンの中で定められました。「**（これは）アッラーとその使徒から、偉大な巡礼の日にあたり、人びとへの（布告された）宣言。『本当にアッラーは、多神教徒と（の盟約）を解約された、その使徒にしても同じこと。それであなたがたがもし悔悟するならば、あなたがたのため最もよい。もし背き去るならば、アッラー（の計画）をあなたがたは頓挫させられないことを知れ。』信仰を拒否する者たちには、痛苦の懲罰を告げてやれ。**」（悔悟章 9:3） — 『イブン・カスィール注釈』9:3。

呼び手の一人であったアブー・フライラ رضى الله عنه が、ミナーで起こったことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4655 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عُفَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي عُقَيْلٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، وَأَخْبَرَنِي حُمَيْدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَنَّ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ بَعَثَنِي أَبُو بَكْرٍ فِي تِلْكَ الْحَجَّةِ فِي مُؤَذِّنِينَ، بَعَثَهُمْ يَوْمَ النَّحْرِ يُؤَذِّنُونَ بِمِنًى أَنْ لاَ يَحُجَّ بَعْدَ الْعَامِ مُشْرِكٌ، وَلاَ يَطُوفَ بِالْبَيْتِ عُرْيَانٌ. قَالَ حُمَيْدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ ثُمَّ أَرْدَفَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِعَلِيِّ بْنِ أَبِي طَالِبٍ، وَأَمَرَهُ أَنْ يُؤَذِّنَ بِبَرَاءَةَ. قَالَ أَبُو هُرَيْرَةَ فَأَذَّنَ مَعَنَا عَلِيٌّ يَوْمَ النَّحْرِ فِي أَهْلِ مِنًى بِبَرَاءَةَ، وَأَنْ لاَ يَحُجَّ بَعْدَ الْعَامِ مُشْرِكٌ، وَلاَ يَطُوفَ بِالْبَيْتِ عُرْيَانٌ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。アブー・バクルはその巡礼の季節に、**犠牲祭の日（ズル・ヒッジャ月 10 日）**に遣わした**呼び手たち**とともにわたしを遣わし、ミナーでこう告げさせた。「**今年の後は、多神教徒は巡礼をしてはならない。また誰も裸でアッラーの家をタワーフしてはならない。**」フマイド・ブン・アブドッラフマーンは言った。その後、アッラーの使徒 ﷺ は**アリー・ブン・アビー・ターリブ**を（アブー・バクルの）後に遣わし、**絶縁を告げる**よう命じられた。アブー・フライラは言った。そこでアリーは犠牲祭の日に、わたしたちとともにミナーの人びとに絶縁を告げ、今年の後は

多神教徒は巡礼をしてはならず、誰も裸でアッラーの家をタワーフしてはならないと告げた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サイード・ブン・ウファイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← フマイド・ブン・アブドッラフマーン・ブン・アウフ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』注釈の書、「それであなたがたは四か月の間、地上を旅しなさい……」の章、ハディース第 4655 番。第 369 番、第 1622 番、第 4363 番、ムスリム第 1347 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4655

このハディースの教訓

この宣言が一人ではなく**多くの呼び手**によって伝えられたことに注目してください。犠牲祭の日のミナーはアラビア全土からの何千もの巡礼者で満ちており、かれらは**一人ひとりが確実に聞く**ようにしなければなりませんでした。スィーラの学者たちは、アブー・フライラが声がかれるまで呼びかけたと述べています。

また、この節が**悔悟の扉**を開いていることにも注目してください。「それであなたがたが悔い改めるならば、それはあなたがたのために最も善い。」この宣言は単なる脅しではなく、なお多神崇拝にとどまる者たちがアッラーに立ち返るための**最後の呼びかけ**だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

大巡礼の日

第 3 節は「**大巡礼の日**」に触れています。それはどの日なのでしょうか。アブー・フライラ رضى الله عنه が説明しています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3177 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، أَخْبَرَنَا حُمَيْدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَنَّ أَبَا هُرَيْرَةَ، قَالَ بَعَثَنِي أَبُو بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ فِيمَنْ يُؤَذِّنُ يَوْمَ النَّحْرِ بِمِنًى لاَ يَحُجُّ بَعْدَ الْعَامِ مُشْرِكٌ، وَلاَ يَطُوفُ بِالْبَيْتِ عُرْيَانٌ. وَيَوْمُ الْحَجِّ الأَكْبَرِ يَوْمُ النَّحْرِ، وَإِنَّمَا قِيلَ الأَكْبَرُ مِنْ أَجْلِ قَوْلِ النَّاسِ الْحَجُّ الأَصْغَرُ. فَنَبَذَ أَبُو بَكْرٍ إِلَى النَّاسِ فِي ذَلِكَ الْعَامِ، فَلَمْ يَحُجَّ عَامَ حَجَّةِ الْوَدَاعِ الَّذِي حَجَّ فِيهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مُشْرِكٌ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。アブー・バクル رضى الله عنه は、犠牲祭の日にミナーで告げる者たちとともにわたしを遣わした。「**今年の後は、多神教徒は巡礼をしてはならない。また誰も裸でアッラーの家をタワーフしてはならない。**」**大巡礼の日とは犠牲祭の日である。**それが「大（アクバル）」と呼ばれるのは、人びとがウムラを小巡礼（ハッジ・アスガル）と呼んでいたからである。こうしてアブー・バクルはその年、人びと（多神教徒）との**盟約を解消した。**そのため別離の巡礼の年 — 預言者 ﷺ が巡礼された年 — には、**一人の多神教徒も巡礼しなかった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← フマイド・ブン・アブドッラフマーン・ブン・アウフ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジズヤの書、盟約をどのように解消するかの章、ハディース第 3177 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3177

このハディースの教訓

大巡礼の日とは犠牲祭の日である — ズル・ヒッジャ月 10 日、犠牲祭の日で、巡礼者が石投げ、犠牲、剃髪、そして巡礼の主要なタワーフ（タワーフ・アル＝イファーダ）を行う日です。巡礼の行いが最も多く行われる日です。「大」と呼ばれるのは、アラブ人がウムラを「小巡礼」と呼んでいたからです。

このハディースの最後の一文はきわめて重要です。「**別離の巡礼の年には……一人の多神教徒も巡礼しなかった。**」アブー・バクルとアリーの宣言は完全に成功しました。わずか一年で、巡礼は**純粋なタウヒードに戻った**のです。それは預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が打ち立てたとおりのものでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・フライラ — ミナーの呼び手

アブー・バクルがミナーで遣わした呼び手の一人は**アブー・フライラ** رضي الله عنه でした。ダウス族出身の教友で、ハイバルが開かれたヒジュラ暦 7 年ごろにイスラームに入りました。アッラーの使徒 ﷺ とともにいたのは三、四年ほどにすぎませんでしたが、かれは教友の中で**最も多くハディースを伝えた者**となりました。

どうしてそうなったのでしょうか。アブー・フライラ自身が説明しています。「**人びとは、アブー・フライラはハディースを伝えすぎると言う……。実のところ、わたしたちの兄弟であるムハージルーンは市場での売り買いに忙しく、わたしたちの兄弟であるアンサールは自分の財産の世話に忙しかった。しかしアブー・フライラは、腹を満たすだけでいつもアッラーの使徒 ﷺ のそばにいた。かれらがいないときにそこにおり、かれらが覚えないときに覚えたのだ**」（『サヒーフ・ブハーリー』118）。

かれはまた、自分は忘れっぽいとアッラーの使徒 ﷺ に訴えたと語っています。使徒はかれに**肩掛けを広げる**よう言われ、両手で何かをすくってその肩掛けの中に入れ、「それを集めなさい」と言われました。アブー・フライラは言いました。「**それ以来、わたしは何ひとつ忘れたことがない**」（『サヒーフ・ブハーリー』119）。

ですから、ミナーで呼びかける役にかれが選ばれ、その宣言の物語をわたしたちに詳しく伝えたのも不思議ではありません。アブー・フライラは、**師とともに過ごす時間の価値**と**知識を覚える熱意**をわたしたちに教えています。かつてイスラームを拒んだダウス族（第 26 巻）から、スンナの最大の守り手が生まれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

裸のタワーフの終わり

宣言された事柄の一つは**裸でタワーフをすることの禁止**でした。なぜジャーヒリーヤのアラブ人はそうしていたのでしょうか。注釈学者たちによれば、かれらの一部は「罪を犯したときに着ていた服でタワーフはしない」と言っていました。服を着てタワーフをしたのはクライシュ族（フムス）だけで、ほかの者はクライシュから服を借りるか、服を着ずにタワーフをしなければなりませんでした。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 3028 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، ح وَحَدَّثَنِي أَبُو بَكْرِ بْنُ نَافِعٍ، - وَاللَّفْظُ لَهُ - حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ سَلَمَةَ بْنِ كُهَيْلٍ، عَنْ مُسْلِمٍ الْبَطِينِ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ كَانَتِ الْمَرْأَةُ تَطُوفُ بِالْبَيْتِ وَهِيَ عُرْيَانَةٌ فَتَقُولُ مَنْ يُعِيرُنِي تِطْوَافًا تَجْعَلُهُ عَلَى فَرْجِهَا وَتَقُولُ الْيَوْمَ يَبْدُو بَعْضُهُ أَوْ كُلُّهُ فَمَا بَدَا مِنْهُ فَلاَ أُحِلُّهُ فَنَزَلَتْ هَذِهِ الآيَةَ { خُذُوا زِينَتَكُمْ عِنْدَ كُلِّ مَسْجِدٍ}

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。**（ジャーヒリーヤの時代には）女性が衣服を着けずにアッラーの家をタワーフすることがあった。**彼女は「わたしの恥部を覆うために、タワーフ用の布を一枚貸してくれる人はいませんか」と言い、そのとき自分の恥部があらわになっていることを示すことばで詩を詠んだ。そこでこの節が下った。{**あらゆる礼拝の場で、あなたがたの身を飾りなさい**}（高壁章 7:31）。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← ムハンマド・ブン・ジャアファル、およびアブー・バクル・ブン・ナーフィウ ← グンダル ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← サラマ・ブン・クハイル ← ムスリム・アル＝バティーン ← サイード・ブン・ジュバイル ← アブドッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』注釈の書、「あらゆる礼拝の場で、あなたがたの身を飾りなさい」の章、ハディース第 3028 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:3028

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このハディースの教訓

下った節は裸を禁じただけでなく、**身を飾ることを命じて**います。「あらゆる礼拝の場で、あなたがたの身を飾りなさい。」イスラームは人間の尊厳を高めます。**恥部を覆うことは尊厳であり**、清潔で整った服でモスクに来ることはアッラーへの礼儀なのです。

迷いが人をどこまで連れて行くかをご覧ください。「清さ」の名のもとに、かれらは**恥ずべき、自分をおとしめる**ことをしていました。宗教が欲望に従って作られると、人間の本性（フィトラ）に反する行いさえ生み出しかねません。啓示は**人間をフィトラに戻す**ために来たのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タウヒードのタルビヤと多神のタルビヤ

ジャーヒリーヤの巡礼における多神崇拝はタワーフだけでなく、巡礼者が唱える呼びかけの言葉**タルビヤ**にもありました。イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、多神教徒は「ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラク（あなたの呼びかけに応えます。あなたに協力者はありません）」と唱えていました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**なんということか。そこまでだ、そこまでだ（そこでやめなさい）！**」しかしかれらは続けました。「**……ただし、あなたの協力者を除いて。あなたはその者を所有されるが、その者は何も所有しない**」（『サヒーフ・ムスリム』1185）。

多神崇拝がいかに巧妙かをご覧ください。かれらはアッラーを最高の主と認めながら、その下に**協力者を付け加えた**のです。これがクライシュ族の多神崇拝の本質でした。アッラーを否定することではなく、何かをアッラーと**並べること**です。

一方、アッラーの使徒 ﷺ のタルビヤは**純粋なタウヒードのタルビヤ**でした。イブン・ウマルが伝えるとおりです。「**ラッバイカッラーフンマ・ラッバイク、ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラカ・ラッバイク、インナル・ハムダ・ワン・ニウマタ・ラカ・ワル・ムルク、ラー・シャリーカ・ラク**」— アッラーよ、あなたの呼びかけに応えます。応えます。あなたに協力者はありません。まことに讃美と恩恵と主権はあなたのもの。あなたに協力者はありません（『サヒーフ・ブハーリー』1549）。

このタルビヤが「**あなたに協力者はありません」を二度繰り返している**ことに注目してください。それはジャーヒリーヤの多神のタルビヤへの直接の返答のようです。今日これを唱える巡礼者は一人ひとり、自分の舌で多神崇拝からの**絶縁を宣言している**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フムスとアラファでの立礼

廃止されたジャーヒリーヤのもう一つの慣習は**フムス**の特権でした。フムスとは、自分たちをほかのアラブ人より高貴だと考えたクライシュ族とその盟友の呼び名です。かれらの「特権」の一つは、アラファが聖域の外にあるため、人びととともに**アラファで立礼しない**ことで、ムズダリファで止まるだけでした。そこでアッラーは次の節を下されました（『サヒーフ・ブハーリー』1665）。

「それで、人びとの急ぎ降りるところから急ぎ降り、アッラーの御赦しを請い願いなさい。誠にアッラーは、寛容にして慈悲深くあられる。」（雌牛章 2:199） — 『イブン・カスィール注釈』2:199。

興味深いことに、**アッラーの使徒 ﷺ は、預言者となる前でさえ、このフムスの慣習に従われたことがなかった**のです。当時まだイスラームに入っていなかったジュバイル・ブン・ムトイム رضي الله عنه は、ラクダを失ってアラファの日に探しに行ったところ、**預言者 ﷺ が人びととともにアラファに立っておられる**のを見たと語っています。かれは言いました。「この人はフムスなのに、ここで何をしているのだろう？」（『サヒーフ・ブハーリー』1664）

教訓はきわめて明確です。アッラーへの礼拝には**身分や血筋の特権はない**のです。巡礼者は皆同じ場所に立ち、同じイフラームの衣を着て、同じ主に赦しを請います。クライシュの傲慢は**巡礼の平等**によって消し去られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

四か月と守られた盟約

絶縁の宣言は不意打ちではありませんでした。アッラーは多神教徒に、自由に移動し、考え、決断するための**四か月の猶予**を与えられました（悔悟章 9:2）。さらにクルアーンは、**盟約に忠実であった者**を除外しています。

「（しかし）あなたがたの盟約した多神教徒で、破約したことなく、またその後、あなたがたに敵対する者を助けなかった者は別である。（これらの者に対しては）期間が満了するまで、かれらとの盟約を果しなさい。本当にアッラーは、主を畏れる者を愛でられる。」（悔悟章 9:4） — 『イブン・カスィール注釈』9:4。

「かれらがあなたがたに対して正しくある限り、あなたがたもかれらに対して正しくありなさい。本当にアッラーは主を畏れる者を愛でられる。」（悔悟章 9:7） — 『イブン・カスィール注釈』9:7。

この二つの節が、どちらも「**本当にアッラーは主を畏れる者を愛でられる**」で結ばれていることに注目してください。忠実な多神教徒との盟約を果たすことは、**主を畏れること（タクワー）の一部**なのです。イスラームは、敵に対してさえ裏切りを認めません。

注釈学者たちは、盟約に忠実であった部族の例として**ダムラ族**や**キナーナ族**を挙げています。かれらの盟約は期限が切れるまで守られました。これが国際関係における**イスラームの公正さ**です。明確な警告、妥当な期限、そして約束への忠実さです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

文脈の中の 9:5 節

悔悟章の第 5 節は、イスラームをおとしめようとする者からも、それを悪用する者からも、しばしば文脈抜きで引用されます。アッラーは仰せられます。「**聖月が過ぎたならば、多神教徒を見付け次第殺し、またはこれを捕虜にし、拘禁し、また凡ての計略（を準備して）これを待ち伏せよ。だがかれらが悔悟して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をするならば、かれらのために道を開け。本当にアッラーは寛容にして慈悲深い方であられる。**」（悔悟章 9:5） — 『イブン・カスィール注釈』9:5。

注釈学者たちはこの節を**その特定の文脈**の中で説明しています。それは、四か月の警告期間の後、**ムスリムと戦い、盟約を破ったアラビア半島の多神教徒**に向けられたものです。あらゆる時代と場所で、ムスリムでないすべての人と戦えという一般的な命令ではありません。

節	制限と例外
9:2	四か月の警告期間
9:4	盟約に忠実な者は除外される
9:6	保護を求める者は保護されなければならない
9:7	かれらが正しくある限り、あなたがたも正しくあらねばならない
9:5（末尾）	かれらが悔い改めたら、かれらを放っておきなさい
雌牛章 2:256	宗教には強制があってはならない

ほかの節も一般原則を定めています。「**あなたがたに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であってはならない**」（雌牛章 2:190）。また、アッラーはムスリムと戦わない者に親切にし、公正に接することを禁じてはおられません（試問される女章 60:8）。ほかの節を見ずに一つの節だけを読むことは、**クルアーンを理解するうえでの誤り**です。

「かれが聞けるように保護しなさい」

9:5 節のすぐ後に、アッラーはイスラームの**本当の目的**を示す節を下されました。殺すことではなく、導きです。

「もし多神教徒の中に、あなたに保護を求める者があれば保護し、アッラーの御言葉を聞かせ、その後かれを安全な所に送れ。これはかれらが、知識のない民のためである。」（悔悟章 9:6）— 『イブン・カスィール注釈』9:6。

この節は実に驚くべきものです。多神教徒の一人が — たとえイスラームと戦う民の一人であっても — 保護を求めるならば、**保護されなければなりません**。かれには**アッラーの御言葉を聞く**機会が与えられ、その後、信じるにせよ信じないにせよ、**安全な場所へ送り届けられ**なければなりません。強制も脅しもありません。

その理由は節の終わりに述べられています。**「それはかれらが（真理を）知らない民だからである。」**イスラームは、自分に反対する多くの人を、滅ぼすべき敵ではなく**まだ真理を知らない人びと**と見ています。ムスリムの務めは真理を聞かせることであり、導きはアッラーの御手にあります。

イブン・カスィールは、学者たちがこの節から、敵方の**使者や使節**の安全は保障されなければならないという規定を導き出したと述べています。これは、近代の国際法で認められる何世紀も前の、イスラームにおける**外交特権**の基礎です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

信者たちのためのモスク

悔悟章はまた、**誰がアッラーのモスクを維持するにふさわしいのか**を明らかにしています。とりわけ、それまで多神教徒の支配下にあったマスジド・ハラームについてです。

「多神教徒たちにアッラーのマスジドを、自ら不信心を立証しているのに管理させるべきではない。これらの者の行いは虚しく、かれらは業火の中に永遠に住むであろう。」（悔悟章 9:17） — 『イブン・カスィール注釈』9:17。

「アッラーのマスジドは、ひたすらこれらの者（信者）によって管理されるべきである。（すなわち）アッラーと終末の日を信じ、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなし、アッラー以外の何ものをも恐れない者だけである。これらの者は、正しく導かれる者となるであろう。」（悔悟章 9:18） — 『イブン・カスィール注釈』9:18。

かつてクライシュ族は、**巡礼者に水を与え、マスジド・ハラームを維持している**ことを誇りにしていました。しかしその中で偶像を拝んでいたのです。アッラーは、**建物を建てて守ること**は、**信仰、礼拝、ザカート、そしてアッラーへの畏れ**がなければ価値がないことを明言されています。

この第 18 節は、今日のすべてのモスク委員会にとっての**基準**です。モスクを維持するとは、壁を塗ったりドームを建てたりすることだけではなく、**アッラーのほかは何も恐れない**人びとが、**礼拝で、知識で、そして地域への奉仕でそれを生かすこと**なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーは富ませてくださる」

宣言の中のもう一つの節は、とても人間らしい不安に触れています。「**信仰する者よ、多神教徒は本当に不浄である。だから今年の後は、かれらを聖なるモスクに近付けてはならない。もしあなたがたが貧窮を恐れるならば、アッラーは御心ならば、その恩恵によってあなたがたを富ませてくださる。**」（悔悟章 9:28） — 『イブン・カスィール注釈』9:28。

学者たちは、ここでの「不浄」とは**意味上の不浄**、すなわち多神崇拝という信仰の汚れであって、身体の不浄ではないと説明しています。マッカの経済は巡礼の季節に大きく依存していました。アラビア全土からの巡礼者が、ウカーズやズル・マジャーズなどの市場で商いをしたのです。もし多神教徒がもう来なくなったら、**商売はどうなるのか？**

アッラーは約束をもって答えられました。「**アッラーはその恩恵によってあなたがたを富ませてくださる。**」そしてその約束は果たされました。数年のうちにアラビア半島全体がイスラームに入り、巡礼者は**世界中から**来るようになりました。今日、毎年何百万もの巡礼者とウムラの人びとがマッカを訪れます。ジャーヒリーヤ時代のマッカの商人が想像したものをはるかに超えています。

教訓：アッラーへの服従が**この世では損に見える**とき、この節を思い出しましょう。利息、賄賂、不正な商売をやめることは損失のように感じられるかもしれません。しかし**糧はアッラーの御手にあり**、アッラーはより良い代わりを約束されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖月とナスィー

悔悟章はまた、巡礼に関わるジャーヒリーヤのもう一つの慣習、暦の操作を正しています。「**本当にアッラーの御許で（定められた）月の数は十二か月である。天と地を創造された日から、アッラーの書の中で（定められている）。そのうち四か月は聖月である。**」（悔悟章 9:36） — 『イブン・カスィール注釈』9:36。

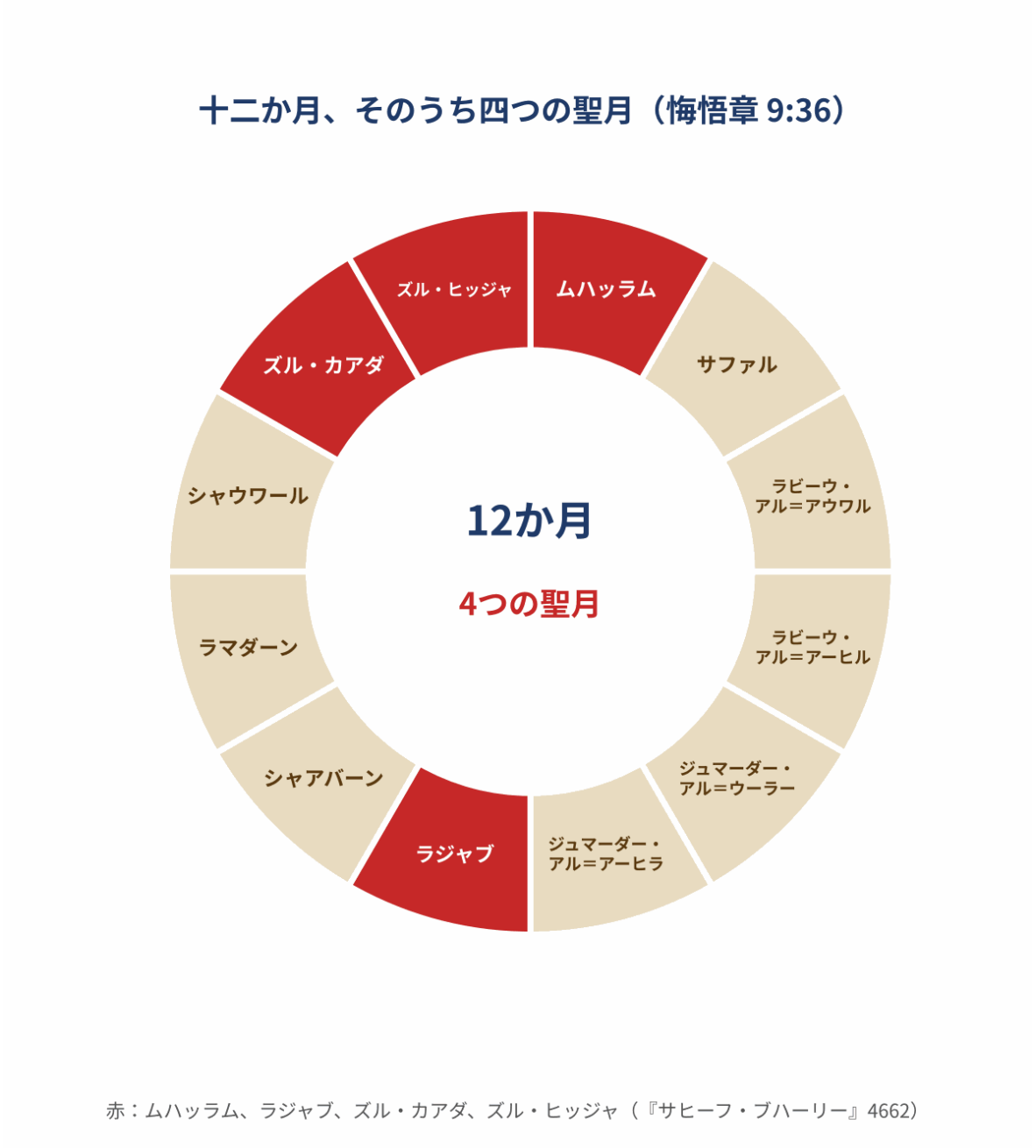


図 2：十二か月と四つの聖月。

「（聖月を）延期することは、不信心を増すことにほかならない。それによって不信心者は迷わされる。かれらはある年にそれを許し、別の年にそれを禁じる。」（悔悟章 9:37） — 『イブン・カスィール注釈』9:37。

ナスィーとは、戦いたいときに聖月を延期したり別の月に移したり、巡礼の季節が自分たちの好む季節に来るように月を加えたりした、ジャーヒリーヤの慣習です。その結果、暦は乱れ、巡礼は本来の月に行われなくなっていました。

一年後の別離の巡礼の説教で、アッラーの使徒 ﷺ は告げられました。**「まことに時は、アッラーが天と地を創造された日の状態に巡り戻った」**（『サヒーフ・ブハーリー』4662）。暦は本来の姿に戻り、使徒の巡礼はちょうど本当のズル・ヒッジャ月に行われました。このことは第 28 巻でさらに詳しく見ていきます。

イブラーヒームの道への回帰

ヒジュラ暦 9 年に起こったすべてのこと — 多神崇拝、裸のタワーフ、多神のタルビヤ、フムスの特権、暦の操作の廃止 — の目的は一つでした。**巡礼を、イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の道に戻すことです。**アッラーはカアバを建てた預言者イブラーヒームに命じられました。

「われがイブラーヒームのために、（聖なる）家の位置を定め（こう言った）時のことを思いなさい。『誰も、われと一緒に配してはならない。そしてタワーフ（回巡）する者のため、また（礼拝に）立ち〔キヤーム〕、立礼〔ルクーウ〕しサジダする者のために、われの家を清めよ。』」（巡礼章 22:26） — 『イブン・カスィール注釈』22:26。

「人びとに、巡礼〔ハッジ〕するよう呼びかけよ。かれらは歩いてあなたの許に来る。あるいは、どれも痩せこけているラクダに乗って、遠い谷間の道をはるばる来る。」（巡礼章 22:27） — 『イブン・カスィール注釈』22:27。

注目してください。イブラーヒームへの最初の命令は**「何ものをもわれに並べてはならない。わが家を清めよ」**でした。何世紀も後、かれ自身の子孫であるクライシュがその家を三百六十の偶像で満たしました。マッカ征服はその家を偶像から清め、**絶縁の宣言はその周りの礼拝を清めた**のです。

マッカのための預言者イブラーヒームの祈りも、この年に完全に聞き届けられました。**「イブラーヒームが（こう祈って）言った時を思え。『主よ、この町を安泰にして下さい。またわたしと子孫を偶像崇拝から遠ざけて下さい。』」**（イブラーヒーム章 14:35） — 『イブン・カスィール注釈』14:35。

「それで人びとの心がかれらに寄り向くようにしてください。」（イブラーヒーム章 14:37） — 『イブン・カスィール注釈』14:37。

「人びとの心がかれらに寄り向くように」 — この祈りは今日まで聞き届けられ続けています。世界中の何百万もの人びとの心が、マッカへ行き、巡礼とウムラを行う

ことを**慕い求めて**います。そしてイスマーイールを通じたイブラーヒームの子孫であるアッラーの使徒 ﷺ は、イブラーヒームのもう一つの祈りへの答えです。「主よ、かれらの中から一人の使徒を遣わしてください」（雌牛章 2:129）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜバスマラがないのか？

悔悟章は、クルアーンの中で「ビスミッラーヒッ・ラフマーニッ・ラヒーム」で始まらない**唯一の章**です。なぜでしょうか。学者たちはいくつかの見解を示しています。

スィーラの注：バスマラがないことについての諸見解

第一の見解： イブン・アッバースはウスマーンに、なぜ戦利品章と絶縁の章が間にバスマラなしで並べられたのかと尋ねました。ウスマーンは、二つの章の内容がよく似ており、アッラーの使徒 ﷺ は絶縁の章が戦利品章の一部であるかどうかを説明されないまま亡くなったので、バスマラなしで並べたと答えました（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3086；『スナン・アビー・ダーウード』786）。**この伝承の伝承経路は弱い**と、アル＝アルバーニーなど一部の学者によって評価されています。

第二の見解： アリーから、バスマラは**安全の保証**（アマーン）であるが、絶縁の章は盟約の破棄と戦いをもって下ったので、バスマラで始まらないと伝えられています（アル＝ハーキム）。**この伝承も、伝承経路について議論があります。**

第三の見解（多数派）： 教友たちが写本の冒頭にバスマラを書かなかったのは、**ジブリールがこの章とともにそれをもたらさなかった**からです。それは**タウキーフ**（啓示による定め）に従ったもので、アル＝クルトゥビーなど多くの学者がとる見解です。

参照：
アル＝クルトゥビー『クルアーンの諸規定の集成』悔悟章の冒頭；イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』。

学者たちはまた、悔悟章の冒頭の**読み方の規定**も説明しています。章の初めから読むときは**バスマラは唱えない**が、イスティアーザ（アウーズ・ビッラー）で始めることはできます。章の途中から読み始めるときは、バスマラを唱えることを認める学者もいます。

見解がどうであれ、一つのことは明らかです。クルアーンの配列は — バスマラの有無を含めて — 教友たちによって一節も加えたり減らしたりすることなく、**細心の注**

意をもって守られてきたのです。これはアッラーがその書を**守っておられる**ことの証しです（アル・ヒジュル章 15:9）。

悔悟章の呼び名

この章にはいくつかの呼び名があり、それぞれがその内容の一面を表しています。サイード・ブン・ジュバイルは言いました。わたしはイブン・アッバースに悔悟章について尋ねました。かれは答えました。「**悔悟章だと？それはアル＝ファーディハ（暴くもの）だ。『かれらの中には……』『かれらの中には……』と下り続けたので、かれら（偽信者）は、自分たちの中で言及されない者は一人もいないだろうと思ったほどだ**」（『サヒーフ・ブハーリー』4882）。

名前	名の由来
アッ＝タウバ（悔悟）	預言者、ムハージルーン、アンサール、そして三人の教友の悔悟を述べている（9:117〜118）
バラーア（絶縁）	盟約の破棄で始まる（9:1）
アル＝ファーディハ（暴くもの）	偽信者の秘密を暴く
アル＝ムカシュキシャ（清めるもの）	（信者を）偽善から清める — 一部の注釈学者が挙げる

興味深いことに、偽信者と多神教徒に最も厳しいこの章は「**アッ＝タウバ（悔悟）**」とも呼ばれています。それはアッラーの厳しさの陰に、**慈悲と悔悟の扉がいつも開かれている**ことを思い出させます。絶縁を宣言する第 3 節そのものが、「それであなたがたが悔い改めるならば、それはあなたがたのために最も善い」と言っているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルの巡礼 — 別離の巡礼への備え

ヒジュラ暦 9 年のアブー・バクルの巡礼は、翌年の別離の巡礼のための**準備**と見ることができます。一度の巡礼の季節で、いくつもの大きな事柄が解決されました。

ヒジュラ暦 9 年より前	宣言の後
多神教徒が巡礼をする	多神教徒は巡礼をしない
裸のタワーフ	恥部を覆う義務
多神のタルビヤ	タウヒードのタルビヤ
破られた古い盟約	盟約は公正に終了
操作された暦（ナスィー）	暦は本来の姿に戻る

その結果、アッラーの使徒ﷺがヒジュラ暦 10 年に巡礼されたとき、清らかで一つにまとまった雰囲気の中で、十万人を超える人びとに**巡礼の儀礼を完全に教える**ことができました。そのとき使徒は言われました。**「あなたがたの巡礼の儀礼をわたしから学びなさい」**（『サヒーフ・ムスリム』1297）。

大きな事柄を運営するための教訓：**段階を踏んで準備すること**。アブー・バクルは道を清める「先遣隊」となり、主な行事が滞りなく進むようにしたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルの地位

アブー・バクルを巡礼の長に任命されたことは、いくつかの**示唆**の一つです。アッラーの使徒 ﷺ は、アブー・バクルの地位についてこうした示唆を示されました。ほかの示唆も使徒の生涯の最後の数か月に続きます。アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه によれば、使徒はある説教でこう言われました。「**もしわたしが主のほかに親友（ハリール）を選ぶとすれば、アブー・バクルを選んだであろう**」。そして使徒は、モスクへのすべての扉を**アブー・バクルの扉を除いて**閉じるよう命じられました（『サヒーフ・ブハーリー』3654）。

また亡くなる前の病のとき、使徒は言われました。「**アブー・バクルに人びとの礼拝を導かせなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』664）。後に教友たちは言いました。「アッラーの使徒 ﷺ は、わたしたちの宗教の事柄（礼拝）にアブー・バクルを選ばれた。それならば、わたしたちの世の事柄にかれを選ばないことがあろうか？」

巡礼の指導、礼拝の指導、そして開けておかれた扉 — これらすべては、**アブー・バクルが備えられていた**ことを示しています。それは、アッラーの使徒 ﷺ の後に大きな責務を担うためであり、使徒がそれをはっきりと口にされる必要はありませんでした。この示唆を理解した教友たちは、かれを最初のカリフに選んだのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザカートの徴収人と贈り物

巡礼のほかに、ヒジュラ暦 9 年には**ザカートの管理**もより整えられました。スィーラの学者たちによれば、その年の初めに、アッラーの使徒 ﷺ はイスラームに入った諸部族のもとへザカートの徴収人を送られました。ある出来事について、アブー・フマイド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه は、使徒がアズド族の**イブン・アル＝ルトビーヤ**という男をザカートの徴収に任命されたと伝えています。かれは戻ってくると言いました。「**これはあなたがたの分で、これはわたしに贈られたものです。**」（『サヒーフ・ブハーリー』7174）

アッラーの使徒 ﷺ は説教壇に立ち、アッラーを讃えてから言われました。「**わたしたちが遣わした徴収人が来て、『これはあなたがたの分で、これはわたしの分です』と言うとはどういうことか。その者は父の家か母の家に座っていて、贈り物をもらえるかどうか見ていればよいではないか。**」それから使徒は脇の下の白さが見えるほど両手を上げ、「**アッラーよ、わたしは伝えたではありませんか**」と三度言われました。

このハディースは、イスラームにおける**役人への贈り物**の規定の基礎です。**その職のゆえに**人に贈られる贈り物は国家のものであって、その人のものではありません。試し方は簡単です。「家に座っているだけでも、この贈り物をもらえただろうか？」これは千四百年以上前に定められた**汚職防止の指針**なのです。

それはまた、イスラームが広がり財が流れ込み始めたとき、アッラーの使徒 ﷺ が**信託が損なわれるのを放置されなかった**ことを示しています。使徒はすべての役人が聞けるよう、説教壇の上から公に戒められました。公正な指導には**透明性と説明責任**が必要なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドッラー・ブン・ウバイイの死

同じ年、巡礼の季節の前に、九年近くにわたってムスリムを苦しめてきた人物が死にました。偽信者の頭目**アブドッラー・ブン・ウバイイ・ブン・サルール**です。ウフドで軍の三分の一を引き揚げさせ（第 10 巻）、「尊い者が卑しい者を追い出すだろう」と言い（第 14 巻）、イフク事件で中傷を広めた（第 14 巻）のはかれでした。かれが死んだとき、アッラーの使徒 ﷺ はどのような態度をとられたのでしょうか。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1366 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عُبَيْدِ اللَّهِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، عَنْ عُمَرَ بْنِ الخَطَّابِ ـ رضى الله عنهم ـ أَنَّهُ قَالَ لَمَّا مَاتَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ ابْنُ سَلُولَ دُعِيَ لَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لِيُصَلِّيَ عَلَيْهِ، فَلَمَّا قَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَثَبْتُ إِلَيْهِ فَقُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَتُصَلِّي عَلَى ابْنِ أُبَيٍّ وَقَدْ قَالَ يَوْمَ كَذَا وَكَذَا وَكَذَا ـ أُعَدِّدُ عَلَيْهِ قَوْلَهُ ـ فَتَبَسَّمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَقَالَ أَخِّرْ عَنِّي يَا عُمَرُ. فَلَمَّا أَكْثَرْتُ عَلَيْهِ قَالَ إِنِّي خُيِّرْتُ فَاخْتَرْتُ، لَوْ أَعْلَمُ أَنِّي إِنْ زِدْتُ عَلَى السَّبْعِينَ فَغُفِرَ لَهُ لَزِدْتُ عَلَيْهَا. قَالَ فَصَلَّى عَلَيْهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ انْصَرَفَ، فَلَمْ يَمْكُثْ إِلاَّ يَسِيرًا حَتَّى نَزَلَتِ الآيَتَانِ مِنْ {بَرَاءَةٌ} {وَلاَ تُصَلِّ عَلَى أَحَدٍ مِنْهُمْ مَاتَ أَبَدًا} إِلَى {وَهُمْ فَاسِقُونَ} قَالَ فَعَجِبْتُ بَعْدُ مِنْ جُرْأَتِي عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ، وَاللَّهُ وَرَسُولُهُ أَعْلَمُ.

訳：

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は言った。**アブドッラー・ブン・ウバイイ・ブン・サルール**が死ぬと、アッラーの使徒 ﷺ はかれのために葬儀の礼拝をするよう招かれた。アッラーの使徒 ﷺ が（礼拝のために）立たれると、わたしは急いで近寄って言った。「アッラーの使徒よ、イブン・ウバイイのために礼拝をされるのですか。かれはあの日、これこれのことを言ったのに。」 — わたしはかれのことばを一つひとつ挙げた。アッラーの使徒 ﷺ は**微笑まれ**、言われた。「**下がりなさい、ウマルよ。**」わ

たしがなおも言い募ると、使徒は言われた。「**わたしは選択を与えられ、そして選んだのだ。もし七十回を超えて（赦しを）請えばかれが赦されると知っていたなら、わたしはそれを超えたであろう。**」そしてアッラーの使徒 ﷺ はかれのために礼拝をされ、立ち去られた。ほどなくして絶縁の章の二つの節が下った。｛**かれらの中、死んだ者のためには、決して礼拝してはならない**……｝から｛……**かれらは主に背いたまま死んだのである**｝まで。ウマルは言った。後になって、わたしはあの日アッラーの使徒 ﷺ に対してあれほど大胆であった自分に驚いた。アッラーとその使徒こそが最もよく知っておられる。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウバイドッラー・ブン・アブドッラー・ブン・ウトバ ← アブドッラー・ブン・アッバース ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、偽信者のために礼拝することが好まれないことの章、ハディース第 1366 番。第 1269 番、第 4670〜4672 番、ムスリム第 2400 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1366

このハディースの教訓

このハディースは、**アッラーの使徒 ﷺ の並外れた慈悲**を示しています。イブン・ウバイイは使徒とその家族をあれほどひどく傷つけたのに、使徒はなおかれのために礼拝をしようとされ、七十回を超えて赦しを請うことがかれを救うなら、そうしたとさえ言われました。一方ウマルは、宗教への熱意から厳しい態度をとりました。そして後に啓示はウマルの意見に同意したのです。

その後のウマルの態度にも注目してください。「**後になって、わたしはあの日アッラーの使徒 ﷺ に対してあれほど大胆であった自分に驚いた。**」啓示がかれの意見を

支持したのに、かれは誇らず、むしろアッラーの使徒 ﷺ に言い募ったやり方を悔やんだのです。これこそ**高い礼儀**です。

肌着を与えられたアッラーの使徒 ﷺ

イブン・ウバイイの息子も**アブドッラー**という名で、父とはまったく異なる**誠実な教友**でした。かれはアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て、父を包むために使徒の肌着を求め、使徒はそれを与えられました（『サヒーフ・ブハーリー』1269）。またジャービル رضى الله عنه によれば、イブン・ウバイイが墓穴に入れられた後にアッラーの使徒 ﷺ が来られ、かれを外に出すよう命じ、ご自身の両膝の上に置き、少し唾を吹きかけ、ご自身の肌着を着せられました（『サヒーフ・ブハーリー』1350）。

なぜ使徒は肌着を与えられたのでしょうか。ジャービルは一つの理由を挙げています。バドルの日、**アル＝アッバース** — アッラーの使徒 ﷺ の父方のおじ — が、衣服のないまま捕虜として連れて来られました。教友たちはかれの背の高い体に合う肌着を探しましたが、合ったのは**アブドッラー・ブン・ウバイイの肌着**だけでした。アッラーの使徒 ﷺ はそれをアル＝アッバースに着せられました（『サヒーフ・ブハーリー』3008）。スフヤーン・ブン・ウヤイナは言いました。使徒はイブン・ウバイイのその**恩に報いよう**とされたのだ、と。

アッラーの使徒 ﷺ の人柄をご覧ください。使徒は、たとえ内なる敵からのものであっても、八年が過ぎていても、**小さな善意ひとつ忘れられなかった**のです。また、父の罪に責任のない**敬虔な息子を尊ばれ**ました。慈しみと恩への誠実さは、預言者の人柄の一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信者のための礼拝の禁止

アッラーの使徒 ﷺ は、**選択**を与える節に基づいてイブン・ウバイイのために礼拝をされました。

「あなたがかれらのために御赦しを請おうとも、また請わなくても（かれらの罪は免れられない）。あなたが仮令 70 回、かれらのために御赦しを請うても、アッラーはかれらを赦されないであろう。これはかれらがアッラーとその使徒を信じないためである。アッラーは掟に背く者を御導きになられない。」（悔悟章 9:80） — 『イブン・カスィール注釈』9:80。

使徒はこの節を**選択**（「赦しを請うても請わなくても」）と理解され、その慈悲から赦しを請うことを選ばれました。しかしその後、**はっきりと禁じる**節が下りました。

「かれらの中の誰かが死んでも、あなたは決してかれのために、（葬儀の）礼拝を捧げてはならない。またその墓の側に立ってはならない。本当にかれらは、アッラーとその使徒を信じないまま主の掟に背く者として死んだのである。」（悔悟章 9:84） — 『イブン・カスィール注釈』9:84。

この節が下った後、アッラーの使徒 ﷺ は、偽善が知られている偽信者の誰のためにも**二度と礼拝されません**でした。学者たちは、この禁止は**不信仰が明らかな**者に限られると説明しています。一方ムスリムは、たとえ大罪を犯した者であっても、葬儀の礼拝が行われ、その赦しが祈られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信者の時代の終わり

アブドッラー・ブン・ウバイイの死は**一つの時代の終わり**を告げるものでした。九年近くにわたり、マディーナの偽信者には、アッラーの使徒 ﷺ が来られる前にマディーナの王に立てられかけた影響力ある指導者がいました。かれの死とともに、偽信者の**政治的な力**は崩れたのです。

スィーラの注：イブン・ウバイイと幻の王冠

スィーラの学者たちによれば、ヒジュラの前、アウス族とハズラジュ族は**アブドッラー・ブン・ウバイイをマディーナの王に立てる**ことでほぼ合意し、かれのために王冠を用意していました。アッラーの使徒 ﷺ が到着し、マディーナの人びとが続々とイスラームに入ると、その夢は消えました。多くの学者は、この**恨み**がかれの偽善の主な原因だと見ています。ウサーマ・ブン・ザイド رضي الله عنهما はこの話の一部を『サヒーフ・ブハーリー』（第 4566 番）で伝えており、王冠の細部は**スィーラ書**からのものです。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言の章；イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ』。

偽善が完全に消えたわけではありません。フザイファ・ブン・アル＝ヤマーンはなおかれらの一部の名を秘めていました（第 24 巻）。しかしヒジュラ暦 9 年の後、偽信者にはもはやムスリムを公然と**分裂させる**力はありませんでした。悔悟章がかれらを暴き、害意のモスクは取り壊され、かれらの指導者はもういなかったのです。

教訓：**恨みと妬み**は、人が明らかな真理を受け入れるのを妨げることがあります。イブン・ウバイイは毎日イスラームの真理を目にしていましたが、夢見ていた**権力を失ったこと**がかれの心を閉ざしました。他人への失望が心の病に変わることがないよう、気をつけましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アン＝ナジャーシーの死

ヒジュラ暦 9 年には、イスラームの歴史でとても特別な王の死もありました。アビシニア（ハバシャ）の王**アン＝ナジャーシー・アスハマ**です。マッカで迫害されていたムスリムがアビシニアへ移住したとき、かれらを保護し、アッラーの使徒 ﷺ の手紙を受け取ったのはかれでした（第 17 巻）。

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は**アン＝ナジャーシーが亡くなったその日にその死を告げ**、礼拝の場に出て教友たちの列を整え、四回タクビールを唱えられました（『サヒーフ・ブハーリー』1245）。またジャービル رضى الله عنه によれば、使徒は言われました。「**今日、一人の正しい人が亡くなった。立って、あなたがたの兄弟アスハマのために礼拝しなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。

この出来事には驚くべきことが二つあります。第一は**奇跡**です。アビシニアは海の向こう何千キロも離れていたのに、アッラーの使徒 ﷺ はアン＝ナジャーシーの死をその日のうちに知っておられました。第二は**不在者のための葬儀の礼拝**です。使徒は、遺体が目の前にない人のために礼拝されました。学者たちはこのハディースから不在者のための礼拝の規定を導き出しています。

同じ年の二つの死を比べてみてください。**アブドッラー・ブン・ウバイイ**は、マディーナでアッラーの使徒 ﷺ のすぐ隣に住んでいたのに偽善のうちに死にました。一方**アン＝ナジャーシー**は、アッラーの使徒 ﷺ に一度も会ったことがないのに、「**正しい人**」として、ムスリムの「兄弟」として亡くなりました。体の近さは信仰を保証しません。決めるのは**心**なのです。

ウンム・クルスームの死

同じ年、アッラーの使徒 ﷺ はもう一つの個人的な悲しみに見舞われました。娘の**ウンム・クルスーム** رضى الله عنها の死です。ウンム・クルスームは**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه の妻でした。その前にウスマーンは彼女の姉**ルカイヤ**と結婚しており、ルカイヤはバドルの戦いのときに亡くなりました（第 9 巻）。アッラーの使徒 ﷺ の二人の娘と結婚したことから、ウスマーンは**ズン・ヌーライン** — 二つの光の持ち主 — と呼ばれました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1285 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا أَبُو عَامِرٍ، حَدَّثَنَا فُلَيْحُ بْنُ سُلَيْمَانَ، عَنْ هِلاَلِ بْنِ عَلِيٍّ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ شَهِدْنَا بِنْتًا لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَالِسٌ عَلَى الْقَبْرِ ـ قَالَ فَرَأَيْتُ عَيْنَيْهِ تَدْمَعَانِ قَالَ ـ فَقَالَ هَلْ مِنْكُمْ رَجُلٌ لَمْ يُقَارِفِ اللَّيْلَةَ. فَقَالَ أَبُو طَلْحَةَ أَنَا. قَالَ فَانْزِلْ. قَالَ فَنَزَلَ فِي قَبْرِهَا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。わたしたちは**アッラーの使徒** ﷺ の娘の一人（の埋葬）に立ち会った。アッラーの使徒 ﷺ は墓のそばに座っておられた。わたしは**使徒の両目から涙が流れている**のを見た。使徒は尋ねられた。「**あなたがたの中に、昨夜（妻と）交わらなかった男はいるか？**」アブー・タルハが「わたしです」と答えると、使徒は言われた。「**下りなさい。**」そこでかれは彼女の墓の中に下りた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ムハンマド・アル＝ムスナディー ← アブー・アーミル・アル＝アカディー ← フライフ・ブン・スライマーン ← ヒラール・ブン・アリー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、ハディース第 1285 番。第 1342 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1285

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このハディースの教訓

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、このハディースで言及される娘は**ウンム・クルスーム**であると説明しています。ルカイヤはアッラーの使徒 ﷺ がバドルにおられる間に亡くなったからです。アッラーの使徒 ﷺ が**涙を流しながら墓のそばに座っておられる**姿は、父としての使徒の愛情がいかに深かったかを示しています。

アッラーの使徒 ﷺ には四人の娘が授けられました。ザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、そしてファーティマです。そのうち三人は**使徒の存命中に亡くなりました**。使徒の後まで生きたのはファーティマだけで、それもわずか数か月でした。最も尊い使徒である預言者でさえ**子どもを失うという試練**を受けられたのです — 子を亡くしたすべての親が、自分は一人ではないと知るために。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

涙を流されたアッラーの使徒 ﷺ

ウンム・クルスームの墓でのアッラーの使徒 ﷺ の涙は、ただ一度のものではありません。アナス رضى الله عنه は、ヒジュラ暦 10 年に乳児のまま亡くなった使徒の息子**イブラーヒーム**の最期の時を語っています。アッラーの使徒 ﷺ はかれを抱き上げ、口づけし、その匂いをかがれ、使徒の目から涙が流れました。アブドッラフマーン・ブン・アウフが「あなたも（泣かれるのですか）、アッラーの使徒よ？」と尋ねると、使徒は言われました。「**イブン・アウフよ、これは慈しみなのだ。**」それから言われました。「**目は涙を流し、心は悲しむ。しかしわたしたちは、主がお喜びになることしか口にしない。イブラーヒームよ、わたしたちはあなたとの別れをとても悲しんでいる**」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

このハディースは**イスラームにおける悲しみ方の作法**を教えています。泣くことは忍耐と矛盾しません。それはアッラーが心に置かれた**慈しみ**なのです。禁じられているのは、泣き叫ぶこと、衣服を引き裂くこと、アッラーの定めに満足していないことを示すことばを口にすることです。

ヒジュラ暦 9 年は、勝利と悲しみが入り混じった年でした。タブークでの勝利、群れをなして訪れた使節団、清められた巡礼 — しかし娘を失った年でもありました。アッラーの使徒 ﷺ はそのどちらにも**感謝と忍耐**をもって向き合われました。これが信仰者の人生の均衡です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

絶縁の宣言の内容

ヒジュラ暦 9 年の犠牲祭の日にミナーで行われた宣言は、次のようにまとめることができます。

項目	内容と典拠
盟約の破棄	約束を破った多神教徒との盟約は終了する（9:1）
警告期間	自由に移動できる四か月（9:2）
忠実な盟約	期限が切れるまで守られる（9:4）
悔悟の扉	「悔い改めるならば、それは最も善い」（9:3）
守り	保護を求める者は保護される（9:6）
巡礼	今年の後、多神教徒は巡礼をしない（ブハーリー 4655）
タワーフ	裸のタワーフはしない（ブハーリー 4655）
マスジド・ハラーム	今年の後、多神教徒は近付かない（9:28）

この表は、絶縁の宣言が**一つの完全な方針**であることを示しています。裏切り者には厳しく、忠実な者には公正で、悔悟の扉を開き、真理を求める者を保護し、礼拝を清める。それは単なる宣戦布告ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語の典拠

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言の物語は、次の典拠で伝えられています。

出来事	典拠と等級
巡礼の長アブー・バクル	『サヒーフ・ブハーリー』1622 — サヒーフ
ミナーでの宣言；アリーが後を追う	『サヒーフ・ブハーリー』4655、369 — サヒーフ
大巡礼の日	『サヒーフ・ブハーリー』3177 — サヒーフ
最後に下った章	『サヒーフ・ブハーリー』4654 — サヒーフ
裸のタワーフ	『サヒーフ・ムスリム』3028 — サヒーフ
「わたしの家族の一人の男」	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091 — ハサン・ガリーブ
「長として、それとも使者として？」	イブン・イスハーク — スィーラ
バスマラがないこと	ティルミズィー 3086 — 弱い；学者の見解
アル＝ファーディハ	『サヒーフ・ブハーリー』4882 — サヒーフ
イブン・ウバイイの死	『サヒーフ・ブハーリー』1366、1269、1350 — サヒーフ
ウンム・クルスームの死	『サヒーフ・ブハーリー』1285 — サヒーフ
タルビヤとフムス	『サヒーフ・ムスリム』1185；『サヒーフ・ブハーリー』1549、1664、1665 — サヒーフ
イブン・アル＝ルトビーヤ	『サヒーフ・ブハーリー』7174 — サヒーフ
アン＝ナジャーシーの死	『サヒーフ・ブハーリー』1245、3877 — サヒーフ

この巻の主な出来事は**真正なハディース**と**クルアーンの節**に裏付けられています。一方、アブー・バクルの一行の人数やアリーとの会話などの細部はスィーラ書からのものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

悔悟章の内容の地図

アブー・バクルの巡礼の物語は悔悟章の冒頭を中心にしています。しかしこの章は 129 節と長く、その大部分はタブークの遠征のころとその後に下りました。絶縁の節がどこに位置するかを理解するために、下の表は章全体の内容をテーマごとに整理し、本シリーズのどこで扱っているかを示しています。

節	テーマ	扱っている巻
9:1〜16	絶縁の宣言；四か月；守られた盟約；聞きたい者の保護	第 27 巻（第 4〜14 章）
9:17〜24	信者たちのためのモスク；家族や財産よりもアッラーを愛すること	第 27 巻（第 15 章）
9:25〜27	フナインの日：アッラーの助けがなければ数の多さは役に立たない	第 22 巻
9:28	多神教徒はもうマスジド・ハラームに近付かない；「アッラーは富ませてくださる」	第 27 巻（第 16、35 章）
9:29〜35	啓典の民、ジズヤ、金銀を蓄えることへの警告	第 24 巻
9:36〜37	十二か月；四つの聖月；ナスィーの禁止	第 27 巻（第 17 章）
9:38〜72	タブークへの呼びかけ；偽信者の言い訳；偽信者と信者の特徴	第 24 巻
9:73〜99	偽信者とベドウィン；偽信者のための礼拝の禁止（9:84）	第 24 巻、第 25 巻；第 27 巻（第 26 章）
9:100〜106	先駆者たち（アッ＝サービクーン・アル＝アウワルーン）；罪を認める者たち	第 25 巻
9:107–110	害をなすモスク（マスジド・ディラール）	第 25 巻
9:111〜116	アッラーとの売買；多神教徒のために赦しを請うことの禁止（9:113）	本章
9:117〜119	取り残された三人の教友の悔悟	第 25 巻

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	テーマ	扱っている巻
9:120〜127	アッラーの道での一歩ごとの報奨；宗教を深く学ぶこと（9:122）	本章
9:128〜129	アッラーの使徒 ﷺ の姿：あなたがたの苦しみはかれにとってつらく、信者たちを深く慈しまれる	本章

『サヒーフ・ブハーリー』の二つの話が、この章の終わりの部分に関わっています。第一に、9:113 節 — 「預言者と信仰する者たちは、多神教徒のために赦しを請うべきではない」— は、アッラーの使徒 ﷺ の父方のおじアブー・ターリブの臨終の話と結びついています（『サヒーフ・ブハーリー』4675）。第二に、この章の最後の二節 9:128〜129 は、アブー・バクルの時代にクルアーンを集めていたザイド・ブン・サービト رضي الله عنه が、アブー・フザイマ・アル＝アンサーリーのもとで見つけたものです（『サヒーフ・ブハーリー』4679）。

9:122 節は、この章の聖戦の精神全体に均衡を与えています。「信者たちは、一斉に出征すべきではない。各集団から一部の者が出て行き、（残った者は）宗教を深く学ぶべきである」— 『イブン・カスィール注釈』9:122。この厳しい章も、知識の価値を強調しているのです。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』4675；『サヒーフ・ブハーリー』4679；悔悟章（Quran.com）。

教訓

悔悟章は盟約の破棄で始まり、信者たちへのアッラーの使徒 ﷺ の慈しみで終わります（9:128）。裏切りへの厳しさは、立ち返ろうとする者への慈悲と並んで歩んでいます。一部分だけを読んで、ほかを忘れてはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 9 年の巡礼の人物

この物語には多くの人物が関わっています。導いた者、呼びかけた者、伝えた者、そして同じ年に亡くなった者です。この表はかれらを部族と典拠とともにまとめたものです。

人物	部族／関係	物語での役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	クライシュ族タイム家	ヒジュラ暦 9 年の巡礼団の長	『サヒーフ・ブハーリー』1622、4655
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族ハーシム家；アッラーの使徒のいとこであり娘婿 ﷺ	ミナーで絶縁の宣言を読み上げた	『サヒーフ・ブハーリー』4655；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091
アブー・フライラ	ダウス族（アズド）	ミナーの呼び手の一人；物語の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』369、3177、4655
フマイド・ブン・アブドッラフマーン	クライシュ族ズフラ家；アブドッラフマーン・ブン・アウフの息子	タービイー；アブー・フライラから伝える	『サヒーフ・ブハーリー』4655
アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ	アンサール、アウス族（ハーリサ家）	絶縁の章が最後に下った章であると伝えた	『サヒーフ・ブハーリー』4654
イブン・アッバース	クライシュ族ハーシム家；いとこ — アッラーの使徒 ﷺ	裸のタワーフと多神のタルビヤの話を伝えた	『サヒーフ・ムスリム』3028、1185
ジュバイル・ブン・ムトイム	クライシュ族ナウファル家	預言者となる前の預言者 ﷺ がアラファで立礼されるのを見た	『サヒーフ・ブハーリー』1664

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	物語での役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ウバイ	アンサール、ハズラジュ族（アウフ・ブン・アル＝ハズラジュ家）	偽信者の頭目；ヒジュラ暦 9 年に死去	『サヒーフ・ブハーリー』 1366、1269
アブドッラー・ブン・アブドッラー・ブン・ウバイイ	ハズラジュ族；イブン・ウバイイの息子	誠実な教友；肌着を求めた — 預言者 ﷺ	『サヒーフ・ブハーリー』 1269
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	クライシュ族、アディー家	預言者 ﷺ がイブン・ウバイイのために礼拝しようとされたとき異を唱えた	『サヒーフ・ブハーリー』 1366
ナジャーシー（アスハマ）	アビシニアの王	死去；不在者のための葬儀の礼拝が行われた	『サヒーフ・ブハーリー』 1245、3877
ムハンマドの娘ウンム・クルスーム	アッラーの使徒 ﷺ の娘；ウスマーンの妻	ヒジュラ暦 9 年に死去	『サヒーフ・ブハーリー』 1285
ウスマーン・ブン・アッファーン	クライシュ族ウマイヤ家	ルカイヤ、次いでウンム・クルスームの夫；ズン・ヌーラインと呼ばれる	スィーラ書
イブン・アル＝ルトビーヤ	アズド族	贈り物のことで戒められたザカートの徴収人	『サヒーフ・ブハーリー』 7174

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースの注：「わたしに代わって果たすのは、わたし自身かアリーだけである」

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091 のアナスの伝承（第 5 章）のほかに、アッ＝ティルミズィーはフブシー・ブン・ジュナーダからも、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。「アリーはわたしの一部であり、わたしはアリーの一部である。わたしに代わって（事を）果たすのは、わたし自身かアリーだけである」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3719）。

アッ＝ティルミズィーはこれをハサン・サヒーフ・ガリーブと評価し、アル＝アルバーニーはほかの伝承の裏付けによりハサンと評価しています。その伝承経路には記憶力の弱いシャリーク・アル＝カーディーと、タドリース（伝承者の省略）で知られるアブー・イスハークが含まれているため、その強さは裏付けとなる伝承にかかっています。学者たちはこれを絶縁の宣言の出来事と結びつけています。盟約の破棄は指導者自身か、その最も近い親族によって伝えられるのです。

参照：『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3719；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ（教友の識別）』。

教訓

同じ一年のうちに、わたしたちは信頼できる指導者、熱心な呼び手、注意深い伝承者、そして愛する人びとの旅立ちを見ます。スィーラは一人の人物の物語ではなく、一人ひとりが役割を持つ共同体の物語なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言から得られる規定

ヒジュラ暦 9 年の巡礼の出来事と絶縁の節は、巡礼の礼拝においても、ムスリムでない人びととの関係においても、多くの規定の源となっています。この表はそれらを、扱っている章とともにまとめたものです。

規定	根拠	章
タワーフ中に恥部を覆うこと；裸のタワーフは廃止された	『サヒーフ・ブハーリー』369；『サヒーフ・ムスリム』3028；高壁章 7:31	6、9
タワーフは礼拝のようなものだが、良いことを話すことは許される	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』960	本章
盟約の破棄は不意打ちではなく、はっきりと告げられなければならない	悔悟章 9:1〜3；戦利品章 8:58；『サヒーフ・ブハーリー』3177	4、6、12
忠実な相手との盟約は期限が切れるまで守られなければならない	悔悟章 9:4、9:7	12
盟約を結んだムスリムでない人（ムアーハド）を殺すことは禁じられる	『サヒーフ・ブハーリー』3166	本章
イスラームを聞くために保護を求める者は保護されなければならない	悔悟章 9:6	14
大巡礼の日は犠牲祭の日（ズル・ヒッジャ月 10 日）である	『サヒーフ・ブハーリー』3177	7
タウヒードのことばでタルビヤを唱える	『サヒーフ・ブハーリー』1549；『サヒーフ・ムスリム』1185	10
巡礼者は皆アラファで立礼する；血筋の特権はない	雌牛章 2:199；『サヒーフ・ブハーリー』1664、1665	11
巡礼団の長（アミール・アル＝ハッジ）を任命する	『サヒーフ・ブハーリー』1622	3
偽善が明らかな者のための葬儀の礼拝は行わない	悔悟章 9:84；『サヒーフ・ブハーリー』1366	26

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

規定	根拠	章
不在者のための葬儀の礼拝	『サヒーフ・ブハーリー』1245	28

アブドッラー・ブン・アムル رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ は言われました。「盟約を結んだ人（ムアーハド）を殺す者は、楽園の香りをかぐことはない。その香りは四十年の旅の距離からでもかげるというのに」（『サヒーフ・ブハーリー』3166）。このハディースは、絶縁の宣言の厳しさが盟約を裏切った者に対してだけのもので、ムスリムでないすべての人に対するものではないことを明らかにしています。

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ は言われました。「アッラーの家の周りのタワーフは礼拝のようなものである。ただし、あなたがたはその間に話すことが許されている。だから話す者は、良いことのほかは話してはならない」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』960）。アル＝アルバーニーはこれをサヒーフと評価していますが、一部のハディース学者はイブン・アッバース自身のことば（マウクーフ）であるとする見方を支持しています。学者たちはここから、タワーフ中の清浄と恥部を覆うことの規定を導き出しています。

フィクフの注：ムスリムでない人とマスジド・ハラーム（悔悟章 9:28）

学者たちは、「かれらを聖なるモスクに近付けてはならない」の意味について見解が分かれています。シャーフィイー派とハンバリー派によれば、ムスリムでない人はマッカの聖域に入ることを許されません。ハナフィー派によれば、かれらは巡礼とウムラを禁じられますが、何らかの必要があれば許可を得て入ることができます。マーリク派によれば、その禁止は必要がない限りすべてのモスクに及びます。

学者たちはまた、タワーフ中に恥部を覆うことについても見解が分かれています。多数派はそれをタワーフが有効であるための条件としますが、ハナフィー派はそれを、怠った場合は犠牲（ダム）で補われる義務と見なしています。この要約はアル＝クルトゥビーとイブン・カスィールの注釈書によるものです。実践上の判断については、それぞれの学派のフィクフの書を参照してください。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』3166；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』960；『サヒーフ・ブハーリー』369；アル＝クルトゥビー『クルアーンの諸規定の集成』悔悟章 9:28。

教訓

これらの規定は、イスラームの公正さの二つの面を示しています。礼拝においては、すべての人がアッラーの前で平等です。他者との関係においては、約束は守られなければならず、保障された命は守られなければなりません。裏切り者への厳しさが、忠実な者への不正を正当化することは決してありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この物語の場所

アブー・バクルの巡礼の物語は、マディーナからマッカへ、そしてその周りの巡礼の儀礼の場所へと進みます。下の表は主な場所とそこで起こったことをまとめたものです。位置が不確かな場所はその旨を記しています。

場所	立場	出来事	典拠
	ヒジャーズ	アッラーの使徒 ﷺ はマディーナにとどまられた；アブー・バクルとアリーはここから出発した	『サヒーフ・ブハーリー』1622
ズル・フライファ	マディーナの人びとのミーカート（イフラームの起点）、マディーナの南	マディーナからの巡礼者がイフラームに入る場所	『サヒーフ・ブハーリー』1524
アル＝アルジュ	マディーナ〜マッカの道沿い；正確な位置は不確か	アリーがアブー・バクルに追いついた（イブン・イスハークによる）	スィーラ書
ダジュナーン	マッカの近く；正確な位置は不確か	アリーが追いついた場所についての別の伝承	スィーラ書
マスジド・ハラーム	マッカ	タワーフの場所；裸のタワーフが廃止された	『サヒーフ・ブハーリー』369
アラファ	マッカの南東約 20 キロ；聖域の外	すべての巡礼者の立礼；フムスの傲慢が消し去られた	『サヒーフ・ブハーリー』1665
ムズダリファ	アラファとミナーの間	立礼の後に夜を過ごす場所	雌牛章 2:198
ミナー	マッカの東約 8 キロ	犠牲祭の日の絶縁の宣言	『サヒーフ・ブハーリー』4655
アビシニア（ハバシャ）	東アフリカ（現在のエチオピア）	アン＝ナジャーシーの死	『サヒーフ・ブハーリー』1245

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：アル＝アルジュか、ダジュナーンか？

イブン・イスハークは、アリーがアル＝アルジュでアブー・バクルに追いついたと述べていますが、別の伝承ではダジュナーンとされています。どちらもスィーラ書や注釈書に見られますが、その場所を確実に定める真正な伝承はありません。『サヒーフ・ブハーリー』で確かなのは、アリーが追いつき、犠牲祭の日にミナーで呼び手たちとともに宣言を行ったということです。

参照：ウィキペディア「ミナー（サウジアラビア）」；ウィキペディア「アラファト山」；『サヒーフ・ブハーリー』1524（ミーカート）；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

教訓

同じ場所 — ミナー、ムズダリファ、アラファ — は、今も毎年何百万人もの巡礼者が訪れています。ミナーに立つたびに思い出しましょう。ここでこそタウヒードが高らかに宣言され、ここでこそ巡礼がアッラーおひとりのものへと戻されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 9 年の年表

この表は、本書の出来事を時間の順に、タブークからの帰還から別離の巡礼まで並べたものです。月日はスィーラ書によるもので、おおよそのものです。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ 9 年ラジャブ月	アン＝ナジャーシーの死；アッラーの使徒 ﷺ が不在者のための葬儀の礼拝を行われた	『サヒーフ・ブハーリー』1245；日付：スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ラジャブ月〜ラマダーン月	タブークの遠征とマディーナへの帰還	第 24 巻
ヒジュラ 9 年	アッラーの使徒 ﷺ の娘ウンム・クルスームの死	『サヒーフ・ブハーリー』1285；日付：スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年シャウワール月〜ズル・カアダ月	アラビア中から使節団がマディーナに到着	第 26 巻
ヒジュラ暦 9 年ズル・カアダ月	アブドゥッラー・ブン・ウバイイの死；偽信者のための礼拝を禁じる節が下る	『サヒーフ・ブハーリー』1366；悔悟章 9:84
ヒジュラ暦 9 年ズル・カアダ月	アブー・バクルが巡礼団の長として出発	『サヒーフ・ブハーリー』1622；スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ズル・カアダ月〜ズル・ヒッジャ月	絶縁の節が下る；アリーが後を追って遣わされる	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091；スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ズル・ヒッジャ月 9 日	アラファでの立礼	スィーラ書
ヒジュラ暦 9 年ズル・ヒッジャ月 10 日	ミナーでの宣言：多神教徒の巡礼はなく、裸のタワーフもない	『サヒーフ・ブハーリー』4655、3177

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 9 年ズル・ヒッジャ月〜10 年ラビーウ・アル＝アーヒル月	多神教徒に与えられた四か月の期間	悔悟章 9:2；『イブン・カスィール注釈』
ヒジュラ 10 年	アッラーの使徒 ﷺ の息子イブラーヒームの死（日付はスィーラ書による）	『サヒーフ・ブハーリー』1303
ヒジュラ暦 10 年ズル・ヒッジャ月	別離の巡礼；多神教徒は一人も巡礼をしなかった	『サヒーフ・ブハーリー』3177；第 28 巻

教訓

わずか一年で、巡礼の姿はすっかり変わりました。何年もの忍耐によって土台が築かれていれば、大きな変化は速やかに起こりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言に関するよくある質問

1. ヒジュラ暦 9 年の巡礼を率いたのは誰ですか？

アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه です。アッラーの使徒 ﷺ によって巡礼団の長に任命されました（『サヒーフ・ブハーリー』1622；第 3 章）。

2. なぜアッラーの使徒 ﷺ はその年に巡礼をされなかったのですか？

学者たちはいくつかの理由を挙げています。その一つは、多神教徒がまだ巡礼をし、裸でタワーフをしていたことです。これらの理由は学者の推論とスィーラの伝承によるもので、明確な典拠ではありません（第 2 章）。

3. 「バラーア（絶縁）」とは何ですか？

約束を破った多神教徒との盟約の破棄の宣言で、四か月の警告期間が与えられました（悔悟章 9:1〜2；第 4 章）。

4. なぜそれを読み上げるためにアリーが遣わされたのですか？

アラブの慣習では、盟約は指導者自身か、その最も近い親族によって破棄されました。アリーはアッラーの使徒 ﷺ のいとこであり娘婿です（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3091、3719；第 5 章と第 34 章）。

5. ミナーで告げられた四つのこととは何ですか？

その年の後は多神教徒が巡礼をしないこと、裸のタワーフをしないこと、既存の盟約は期限まで守られること、盟約のない者には四か月の期間が与えられることです（『サヒーフ・ブハーリー』4655、3177；第 6 章と第 31 章）。

6. 大巡礼の日とはいつですか？

犠牲祭の日、すなわちズル・ヒッジャ月 10 日です（『サヒーフ・ブハーリー』3177；第 7 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

7. なぜジャーヒリーヤの人びとは裸でタワーフをしたのですか？

かれらの一部は、罪を犯すのに使った衣服でタワーフをすることを拒み、クライシュ族から借りた衣服でなければ着ようとしませんでした。アッラーは高壁章 7:31 を下されました（『サヒーフ・ムスリム』3028；第 9 章）。

8. 9:5 の節は、ムスリムでないすべての人と戦えという命令ですか？

いいえ。この節は、警告期間の後の、盟約を裏切った多神教徒に限られます。9:4、9:6、9:7 の節は忠実な者と保護を求める者を除外しており、ムアーハドを殺すことは禁じられています（『サヒーフ・ブハーリー』3166；第 13 章と第 35 章）。

9. ムスリムでない人はマスジド・ハラームに入ることができますか？

学者たちは悔悟章 9:28 の意味について見解が分かれています。シャーフィイー派とハンバリー派は聖域に入ることを禁じ、ハナフィー派は巡礼とウムラだけを禁じ、マーリク派はその禁止をすべてのモスクに広げています（第 35 章）。

10. なぜ悔悟章にはバスマラがないのですか？

学者たちはいくつかの説明をしています。『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3086 のウスマーンの伝承は弱いと評価されています。また、バスマラは慈悲のしるしであるのに、この章は盟約の破棄で始まるからだという見解もあります（第 19 章）。

11. ヒジュラ暦 9 年に亡くなったのは誰ですか？

アン＝ナジャーシー、アブドッラー・ブン・ウバイイ、そしてアッラーの使徒 ﷺ の娘ウンム・クルスームなどです（第 24〜29 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

12. アブー・バクルの巡礼は別離の巡礼にどんな影響を与えましたか？

翌年には多神教徒は一人も巡礼をせず、アッラーの使徒 ﷺ は純粋なタウヒードの雰囲気の中で、十万人を超える人びとに巡礼の儀礼を教えることができました（『サヒーフ・ブハーリー』3177；第 21 章）。

教訓

これらの質問は、厳しい節は、その文脈、啓示の背景、そして周りの節とともに理解されなければならないことを思い出させてくれます。そうしてこそ、クルアーンは教友たちが理解したように理解されるのです。

教訓と結び

アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言は、聖域の多神崇拝からの**最後の清め**を示すものです — それは、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がカアバを建て、「この町を安全にしてください。そしてわたしとわたしの子孫を偶像崇拝から遠ざけてください」（イブラーヒーム章 14:35）と祈ったときに始まった奮闘の頂点でした。

教訓	本巻から
完成させる前に清める	別離の巡礼の前のアブー・バクルの巡礼
調和のある指導	アブー・バクルが率い、アリーが宣言する
盟約に誠実であること	忠実な者との約束は果たされる
節を文脈の中で読むこと	悔悟章 9:5〜7
聞く機会を与えること	「かれが聞けるように保護しなさい」
糧はアッラーの御手にある	「アッラーは富ませてくださる」
恩に報いる	イブン・ウバイイのための肌着
悲しみの中の忍耐	ウンム・クルスームの墓での涙

わたしたちの生活の中のバラーア（絶縁）

すべての信仰者は自分の人生の中で「バラーア」を行う必要があります。**多神崇拝と罪との関係を断ち**、スンナに基づかない行いから礼拝を清め、心をアッラーだけのための「聖域」とするのです。しかし本当のバラーアがそうであったように、それは**公正に、礼儀をもって、悔悟の扉を開いたまま**行われるべきもので、人びとへの憎しみによってではありません。

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 28 巻『別離の巡礼』**へと続きます。ヒジュラの後のアッラーの使徒 ﷺ のただ一度の巡礼、十万人を超える教友たちとともに、じかに教えられた巡礼の儀礼、そして「今日、われはあなたがた

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

のためにあなたがたの宗教を完成した」の節が下ったアラファの日です。アッラーが最もよくご存じです。

第 27 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『クルアーン注釈』（悔悟章 9:1〜7、9:17〜18、9:28、9:36〜37、9:80、9:84；高壁章 7:31）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/1

アル＝クルトゥビー『クルアーンの諸規定の集成』— 悔悟章の注釈。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』118、119、369、664、1245、1269、1285、1303、1350、1366、1549、1622、1664、1665、3008、3177、3654、3877、4566、4654、4655、4662、4882、7174。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1185、1297、1347、3028。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3086、3091；『スナン・アビー・ダーウード』786。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— アブー・バクルの巡礼と絶縁の宣言の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注解）』— 注釈の書（絶縁の章）と葬儀の書。

イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』；サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』。

一般の歴史

ウィキペディア「悔悟章（At-Tawba）」。https://en.wikipedia.org/wiki/At-Tawba

ウィキペディア「ハッジ（大巡礼）」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hajj

ウィキペディア「アブー・バクル」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

ウィキペディア「アリー」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ali

ウィキペディア「アブドッラー・ブン・ウバイイ」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_Ubayy

ウィキペディア「ウンム・クルスーム・ビント・ムハンマド」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Kulthum_bint_Muhammad

ウィキペディア「ナスィー」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nasi%27

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』3166（ムアーハドを殺すことの禁止）。
https://sunnah.com/bukhari:3166

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3719（「わたしに代わって果たすのは、わたし自身かアリーだけである」）。https://sunnah.com/tirmidhi:3719

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』960（タワーフは礼拝のようなもの）。
https://sunnah.com/tirmidhi:960

『サヒーフ・ブハーリー』4656（ミナーの呼び手たち）。https://sunnah.com/bukhari:4656

『サヒーフ・ブハーリー』4675（アブー・ターリブと悔悟章 9:113）。
https://sunnah.com/bukhari:4675

『サヒーフ・ブハーリー』4679（アブー・フザイマのもとにあった悔悟章の終わり）。https://sunnah.com/bukhari:4679

『サヒーフ・ブハーリー』1524（ズル・フライファのミーカート）。
https://sunnah.com/bukhari:1524

悔悟章（Quran.com）。https://quran.com/9

ウィキペディア「ミナー（サウジアラビア）」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mina,_Saudi_Arabia

ウィキペディア「アラファト山」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mount_Arafat

第七部

別れの巡礼

預言者伝（スィーラ）— 第 28 巻

ヒジュラ後のアッラーの使徒 ﷺ の唯一の巡礼 — マディーナからアラファへ、そして帰路まで、クルアーンと真正なハディースに基づいて

別れの巡礼

第 27 巻では、ヒジュラ暦 9 年に巡礼がいかに清められたかを見た。アブー・バクル رضى الله عنه が巡礼団を率い、アリー رضى الله عنه がミナーで絶縁の宣言（バラーア）を告げ、その年以後は**多神教徒は誰も巡礼できず、裸でのタワーフも許されない**と布告された。アッラーの館への道は、今や清められたのである。

本巻は、その一年後の出来事を語る。それはヒジュラ暦 10 年の**別れの巡礼** — ヒジュラ後の**唯一の巡礼** — であり、アッラーの使徒 ﷺ ご自身による巡礼である。わたしたちは使徒の一歩一歩に従っていく。マディーナを出発し、ズル＝フライファでイフラームに入り、マッカでタワーフとサアイを行い、アラファに立ち、ムズダリファで夜を過ごし、ミナーで投石し、犠牲を捧げ、頭を剃り、そして別れのタワーフと帰路に至るまで。

本巻の主な典拠は**ジャービル・ブン・アブドゥッラーのハディース** رضى الله عنهما であり、『サヒーフ・ムスリム』に収められている。アッラーの使徒 ﷺ の巡礼の様子を伝える最も長く最も詳しいハディースである（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。学者たちは、このハディースだけから百以上の法学上の規定が導かれたと述べている。この巡礼における使徒の説教については、**第 29 巻**でさらに詳しく取り上げる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

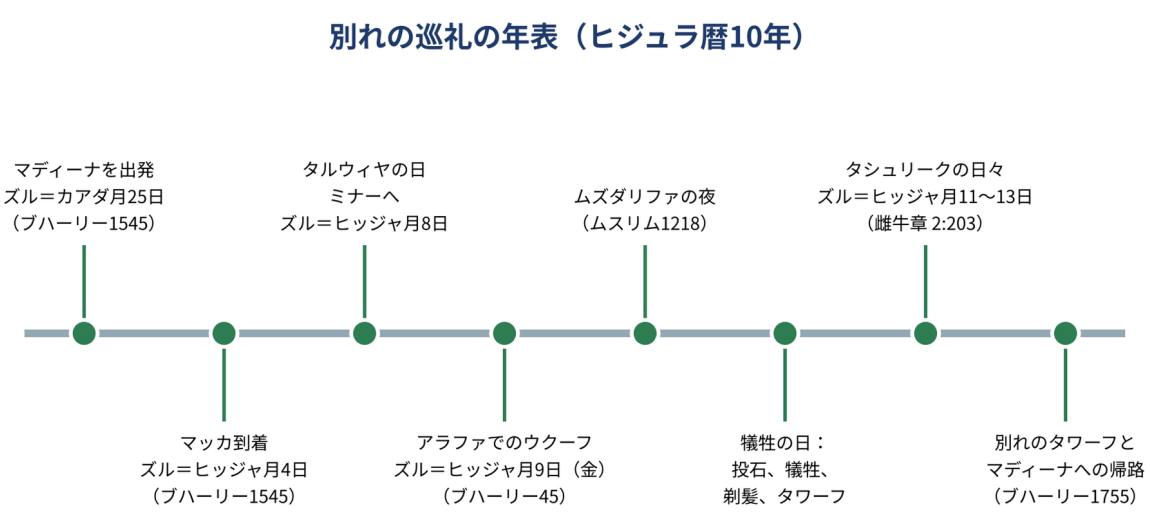


図 1：別れの巡礼の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。スィーラ書からの情報 — 巡礼者の推定人数やこの巡礼の別名など — は茶色の「スィーラ・ノート」の枠に入れています。その多くは連続した伝承経路なしに、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているためです。

告知：アッラーの使徒 ﷺ が巡礼を行われる

別れの巡礼の最も詳しい物語は、心を打つある出会いを通してわたしたちに伝わった。アッラーの使徒 ﷺ の逝去から長い年月が経った後、**ムハンマド・ブン・アリー・ブン・アル＝フサイン**（ムハンマド・アル＝バーキル）という名の若者 — アッラーの使徒 ﷺ のひ孫 — が、年老いて目の見えなくなった教友**ジャービル・ブン・アブドゥッラー** رضى الله عنهما を訪ねた。ジャービルは若者の胸に手を置き、こう言った。「ようこそ、わが兄弟の子よ。聞きたいことを何でも尋ねなさい。」

若者はアッラーの使徒 ﷺ の巡礼について尋ねた。ジャービルは指で九を示し、こう言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は九年の間（マディーナに）留まり、巡礼をされなかった。そして十年目に、アッラーの使徒 ﷺ が巡礼をされると人びとに告げられた。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

この知らせはアラビア半島全体に広まった。ジャービルは続ける。「**そこで大勢の人びとがマディーナにやって来た。皆、アッラーの使徒 ﷺ に従い、使徒と同じように行いたいと願っていた。**」 彼らはただ巡礼をするためではなく、**アッラーの使徒 ﷺ がどのように巡礼されるかを自分の目で見る**ために来たのである。

これこそ、すべてのムスリムが持つべき精神である。崇拝行為は自分で作り出すものではなく、**アッラーの使徒 ﷺ** の手本に従うものである。教友たちは、スンナをその源から学ぶためだけに遠い旅をいとわなかった。今日のわたしたちには、そのスンナを守り伝えるハディース集がある。わたしたちの務めは、それを読み、実践することである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この巡礼の呼び名

この巡礼はいくつかの名で知られている。最もよく知られているのは**ハッジャト・アル＝ワダーア（別れの巡礼）**である。この巡礼の中でアッラーの使徒 ﷺ が、あたかも共同体に別れを告げるかのようであったからである。イブン・ウマル رضي الله عنهما は言った。「**預言者 ﷺ がまだわたしたちの間におられた頃、わたしたちはよく別れの巡礼のことを話していたが、別れの巡礼が（何を意味するのか）分からなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』第 4402 番）。その意味は、数か月後に使徒が亡くなられてから初めて理解された。

スィーラ・ノート：この巡礼のほかの呼び名

学者たちは、この巡礼のほかの呼び名を挙げている。その一つは**ハッジャト・アル＝イスラーム**である。巡礼が義務とされた後、アッラーの使徒 ﷺ が行われた唯一の義務の巡礼だからである。また**ハッジャト・アル＝バラーグ**（伝達の巡礼）とも呼ばれる。使徒が人びとに「わたしは伝えなかったか」と問われたからである。さらに**ハッジャト・アッ＝タマーム**（完成の巡礼）とも呼ばれる。宗教の完成を告げる節が下ったからである。

これらの呼び名は互いに矛盾しない。それぞれが、この偉大な巡礼の一つの側面を際立たせている。これらはスィーラ書やハディース注釈書に見られるもので、特定の聖典の文言ではない。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークの伝承）— 別れの巡礼の章；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

巡礼はいつ義務とされたのか。学者たちの意見は分かれており、ヒジュラ暦 6 年とする者もいれば、9 年とする者もいる。確かなのは、その義務がアッラーの次の御言葉によって定められたことである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「この家への巡礼は、そこに赴ける人びとに課せられたアッラーへの義務である。」（イムラーン家章 3:97） — 『イブン・カスィール注釈』3:97。

アッラーの使徒 ﷺ はヒジュラ後にいくつかのウムラ（小巡礼）を行われた — 補いのウムラ（第 18 巻）とジウラーナからのウムラ（第 23 巻） — が、巡礼（ハッジ）は**ただ一度**しか行われなかった。それゆえ、この巡礼における使徒の一歩一歩が、あらゆる時代のムスリムにとっての**最も重要な手本**となったのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナからの出発

イブン・アッバース رضي الله عنهما によれば、預言者 ﷺ は教友たちとともにマディーナを出発した。それは**髪をとかして油を塗り、イフラームの衣（腰布イザールと肩布リダー）を身に着けた後**のことであった。使徒はサフランで染めた布以外、どの種類の布も禁じなかった。それは**ズル＝カアダ月が終わる五日前** — すなわちヒジュラ暦 10 年ズル＝カアダ月 25 日ごろ — のことであった（『サヒーフ・ブハーリー』第 1545 番）。

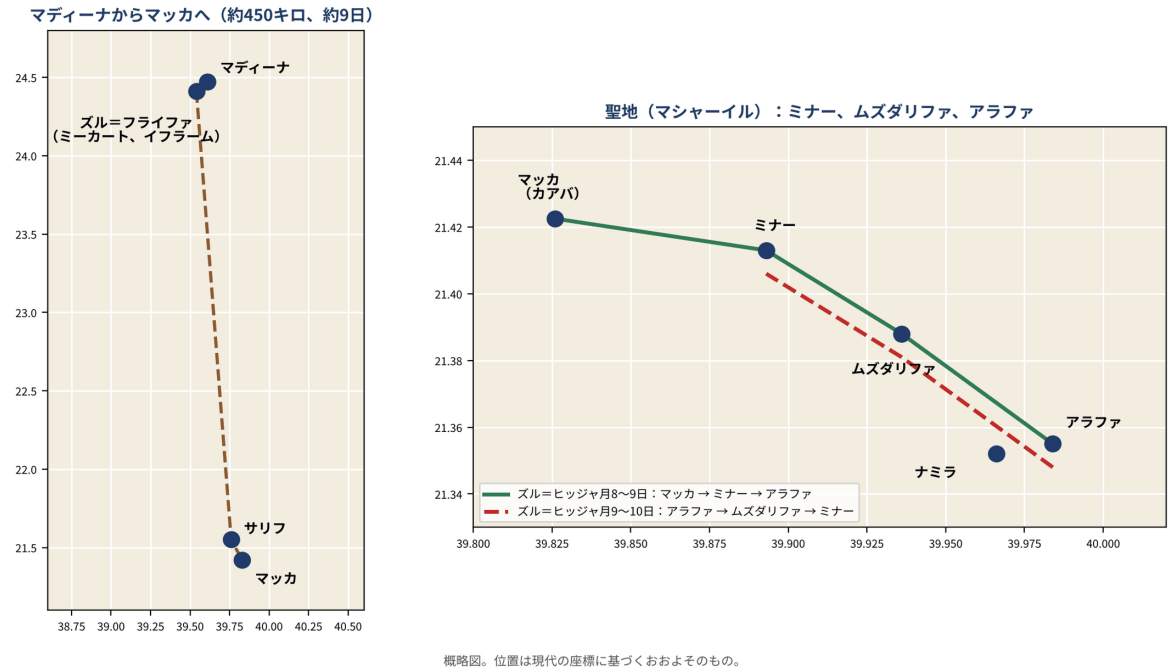


図 2：別れの巡礼の行程の略図。

マディーナからマッカまで約 450 キロのこの旅は、**およそ九日**を要した。使徒がマッカに着かれたのはズル＝ヒッジャ月 4 日だったからである。使徒と共にいたのは**すべての妻たち**、娘のファーティマ、そして何千もの教友たち — 男も女も、老人も子どもも — であった。

使徒の準備に注目してほしい。髪をとかし、油を塗り、衣を整えられた。巡礼は乱れた無秩序な旅ではなく、**清潔さ、身だしなみ、そして計画**から始まるのである。今日巡礼に出ようとするムスリムも、知識、健康、資金、そして旅の備えを整えなければならない。

使徒はまた**人びとに困難を課されなかった**。サフランの香りのする布以外は、どの布も許された。最初の一歩から、別れの巡礼はイスラームのシャリーアの性格を示している。禁じることは明確で、許すことは広いのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ズル＝フライファにて

一行は、マディーナの人びとのミーカート（イフラームの起点）である**ズル＝フライファ**に止まった。町からおよそ 10 キロの所である。ここで、シャリーアの容易さを示す出来事が起きた。ジャービルは語る。「**アスマー・ビント・ウマイスがムハンマド・ブン・アビー・バクルを産んだ。**」 彼女はどうすべきかをアッラーの使徒 ﷺ に尋ねるため、使いを送った。使徒は言われた。「**沐浴し、（出血の所を）布で当てて縛り、イフラームに入りなさい。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

出産したばかりの女性は、帰るようにとは命じられなかった。彼女は**巡礼を続け**、清くなるまでタワーフ以外のすべての儀式を行うことができた。アスマーはアブー・バクル رضى الله عنه の妻であり、このとき生まれたムハンマド・ブン・アビー・バクルは、後にイスラームの歴史で名の知られた人物となった。

ジャービルは続ける。「**それからアッラーの使徒 ﷺ は（ズル＝フライファの）マスジドで礼拝し、アル＝カスワー（使徒のラクダ）に乗られた。ラクダがアル＝バイダーで使徒を乗せて立ち上がったとき、わたしは目の届く限り前方を見渡した。乗る者と歩く者がいた。右にも同じように、左にも同じように、後ろにも同じように。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

使徒はまたズル＝フライファで**犠牲のラクダに印を付けられた**（首飾りを掛け〔タクリード〕、こぶに切り込みを入れる〔イシュアール〕）。聖なる館のためのものだと分かるようにするためである。使徒はマディーナから自ら犠牲の動物を連れて行かれた。これは、第 13 章で見るように、使徒が行われた巡礼の種類に関わることになる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タウヒードのタルビヤ

アル＝バイダーでラクダの上にあって、アッラーの使徒 ﷺ はタルビヤを唱え始められた。ジャービルは述べる。「**使徒はタウヒード（唯一神信仰）のタルビヤを唱えられた。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番） 使徒のタルビヤの言葉は、イブン・ウマル رضى الله عنهما が伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1549 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ تَلْبِيَةَ، رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَبَّيْكَ اللَّهُمَّ لَبَّيْكَ، لَبَّيْكَ لاَ شَرِيكَ لَكَ لَبَّيْكَ، إِنَّ الْحَمْدَ وَالنِّعْمَةَ لَكَ وَالْمُلْكَ، لاَ شَرِيكَ لَكَ.

訳：

アブドッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ のタルビヤは次の通りであった。「**ラッバイカッラーフンマ・ラッバイク、ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラカ・ラッバイク、インナル・ハムダ・ワン・ニウマタ・ラカ・ワル・ムルク、ラー・シャリーカ・ラク**」— 「アッラーよ、あなたの呼びかけに応えて参りました。あなたの呼びかけに応えて参りました。あなたに並ぶものはありません。あなたの呼びかけに応えて参りました。まことに讃美と恩恵と王権はあなたのものです。**あなたに並ぶものはありません。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← イマーム・マーリク・ブン・アナス ← イブン・ウマルの解放奴隷ナーフィウ ← アブドッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、タルビヤの章、ハディース第 1549 番。ムスリム第 1184 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1549

このハディースの教訓

このタルビヤを、第 27 巻で見たジャーヒリーヤのタルビヤ「ただし、あなたが所有するあなたの同伴者は別です」と比べてみよう。アッラーの使徒 ﷺ のタルビヤは「**あなたに並ぶものはありません**」を**二度**繰り返し、かつて同じ場所で開かれていた多神崇拝の扉を固く閉ざしているかのようである。

ジャービルはまた、人びとが自分たちの用いる追加の言葉でタルビヤを唱えたが、**アッラーの使徒 ﷺ はそのどれも退けられなかった**と述べている。ただし使徒はご自身のタルビヤを唱え続けられた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。これは、良い唱念の言葉についてシャリーアに幅があることを示すとともに、スンナの言葉が最も優れたものとして保たれることを示している。

タルビヤとは**呼びかけへの応答**である。何千年も前、アッラーは預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ に命じられた。「人びとに、巡礼〔ハッジ〕するよう呼びかけよ。」（巡礼章 22:27）。「ラッバイク」と唱える巡礼者は皆、こう言っているかのようである。「**アッラーよ、あなたの呼びかけに応えて、わたしは参りました。**」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

受け入れられた巡礼（ハッジ・マブルール）

その呼びかけに正しく応えた者には、何が約束されているのか。アブー・フライラ رضى الله عنه は伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1521 番

حَدَّثَنَا آدَمُ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، حَدَّثَنَا سَيَّارٌ أَبُو الْحَكَمِ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا حَازِمٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ مَنْ حَجَّ لِلَّهِ فَلَمْ يَرْفُثْ وَلَمْ يَفْسُقْ رَجَعَ كَيَوْمِ وَلَدَتْهُ أُمُّهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。わたしは預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた。

「アッラーのために巡礼し、ラファス（情欲をかき立てること）もせず、不道徳な行いもしなかった者は、母親が彼を産んだ日のように（罪から清められて）帰って来る。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アーダム・ブン・アビー・イヤース ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← サイヤール・アブー・アル＝ハカム ← アブー・ハーズィム・アル＝アシュジャイー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、受け入れられた巡礼の徳の章、ハディース第 1521 番。第 1819、1820 番、およびムスリム第 1350 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1521

このハディースの教訓

このハディースは二つの条件を挙げている。**ラファスをしないこと**（イフラーム中の夫婦の交わりと、それにつながる言葉）と、**不道徳な行いをしないこと**（罪）である。この二つはクルアーンでも述べられている。

「巡礼中、猥褻な行いや不道徳な行いを慎しみ、また論争してはならない。」（雌牛章 2:197） — 『イブン・カスィール注釈』2:197。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この節はもう一つを加えている。**論争しないこと**である。疲れ果て、押し合い、暑さにさらされた何十万もの人びとを想像してほしい。まさにそこで人格が試されるのである。受け入れられた巡礼とは、柱となる行為が正しく行われただけでなく、**品性が清らかな**巡礼なのである。

その報いは非常に大きい。「**母親が彼を産んだ日のように**」、すなわち罪から清められて帰るのである。別のハディースでアッラーの使徒 ﷺ は、受け入れられた巡礼の報いは楽園以外にないと言われた（『サヒーフ・ブハーリー』第 1773 番）。これこそ、別れの巡礼の巡礼者たち — そして彼らの足跡に従うすべての巡礼者 — が持ち帰る贈り物である。

学者たちは、受け入れられた巡礼のしるしは帰った後に見えると説明している。**その人の生活が以前よりも良くなる**のである。礼拝をよりよく守り、家族にもっと優しくなり、取引でより誠実になり、罪からいっそう遠ざかる。巡礼とは、名前の前に「ハッジ」という称号が付くことではなく、自分の内に残る変化なのである。

それゆえ、巡礼の準備はお金と健康の準備だけでなく、**心の準備**でもある。財産を不正なものから清め、かつて不当に扱った人に赦しを請い、借金を返し、新しい人間として帰ろうと決意することである。不正な財産は、アッラーの館に持って行くにふさわしくない。

まだ機会を得ていないわたしたちにとっても、このハディースは希望を与えてくれる。アッラーの赦しの扉は、悔悟、礼拝、断食、施しを通じて常に開かれている。それでも巡礼には独自の特別な価値がある。だから、アッラーがご自身の館にわたしたちを招いてくださるよう祈り、今から備えようではないか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人の海

ジャービルの言葉 — 「目の届く限り」 — は、一行の大きさを伝えている。前にも右にも左にも後ろにも、アラビアの隅々から集まった**人の海**があった。わずか十年前、アッラーの使徒 ﷺ はただ一人の教友と共に、ひそかにマッカを出られた（第 7 巻）。今や使徒は、何万もの人びとと共に戻って来られたのである。

スィーラ・ノート：別れの巡礼の巡礼者は何人いたか

別れの巡礼の巡礼者の正確な人数を述べる真正なハディースはない。スィーラ書にはさまざまな推定が見られる。**約 9 万人**、**11 万 4 千人**、さらに多いとする説もあり、それにはマッカやイエメン、また道中の各地から加わった人びとも含まれる。

これらの数字は**スィーラ学者による推定**であって、正確な数ではない。ジャービルのハディースから確かなのは、彼らが**非常に多く**、あらゆる方向の視界を埋め尽くしていたということである。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークの伝承）— 別れの巡礼の章；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

ジャービルは、非常に重要な一言を付け加えている。「**アッラーの使徒 ﷺ はわたしたちの間におられ、クルアーンは使徒に下り、使徒はその意味を知っておられた。使徒がなさったことは何であれ、わたしたちも同じように行った。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

ここに別れの巡礼の成功の秘訣がある。背景も部族も言葉も異なる何万もの人びとが、**ただ一つの手本**に従った。彼らは「わが部族の意見はどうか」とは問わず、「**アッラーの使徒 ﷺ は何をなさったか**」と問うた。真の団結は、すべての人が同じ源に立ち返るときに生まれるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

その輸送上の課題も想像してほしい。これほど大きな一行が九日間砂漠を横断するための水、食料、休憩地、そして安全である。それでも、大きな混乱があったという真正な伝承はない。教友たちの規律とアッラーの使徒 ﷺ の指導が、その旅を整然としたものにしたのである。

サリフでのアーイシャの涙

旅の途中、とても人間らしい小さな出来事が起きた。信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها は語っている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 305 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، قَالَ حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ أَبِي سَلَمَةَ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ الْقَاسِمِ، عَنِ الْقَاسِمِ بْنِ مُحَمَّدٍ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ خَرَجْنَا مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم لاَ نَذْكُرُ إِلاَّ الْحَجَّ، فَلَمَّا جِئْنَا سَرِفَ طَمِثْتُ، فَدَخَلَ عَلَىَّ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَأَنَا أَبْكِي فَقَالَ {مَا يُبْكِيكِ}. قُلْتُ لَوَدِدْتُ وَاللَّهِ أَنِّي لَمْ أَحُجَّ الْعَامَ. قَالَ {لَعَلَّكِ نُفِسْتِ}. قُلْتُ نَعَمْ. قَالَ فَإِنَّ ذَلِكِ شَىْءٌ كَتَبَهُ اللَّهُ عَلَى بَنَاتِ آدَمَ، فَافْعَلِي مَا يَفْعَلُ الْحَاجُّ، غَيْرَ أَنْ لاَ تَطُوفِي بِالْبَيْتِ حَتَّى تَطْهُرِي.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は語った。わたしたちは預言者 ﷺ と共に出発し、ただ巡礼のことだけを口にしていた。**サリフ**に着いたとき、わたしに月経が来た。預言者 ﷺ がわたしの所に入って来られたとき、**わたしは泣いていた**。使徒は尋ねられた。「**どうして泣いているのか。**」わたしは答えた。「アッラーにかけて、今年は巡礼に出なければよかったと思います。」使徒は尋ねられた。「**もしかして月経が来たのか。**」わたしは「はい」と答えた。使徒は言われた。「**それは、アッラーがアーダムの娘たちに定められたものである。だから巡礼する者が行うことをすべて行いなさい。ただし清くなるまで、聖なる館のタワーフだけはしてはならない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← アブドルアズィーズ・ブン・アビー・サラマ・アル＝マージシューン ← アブドゥッラフマーン・ブン・アル＝カースィム ← アル＝カースィム・ブン・ムハンマド・ブン・アビー・バクル ← 信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』月経の書、月経中の女性はタワーフ以外のすべての儀式を行うの章、ハディース第 305 番。第 294 番、およびムスリム第 1211 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:305

このハディースの教訓

サリフはマッカから約 10 マイルの地である。アッラーの使徒ﷺとの巡礼を心待ちにしていたアーイシャは、巡礼が台無しになったと思って泣いた。使徒の接し方を見てほしい。使徒は**彼女の所に入り**、**泣いている理由を尋ね**、そして心を落ち着かせる言葉で**彼女をなだめ**られた。

使徒の言葉 — 「**それは、アッラーがアーダムの娘たちに定められたものである**」 — は、女性から恥ずかしさと悲しみを取り除いた。月経は恥でも罰でもなく、アッラーが定められた自然の性質である。月経中の女性も、**タワーフ以外の巡礼のすべての儀式**を行うことができる。

このアーイシャの物語の結末は第 30 章で見ることになる。アッラーの使徒ﷺは、彼女を失望したまま帰らせることはなさらなかった。良い夫は、何万もの人びとを率いる忙しさの中にあっても、妻の気持ちを理解するのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ到着

アッラーの使徒 ﷺ は**ズル＝ヒッジャ月 4 日**にマッカに到着された（『サヒーフ・ブハーリー』第 1545 番）。そのまま聖なるマスジドへ向かわれた。ジャービルは語る。**「わたしたちが使徒と共に聖なる館に着くと、使徒は角（黒石）に触れ、それから七周のタワーフをされた。三周は小走り（ラマル）で、四周は歩いて。」**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

これが**到着のタワーフ（タワーフ・アル＝クドゥーム）**である。使徒の心情を想像してほしい。追われる身として去った生まれ故郷マッカに、今や尊ばれる使徒として入り、かつて 360 体の偶像に囲まれていたカアバは、今や**タウヒードのために清められていた**（第 21 巻）。

ラマル — 小さな歩幅で速く歩くこと — は、補いのウムラのとき、マッカの多神教徒たちがムスリムはマディーナの熱病で弱っていると言いふらしたことから定められた（第 18 巻）。別れの巡礼では、もはや見ている多神教徒はいなかったが、使徒は**ラマルを続けられた**。学者たちはここから、ある理由で定められたスンナは、その理由がなくなった後も崇拝行為として残りうるという教訓を引き出している — **初期の世代の奮闘を思い起こすもの**として。

ラマルは男性だけが、到着のタワーフ（またはウムラのタワーフ）の最初の三周で行う。女性は普通に歩いてタワーフをする。ラマルは、肌を覆い慎み深くあるべきことと相いれないからである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

黒石とウマルの言葉

アッラーの使徒 ﷺ は**黒石**からタワーフを始め、そこで終えられた。ジャービルによれば、イブラーヒームの立処で礼拝した後、使徒は**角に戻ってそれをなでられた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。なぜこの石に口づけし、触れるのか。ウマル رضى الله عنه は、崇拝行為の原則となる答えを示している。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1597 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ عَابِسِ بْنِ رَبِيعَةَ، عَنْ عُمَرَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّهُ جَاءَ إِلَى الْحَجَرِ الأَسْوَدِ فَقَبَّلَهُ، فَقَالَ إِنِّي أَعْلَمُ أَنَّكَ حَجَرٌ لاَ تَضُرُّ وَلاَ تَنْفَعُ، وَلَوْلاَ أَنِّي رَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يُقَبِّلُكَ مَا قَبَّلْتُكَ.

訳：

ウマル رضى الله عنه によれば、彼は**黒石**の所に来てそれに口づけし、こう言った。「**わたしは、おまえが害も益も与えないただの石にすぎないことを知っている。もし預言者 ﷺ がおまえに口づけするのを見ていなかったなら、わたしはおまえに口づけしなかっただろう。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アービス・ブン・ラビーア ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、黒石について述べられたことの章、ハディース第 1597 番。ムスリム第 1270 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1597

このハディースの教訓

このウマルの言葉は、タウヒードにおいて非常に明確である。その石は**害も益も与えない**。ムスリムは石を崇拝せず、石に願い求めず、石に力があるとも考えない。それに口づけするのは、ただ**アッラーの使徒**ﷺに従うためなのである。

ここに**崇拝と迷信**の違いがある。崇拝は、アッラーとその使徒からの根拠があるから行われる。迷信は、その物自体に力があると思い込むから行われる。ウマルがこれを人びとの前で声高に述べたのは、おそらく彼らの多くが偶像崇拝を捨てたばかりだったからであろう。

混雑の激しい今日、黒石に口づけすることは義務ではない。他人を傷つけずに触れることができないなら、遠くからそれに**手で合図する**だけで十分である。一つの推奨行為のために同胞を押しのけ傷つけるのは、**優先順位の取り違え**である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イブラーヒームの立処にて

タワーフの後、アッラーの使徒 ﷺ は**イブラーヒームの立処（マカーム・イブラーヒーム）**へ向かい、こう唱えられた。

「イブラーヒームの（礼拝に）立った所を、あなたがたの礼拝の場としなさい。」（雌牛章 2:125） — 『イブン・カスィール注釈』2:125。

ジャービルによれば、使徒はその立処を自分とカアバの間に置き、二ラクアの礼拝をされた。その二ラクアで使徒は**不信者章（アル＝カーフィルーン）**と**純正章（アル＝イフラース）**を読まれた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

この二つの章の選択には深い意味がある。**不信者章**は多神崇拝との決別の章である。「わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。」**純正章**は純粋なタウヒードの章である。「言え、かれはアッラー、唯一なる御方であられる。」かつて偶像が崇められていたその同じ場所で、アッラーの使徒 ﷺ **礼拝によってタウヒードを宣言された**のである。

イブラーヒームの立処とは、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がカアバを建てる際に立った石である。アッラーはそれを聖なる館にある**明白な印**の一つとして挙げておられる（イムラーン家章 3:97）。その後ろで礼拝することは、すべての巡礼者を、預言者たちの父であり、この館をタウヒードの上に最初に建てた方と結びつけるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアイ：「アッラーが始められたもので、わたしも始める」

イブラーヒームの立処から、使徒は再び黒石に触れ、それから門を出て**サファー**へ向かわれた。そこに近づくと、こう唱えられた。

「**本当にサファーとマルワは、アッラーの聖蹟の中である。**」（雌牛章 2:158） — 『イブン・カスィール注釈』2:158。

それから使徒は言われた。「**アッラーが始められたもので、わたしも始める。**」 使徒がサファーからサアイを始められたのは、アッラーがその節でサファーを先に挙げておられるからである（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。小さくとも大きな教訓である。**クルアーンの語順には意味がある**のであり、アッラーの使徒 ﷺ はそれに従って行われたのである。

使徒はカアバが見えるところまでサファーに登り、キブラに向かい、アッラーの唯一性を唱え、その偉大さを讃え、こう祈られた。「**アッラーのほかに神はなく、唯一であり、並ぶものはない。王権はかれのものであり、讃美もかれのものであり、かれは万事に全能であられる。アッラーのほかに神はなく、唯一である。かれは約束を果たし、そのしもべを助け、ただおひとりで連合軍を打ち破られた。**」 使徒はこれを三度繰り返し、その間に祈りを捧げられた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

「**ただおひとりで連合軍を打ち破られた**」という言葉に注目してほしい。これは塹壕の戦い（第 12 巻）を思い起こさせる。一万の連合軍（アフザーブ）がマディーナを包囲し、アッラーが風によって彼らを追い払われたときである。サファーの丘 — アッラーの使徒 ﷺ が初めて公然と人びとに呼びかけた場所（第 4 巻） — で、使徒は今、果たされた約束についてアッラーを讃えておられるのである。

それから使徒はマルワへと下られた。足が谷底に着くと使徒は**走られ**、登り始めると歩かれ、マルワに着くと、サファーで行ったのと同じことをマルワでも行われた

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。谷底での走りは、預言者イスマーイール ***Hajar*** の母ハージャルが、わが子のために水を求めて走ったことを思い起こさせる。

ハッジの中に入ったウムラ

マルワでのサアイの最後の一往復で、アッラーの使徒 ﷺ は多くの人を驚かせる告知をされた。「**もし後で知ったことを前もって知っていたなら、わたしは犠牲の動物を連れて来ず、これをウムラにしたであろう。だから、あなたがたのうち犠牲の動物を連れていない者は、イフラームを解き、これをウムラとしなさい。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

なぜこれが驚きだったのか。ジャーヒリーヤのアラブは、**巡礼の月にウムラを行うことを最も重い罪の一つ**とみなしていた。今アッラーの使徒 ﷺ は、**そのジャーヒリーヤの信念を打ち消す**ために、まさにそれを行うよう命じられたのである。教友の中には、使徒に完全に倣いたいと願っていたため気が進まない者もいたが、最後には皆従った。

スラーカ・ブン・マーリク・ブン・ジュウシュムが立ち上がって尋ねた。「アッラーの使徒よ、これは今年だけのことですか、それとも永遠にですか。」 アッラーの使徒 ﷺ は指を組み合わせ、二度言われた。「**ウムラはハッジの中に入った — いや、永遠に永遠にである。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

このスラーカこそ、ヒジュラのとき、クライシュ族の懸賞を得ようとアッラーの使徒 ﷺ を追った男である（第 7 巻）。今や彼はマッカで、宗教の規定について尋ねる一人の教友として立っている。アッラーはこのように人の心を変えられるのである。

> **スィーラ・ノート：三種類の巡礼**
>
> 学者たちは別れの巡礼から、巡礼を行う三つの方法を見いだしている。**イフラード**（ハッジのみ）、**キラーン**（一つのイフラームでハッジとウムラを合わせる）、そして**タマットゥ**（まずウムラを行ってイフラームを解き、ズル＝ヒッジャ月 8 日に改めてハッジのイフラームに入る）である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

犠牲の動物を連れていたアッラーの使徒 ﷺ は、犠牲の日までイフラームの状態にとどまられた。大多数の学者は、使徒が**キラーン**の巡礼を行われたと考えている。一方、犠牲の動物を連れていなかった教友たちは、それを**タマットゥ**にするよう命じられた。三つの方法はいずれも有効であり、どれが最も優れているかについて学者の意見は分かれている。

参照：

イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』— ジャービルのハディースの章。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イエメンから来たアリー

そのとき、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه がイエメンから到着した。アリーは布教とザカートの徴収のためにそこへ派遣されていたのである（第 26 巻）。彼はアッラーの使徒 ﷺ のための犠牲のラクダを連れて来た。着いてみると、妻の**ファーティマ** رضى الله عنها がすでにイフラームを解き、色のある衣を着て、目にコフル（アイライン）を塗っていた。アリーはそれを快く思わなかったが、ファーティマは答えた。「**父がわたしにこうするよう命じたのです。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

アリーはアッラーの使徒 ﷺ の所へ行き、不満を述べて尋ねた。使徒は言われた。「**彼女は正しい、彼女は正しい。**」 それから使徒は、イフラームに入ったときの意図をアリーに尋ねられた。アリーは答えた。「アッラーよ、あなたの使徒がイフラームに入られたものと同じものでイフラームに入ります（と唱えました）。」 使徒は言われた。「**わたしは犠牲の動物を連れている。だからあなたもイフラームを解いてはならない。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

この話はいくつかのことを示している。第一に、**アリーの機転**である。彼はアッラーの使徒 ﷺ のイフラームの種類を知らなかったため、使徒の意図に従うと意図した — そしてそれは認められた（『サヒーフ・ブハーリー』第 1557 番）。第二に、父ご自身によって正しいと認められた**ファーティマの誠実さ**である。第三に、アリーの不満の解き方である。言い争うのではなく、**アッラーの使徒** ﷺ に問いただしたのである。

ジャービルによれば、**犠牲のラクダの数**は、アリーがイエメンから連れて来たものと、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナから連れて来たものを合わせて**百頭**であった。これらのラクダが犠牲の日にどうなったかは、第 24 章で見ることにしよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

タルウィヤの日

アッラーの使徒ﷺはズル＝ヒッジャ月4日から7日までマッカの郊外に滞在された。そして**タルウィヤの日（ズル＝ヒッジャ月 8 日）**が来た。ジャービルは語る。「**タルウィヤの日になると、人びとはミナーへ向かい、ハッジのイフラームに入った。アッラーの使徒ﷺは（ラクダに）乗って行かれ、そこでズフル、アスル、マグリブ、イシャー、そしてファジュルの礼拝をされた。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

タルウィヤという名は「水を飲ませること」あるいは「水を備えること」を意味する。歴史家たちによれば、当時アラファには水源がなかったため、その日巡礼者たちはアラファのための備えとして水袋を満たしたという。

ミナーでアッラーの使徒ﷺは**四ラクアの礼拝を二ラクアに短縮された**が、まとめて行う（ジャムウ）ことはされず、それぞれの礼拝をその時刻に行われた。ズル＝ヒッジャ月 9 日の夜をミナーで過ごすことはスンナであって柱（ルクン）ではないが、偉大なアラファの日を前にした心と体の準備となる。

ウムラの後にイフラームを解いていた教友たちは、今いるその場所から**改めてハッジのイフラームに入った**。これがタマットゥの巡礼のやり方であり、今日でも巡礼者の多くがこの方法をとっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムズダリファを越えてアラファへ

ズル＝ヒッジャ月 9 日の朝、日が昇った後、アッラーの使徒 ﷺ は**毛織りの天幕**を**ナミラ**に張るよう命じられた。それから使徒は出発された。ジャービルは非常に重要なことを述べている。「**クライシュ族は、使徒がジャーヒリーヤの時代にクライシュ族がしていたように、聖なる標識（ムズダリファ）に止まられるものと疑わなかった。**」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）

第 27 巻で見たように、クライシュ族（フムス）は、自分たちは人びとと共に聖域を出てアラファへ行くには尊すぎると考えていた。彼らはムズダリファに止まり、ほかの部族はアラファへ行った。今、クライシュ族ハーシム家の一人であるアッラーの使徒 ﷺ は、**ムズダリファを通り越し**てそのままアラファへ進み、アッラーの命令を果たされたのである。

「**人びとの急ぎ降りるところから急ぎ降り**」（雌牛章 2:199） — 『イブン・カスィール注釈』2:199。

この一歩によって、使徒は崇拝行為における**身分の特権を廃された**。アラファでは、クライシュ族も遊牧民も、貴族も奴隷も、同じ大地に立つ。自らを尊いと思う者のための特別な場所はないのである。

使徒はナミラに着くと、天幕がすでに張られているのを見られた。使徒は**太陽が南中を過ぎるまでそこで休まれた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。今日その場所にはナミラ・マスジドが建ち、その一部はアラファの区域の内側に、一部は外側にある。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウラナの谷での説教

太陽が南中を過ぎると、使徒はアル＝カスワーを用意させ、**ウラナの谷の底**へ向かい、人びとに説教をされた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。**アラファの説教**として知られるこの説教は、**第 29 巻**で詳しく取り上げる。ここでは、ジャービルが伝えるその概要だけを見ておこう。

説教の内容	概要
生命と財産の神聖さ	この日、この月、この地が神聖であるように神聖である
ジャーヒリーヤの慣行	すべて「わたしの両足の下に」廃された
ジャーヒリーヤの血の報復	使徒ご自身の一族の血から始められた
ジャーヒリーヤのリバー（利息）	使徒の父方のおじアル＝アッバースのリバーから始められた
女性	「女性のことについてアッラーを畏れなさい」
拠り所	アッラーの啓典 — それに固くすがる限り迷うことはない
証言	「アッラーよ、証人となってください」（三度）

使徒が**ご自身の一族から始められた**ことに注目してほしい。最初に廃された血の報復は、使徒のいとこの息子イブン・ラビーア・ブン・アル＝ハーリスの血であり、最初に廃されたリバーは、使徒の父方のおじアル＝アッバースのリバーであった。公正な指導者は、法の適用において**自分の親族を例外としない**のである。

説教の終わりに、使徒は尋ねられた。**「あなたがたはわたしについて問われるであろう。そのとき何と言うか。」** 人びとは答えた。「わたしたちは、あなたが伝え、（託されたものを）果たし、誠意を尽くして忠告されたことを証言します。」 使徒は人差し指を天に上げ、それから人びとの方に向けて言われた。**「アッラーよ、証**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人となってください。アッラーよ、証人となってください」と、三度（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

それからビラールがアザーンとイカーマを唱え、使徒は**ズフル**の礼拝をされた。続いて再びイカーマが唱えられ、使徒は**アスル**の礼拝をされた。その間にほかの礼拝はされなかった（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。これがアラファでの**繰り上げの合わせ礼拝（ジャムウ・タクディーム）**であり、日没までの残りの時間をすべて祈りに充てるためである。

宗教が完成された日

その日 — **金曜日**に当たったアラファの日 — に、クルアーンの中でも最も偉大な節の一つが下った。

「今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである。」（食卓章 5:3） — 『イブン・カスィール注釈』5:3。

この節の地位はあまりに高く、ユダヤ教徒でさえそれを羨んだほどである。ウマル رضى الله عنه は語っている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 45 番

حَدَّثَنَا الْحَسَنُ بْنُ الصَّبَّاحِ، سَمِعَ جَعْفَرَ بْنَ عَوْنٍ، حَدَّثَنَا أَبُو الْعُمَيْسِ، أَخْبَرَنَا قَيْسُ بْنُ مُسْلِمٍ، عَنْ طَارِقِ بْنِ شِهَابٍ، عَنْ عُمَرَ بْنِ الْخَطَّابِ، أَنَّ رَجُلاً، مِنَ الْيَهُودِ قَالَ لَهُ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ، آيَةٌ فِي كِتَابِكُمْ تَقْرَءُونَهَا لَوْ عَلَيْنَا مَعْشَرَ الْيَهُودِ نَزَلَتْ لاَتَّخَذْنَا ذَلِكَ الْيَوْمَ عِيدًا. قَالَ أَىُّ آيَةٍ قَالَ {الْيَوْمَ أَكْمَلْتُ لَكُمْ دِينَكُمْ وَأَتْمَمْتُ عَلَيْكُمْ نِعْمَتِي وَرَضِيتُ لَكُمُ الإِسْلاَمَ دِينًا}. قَالَ عُمَرُ قَدْ عَرَفْنَا ذَلِكَ الْيَوْمَ وَالْمَكَانَ الَّذِي نَزَلَتْ فِيهِ عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ قَائِمٌ بِعَرَفَةَ يَوْمَ جُمُعَةٍ.

訳：

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه によれば、一人のユダヤ教徒の男が彼にこう言った。「信者たちの長よ、あなたがたの啓典には、あなたがたが読んでいる一つの節があります。**もしその節がわたしたちユダヤ教徒に下されていたなら、わたしたちはその日を祭日としたでしょう。**」 ウマルは尋ねた。「どの節か。」 彼は答えた。〈**今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである**〉。ウマルは言った。「**わたしたちは、その節が預言者 ﷺ に下された日と場所を知っている。使徒がアラファに立っておられたときで、金曜日のことであった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝ハサン・ブン・アッ＝サッバーフ ← （聞いた）ジャアファル・ブン・アウン ← アブー・アル＝ウマイス ← カイス・ブン・ムスリム ← ターリク・ブン・シハーブ ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、信仰の増減の章、ハディース第 45 番。第 4407、4606、7268 番、およびムスリム第 3017 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:45

このハディースの教訓

ウマルの答えは実に繊細である。その日を新たな祭日にする必要はなかった。**その日はすでに祭日だった**からである。アラファの日は巡礼者にとっての大いなる日であり、金曜日はムスリムの毎週の祭日である。その節は**二つの偉大な日が重なった日**に下ったのである。

「あなたがたの宗教を完成し」とは、**宗教の基礎がすべて整った**ということである。信条、崇拝行為、許されたことと禁じられたこと。それゆえアッラーの使徒 ﷺ の後、誰も宗教に新しい崇拝行為を加えたり、そこから減らしたりする権利はない。イマーム・マーリクは言った。イスラームの中に新奇な事（ビドア）を作り出し、それを良いと考える者は、ムハンマド ﷺ が使命を裏切ったと主張しているに等しい。アッラーは「今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し」と仰せられたのだから、と。

スィーラ・ノート：ウマルの涙

注釈書やスィーラ書には、この節が下ったとき**ウマルが泣いた**と伝えられている。わけを問われると、彼は**完全になったものは、その後は必ず欠けていく**と答えた。この節がアッラーの使徒 ﷺ の逝去が近いことを示していると感じたかのようである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この伝承はイブン・ジャリール・アッ＝タバリーとイブン・カスィールがその注釈書で挙げているが、その伝承経路については議論がある。その意味は、アッラーの使徒 ﷺ がこの節の啓示からおよそ**三か月**後に亡くなられたという事実と一致している。

参照：

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』食卓章 5:3；アッ＝タバリー『ジャーミウ・アル＝バヤーン』。https://tafsir.app/ibn-katheer/5/3

「ハッジとはアラファである」

礼拝の後、アッラーの使徒 ﷺ はラクダに乗って立ち止まりの場所へ行き、ラクダの腹を大きな岩々の方へ向け、歩く人びとの通り道を前にして、キブラに向かわれた。**使徒は太陽が沈むまでそこに立ち続けられ**、黄色い光が少しずつ消え、太陽の円盤が見えなくなった（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。何時間ものあいだ、使徒は祈り、アッラーを念じ、アッラーに懇願された。

なぜアラファはそれほど重要なのか。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**ハッジとはアラファである。**」 犠牲の日の夜明け前にアラファに着いた者は、巡礼を得たのである（『ジャーミウ・ティルミズィー』第 889 番 — 真正）。アラファでの立ち止まり（ウクーフ）は**巡礼の最も重要な柱**であり、それなしに巡礼は成り立たない。この日の徳について、アーイシャ رضي الله عنها は伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1348 番

حَدَّثَنَا هَارُونُ بْنُ سَعِيدٍ الأَيْلِيُّ، وَأَحْمَدُ بْنُ عِيسَى، قَالاَ حَدَّثَنَا ابْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي مَخْرَمَةُ بْنُ بُكَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ سَمِعْتُ يُونُسَ بْنَ يُوسُفَ، يَقُولُ عَنِ ابْنِ الْمُسَيَّبِ، قَالَ قَالَتْ عَائِشَةُ إِنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ مَا مِنْ يَوْمٍ أَكْثَرَ مِنْ أَنْ يُعْتِقَ اللَّهُ فِيهِ عَبْدًا مِنَ النَّارِ مِنْ يَوْمِ عَرَفَةَ وَإِنَّهُ لَيَدْنُو ثُمَّ يُبَاهِي بِهِمُ الْمَلاَئِكَةَ فَيَقُولُ مَا أَرَادَ هَؤُلاَءِ.

訳：

アーイシャ رضي الله عنها によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アラファの日ほど、アッラーが多くのしもべを火獄から解放される日はない。** まことにかれは近づかれ、それから**天使たちの前で彼らのことを誇りとされ**、こう仰せられる。『この者たちは何を望んでいるのか。』」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ハールーン・ブン・サイード・アル＝アイリーとアフマド・ブン・イーサー ← アブドッラー・ブン・ワハブ ← マフラマ・ブン・ブカイル ← その父ブカイル・ブン・アル＝アシャッジ ← ユーヌス・ブン・ユースフ ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← 信者たちの母アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』巡礼の書、ハッジとウムラとアラファの日の徳の章、ハディース第 1348 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1348

このハディースの教訓

天使たちの前でアッラーが誇りとされる光景を想像してほしい。同じ衣をまとい、ほこりと汗にまみれた何万もの人びとが、乾いた野で手を上げている。彼らが求めているのは富でも地位でもなく、**赦しと慈悲**である。アッラーは — すべてをご存じでありながら — 「この者たちは何を望んでいるのか」と問われるのである。

巡礼をしない者にとっても、アラファの日は偉大な日である。アッラーの使徒 ﷺ は、**アラファの日の断食は過ぎた一年と来たる一年の罪を消す**と言われた（『サヒーフ・ムスリム』第 1162 番）。この日の慈悲は、アラファにいる人びとだけでなく、共同体全体に及ぶのである。

「人びとよ、落ち着きなさい！」

太陽が沈むと、アッラーの使徒 ﷺ はアラファを出発された。使徒は**ウサーマ・ブン・ザイドを後ろに乗せられた** رضي الله عنهما。ウサーマは、使徒が解放し、愛された元奴隷ザイド・ブン・ハーリサの息子である。何万ものアラブの貴人たちの前で、アッラーの使徒 ﷺ の後ろに乗るよう選ばれたのは、**肌の黒い若者、元奴隷の息子**だったのである。

ジャービルによれば、使徒は**アル＝カスワーの手綱を強く引き締め、その頭が鞍に触れそうになるほどであった**。そして右手で人びとに合図された。「**人びとよ、落ち着きなさい、落ち着きなさい！**」 砂丘に差しかかるたびに、ラクダが登れるよう手綱を少し緩められた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

イブン・アッバース رضي الله عنهما も、使徒が後ろで騒がしい声とラクダを打つ音を聞き、鞭で合図して言われたと伝えている。「**人びとよ、落ち着きなさい。善とは急ぐことにあるのではない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1671 番）。

この教訓は、何百万もの人が一斉に移動する今日の巡礼の混雑の中で、非常に大きな意味を持つ。**落ち着きと規律**は単なる作法ではなく、命を救うものである。他人を押しのけ傷つけて行う崇拝行為は、外形が完全であっても、その魂を失ってしまう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムズダリファの夜

一行は日が暮れてから**ムズダリファ**に着いた。そこでアッラーの使徒 ﷺ は**一度のアザーンと二度のイカーマでマグリブとイシャー**の礼拝をされ、その間に任意の礼拝はされなかった。それから使徒は**夜明けまで横になって眠られた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。これこそアッラーが命じられたことである。

「アラファートから、どっと下ってきて、聖なる場所（ムズダリファ）でアッラーを唱えて念じなさい。」（雌牛章 2:198） — 『イブン・カスィール注釈』2:198。

注目してほしい。アラファで一日中祈った後、アッラーの使徒 ﷺ は**眠られた**。翌日は巡礼の中で最も忙しい日であったため、その夜を長い夜の礼拝で過ごすことはされなかった。使徒のスンナは**均衡**を教えている。崇拝行為には力が必要であり、体には休む権利があるのである。

アーイシャ رضي الله عنها によれば、体が大きく動きの遅かった使徒の妻**サウダ** رضي الله عنها は、人びとが混み合う前にムズダリファを**早めに出発する許しを求め**、使徒はそれを許された（『サヒーフ・ブハーリー』第 1681 番）。学者たちはここから、**弱い人びと** — 女性、老人、そして彼らの世話をする者 — が真夜中を過ぎてからムズダリファを離れてよいという軽減を導き出している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖なる標識（マシュアル・ハラーム）とムハッスィルの谷

ファジュルの礼拝を時刻の初めに終えると、アッラーの使徒 ﷺ はアル＝カスワーに乗って**聖なる標識（アル＝マシュアル・アル＝ハラーム）**まで行かれた。そこでキブラに向かい、祈り、アッラーの偉大さを唱え、アッラーのほかに神はないと唱え、その唯一性を讃え、**空がすっかり明るくなるまで立ち続けられた**。それから**日が昇る前に**出発された（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

日の出前に出発することもまた、**ジャーヒリーヤの慣行の是正**である。かつての多神教徒は、サビール山の上に日が昇るのを待ってからムズダリファを出発していた（『サヒーフ・ブハーリー』第 1684 番）。アッラーの使徒 ﷺ は、日没後にアラファを出発されたときと同様、ここでも彼らと異なるやり方をされたのである。

このとき使徒の後ろに乗っていたのは、使徒のいとこ**アル＝ファドル・ブン・アル＝アッバース**であった。彼は美しい若者であった。女性の一団がそばを通り過ぎ、アル＝ファドルは彼女たちを見始めた。アッラーの使徒 ﷺ は**アル＝ファドルの顔に手を当て**、別の方へ向けられた。アル＝ファドルが反対側から見ようとすると、使徒はまたその側に手を回して顔をそらされた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

使徒の教え方を見てほしい。**怒ることもなく、恥をかかせることもなく**、ただ優しい手で視線をそらされたのである。視線を慎むことはアッラーの命令であり、巡礼の最中にあってもアッラーの使徒 ﷺ はそれを守られた。**ムハッスィルの谷の底**に着くと、使徒は**ラクダの歩みを少し速められた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。学者たちはこの谷を象の軍勢の出来事に関わる場所として挙げており（『クルアーンの物語』第 39 巻）、そこを速やかに通り過ぎることがスンナである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャムラト・アル＝アカバへの投石

ムハッスィルの谷から、使徒は**大ジャムラ（ジャムラト・アル＝アカバ）**へ通じる中央の道を進まれた。そして谷底から、**七つの小石**をそれに投げられた。一投ごとにアッラーは偉大なりと唱えられ、その石は指先ではじいて投げるほどの豆粒大であった（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。この日には、ジャムラト・アル＝アカバだけに投石する。

乗り物の上から投石しながら、使徒は巡礼全体の原則となる言葉を述べられた。ジャービル رضى الله عنه は伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1297 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، وَعَلِيُّ بْنُ خَشْرَمٍ، جَمِيعًا عَنْ عِيسَى بْنِ يُونُسَ، - قَالَ ابْنُ خَشْرَمٍ أَخْبَرَنَا عِيسَى، - عَنِ ابْنِ جُرَيْجٍ، أَخْبَرَنِي أَبُو الزُّبَيْرِ، أَنَّهُ سَمِعَ جَابِرًا، يَقُولُ رَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَرْمِي عَلَى رَاحِلَتِهِ يَوْمَ النَّحْرِ وَيَقُولُ لِتَأْخُذُوا مَنَاسِكَكُمْ فَإِنِّي لاَ أَدْرِي لَعَلِّي لاَ أَحُجُّ بَعْدَ حَجَّتِي هَذِهِ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った。わたしは預言者 ﷺ が**犠牲の日に乗り物の上から（ジャムラに）投石されている**のを見た。使徒はこう言われていた。「**（わたしから）あなたがたの巡礼の儀式を学びなさい。わたしには分からない。もしかすると、この巡礼の後、わたしはもう巡礼をしないかもしれない。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：イスハーク・ブン・イブラーヒーム（イブン・ラーハワイヒ）とアリー・ブン・ハシュラム、両者とも ← イーサー・ブン・ユーヌス（イブン・ハシュラムは「イーサーがわたしたちに伝えた」と言った） ← イブン・ジュライジュ ← アブー・アッ＝ズバイル ← （聞いた）ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』巡礼の書、犠牲の日に乗り物に乗ってジャムラト・アル＝アカバに投石することが推奨されるの章、ハディース第 1297 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

典拠：https://sunnah.com/muslim:1297

このハディースの教訓

「**わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい**」 — だからこそ、別れの巡礼の細部の一つひとつが、教友たちによってこれほど丹念に伝えられたのである。彼らは、これが最後の機会かもしれないと理解していた。そして「**もしかすると、この巡礼の後、わたしはもう巡礼をしないかもしれない**」という言葉は現実となった。使徒は三か月もたたないうちに亡くなられたのである。

ジャムラへの投石は、その石柱が悪魔そのものだという意味で悪魔に石を投げることではない。それは**服従と唱念の崇拝行為**であり、アッラーの使徒 ﷺ のスンナに従い、悪魔に対するわたしたちの敵意を思い起こすものである。だから怒りをぶつけたり、履物や大きな石を投げたりすることに意味はない。スンナは、アッラーは偉大なりと唱えながら、落ち着いて小石を投げることである。

一部の学者は、ジャムラへの投石の起源を、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がそれらの場所で悪魔の誘惑を退けた物語と結びつけている。この物語の伝承は伝承集や注釈書に見られるが、わたしたちにとって確かなのは次のことである。アッラーの使徒 ﷺ が投石されたので、わたしたちは**使徒に従って**投石するのである。

アッラーの使徒 ﷺ はまた、この事柄で行き過ぎないよう戒められた。使徒は小石を選び、こう言われた。「**宗教において度を越すことを避けなさい。あなたがた以前の共同体を滅ぼしたのは、宗教において度を越すことであった。**」（『スナン・イブン・マージャ』第 3029 番 — 真正）。この言葉は投石の石を選ぶ場面で述べられたものだが、宗教全体における一般原則となっている。

今日では、多層のジャマラート橋のおかげで、何百万もの巡礼者がより安全に投石できるようになった。それでも規律は欠かせない。定められた時間割に従い、流れ

に逆らって引き返さず、老人や女性の安全を守ること。これこそ、使徒の「落ち着きなさい、落ち着きなさい」という言葉を現代に生かすことである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

百頭の犠牲のラクダ

それからアッラーの使徒 ﷺ は屠殺の場所へ行かれた。使徒は**六十三頭のラクダをご自身の手で屠られ**、残りをアリーに任せて屠らせ、アリーをご自分の犠牲に加わらせた。それから使徒は、**各ラクダから一切れの肉**を鍋に入れて煮るよう命じられ、使徒とアリーはその肉を食べ、その汁を飲まれた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

学者たちは**六十三**という数に注目している。それは**アッラーの使徒** ﷺ のそのときの年齢と同じである。中には、感謝のしるしとして、使徒の生涯の一年ごとに一頭を捧げられたかのようだと考える者もいる。これは**学者たちの観察**であって明確な典拠ではないが、思いを巡らすには美しいものである。

しかしアッラーは、本当にご自身に届くものが何かを思い起こさせておられる。**「それらの肉も血も、決してアッラーに達する訳ではない。かれに届くのはあなたがたの篤信〔タクワー〕である。」**（巡礼章 22:37） — 『イブン・カスィール注釈』22:37。

百頭のラクダは非常に大きな財産である。しかし評価されるのはその数ではなく、**犠牲の背後にある篤信**である。犠牲の肉は、「あなたがたはそれを食べ、また困窮している者にも食べさせなさい」（巡礼章 22:28）という命令に従って、貧しい人びとに分け与えられた。

アッラーの使徒 ﷺ は犠牲の大部分を**ご自身で屠られた**。これは、指導者が自らの手で働くことを恥じないこと、そして犠牲は可能であれば自分で屠る方が優れていることを示している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

頭を剃った者のための祈り

犠牲の後、アッラーの使徒 ﷺ は**頭を剃られた**。そのとき使徒は祈られた。**「アッラーよ、頭を剃った者たちに慈悲を。」** 教友たちは言った。「髪を短くした者たちにも、アッラーの使徒よ。」 使徒は再び祈られた。「アッラーよ、頭を剃った者たちに慈悲を。」 彼らが再び尋ねると、使徒はついに言われた。**「髪を短くした者たちにも。」**（『サヒーフ・ブハーリー』第 1727 番）

頭を剃った者のための祈りが繰り返されたことは、男性にとっては**剃髪の方が優れている**ことを示している。飾りである髪をアッラーのために落とすことは、完全な服従を表すからである。しかし髪を短くすることも有効であり、祈りの対象となっている。女性に定められているのは、剃髪ではなく、髪の先を**少しだけ短くすること**である。

頭を剃るか髪を短くすることで、巡礼者は**第一の解禁（タハッルル・アウワル）**に達する。夫婦の交わりを除き、イフラームの禁止事項はすべて解かれる。完全な解禁は、イファーダのタワーフの後に得られる。

ハディース集によれば、その日剃られたアッラーの使徒 ﷺ の髪は**教友たちに分け与えられた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1305 番）。彼らは使徒への愛からそれを大切に保管した。これはアッラーの使徒 ﷺ ご自身に限られたことであり、ほかの人に類推して当てはめることはできない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「行いなさい、差し支えはない」

犠牲の日に、アッラーの使徒 ﷺ は四つの行為を順に行われた。**投石、屠殺、剃髪、そしてタワーフ**である。しかし、誰もがその順序どおりに行えたわけでも、それを知っていたわけでもなかった。そこで人びとは尋ねに来た。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1736 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عِيسَى بْنِ طَلْحَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عَمْرٍو، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَقَفَ فِي حَجَّةِ الْوَدَاعِ، فَجَعَلُوا يَسْأَلُونَهُ، فَقَالَ رَجُلٌ لَمْ أَشْعُرْ فَحَلَقْتُ قَبْلَ أَنْ أَذْبَحَ. قَالَ اذْبَحْ وَلاَ حَرَجَ. فَجَاءَ آخَرُ فَقَالَ لَمْ أَشْعُرْ فَنَحَرْتُ قَبْلَ أَنْ أَرْمِيَ. قَالَ ارْمِ وَلاَ حَرَجَ. فَمَا سُئِلَ يَوْمَئِذٍ عَنْ شَيْءٍ قُدِّمَ وَلاَ أُخِّرَ إِلاَّ قَالَ افْعَلْ وَلاَ حَرَجَ.

訳：

アブドッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ は**別れの巡礼で立ち止まられ**、人びとは使徒に質問し始めた。一人の男が言った。「気づかずに、屠る前に頭を剃ってしまいました。」 使徒は言われた。「**屠りなさい、差し支えはない。**」 別の男が来て言った。「気づかずに、投石の前に屠ってしまいました。」 使徒は言われた。「**投げなさい、差し支えはない。**」 その日、先にしたり後にしたりしたことについて尋ねられると、使徒は決まってこう言われた。「**行いなさい、差し支えはない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← イマーム・マーリク・ブン・アナス ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← イーサー・ブン・タルハ ← アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、ジャムラのそばで乗り物の上から法的見解を与えるの章、ハディース第 1736 番。第 83、124 番、およびムスリム第 1306 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1736

このハディースの教訓

このハディースは、**イスラームのシャリーアの容易さ**を示す最大の根拠の一つである。混み合う中、初めて巡礼をする何万もの人びとを前にして、アッラーの使徒 ﷺ は彼らを叱ることも、重荷を負わせることもされなかった。使徒の答えは短く、人を安心させるものであった。「**行いなさい、差し支えはない。**」

また、最も忙しい日のさなかに、使徒が人びとの質問に答えるため**立ち止まって時間を割かれた**ことにも注目してほしい。良い指導者、良い教師は、質問を邪魔だとは考えない。今日の学者や巡礼の指導者も、この姿勢に倣わなければならない。**易しくし、難しくしない**ことである。

しかし、この容易さは、崇拝行為を好き勝手に行ってよいという意味ではない。質問した人びとは「気づかずに」と言っている。彼らは間違えたのであって、もてあそんだのではない。シャリーアは**誠実に努める**者に対して易しいのであり、この原則はわたしたちの生活のあらゆる崇拝行為に及ぶ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イファーダのタワーフとザムザムの水

その後、アッラーの使徒 ﷺ はラクダに乗って聖なる館へ行き、**イファーダのタワーフ**を行われた。これはそれなしには巡礼が成り立たない柱である。使徒は**マッカでズフルの礼拝をされた**（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。このタワーフによって、使徒は完全な解禁に達せられた。

それから使徒は、巡礼者にザムザムの水を飲ませていた**アブドルムッタリブ家**の所へ来て言われた。「**アブドルムッタリブ家の者たちよ、汲みなさい。もし人びとがあなたがたからこの水を飲ませる務めを奪い合うことにならなければ、わたしもあなたがたと一緒に汲んだであろう。**」 彼らが使徒に桶を一つ差し出すと、使徒はそこから飲まれた（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

この言葉は**アッラーの使徒** ﷺ の知恵を示している。使徒は手伝いたかったが、もしご自分で汲めば、人びとはそれを巡礼のスンナとみなして**われ先にと汲もう**とし、使徒の祖父の時代から受け継がれてきたアブドルムッタリブ家の給水の務め（スィカーヤ）の権利が失われてしまうことをご存じだったのである。使徒は**ご自分の行いが共同体に及ぼす影響**を考えておられた。

ザムザムの水そのものが、預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ とその母ハージャルの時代から絶えることのないアッラーの賜物である。アッラーの使徒 ﷺ の祖父アブドルムッタリブは、何世紀も埋もれていたその井戸を掘り直した。今、その孫が、宗教を完成させた巡礼においてその水を飲まれたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ミナーでのタシュリークの日々

アッラーの使徒 ﷺ はミナーに戻り、**タシュリークの日々**（ズル＝ヒッジャ月 11 日、12 日、13 日）をそこで過ごされた。アッラーはこれらの日々について仰せられた。

「定められた数日間、アッラーを念じなさい。」（雌牛章 2:203） — 『イブン・カスィール注釈』2:203。

タシュリークの日々には毎日、太陽が南中を過ぎた後、**三つのジャムラすべてに投石する**。小ジャムラ（第一）、中ジャムラ、そしてアル＝アカバの順に、それぞれ七つの小石を投げる。スンナに従うことにきわめて几帳面であったイブン・ウマル رضي الله عنهما は、第一のジャムラに投石すると平地へ進み出て、**キブラに向かって長い間立ち、手を上げて祈った**。第二のジャムラの後も同じようにしたが、ジャムラト・アル＝アカバの後には立ち止まらなかった。彼は言った。「わたしは預言者 ﷺ がこのようにされるのを見た。」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1751 番）。

使徒の父方のおじ**アル＝アッバース** رضي الله عنه は、巡礼者に水を飲ませる務めがあったため、ミナーの夜をマッカで過ごす許しを求め、使徒は**それを許された**（『サヒーフ・ブハーリー』第 1634 番）。学者たちはここから、巡礼者の利益のための務めを持つ者への軽減を導き出している。

その節はまた選択を与えている。**「誰でも急ぐならば、2 日目（に帰っ）ても罪にはならない。また留まっても罪ではない。」** アッラーの使徒 ﷺ ご自身は三日目（ズル＝ヒッジャ月 13 日）まで留まり、それからマッカ郊外のアル＝アブタフ（アル＝ムハッサブ）へ出発された。

> **スィーラ・ノート：援助章とタシュリークの日々**
>
> 注釈書の一部の伝承によれば、**援助章（アン＝ナスル）** —「アッラーの援助と勝利が来て」 — は別れの巡礼のタシュリークの日々にミナーで下り、アッラーの使徒 ﷺ はそこからご自分の最期が近いことを悟られたという。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この章が下った時と場所に関する伝承は、ハディース学者によって**その伝承経路が議論されている**。真正なのは、イブン・アッバース رضي الله عنهما がウマルの前で、この章は**アッラーの使徒** ﷺ の最期が近いことの示唆であると解釈したことである（『サヒーフ・ブハーリー』第 4970 番）。

参照：

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』援助章。https://tafsir.app/ibn-katheer/110/1

犠牲の日の説教

アラファでの説教のほかに、アッラーの使徒 ﷺ は**犠牲の日**にもミナーで説教をされた。イブン・アッバース رضي الله عنهما によれば、使徒は尋ねられた。「**人びとよ、今日は何の日か。**」 彼らは答えた。「聖なる日です。」 使徒は尋ねられた。「ここはどの地か。」 彼らは答えた。「聖なる地です。」 使徒は尋ねられた。「今は何の月か。」 彼らは答えた。「聖なる月です。」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1739 番）

それから使徒は言われた。「**まことに、あなたがたの血と財産と名誉は、あなたがたのこの地における、このあなたがたの月の、このあなたがたの日が神聖であるように、互いに侵してはならない神聖なものである。**」 使徒はこれを何度か繰り返し、それから頭を上げて言われた。「**アッラーよ、わたしは伝えなかったでしょうか。アッラーよ、わたしは伝えなかったでしょうか。**」 イブン・アッバースは言った。「わが魂をその御手に握る御方にかけて、それこそ使徒の共同体への遺言であった。」

使徒はこの説教を次の言葉で締めくくられた。「**ここにいる者は、いない者に伝えなさい。わたしの後で不信仰に戻り、互いに首を打ち合ってはならない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1739 番）。「**ここにいる者は、いない者に伝えなさい**」という言葉こそ、この知識が今日わたしたちに届いた理由なのである。

別れの巡礼の説教 — アラファでの説教、犠牲の日のミナーでの説教、そしてタシュリークの日々の説教 — の内容は、インシャーアッラー、**第 29 巻『別れの説教』**でまとめて詳しく取り上げる。そこでは、これらの説教が時代に先駆けた**人権の憲章**となったことを見ることになる。

アーイシャのウムラとサフィーヤの月経

サリフでのアーイシャ رضي الله عنها の涙を覚えているだろうか。彼女は清くなって巡礼を果たすことができたが、ほかの教友たちが**ハッジとウムラ**を携えて帰るのに、自分のウムラは月経のためにハッジに変わってしまったことを悲しんだ。アッラーの使徒 ﷺ は彼女の兄**アブドッラフマーン・ブン・アビー・バクル**に、彼女を**タンイーム**へ連れて行くよう命じられ、彼女はそこでイフラームに入り、巡礼の後にウムラを行った（『サヒーフ・ブハーリー』第 1785 番）。

アッラーの使徒 ﷺ は「もういい、あなたの巡礼はもう有効だ」とは言われなかった。使徒は、ほかの人びとと同じ報奨を持って帰りたいという**妻の願いをかなえられた**のである。彼女がイフラームに入ったその場所は、今ではタンイームの**アーイシャ・マスジド**として知られ、今日に至るまでマッカにいる多くの巡礼者がそこからウムラのイフラームに入っている。

使徒のもう一人の妻**サフィーヤ・ビント・フヤイ** رضي الله عنها は、帰路につく日を前に月経になった。それを告げられると、アッラーの使徒 ﷺ は尋ねられた。**「彼女はわたしたちを引き止めることになるのか。」** 人びとは、サフィーヤが**すでにイファーダのタワーフを済ませた**と答えた。使徒は言われた。**「それなら、（引き止めることには）ならない。」**（『サヒーフ・ブハーリー』第 1757 番）

この二つの話は、巡礼における**女性の状況に対するアッラーの使徒 ﷺ の配慮**を示している。月経中の女性の巡礼に関する規定 — タワーフ以外のすべての儀式を行えること、イファーダのタワーフを済ませていれば別れのタワーフが免除されること — は、すべてこれらの出来事から導かれている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れのタワーフ

マッカを去る前に、アッラーの使徒 ﷺ は夜明け前に**別れのタワーフ（タワーフ・アル＝ワダーア）**を行い、それからマディーナへの帰路につかれた。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその規定を述べている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1755 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ ابْنِ طَاوُسٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أُمِرَ النَّاسُ أَنْ يَكُونَ آخِرُ عَهْدِهِمْ بِالْبَيْتِ، إِلاَّ أَنَّهُ خُفِّفَ عَنِ الْحَائِضِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。**人びとは、（マッカを去る前の）最後の務めが聖なる館（での別れのタワーフ）となるよう命じられた。**ただし、**月経中の女性には軽減が与えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド・ブン・ムサルハド ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アブドッラー・ブン・ターウース ← その父ターウース・ブン・カイサーン ← アブドッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、別れのタワーフの章、ハディース第 1755 番。ムスリム第 1328 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1755

このハディースの教訓

別れのタワーフは、**カアバをマッカでの巡礼者の最後の務め**とする。礼儀正しい客は、別れを告げずに主人の家を去ることはない。巡礼者もそのようにアッラーの館を去る。タワーフと祈りと、別れがたい重い心をもって。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフィーヤの話に見られる月経中の女性への軽減は、**シャリーアは人に能力以上の重荷を負わせない**ことを改めて示している。その女性は何日も待つ必要も、一行全体を引き止める必要もないのである。

アッラーの使徒 ﷺ にとって、このタワーフはまさに**別れのタワーフ**であった。使徒が再びカアバを目にすることはなかった。祖先イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が建て、使徒が偶像から清め、共同体全体のキブラとなった館 — 使徒はその朝、それを最後に後にされたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナへの帰還とガディール・フンム

帰路、一行はマッカとマディーナの間にある**フンム**と呼ばれる水場に止まった。**ザイド・ブン・アルカム** رضي الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は立って説教をし、アッラーを讃え、勧告と戒めを与え、それから言われた。「**人びとよ、わたしはただの人間にすぎない。わが主の使い（死の天使）が間もなく来て、わたしはそれに応じるであろう。わたしはあなたがたに二つの重いものを残す。第一はアッラーの啓典であり、そこには導きと光がある。だからアッラーの啓典に固くすがりなさい……そしてわたしの家族である。わたしの家族について、あなたがたにアッラーを思い起こさせる**」と、三度言われた（『サヒーフ・ムスリム』第 2408 番）。

別の伝承で、使徒はアリー رضي الله عنه についてこう言われた。「**わたしを盟友（ワリー）とする者は、アリーを盟友とせよ**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3713 番 — 真正）。スンナ派の学者たちは、ここでの**ワリー**は**愛情と擁護**を意味すると説明している。それより前、ブライダ رضي الله عنه がイエメンでの五分の一（フムス）の分け前のことでアリーについて不満を述べたとき、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**彼を嫌ってはならない。彼には五分の一の中にそれ以上の取り分があるのだから**」（『サヒーフ・ブハーリー』第 4350 番）。

ガディール・フンムでの言葉には二つの託されたものが含まれている。**アッラーの啓典に固くすがること**、そして**アッラーの使徒** ﷺ の家族を尊ぶことである。使徒の家族 — アリー、ファーティマ、アル＝ハサン、アル＝フサイン、そして使徒の一族 — を愛することは信仰の一部であり、行き過ぎることなく、ほかの教友たちを貶めることもない。この二つの託されたものは互いに補い合っている。

一行はマディーナへの旅を続けた。町が見えると、使徒は旅から戻るときの常として、アッラーは偉大なりと唱え、祈られた。使徒はヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月の終わりにマディーナに戻られた。そして**三か月もたたないうちに**、この世を去られることになる（第 30 巻）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：477 / 634

イフラード、キラーン、タマットゥ：アッラーの使徒 ﷺ はどのように巡礼されたか

第 13 章では、別れの巡礼から見いだされた巡礼の三つの方法を簡単に述べた。本章ではそれをさらに詳しく説明する。これこそ巡礼を志す人びとが最もよく尋ねる質問だからである。わたしはどの巡礼を意図すべきか。そしてアッラーの使徒 ﷺ ご自身はどの巡礼を行われたのか。

種類	方法	ダム（償いの犠牲）	根拠
イフラード	ハッジのみのイフラームに入る。ウムラは（望むなら）ハッジの後に行う	不要	『サヒーフ・ムスリム』1211（アーイシャ：わたしたちの中にはハッジのみのイフラームに入った者もいた）
キラーン	ハッジとウムラのイフラームに同時に入り、犠牲の日までイフラームを保つ	必要	『サヒーフ・ムスリム』1251；『サヒーフ・ブハーリー』1534
タマットゥ	巡礼の月にまずウムラを行ってイフラームを解き、ズル＝ヒッジャ月 8 日にハッジのイフラームに入る	必要	雌牛章 2:196；『サヒーフ・ムスリム』1218

クルアーン自体がタマットゥのやり方を述べている。「小巡礼をして、巡礼までの間を楽しむ者は、容易に得られる犠牲を捧げなければならない。」 — 『イブン・カスィール注釈』2:196。

アッラーの使徒 ﷺ の巡礼の種類に関する根拠

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「わたしはアッラーの使徒 ﷺ がハッジとウムラを合わせてタルビヤを唱え、『ラッバイカ・ウムラタン・ワ・ハッジャ

ン（ウムラとハッジをもって、あなたの呼びかけに応えます）』と言われるのを聞いた。」（『サヒーフ・ムスリム』第 1251 番）。

また、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がアキークの谷でこう言われたと伝えている。「昨夜、わが主から使いが来て言った。『この祝福された谷で礼拝し、ハッジの中のウムラと言いなさい。』」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1534 番）。

一方、アーイシャ رضي الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ が「ハッジのイフラームに入られた」と伝えており（『サヒーフ・ムスリム』第 1211 番）、この伝承は使徒がイフラードの巡礼を行われたとする人びとの根拠となっている。

法学ノート：学者たちの意見の相違

アッラーの使徒 ﷺ の巡礼の種類について、学者たちの意見は分かれている。『サヒーフ・ムスリム注釈』のアン＝ナワウィー、イブン・タイミーヤ、『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』のイブン・アル＝カイイムをはじめ、多くの綿密な学者は、使徒が犠牲の動物を連れ、犠牲の日までイフラームを解かれなかったことから、キラーンの巡礼を行われたと考えている。イフラードと述べる伝承は、使徒のイフラームの始まり、あるいは巡礼の行為そのものを指すものと説明されている。

最も優れたやり方についても法学派によって異なる。ハナフィー派はキラーンを優先し、マーリク派とシャーフィイー派はイフラードを優先し（シャーフィイー派では一定の条件のもとで）、ハンバル派は次のアッラーの使徒 ﷺ の言葉に基づいてタマットゥを優先する。「もし後で知ったことを前もって知っていたなら、わたしは犠牲の動物を連れて来ず、これをウムラにしたであろう。」（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）。

三つの方法はいずれも、学者の合意（イジュマー）によって有効である。今日のマレーシアの巡礼者の多くは、聖地に早く到着するためタマットゥの巡礼を行っている。巡礼を志す人は、マレーシア巡礼基金（タブン・ハジ）の巡礼講習の指導と、それぞれの法学派の見解に従うよう勧められている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参照：『サヒーフ・ムスリム』1251；『サヒーフ・ブハーリー』1534；『サヒーフ・ムスリム』1211；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ のただ一度の巡礼から、三つの有効な方法が生まれた。これはシャリーアの広さを示している。アッラーは崇拝行為を一つの形だけに狭められなかった。根拠に基づく意見の相違は尊重されるべきものであって、争いの種にしてはならない。

別れの巡礼の人物たち

別れの巡礼には何万もの人びとが加わったが、真正な伝承の中で繰り返し現れる名前がいくつかある。この表は、彼らをその部族、関係、典拠とともにまとめたものである。

人物	部族／関係	物語での役割	典拠
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	アンサール、ハズラジュ族（サリマ家）	巡礼の様子を最も詳しく伝えるハディースの伝承者 — アッラーの使徒 ﷺ	『サヒーフ・ムスリム』1218
アーイシャ・ビント・アビー・バクル	クライシュ族タイム家；妻 — アッラーの使徒 ﷺ	サリフで月経；巡礼後にタンイームからウムラ	『サヒーフ・ブハーリー』305、1785
サウダ・ビント・ザムア	クライシュ族アーミル・ブン・ルアイイ家；妻 — アッラーの使徒 ﷺ	ムズダリファからの早めの出発を許された	『サヒーフ・ブハーリー』1681
サフィーヤ・ビント・フヤイ	ナディール族；妻 — アッラーの使徒 ﷺ	帰る前に月経；別れのタワーフを免除された	『サヒーフ・ブハーリー』1757
ファーティマ・ビント・ムハンマド	娘 — アッラーの使徒 ﷺ；アリーの妻	ウムラの後にイフラームを解いた	『サヒーフ・ムスリム』1218
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族ハーシム家；アッラーの使徒のいとこであり娘婿 ﷺ	犠牲の動物を連れてイエメンから到着した	『サヒーフ・ムスリム』1218
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	ハーシム家；父方のおじ — アッラーの使徒 ﷺ	給水（スィカーヤ）の務めのため、マッカで夜を過ごすことを許された	『サヒーフ・ブハーリー』1634
アル＝ファドル・ブン・アル＝アッバース	ハーシム家；いとこ — アッラーの使徒 ﷺ	ムズダリファからミナーまで使徒の後ろに乗った	『サヒーフ・ブハーリー』1544、1513

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	物語での役割	典拠
ウサーマ・ブン・ザイド	カルブ族（血統）；解放された元奴隷ザイド・ブン・ハーリサの息子 — 解放者はアッラーの使徒 ﷺ	アラファからムズダリファまで使徒の後ろに乗った；使徒に日陰を差しかけた	『サヒーフ・ブハーリー』1544；『サヒーフ・ムスリム』1298
ビラール・ブン・ラバーフ	アビシニア出身；アブー・バクルによって解放された	アラファでアザーン；使徒のラクダの手綱を持った	『サヒーフ・ムスリム』1218、1298
ウンム・アル＝フサイン・アル＝アフマスィーヤ	バジーラ族（アフマス）	使徒のジャムラト・アル＝アカバへの投石を目撃し、それを伝えた	『サヒーフ・ムスリム』1298
アブー・タルハ・アル＝アンサーリー	アンサール、ハズラジュ族（ナッジャール家）	剃髪後のアッラーの使徒 ﷺ の髪を、分配のために託された	『サヒーフ・ムスリム』1305
アスマー・ビント・ウマイス	ハスアム族；アブー・バクルの妻	ズル＝フライファでムハンマド・ブン・アビー・バクルを産んだ	『サヒーフ・ムスリム』1218
アブドッラフマーン・ブン・アビー・バクル	クライシュ族タイム家；アーイシャの兄	ウムラのためにアーイシャをタンイームへ連れて行った	『サヒーフ・ブハーリー』1785
ハスアム族の女性	ハスアム族	年老いた父のための巡礼について尋ねた	『サヒーフ・ブハーリー』1513

二人の若者が、旅の二つの区間でアッラーの使徒 ﷺ の後ろに乗った。ウサーマはアラファからムズダリファまで、アル＝ファドルはムズダリファからミナーまでである（『サヒーフ・ブハーリー』第 1544 番）。またウンム・アル＝フサインによれば、使徒がジャムラト・アル＝アカバに投石されたとき、ウサーマとビラールのうち一人が使徒のラクダの手綱を持ち、もう一人が布を掲げて使徒を暑さから守っていた（『サヒーフ・ムスリム』第 1298 番）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

剃髪の後、アッラーの使徒 ﷺ はご自分の髪をアブー・タルハ・アル＝アンサーリーに渡し、人びとに分けるようにされた（『サヒーフ・ムスリム』第 1305 番）。教友たちの使徒への愛は、一本の髪さえ大切にするほどであった。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』1544；『サヒーフ・ムスリム』1298；『サヒーフ・ムスリム』1305；イブン・ハジャル『教友識別のための精査（アル＝イサーバ）』。

教訓

一つの一行の中に、家族、妻たち、元奴隷、アンサール、遠い部族の女性、そして若者たちが集っていた。その一人ひとりが、アッラーの使徒 ﷺ から居場所と心配りを受けていた。巡礼は身分にかかわりなく人びとを一つに集めるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

巡礼者の質問とハッジにおける容易さ

別れの巡礼の間じゅう、人びとはそれぞれの事情についてアッラーの使徒 ﷺ に尋ねに来た。第 26 章では犠牲の日の質問を述べた。本章では、その答えが今日まで規定の基礎となっているほかの質問をいくつか集める。

体の不自由な父に代わる巡礼

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、別れの巡礼の年、ハスアム族の一人の女性が来て言った。「アッラーの使徒よ、アッラーがしもべたちに課された巡礼の義務は、わたしの父がすっかり年老いて、乗り物の上にしっかり座っていられなくなったときに及びました。わたしが父に代わって巡礼してもよいでしょうか。」 使徒は答えられた。「よろしい。」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1513 番）

このハディースは代理の巡礼（ハッジ・バダル）の根拠となっている。続く病などで巡礼できない人、あるいは亡くなった人に代わって巡礼することである。シャーフィイー派とハンバル派によれば、代わりに行う人は、まず自分自身の巡礼を済ませていなければならない。

子どもの巡礼

イブン・アッバースによれば、アッラーの使徒 ﷺ はアッ＝ラウハーで一つの一行に出会われた。一人の女性が子どもを抱き上げて尋ねた。「この子にも巡礼がありますか。」 使徒は答えられた。「ある。そしてあなたには報奨がある。」（『サヒーフ・ムスリム』第 1336 番）

学者たちによれば、子どもの巡礼は有効で報奨もあるが、義務の巡礼を果たしたことにはならない。成人して可能になったとき、改めて巡礼をしなければならない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

一生に一度の巡礼

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は説教で言われた。「人びとよ、アッラーはあなたがたに巡礼を課された。だから巡礼をしなさい。」 一人の男が尋ねた。「毎年ですか、アッラーの使徒よ。」 使徒は黙っておられ、その男は三度繰り返した。すると使徒は言われた。「もしわたしが『そうだ』と言えば、それは義務となり、あなたがたにはできなかったであろう。」（『サヒーフ・ムスリム』第 1337 番）

イフラーム中に亡くなった巡礼者

イブン・アッバースによれば、ある男がアラファで立ち止まっていたとき、ラクダから落ちて亡くなった。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「水とナツメ（スィドル）の葉で彼を洗い、彼の二枚の布で包みなさい。香料を付けず、頭を覆ってはならない。彼は審判の日に、タルビヤを唱える姿でよみがえらされるのだから。」（『サヒーフ・ブハーリー』第 1265 番）

毎年、聖地で亡くなる巡礼者がいる。このハディースは遺族に安らぎを与えている。イフラーム中の死は、尊い最期なのである。

> **注：本巻で述べたその他の軽減**
>
> ほかにもいくつかの軽減が、前の章で取り上げられている。出産したばかりの女性がイフラームを続けること（第 4 章）、月経中の女性がタワーフ以外のすべての儀式を行うこと（第 8 章）、弱い人びとがムズダリファを早めに出発すること（第 21 章）、そしてイファーダのタワーフを済ませた月経中の女性は別れのタワーフを免除されること（第 30 章）である。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』1513；『サヒーフ・ムスリム』1336；『サヒーフ・ムスリム』1337；『サヒーフ・ブハーリー』1265。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

アッラーの使徒 ﷺ はどの質問にも易しくする答えを返され、重荷を増やす質問は好まれなかった。巡礼のシャリーアは能力の上に築かれている。体の不自由な人には代理が認められ、子どもには報奨が与えられ、その義務は一生に一度だけなのである。

別れの巡礼の場所：昔と今

別れの巡礼でアッラーの使徒 ﷺ が立ち寄られた場所のほとんどは今も存在し、毎年何百万もの巡礼者が訪れている。この表は、物語に出てくる場所を今日の様子と結びつけるものである。

場所	別れの巡礼での出来事	今日の様子
ズル＝フライファ	ミーカート；礼拝とタルビヤの開始；アスマーの出産（第 4 章）	アブヤール・アリーとして知られる；ミーカート・マスジド（シャジャラ・マスジド）は預言者のマスジドから約 14 キロ
アル＝バイダー	ラクダが立ち上がったときのタルビヤ（第 4 章）	ズル＝フライファ近くの高台
サリフ	アーイシャに月経（第 8 章）	マッカの北、タンイームの近く
マスジド・ハラーム	タワーフ、サアイ、イファーダのタワーフ（第 9〜12 章、第 27 章）	幾度も拡張され、サアイの場所は今では多層になっている
ミナー	タルウィヤの日；タシュリークの日々（第 15 章、第 28 章）	天幕の町；ハイフ・マスジド
ナミラとウラナの谷	使徒の天幕；アラファの説教（第 16〜17 章）	ナミラ・マスジド。建物の一部はアラファの境界外のウラナの谷にあり、標識で示されている
アラファ	ウクーフ；5:3 の節が下る（第 18〜19 章）	慈悲の山（ジャバル・アッ＝ラフマ）；境界が標示されている
ムズダリファとアル＝マシュアル・アル＝ハラーム	夜の滞在と唱念（第 21〜22 章）	マシュアル・ハラーム・マスジド
ムハッスィルの谷	使徒が歩みを速められた（第 22 章）	ムズダリファとミナーの間に標示されている

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	別れの巡礼での出来事	今日の様子
ジャムラト・アル＝アカバとジャマラート	投石（第 23 章、第 28 章）	5 層のジャマラート橋。2006 年に旧橋が取り壊された後に建設された
タンイーム	アーイシャのウムラ（第 30 章）	アーイシャ・マスジド；マッカの住民がウムラのイフラームに入る場所
ガディール・フンム	帰路での説教（第 32 章）	マッカとマディーナの間、アル＝ジュフファの近く

今日のジャマラート橋は 5 層で、その基礎は 12 層まで支えられるよう設計されている。ナミラ・マスジドは約 11 万平方メートルの広さがあり、40 万人以上の巡礼者を収容できる。マスジドの一部は、『ムワッタア』と『スナン・イブン・マージャ』の伝承によれば立ち止まりの場所から除かれているウラナの谷にあるため、内部にはアラファの境界を示す標識がある。

参照：サウディペディア「Miqat Dhu al-Hulayfah」；サウディペディア「How Many Floors Does the Jamaraat Bridge Have?」；ディスカバー・マッカ「Namira Mosque」；ウィキペディア「Masjid al-Namirah」。

教訓

巡礼の場所の姿は今日では変わったが、その儀式はアッラーの使徒 ﷺ が教えられたとおりに保たれている。それぞれの場所の歴史を知る巡礼者は、使徒の足跡を一歩一歩たどっているかのように感じるであろう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

日ごとの年表

この表は、ジャービルのハディース（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番）とほかの伝承に基づいて、別れの巡礼の旅を日ごとに並べたものである。日付の一部はスィーラ学者による推定であり、そのように記している。

日付（ヒジュラ暦 10 年）	出来事	典拠
ズル＝カアダ月 25 日	ズフル後にマディーナを出発；ズル＝フライファでアスルを二ラクアで礼拝し、そこで夜を過ごす	『サヒーフ・ブハーリー』1545；スィーラ書
ズル＝カアダ月 26 日	イフラームに入り、タルビヤを唱える；アスマー・ビント・ウマイスの出産	『サヒーフ・ムスリム』1218
ズル＝ヒッジャ月 3 日ごろ	サリフでアーイシャに月経	『サヒーフ・ブハーリー』305
ズル＝ヒッジャ月 4 日	マッカに入る；タワーフとサアイ；犠牲の動物のない者はイフラームを解く	『サヒーフ・ブハーリー』1545；『サヒーフ・ムスリム』1218
ズル＝ヒッジャ月 5〜7 日	使徒はアル＝アブタフに滞在；アリーがイエメンから到着	『サヒーフ・ムスリム』1218
ズル＝ヒッジャ月 8 日（タルウィヤ）	ミナーへ；そこでズフルから翌朝のファジュルまで礼拝	『サヒーフ・ムスリム』1218
ズル＝ヒッジャ月 9 日（金曜日）	ナミラ；ウラナの谷で説教；ズフルとアスルの合わせ礼拝；日没までウクーフ；食卓章 5:3 が下る	『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』45
ズル＝ヒッジャ月 10 日の夜	ムズダリファ：マグリブとイシャーの合わせ礼拝、ファジュルまで睡眠	『サヒーフ・ムスリム』1218

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

日付（ヒジュラ暦 10 年）	出来事	典拠
ズル＝ヒッジャ月 10 日（犠牲の日）	マシュアル・ハラーム、ムハッスィルの谷、ジャムラト・アル＝アカバ、犠牲、剃髪、イファーダのタワーフ、犠牲の日の説教	『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』1739
ズル＝ヒッジャ月 11〜13 日（タシュリーク）	太陽の南中後、三つのジャムラに投石	『サヒーフ・ブハーリー』1751
ズル＝ヒッジャ月 13 日	ミナーを出発し、アル＝ムハッサブ（アル＝アブタフ）に止まる	スィーラ書
ズル＝ヒッジャ月 14 日の夜	アーイシャがタンイームからウムラを行う	『サヒーフ・ブハーリー』1785
ズル＝ヒッジャ月 14 日	別れのタワーフ；マディーナへの帰路につく	『サヒーフ・ブハーリー』1755
ズル＝ヒッジャ月 18 日	ガディール・フンムでの説教（日付はスィーラ書による）	『サヒーフ・ムスリム』2408；スィーラ書
ズル＝ヒッジャ月末	マディーナに到着	スィーラ書

教訓

別れの巡礼は全体でおよそ一か月に及んだが、その毎日が教えに満ちていた。この順序を理解している今日の巡礼者は、毎日何をするのか、そしてなぜそうするのかを知っているので、より落ち着いていられるであろう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：490 / 634

別れの巡礼についてよくある質問

1. この巡礼はなぜ「別れの巡礼」と呼ばれるのか。

アッラーの使徒 ﷺ が共同体に別れを告げるかのようであり、実際その約三か月後に亡くなられたからである（『サヒーフ・ブハーリー』第 4402 番；第 2 章）。

2. アッラーの使徒 ﷺ はヒジュラ後に何度巡礼されたか。

ただ一度、ヒジュラ暦 10 年の別れの巡礼だけである（第 1 章）。

3. アッラーの使徒 ﷺ はどの種類の巡礼を行われたか。

綿密な学者の多くはキラーンと考えている。使徒は犠牲の動物を連れ、ウムラとハッジを合わせてタルビヤを唱えられたからである。イフラードと考える学者もいる（『サヒーフ・ムスリム』第 1251、1211 番；第 33 章）。

4. 別れの巡礼の巡礼者は何人いたか。

真正なハディースに数字はない。スィーラ書には 9 万人、11 万 4 千人などの推定が見られる。確かなのは、非常に多くの人がいたということである（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番；第 7 章）。

5. 「今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し」という節はいつ下ったか。

金曜日に当たったアラファの日の午後、アッラーの使徒 ﷺ が立ち止まっておられたときである（『サヒーフ・ブハーリー』第 45 番；第 18 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6.「わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい」とはどういう意味か。

アッラーの使徒 ﷺ の巡礼の行為の一つひとつが手引きとなるということである。使徒はジャムラト・アル＝アカバに投石しながらこう言われた（『サヒーフ・ムスリム』第 1297 番；第 23 章）。

7. 親に代わって巡礼してもよいか。

よい。親が続く病で巡礼できないか、すでに亡くなっている場合で、（シャーフィイー派とハンバル派によれば）自分自身はすでに巡礼を済ませていることが条件である（『サヒーフ・ブハーリー』第 1513 番；第 35 章）。

8. 子どもの巡礼は有効か。

有効で報奨もあるが、成人して可能になったときには義務の巡礼を行わなければならない（『サヒーフ・ムスリム』第 1336 番；第 35 章）。

9. 犠牲の日に儀式の順序を間違えたらどうなるか。

何かを先にしたり後にしたりした人びとに、アッラーの使徒 ﷺ は「行いなさい、差し支えはない」と答えられた（『サヒーフ・ブハーリー』第 1736 番；第 26 章）。

10. 月経中の女性は巡礼できるか。

できる。清くなるまでタワーフ以外のすべての儀式を行い、イファーダのタワーフを済ませていれば別れのタワーフは免除される（『サヒーフ・ブハーリー』第 305、1757 番；第 8 章、第 30 章）。

11. アッラーの使徒 ﷺ はアラファの日にどこで説教されたか。

今日のナミラ・マスジドの近く、ウラナの谷である（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番；第 17 章、第 36 章）。その説教の内容は第 29 巻で詳しく取り上げる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

12. アッラーの使徒 ﷺ は何頭のラクダを犠牲にされたか。

百頭である。使徒は六十三頭をご自身の手で屠り、残りはアリーが屠った（『サヒーフ・ムスリム』第 1218 番；第 24 章）。

教訓

巡礼についての質問は尽きることがないが、その答えはただ一つの源に帰る。アッラーの使徒 ﷺ が行い、教えられたことである。それこそ、この別れの巡礼における使徒の遺言なのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

別れの巡礼は単なる一つの崇拝行為ではない。それはイスラームの歴史における**最大の公開教室**であり、そこでアッラーの使徒 ﷺ は何万もの人びとに直接教えられた。使徒の巡礼の儀式は、次のようにまとめることができる。

日付と場所	行い — アッラーの使徒 ﷺ
ズル＝カアダ月 25 日、ズル＝フライファ	沐浴、イフラーム、礼拝、タルビヤ
ズル＝ヒッジャ月 4 日、マッカ	到着のタワーフ（ラマル）、立処での礼拝、サアイ
ズル＝ヒッジャ月 8 日、ミナー	五回の礼拝、短縮するが合わせない
ズル＝ヒッジャ月 9 日、アラファ	説教、ズフルとアスルの合わせ礼拝、日没までウクーフ
10 日の夜、ムズダリファ	マグリブとイシャーの合わせ礼拝、睡眠、早めのファジュル
ズル＝ヒッジャ月 10 日、ミナー	アカバへの投石、犠牲、剃髪、説教
ズル＝ヒッジャ月 10 日、マッカ	イファーダのタワーフ、ザムザムを飲む
ズル＝ヒッジャ月 11〜13 日、ミナー	三つのジャムラに投石、長く祈る
ズル＝ヒッジャ月 14 日、マッカ	別れのタワーフ、マディーナへ帰る

この旅から、わたしたちは次の教訓を学ぶことができる。

教訓	本巻から
スンナに従う	「わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい」
純粋なタウヒード	タルビヤ、サファー、イブラーヒームの立処
迷信ではなく崇拝	ウマルと黒石
平等	皆がアラファに立つ；ウサーマが後ろに乗る

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓	本巻から
容易さ	「行いなさい、差し支えはない」
安らぎ	「人びとよ、落ち着きなさい、落ち着きなさい！」
女性への配慮	アーイシャ、アスマー、サウダ、サフィーヤ
宗教は完成した	アラファで下った食卓章 5:3

わたしたちの生活の中の巡礼

誰もが巡礼できるわけではないが、すべてのムスリムは**巡礼の精神**を生活の中に持ち続けることができる。「ラッバイク」とアッラーの呼びかけに応え、あらゆる事柄においてアッラーの唯一性を守り、言い争いから舌を守り、生活の混雑の中でも落ち着きを保ち、崇拝行為において常に**アッラーの使徒** ﷺ の手本に従うことである。そして巡礼できる人は、それを先延ばしにしてはならない。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 29 巻『別れの説教』**へと続く。アラファとミナーでのアッラーの使徒 ﷺ の説教 — 生命と財産と名誉の神聖さ、リバーとジャーヒリーヤの報復の廃止、女性の権利、人間の平等、そしてアッラーの啓典に固くすがるようにとの遺言 — を詳しく解説する。アッラーこそ最もよくご存じであられる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：495 / 634

第 28 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:125、2:158、2:197〜203；イムラーン家章 3:97；食卓章 5:3；巡礼章 22:27〜37；援助章）。https://tafsir.app/ibn-katheer/5/3

アッ＝タバリー『ジャーミウ・アル＝バヤーン』— 食卓章 5:3 の注釈。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』45、305、1521、1545、1549、1557、1597、1634、1671、1681、1684、1727、1736、1739、1751、1755、1757、1773、1785、4350、4402、4970。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1162、1218、1297、1305、1348、2408。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』889、3713；『スナン・イブン・マージャ』3029。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークの伝承）— 別れの巡礼の章。

イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』— アッラーの使徒 ﷺ の巡礼の章。

アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈（アル＝ミンハージュ）』— ジャービルのハディース（第 1218 番）の注釈。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 巡礼の書。

ムハンマド・ナースィルッディーン・アル＝アルバーニー『預言者 ﷺ の巡礼 — ジャービルの伝えるところ』。

イブン・カスィール『アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ』；サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一般の歴史

ウィキペディア「Farewell Pilgrimage」。https://en.wikipedia.org/wiki/Farewell_Pilgrimage

ウィキペディア「ハッジ（大巡礼）」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hajj

ウィキペディア「Day of Arafah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Day_of_Arafah

ウィキペディア「Muzdalifah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muzdalifah

ウィキペディア「Mina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mina,_Saudi_Arabia

ウィキペディア「Ghadir Khumm」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ghadir_Khumm

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ムスリム』1251（ウムラとハッジを合わせたタルビヤ）。https://sunnah.com/muslim:1251a

『サヒーフ・ブハーリー』1534（アキークの谷：ハッジの中のウムラ）。https://sunnah.com/bukhari:1534

『サヒーフ・ブハーリー』1544（ウサーマとアル＝ファドルが後ろに乗る）。https://sunnah.com/bukhari:1544

『サヒーフ・ムスリム』1298（ウンム・アル＝フサイン：ジャムラト・アル＝アカバへの投石）。https://sunnah.com/muslim:1298a

『サヒーフ・ブハーリー』1513（体の不自由な父に代わる巡礼）。https://sunnah.com/bukhari:1513

『サヒーフ・ムスリム』1336（子どもの巡礼）。https://sunnah.com/muslim:1336a

『サヒーフ・ムスリム』1337（一生に一度の巡礼）。https://sunnah.com/muslim:1337

『サヒーフ・ブハーリー』1265（イフラーム中に亡くなった巡礼者）。https://sunnah.com/bukhari:1265

サウディペディア「Miqat Dhu al-Hulayfah」。https://saudipedia.com/en/miqat-dhu-al-hulayfah

ディスカバー・マッカ「Namira Mosque」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/the-grand-mosque-and-the-holy-sites/namira-mosque

第八部

別れの説教

預言者伝（スィーラ）— 第 29 巻

アラファとミナーにおけるアッラーの使徒 ﷺ の教え — 人間の尊厳、女性の権利、平等、ウンマへの遺言を、クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの説教

第 28 巻では、別れの巡礼におけるアッラーの使徒ﷺの歩みを一歩ずつたどった。マディーナからズル＝フライファ、マッカ、ミナー、アラファ、ムズダリファへ、そして帰路までである。その儀式のさなか、使徒は何度か立ち止まり、何万もの巡礼者に向かって**説教**をされた。これらの説教こそが、**別れの説教（フトバト・アル＝ワダーア）**として知られるものである。

本巻では、それらの説教の内容をテーマごとに解説する。**命と財産と名誉の神聖さ**、**利息とジャーヒリーヤの血の復讐の廃止**、**女性の権利と家庭**、**血統**、**遺言**、**借金**、**アッラーの啓典を固く守ること**、**平等と兄弟愛**、そして偉大な遺言である「**ここにいる者は、ここにいない者に伝えなさい。**」

本書では、ハディース集にある**サヒーフ（真正）またはハサン（良好）**の言葉だけを用いる。「別れの説教」として一続きの長い演説の形で広く出回っている文章があるが、その一部は真正であり、一部は確かな伝承経路のないスィーラ書に由来する。第 29 章では、そうした有名な言葉を一つずつ確かめる。

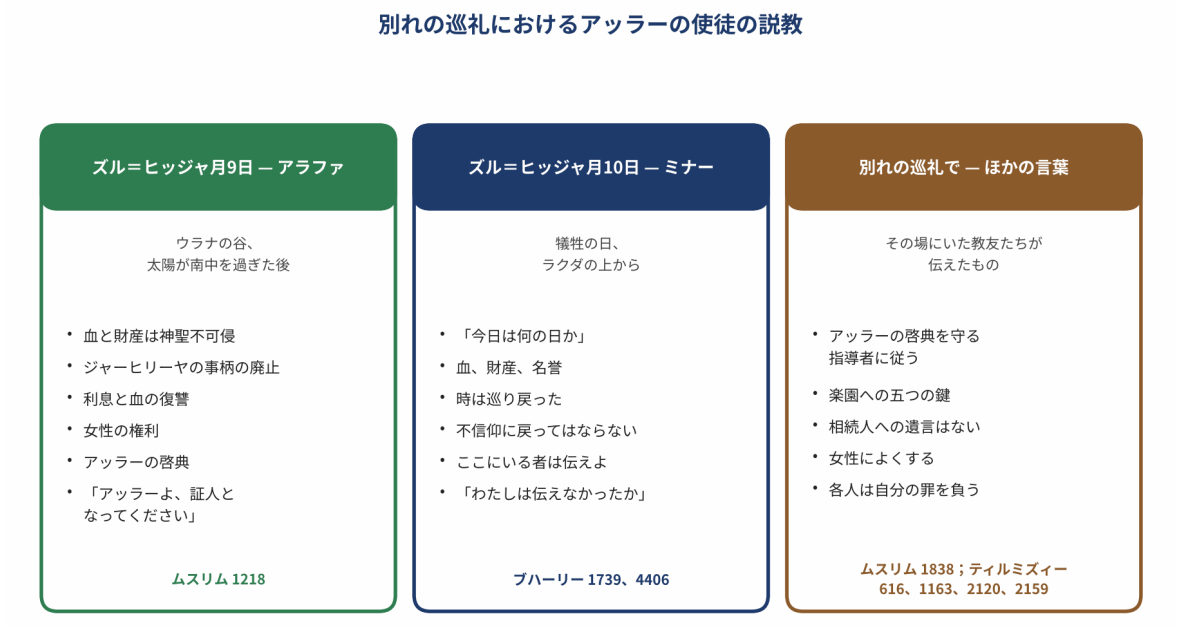


図 1：別れの巡礼におけるアッラーの使徒ﷺの説教。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。確かな伝承経路のないスィーラ書の説教の言葉は、等級の説明とともに茶色の「スィーラの注」の枠に収めています。

別れの巡礼における説教

別れの説教は一度だけの演説だと思っている人が多い。しかし真正なハディースによれば、アッラーの使徒 ﷺ はこの巡礼で**一度ならず**説教をされた。最も有名なのはズル＝ヒッジャ月 9 日の**アラファでの説教**で、ウラナの谷の底において、太陽が南中を過ぎた後、昼（ズフル）と午後（アスル）の礼拝の前に行われた（『サヒーフ・ムスリム』1218）。

二つ目の説教は**犠牲の日（ヤウム・アン＝ナフル）のミナー**（ズル＝ヒッジャ月 10 日）で行われ、使徒は「今日は何の日か」と問われた（『サヒーフ・ブハーリー』1739）。アブー・バクラ رضي الله عنه によれば、使徒はラクダの上から説教をされ、一人の男がその手綱を持っていた（『サヒーフ・ブハーリー』67）。学者たちは、ミナーでの**タシュリークの日々**の説教についても述べている。

さらに、その場にいた教友たち — ジャービル、アブー・バクラ、イブン・アッバース、イブン・ウマル、ジャリール、アブー・ウマーマ、アムル・ブン・アル＝アフワス、ウンム・アル＝フサイン、そのほか大勢 — は、それぞれ**自分が聞いた部分**を伝えた。これらの伝承を集めると、アッラーの使徒 ﷺ がウンマに残した最後の教えの全体像が浮かび上がる。

なぜ使徒はこれらの日に説教をされたのか。これが使徒の時代におけるムスリムの**最大の集まり**だったからである。アラビア半島のほとんどすべての部族の代表が一つの場所にいた。ここで伝えられた教えは、国の隅々へと持ち帰られることになる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この説教をどこから知るのか

以下は、本書で用いる別れの説教の言葉の主な典拠であり、その伝承者と等級を併せて示す。

典拠	伝承者と主な内容
『サヒーフ・ムスリム』1218	ジャービル — アラファの説教：血、財産、利息、女性、アッラーの啓典
『サヒーフ・ブハーリー』4406、67	アブー・バクラ — 犠牲の日：時の巡り、神聖さ、伝えること
『サヒーフ・ブハーリー』1739	イブン・アッバース — 「これは使徒がウンマに残された遺言である」
『サヒーフ・ブハーリー』121	ジャリール — 「わたしの後で不信仰に戻ってはならない」
『サヒーフ・ムスリム』1838	ウンム・アル＝フサイン — アッラーの啓典を守る指導者に従うこと
ティルミズィー 1163、2159、3087	アムル・ブン・アル＝アフワス — 女性、利息、自分の罪
ティルミズィー 616、2120	アブー・ウマーマ — 楽園への五つの鍵；遺言、血統、借金
『ムスナド・アフマド』	ある教友 — アラブ人は非アラブ人に優らない

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「人びとを静かにさせなさい」

拡声器もないのに、一人の人の声がどうして何万もの人びとに届いたのだろうか。アッラーの使徒 ﷺ は二つの方法を用いられた。第一に、人びとに**静かにして耳を傾ける**よう求められた。ジャリール・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنه は次のように伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 121 番

حَدَّثَنَا حَجَّاجٌ، قَالَ حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَلِيُّ بْنُ مُدْرِكٍ، عَنْ أَبِي زُرْعَةَ، عَنْ جَرِيرٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ لَهُ فِي حَجَّةِ الْوَدَاعِ اسْتَنْصِتِ النَّاسَ فَقَالَ لاَ تَرْجِعُوا بَعْدِي كُفَّارًا يَضْرِبُ بَعْضُكُمْ رِقَابَ بَعْضٍ.

訳：

ジャリール・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنه によれば、預言者 ﷺ は別れの巡礼のとき彼にこう言われた。「**人びとを静かにさせなさい（聞くことができるように）。**」それから使徒は言われた。「**わたしの後で不信仰に戻ってはならない。互いに首を打ち合うようなことをしてはならない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッジャージュ・ブン・ミンハール ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← アリー・ブン・ムドリク ← アブー・ズルア・ブン・アムル・ブン・ジャリール ← ジャリール・ブン・アブドゥッラー・アル＝バジャリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』知識の書、学者の話を聞くために静かにすることの章、ハディース第 121 番。第 4405 番、およびムスリム第 65 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:121

「今日は何の日か」

犠牲の日のミナーで、アッラーの使徒 ﷺ は類まれな方法で説教を始められた。**誰もが答えを知っている問いを投げかけられた**のである。アブー・バクラ رضي الله عنه は次のように伝えている。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4406 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ مُحَمَّدٍ، عَنِ ابْنِ أَبِي بَكْرَةَ، عَنْ أَبِي بَكْرَةَ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ الزَّمَانُ قَدِ اسْتَدَارَ كَهَيْئَةِ يَوْمِ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالأَرْضَ، السَّنَةُ اثْنَا عَشَرَ شَهْرًا مِنْهَا أَرْبَعَةٌ حُرُمٌ ثَلاَثَةٌ مُتَوَالِيَاتٌ ذُو الْقَعْدَةِ وَذُو الْحِجَّةِ وَالْمُحَرَّمُ، وَرَجَبُ مُضَرَ الَّذِي بَيْنَ جُمَادَى وَشَعْبَانَ، أَىُّ شَهْرٍ هَذَا قُلْنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَعْلَمُ. فَسَكَتَ حَتَّى ظَنَنَّا أَنَّهُ سَيُسَمِّيهِ بِغَيْرِ اسْمِهِ. قَالَ أَلَيْسَ ذُو الْحِجَّةِ. قُلْنَا بَلَى. قَالَ فَأَىُّ بَلَدٍ هَذَا. قُلْنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَعْلَمُ، فَسَكَتَ حَتَّى ظَنَنَّا أَنَّهُ سَيُسَمِّيهِ بِغَيْرِ اسْمِهِ. قَالَ أَلَيْسَ الْبَلْدَةَ. قُلْنَا بَلَى. قَالَ فَأَىُّ يَوْمٍ هَذَا قُلْنَا اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَعْلَمُ، فَسَكَتَ حَتَّى ظَنَنَّا أَنَّهُ سَيُسَمِّيهِ بِغَيْرِ اسْمِهِ. قَالَ أَلَيْسَ يَوْمَ النَّحْرِ. قُلْنَا بَلَى. قَالَ فَإِنَّ دِمَاءَكُمْ وَأَمْوَالَكُمْ ـ قَالَ مُحَمَّدٌ وَأَحْسِبُهُ قَالَ وَأَعْرَاضَكُمْ ـ عَلَيْكُمْ حَرَامٌ كَحُرْمَةِ يَوْمِكُمْ هَذَا، فِي بَلَدِكُمْ هَذَا، فِي شَهْرِكُمْ هَذَا وَسَتَلْقَوْنَ رَبَّكُمْ، فَيَسْأَلُكُمْ عَنْ أَعْمَالِكُمْ، أَلاَ فَلاَ تَرْجِعُوا بَعْدِي ضُلاَّلاً، يَضْرِبُ بَعْضُكُمْ رِقَابَ بَعْضٍ، أَلاَ لِيُبَلِّغِ الشَّاهِدُ الْغَائِبَ، فَلَعَلَّ بَعْضَ مَنْ يُبَلَّغُهُ أَنْ يَكُونَ أَوْعَى لَهُ مِنْ بَعْضِ مَنْ سَمِعَهُ ـ فَكَانَ مُحَمَّدٌ إِذَا ذَكَرَهُ يَقُولُ صَدَقَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ قَالَ ـ أَلاَ هَلْ بَلَّغْتُ. مَرَّتَيْنِ.

訳：

アブー・バクラ رضي الله عنه によれば、預言者 ﷺ はこう言われた。「**まことに時は、アッラーが天と地を創造された日の姿に巡り戻った。一年は十二か月であり、そのうち四か月は神聖月である。三か月は連続しており — ズル＝カアダ、ズル＝ヒッジャ、ムハッラム — そしてジュマーダー・アル＝アーヒラとシャアバーンの間にあるムダル族のラジャブである。**」使徒は「この月は何か」と問われた。わたしたちは「アッラーとその使徒

が最もよくご存じです」と答えた。使徒が黙っておられたので、わたしたちは使徒がその月を別の名で呼ばれるのではないかと思った。使徒は「これはズル＝ヒッジャではないか」と言われ、わたしたちは「その通りです」と答えた。使徒は「この地はどこか」と問われ…「これはアル＝バルダ（マッカ）ではないか」…「今日は何の日か」…「今日は犠牲の日ではないか」と言われ、わたしたちは「その通りです」と答えた。使徒は言われた。**「まことにあなたがたの血と財産は — ムハンマド（伝承者）は言った。使徒は『あなたがたの名誉も』と言われたと思う — あなたがたのこの地、この月における、この日の神聖さと同じく、あなたがたにとって神聖不可侵である。あなたがたは主に会い、主はあなたがたの行いについて問われるであろう。よいか、わたしの後で迷いに戻ってはならない。互いに首を打ち合うようなことをしてはならない。よいか、ここにいる者は、ここにいない者に伝えなさい。伝えられた者の中には、聞いた者よりもよく理解する者がいるかもしれない。」** それから使徒は二度言われた。**「よいか、わたしは伝えなかったか。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← アブドゥルワッハーブ・アッ＝サカフィー ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← ムハンマド・ブン・スィーリーン ← アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・バクラ ← アブー・バクラ・ヌファイウ・ブン・アル＝ハーリス رضی اللہ عنہ。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、別れの巡礼の章、ハディース第 4406 番。第 67、105、1741、3197、4662 番、およびムスリム第 1679 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4406

このハディースの教訓

使徒の教え方に注目しよう。**問いかけ、そして沈黙**である。教友たちが「アッラーとその使徒が最もよくご存じです」と答えると、使徒は、その日の名が変えられるのではないかと彼らが思うほど黙っておられた。その沈黙は**注意を引きつけ**、大切なことを受け止める心の準備をさせた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

それから使徒は、**すでに確信されていること** — 犠牲の日、ズル＝ヒッジャ月、マッカの地の神聖さ — を、**確信すべきこと**、すなわちすべてのムスリムの血と財産と名誉の神聖さに結びつけられた。アラブ人はその日と月と場所を昔から尊んできた。今や使徒はこう告げられたのである。**人間はそれ以上に尊い**。

この方法は、現代の教育では**新しいことを既存の知識に結びつける**方法として知られている。アッラーの使徒ﷺは 1,400 年以上前にこれを用いられた。その結果、使徒の言葉は多くの教友によって暗記され、ほとんど同じ言葉で伝えられたのである。

命の神聖さ

アラファとミナーの説教で最初に述べられたのは**血**、すなわち人の命である。ジャーヒリーヤの社会では、一頭のラクダ、一篇の詩、あるいは代々続く復讐のために命が失われた。バクル族とタグリブ族の間のバスースの戦いは、一頭のラクダのために何十年も続いたと言われる。アッラーの使徒 ﷺ は、すべてのムスリムの血は、最も神聖な日、月、地と同じく**神聖不可侵**であると宣言された。

クルアーンはずっと以前にこの原則を定めていた。「**正当な理由による以外は、アッラーが禁じられた生命を殺してはならない**」（夜の旅章 17:33） — 『イブン・カスィールのタフスィール』17:33。

それどころか、一つの命は全人類に等しいとされる。「**人を殺した者、地上で悪を働いたという理由もなく人を殺す者は、全人類を殺したのと同じである**」（食卓章 5:32） — 『イブン・カスィールのタフスィール』5:32。

別れの説教は、このクルアーンの原則を、ウンマ全体の前で宣言される**一般の法**とした。部族、地位、復讐のために命を奪うことは、もはや許されない。刑罰を決められるのは、シャリーアに基づく**公正な法廷**だけであり、個人や部族ではない。

今日、戦争、犯罪、テロによって人の命がこれほど軽く扱われている所が多い中で、この教えは今も生きている。別れの説教を理解するムスリムは、宗教の名において誰の血も合法とはしない。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がそれを**神聖不可侵**と宣言されたからである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

財産の神聖さ

血の次に、使徒は**財産**について述べられた。ジャーヒリーヤの社会では、隊商を襲い、他の部族の財産を奪うことは誇りとされていた。今やアッラーの使徒 ﷺ は、すべてのムスリムの財産は、その命と同じく**不当に奪うことが禁じられている**と宣言された。

「信仰する者よ、あなたがたの間で、あなたがたの財産を不正に貪ってはならない。だが相互の合意による商売上の場合は別である」（婦人章 4:29） — 『イブン・カスィールのタフスィール』4:29。

財産の神聖さは、現代の生活の多くのことに及ぶ。**売買でだまさないこと、賄賂を取らないこと、公共の財産を取らないこと、理由なく借金の返済を遅らせないこと**、そして他人の著作権や土地を侵さないことである。これらはすべて「あなたがたの財産はあなたがたにとって神聖不可侵である」に含まれる。

使徒が**血と財産を並べて**述べられたことに注目しよう。イスラームでは、他人の財産を守ることは小さなことではなく、その命を守ることに等しい。アッラーの使徒 ﷺ は、自分の財産を守るために殺された者は殉教者であると言われた（『サヒーフ・ブハーリー』2480）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

名誉の神聖さ

アブー・バクラとイブン・アッバースの伝承では、使徒は三つ目のことを加えられた。**イルド**、すなわち名誉、体面である。人の名誉は、その人が**陰口を言われ、中傷され、侮辱され、辱められる**ときに汚される。アッラーの使徒 ﷺ は、それを血と財産と同列に置かれた。

別のハディースで使徒はこう言われた。「**ムスリムにとって、ほかのムスリムのすべては神聖不可侵である。その血も、その財産も、その名誉も**」（『サヒーフ・ムスリム』2564）。同じハディースの中で使徒は、ご自分の胸を三度指さしながら「敬虔はここにある」と言われ、「自分のムスリムの兄弟を見下すだけで、人は十分に悪である」と言われた。

ソーシャルメディアの時代には、この教えは非常に切実である。一つの投稿、一枚のスクリーンショット、一つのうわさが、数分のうちに**人の名誉を打ち砕き**、何千人にも広まってしまう。別れの説教を理解するムスリムは、他人の名を汚すものを共有する前に、よく考えるであろう。

血、財産、名誉 — この三つは、人の**身体的、経済的、社会的な安全**を包み込んでいる。後に学者たちは**マカースィド・アッ＝シャリーア**（シャリーアの目的）を体系化した。宗教、生命、理性、子孫、財産を守ることである。別れの説教は、この枠組みの最も明確な土台の一つである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしの両足の下に」

アラファでアッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**よいか、ジャーヒリーヤのすべての事柄はわたしの両足の下に置かれ、廃止された。**」（『サヒーフ・ムスリム』1218）「わたしの足の下に」という表現は、**完全に無効とされ**、もはや何の価値もないことを意味するアラビア語の言い回しである。

その「ジャーヒリーヤの事柄」とは何か。それは**血統の誇り**、**代々続く復讐**、**弱者を虐げる利息**、**女性への不当な扱い**、**暦の勝手な操作**、そして**崇拝行為における多神教の慣習**を含む。これらはすべて、二十三年の宣教の中で一つずつ取り組まれ、今や正式に終わりが宣言されたのである。

これは、アラブのすべての慣習が廃止されたという意味ではない。よい慣習 — 気前のよさ、客人をもてなすこと、約束を守ること、勇気 — は**保たれ、清められた**。廃止されたのは、タウヒード（唯一神信仰）と公正に反するものである。これが文化に対するイスラームの姿勢、すなわち**消し去るのではなく、ふるいにかける**ことである。

今日のわたしたちにとって、どの社会にもそれぞれの「ジャーヒリーヤ」がある。当たり前とされた賄賂、人種主義、祝いの席での浪費、女性を虐げる慣習などである。別れの説教の精神は、それらすべてを「**足の下に**」置くようわたしたちに呼びかけている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャーヒリーヤの血の復讐の廃止

使徒は続けて言われた。「**ジャーヒリーヤの血（の復讐）は廃止された。わたしが廃止するわたしたちの血の最初のものは、イブン・ラビーア・ブン・アル＝ハーリスの血である。彼はサアド族のもとで乳母に育てられていたとき、フザイル族に殺された。**」（『サヒーフ・ムスリム』1218）

イブン・ラビーアは、ハーシム家の出で、**アッラーの使徒 ﷺ ご自身の親族**である。ジャーヒリーヤの慣習によれば、その家族にはフザイル族に復讐する権利があり、その復讐は代々受け継がれることもあった。アッラーの使徒 ﷺ は、他の人びとに求める前に、**ご自分の家族から赦しを始める**ことを選ばれたのである。

これが**模範による指導**である。人びとに犠牲を求めながら自分の家族を例外とする指導者は、信頼を失う。アッラーの使徒 ﷺ はその逆をなさった。最初の重荷を、ご自分の家族の肩に負わせられたのである。

この血の復讐の廃止は、何世紀にもわたってアラブの部族を滅ぼしてきた**暴力の連鎖**に終止符を打った。その代わりにイスラームは、為政者を通じた公正な同害報復（キサース）の法を与え、**赦しと血の代償（ディヤ）**の門を大きく開いたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝アッバースの利息の廃止

それから使徒は言われた。「**ジャーヒリーヤの利息は廃止された。わたしが廃止するわたしたちの利息の最初のものは、アル＝アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブの利息である。それはすべて廃止された。**」（『サヒーフ・ムスリム』1218）使徒の父方のおじであるアル＝アッバースは裕福な商人で、ジャーヒリーヤの時代に利息をつけて金を貸していた。

クルアーンはすでに命じていた。「**信仰する者よ、アッラーを畏れなさい。そしてもしあなたがたが信者ならば、利息の残額を帳消しにしなさい**」（雌牛章 2:278） — 『イブン・カスィールのタフスィール』2:278。

アムル・ブン・アル＝アフワスの伝承では、使徒はこう説明された。「**あなたがたには元金がある。あなたがたは不当を行わず、不当を受けることもない**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3087 — ハサン）。これは 2:279 の節の言葉と同じである。貸し手が元金を失うことはない。廃止されたのは**弱者を虐げる上乗せ分**だけである。

ここでも使徒は**ご自分の家族から始められた**。アル＝アッバースの利息は多額であったかもしれないが、他の人の利息よりも先に廃止された。世界の金融制度の多くが利子に依存している今日、ムスリムは公正な**イスラーム金融**を築く努力を続けている。その努力は、このアラファでの宣言に根ざしているのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「時は巡り戻った」

ミナーでの説教は、時についての一つの言葉で始まった。「**まことに時は、アッラーが天と地を創造された日の姿に巡り戻った**」（『サヒーフ・ブハーリー』4406）。これは何を意味するのか。

アッラーは言われる。「**本当にアッラーの御許で、（1 年の）月数は 12 か月である**」（悔悟章 9:36） — 『イブン・カスィールのタフスィール』9:36。

第 27 巻で見たように、ジャーヒリーヤのアラブ人は**アン＝ナスィー** — 神聖月を先送りし、月を付け加えること — を行っていたため、暦は実際の月と一致しなくなっていた。別れの巡礼の年、アッラーのお定めによって、その巡りは元の姿に**正しく戻り**、巡礼は本当のズル＝ヒッジャ月に行われた。

それから使徒は四つの神聖月を挙げられた。**ズル＝カアダ、ズル＝ヒッジャ、ムハッラム、ラジャブ**である。この宣言によって、月に基づくヒジュラ暦は**固定され**、もはや月を加えたり先送りしたりすることはなくなった。ムスリムが今日まで断食、巡礼、ザカートに用いているのはこの暦である。

アッラーの使徒 ﷺ が人間の神聖さについての説教を、**時の神聖さ**から始められたことに注目しよう。神聖月はアッラーが尊ばれた時である。時でさえ神聖さを持つのであれば、その中に生きる人間はなおさらである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「女性のことについてアッラーを畏れなさい」

アラファの説教のさなか、何万ものアラブの男たちを前にして、アッラーの使徒 ﷺ は**女性**に特別な注意を向けられた。**「女性のことについてアッラーを畏れなさい。あなたがたはアッラーの信託として彼女たちを迎え、アッラーの言葉によって彼女たちを合法とした。」**（『サヒーフ・ムスリム』1218）

妻は夫の手にある**アッラーの信託**である。婚姻の契約は売買ではなく、アッラーの御名によって結ばれた絆である。この信託を裏切る者は、アッラーを裏切るのである。同じ教えは、アムル・ブン・アル＝アフワス رضى الله عنه によって、さらに詳しく伝えられている。

ハディース — 『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1163 番

حَدَّثَنَا الْحَسَنُ بْنُ عَلِيٍّ الْخَلاَّلُ، حَدَّثَنَا الْحُسَيْنُ بْنُ عَلِيٍّ الْجُعْفِيُّ، عَنْ زَائِدَةَ، عَنْ شَبِيبِ بْنِ غَرْقَدَةَ، عَنْ سُلَيْمَانَ بْنِ عَمْرِو بْنِ الأَحْوَصِ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي أَنَّهُ، شَهِدَ حَجَّةَ الْوَدَاعِ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَحَمِدَ اللَّهَ وَأَثْنَى عَلَيْهِ وَذَكَّرَ وَوَعَظَ فَذَكَرَ فِي الْحَدِيثِ قِصَّةً فَقَالَ أَلاَ وَاسْتَوْصُوا بِالنِّسَاءِ خَيْرًا فَإِنَّمَا هُنَّ عَوَانٌ عِنْدَكُمْ لَيْسَ تَمْلِكُونَ مِنْهُنَّ شَيْئًا غَيْرَ ذَلِكَ إِلاَّ أَنْ يَأْتِينَ بِفَاحِشَةٍ مُبَيِّنَةٍ فَإِنْ فَعَلْنَ فَاهْجُرُوهُنَّ فِي الْمَضَاجِعِ وَاضْرِبُوهُنَّ ضَرْبًا غَيْرَ مُبَرِّحٍ فَإِنْ أَطَعْنَكُمْ فَلاَ تَبْغُوا عَلَيْهِنَّ سَبِيلاً أَلاَ إِنَّ لَكُمْ عَلَى نِسَائِكُمْ حَقًّا وَلِنِسَائِكُمْ عَلَيْكُمْ حَقًّا فَأَمَّا حَقُّكُمْ عَلَى نِسَائِكُمْ أَلاَّ يُوطِئْنَ فُرُشَكُمْ مَنْ تَكْرَهُونَ وَلاَ يَأْذَنَّ فِي بُيُوتِكُمْ لِمَنْ تَكْرَهُونَ أَلاَ وَحَقُّهُنَّ عَلَيْكُمْ أَنْ تُحْسِنُوا إِلَيْهِنَّ فِي كِسْوَتِهِنَّ وَطَعَامِهِنَّ. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ. وَمَعْنَى قَوْلِهِ عَوَانٌ عِنْدَكُمْ. يَعْنِي أَسْرَى فِي أَيْدِيكُمْ.

訳：

スライマーン・ブン・アムル・ブン・アル＝アフワスはこう言った。父がわたしに語ったところでは、父はアッラーの使徒 ﷺ とともに別れの巡礼に参加した。使徒はアッラーを讃え、称揚し、戒めと忠告を述べられ…そして言われた。**「よいか、女性によくするよう互いに勧め合いなさい。彼女たちはあなたがたのもとで、あなたがたの庇護の下**

にある者のようなものである。 あなたがたは彼女たちに対して、それ以外の何の権限も持たない。ただし、彼女たちが明白な醜行を犯した場合は別である。もしそうしたならば、寝床を別にし、傷を負わせない程度に打ちなさい。もし彼女たちがあなたがたに従うならば、彼女たちを苦しめる口実を探してはならない。**よいか、あなたがたには妻たちに対する権利があり、妻たちにもあなたがたに対する権利がある。** あなたがたの彼女たちに対する権利とは、あなたがたの嫌う者にあなたがたの寝床を踏ませないこと、そしてあなたがたの嫌う者を家に入れないことである。**よいか、彼女たちのあなたがたに対する権利とは、彼女たちの衣服と食べ物においてよく尽くすことである。**」 アブー・イーサー（アッ＝ティルミズィー）は言った。このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アル＝ハサン・ブン・アリー・アル＝ハッラール ← アル＝フサイン・ブン・アリー・アル＝ジュウフィー ← ザーイダ・ブン・クダーマ ← シャビーブ・ブン・ガルカダ ← スライマーン・ブン・アムル・ブン・アル＝アフワス ← その父アムル・ブン・アル＝アフワス رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・ティルミズィー』授乳の書、夫に対する妻の権利の章、ハディース第 1163 番。第 3087 番、および『スナン・イブン・マージャ』第 1851 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価し、ダールッサラーム版でもサヒーフと評価されている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:1163

このハディースの教訓

イスラーム以前に**女の子を生き埋めにし**、父の妻を財産のように相続し、女性に相続の権利を与えなかった社会で、この教えがどれほどの影響を与えたかを想像してみよう。別れの集いで、アッラーの使徒 ﷺ は**男たちに女性の権利を思い起こさせる**ことを選ばれたのである。

アッラーの使徒 ﷺ は別のハディースでもこう言われた。**「あなたがたの中で最もよい者は、自分の家族に最もよく尽くす者である。そしてわたしは、あなたがたの中で自分の家族に最もよく尽くす者である」**（『ジャーミウ・ティルミズィー』3895

— サヒーフ）。男のよさの尺度は家の外にあるのではなく、**妻と家族をどのように扱うか**にある。

夫の権利と妻の権利

別れの説教は、**権利は双方向である**ことを強調している。「あなたがたには妻たちに対する権利があり、妻たちにもあなたがたに対する権利がある。」これはアッラーの御言葉と一致する。

「女性は、公正な状態の下に、かれらに対して（男性と）同等の権利をもつ」（雌牛章 2:228） — 『イブン・カスィールのタフスィール』2:228。

夫の権利	妻の権利
妻は、夫の嫌う者を家に入れない	よい食べ物を与えられる
妻は貞節と家庭を守る	ふさわしい衣服を与えられる
妻は夫の許しなく夫の財産を使わない	よく（マアルーフに）扱われ、不当な扱いを受けない

クルアーンはまた夫に命じている。**「あなたがたは、彼女たちと公正に暮らしなさい」**（婦人章 4:19） — 『イブン・カスィールのタフスィール』4:19。

説教の中で妻の権利は**「ビル＝マアルーフ（公正に、ふさわしい仕方で）」**という言葉で述べられている。それは、ぎりぎり足りるだけの食べ物や衣服という意味ではなく、夫の能力と妻の尊厳にふさわしい扱いである。イスラームにおける家庭は、力だけではなく、**愛情と慈しみ（マワッダとラフマ）**の上に築かれる（ビザンチン章 30:21）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

家庭における戒めを理解する

別れの説教のハディースは、妻が**明白な醜行**を犯した場合の段階を述べている。寝床を別にすること、そして「**傷を負わせない程度に打つこと**」である。この言葉はしばしば誤解されるので、**その文脈とアッラーの使徒 ﷺ ご自身の実践**とともに理解する必要がある。

第一に、それは日常の口論ではなく、**重大で明白な過ち**についてだけである。第二に、それは忠告と寝床を別にすることの後の**最後の手段**である。第三に、イブン・アッバースのようなタフスィール学者たちは、それが**痛みを与えないもの**、例えば歯磨きの小枝（スィワーク）のようなもので、罰というより戒めのしるしであると説明している。顔を打つことは**禁じられ（ハラーム）**、跡や傷を残すことも禁じられている。

第四に — そしてこれが最も大切なことだが — アーイシャ رضى الله عنها はこう言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの道におけるジハードのとき以外、ご自分の手で何ものも打たれたことがなかった。女性も、召使いも**」（『サヒーフ・ムスリム』2328）。アッラーの使徒 ﷺ の模範は**決して打たないこと**である。

したがって、傷つけ、けがをさせ、辱める家庭内暴力は**イスラームに居場所がない**。それを行う者は、女性によくするよう命じた同じ説教に背いているのである。アッラーの使徒 ﷺ は、妻を打つ男たちについてもこう言われた。「**そのような者たちは、あなたがたの中のよい者ではない**」（『スナン・アビー・ダーウード』2146 — サヒーフ）。

血統、遺言、相続の権利

別れの説教は**家族と相続の法**にも触れている。アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー رضى الله عنه は、自分が聞いたことを次のように伝えている。

ハディース — 『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2120 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ حُجْرٍ، وَهَنَّادٌ، قَالاَ حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ عَيَّاشٍ، حَدَّثَنَا شُرَحْبِيلُ بْنُ مُسْلِمٍ الْخَوْلاَنِيُّ، عَنْ أَبِي أُمَامَةَ الْبَاهِلِيِّ، قَالَ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي خُطْبَتِهِ عَامَ حَجَّةِ الْوَدَاعِ إِنَّ اللَّهَ قَدْ أَعْطَى كُلَّ ذِي حَقٍّ حَقَّهُ فَلاَ وَصِيَّةَ لِوَارِثٍ الْوَلَدُ لِلْفِرَاشِ وَلِلْعَاهِرِ الْحَجَرُ وَحِسَابُهُمْ عَلَى اللَّهِ وَمَنِ ادَّعَى إِلَى غَيْرِ أَبِيهِ أَوِ انْتَمَى إِلَى غَيْرِ مَوَالِيهِ فَعَلَيْهِ لَعْنَةُ اللَّهِ التَّابِعَةُ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ لاَ تُنْفِقُ امْرَأَةٌ مِنْ بَيْتِ زَوْجِهَا إِلاَّ بِإِذْنِ زَوْجِهَا. قِيلَ يَا رَسُولَ اللَّهِ وَلاَ الطَّعَامَ قَالَ ذَلِكَ أَفْضَلُ أَمْوَالِنَا. ثُمَّ قَالَ الْعَارِيَةُ مُؤَدَّاةٌ وَالْمِنْحَةُ مَرْدُودَةٌ وَالدَّيْنُ مَقْضِيٌّ وَالزَّعِيمُ غَارِمٌ.

訳：

アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー رضى الله عنه はこう言った。わたしは、別れの巡礼の年の説教でアッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**まことにアッラーは、権利を持つすべての者にその権利を与えられた。それゆえ相続人への遺言はない。** 子は寝床（正当な夫）に属し、姦通者には（何の権利もなく）石があるのみ、その清算はアッラーに委ねられる。**自分の父以外の者を父と称する者**、あるいは自分の主人以外の者を主人と称する者には、審判の日まで続くアッラーの呪いがある。女性は夫の許しなく夫の家のものを何も使ってはならない。」人が尋ねた。「アッラーの使徒よ、食べ物もですか。」使徒は言われた。「それはわたしたちの最も大切な財産である。」それから使徒は言われた。「**借りた物は返さなければならず、使うために与えられた物は戻さなければならず、借金は支払わなければならず、保証人は責任を負う。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アリー・ブン・フジュル と ハンナード・ブン・アッ＝サリー ← イスマーイール・ブン・アイヤーシュ ← シュラフビール・

ブン・ムスリム・アル＝ハウラーニー ← アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・ティルミズィー』遺言の書、相続人への遺言はないことの章、ハディース第 2120 番。『スナン・アビー・ダーウード』第 2870 番、および『スナン・イブン・マージャ』第 2713 番にもある。

等級： ハサン（良好）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価し、ダールッサラーム版ではハサンと評価されている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:2120

このハディースの教訓

「**アッラーは、権利を持つすべての者にその権利を与えられた**」 — すなわち婦人章の相続の節によってである。それゆえ**相続人への遺言はない**。遺言によって特定の相続人の取り分を増やすことはできない。それはほかの相続人に不当を行うことになるからである。遺言は相続人でない者のためだけであり、財産の三分の一を超えてはならない。

「**子は寝床に属する**」とは、正当な婚姻のうちに生まれた子は夫の子とされるという意味である。これは、家庭を壊しかねない非難や争いから**子どもと家族を守る**。ジャーヒリーヤの時代には、男が姦通を理由に他人の子を自分の子だと主張することがあったが、イスラームはその門を閉ざした。

使徒はまた、**自分の父以外の者を父と称する者**を呪われた。地位、財産、誇りといった現世の利益のために血統を偽ることは大罪である。これはまた、イスラームがなぜ**系譜の学問**を注意深く守ってきたのかを説明している。

預かり物、借金、保証

アブー・ウマーマの伝承の最後に、使徒は、短いが非常に広い意味を持つ取引の四つの原則を述べられた。「**借りた物は返さなければならず、使うために与えられた物は戻さなければならず、借金は支払わなければならず、保証人は責任を負う。**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2120）

原則	意味と今日の例
借りた物は返す	借りた本、車、道具は、よい状態で返さなければならない
使うために与えられた物は戻す	一時的に使うために与えられた物（乳を搾るためのラクダなど）は返す
借金は支払う	個人の借金、クレジットカード、教育ローンは完済しなければならない
保証人は責任を負う	他人の借金を保証した者は、その危険を負う

強い社会は**信頼**の上に築かれる。借りた物が返されず、借金が支払われなければ、信頼は失われ、人びとは互いに助け合うのをやめてしまう。アッラーの使徒 ﷺ は借金をそれほど重く見られ、はじめのうちは、返済の手立てを残さずに借金を抱えたまま亡くなった者の葬儀の礼拝を自ら行われなかった（『サヒーフ・ブハーリー』2289）。

この教えは、罪を消し去る崇拝行為である巡礼の説教の中で語られた。しかし学者たちは、**借金を含む人と人との間の権利は、巡礼によって消えることはない**と説明している。それは返済されるか、持ち主によって免除されなければならない。

アッラーの啓典：迷うことのない拠り所

アラファの説教の終わり近く、アッラーの使徒 ﷺ は最も大切な拠り所を残された。

「わたしはあなたがたに、それを固く守るならば決して迷うことのないものを残した。アッラーの啓典である。」（『サヒーフ・ムスリム』1218）

「あなたがたは皆アッラーの絆にしっかりすがり、分裂してはならない」（イムラーン家章 3:103）— 『イブン・カスィールのタフスィール』3:103。

その条件に注目しよう。**「それを固く守るならば」**である。クルアーンを本棚に置いておくこと、あるいは理解も実践もせずに読むことは、まだ「固く守る」ことではない。固く守るとは、それを**読み、理解し、実践し、それによって裁く**ことである。

数日後のガディール・フンムでの説教（第 28 巻）で、使徒は**アッラーの啓典**について述べ、**ご自分の家族**について言い残された（『サヒーフ・ムスリム』2408）。アッラーの使徒 ﷺ のこの遺言は、ウンマの救いの道が常にクルアーンから始まることを示している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーの啓典とわたしのスンナ」

多くの人が「**わたしはあなたがたに二つのものを残した。それを固く守る限り、あなたがたは決して迷わない。アッラーの啓典とわたしのスンナである。**」という言葉を耳にしている。この言葉は別れの説教のものだろうか。そしてそれは真正だろうか。

スィーラの注：「アッラーの啓典とわたしのスンナ」という言葉の等級

この言葉は、イマーム・マーリクが『**アル＝ムワッタア**』の中で、伝承経路なしに**バラーガン**（「わたしに伝わったところでは」）の形で伝えており、またアル＝ハーキムが『アル＝ムスタドラク』の中で、議論のある伝承経路で伝えている。一部の学者は、ほかの伝承経路の支えによってハサンと評価している。『サヒーフ・ムスリム』では、アラファの説教の言葉は「**アッラーの啓典**」だけを述べている。

しかし、**その意味は正しく、合意されている。**クルアーン自体が使徒に従い、そのスンナに立ち返るよう命じている。アッラーの啓典は、アッラーの使徒 ﷺ の説明なしには正しく理解することも実践することもできない。

参照：

マーリク『アル＝ムワッタア』定命の書；アル＝ハーキム『アル＝ムスタドラク』；アル＝アルバーニー『真正なハディース集成（スィルスィラ・アル＝アハーディース・アッ＝サヒーハ）』。

アッラーは言われる。「**アッラーに従い、使徒に従いなさい**」（婦人章 4:59） — 『イブン・カスィールのタフスィール』4:59。

礼拝の仕方、ラクアの数、ザカートの割合、巡礼の仕方を、わたしたちはどうして知るのだろうか。クルアーンはそれらを総括的に命じ、**スンナがそれを詳しく説明する。**別れの巡礼そのものがその例である。アッラーは「巡礼を全うしなさい」と言われ、アッラーの使徒 ﷺ は「わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい」と言われた（第 28 巻）。

したがって、クルアーンだけで十分だと主張してスンナを拒む者は、実は**クルアーンを固く守っていない**。使徒に従うよう命じているのは、ほかならぬクルアーンだからである。この二つは切り離すことのできない**一つの拠り所**である。

楽園への五つの鍵

別れの巡礼のとき三十歳であったアブー・ウマーマ رضى الله عنه は、**楽園への道**についての短いが完全な教えを覚えていた。

ハディース — 『ジャーミウ・ティルミズィー』第 616 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْكِنْدِيُّ الْكُوفِيُّ، حَدَّثَنَا زَيْدُ بْنُ الْحُبَابِ، أَخْبَرَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ صَالِحٍ، حَدَّثَنِي سُلَيْمُ بْنُ عَامِرٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا أُمَامَةَ، يَقُولُ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَخْطُبُ فِي حَجَّةِ الْوَدَاعِ فَقَالَ اتَّقُوا اللَّهَ رَبَّكُمْ وَصَلُّوا خَمْسَكُمْ وَصُومُوا شَهْرَكُمْ وَأَدُّوا زَكَاةَ أَمْوَالِكُمْ وَأَطِيعُوا ذَا أَمْرِكُمْ تَدْخُلُوا جَنَّةَ رَبِّكُمْ. قَالَ فَقُلْتُ لأَبِي أُمَامَةَ مُنْذُ كَمْ سَمِعْتَ مِنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم هَذَا الْحَدِيثَ قَالَ سَمِعْتُهُ وَأَنَا ابْنُ ثَلاَثِينَ سَنَةً. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

スライム・ブン・アーミルはこう言った。わたしはアブー・ウマーマ رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。わたしは、アッラーの使徒 ﷺ が別れの巡礼で説教をされ、こう言われるのを聞いた。「**あなたがたの主アッラーを畏れなさい。あなたがたの五回の礼拝を行い、あなたがたの月に断食し、あなたがたの財産のザカートを納め、あなたがたの事を治める者に従いなさい。そうすればあなたがたは、あなたがたの主の楽園に入るであろう。**」スライムは言った。わたしはアブー・ウマーマに尋ねた。「あなたはいつ、このハディースをアッラーの使徒 ﷺ から聞いたのですか。」彼は答えた。「わたしが三十歳のときに聞いた。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムーサー・ブン・アブドッラフマーン・アル＝キンディー・アル＝クーフィー ← ザイド・ブン・アル＝フバーブ ← ムアーウィヤ・ブン・サーリフ ← スライム・ブン・アーミル ← アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・ティルミズィー』金曜礼拝の書（旅の諸章）、ハディース第 616 番。アッ＝ティルミズィーはハサン・サヒーフと述べた。

等級： ハサン（良好）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価し、ダールッサラーム版ではハサンと評価されている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:616

このハディースの教訓

この五つは**ムスリムの生活の土台**である。敬虔（アッラーとの心のつながり）、一日五回の礼拝、ラマダーンの断食、ザカート、そして正しいことにおける指導者への服従である。難しいことも隠されたこともない。楽園への道は、誰にとっても**明らかで開かれている**。

「**あなたがたの五回の礼拝**」と「**あなたがたの月**」という言葉に注目しよう。使徒はこれらの崇拝行為をウンマに帰属させ — 「あなたがたのもの」と — あたかも「これはあなたがたのものだ、大切に守りなさい」と言われているかのようである。使徒が亡くなった後、ウンマを使徒の教えに結びつけるのは、これらの崇拝行為なのである。

この教えはまた、**継続して（イスティカーマ）**行う基本の行いが、まれにしか行わない追加の行いよりも価値があることを思い起こさせる。この五つを誠実に守るムスリムは、アッラーの使徒 ﷺ が最後の日々に示された道の上にいるのである。

アッラーの啓典を守る指導者に従う

血統を何よりも重んじる部族社会の中で、アッラーの使徒 ﷺ は革命的な指導の原則を伝えられた。ウンム・アル＝フサイン رضي الله عنها はそれを聞いた。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1838 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ يَحْيَى بْنِ حُصَيْنٍ، قَالَ سَمِعْتُ جَدَّتِي، تُحَدِّثُ أَنَّهَا سَمِعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَخْطُبُ فِي حَجَّةِ الْوَدَاعِ وَهُوَ يَقُولُ وَلَوِ اسْتُعْمِلَ عَلَيْكُمْ عَبْدٌ يَقُودُكُمْ بِكِتَابِ اللَّهِ فَاسْمَعُوا لَهُ وَأَطِيعُوا.

訳：

ヤフヤー・ブン・フサインはこう言った。わたしは祖母（ウンム・アル＝フサイン رضي الله عنها）が、別れの巡礼で預言者 ﷺ が説教をされ、こう言われるのを聞いたと語るのを聞いた。「**たとえあなたがたを治める者として任じられたのが奴隷であっても、アッラーの啓典によってあなたがたを導く限り、彼に聞き従いなさい。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ムハンマド・ブン・ジャアファル（グンダル） ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← ヤフヤー・ブン・フサイン ← その祖母ウンム・アル＝フサイン・アル＝アフマスィーヤ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、罪でないことにおいて指導者に従う義務の章、ハディース第 1838 番。第 1298 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1838a

このハディースの教訓

このハディースには二つの大きな教訓がある。第一に、**指導する資格は血統によらない。**元奴隷であっても、アッラーの啓典によって導くならば、従わなければならない。これは、貴族だけが治める資格があると考える部族の傲慢を打ち砕くものである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：527 / 634

第二に、その服従には**条件がある**。「アッラーの啓典によってあなたがたを導く限り」である。別のハディースで使徒はこう言われた。**「罪において服従はない。服従は正しいことにおいてだけである」**（『サヒーフ・ブハーリー』7257）。イスラームは盲目的な服従を教えず、流血をもたらす反乱も教えない。

この均衡 — 善において従い、罪を拒み、団結を守ること — は**ムスリム社会の安定**の土台である。それは、ウンマが新しい指導者を選ばなければならなかったアッラーの使徒 ﷺ の逝去の直後に、とりわけ必要とされた（第 30 巻）。

この原則はまた、社会を二つの危険から守る。第一の危険は、アッラーの怒りを招くことにおいてさえ絶対的な服従を求める**暴虐な指導者**である。第二の危険は、誰もがあらゆる指導者を拒み、社会が分裂して血が流される**混乱**である。イスラームの中道は、善において従い、知恵をもって忠告し、騒乱（フィトナ）を起こさずに罪を拒むことである。

日々の生活において、この原則はあらゆる組織に当てはまる。家庭、モスク、会社、団体である。公正でイスラームの価値を守る長は、その出自にかかわらず支えられ、従われるべきである。測られるのは**誠実さと能力**であって、血統の位や富ではない。

教友たちはこの原則を見事に実践した。アッラーの使徒 ﷺ は、まだ若く、元奴隷の息子であったウサーマ・ブン・ザイドを、偉大な教友たちを含む軍の指揮官に任じられたことがある。一部の人がそれに異を唱えたとき、使徒はウサーマが指揮するにふさわしいと強調された（『サヒーフ・ブハーリー』4469）。

アラブ人は非アラブ人に優らない

別れの説教に結びつけられる最も偉大な原則の一つが、**人類の平等**である。その土台はアッラーの御言葉である。「**アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中で最も主を畏れる者である**」（部屋章 49:13） — 『イブン・カスィールのタフスィール』49:13。

スィーラの注：「アラブ人には非アラブ人に対する優越はない」

イマーム・アフマドは『アル＝ムスナド』の中で、タシュリークの日々にアッラーの使徒 ﷺ の説教を聞いたある教友から、次のように伝えている。「**人びとよ、よいか、あなたがたの主は唯一であり、あなたがたの父は一人である。よいか、アラブ人には非アラブ人に対する優越はなく、非アラブ人にもアラブ人に対する優越はない。赤い肌の者に黒い肌の者に対する優越はなく、黒い肌の者にも赤い肌の者に対する優越はない。ただ敬虔によるほかは。**」

このハディースは、シャイフ・アル＝アルバーニーによって**サヒーフ**と評価され（『真正なハディース集成』2700）、シュアイブ・アル＝アルナウートも『アル＝ムスナド』の校訂の中でその伝承経路をサヒーフと評価している。その意味は、上に挙げた 49:13 の節と完全に一致している。

参照：
アフマド・ブン・ハンバル『アル＝ムスナド』（第 23489 番）；アル＝アルバーニー『真正なハディース集成』2700。

当時の世界で**最も血統を誇っていた**民の真ん中で、この言葉が語られたことを想像してみよう。アラブ人はほかの民を「アジャム」— 口のきけない者、言葉の流暢でない者 — と呼んでいた。今や彼らは、言葉も肌の色も血統も、アッラーの御許では**何の優越も与えない**と告げられたのである。

この原則は、語られる前から実践されていた。アビシニア出身の**ビラール**はアッラーの使徒 ﷺ のムアッズィン（礼拝の呼びかけ人）となり、ペルシア出身の**サルマーン**は「わたしたちの一員、預言者の家の者」と言われ、ビザンチン出身の**スハイブ**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：529 / 634

と、元奴隷の息子**ウサーマ**は指導し、尊ばれた。アラファで、この原則がウンマ全体に宣言されたのである。

ムスリムはムスリムの兄弟

別れの巡礼の説教についてのアムル・ブン・アル＝アフワスの伝承で、使徒はこう言われた。「**よいか、ムスリムはムスリムの兄弟である。兄弟が自ら許したもの以外、ムスリムにとって兄弟のものは何一つ合法ではない**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2159 — ハサン）。

イスラームの兄弟愛は単なる標語ではない。別のハディースで使徒はその意味を説明された。ムスリムは**兄弟に不当を行わず、兄弟が不当を受けるのを見捨てず、兄弟を辱めず、見下さない**（『サヒーフ・ムスリム』2564）。兄弟愛には**権利と責任**がある。

この兄弟愛は、アッラーの使徒 ﷺ がムハージルーンとアンサールを兄弟の契りで結ばれた、マディーナでの最初の日から築かれてきた（第 8 巻）。アラファでそれは広げられた。今や**世界中のすべてのムスリム**が、部族や民族にかかわりなく兄弟なのである。

今日、ムスリムは二十億人近くに達し、さまざまな民族、言語、法学派から成っている。別れの説教の教えは、**わたしたちを結びつけるものは、わたしたちを隔てるものよりも大きい**ことを思い起こさせる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしの後で不信仰に戻ってはならない」

一つの教えが、多くの教友によってほとんど同じ言葉で繰り返し伝えられている。**「わたしの後で不信仰に戻ってはならない。互いに首を打ち合うようなことをしてはならない。」** イブン・アッバース رضى الله عنهما は、これこそが使徒のウンマへの遺言であると誓った。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1739 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنِي يَحْيَى بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا فُضَيْلُ بْنُ غَزْوَانَ، حَدَّثَنَا عِكْرِمَةُ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَطَبَ النَّاسَ يَوْمَ النَّحْرِ فَقَالَ يَا أَيُّهَا النَّاسُ. أَىُّ يَوْمٍ هَذَا. قَالُوا يَوْمٌ حَرَامٌ. قَالَ فَأَىُّ بَلَدٍ هَذَا. قَالُوا بَلَدٌ حَرَامٌ. قَالَ فَأَىُّ شَهْرٍ هَذَا. قَالُوا شَهْرٌ حَرَامٌ. قَالَ فَإِنَّ دِمَاءَكُمْ وَأَمْوَالَكُمْ وَأَعْرَاضَكُمْ عَلَيْكُمْ حَرَامٌ، كَحُرْمَةِ يَوْمِكُمْ هَذَا، فِي بَلَدِكُمْ هَذَا فِي شَهْرِكُمْ هَذَا. فَأَعَادَهَا مِرَارًا، ثُمَّ رَفَعَ رَأْسَهُ فَقَالَ اللَّهُمَّ هَلْ بَلَّغْتُ اللَّهُمَّ هَلْ بَلَّغْتُ. قَالَ ابْنُ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ فَوَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ إِنَّهَا لَوَصِيَّتُهُ إِلَى أُمَّتِهِ ـ فَلْيُبْلِغِ الشَّاهِدُ الْغَائِبَ، لاَ تَرْجِعُوا بَعْدِي كُفَّارًا يَضْرِبُ بَعْضُكُمْ رِقَابَ بَعْضٍ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ は犠牲の日に人びとに説教をされ、こう言われた。「人びとよ、今日は何の日か。」彼らは答えた。「神聖な日です。」使徒は問われた。「この地はどこか。」彼らは答えた。「神聖な地です。」使徒は問われた。「この月は何か。」彼らは答えた。「神聖な月です。」使徒は言われた。**「まことにあなたがたの血、あなたがたの財産、あなたがたの名誉は、あなたがたのこの地、この月における、この日の神聖さと同じく、あなたがたにとって神聖不可侵である。」** 使徒はそれを何度も繰り返し、それから頭を上げて言われた。**「アッラーよ、わたしは伝えなかったでしょうか。アッラーよ、わたしは伝えなかったでしょうか。」** イブン・アッバースは言った。**「わたしの魂をその御手に握られる方にかけて、まことにそれは使徒のウンマへの遺言である」** —「ここにいる者は、ここにいない者に

伝えなさい。わたしの後で不信仰に戻ってはならない。互いに首を打ち合うようなことをしてはならない。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← フダイル・ブン・ガズワーン ← イブン・アッバースの解放奴隷イクリマ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、ミナーの日々の説教の章、ハディース第 1739 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1739

このハディースの教訓

互いに殺し合うことが、なぜ「**不信仰**」と呼ばれるのか。学者たちは、それがイスラームから完全に出てしまうという意味ではなく、**不信仰者の行い**であると説明している。互いに殺し合うことは、アッラーがイスラームによって彼らの心を一つにされる以前の、ジャーヒリーヤ時代の特徴だったからである。これは、ムスリムが兄弟を殺すことが**どれほど大きな罪**であるかを示している。

あたかもアッラーの使徒 ﷺ は、これから起こることを見ておられたかのようである。使徒の逝去から数十年のうちに、ムスリムは**騒乱と内戦**によって試練を受けた。この教えは、あらゆる世代への警告として残っている。政治、法学派、利害の対立は、ムスリム同士の**血を決して合法とはしない**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

シャイターンと軽んじられる罪

アムル・ブン・アル＝アフワスの伝承で、使徒は細やかな警告を与えられた。「**よいか、シャイターンは、あなたがたのこの地で崇拝されることを永遠にあきらめた。しかし、あなたがたが軽んじる行いにおいては従われ、それに満足するであろう**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2159 — ハサン）。

別のハディースで使徒はこう言われた。「**まことにシャイターンは、アラビア半島で礼拝する者たちに崇拝されることをあきらめた。しかし彼らの間に敵意をかき立てること（には努める）**」（『サヒーフ・ムスリム』2812）。

この二つのハディースは、タウヒードの勝利の後の**シャイターンの戦略**を明らかにしている。もはや人間に偶像を崇拝させることができなくなると、彼は二つの道に移る。軽いものと見なされる**小さな罪**と、**ムスリム同士の敵意**である。どちらも小さく見えるが、ウンマを崩壊させかねない。

アッラーの使徒 ﷺ は小さな罪を、旅人の一団が一本ずつ集めて、ついには食事を煮炊きする火を起こすことができる**小枝**にたとえられた（『ムスナド・アフマド』— サヒーフ）。軽んじられた罪も、続けていれば人を滅ぼしかねない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

各人は自分の罪を負う

同じ伝承で使徒はこう言われた。「**よいか、人は自分自身に対してしか罪を犯さない。よいか、父は子の罪を負わず、子は父の罪を負わない**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2159）。

ジャーヒリーヤの部族の制度では、誰かが人を殺すと、**その部族全体**が復讐の標的となった。兄弟も、子どもも、まったく罪のない者さえもである。アッラーの使徒 ﷺ は、この**連帯責任による処罰**という考えを廃止された。各人は自分の行いに責任を負うのである。

この原則はクルアーンにもある。「**重荷を負う者は、他人の重荷を負うことはできない**」（家畜章 6:164）。それは、今日世界中で認められている刑事上の公正の土台となっている。**罰は罪を犯した者にだけ**科され、その家族には科されない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ここにいる者は伝えなさい」

別れの説教のほとんどすべての伝承は、同じ命令で締めくくられている。**「ここにいる者は、ここにいない者に伝えなさい。」** そして使徒は付け加えられた。**「ここにいる者は、自分よりもよく理解する者に伝えるかもしれない」**（『サヒーフ・ブハーリー』67）。

イマーム・ブハーリーは、このハディースを知識の書の次の章の下に置いた。**「預言者 ﷺ の言葉：伝えられた者のほうが、聞いた者よりもよく理解することがある。」** これが**ハディース伝承**の土台である。教友たちは後継者（タービウーン）に伝え、後継者はその次の世代に伝え、そうしてわたしたちにまで届いたのである。

使徒はまた伝える者たちのために祈られた。**「わたしの言葉を聞き、それを理解し、覚え、伝える者の顔を、アッラーが輝かせてくださいますように」**（『ジャーミウ・ティルミズィー』2658 — サヒーフ）。真正な知識を教え、書き、分かち合うすべての人は、**この祈りに含まれている。**

この命令には信託も含まれている。伝えるものは**正確**でなければならない。だからこそハディース学者たちは、伝承経路と言葉をこれほど注意深く確かめたのである。素早く共有される今日の時代には、**伝える前に確かめる**必要がある。とりわけ何かをアッラーの使徒 ﷺ に帰するときにはそうである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーよ、証人となってください」

アラファの説教の終わりに、アッラーの使徒 ﷺ は問われた。**「あなたがたはわたしについて問われるであろう。そのとき何と言うか。」** 彼らは答えた。「わたしたちは、あなたが伝え、果たし、忠告されたことを証言します。」使徒は人差し指を天に上げ、それから彼らに向けて言われた。**「アッラーよ、証人となってください」** — 三度（『サヒーフ・ムスリム』1218）。

これはアッラーの命令を果たすことであった。**「使徒よ、主からあなたに下された（啓示）を宣べ伝えよ」**（食卓章 5:67） — 『イブン・カスィールのタフスィール』5:67。

二十三年の間、アッラーの使徒 ﷺ は苦しいときも楽なときも使命を伝えてこられた。マッカで嘲られ、シウブ・アビー・ターリブで締め出され、ターイフで石を投げられ、バドル、ウフド、ハンダクで戦いを挑まれた。そして今、十万を超える証人の前で、使徒は問われた。**「わたしは伝えなかったか。」** そして彼らは証言した。**「はい。」**

この証言は**わたしたちへの信託**でもある。審判の日、このウンマは、アッラーの使徒 ﷺ が伝えられたことの証人となる。そしてわたしたちは問われるであろう。**伝えられたものを、わたしたちはどうしたのか、と。**

別れの兆し

別れの巡礼の間じゅう、これが**最後の出会い**であることを示す兆しがあった。ジャムラト・アル＝アカバで使徒はこう言われた。「**わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい。わたしは分からないが、この巡礼の後、もう巡礼をしないかもしれないからである**」（『サヒーフ・ムスリム』1297）。

スィーラの注：「もうあなたがたに会えないかもしれない」

イブン・イスハークの伝承では、アラファの説教は次の言葉で始まる。「**人びとよ、わたしの言葉を聞きなさい。わたしは分からないが、今年の後、この場所で、もう二度とあなたがたに会えないかもしれないからである。**」この言葉は、議論のある伝承経路でスィーラ書に記されている。

その意味は、上に挙げた『サヒーフ・ムスリム』1297 の真正なハディースと、「別れの巡礼」という名そのもの（『サヒーフ・ブハーリー』4402）によって支えられている。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークの伝承）— 別れの巡礼の章；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

アラファで「**今日われは、あなたがたのために宗教を完成し**」（食卓章 5:3）の節が下されたことも、一部の教友には、アッラーの使徒 ﷺ の務めがほぼ終わりに近づいたしるしと理解された。イブン・アッバースによる援助章の解釈も同様である（『サヒーフ・ブハーリー』4970）。

それから三か月足らずの後、ヒジュラ暦 11 年のラビーウ・アル＝アウワル月に、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナで亡くなられた。別れの説教はまさに、使徒が大勢のウンマに向けて残された**最後の遺言**となったのである。使徒の病と逝去の物語は、インシャーアッラー、**第 30 巻**で語られる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

確かめるべき有名な言葉

別れの説教の文章は、ソーシャルメディア、講話、書籍で広く共有されている。以下は有名な言葉とその**典拠と等級**である。誠実に伝えるために役立ててほしい。

言葉	典拠と等級
「あなたがたの血、財産、名誉は神聖不可侵である…」	ブハーリー 67、1739、4406；ムスリム 1218 — サヒーフ
「ジャーヒリーヤの事柄はわたしの足の下に」；利息と血	ムスリム 1218 — サヒーフ
「女性のことについてアッラーを畏れなさい」	ムスリム 1218 — サヒーフ；ティルミズィー 1163 — サヒーフ
「わたしはアッラーの啓典を残した」	ムスリム 1218 — サヒーフ
「アッラーの啓典とわたしのスンナ」	『ムワッタア』（バラーガン）、アル＝ハーキム — 議論あり；意味は正しい
「アラブ人には非アラブ人に対する優越はない…」	『ムスナド・アフマド』— サヒーフ（アル＝アルバーニー）
「わたしの後で不信仰に戻ってはならない」	ブハーリー 121、1739 — サヒーフ
「もうあなたがたに会えないかもしれない…」	イブン・イスハーク — 伝承経路に議論あり；意味はムスリム 1297 が支える
「あなたがたは主に会うであろう…」	ブハーリー 4406 — サヒーフ

この表から、有名な別れの説教の**主な内容のほとんどすべて**に真正な根拠があることが分かる。注意すべきは、**正確な言葉**と、典拠のない付け加えである。

アッラーの使徒 ﷺ は言われた。**「わたしについて故意に嘘をつく者は、地獄に自分の座を用意するがよい」**（『サヒーフ・ブハーリー』110）。それゆえ「別れの説教の全文」を共有する前に、その典拠を確かめ、真正な言葉を優先しよう。

別れの説教と人権

多くの研究者は、別れの説教を歴史上最も初期の**人権宣言**の一つとして挙げている。その原則を現代の文書と比べてみよう。

別れの説教の原則（ヒジュラ暦 10 年／西暦 632 年）	類似する現代の文書
命、財産、名誉を侵してはならない	世界人権宣言（1948 年）第 3 条、第 12 条、第 17 条
民族や肌の色による優越はない	世界人権宣言（1948 年）第 1–2 条；人種差別撤廃条約（1965 年）
夫に対する妻の権利	女子差別撤廃条約（1979 年）
各人は自分の罪を負う	現代の刑事上の公正の原則（個人責任）
弱者を虐げる利息の廃止	消費者保護法と現代の違法な高利貸しへの規制

この違いはとても大切である。1948 年の世界人権宣言は、何千万もの命を奪った二つの世界大戦の後に生まれたもので、改正することのできる人間の文書である。別れの説教はそれより **1,300 年以上も前に**語られ、その源は**啓示**である。その権利は人間の合意ではなくアッラーによって与えられたものであり、それゆえどんな権力も取り消すことはできない（世界人権宣言、国際連合）。

しかし、わたしたちは正直でなければならない。この比較は単に誇るためのものではない。別れの説教の価値は、その**実践**にある。もしムスリム自身が互いの血と財産と名誉を守らないならば、あの偉大な説教は生き方ではなく、読まれるだけの文章として残るにすぎない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

説教の内容のまとめ

別れの説教の内容は、次の図のように八つの主なテーマにまとめることができる。



図 2：別れの説教の八つの主なテーマ。

テーマ	主な教えと典拠
人間の尊厳	血、財産、名誉は神聖不可侵（ブハーリー 4406）
ジャーヒリーヤの廃止	血の復讐と利息、まず自分の家族から（ムスリム 1218）
女性	アッラーの信託；双方向の権利（ムスリム 1218；ティルミズィー 1163）

テーマ	主な教えと典拠
家族と財産	血統、遺言、借金、借りた物（ティルミズィー 2120）
拠り所	アッラーの啓典；公正な指導者に従う（ムスリム 1218、1838）
平等	敬虔こそが尊さの尺度（部屋章 49:13；アフマド）
警告	殺し合ってはならない；小さな罪に注意（ブハーリー 121；ティルミズィー 2159）
伝える信託	ここにいる者は伝えよ；「アッラーよ、証人となってください」（ブハーリー 67；ムスリム 1218）

この八つのテーマはばらばらに立っているのではない。すべては一つのこと、すなわち**アッラーへの畏れ（タクワー）**を中心としている。人間の尊厳、公正、女性の権利、平等は、すべて、人は誰でも**主に会い、自分の行いについて問われる**という自覚から生まれる（『サヒーフ・ブハーリー』4406）。

この表はまた、別れの説教が**生活のあらゆる面**を覆っていることを示している。アッラーとの関係、自分自身、家族、社会、そして指導者との関係である。イスラームはモスクの中の崇拝だけではなく、完全な生き方である。それは同じ日に下された「今日われは、あなたがたのために宗教を完成し」という節とも一致している。

教師、親、講話者は、この八つのテーマを別れの説教についての**短い学習の枠組み**として使うことができる。毎週一つのテーマを取り上げ、関連する真正なハディースと生活の中での実践例を添えるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のわたしたちのための別れの説教

別れの説教は単なる歴史ではない。その一つひとつの教えは、今日のムスリムの**日々の行い**に置き換えることができる。

教え	今日のわたしたちの実践
血の神聖さ	暴力を拒む；道路や職場での安全を守る
財産の神聖さ	商売で誠実であること、賄賂を拒むこと、公共の財産を守ること
名誉の神聖さ	ソーシャルメディアで陰口を言わない、中傷しない、人を辱めない
女性の権利	妻、母、娘、女性の働き手によく接する
借金と預かり物	借金を期限どおりに返す、借りた物を返す
アッラーの啓典	毎日クルアーンを読み、理解し、実践する
平等	人種主義と血統の誇りを拒む
伝えること	真正な知識を分かち合い、広める前に確かめる

アッラーの使徒 ﷺ は、ジャーヒリーヤから抜け出したばかりのウンマにこの説教を語られた。今日、技術と知識の進歩とともに、わたしたちの課題は異なっているが、その土台は同じである。**人間を守ること**である。人間はアッラーが尊ばれた被造物だからである。

そして何よりも、この説教は、アッラーが「**今日われは、あなたがたのために宗教を完成し**」（食卓章 5:3）と言われた日に語られた。この宗教は完成している。わたしたちの務めは、それに付け加えたり減らしたりすることではなく、誠実に**それを実践し、伝えること**である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの説教の全体図：言葉、典拠、等級

第2章では別れの説教の主な典拠を挙げ、第29章では有名な言葉の等級を確かめた。本章はその両方を一つの図にまとめる。重要な言葉の一つひとつについて、それを伝えた教友、典拠と等級、根拠となるクルアーンの節、そしてそれを解説している本書の章を示す。

説教の言葉	伝承者と典拠	等級	関連する節	章
「人びとを静かにさせなさい」	ジャリール — ブハーリー 121	サヒーフ（真正）	—	3
「今日は何の日か。この月は何か」	アブー・バクラ — ブハーリー 4406、67	サヒーフ（真正）	悔悟章 9:36	4
「あなたがたの血、財産、名誉はあなたがたにとって神聖不可侵である」	ジャービル — ムスリム 1218；アブー・バクラ — ブハーリー 67；イブン・アッバース — ブハーリー 1739	サヒーフ（真正）	夜の旅章 17:33；婦人章 4:29	5–7
「ジャーヒリーヤの事柄はわたしの両足の下に」	ジャービル — ムスリム 1218	サヒーフ（真正）	食卓章 5:50	8
イブン・ラビーア・ブン・アル＝ハーリスの血の廃止	ジャービル — ムスリム 1218	サヒーフ（真正）	—	9
アル＝アッバースの利息の廃止	ジャービル — ムスリム 1218	サヒーフ（真正）	雌牛章 2:278–279	10
「時は巡り戻った」；四つの神聖月	アブー・バクラ — ブハーリー 4406	サヒーフ（真正）	悔悟章 9:36–37	11

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

説教の言葉	伝承者と典拠	等級	関連する節	章
「女性のことについてアッラーを畏れなさい」	ジャービル — ムスリム 1218；アムル・ブン・アル＝アフワス — ティルミズィー 1163	サヒーフ（真正）	婦人章 4:19；雌牛章 2:228	12–14
遺言、血統、借りた物、借金	アブー・ウマーマ — ティルミズィー 2120	ハサン（良好）	婦人章 4:11–12	15–16
「わたしはアッラーの啓典を残した」	ジャービル — ムスリム 1218	サヒーフ（真正）	イムラーン家章 3:103	17
「アッラーの啓典とわたしのスンナ」	マーリク『アル＝ムワッタア』（バラーガン）；アル＝ハーキム	議論あり；意味は正しい	婦人章 4:59	18
「あなたがたの五回の礼拝を行いなさい…」	アブー・ウマーマ — ティルミズィー 616	サヒーフ（真正）	—	19
アッラーの啓典によって導く指導者に従う	ウンム・アル＝フサイン — ムスリム 1838	サヒーフ（真正）	婦人章 4:59	20
「アラブ人には非アラブ人に対する優越はない」	ある教友 — アフマド 23489	サヒーフ（アル＝アルバーニー；アル＝アルナウート）	部屋章 49:13	21
「わたしの後で不信仰に戻ってはならない」	ジャリール — ブハーリー 121；イブン・アッバース — ブハーリー 1739	サヒーフ（真正）	イムラーン家章 3:103	23
「ここにいる者は伝えなさい」	アブー・バクラ — ブハーリー 67、105	サヒーフ（真正）	食卓章 5:67	26

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この図は、別れの説教の主な言葉のほとんどすべてが真正またはハサンのハディースに基づき、その教えの一つひとつがクルアーンの節に根ざしていることを示している。この説教は新しい教えではない。それは、クルアーンを携えて遣わされた使徒によって語られたクルアーンの要約なのである。

スィーラの注：典拠のない言葉

上に挙げた言葉のほかに、「別れの説教」という名でソーシャルメディアに出回っているが、信頼できるハディース集やスィーラ書のどこにも見当たらない文章がある。現代的な文体で書かれた、働く者の権利、環境、知識の進歩についての長い表現などである。

安全な原則はこうである。ある言葉の典拠 — 書名、ハディースの番号、その等級 — を示すことができないならば、たとえ意味がよくても、それをアッラーの使徒 ﷺ に帰してはならない。その意味は忠告として伝えることはできるが、使徒の言葉として伝えてはならない。

参照：『サヒーフ・ムスリム』1218；『サヒーフ・ブハーリー』67；『サヒーフ・ブハーリー』4406；『ジャーミウ・ティルミズィー』2120；アル＝アルバーニー『真正なハディース集成』2700。

教訓

伝える信託には正確さが求められる。「預言者の言葉」を繰り返す前に、三つの問いを立てよう。誰が伝えたのか、どの書にあるのか、そしてその等級は何か。このような図は、別れの説教を確信をもって誠実に伝える助けとなる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの説教の伝承者たち

別れの説教は、さまざまな部族と地方から来た教友たちの一団を通じてわたしたちに届いた。マッカやマディーナの者もいれば、ターイフ、イエメン、ナジュドの内陸の者もいた。この多様さそのものが、説教が最初の日からいかに広く伝わったかの証しである。

教友	部族／出身	伝えた部分	典拠
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	ハズラジュ族（サリマ家）、マディーナ	アラファでの長い説教	ムスリム 1218
アブー・バクラ（ヌファイウ・ブン・アル＝ハーリス）	ターイフ出身；解放奴隷 — 解放者はアッラーの使徒 ﷺ	犠牲の日の説教：時の巡り、神聖さ、「伝えなさい」	ブハーリー 67、4406；ムスリム 1679
アブドゥッラー・ブン・アッバース	クライシュ族ハーシム家；いとこ — アッラーの使徒 ﷺ	犠牲の日の説教；「それは使徒の遺言である」	ブハーリー 1739
アブドゥッラー・ブン・ウマル	クライシュ族アディー家	犠牲の日の説教；「不信仰に戻ってはならない」	ブハーリー 1742
ジャリール・ブン・アブドゥッラー	バジーラ族、イエメン	「人びとを静かにさせなさい」；「不信仰に戻ってはならない」	ブハーリー 121
アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー	バーヒラ族	楽園への五つの鍵；遺言、血統、借金	ティルミズィー 616、2120
アムル・ブン・アル＝アフワス	ジュシャム族	女性；罪は自分で負う	ティルミズィー 1163、2159、3087
ウンム・アル＝フサイン	アフマス族（バジーラ）	アッラーの啓典を守る指導者に従う	ムスリム 1838

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教友	部族／出身	伝えた部分	典拠
ラーフィウ・ブン・アムル	ムザイナ族	ミナーでアリーが説教を伝えた	アブー・ダーウード 1956
ザイド・ブン・アルカム	ハズラジュ族、マディーナ	ガディール・フンムでの説教	ムスリム 2408

伝承者の一人が女性であることに注目しよう。ウンム・アル＝フサイン رضى الله عنها である。彼女はアッラーの使徒 ﷺ とともに巡礼を行い、指導者への服従についての使徒の教えを伝えた（『サヒーフ・ムスリム』1838；第 28 巻も参照）。女性は別れの説教の聞き手であっただけでなく、その守り手であり伝え手でもあった。

ラーフィウ・ブン・アムル・アル＝ムザニー رضى الله عنه は、ミナーでの説教の様子をこう描いている。「わたしは、アッラーの使徒 ﷺ が、日が高く昇ったころ、灰色のラバに乗ってミナーで人びとに説教をされるのを見た。アリーが使徒の（言葉を）伝え、人びとは立っている者もいれば座っている者もいた」（『スナン・アビー・ダーウード』1956；アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。この伝承は、第 3 章のスィーラの注で述べた、声を伝える者たちについての記述を裏づけている。

参照：『スナン・アビー・ダーウード』1956；『サヒーフ・ムスリム』1838；『サヒーフ・ブハーリー』1742；『サヒーフ・ムスリム』1679。

教訓

真の知識は、一人ではなく大勢の人によって守られる。教友の一人ひとりが一部を保ち、それが集められると完全な姿ができあがる。わたしたちも同じである。学び、たとえ一つのハディースでも伝える人は、誰もがこの信託の鎖の一部となるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの説教における伝える技

これまでの章では、別れの説教で何が伝えられたかを解説してきた。本章では、それがどのように伝えられたかを見る。アッラーの使徒 ﷺ はさまざまな技法を用いられ、その教えは何万もの聞き手の心に刻まれた。それは今日の説教者、教師、親にとっても今なお役立つ技法である。

技法	説教の中の例	典拠
場を整える	「人びとを静かにさせなさい」	ブハーリー 121
よく見える位置	見えるようにラクダやラバの上から説教する	ブハーリー 67；アブー・ダーウード 1956
考えを開く問い	「今日は何の日か」— そして、別の名で呼ばれるのではないかと人びとが思うほど黙っておられた	ブハーリー 1739、4406
身近なたとえ	命の神聖さを「あなたがたのこの日、この月、この地の神聖さのように」とたとえる	ムスリム 1218
自らの模範	まず自分の家族の血と利息を廃止する	ムスリム 1218
強調のための繰り返し	「わたしは伝えなかったか」を何度も繰り返す	ブハーリー 1739
手の身ぶり	人差し指を天に上げ、それから人びとに向けて「アッラーよ、証人となってください」	ムスリム 1218
責任を託す	「ここにいる者は、ここにいない者に伝えなさい」	ブハーリー 67

ジャービルのハディースは、アラファの説教の締めくくりの場面をこう描いている。アッラーの使徒 ﷺ は問われた。「あなたがたはわたしについて問われるであろう。そのとき何と言うか。」彼らは答えた。「わたしたちは、あなたが伝え、信託を果たし、忠告されたことを証言します。」すると使徒は人差し指を天に上げ、それを

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人びとに向けて言われた。「アッラーよ、証人となってください。アッラーよ、証人となってください」— 三度（『サヒーフ・ムスリム』1218）。

これらの技法は単なる話術ではない。そのどれもが、聞き手が理解し、覚え、実践するためのものである。問いは心を開き、たとえは意味を近づけ、模範は真剣さを示し、繰り返しは記憶を強め、信託を託すことは聞き手の一人ひとりを伝え手にするのである。

教訓

正しい内容は、よい方法で伝えられる必要がある。説教者や教師は別れの説教に倣うことができる。まず注意を引き、問いとたとえを用い、自分自身から模範を示し、大切なことを繰り返し、最後に信託を聞き手に託すのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ガディール・フンム：真正な言葉とその理解

第 28 巻では、別れの巡礼からの帰路、マッカとマディーナの間にある水場ガディール・フンムでアッラーの使徒 ﷺ が立ち止まられたことに触れた。使徒はそこで再び説教をされた。この説教はしばしば論じられるので、本章ではその真正な言葉を、アフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーアの学者たちの理解とともにまとめる。

『サヒーフ・ムスリム』の言葉

ザイド・ブン・アルカム رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は、マッカとマディーナの間にあるフンムという水場で立ち上がって説教をされた。使徒はアッラーを讃え、忠告と戒めを述べ、それから言われた。「人びとよ、まことにわたしは一人の人間にすぎない。主の使いが間もなく来て、わたしはそれに応じることになろう。わたしはあなたがたに二つの重いものを残す。第一はアッラーの啓典であり、そこには導きと光がある。アッラーの啓典を取り、それを固く守りなさい…そしてわたしの家族である。わたしの家族について、あなたがたにアッラーを思い起こさせる」— 三度繰り返して（『サヒーフ・ムスリム』2408）。

『ジャーミウ・ティルミズィー』の言葉

アッ＝ティルミズィーは、アブー・サリーハまたはザイド・ブン・アルカムから、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えている。「わたしがその者のマウラー（ワリー）であるならば、アリーもその者のマウラーである」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3713）。アッ＝ティルミズィーはハサン・ガリーブと評価し、アル＝アルバーニーは伝承経路が多いことからサヒーフと評価している（『真正なハディース集成』1750）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

スィーラの注：ガディール・フンムでの説教の背景

スィーラとハディースの学者たちは、この説教の背景を述べている。アリー رضى الله عنه はイエメンから戻ったばかりで、巡礼の間にマッカでアッラーの使徒 ﷺ と会った（第 28 巻）。イエメンでの彼の部隊の一部の者は、五分の一税（フムス）の財の扱いにおけるアリーの厳格さに不満を抱き、彼について苦情を述べた。

ブライダ رضى الله عنه 自身もこう認めている。「わたしはアリーを嫌っていた。」するとアッラーの使徒 ﷺ は問われた。「ブライダよ、あなたはアリーを嫌っているのか。彼を嫌ってはならない。五分の一税における彼の取り分は、それ以上のものだからである」（『サヒーフ・ブハーリー』4350）。『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ）』のイブン・カスィールをはじめとする学者たちは、ガディール・フンムでの説教は、アリーの立場を明らかにし、その不満を取り除くためのものであったと説明している。

アフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーアの理解

アフル・アッ＝スンナの学者たちは、このハディースの「マウラー」という言葉を、愛情、援助、忠誠の意味に理解している。アッラーの使徒 ﷺ を愛し支える者は、アリーをも愛し支えるべきである、という意味である。アリーと預言者の家族（アフル・アル＝バイト）を愛することは信仰の一部であり、彼らを憎むことは偽信のしるしである（『サヒーフ・ムスリム』78、アリーについて）。

ガディール・フンムでの教えは、二つの信託を合わせている。アッラーの啓典を固く守ること、そしてアッラーの使徒 ﷺ の家族を尊ぶことである。この二つは、ほかの教友たちへの愛と矛盾するものではない。アフル・アッ＝スンナは預言者の家族のすべてと教友のすべてを尊び、そのいずれをも非難することから舌を慎む。

参照：『サヒーフ・ムスリム』2408；『ジャーミウ・ティルミズィー』3713；『サヒーフ・ブハーリー』4350；『サヒーフ・ムスリム』78；イブン・カスィール『始まりと終わり』— ガディール・フンムの出来事。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

教友たちの間の誤解を、アッラーの使徒 ﷺ は公の説明と、誤解された人への称賛によって解かれた。これこそが争いを鎮める方法である。本当の立場を明らかにし、正しい者を尊び、すべての人を愛情へと立ち返らせるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの巡礼における説教の年表

生涯の終わりにアッラーの使徒 ﷺ が行われた説教は、わずか数週間のうちに集中している。この表は、それらを日付順に、場所と典拠とともに並べたものである。

年代	場所	出来事／内容	典拠
ヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月 9 日（金曜日）	ウラナの谷、アラファ	アラファの説教：血、財産、利息、女性、アッラーの啓典	ムスリム 1218
ヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月 9 日、午後	アラファ	「今日われは、あなたがたのために宗教を完成し」の節が下る	ブハーリー 45；食卓章 5:3
ズル＝ヒッジャ月 10 日（犠牲の日）	ミナー	説教：「今日は何の日か」；時の巡り；「伝えなさい」	ブハーリー 1739、4406、67
ズル＝ヒッジャ月 10 日	ジャムラト・アル＝アカバ	「わたしからあなたがたの巡礼の儀式を学びなさい」	ムスリム 1297
タシュリークの日々（ズル＝ヒッジャ月 11–13 日）	ミナー	「アラブ人には非アラブ人に対する優越はない」	アフマド 23489
タシュリークの日々（一部のタフスィールの伝承による）	ミナー	援助章が逝去の兆しと理解される	ブハーリー 4970；タフスィール書
ヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月 18 日（スィーラ書による）	ガディール・フンム	「わたしは二つの重いものを残す」	ムスリム 2408；ティルミズィー 3713
ヒジュラ暦 10 年ズル＝ヒッジャ月末		アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに戻られる	スィーラ書
ヒジュラ暦 11 年サファル月末		病の始まり — アッラーの使徒 ﷺ	スィーラ書；第 30 巻

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年代	場所	出来事／内容	典拠
ヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月		アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられる — 別れの説教から三か月足らず	ブハーリー 4466；第 30 巻

スィーラの注：表の日付

ズル＝ヒッジャ月 9 日と 10 日という日付は、真正なハディースによって確かである。ガディール・フンムのズル＝ヒッジャ月 18 日、マディーナに戻られた日、病の始まった日は、スィーラ書から取ったもので、よく知られた概算である。ラビーウ・アル＝アウワル月におけるアッラーの使徒 ﷺ の逝去の正確な日付は学者の間で論じられているが、よく知られているのはヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日の月曜日である。

教訓

三か月足らずのうちに、アッラーの使徒 ﷺ はアラファで、ミナーで、そしてガディール・フンムで最後の教えを伝え、それから主の御許に帰られた。あらゆる機会がウンマへの忠告のために用いられた。わたしたちの命にも限りがある。時のあるうちに、あらゆる機会を善を伝えるために用いよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの説教についてよくある質問

1. アッラーの使徒 ﷺ は別れの巡礼で何回説教をされたのか。

少なくとも、アラファ（ズル＝ヒッジャ月 9 日）、犠牲の日のミナー（ズル＝ヒッジャ月 10 日）、タシュリークの日々、そして帰路のガディール・フンムである（第 1 章、第 37 章）。

2. 長く完全な形の別れの説教の文章は真正なのか。

一続きの完全な文章は、主にスィーラ書（イブン・イスハーク）に由来する。その内容の大部分は真正なハディースによって支えられているが、一部の言葉には連続した伝承経路がない。ハディース集にある言葉を優先しよう（第 2 章、第 29 章、第 33 章）。

3. 「アッラーの啓典とわたしのスンナ」という言葉は真正なのか。

『サヒーフ・ムスリム』では、アラファの説教は「アッラーの啓典」だけを述べている。「とわたしのスンナ」という言葉は、マーリクがバラーガンの形で、またアル＝ハーキムが伝えている。その等級には議論があるが、婦人章 4:59 に基づいてその意味は正しい（第 18 章）。

4. 「アラブ人には非アラブ人に対する優越はない」は預言者 ﷺ の言葉なのか。

そうである。イマーム・アフマドが伝え（『アル＝ムスナド』23489）、アル＝アルバーニーとシュアイブ・アル＝アルナウートがサヒーフと評価している（第 21 章）。

5. アッラーの使徒 ﷺ の声を人びとに伝えたのは誰か。

ミナーでは、アリー رضي الله عنه が使徒の言葉を伝えた（『スナン・アビー・ダーウード』1956、アル＝アルバーニーによればサヒーフ）。アラファについては、イブ

ン・イスハークがラビーア・ブン・ウマイヤ・ブン・ハラフの名を挙げている（第 3 章、第 34 章）。

6. 「時は巡り戻った」とはどういう意味か。

ジャーヒリーヤのアン＝ナスィーの慣行によって乱されていた暦が、アッラーが天と地を創造された日の通りに正しく戻り、四つの神聖月が改めて定められたという意味である（『サヒーフ・ブハーリー』4406；悔悟章 9:36–37；第 11 章）。

7. アッラーの使徒 ﷺ はなぜ自分の家族の血と利息から始められたのか。

使徒が自分の身内を例外にしたと、誰にも言わせないためである。公正な指導者は自分自身から始める（『サヒーフ・ムスリム』1218；第 9 章、第 10 章）。

8. 説教で述べられた妻の権利とは何か。

妻はアッラーの信託であり、夫は公正な仕方で妻に糧と衣服を与えなければならない。双方に権利と責任がある（『サヒーフ・ムスリム』1218；『ジャーミウ・ティルミズィー』1163；第 12–14 章）。

9. ガディール・フンムでは何が述べられたのか。

二つの重いもの、すなわちアッラーの啓典と、使徒の家族についての戒め（『サヒーフ・ムスリム』2408）、そして「わたしがその者のマウラーであるならば、アリーもその者のマウラーである」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3713）である（第 36 章）。

10. 別れの説教と食卓章 5:3 にはどんな関係があるのか。

「今日われは、あなたがたのために宗教を完成し」の節は、同じアラファの日の午後に下された（『サヒーフ・ブハーリー』45）。この説教は、完成された宗教の要約である（第 32 章、第 37 章）。

11.「別れの説教の全文」をソーシャルメディアで共有してもよいのか。

アッラーの使徒 ﷺ に帰されるすべての言葉に典拠が添えられているならば、よい。典拠のない言葉は避けよう。使徒の名を借りて嘘をつくことは大罪だからである（『サヒーフ・ブハーリー』110；第 29 章、第 33 章）。

12.「ここにいる者は伝えなさい」という言葉の「ここにいない者」とは誰か。

その場にいなかったすべてのムスリムであり、今日のわたしたちも含まれる。アブー・バクラは、使徒が「伝えられた者は、聞いた者よりもよく理解するかもしれない」と言われたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』67；第 26 章）。

教訓

これらの質問は、別れの説教が今日に至るまでウンマの議論の中に生きていることを示している。その答えは常に真正な典拠に立ち返る。そしてそれこそが、「伝えなさい」という信託を果たす最善の方法なのである。

教訓と結び

別れの説教は**使命の要約**である。それは、アッラーの使徒 ﷺ が二十三年にわたって伝えてこられたものを、使徒の時代におけるウンマの最大の集まりに向けて要約したものである。そこからわたしたちは次の教訓を学ぶ。

教訓	本巻から
効果的な教え方	「今日は何の日か」— 問い、沈黙、結びつけ
模範による指導	まず自分の家族の血と利息を廃止する
すべての人への公正	血、財産、名誉；罪は自分で負う
女性の尊さ	「女性のことについてアッラーを畏れなさい」
平等	敬虔こそが唯一の尺度
啓示を固く守る	アッラーの啓典、それを説明するスンナ
伝える信託	ここにいる者は、ここにいない者に伝える — 正確に

わたしたちこそ「ここにいない者」

アッラーの使徒 ﷺ が「ここにいる者は、ここにいない者に伝えなさい」と言われたとき、**その「ここにいない者」とはわたしたちのことであった。**この教えは十四世紀以上を越えてわたしたちに届いた。今度はわたしたちが、次の世代にとっての**「ここにいる者」**となる番である — それを実践し、伝えることによって。

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは、**第 30 巻「アッラーの使徒 ﷺ の病と逝去」**へと続く。マディーナでの使徒の最後の日々、最後の教え、アブー・バクルがイマームを務めた最後の礼拝、そしてムスリムの歴史で最も悲しい日である。アッラーが最もよくご存じである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 29 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（雌牛章 2:228、2:278–279；イムラーン家章 3:103；婦人章 4:19、4:29、4:59；食卓章 5:3、5:32、5:67；悔悟章 9:36；部屋章 49:13）。https://tafsir.app/ibn-katheer/49/13

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』67、105、110、121、1739、1741、2289、2480、4402、4406、4469、4970、7257。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1218、1297、1679、1838、2328、2408、2564、2812。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』616、1163、2120、2159、2658、3087、3895；『スナン・アビー・ダーウード』2146。https://sunnah.com

アフマド・ブン・ハンバル『アル＝ムスナド』（シュアイブ・アル＝アルナウート校訂）；マーリク『アル＝ムワッタア』；アル＝ハーキム『アル＝ムスタドラク』。

アル＝アルバーニー『真正なハディース集成（スィルスィラ・アル＝アハーディース・アッ＝サヒーハ）』。

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）— 別れの巡礼の説教。

アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈（アル＝ミンハージュ）』— ジャービルのハディース（第 1218 番）の注釈。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『創造主の勝利（ファトフ・アル＝バーリー）』— 知識の書、巡礼の書、遠征の書。

イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

文書と一般の歴史

国際連合『世界人権宣言』（1948 年）。https://www.un.org/en/about-us/universal-declaration-of-human-rights

ウィキペディア「Farewell Sermon」。https://en.wikipedia.org/wiki/Farewell_Sermon

ウィキペディア「Farewell Pilgrimage」。https://en.wikipedia.org/wiki/Farewell_Pilgrimage

ウィキペディア「Hijri year」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hijri_year

ウィキペディア「Maqasid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maqasid

ウィキペディア「Riba」。https://en.wikipedia.org/wiki/Riba

ハディースと追加の典拠

『スナン・アビー・ダーウード』1956（アリーがミナーで説教を伝えた）。https://sunnah.com/abudawud:1956

『サヒーフ・ブハーリー』1742（イブン・ウマル：犠牲の日の説教）。https://sunnah.com/bukhari:1742

『サヒーフ・ムスリム』1679（アブー・バクラ：犠牲の日の説教）。https://sunnah.com/muslim:1679a

『サヒーフ・ムスリム』2408（ガディール・フンムでの説教）。https://sunnah.com/muslim:2408a

『ジャーミウ・ティルミズィー』3713（「わたしがその者のマウラーであるならば…」）。https://sunnah.com/tirmidhi:3713

『サヒーフ・ブハーリー』4350（ブライダとアリー）。https://sunnah.com/bukhari:4350

『サヒーフ・ムスリム』78（アリーへの愛は信仰のしるし）。https://sunnah.com/muslim:78

『サヒーフ・ブハーリー』45（食卓章 5:3 がアラファで下された）。
https://sunnah.com/bukhari:45

『サヒーフ・ブハーリー』4466（アッラーの使徒 ﷺ の逝去）。
https://sunnah.com/bukhari:4466

ウィキペディア「Event of Ghadir Khumm」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Event_of_Ghadir_Khumm

第九部

至高の友

預言者伝（スィーラ）— 第 30 巻

アッラーの使徒 ﷺ の病と逝去、最後の教え、そしてウンマの歴史で最も悲しい日を、クルアーンと真正なハディースに基づいて

至高の友

第 28 巻と第 29 巻では、アラファとミナーへ赴き、アッラーの使徒 ﷺ が次のように語られるのを聞いた：「**おそらくわたしは、今年のこの巡礼の後、再び巡礼することはないだろう。**」その言葉は現実となった。マディーナに戻ってから三か月もたたないうちに使徒は病に倒れ、**ヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月のある月曜日**に、主のもとへ帰られた。

本巻は真正なハディース、とりわけ最後の瞬間まで自宅で使徒を看病したアーイシャ رضى الله عنها の伝承に基づいて、その最後の日々を語る。わたしたちは、**病の中での使徒の忍耐**、**最後の教え**、**月曜日の朝の微笑み**、そして最後の言葉「**アッラーよ、至高の友を**」を見ていく。さらに、悲しみのあまり崩れそうになったウンマを、アブー・バクル رضى الله عنه がいかに支えたかを見る。

これは胸が締めつけられる物語である。しかしそれは同時に、**信仰を強める**物語でもある。アッラーの使徒 ﷺ は他の人間と同じように亡くなる一人の人間であり、この宗教は**永遠に生きておられるアッラー**に拠っているのであって、それ以外の誰にも拠っていないことを教えてくれるからである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

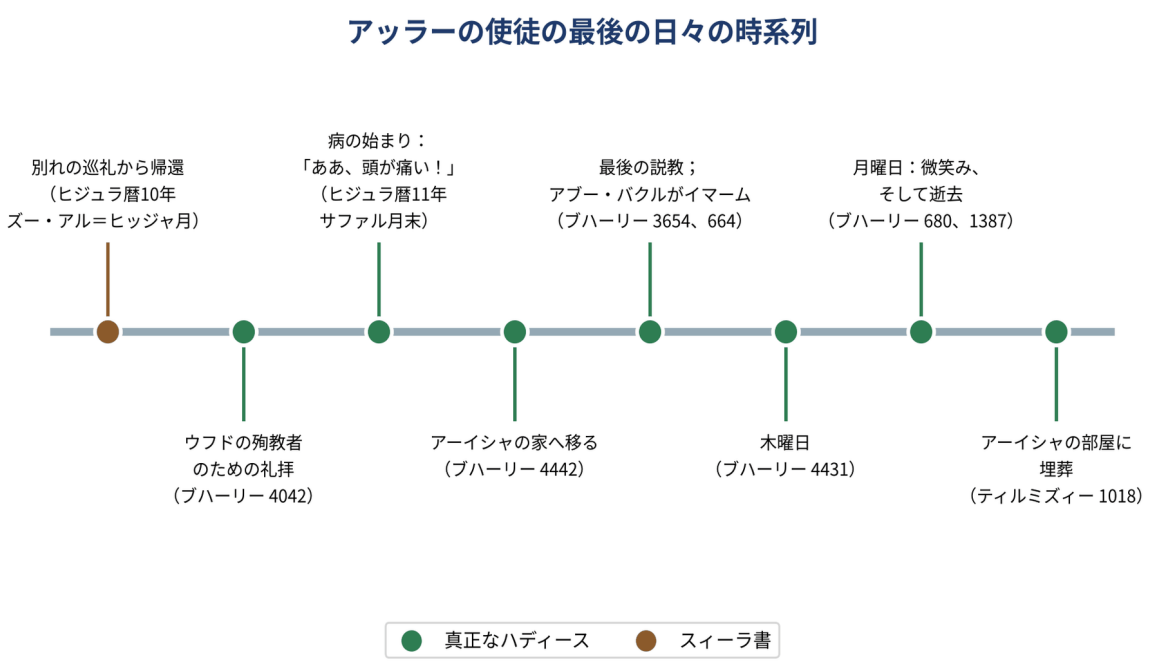


図 1：アッラーの使徒ﷺの最後の日々の時系列。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠り、一部は本文の流れに合わせて訳出しています。各ハディースの等級はハディースの枠内に記しています。使徒の最後の日々について、確かな伝承経路のないままスィーラ書に伝わる話は、茶色の「スィーラの注」の枠に収めています。また、死の天使との長い対話のような真正でない物語は収録していません。

別れの巡礼後のマディーナ

アッラーの使徒 ﷺ は、ヒジュラ暦 10 年ズー・アル＝ヒッジャ月の終わりにマディーナへ戻られた。イスラームはアラビア半島全土に広まり、使節団が次々とやって来てイスラームを受け入れた（第 26 巻）。巡礼は清められ（第 27 巻）、宗教は完成された（第 28 巻）。外から見るかぎり、何か大きなことが起ころうとしている兆しはなかった。

ヒジュラ暦 11 年のムハッラム月とサファル月は、いつものように過ぎた。使徒は人びとを教え、礼拝を導き、国の諸事を取り仕切り続けられた。また、**ウサーマ・ブン・ザイドの率いる軍**を整え、シャームの国境へ送り出そうとされた。そこは、ウサーマの父であり使徒の解放奴隷であったザイド・ブン・ハーリサが、ムウタで殉教した地であった（第 19 巻）。

しかし注意深く見ていた者にとっては、**別れの兆し**はずっと前から見えていた。「別れの巡礼」という名、宗教の完成を告げる節、援助章、そしてミナーでの使徒の言葉である。使徒に最も近い人びと — アブー・バクル、イブン・アッバース、ファーティマ — は、他の人びとより早くそれを感じ取り始めていた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

別れの兆し

最もはっきりした兆しの一つは、その前のラマダーン月に起こった。ジブリールが使徒とともにクルアーンを二度復唱したのである。最後の病の時、アッラーの使徒 ﷺ は娘ファーティマにひそかにこう告げられた：「**ジブリールは毎年一度、わたしとクルアーンを復唱していたが、今年は二度復唱した。わたしの最期が近づいているとしか思えない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3624）

もう一つの兆しは援助章である：「**アッラーの援助と勝利が来て**」（援助章 110:1）— 『イブン・カスィール注釈』110:1。

ウマル رضى الله عنه はかつて、バドルに参戦した長老の教友たちに、この章の意味を尋ねた。勝利したときに神を讃えよという命令だと言う者もいた。次にウマルは、まだ若いイブン・アッバースに尋ねた。彼はこう答えた：「**それは、アッラーがアッラーの使徒 ﷺ にお知らせになった、使徒の最期（の兆し）です。**」ウマルは言った：「わたしもこの章について、あなたが知っていること以外は知らない。」（『サヒーフ・ブハーリー』4970）

務めが終わったとき — マッカが開かれ、人びとが群れをなしてイスラームに入ったとき — **神を讃え、赦しを請い、アッラーのもとへ帰る**時が来たのである。ここにアッラーの使徒 ﷺ の生涯の美しさがある。使徒はご自分のために生きたのではなく、託されたものを全うしたとき、帰る準備ができておられた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの殉教者たちへの別れ

生涯の終わりが近づいたころ、アッラーの使徒 ﷺ は**ウフド**へ赴かれた。そこは八年前に七十人の教友が殉教した地であり、その中には使徒の父方のおじハムザもいた（第 10 巻）。ウクバ・ブン・アーミル رضي الله عنه は、自分が見たことを次のように語っている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4042 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحِيمِ، أَخْبَرَنَا زَكَرِيَّاءُ بْنُ عَدِيٍّ، أَخْبَرَنَا ابْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ حَيْوَةَ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي حَبِيبٍ، عَنْ أَبِي الْخَيْرِ، عَنْ عُقْبَةَ بْنِ عَامِرٍ، قَالَ صَلَّى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى قَتْلَى أُحُدٍ بَعْدَ ثَمَانِي سِنِينَ، كَالْمُوَدِّعِ لِلأَحْيَاءِ وَالأَمْوَاتِ، ثُمَّ طَلَعَ الْمِنْبَرَ فَقَالَ إِنِّي بَيْنَ أَيْدِيكُمْ فَرَطٌ، وَأَنَا عَلَيْكُمْ شَهِيدٌ، وَإِنَّ مَوْعِدَكُمُ الْحَوْضُ، وَإِنِّي لأَنْظُرُ إِلَيْهِ مِنْ مَقَامِي هَذَا، وَإِنِّي لَسْتُ أَخْشَى عَلَيْكُمْ أَنْ تُشْرِكُوا، وَلَكِنِّي أَخْشَى عَلَيْكُمُ الدُّنْيَا أَنْ تَنَافَسُوهَا. قَالَ فَكَانَتْ آخِرَ نَظْرَةٍ نَظَرْتُهَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

ウクバ・ブン・アーミル رضي الله عنه によれば、彼は言った：アッラーの使徒 ﷺ は八年を経て、ウフドの殉教者たちのために礼拝された。**それは生きている者と死者とに別れを告げる人のようであった。**それから使徒はミンバル（説教壇）に上り、こう言われた：**「本当にわたしはあなたがたに先立って行き、あなたがたの証人となる。あなたがたとわたしの会う場所はハウド（池）であり、わたしはこの場所から今それを見ている。わたしはあなたがたがアッラーに並ぶものを置くことを恐れてはいない。しかし、現世があなたがたを誘惑し、あなたがたがそれを奪い合うことを恐れる。」**ウクバは言った：**それが、わたしがアッラーの使徒 ﷺ を見た最後であった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アブドゥッラヒーム ← ザカリーヤー・ブン・アディー ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ハイワ・ブン・シュライフ ← ヤズィード・ブン・アビー・ハビーブ ← アブー・アル＝ハイル・マルサド・ブン・アブドゥッラー ← ウクバ・ブン・アーミル・アル＝ジュハニー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ウフドの戦いの章、ハディース第 4042 番。第 1344、3596、6590 番、およびムスリム第 2296 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4042

このハディースの教訓

「**生きている者と死者とに別れを告げる人のように**」 — ウクバは、使徒の祈りと説教に別れの空気を感じ取った。使徒は先に逝った教友たちを訪ね、生きている者たちに言い残されたのである。

使徒の懸念に注目してほしい。それは**多神崇拝ではなかった**。タウヒード（唯一神信仰）はすでにしっかりと根づいていたからである。懸念は**現世**であった。使徒は、富と権力がこのウンマにやって来ることを知っておられた。実際、数十年のうちにペルシアとローマの帝国は屈した。勝利したウンマにとって最大の試練は貧困ではなく、**現世の奪い合い**なのである。

使徒はまた、審判の日の使徒の池である**ハウド**を、**会う場所**として挙げられた。使徒を慕うすべてのムスリムにとって、これは約束である。その道にとどまるなら、わたしたちはその池で使徒にお会いできるのである。

バキーウ墓地での祈り

アッラーの使徒 ﷺ は、夜にマディーナの**バキーウ・アル＝ガルカド**墓地を訪れるのを習わしとしておられた。アーイシャ رضي الله عنها の伝えるところでは、使徒は夜の終わりにバキーウへ出かけ、こう祈られた：**「信仰する者たちの住まいよ、あなたがたに平安あれ。あなたがたに約束されたものは、あなたがたのもとに来た……。そしてわたしたちも、アッラーが望まれるなら、あなたがたに続くであろう。アッラーよ、バキーウ・アル＝ガルカドの人びとをお赦しください。」**（『サヒーフ・ムスリム』974）

スィーラの注：病の初めのバキーウ訪問

イブン・イスハークは、**アブー・ムワイヒバ**（アッラーの使徒 ﷺ の解放奴隷）から次のように伝えている。病の初めのある夜、使徒は彼を起こして言われた：「わたしはバキーウの人びとのために赦しを請うよう命じられた。」使徒は彼らのために祈られた。そして、現世の宝庫の鍵とそこでの永住、その後の楽園か、それとも主との対面と楽園かの選択を与えられ、**主との対面**を選んだと語られた。

この伝承はイブン・ヒシャームの『預言者伝』と『ムスナド・アフマド』にあり、一部の学者はその伝承経路を弱い（ダイーフ）と評価している。その意味は、「選択を与えられたしもべ」についての真正なハディース（第 9 章）によって裏づけられている。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；アフマド『アル＝ムスナド』（アル＝アルナウートの校訂）。

墓参りは死を思い起こさせる**スンナ**である。アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた：**「墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるからである」**（『サヒーフ・ムスリム』976）。使徒ご自身も生涯の終わりに、先に逝った人びとのためにしばしば祈られた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ああ、頭が痛い！」

使徒の病は**頭痛**から始まった。アーイシャ رضى الله عنها によれば、ある日、彼女自身が「ああ、頭が痛い！」と訴えた。するとアッラーの使徒 ﷺ は彼女に冗談を言い、こう言われた：「**いや、わたしこそ、ああ、頭が痛い！**」（『サヒーフ・ブハーリー』5666）。スィーラ書によれば、これが、サファル月の終わりかラビーウ・アル＝アウワル月の初めに始まった、逝去に至る病の始まりであった。

痛みの中にあっても、使徒がなお妻と**優しく冗談を交わして**おられたことに注目してほしい。使徒とアーイシャの関係は、最後の瞬間まで愛情と親しみに満ちていた。これは、痛みがあっても愛する人に辛く当たってはならないことを教えている。

使徒はまた、非常に高い熱を出されたこともあった。ある伝承では、アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه が使徒に触れて言った：「アッラーの使徒よ、ひどいお熱です。」使徒は言われた：「**そうだ。わたしの熱は、あなたがたの男二人分の熱だ。**」イブン・マスウードは尋ねた：「それはあなたが二倍の報奨を受けるからですか。」使徒は「そうだ」と答えられた。それから使徒はこう言われた：「**ムスリムが苦痛に見舞われれば、アッラーは必ず、木が葉を落とすようにその罪を落としてくださる**」（『サヒーフ・ブハーリー』5648）。

預言者たちは**最も重い試練を受ける**人びとである。アッラーの使徒 ﷺ の病は、弱さやアッラーのお怒りのしるしではなく、**位階を高めるもの**であった。病にあるすべてのムスリムにとって、このハディースは慰めである。忍耐をもって耐えた苦痛は、すべて罪を落とすのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：571 / 634

ハイバルの毒の影響

病の中で、アッラーの使徒 ﷺ は、ある昔の出来事に由来する痛みを感じておられた。アーイシャ رضى الله عنها の伝えるところでは、使徒はこう言われた：「**アーイシャよ、わたしはハイバルで食べた食物による痛みを今も感じている。今こそ、その毒のためにわたしの大動脈が断たれるのを感じる時である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4428）

第 16 巻で語ったように、ハイバルの征服の後、ザイナブ・ビント・アル＝ハーリスというユダヤ人の女が**毒を盛った焼いた羊**を贈った。アッラーの使徒 ﷺ は少し噛んで吐き出されたが、その毒の影響は**およそ四年のあいだ**使徒のお体に残った。

このハディースに基づいて、イブン・マスウードやアッ＝ズフリーのような一部の学者は、アッラーの使徒 ﷺ が敵の毒の影響によって**殉教者として**亡くなられたという見解を持っている。アッラーは使徒のために、**預言者性と殉教**の栄誉をともに授けられたのである。

それでもアッラーの使徒 ﷺ は、当初その女に**報復なさらず**、ユダヤ人全体を責めることもなさらなかった。使徒は何年ものあいだ、人びとに嘆くことなく、忍耐をもってその痛みに耐えられたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「明日、わたしはどこにいるのか」

アッラーの使徒 ﷺ は妻たちに対してきわめて公正な夫であり、順番に妻たちの家で夜を過ごしておられた。病になっても順番を続けられたが、しばしばこう尋ねられた：「**明日、わたしはどこにいるのか。明日、わたしはどこにいるのか。**」 — アーイシャの番を待っておられたのである（『サヒーフ・ブハーリー』4450）。

妻たちはその願いを察した。そして深い思いやりをもって、**使徒がアーイシャの家にとどまることを許した**。アーイシャ自身が次のように語っている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4442 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عُفَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي عُقَيْلٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُتْبَةَ بْنِ مَسْعُودٍ، أَنَّ عَائِشَةَ، زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ لَمَّا ثَقُلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَاشْتَدَّ بِهِ وَجَعُهُ اسْتَأْذَنَ أَزْوَاجَهُ أَنْ يُمَرَّضَ فِي بَيْتِي، فَأَذِنَّ لَهُ، فَخَرَجَ وَهُوَ بَيْنَ الرَّجُلَيْنِ تَخُطُّ رِجْلاَهُ فِي الأَرْضِ، بَيْنَ عَبَّاسِ بْنِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ وَبَيْنَ رَجُلٍ آخَرَ. قَالَ عُبَيْدُ اللَّهِ فَأَخْبَرْتُ عَبْدَ اللَّهِ بِالَّذِي قَالَتْ عَائِشَةُ، فَقَالَ لِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبَّاسٍ هَلْ تَدْرِي مَنِ الرَّجُلُ الآخَرُ الَّذِي لَمْ تُسَمِّ عَائِشَةُ قَالَ قُلْتُ لاَ. قَالَ ابْنُ عَبَّاسٍ هُوَ عَلِيٌّ. وَكَانَتْ عَائِشَةُ زَوْجُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم تُحَدِّثُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَمَّا دَخَلَ بَيْتِي وَاشْتَدَّ بِهِ وَجَعُهُ قَالَ هَرِيقُوا عَلَىَّ مِنْ سَبْعِ قِرَبٍ لَمْ تُحْلَلْ أَوْكِيَتُهُنَّ لَعَلِّي أَعْهَدُ إِلَى النَّاسِ. فَأَجْلَسْنَاهُ فِي مِخْضَبٍ لِحَفْصَةَ زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، ثُمَّ طَفِقْنَا نَصُبُّ عَلَيْهِ مِنْ تِلْكَ الْقِرَبِ، حَتَّى طَفِقَ يُشِيرُ إِلَيْنَا بِيَدِهِ أَنْ قَدْ فَعَلْتُنَّ قَالَتْ ثُمَّ خَرَجَ إِلَى النَّاسِ فَصَلَّى لَهُمْ وَخَطَبَهُمْ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ によれば、彼女は言った：アッラーの使徒 ﷺ の病が重くなると、使徒は**わたしの家で看病を受けることを妻たちに願い出られ**、妻たちはそれを許した。使徒は二人の男のあいだにはさまれ、**両足を地に引きずりながら**出て来られた。それはアル＝アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブともう一人の男とのあ

いだであった。ウバイドゥッラーは言った：わたしがこれをアブドゥッラー・ブン・アッバースに伝えると、彼は尋ねた：「アーイシャが名を挙げなかった男が誰か知っているか。」わたしは「いいえ」と答えた。イブン・アッバースは言った：「それは**アリー・ブン・アビー・ターリブ**である。」アーイシャは語った：アッラーの使徒 ﷺ がわたしの家に入られ、病がいっそう重くなると、こう言われた：**「口を解いていない革袋七つ分の水をわたしに注ぎなさい。人びとに言い残すことができるように。」**そこでわたしたちは、預言者 ﷺ の妻ハフサの大きなたらいに使徒を座らせ、使徒が手で「もうよい」と合図されるまで、その水を注いだ。それから使徒は人びとのもとへ出て行き、彼らとともに礼拝し、彼らに説教された。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サイード・ブン・ウファイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラー・ブン・ウトバ・ブン・マスウード ← 信者たちの母アーイシャ رضي الله عنها。またウバイドゥッラー ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章、ハディース第 4442 番。第 198、665 番、およびムスリム第 418 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4442

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ が妻たちのあいだの**公正さ**にどれほど細やかであったかを見てほしい。病に弱っておられても、ほかのすべての妻に**許しを求める**ことなく、アーイシャの家に移ることはなさらなかった。これは複数の妻を持つ夫にとって — そして公正さという預かりものを担うすべての人にとって — 大きな教訓である。

使徒を支えた二人にも注目してほしい。使徒の父方のおじ**アル＝アッバース**と、使徒のいとこであり娘婿でもある**アリー**である。使徒の足は地を引きずっていた — そのときの使徒がどれほど弱っておられたかを伝える、胸の痛む情景である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

七つの革袋の水と最後の説教

同じハディースの中で、アーイシャは、アッラーの使徒 ﷺ が**口を解いていない七つの革袋の水**をご自分に注ぐよう求められたことを語っている。「**人びとに言い残すことができるように。**」その冷たい水によって熱がいくらか和らぐと、使徒はモスクへ出て行き、人びととともに礼拝し、説教された（『サヒーフ・ブハーリー』4442）。

激しい痛みの中にあっても、使徒の最大の願いは**ウンマに言い残すこと**であった。ただ休むことを求められたのではなく、伝えるための力を求められたのである。これこそ、**信者たちの幸福を切に願う**使徒の姿である（悔悟章 9:128）。

その説教は、ミンバルの上での使徒の**最後の説教**であった。真正な伝承によれば、その内容には、**選択を与えられたしもべ**、**アブー・バクル**の優れた徳、**アンサールについての遺言**、そして**墓をモスク（礼拝所）とすることへの警告**が含まれていた。以下の章で、それらを一つずつ見ていこう。

アンサールについて、使徒はこう言われた：「**わたしはあなたがたに、アンサールのことを託す。彼らはわたしの腹心であり、わたしの秘密を預ける者たちである。彼らは自分たちの務めを果たしたが、彼らの権利はまだ残っている。だから彼らの善行を受け入れ、彼らの過ちを赦しなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』3799）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

選択を与えられたしもべ

ミンバルの上で、アッラーの使徒 ﷺ は一般的な話のように聞こえることを語られたが、その本当の意味を悟ったのは一人の教友だけであった。アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه は次のように伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3654 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا أَبُو عَامِرٍ، حَدَّثَنَا فُلَيْحٌ، قَالَ حَدَّثَنِي سَالِمٌ أَبُو النَّضْرِ، عَنْ بُسْرِ بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ خَطَبَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم النَّاسَ وَقَالَ إِنَّ اللَّهَ خَيَّرَ عَبْدًا بَيْنَ الدُّنْيَا وَبَيْنَ مَا عِنْدَهُ فَاخْتَارَ ذَلِكَ الْعَبْدُ مَا عِنْدَ اللَّهِ. قَالَ فَبَكَى أَبُو بَكْرٍ، فَعَجِبْنَا لِبُكَائِهِ أَنْ يُخْبِرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَنْ عَبْدٍ خُيِّرَ. فَكَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم هُوَ الْمُخَيَّرَ وَكَانَ أَبُو بَكْرٍ أَعْلَمَنَا، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِنَّ مِنْ أَمَنِّ النَّاسِ عَلَىَّ فِي صُحْبَتِهِ وَمَالِهِ أَبَا بَكْرٍ، وَلَوْ كُنْتُ مُتَّخِذًا خَلِيلاً غَيْرَ رَبِّي لاَتَّخَذْتُ أَبَا بَكْرٍ، وَلَكِنْ أُخُوَّةُ الإِسْلاَمِ وَمَوَدَّتُهُ، لاَ يُبْقَيَنَّ فِي الْمَسْجِدِ بَابٌ إِلاَّ سُدَّ، إِلاَّ بَابَ أَبِي بَكْرٍ.

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه によれば、彼は言った：アッラーの使徒 ﷺ は人びとに説教して、こう言われた：「**本当にアッラーは、あるしもべに、現世とアッラーの御許にあるものとのどちらかを選ばせられた。するとそのしもべは、アッラーの御許にあるものを選んだ。**」すると**アブー・バクルが泣き出した。**わたしたちは、アッラーの使徒 ﷺ が選択を与えられたあるしもべの話をされただけなのに、と彼の涙をいぶかしく思った。**実は、選択を与えられたしもべとはアッラーの使徒 ﷺ ご自身であり、アブー・バクルはわたしたちの中で最もよく理解していたのである。**アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**本当に、交わりと財産によってわたしに最も多くの恩を施した者はアブー・バクルである。もしわたしが主以外にハリール（無二の親友）を持つとすれば、必ずアブー・バクルをわたしのハリールとしたであろう。しかし（あるのは）イス**

ラームの兄弟愛と親愛である。このモスクの扉は、アブー・バクルの扉を除いて、一つも開けたままにしてはならない。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・アル＝ムスナディー ← アブー・アーミル・アル＝アカディー ← フライフ・ブン・スライマーン ← サーリム・アブー・アン＝ナドル ← ブスル・ブン・サイード ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、預言者の言葉「アブー・バクルの扉を除いて扉を閉じよ」の章、ハディース第 3654 番。第 466、3904 番、およびムスリム第 2382 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3654

このハディースの教訓

ほかの教友たちはいぶかった。アッラーの使徒 ﷺ が「あるしもべ」の話をされたとき、なぜアブー・バクルは泣いたのか。彼らは、**そのしもべがアッラーの使徒 ﷺ ご自身**であり、その選択が**アッラーのもとへ帰ること**だとは思いもしなかった。最も近しい友であったアブー・バクルは、その兆しをただちに悟ったのである。

このハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が**みずから進んで来世を選ばれた**ことを示している。使徒は現世を差し出されたが、アッラーの御許にあるものを選ばれた。生涯を通じて使徒は質素に暮らされた — むしろの上で眠り、何日も台所に火がともらないこともあった — そして最後に、**主との対面**を選ばれたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルの地位

同じ説教の中で、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・バクルに**最高の賛辞**を贈られた：

「本当に、交わりと財産によってわたしに最も多くの恩を施した者はアブー・バクルである。もしわたしが主以外にハリールを持つとすれば、必ずアブー・バクルをわたしのハリールとしたであろう。」（『サヒーフ・ブハーリー』3654）

使徒はまたこう命じられた：**「このモスクの扉は、アブー・バクルの扉を除いて、一つも開けたままにしてはならない。」**モスクを囲む教友たちの家には、モスクへ直接通じる小さな扉があったが、アブー・バクルの扉を除いてすべて閉じられた。学者たちはこれを、使徒の後の指導者としてのアブー・バクルの地位を示す**暗示**と見ている。

アブー・バクルの交わりは宣教の初めから始まっていた。彼は最初に信仰した成人男性であり（第 3 巻）、ヒジュラの際にはサウルの洞窟で使徒に付き添い（第 7 巻）、拷問されていた奴隷たちを解放するために財産を費やし、タブークへの備えでは**全財産**を差し出した（第 24 巻）。生涯の終わりに使徒が贈られた賛辞は、その生涯全体への**承認**であった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アブー・バクルに礼拝を導かせなさい」

病がいっそう重くなり、モスクへ出て行くことができなくなると、使徒はこう言われた：「**アブー・バクルに命じて、人びとの礼拝を導かせなさい。**」アーイシャ رضى الله عنها はほかの人を勧めようとして、こう言った：「**アブー・バクルは心の優しい人です。あなたの場所に立てば、（涙をこらえることが）できないでしょう。**」使徒は三度までその命令を繰り返され、こうしてアブー・バクルが礼拝を導いた（『サヒーフ・ブハーリー』664）。

スィーラの伝承によれば、アブー・バクルは**十七回**の礼拝を導いた。ある真正な伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は少し楽になられたので、二人の男に支えられて出て来られ、アブー・バクルのそばに座られた。アブー・バクルは使徒の礼拝に従い、人びとはアブー・バクルの礼拝に従った（『サヒーフ・ブハーリー』664）。

後に教友たちはこう論じた：「**アッラーの使徒 ﷺ がわたしたちの宗教（の指導）にアブー・バクルを良しとされたのに、どうしてわたしたちが現世（の指導）に彼を良しとしないことがあろうか。**」初期のイスラーム社会において、礼拝の導師は最も尊い地位であり、アブー・バクルがその地位に任じられたことは、彼をカリフとして忠誠を誓う**最も強い根拠**の一つとなった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

墓についての戒め

アッラーの使徒 ﷺ が病の中で繰り返された遺言の一つは、**墓をあがめること**への警告であった。アーイシャ رضى الله عنها は次のように伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4441 番

حَدَّثَنَا الصَّلْتُ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنْ هِلاَلٍ الْوَزَّانِ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فِي مَرَضِهِ الَّذِي لَمْ يَقُمْ مِنْهُ لَعَنَ اللَّهُ الْيَهُودَ، اتَّخَذُوا قُبُورَ أَنْبِيَائِهِمْ مَسَاجِدَ. قَالَتْ عَائِشَةُ لَوْلاَ ذَلِكَ لأُبْرِزَ قَبْرُهُ. خَشِيَ أَنْ يُتَّخَذَ مَسْجِدًا.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば、彼女は言った：預言者 ﷺ は、そこから再び起き上がることのなかった病の中で、こう言われた：「**アッラーはユダヤ人を呪われた。彼らは預言者たちの墓をモスク（礼拝所）としたのである。**」アーイシャは言った：**もしそのことがなければ、使徒の墓は（開かれた場所に）あらわにされたであろう。しかし使徒は、それがモスクとされることを恐れられたのである。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アッ＝サルト・ブン・ムハンマド ← アブー・アワーナ・アル＝ワッダーフ ← ヒラール・アル＝ワッザーン ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← 信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章、ハディース第 4441 番。第 435、1330、1390 番、およびムスリム第 529 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4441

このハディースの教訓

なぜこの戒めが、最後の時にこれほど大切だったのか。それは使徒が、正しい人びとへの**行き過ぎた愛**が多神崇拝につながりうることを知っておられたからである。ヌーフ عَلَيْهِ السَّلَامُ の民は、自分たちの正しい人びとの像を作ったことから偶像を拝むようになった。啓典の民は、預言者たちの墓を礼拝の場とした。

アッラーの使徒 ﷺ は**最後の息に至るまでウンマのタウヒードを守られた**。使徒は、ご自分の墓が崇拝される場所となることを望まれなかった。教友たちはこのことを理解していた。使徒の墓は開かれた場所ではなく、アーイシャの部屋の中に設けられた。使徒の墓を訪れて平安のあいさつを述べることは定められた行いであるが、**祈りと願いはアッラーにのみ向ける**のである。

教友たちはこの戒めをよく理解していた。使徒を埋葬したとき、彼らは墓の上に壮大な建物を建てることも、そこを祭りの場とすることもしなかった。彼らは引き続き使徒のモスクで、墓ではなくキブラ（礼拝の方角）に向かって礼拝した。

この戒めはまた、使徒のウンマへの**慈しみ**の一つの形でもある。使徒は、ウンマが過去の諸民族を滅ぼした過ちに陥ることを望まれなかった。従う者たちを本当に愛する指導者は、たとえ初めは良いものに見えても、彼らを迷いへと導きうる扉を閉ざすのである。

わたしたちにとってこれは、アッラーの使徒 ﷺ と正しい人びとへの愛は**シャリーアの範囲内**になければならないことを思い起こさせる。彼らの教えに従い、彼らのために祈り、礼儀をもって墓を訪れることであって、アッラーだけが与えることのできるものを彼らに求めることではないのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

木曜日

イブン・アッバース رضي الله عنهما は、**木曜日**として知られる出来事を伝えている。使徒の病が重くなると、使徒はこう言われた：「**（筆記用具を）持って来なさい。あなたがたがその後決して迷わないものを書いてあげよう。**」その場にいた人びとの意見は分かれた。持って来ようとする者もいれば、使徒は重い病の中にあり、クルアーンで十分だと言う者もいた。使徒は言われた：「**わたしをそっとしておきなさい。今のわたしの状態は、あなたがたがわたしを誘うものよりも良いのである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4431）

それから使徒は**三つのこと**を遺言された。多神教徒をアラビア半島から退去させること、使節団を、使徒がもてなされたようにもてなすこと、そして伝承者が忘れてしまった三つ目のことである（『サヒーフ・ブハーリー』4431）。

スィーラの注：木曜日の出来事をどう理解するか

スンナの民（アフル・アッ＝スンナ）の学者たちは次のように説明している。もしその書き記すことが**義務**であったなら、アッラーの使徒 ﷺ は誰の異論があろうとそれをやめられることはなかったであろう。使徒は、反対されても啓示を伝えることを決してやめられなかったのと同じである。使徒は木曜日の後**さらに数日**生きられ、口頭でさまざまなことを遺言された。

クルアーン自体が、宗教はすでに完成されたと述べており（食卓章 5:3）、使徒はアッラーの啓典をよりどころとして遺されていた（第 29 巻）。したがって、この出来事を、教友たちを非難したり宗教の完全さを疑ったりする口実としてはならない。

参照：

アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— 知識の書および遠征の書。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「礼拝を、礼拝を！」

アッラーの使徒 ﷺ がウンマに遺された最後の教えは何だったのか。アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ が最後に口にされた言葉は、『礼拝を、礼拝を！ あなたがたの右手が所有する者（奴隷・使用人）について、アッラーを畏れなさい』であった。**」（『スナン・アビー・ダーウード』5156 — 真正）

二つのことである。**礼拝** — アッラーの権利であり、宗教の柱である。そして**奴隷** — 社会で最も弱い人びとである。最後の時に、使徒は**アッラーの権利と、最も弱い人間の権利**とを一つの教えにまとめられたのである。

今日、「あなたがたの右手が所有する者」には、わたしたちの扶養と権限のもとにある人びとも含まれる。**従業員、家事使用人、外国人労働者**、そしてわたしたちに頼っているすべての人である。彼らを虐げ、賃金を払わず、その尊厳を傷つけることは、アッラーの使徒 ﷺ の最後の遺言に背くことである。

わたしたちの礼拝はどうだろうか。父親の最後の言いつけを子どもたちが大切に守るのなら、**アッラーの使徒** ﷺ の最後の教えは、なおさら守られるべきである。一日五回の礼拝を守ることは、ムスリムの使徒への愛の最も明らかな証しである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウサーマの軍

病の前に、アッラーの使徒 ﷺ は、まだ若い**ウサーマ・ブン・ザイド** — スィーラの学者によればおよそ十八歳 — を、ローマの国境へ向かう軍の指揮官に任じられた。一部の人びとは、その若者が年長の教友たちの上に立つことに異を唱えた。使徒は立ち上がって言われた：「**あなたがたが彼の指揮に異を唱えるなら、以前にも彼の父の指揮に異を唱えたことになる。アッラーにかけて、彼の父は指揮にふさわしかった……。そして本当に彼（ウサーマ）は、彼（父）の後でわたしが最も愛する者の一人である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4469）

ウサーマの軍はマディーナの外のアル＝ジュルフで出発の準備をしていたが、使徒の病が重くなったため出発を延期した。使徒の逝去の後、**アブー・バクル**は — カリフとしての最初の決定として — 多くの人が不安を抱いていたにもかかわらず、その軍を送り出した。**それがアッラーの使徒** ﷺ の命令だったからである。

教訓：イスラームにおける指導は、年齢や家柄だけではなく、**能力と誠実さ**に基づいている。そしてアッラーの使徒 ﷺ の命令は、**使徒がおられなくなった後も実行された** — これこそ真の忠誠である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ファーティマの涙と微笑み

アーイシャ رضي الله عنها によれば、**ファーティマ**が父を見舞いに来た。**その歩き方はアッラーの使徒** ﷺ の歩き方そのものであった。使徒は「よく来たね、わが娘よ」と迎え、ご自分のそばに座らせて、何かをささやかれた。**ファーティマは泣いた。**それから使徒がもう一度何かをささやかれると、**ファーティマは微笑んだ。**アーイシャは言った：「今日ほど喜びが悲しみのすぐそばにあるのを見たことはない」（『サヒーフ・ブハーリー』3623）。

ファーティマは、父が生きているあいだはその秘密を明かそうとしなかった。使徒の逝去の後、彼女はこう語った。一度目に父は、**ジブリールがその年クルアーンを二度復唱したこと、それは最期が近いしるしであること**を告げられたので、彼女は泣いた。二度目に父はこう言われた：「**あなたは楽園の女性たちの長となることに満足しないのか。**」そして、彼女が**家族の中で最初に父の後に続く者**であると告げられた — そこで彼女は微笑んだのである（『サヒーフ・ブハーリー』3624）。

その二つの知らせはどちらも現実となった。アッラーの使徒 ﷺ は数日後に逝去され、**ファーティマは父の死からおよそ六か月後に亡くなった。**彼女の微笑みは別れを喜んだものではなく、愛する父と**再び会えることの喜び**だったのである。

ファーティマの誠実さにも注目してほしい。彼女は、使徒に最も近い妻アーイシャに尋ねられても、父の秘密を守った。秘密を守ることは、預言者の家庭から受け継がれた品性の一部である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

月曜日の朝の微笑み

月曜日の朝、アッラーの使徒 ﷺ の生涯最後の日に、教友たちが決して忘れることのなかった出来事が起こった。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は次のように語っている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 680 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ الأَنْصَارِيُّ ـ وَكَانَ تَبِعَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَخَدَمَهُ وَصَحِبَهُ أَنَّ أَبَا بَكْرٍ كَانَ يُصَلِّي لَهُمْ فِي وَجَعِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم الَّذِي تُوُفِّيَ فِيهِ، حَتَّى إِذَا كَانَ يَوْمُ الاِثْنَيْنِ وَهُمْ صُفُوفٌ فِي الصَّلاَةِ، فَكَشَفَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم سِتْرَ الْحُجْرَةِ يَنْظُرُ إِلَيْنَا، وَهْوَ قَائِمٌ كَأَنَّ وَجْهَهُ وَرَقَةُ مُصْحَفٍ، ثُمَّ تَبَسَّمَ يَضْحَكُ، فَهَمَمْنَا أَنْ نَفْتَتِنَ مِنَ الْفَرَحِ بِرُؤْيَةِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، فَنَكَصَ أَبُو بَكْرٍ عَلَى عَقِبَيْهِ لِيَصِلَ الصَّفَّ، وَظَنَّ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم خَارِجٌ إِلَى الصَّلاَةِ، فَأَشَارَ إِلَيْنَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَنْ أَتِمُّوا صَلاَتَكُمْ، وَأَرْخَى السِّتْرَ، فَتُوُفِّيَ مِنْ يَوْمِهِ.

訳：

アッ＝ズフリーによれば、彼は言った：アナス・ブン・マーリク・アル＝アンサーリー رضي الله عنه がわたしに伝えたところでは、**アブー・バクルが人びとの礼拝を導いていた**のは、預言者 ﷺ が逝去に至る病にあったあいだのことであった。そして**月曜日**、人びとが礼拝のために列を整えていたとき、預言者 ﷺ が部屋の帳を上げ、立ったままわたしたちをご覧になった。**そのお顔はまるでクルアーンの一葉のようであった**。それから使徒は**微笑み、お笑いになった**。わたしたちは預言者 ﷺ を見た喜びのあまり、（礼拝の中で）心が乱れそうになった。アブー・バクルは、預言者 ﷺ が礼拝に出て来られると思い、列に入ろうと後ろへ下がった。すると預言者 ﷺ は「あなたがたの礼拝を全うしなさい」とわたしたちに合図され、帳を下ろされた。**使徒はその日のうちに逝去された。**

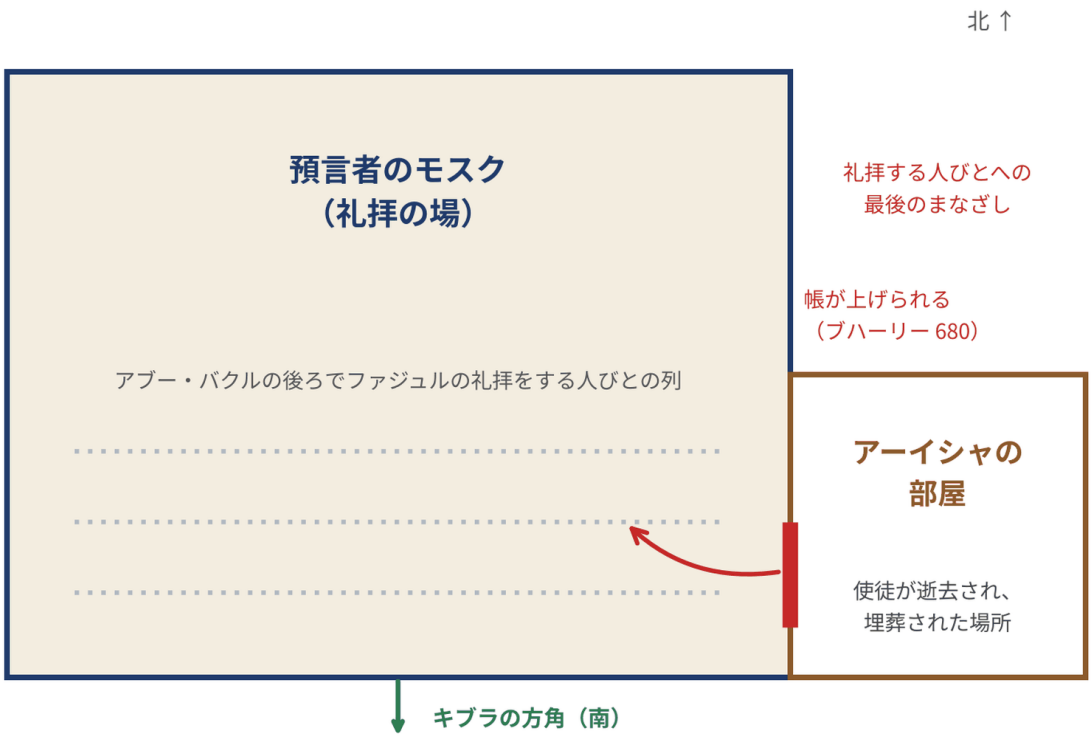
伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アナス・ブン・マーリク・アル＝アンサーリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』礼拝の呼びかけ（アザーン）の書、知識と徳のある者がイマームに最もふさわしいことの章、ハディース第 680 番。第 681、754、4448 番、およびムスリム第 419 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:680

模式図：預言者のモスクのそばのアーイシャの部屋



簡略図であり、実際の平面図ではない。使徒の妻たちの部屋はモスクの東側に接していた。

図 2：預言者のモスク（マスジド・ナバウィー）のそばにあったアーイシャの部屋の模式図。

このハディースの教訓

その朝アッラーの使徒 ﷺ がご覧になった光景を思い浮かべてほしい。アブー・バクルの後ろで、キブラに向かってきちんと並び、ファジュルの集団礼拝をする**ウンマ**

の列である。二十三年前、使徒はマッカで一人で、あるいはわずかな人びととひそかに礼拝しておられた。今や、信仰し秩序あるウンマで**モスクは満ちていた**。

その微笑みは、**宣教の実りを目にした使徒の微笑み**であった。託されたものは果たされ、ウンマは自分の足で立ち、使徒がイマームでなくとも礼拝は確立されていた。それが、教友たちが生きておられる使徒のお顔を見た最後であった。

その朝使徒を見た教友たちは、使徒が回復されたと思った。多くの人が喜んで家に帰り、あるいはそれぞれの用事に出かけた。アブー・バクルも、アッ＝スンフにある自宅へ帰った。彼らは**それが別れであった**ことを知らなかった。

アブー・バクルはアッラーの使徒 ﷺ ご自身の前でイマームを務め、使徒はそれを良しとされた。その光景 — アッラーの使徒 ﷺ がアブー・バクルの後ろで礼拝するウンマをご覧になる姿 — は、理解する者にとって、静かではあるが明らかな**託されたものの引き継ぎ**のようであった。

学者たちはここから、**継続性**こそ指導者の成功のしるしであるという教訓を引き出している。成功した指導者とは、生きているあいだに導くだけでなく、自分がいなくなった後も立ち続けられるウンマを育てる者である。アッラーの使徒 ﷺ は、礼拝と宣教と統治を受け継ぐことのできる世代を育てられたのである。

月曜日の朝はまた、わたしたちに**一つひとつの出会いを大切にすること**を教えている。わたしたちは、両親や友や師に会うのがいつ最後になるのかを知らない。教友たちはアッラーの使徒 ﷺ が回復されたと思ったが、実はそれが彼らが使徒のお顔を見た最後だったのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最後のミスワーク

その月曜日の正午近く、アッラーの使徒 ﷺ はアーイシャの部屋で、**アーイシャの胸にもたれておられた**。アーイシャの兄弟アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・バクルが、**新しいミスワーク（歯磨きの小枝）**で歯を磨きながら入って来た。アッラーの使徒 ﷺ はそのミスワークをじっと見つめられた（『サヒーフ・ブハーリー』4438）。

アーイシャはそのまなざしの意味を悟った。彼女はそのミスワークを取り、**自分の歯でやわらかくして**、アッラーの使徒 ﷺ に差し上げた。使徒はそれで歯を磨かれた。アーイシャは言った：「**アッラーの使徒 ﷺ があれほど見事に歯を磨かれるのを、わたしは見たことがなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4438）

後にアーイシャは深い感謝をこめて振り返った：「**わたしへのアッラーの恵みの一つは、アッラーの使徒 ﷺ がわたしの家で、わたしの番の日に、わたしの胸と首のあいだで逝去されたこと、そしてアッラーが、使徒の逝去の時に、わたしの唾と使徒の唾とを一つにされたことである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4449）

最後の瞬間まで、アッラーの使徒 ﷺ は**清潔さ**を保たれた — それは使徒が最も愛されたスンナの一つである。使徒はかつて、ウンマの負担にならないのであれば、礼拝のたびにミスワークを使うよう命じたであろうと言われた（『サヒーフ・ブハーリー』887）。この小さなスンナが、現世での使徒の最後の行いの一つとなったのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：589 / 634

「アッラーよ、至高の友を」

アッラーの使徒 ﷺ のそばには水の入った器があった。使徒はその水に手を入れてお顔をぬぐい、こう言われた：**「アッラーのほかに神はない。本当に死には苦しみがある。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4449）それから使徒は手を上げ、上を見つめられた。アーイシャ رضي الله عنها はその最後の瞬間を次のように語っている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4463 番

حَدَّثَنَا بِشْرُ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ، قَالَ يُونُسُ قَالَ الزُّهْرِيُّ أَخْبَرَنِي سَعِيدُ بْنُ الْمُسَيَّبِ، فِي رِجَالٍ مِنْ أَهْلِ الْعِلْمِ أَنَّ عَائِشَةَ قَالَتْ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ وَهْوَ صَحِيحٌ إِنَّهُ لَمْ يُقْبَضْ نَبِيٌّ حَتَّى يَرَى مَقْعَدَهُ مِنَ الْجَنَّةِ، ثُمَّ يُخَيَّرُ. فَلَمَّا نَزَلَ بِهِ وَرَأْسُهُ عَلَى فَخِذِي غُشِيَ عَلَيْهِ، ثُمَّ أَفَاقَ، فَأَشْخَصَ بَصَرَهُ إِلَى سَقْفِ الْبَيْتِ ثُمَّ قَالَ اللَّهُمَّ الرَّفِيقَ الأَعْلَى. فَقُلْتُ إِذًا لاَ يُخَيَّرُنَا. وَعَرَفْتُ أَنَّهُ الْحَدِيثُ الَّذِي كَانَ يُحَدِّثُنَا وَهْوَ صَحِيحٌ قَالَتْ فَكَانَتْ آخِرَ كَلِمَةٍ تَكَلَّمَ بِهَا اللَّهُمَّ الرَّفِيقَ الأَعْلَى.

訳：

アーイシャ رضي الله عنها によれば、彼女は言った：アッラーの使徒 ﷺ は健やかであったころ、こう言われていた：**「預言者は、楽園における自分の場所を見せられ、それから選択を与えられるまで、決して召されることはない。」**最期が近づいたとき、**使徒の頭はわたしの膝の上にあった。**使徒は気を失い、それから意識を取り戻すと、家の天井を見つめてこう言われた：**「アッラーよ、（わたしは）至高の友（アッ＝ラフィーク・アル＝アアラー）を（選びます）。」**わたしは（心の中で）言った：「それなら、使徒はわたしたちを選ばれないのだ。」そしてわたしは、それが使徒が健やかなころにわたしたちに語っておられたハディースであることを悟った。**使徒が最後に口にされた言葉は、「アッラーよ、至高の友を」であった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ビシュル・ブン・ムハンマド ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← 信者たちの母アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、預言者 ﷺ の最後の言葉の章、ハディース第 4463 番。第 4437、6348、6509 番、およびムスリム第 2444 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4463

このハディースの教訓

「至高の友」とは誰のことか。クルアーンがそれを説明している：「**アッラーと使徒に従う者は、アッラーが恩恵を施された預言者たち、誠実な者たち、殉教者たちと正義の人々の仲間となる。これらは何と立派な仲間であることよ。**」（婦人章 4:69）— 『イブン・カスィール注釈』4:69。

アーイシャによれば、使徒はまたこう祈られた：「**アッラーよ、わたしをお赦しください。わたしに慈悲をおかけください。そしてわたしを至高の友に会わせてください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4440）それから使徒の手は落ち、**その尊い魂は創造主のもとへ帰った。**インナー・リッラーヒ・ワ・インナー・イライヒ・ラージウーン（わたしたちはアッラーのものであり、アッラーのもとに帰る）。

アッラーの使徒 ﷺ は**選択を与えられ**、アッラーを選ばれた — 生涯を通じて常にアッラーを選んでこられたのと同じように。使徒の最後の言葉は財産でも権力でも家族でもなく、**主との対面**と楽園の友たちについてであった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ファーティマの悲しみ

その喪失を誰よりも深く感じたのは、存命していた使徒のただ一人の娘、**ファーティマ** رضي الله عنها であった。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は次のように伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4462 番

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ لَمَّا ثَقُلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم جَعَلَ يَتَغَشَّاهُ، فَقَالَتْ فَاطِمَةُ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ وَاكَرْبَ أَبَاهُ. فَقَالَ لَهَا لَيْسَ عَلَى أَبِيكِ كَرْبٌ بَعْدَ الْيَوْمِ. فَلَمَّا مَاتَ قَالَتْ يَا أَبَتَاهْ، أَجَابَ رَبًّا دَعَاهُ، يَا أَبَتَاهْ مَنْ جَنَّةُ الْفِرْدَوْسِ مَأْوَاهُ، يَا أَبَتَاهْ إِلَى جِبْرِيلَ نَنْعَاهُ. فَلَمَّا دُفِنَ قَالَتْ فَاطِمَةُ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ يَا أَنَسُ، أَطَابَتْ أَنْفُسُكُمْ أَنْ تَحْثُوا عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم التُّرَابَ

訳：

アナス رضي الله عنه によれば、彼は言った：預言者 ﷺ の病が重くなると、使徒は意識を失われるようになった。すると**ファーティマ** رضي الله عنها は言った：「**ああ、父上の苦しみのなんと重いこと！**」使徒は彼女に言われた：「**今日の後、あなたの父に苦しみはない。**」使徒が逝去されると、ファーティマは言った：「ああ父上、あなたを呼ぶ主の呼びかけに応えられた方。ああ父上、フィルダウスの楽園を住まいとされた方。ああ父上、わたしたちはジブリールにあなたの死を告げます。」使徒が埋葬されると、ファーティマは言った：「**アナスよ、あなたがたはアッラーの使徒 ﷺ の上に土をかけて、心が平気でいられたのですか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章、ハディース第 4462 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4462

このハディースの教訓

「**今日の後、あなたの父に苦しみはない**」 — この言葉は、愛する人を失ったすべての信仰者を慰める。信仰者にとって死とは、**現世の苦しみの終わり**であり、より良い生の始まりなのである。

ファーティマの言葉「**アッラーの使徒 ﷺ の上に土をかけて、心が平気でいられたのですか**」は、その喪失がどれほど重かったかを伝えている。しかし彼女は泣き叫んだり衣を裂いたりはしなかった。その悲しみは、礼儀をわきまえ信仰に満ちた言葉で表された — アッラーの使徒 ﷺ がこう教えておられたからである：「目は涙を流し、心は悲しむ。しかしわたしたちは、主が良しとされること以外は口にしない」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

最も暗い日

十年間アッラーの使徒 رضي الله عنه に仕えたアナス・ブン・マーリク ﷺ は、自分の生涯の二つの日の違いをこう描いている：「**アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに入られた日、そこのすべてのものが明るく輝いた。そして使徒が逝去された日、そこのすべてのものが暗くなった。**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3618 — 良好（ハサン））

アナスはさらにこう言った：「**わたしたちがアッラーの使徒 ﷺ を埋葬して、（墓の土を）手から払い終えないうちに、わたしたちは自分たちの心が変わってしまったのを感じた。**」使徒を失ったことは、一人の指導者を失うだけのことではなく、毎日彼らの暮らしを照らしていた**光を失うこと**であった。

その日、マディーナは泣き声に満ちた。ある教友たちは座り込んで立ち上がれず、ある者は言葉を失い、ある者はその現実を受け入れられなかった。学者たちは、ムスリムのウンマを襲った**最大の災難**はアッラーの使徒 ﷺ の逝去であったと述べている。それによって天からの啓示が途絶えたからである。

ある伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は、人が災難に見舞われたときには、使徒を失ったという災難を思い起こしなさい、それは**最も大きな災難**だからである、と言われた（『スナン・イブン・マージャ』1599 — その伝承経路には議論があるが、別の経路の裏づけによりアル＝アルバーニーが真正と評価した）。わたしたちのどんな悲しみも、その喪失と比べれば軽くなるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウマルの動揺

逝去の知らせが広まると、**ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه — 最も強く勇敢な教友 — はそれを受け入れることができなかった。彼は立ち上がって言った：**「アッラーにかけて、アッラーの使徒 ﷺ は亡くなってはいない！」**そして、アッラーが使徒を再びよみがえらせるであろうと言った（『サヒーフ・ブハーリー』3667）。

後にウマルはこう認めた：**「アッラーにかけて、そのとき、わたしの心にはそれしか浮かばなかった。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3667）これは信仰の弱さのしるしではなく、**あまりにも深い愛**のしるしであった。その衝撃はあまりに大きく、彼の理性はそれを受け入れることができなかったのである。

この話は、大きな災難の中では**最も強い人でさえ揺らぐことがある**ことを教えている。大切なのは、思い起こさせられたときに真理へ立ち返ることである — そしてウマルは、アブー・バクルがクルアーンの節を読み上げるや、まさにそうしたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ムハンマドを崇拝していた者は……」

マディーナが混乱の中にあったとき、**アブー・バクル** رضى الله عنه がアッ＝スンフの自宅から到着した。彼は誰とも話さず、まっすぐアーイシャの部屋に入り、最愛の友を見いだした。アーイシャとイブン・アッバースは、その後に起こったことを次のように語っている：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4454 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبُو سَلَمَةَ، أَنَّ عَائِشَةَ، أَخْبَرَتْهُ أَنَّ أَبَا بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ أَقْبَلَ عَلَى فَرَسٍ مِنْ مَسْكَنِهِ بِالسُّنْحِ حَتَّى نَزَلَ، فَدَخَلَ الْمَسْجِدَ فَلَمْ يُكَلِّمِ النَّاسَ حَتَّى دَخَلَ عَلَى عَائِشَةَ، فَتَيَمَّمَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ مُغَشًّى بِثَوْبِ حِبَرَةٍ، فَكَشَفَ عَنْ وَجْهِهِ ثُمَّ أَكَبَّ عَلَيْهِ فَقَبَّلَهُ وَبَكَى. ثُمَّ قَالَ بِأَبِي أَنْتَ وَأُمِّي، وَاللَّهِ لاَ يَجْمَعُ اللَّهُ عَلَيْكَ مَوْتَتَيْنِ، أَمَّا الْمَوْتَةُ الَّتِي كُتِبَتْ عَلَيْكَ فَقَدْ مُتَّهَا. قَالَ الزُّهْرِيُّ وَحَدَّثَنِي أَبُو سَلَمَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عَبَّاسٍ، أَنَّ أَبَا بَكْرٍ، خَرَجَ وَعُمَرُ يُكَلِّمُ النَّاسَ فَقَالَ اجْلِسْ يَا عُمَرُ، فَأَبَى عُمَرُ أَنْ يَجْلِسَ. فَأَقْبَلَ النَّاسُ إِلَيْهِ وَتَرَكُوا عُمَرَ، فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ أَمَّا بَعْدُ مَنْ كَانَ مِنْكُمْ يَعْبُدُ مُحَمَّدًا صلى الله عليه وسلم فَإِنَّ مُحَمَّدًا قَدْ مَاتَ، وَمَنْ كَانَ مِنْكُمْ يَعْبُدُ اللَّهَ فَإِنَّ اللَّهَ حَىٌّ لاَ يَمُوتُ، قَالَ اللَّهُ {وَمَا مُحَمَّدٌ إِلاَّ رَسُولٌ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِهِ الرُّسُلُ} إِلَى قَوْلِهِ {الشَّاكِرِينَ} وَقَالَ وَاللَّهِ لَكَأَنَّ النَّاسَ لَمْ يَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ أَنْزَلَ هَذِهِ الآيَةَ حَتَّى تَلاَهَا أَبُو بَكْرٍ، فَتَلَقَّاهَا مِنْهُ النَّاسُ كُلُّهُمْ فَمَا أَسْمَعُ بَشَرًا مِنَ النَّاسِ إِلاَّ يَتْلُوهَا. فَأَخْبَرَنِي سَعِيدُ بْنُ الْمُسَيَّبِ أَنَّ عُمَرَ قَالَ وَاللَّهِ مَا هُوَ إِلاَّ أَنْ سَمِعْتُ أَبَا بَكْرٍ تَلاَهَا فَعَقِرْتُ حَتَّى مَا تُقِلُّنِي رِجْلاَىَ، وَحَتَّى أَهْوَيْتُ إِلَى الأَرْضِ حِينَ سَمِعْتُهُ تَلاَهَا أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَدْ مَاتَ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば：アブー・バクル رضى الله عنه は、アッ＝スンフの自宅から馬に乗ってやって来た。彼は馬を降りてモスクに入り、誰とも話さずにアーイシャの部屋に入ると、縞模様の布（ヒバラ）で覆われていたアッラーの使徒 ﷺ のもとへまっ

すぐ向かった。彼は使徒のお顔の覆いを取ると、**身をかがめて口づけし、泣いた**。そしてこう言った：「**わたしの父と母をあなたの身代わりに捧げます。アッラーはあなたに二度の死を課されることはありません。あなたに定められていた死を、あなたはもう迎えられたのです。**」イブン・アッバース رضي الله عنهما は言った：アブー・バクルが出て来たとき、ウマルは人びとに語りかけていた。アブー・バクルは「座りなさい、ウマルよ」と言ったが、ウマルは拒んだ。すると人びとはウマルを離れ、アブー・バクルのほうを向いた。アブー・バクルは言った：「**さて、あなたがたの中でムハンマド ﷺ を崇拝していた者がいるなら、ムハンマドは本当に亡くなった。しかし、あなたがたの中でアッラーを崇拝していた者がいるなら、アッラーは永遠に生きておられ、決して死なれない。**」アッラーは仰せられた：{ムハンマドは一人の使徒に過ぎない。使徒たちはかれの前に逝った……}から{……感謝する者たち}まで。イブン・アッバースは言った：アッラーにかけて、アブー・バクルが読み上げるまで、人びとはアッラーがこの節を下されたことを知らなかったかのようであった。人びとはみな彼からそれを受け取り、わたしが耳にしたのは、それを読み上げる人の声ばかりであった。サイード・ブン・アル＝ムサイヤブによれば、ウマルはこう言った：「**アッラーにかけて、アブー・バクルがそれを読み上げるのを聞くやいなや、わたしはへたり込み、足が体を支えられなくなった。そしてそれを聞きながら地に崩れ落ち、預言者 ﷺ が本当に亡くなったことを（悟った）。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アーイシャ رضي الله عنها およびアブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。また、アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章、ハディース第 4452〜4454 番。第 1241、3667、3668 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4454

このハディースの教訓

アブー・バクルが読み上げた節は次のとおりである：「**ムハンマドは一人の使徒に過ぎない。使徒たちはかれの前に逝った。もしかれが死ぬか、または殺されたら、あなたがたは踵を返すのか。**」（イムラーン家章 3:144） — 『イブン・カスィール注釈』3:144。

アブー・バクルの揺るぎなさを見てほしい。彼は泣き、友の顔に口づけした — **その悲しみはほかの誰にも劣らなかった。**しかしウンマの前に出ると、彼は**落ち着いて、明確に、啓示に基づいて**語った。感情に真理を呑み込ませることはなかったのである。

「**ムハンマドを崇拝していた者がいるなら、ムハンマドは亡くなった。アッラーを崇拝していた者がいるなら、アッラーは永遠に生きておられ、決して死なれない**」という言葉は、イスラームの歴史で最も重要な言葉の一つである。それは最も危うい瞬間に**ウンマのタウヒードを救い**、この宗教が人間の誰かではなくアッラーに拠っていることの基礎となった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「本当にあなたも死ぬ」

別の伝承では、アブー・バクルは次の節も読み上げた（『サヒーフ・ブハーリー』3667）：

「**本当にあなたは（何時かは）死ぬ。かれらもまた死ぬのである。**」（集団章 39:30）— 『イブン・カスィール注釈』39:30。

またアッラーは仰せられた：「**われはあなた以前の誰に対しても、永久に生きる者としたことはない。**」（預言者章 21:34）— 『イブン・カスィール注釈』21:34。

これらの節は何年も前に下されており、教友たちは何度も読んでいた。それでもイブン・アッバースは言った：「**アブー・バクルが読み上げるまで、人びとはアッラーがこの節を下されたことを知らなかったかのようであった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4454）悲しみは、人に知っていたことを忘れさせることがある — そして知識ある者の役割は**思い起こさせること**なのである。

これらの節はまた、**アッラーの使徒** ﷺ の人間性を強調している。使徒は最も尊い人間であり、アッラーに愛された方であり、預言者たちの長である — しかしそれでも、亡くなる人間である。これが、預言者や聖者を神の位にまで高める信仰とイスラームとを分けている。わたしたちは心から使徒を愛するが、**崇拝するのはアッラーだけである。**

わたしたちにとって、この節は戒めである。アッラーの使徒 ﷺ でさえ亡くなられたのなら、わたしたちはなおさらである。「**誰でも皆死を味わうのである。**」（イムラーン家章 3:185）。問題は、わたしたちが死ぬかどうかではなく、**どのような状態で**アッラーにお会いするかである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルへの忠誠の誓い

使徒の御遺体が埋葬される前に、ムスリムたちはきわめて重要な一つの問題を解決しなければならなかった。**誰が導くのか**である。アンサールは**サーイダ族の集会所（サキーファ）**に集まり、アブー・バクル、ウマル、アブー・ウバイダが彼らに会いに行った（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

話し合いの後、ウマル رضي الله عنه はアブー・バクルに言った：「**いや、わたしたちはあなたに忠誠を誓う。あなたはわたしたちの長であり、わたしたちの中で最も優れ、わたしたちの中でアッラーの使徒 ﷺ に最も愛された方だからである。**」そしてウマルはアブー・バクルの手を取って忠誠を誓い、人びともそれに続いた（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

短いあいだに、悲しみのあまり分裂しかけたウンマは、再び**一つの指導のもとにまとまった**。アッラーの使徒 ﷺ が遺された兆し — 礼拝の導師としてのアブー・バクル、開けたままにされた彼の扉、そして使徒の賛辞 — が、教友たちの合意を助けたのである。

アブー・バクルと正統カリフ（フラファー・アッ＝ラーシドゥーン）の統治の物語は、この『預言者伝（スィーラ）』シリーズの範囲を超えている。アッラーが望まれるなら、将来、別のシリーズとすることができよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使徒の御遺体の洗浄

火曜日、使徒の家族は**アッラーの使徒** ﷺ の御遺体の洗浄を始めた。アーイシャ رضي الله عنها によれば、彼らは、ほかの遺体のように使徒の衣服を脱がせるべきか、それとも衣服を着せたまま洗うべきか分からなかった。意見が分かれていると、アッラーは彼らを眠りに落とされ、それから家の隅から — 誰とも分からない — 声が聞こえた：「**預言者を衣服を着せたまま洗いなさい。**」そこで彼らは使徒を、その長衣（カミース）のまま洗った（『スナン・アビー・ダーウード』3141 — 良好（ハサン））。

スィーラの注：誰が使徒の御遺体を洗ったのか

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の御遺体を洗ったのは**アリー・ブン・アビー・ターリブ**であり、使徒の父方のおじ**アル＝アッバース**と、その二人の息子で使徒のいとこである**アル＝ファドルとクサム**、そして**ウサーマ・ブン・ザイド**と、使徒の解放奴隷（マウラー）**シュクラーン**がそれを手伝った。アリーは使徒を洗いながらこう言った：「わたしの父と母をあなたの身代わりに捧げます。あなたは生きておられたときも、亡くなられたときも、清らかでおられます。」

この伝承は『スナン・イブン・マージャ』とイブン・ヒシャームの『預言者伝』に、議論のある伝承経路で収められているが、その内容はスィーラの学者たちのあいだでよく知られている。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークの伝承）— 使徒の病と逝去の章；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

学者たちは、衣服を着せたまま洗ったことは**特別な敬意**であり、アッラーの使徒 ﷺ だけに許されたものであったと述べている。ほかのムスリムの遺体については、陰部を覆ったうえで、最も近い家族、または遺体の洗い方を最もよく知る者が洗うのがスンナである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

屍衣と葬儀の礼拝

アーイシャ رضى الله عنها は伝えている：「**アッラーの使徒 ﷺ は、イエメン産の木綿の白い布三枚で包まれた。長衣もターバンもなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1264）使徒の質素さは、屍衣にまで及んでいたのである。

スィーラの注：イマームのいない葬儀の礼拝

スィーラ書と一部の伝承によれば、教友たちは**小さな集団ごとにアッラーの使徒 ﷺ の葬儀の礼拝をした**。男性、次に女性、次に子どもと、一団ずつアーイシャの部屋に入り、彼らを導く**イマームはいなかった**。

この件についてのイブン・マージャの伝承は弱い（ダイーフ）と評価されているが、『ムワッタア』やスィーラ書のほかの伝承によって裏づけられている。学者たちは、それは**アッラーの使徒 ﷺ こそが彼らのイマームであった**からであり — 生前も逝去後も —、また一人ひとりが使徒のために礼拝する栄誉を得られるようにするためであったと説明している。

参照：

『スナン・イブン・マージャ』1628（弱い）；マーリク『アル＝ムワッタア』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

使徒のために礼拝したいと願う人があまりに多かったため、それは火曜日いっぱいから水曜日の夜にまで及んだ。教友の誰もが、使徒のために祈る**最後の機会**を得たいと願ったのである。

これらの伝承から、わたしたちは、男性の遺体を、浪費することなく**三枚の白い布**で包むというスンナを学ぶ。高価な屍衣が死者の尊さを増すことはない。価値があるのは**携えていく行い**である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：602 / 634

逝去された場所への埋葬

教友たちは、**どこに**アッラーの使徒 ﷺ を埋葬すべきかで意見が分かれた。するとアブー・バクル رضي الله عنه が言った：「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ が、忘れられないことを言われるのを聞いた。『アッラーは預言者を、その預言者が埋葬されることをアッラーが望まれる場所以外で召されることはない。』**」そこで彼らは、アーイシャの部屋の中、**使徒の寝床の場所**に使徒を埋葬した（『ジャーミウ・ティルミズィー』1018 — 真正）。

使徒の墓は**ラハド**（墓穴の側面に掘られたくぼみ）の形に掘られ、使徒は**水曜日の夜**に埋葬された。今日その部屋は預言者のモスクの敷地内にあり、**アル＝フジュラ・アン＝ナバウィーヤ（預言者の部屋）**として知られている。後に使徒のそばには、生においても死においても使徒に寄り添った二人の教友、アブー・バクルとウマル رضي الله عنهما が葬られた。

病の中での使徒の戒めを思い出してほしい。墓をモスク（礼拝所）としてはならない（第 12 章）。そのため使徒の墓は**開かれた場所にあらわにされなかった**。使徒のモスクを訪れ、使徒に平安のあいさつを述べることはスンナであるが、祈りと願いは**アッラーにのみ**向けるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ の遺したもの

アラビア半島全土を一つにまとめた指導者は、何を遺したのか。信者たちの母ジュワイリヤの兄弟アムル・ブン・アル＝ハーリス رضي الله عنه は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ は、ディーナール金貨もディルハム銀貨も、男の奴隷も女の奴隷も、何ひとつ遺されなかった。遺されたのは、白いラバと武器と、すでに施しとされた一区画の土地だけであった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2739）

それどころか、逝去されたとき、使徒には**まだ借りがあった**。アーイシャ رضي الله عنها は次のように伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2916 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنِ الأَسْوَدِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ تُوُفِّيَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَدِرْعُهُ مَرْهُونَةٌ عِنْدَ يَهُودِيٍّ بِثَلاَثِينَ صَاعًا مِنْ شَعِيرٍ. وَقَالَ يَعْلَى حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ دِرْعٌ مِنْ حَدِيدٍ. وَقَالَ مُعَلَّى حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَاحِدِ حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ وَقَالَ رَهَنَهُ دِرْعًا مِنْ حَدِيدٍ.

訳：

アーイシャ رضي الله عنها によれば、彼女は言った：**アッラーの使徒 ﷺ は、ご自分の鎖かたびらを、三十サーウの大麦と引き換えに一人のユダヤ人のもとに質入れしたまま逝去された。**ヤアラーは言った：アル＝アアマシュは「鉄の鎖かたびら」と言った。ムアッラーは言った：アブドゥルワーヒドはアル＝アアマシュから「使徒は鉄の鎖かたびらを質入れされた」と伝えた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アル＝アスワド・ブン・ヤズィード ← 信者たちの母アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードの書、預言者 ﷺ の鎖かたびらについて述べられたことの章、ハディース第 2916 番。第 2068、4467 番、およびムスリム第 1603 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2916

このハディースの教訓

戦いで身に着けた鎖かたびら — 力の象徴 — が、**家族の食べ物を買うために質入れされていた**。これこそ、ハイバル、フナイン、そしてアラブ全土の戦利品を差配する権限を持ちながら、**貧しく質素に**生きることを選ばれた使徒である。使徒は財を人びとに分け与え、ご自分は必要なだけで暮らされた。

使徒が**一人のユダヤ人**と取引されたことにも注目してほしい。これは、非ムスリムとの公正な取引が許されていること、そして使徒がご自分の地位を利用されなかったことを示している。使徒は裕福な教友たちから借りることはなさらなかった。彼らが借りを帳消しにしなければと負担に感じないようにするためである。

「わたしたちは相続されない」

アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた：「**わたしたち（預言者）は相続されない。わたしたちが遺すものは施しである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』6727）ファーティマ رضى الله عنها がファダクの土地と戦わずして得た財（ファイ）のうち自分の取り分についてアブー・バクルに尋ねたとき、アブー・バクルはこのハディースを伝え、**アッラーの使徒 ﷺ が費やされたとおりにその財を費やし続ける**こと — 使徒の家族とウンマの益のために — をはっきりと述べた（『サヒーフ・ブハーリー』3712）。

その英知は非常に大きい。預言者たちは子孫のために**財を蓄えるためではなく、使命を伝えるために**遣わされたのである。もし預言者の財が相続されるなら、その宣教は一族の富を築くためのものだと思う者が出るかもしれない。アッラーの使徒 ﷺ はまた、預言者たちは**知識を遺す**のであり、それを受け取る者は大きな分け前を受け取ったのだと言われた（『スナン・アビー・ダーウード』3641）。

それこそが**本当の遺産** — アッラーの使徒 ﷺ の遺産 — である。クルアーン、スンナ、そして気高い品性。この遺産は一つの家族だけのものではなく、審判の日に至るまで**ウンマ全体**のものである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

享年と逝去の日付

アーイシャ رضى الله عنها は伝えている：「**アッラーの使徒 ﷺ は六十三歳で逝去された。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4466）彼女はまた、使徒が**月曜日**に逝去されたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』1387）。以下は、使徒の逝去に関する情報のまとめである：

項目	情報と典拠
享年	63 歳（『サヒーフ・ブハーリー』4466）
逝去の曜日	月曜日（『サヒーフ・ブハーリー』1387）
時刻	ファジュルの礼拝の後、午前（ドゥハー）から正午近く（ブハーリー 680）
月と年	ヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月（西暦 632 年 6 月）
日付	スィーラの学者たちのよく知られた見解では、ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日。ほかの見解もある
場所	預言者のモスクのそばのアーイシャの家（ブハーリー 4450）
病の期間	スィーラ書によれば、およそ 10〜14 日
埋葬	水曜日の夜、逝去された場所に（ティルミズィー 1018）

驚くべきことに、アッラーの使徒 ﷺ は月曜日にお生まれになり、月曜日に最初の啓示を受け（『サヒーフ・ムスリム』1162）、月曜日に逝去された。それゆえ使徒は**月曜日の任意の断食**を勧められたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使徒のために祝福を祈り、使徒を愛すること

アッラーの使徒 ﷺ は逝去された。しかし**わたしたちと使徒とのつながりは途絶えていない**。アッラーはこう命じておられる：

「本当にアッラーと天使たちは、聖預言者を祝福する。信仰する者たちよ、あなたがたはかれを祝福し、（最大の）敬意を払って挨拶しなさい。」（部族連合章 33:56）— 『イブン・カスィール注釈』33:56。

アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた：**「わたしのために一度祝福を祈る者には、アッラーが十度祝福をお与えになる」**（『サヒーフ・ムスリム』408）。祝福の祈り（サラワート）は、わたしたちに導きを伝えるために生涯を捧げられた使徒への、**愛と感謝を表す方法**なのである。

アッラーは、ウンマへの使徒の慈しみをこう描いておられる：**「かれは、あなたがたの悩みごとに心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。」**（悔悟章 9:128）— 『イブン・カスィール注釈』9:128。

アッラーの使徒 ﷺ への愛は単なる感情ではなく、**使徒のスンナに従うこと**である。アッラーは仰せられる：「言ってやるがいい。『あなたがたがもしアッラーを敬愛するならば、わたしに従え。』」（イムラーン家章 3:31）。使徒が礼拝されたように礼拝し、使徒の品性にならって振る舞い、使徒の教えを伝えるたびに、わたしたちは**使徒の遺産を生かしている**のである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

病の時系列：一日ごとに

これまでの章では、アッラーの使徒 ﷺ の最後の日々をテーマごとに語ってきた。本章では、読者が病の始まりから埋葬までの流れを見通せるように、それらの出来事を時間の順に並べ直す。ほとんどの出来事は真正なハディースで伝えられているが、その一部の正確な曜日や日付はスィーラの学者による推定である。「評価」の欄がその点を説明している。

重要な手がかりは、アーイシャ رضى الله عنها 自身から得られる。使徒の病は、妻の一人であるマイムーナの家で始まり、その後使徒はアーイシャの家で看病を受けることを願い出られたのである（『サヒーフ・ムスリム』418；『サヒーフ・ブハーリー』4442）。

時期	出来事	典拠	評価
ヒジュラ暦 10 年ラマダーン月	ジブリールが使徒とともにクルアーンを二度復唱する	ブハーリー 3624	サヒーフ（真正）
ヒジュラ暦 10 年ズー・アル＝ヒッジャ月	別れの巡礼；援助章が最期の兆しと理解される	ブハーリー 4970；第 29 巻	サヒーフ（真正）
ヒジュラ暦 11 年サファル月	ウサーマの軍の準備；ウフドの殉教者とバキーウへの訪問	ブハーリー 4469、4042；ムスリム 974	サヒーフ（真正）；月はスィーラ書による
サファル月末／ラビーウ・アル＝アウワル月初め	マイムーナの家で病が始まる；「ああ、頭が痛い！」	ムスリム 418；ブハーリー 5666	サヒーフ（真正）；日付は推定

時期	出来事	典拠	評価
病の初めの数日	なお順番を続ける；「明日、わたしはどこにいるのか」；アル＝アッバースとアリーに支えられてアーイシャの家へ移る	ブハーリー 4442、4450	サヒーフ（真正）
逝去の数日前	七つの革袋の水；最後の説教：選択を与えられたしもべ、アンサールについての遺言	ブハーリー 4442、3654、3799	サヒーフ（真正）
逝去の五日前	「わたしはハリールを持つことから離れる」；墓をモスクとすることの禁止	ムスリム 532	サヒーフ（真正）
木曜日（四日前）	筆記用具の出来事；三つの遺言	ブハーリー 4431	サヒーフ（真正）
マグリブ（日没の礼拝）、最後の数日	使徒が導かれた最後の礼拝：送られるもの章	ブハーリー 4429	サヒーフ（真正）；曜日はスィーラ書による
同じ日のイシャー（夜の礼拝）	何度も気を失われる；「アブー・バクルに礼拝を導かせなさい」	ブハーリー 687、664	サヒーフ（真正）
逝去の三日前	「あなたがたの誰も、アッラーについて良い思いを抱いたまま以外の状態で死んではならない」	ムスリム 2877	サヒーフ（真正）
土曜日または日曜日	体が軽くなる；二人の男に支えられてズフルの礼拝に出て、アブー・バクルのそばに座る	ブハーリー 687	サヒーフ（真正）；曜日はスィーラ書による

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠	評価
日曜日	奴隷を解放し、残りの財を施す	スィーラ書	スィーラの注
月曜日、ファジュルの時	部屋の帳を上げ、礼拝の列を見て微笑む	ブハーリー 680	サヒーフ（真正）
月曜日、午前（ドゥハー）	ファーティマへの秘密；ミスワーク；「至高の友（アッ＝ラフィーク・アル＝アアラー）を」；逝去	ブハーリー 3623、4438、4463	サヒーフ（真正）
月曜日、逝去の後	ウマルの動揺；アブー・バクルの言葉；イムラーン家章 3:144；サキーファ	ブハーリー 3667、3668	サヒーフ（真正）
火曜日	全体の忠誠の誓い；御遺体の洗浄、屍衣、葬儀の礼拝	アビー・ダーウード 3141；ブハーリー 1264	ハサン（良好）／サヒーフ（真正）；詳細はスィーラ書
水曜日の夜	逝去された場所、アーイシャの部屋に埋葬される	ティルミズィー 1018；スィーラ書	サヒーフ（真正）；夜はスィーラ書による
埋葬の後	アブー・バクルがウサーマの軍を送り出す	第 15 章；スィーラ書	スィーラで広く知られる

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：病の期間と逝去の日付

スィーラの学者たちは、使徒の病の期間について意見が分かれている。多数説ではおよそ十三日であり、十二日、十四日、あるいは十日とする伝承もある。

逝去の日が月曜日であることは真正である（『サヒーフ・ブハーリー』1387）。日付については、ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日とする見解がよく知られており、イブン・イスハーク、イブン・サアド、そして多くの学者がこれを採っている。ラビーウ・アル＝アウワル月 1 日や 2 日とする見解もある。アッ＝スハイリーとイブン・ハジャルは、ヒジュラ暦 10 年のアラファの日が金曜日であったため、ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日を月曜日と合わせることの難しさを論じており、イブン・ハジャルは 2 日とする見解を有力としている。この違いは暦の計算におけるイジュティハード（学者の努力による判断）であり、宗教の根本には何の影響も与えない。

使徒が日曜日に奴隷を解放し、残りのディーナール金貨を施されたという伝承はスィーラ書にある。その意味は、使徒がディーナール金貨もディルハム銀貨も遺されなかったという真正なハディース（『サヒーフ・ブハーリー』2739）と一致している。

出典：『サヒーフ・ムスリム』418；『サヒーフ・ブハーリー』4429；『サヒーフ・ムスリム』532；『サヒーフ・ムスリム』2877；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— 遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章；HadithAnswers「The Date of the Passing of Rasulullah（アッラーの使徒の逝去の日付）」。

時系列に登場する人びと

使徒の最後の日々には多くの名前が登場する。この表は、読者が系譜を取り違えないように、一人ひとりとアッラーの使徒 ﷺ との関係を説明するものである。

名前	使徒との関係	最後の日々における役割
アーイシャ・ビント・アビー・バクル	妻；アブー・バクルの娘	使徒を看病した；使徒は彼女の胸にもたれて逝去された

名前	使徒との関係	最後の日々における役割
マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス	妻	使徒の病は彼女の家で始まった（ムスリム 418）
ウンム・アル＝ファドル・ルバーバ・ビント・アル＝ハーリス	アル＝アッバースの妻；マイムーナの姉妹；イブン・アッバースの母	最後のマグリブの礼拝を伝えた（ブハーリー 4429）
ファーティマ・ビント・ムハンマド	娘；存命していた使徒のただ一人の子	二つの秘密を打ち明けられた；「ああ父上」
アリー・ブン・アビー・ターリブ	いとこ（アブー・ターリブの息子）であり娘婿	使徒を支えた；御遺体を洗った
アル＝アッバース・ブン・アブドゥルムッタリブ	父方のおじ	アーイシャの家まで使徒を支えた
アル＝ファドルとクサム・ブン・アル＝アッバース	いとこ	御遺体の洗浄を手伝った（スィーラ書）
アブドゥッラー・ブン・アッバース	いとこ	木曜日の出来事を伝えた（ブハーリー 4431）
ウサーマ・ブン・ザイド	解放奴隷ザイド・ブン・ハーリサとウンム・アイマンの息子	シャームの国境へ向かう軍の指揮官
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	最も近しい教友；義父（アーイシャの父）	礼拝の導師；逝去後の演説；カリフ
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	教友；義父（ハフサの父）	木曜日の出来事；逝去後の動揺
アブドゥッラフマーン・ブン・アビー・バクル	アーイシャの同父母の兄弟	最後のミスワークを持って来た
アナス・ブン・マーリク	アンサール（ハズラジ族ナッジャール家）；使徒の従者	礼拝の列への最後のまなざしを伝えた（ブハーリー 680）

名前	使徒との関係	最後の日々における役割
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	アンサール（ハズラジ族サリマ家）	アッラーについて良い思いを抱けという遺言を聞いた（ムスリム 2877）
ジュンドゥブ・ブン・アブドゥッラー・アル＝バジャリー	バジーラ族出身の教友	逝去の五日前の遺言を聞いた（ムスリム 532）

教訓

この時系列は、アッラーの使徒 ﷺ の最後の日々が空白ではなかったことを示している。毎日、教えがあり、礼拝があり、ウンマのための備えがあった。病は使徒が伝えることを止めはしなかった。ただその方法を変えただけである — ミンバルから部屋へ、説教からささやきへ。

それはまた、真正なことと推定とを区別することをわたしたちに教えている。主な出来事は真正なハディースで確かめられている。その一部の正確な曜日や日付はスィーラの学者のイジュティハードであり、わたしたちはそれを正直に述べるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

立ち上がろうとする努力と最後の礼拝

アッラーの使徒 ﷺ の最後の日々の中で最も胸を打つ情景の一つは、お体がすでにひどく弱っていたにもかかわらず、ウンマとともに礼拝しようとされた熱意である。ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラーがアーイシャ رضى الله عنها に使徒の病について尋ねると、彼女は次のように語った：

使徒の病は重くなり、使徒は「人びとはもう礼拝したか」と尋ねられた。わたしたちは「いいえ、アッラーの使徒よ、皆あなたを待っています」と答えた。使徒は「たらいに水を用意しなさい」と言われた。使徒は身を清め、それから起き上がろうとされたが、気を失われた。意識が戻ると、使徒は再び「人びとはもう礼拝したか」と尋ねられた — そしてそれが三度まで繰り返された。人びとはイシャーの礼拝のためにモスクで待っていた。ついに使徒はアブー・バクルのもとへ人を遣わし、礼拝を導くよう命じられた（『サヒーフ・ブハーリー』687）。

心の優しいアブー・バクルは、ウマルに「ウマルよ、人びとの礼拝を導いてくれ」と言った。ウマルは「あなたのほうがふさわしい」と答えた。こうしてアブー・バクルがその数日間礼拝を導いた。その後、アッラーの使徒 ﷺ は体が軽くなられたので、二人の男 — その一人はアル＝アッバース — に支えられてズフルの礼拝に出て来られた。アブー・バクルは後ろへ下がろうとしたが、使徒は下がらないよう合図され、彼のそばに座られた。アブー・バクルは預言者 ﷺ の礼拝に従って礼拝し、人びとはアブー・バクルの礼拝に従って礼拝した（『サヒーフ・ブハーリー』687）。

使徒が導かれた最後の礼拝

ウンム・アル＝ファドル・ビント・アル＝ハーリス — アル＝アッバースの妻であり、イブン・アッバースの母 — は伝えている：「わたしは預言者 ﷺ がマグリブの礼拝で送られるもの章を読まれるのを聞いた。その後、アッラーが使徒を召されるまで、使徒がわたしたちの礼拝を導かれることはなかった。」（『サヒーフ・ブハーリー』4429）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

送られるもの章は復活の日についての章であり、心を揺さぶる繰り返しがある：「（真理を）嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。」（送られるもの章 77:15） — 『イブン・カスィール注釈』77:15。イマームとしての使徒の最後の朗誦は来世についての戒めであった — 帰り支度をしておられた使徒にまことにふさわしい教えである。

使徒ご自身の手によるルクヤ（癒やしの祈り）

アーイシャ رضى الله عنها によれば、アッラーの使徒 ﷺ は病のとき、守護を求める章（アル＝ムアウウィザート）を唱え、ご自分の体に息を吹きかけ、手でなでておられた。逝去に至る病の中では、アーイシャがそれを唱えて息を吹きかけ、その祝福を願って、使徒ご自身の手で使徒のお体をなでた（『サヒーフ・ブハーリー』4439）。

出典：『サヒーフ・ブハーリー』687；『サヒーフ・ブハーリー』4429；『サヒーフ・ブハーリー』4439；送られるもの章 77:15。

教訓

三度起き上がろうとされ、三度気を失われた — すべて集団礼拝のためである。それなら、健康でありながら、アザーンを聞いても礼拝を先延ばしにするわたしたちはどうだろうか。この話は、礼拝を軽んじるすべての人へのやさしい戒めである。

この話はまた、アブー・バクルとウマルの礼儀をも示している。二人は地位を争うのではなく、互いに相手を立てた。そして使徒が出て来られると、アブー・バクルはすぐに下がろうとした — イマームに任じられていても変わることのない敬意のしるしである。

最後に、クルアーンによるルクヤは病のときのスンナである。それは薬や治療を否定するものではなく、アッラーへの信頼によってそれらを補うものである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ の最後の遺言集

人の最後の言葉は、たいていその人にとって最も大切なことである。アッラーの使徒 ﷺ は最後の日々にいくつかの遺言を残され、それはさまざまな伝承の中に散らばっている。本章はそれらを一か所に集める。

ジュンドゥブ・ブン・アブドゥッラー・アル＝バジャリー رضي الله عنه は言った：わたしは預言者 ﷺ が逝去の五日前にこう言われるのを聞いた：「わたしは、あなたがたの中から誰かをハリール（無二の親友）とすることから離れ、アッラーに身を委ねる。アッラーは、イブラーヒームをご自分のハリールとされたように、わたしをご自分のハリールとされたからである。もしわたしがウンマの中からハリールを持つとすれば、アブー・バクルをハリールとしたであろう。よく聞きなさい、あなたがた以前の者たちは、自分たちの預言者や正しい人びとの墓をモスクとしていた。よく聞きなさい、墓をモスクとしてはならない。本当にわたしは、あなたがたにそれを禁じる。」（『サヒーフ・ムスリム』532）

またジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言った：わたしはアッラーの使徒 ﷺ が逝去の三日前にこう言われるのを聞いた：「あなたがたの誰も、アッラーについて良い思いを抱いたまま以外の状態で死んではならない。」（『サヒーフ・ムスリム』2877）

遺言	典拠	章
アッラーのほかにハリールはない；アブー・バクルの地位	ムスリム 532；ブハーリー 3654	9、10
墓をモスクとしてはならない	ムスリム 532；ブハーリー 4441	12
アンサールに善くすること	ブハーリー 3799	8
多神教徒をアラビア半島から退去させること	ブハーリー 4431	13
使節団をもてなすこと	ブハーリー 4431	13

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

遺言	典拠	章
ウサーマの軍を送り出すこと	ブハーリー 4468、4469	15
アブー・バクルが礼拝を導くこと	ブハーリー 664、687	11、34
死に臨んでアッラーについて良い思いを抱くこと	ムスリム 2877	35
礼拝を、礼拝を；そしてあなたがたの右手が所有する者を	アビー・ダーウード 5156	14

これらの遺言を整理すると、タウヒード（墓をモスクとしないこと、アッラーについて良い思いを抱くこと）、礼拝（サラート）、社会的公正（奴隷と弱い人びと）、ウンマの団結（アンサール、アブー・バクルの指導）、そして国の安全（ウサーマの軍、アラビア半島）を含んでいる。いずれも、二十三年にわたって伝えられた使命の要約なのである。

出典：『サヒーフ・ムスリム』532；『サヒーフ・ムスリム』2877；『サヒーフ・ブハーリー』4431；『スナン・アビー・ダーウード』5156。

教訓

使徒の最後の遺言の中には、財産や使徒ご自身の家族の利益に関するものは一つもない。すべてはアッラーと礼拝と人びと — とりわけ弱い人びと — についてである。これこそ真の指導者の尺度である。すなわち、最後の時にその人が何を思っているかである。

「アッラーについて良い思いを抱け」という教えは、信仰者は絶望して死に向き合うのではないことを教えている。良い思いを抱くとは、行いをやめることではなく、アッラーの慈悲を願いつつ行いに励むことである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

病と死に臨むときのスンナ

アッラーの使徒 ﷺ の最後の日々は、単なる歴史ではない。それは、病の家族を看病し、あるいは死に直面するすべてのムスリムの家庭にとっての実践的な手引きでもある。病と葬儀に関する多くのスンナが、ほかのハディースに裏づけられつつ、その日々のアーイシャの部屋に見いだされる。

スンナ	最後の日々における例	一般的な典拠
忍耐し、報奨を願うこと	二人分のひどい熱（第 5 章）	ブハーリー 5648
クルアーンによるルクヤ	アーイシャが守護を求める章（アル＝ムアウウィザート）を唱える	ブハーリー 4439
早めに遺言を書いておくこと	使徒は口頭で遺言された	ブハーリー 2738
アッラーについて良い思いを抱くこと	逝去の三日前の教え	ムスリム 2877
タウヒードの言葉を思い起こさせること	「アッラーのほかに神はない。本当に死には苦しみがある」	ムスリム 916；ブハーリー 4449
清潔を保つこと	最後のミスワーク	ブハーリー 4438、887
遺体を覆うこと	使徒の御遺体は縞模様の布（ヒバラ）で覆われた	ブハーリー 5814
目を閉じ、死者のために祈ること	教友たちが使徒のために祈った	ムスリム 920
泣き叫ばずに涙を流すこと	ファーティマ；アナス；教友たち	ブハーリー 1303
葬儀を速やかに行うこと	洗浄、屍衣、埋葬	アビー・ダーウード 3141；ブハーリー 1264

アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた：「あなたがたの中で死に臨んでいる者に、『アッラーのほかに神はない（ラー・イラーハ・イッラッラー）』と教えなさい。」（『サヒーフ・ムスリム』916）学者たちは、このタルキーン（唱えるよう促すこと）はやさしく行うべきであり、臨終の人を苦しめるほど何度も繰り返させてはならないと説明している。

イブン・ウマル رضى الله عنهما は使徒の言葉を伝えている：「遺言すべきものを持つムスリムが、その遺言を書き記して手元に置かないまま二晩を過ごすことは、正しいことではない。」（『サヒーフ・ブハーリー』2738）

アーイシャ رضى الله عنها はまた、アッラーの使徒 ﷺ が逝去されたとき、その御遺体はヒバラと呼ばれるイエメン産の縞模様の布で覆われたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』5814）。アブー・サラマが亡くなったとき、使徒はご自身でその目を閉じ、こう言われた：「本当に、魂が取り去られるとき、目はそれを追うのである。」それから使徒は彼のために祈られた（『サヒーフ・ムスリム』920）。

出典：『サヒーフ・ムスリム』916；『サヒーフ・ムスリム』920；『サヒーフ・ブハーリー』2738；『サヒーフ・ブハーリー』5814；『サヒーフ・ブハーリー』4439。

教訓

死は確かなことであるが、多くの家族はそれに向き合う準備ができていない。遺言を書き、借りを清算し、葬儀の行い方を学ぶことは、スンナが教える備えである — 絶望のしるしではなく、責任のしるしである。

病人を看病する人にとって、アーイシャ、ファーティマ、そして使徒の家族の姿は、忍耐とやさしさと祈りを教えている。愛する人を失った人にとって、泣くことは自然なことである。禁じられているのは、泣き叫んで嘆くことと、アッラーの定めに異を唱えることである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

確かめるべき有名な伝承

アッラーの使徒 ﷺ の逝去はきわめて心を揺さぶる出来事であるため、それにまつわる多くの話が講話や本やソーシャルメディアで広まっている。真正なものもあれば、弱いものもあり、捏造されたものもある。本章では、わたしたちが誠実に使徒のことを語れるように、いくつかの有名な伝承を確かめる。

伝承	典拠	等級	真正なもの
死の天使が使徒に許しを求めた；ジブリールが数日続けて使徒を訪れた	アッ＝タバラーニー『アル＝ムウジャム・アル＝カビール』；アル＝バイハキー『預言者性の証拠（ダラーイル・アン＝ヌブーワ）』	伝承経路は弱い（ムルサル／ムウダル；弱い伝承者を含む）。一部の学者は、複数の経路が互いに補い合うと見ている	「預言者は……選択を与えられるまで、決して召されることはない」（ブハーリー 4463）
ウッカーシャが人びとの前で使徒に同害報復（キサース）を求めた	アッ＝タバラーニー	捏造（イブン・アル＝ジャウズィー、アッ＝スユーティー）；伝承者アブドゥルムンイム・ブン・イドリースは嘘つきと評価されている	使徒の公正さは多くの真正なハディースで確かめられている
使徒の最後の言葉は「わがウンマよ、わがウンマよ（ウンマティー、ウンマティー）」であった	逝去の瞬間についての真正な伝承には見当たらない	この文脈では真正な典拠がない	最後の言葉：「アッラーよ、至高の友を」（ブハーリー 4463）
アブー・バクルはちょうど十七回の礼拝を導いた	スィーラ書	その回数はスィーラの伝承による	アブー・バクルは「その数日間」礼拝を導いた（ブハーリー 687、680）

伝承	典拠	等級	真正なもの
使徒はラビーウ・アル＝アウワル月 12 日に逝去された	イブン・イスハーク；イブン・サアド	よく知られた見解。ラビーウ・アル＝アウワル月 1 日や 2 日とする見解もある	月曜日（ブハーリー 1387）

「わがウンマよ、わがウンマよ」という言葉について：ウンマへの使徒の慈しみは確かなことである。アブドゥッラー・ブン・アムルによれば、使徒は預言者イブラーヒームと預言者イーサーについての節を読まれると、手を上げ、泣きながら「アッラーよ、わがウンマを、わがウンマを」と祈られた。アッラーはジブリールを遣わし、こう仰せられた：「われはあなたのウンマについてあなたを満足させ、あなたを悲しませはしない。」（『サヒーフ・ムスリム』202）しかしこの出来事は逝去の時のものではない。使徒の真正な最後の言葉は、至高の友（アッ＝ラフィーク・アル＝アアラー）についてのものである。

スィーラの注：逝去の物語を伝えるときの原則

スィーラに関する弱い伝承は、その意味が真正な伝承と矛盾しないかぎり、弱さを明示したうえで学者たちが述べることがある。一方、捏造された伝承は、それが捏造であることを説明する場合を除いて、伝えてはならない。

真正なハディースに伝わる使徒の逝去の物語は、何も付け加える必要がないほど心を打つ。礼拝の列への最後のまなざし、最後のミスワーク、「至高の友を」、ファーティマの涙、そしてアブー・バクルの言葉である。これらの伝承を正確に覚え、伝えるほうがよいのである。

出典：『サヒーフ・ムスリム』202；『サヒーフ・ブハーリー』4463；マレーシア連邦直轄区ムフティー事務所『イルシャード・アル＝ハディース』295（ウッカーシャの話）；『イルシャード・アル＝ハディース』441（天使が許しを求めた話）；アル＝ハイサミー『マジュマウ・アッ＝ザワーイド』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、ご自分について嘘をつくことは、ほかの人について嘘をつくこととは違うと言われた（『サヒーフ・ブハーリー』1291）。それゆえ、使徒への愛には、その物語を伝える際の慎重さが伴わなければならない。真の愛とは、真実を伝えることである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ の逝去についてのよくある質問

1. アッラーの使徒 ﷺ の病はどれくらい続いたのか。

スィーラの学者の多数説ではおよそ十三日である。十日から十四日とする見解もある（第 31、33 章）。

2. 使徒の病はどこで始まったのか。

マイムーナ رضى الله عنها の家である（『サヒーフ・ムスリム』418）。その後、ほかの妻たちの許しを得て、使徒は逝去されるまでアーイシャの家で看病を受けられた（『サヒーフ・ブハーリー』4450；第 7 章）。

3. 使徒の病の原因は何だったのか。

ハディースは、ひどい高熱（『サヒーフ・ブハーリー』5648）と、ハイバルで食べた毒入りの食物による痛み（『サヒーフ・ブハーリー』4428）を伝えている。一部の学者は、その毒の影響によって使徒は殉教者として亡くなられたという見解を持っている（第 6 章）。

4. 使徒の病のあいだ、誰が礼拝を導いたのか。

使徒ご自身の命令により、アブー・バクル・アッ＝スィッディークが導いた（『サヒーフ・ブハーリー』664、687；第 11、34 章）。

5. 使徒が導かれた最後の礼拝は何か。

ウンム・アル＝ファドルの伝承によれば、送られるもの章を読まれたマグリブの礼拝である（『サヒーフ・ブハーリー』4429；第 34 章）。

6. 木曜日の出来事をどう理解すべきか。

使徒は筆記用具を求められたが、教友たちは、病の使徒の負担を軽くしたいと願って意見が分かれた。使徒はその後数日生きられたが、その求めを繰り返されること

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

はなく、むしろ口頭で遺言された。スンナの民（アフル・アッ＝スンナ）は、宗教はすでに完成されており（食卓章 5:3）、この出来事を教友たちを非難する口実としてはならないと説明している（『サヒーフ・ブハーリー』4431；第 13 章）。

7. 使徒の最後の言葉は何か。

「アッラーよ、至高の友を」である（『サヒーフ・ブハーリー』4463）。ウンマへの最後の教えは、礼拝と奴隷についてであった（『スナン・アビー・ダーウード』5156）。両者は矛盾しない。一方は人びとへの最後の遺言であり、もう一方はアッラーへの最後の祈りである（第 14、19 章）。

8. 死の天使が使徒に許しを求めたというのは本当か。

その話はアッ＝タバラーニーとアル＝バイハキーが弱い伝承経路で伝えている。真正なのは、すべての預言者が楽園における自分の場所を見せられ、選択を与えられること、そして使徒が至高の友を選ばれたことである（『サヒーフ・ブハーリー』4463；第 37 章）。

9. 使徒の逝去の正確な日付はいつか。

ヒジュラ暦 11 年ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日であることは確かである。ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日はよく知られた見解であり、1 日や 2 日とする見解もある（『サヒーフ・ブハーリー』1387；第 31、33 章）。

10. なぜ使徒はアーイシャの部屋に埋葬されたのか。

預言者は召された場所に埋葬されるという使徒の言葉を、アブー・バクルが伝えたからである（『ジャーミウ・ティルミズィー』1018；第 28 章）。

11. なぜ使徒の葬儀の礼拝にはイマームがいなかったのか。

スィーラ書によれば、教友たちは一団ずつ入り、イマームなしで使徒のために礼拝した。一人ひとりが使徒のために礼拝する栄誉を得られるようにするためである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

これについてのイブン・マージャの伝承は弱いと評価されているが、ほかの伝承によって裏づけられている（第 27 章）。

12. 今日、わたしたちはどのようにして使徒に「お会い」できるのか。

使徒のために祝福を祈り（部族連合章 33:56）、そのスンナに従い（イムラーン家章 3:31）、使徒が会いたいと願われた「兄弟たち」— 使徒を見たことがないのに信じる人びと — の一人となることを願うことによってである（『サヒーフ・ムスリム』249；第 32 章）。

教訓

これらの質問は、アッラーの使徒 ﷺ の逝去が今日に至るまでウンマのあいだで語られ続けていることを示している。その答えは、付け加えることも減らすこともなく、礼儀と愛をもって、クルアーンと真正なハディースに立ち返らなければならない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

アッラーの使徒 ﷺ の最後の日々には、数えきれない教訓がある。その中で最も重要なものは次のとおりである：

教訓	本巻から
死への備え	ウフドとバキーウへの訪問；「選択を与えられたしもべ」
病の中の忍耐	ひどい熱、ハイバルの毒、それでも教えを遺された
家族への公正	アーイシャの家での看病について妻たちの許しを求められた
タウヒードを守ること	墓をモスクとすることの禁止
礼拝と弱い人びと	「礼拝を、礼拝を；あなたがたの右手が所有する者を」
指導	礼拝の導師アブー・バクル；ウサーマの軍
揺るぎない信仰	「アッラーを崇拝していた者がいるなら、アッラーは永遠に生きておられる」
現世への無欲（ズフド）	質入れされた鎖かたびら；「わたしたちは相続されない」

わたしたちへの教え

アッラーの使徒 ﷺ は旅立たれたが、クルアーンとそのスンナは残っている。使徒にお会いできなかったことを悲しむたびに、使徒のこの言葉を思い出してほしい：**「わたしたちの兄弟たちに会いたいものだ。」**教友たちは尋ねた：「わたしたちはあなたの兄弟ではないのですか。」使徒は答えられた：**「あなたがたはわたしの教友である。わたしたちの兄弟とは、まだ来ていない人びとである。」**（『サヒーフ・ムスリム』249）。わたしたちが、使徒が会いたいと願われたその人びとの中に入り、**ハウド**のほとりで使徒にお会いできますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：627 / 634

アッラーが望まれるなら、**『預言者伝（スィーラ）』**シリーズは**第 31 巻 — アッラーの使徒** ﷺ のシャマーイル（御姿と品性）へと続く。それは、使徒を見た教友たちが伝えた、使徒のお姿、品性、崇拝、日々の暮らしを描くものであり、お会いしたことがなくとも使徒を「知る」ことができるようにするためである。アッラーこそが最もよくご存じである。

第 30 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（イムラーン家章 3:144、3:185；婦人章 4:69；悔悟章 9:128；預言者章 21:34；部族連合章 33:56；集団章 39:30；援助章）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/144

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』664、680、887、1264、1303、1387、2739、2916、3623、3624、3654、3667、3668、3712、3799、4042、4428、4431、4438、4440、4441、4442、4449、4450、4454、4462、4463、4466、4469、4970、5648、5666、6727。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』249、408、974、976、1162。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』1018、3618；『スナン・アビー・ダーウード』3141、3641、5156；『スナン・イブン・マージャ』1599、1628。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）— アッラーの使徒 ﷺ の病と逝去の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』— 遠征の書、預言者 ﷺ の病と逝去の章。

イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・ン＝ニハーヤ）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

サフィー・アッ＝ラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』；アル＝アルバーニー『真正なハディース集成（スィルスィラ・アル＝アハーディース・アッ＝サヒーハ）』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一般の歴史

ウィキペディア「Death of Muhammad」。https://en.wikipedia.org/wiki/Death_of_Muhammad

ウィキペディア「Al-Masjid an-Nabawi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Masjid_an-Nabawi

ウィキペディア「アブー・バクル」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

ウィキペディア「Saqifa」。https://en.wikipedia.org/wiki/Saqifa

ウィキペディア「Usama ibn Zayd」。https://en.wikipedia.org/wiki/Usama_ibn_Zayd

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ムスリム』418（マイムーナの家で病が始まる）。https://sunnah.com/muslim:418

『サヒーフ・ブハーリー』687（立ち上がろうとする努力；アブー・バクルが礼拝を導く）。https://sunnah.com/bukhari:687

『サヒーフ・ブハーリー』4429（最後のマグリブの礼拝：送られるもの章）。https://sunnah.com/bukhari:4429

『サヒーフ・ブハーリー』4439（守護を求める章によるルクヤ）。https://sunnah.com/bukhari:4439

『サヒーフ・ムスリム』532（逝去の五日前の遺言）。https://sunnah.com/muslim:532

『サヒーフ・ムスリム』2877（アッラーについて良い思いを抱くこと）。https://sunnah.com/muslim:2877a

『サヒーフ・ムスリム』916（「アッラーのほかに神はない」のタルキーン）。https://sunnah.com/muslim:916a

『サヒーフ・ブハーリー』2738（書き記された遺言）。https://sunnah.com/bukhari:2738

『サヒーフ・ブハーリー』5814（御遺体をヒバラの布で覆う）。https://sunnah.com/bukhari:5814

『サヒーフ・ムスリム』202（「アッラーよ、わがウンマを、わがウンマを」）。https://sunnah.com/muslim:202

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません。**研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。

海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るかクリックするか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |